GANSHO-DO BOOK STORE, LTD. TOKYO
長谷川如是閑
GANSHO-DO BOOK STORE, LTD. TOKYO

THE CENTRAL REVIEW

中央公論

6-1928

六月號

第四十三年 第六號 第四百八十五號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

GIFT OF



夏服と麥稈帽は

……松屋へ……

洋服

色合、地質共に清新味の漲る夏の代表的な品が豊富に入荷致しました。夏服は何卒仕立の入念と、スタイルの優秀な弊店へ御用命の程を願上ます

麥稈帽子

本年の品は取分け色に、型に爽快さがあふれたスガ〱しいものばかりで御座います。何卒麥帽は歐米最新型の豊富な弊店で御用意の程を……

東京・銀座

松屋呉服店

獨逸キルペ原著　增富平藏譯

新刊　哲學概論

四六判總布製函入
九ポイント組七百二十頁
定價　金參圓八拾錢
郵税十八錢

ボン大學のミヰルレル教授は、『最新の哲學概論の中で大部のものとしてはキルペのが比較的に最良である。アキスラー、パウルゼン、ヴント、イエルーザレム、ヴヰンデルバント等のはあまりに多く著者自身の立場から出發したものである』と云つてゐる。之は學界の定評で、又その廣搜博引はヴヰンデルバントをして『凡ゆる哲學的分科に亘つての懇篤周到な研究報告である』と推稱せしめてゐる。本譯は貳版以後根本的に書き直された增訂版に據り、原本總量の五分の一に達する挿註を加へて字典的の豫備知識を得せしめ、文章の平易に努めて原書の難解を和らげ、玲瓏な究學的雰圍氣と爽然たる論斷的快味を傳へる事に苦心したものである。哲學についての概論的知識が文化人（クルツーアメンシ）にとつての必須的教養とされてゐる今日、此の書の普及は吾人の確信し熱望する所である。

慶應大學教授　戸川秋骨譯

エマーソン論文集

▼上下二冊四六判總布製

定價　上巻　參圓　郵税十四錢
下巻　貳圓五拾錢　郵税十二錢

十八版　上巻目次
◎歴史論　◎戀愛論　◎大靈論
◎自恃論　◎友情論　◎圓環論
◎報償論　◎細慮論　◎智力論
◎靈法論　◎勇壯論　◎藝術論

十版　下巻目次
◎詩人論　◎作法論　◎政治論
◎經驗論　◎進物論　◎名目論
◎人格論　◎自然論　◎改革論

白耳義　マーテルリンク著　文學士　栗原古城譯

廿一版

死後は如何

▼四六判總布・壹圓九拾錢・郵税十錢

人間の死後は果して如何、絶滅か、永生か、將た「醒むる無きの睡眠」か、現代第一の文豪にして思想家たる著者は此大問題を解決す。附錄に「交靈術とは何ぞや」を添ふ。

東京本郷西片町　玄黄社
電話小石川一三九一番
振替東京七九九五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

岩波文庫

第四回發表新刊書目

即興詩人（上）　森鷗外譯　★★
即興詩人（下）　森鷗外譯　★★
ギルヘルム・マイスター（下）　ゲーテ作　林久男譯　★★★
マルクス資本論（第一卷第三分册）　河上肇・宮川實譯　★
マルクス資本論（第一卷第四分册）　河上肇・宮川實譯　★
カラマーゾフの兄弟（3）　ドストエーフスキイ作　米川正夫譯　★★★★
參考伊勢物語　屋代弘賢校訂　★
西鶴織留　西鶴作　和田萬吉校訂　★
將來哲學の根本命題　フオイエルバツハ作　植村晉六譯　★★

加賀鳶　河竹默阿彌著　★★
赤垣源藏　河竹默阿彌著　★
縮屋新助　河竹默阿彌著　★★
孝子善吉　河竹默阿彌著　★★
鼠小僧　河竹默阿彌著　★★
實錄先代萩　河竹默阿彌著　★★★
お静禮三・笠森お仙　河竹默阿彌著　★★
科學者と詩人　ポアンカレ著　平林初之輔譯　★★
申樂談義　世阿彌著　野上豐一郎校訂　★

既刊書目抄

二人女房　尾崎紅葉著　★
人間嫌ひ　モリエール作　關口存男譯　★
福澤選集　福澤諭吉著　★★★
陸奥直次郎　長與善郎著　★
好色一代女　西鶴作　和田萬吉校訂　★
世間胸算用　西鶴作　和田萬吉校訂　★
ラスキン藝術經濟論　岡本正[illegible]譯　★★
人間萬歳　武者小路實篤著　★
子守唄　マルチイネス・シエルラ作　永田寛定譯　★
作り上げた利害　ハシント・ベナベンテ作　永田寛定譯　★
恐ろしき媒　ホセ・エチエガライ作　永田寛定譯　★★
墨汁一滴　正岡子規著　★★
幽靈曲　ストリントベルク作　小宮豐隆譯　★
和解・或る男、其姉の死　志賀直哉著　★★
經濟要錄　佐藤信淵著　瀧本誠一校訂　★★
水の上　モウパッサン作　吉江喬松譯　★★

★一つ二十錢

- 生命の不可思議(上) ヘッケル著 後藤格次譯★★
- 生命の不可思議(下) ヘッケル著 後藤格次譯★★
- 戰爭と平和(3ノ上) トルストイ作 米川正夫譯★★
- 戰爭と平和(3ノ下) トルストイ作 米川正夫譯★★
- ケーベル博士隨筆集 久保勉譯 安倍能成編★★
- 小僧の神樣 志賀直哉著★★
- 佛蘭西文學史序說 ブリユンチエール著 關根秀雄譯★★
- 道草 夏目漱石著★★
- イミターシヨ・クリスチ 内村達三郎譯★★
- 獨逸國民に告ぐ フイヒテ著 大津康譯★★
- ブランド イプセン作 角田俊譯★★
- 地代論 ロードベルトウス著 山口正吾譯★★
- 生まざりしならば 正宗白鳥著★
- 經濟學及課稅之原理 リカアドオ著 小泉信三譯★★

- 歌舞音樂略史 小中村清矩著★★
- 七大哲人 オイケン著 安倍能成譯★★
- ファウスト 第一部 森鷗外譯★★
- ファウスト 第二部 森鷗外譯★★
- 泣菫詩抄 薄田泣菫著★★
- 若き日の手紙 フイリップ著 外山楢夫譯★★
- みれん 森鷗外譯★★
- この後の者にも ラスキン著 西本正美譯★★
- 現代のヒーロー レールモントフ著 中村白葉譯★★
- 猶太人問題を論ず マルクス 久留間鮫造 細川嘉六譯★
- 入江のほとり 正宗白鳥著★
- 大石良雄 野上彌生子著★
- アナトール シュニッツラ著 小宮豐隆譯★★
- その妹 武者小路實篤著★

- 青銅の基督 長與善郎著★
- 稲妻 ストリントベルク作 小宮豐隆譯★
- 日本永代藏 西鶴作 和田萬吉校訂★
- 勞賃・價格および利潤 マルクス著 河上肇譯★
- 若いヱルテルの悩み ゲエテ作 茅野蕭々譯★★
- 日本書紀(上) 黑板勝美編★
- カラマーゾフの兄弟(1) ドストエーフスキイ作 米川正夫譯★★★
- カラマーゾフの兄弟(2) ドストエーフスキイ作 米川正夫譯★★★
- 法の精神(上) モンテスキユー著 宮澤俊義譯★★★
- 蕪村七部集 伊藤松宇校訂★★
- スピノザ 哲學體系 小尾範治譯★★★
- 花傳書 世阿彌著 野上豐一郎校訂★
- 古今和歌集 尾上八郎校訂★★
- 新訓萬葉集(上卷) 佐佐木信綱編★★★
- 新訓萬葉集(下卷) 佐佐木信綱編★★★
- ゲエテとの對話抄 エツクルマン著 龜尾英四郎譯★★★
- 千曲川のスケッチ 島崎藤村著★
- プラトン プロタゴラス 菊池慧一郎譯★
- 民約論 ルソオ著 平林初之輔譯★★
- こゝろ 夏目漱石著★

定價表

	(定價)	(送料)
★	二十錢	二錢
★★	四十錢	四錢
★★★	六十錢	四錢
★★★★	八十錢	六錢
★★★★★	一圓	六錢

東京神田 神保町

電話九段 二一〇八番 二一〇九番

振替東京二六二四〇番

岩波書店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

立命館長 中川小十郎先生序
パトリック先生原著
立命館大學豫科教授 山田敬德先生 內館忠藏先生 共譯

最新版

社會改造運動の心理學的考察

定價 壹圓七拾五錢
送料 拾八錢

現今流行の社會改造論は唯物史觀に偏し人間性を閑却する點に於て大なる缺陷がある。斯る議論に惑はされて續々國法に觸れんとして居る者のあるは慨嘆すべきである。米人パトリック先生は心理學上から嚴正なる批判を下し諄々として國民の反省を促がして居る。共筆端惻々として迫り讀誦の間覺へず襟を正さしめられるものがある。現下共產黨の問題で愕然たる政治家教育家及一般人士の爲に唯一恰好の參考書であらう。

ガンディと其思想　佐野甚之助先生著　定價壹圓五拾錢　送料拾八錢

人及人間行動の對象　長谷川善雄先生著　定價壹圓八拾錢　送料拾八錢

子供等に與へたるルーズヴエルトの手紙　中川小十郎先生譯　定價壹圓五拾錢　送料拾八錢

若き男女の爲に 其他　ステイブンスン原著　淸水起正先生譯　定價參圓　送料貳拾七錢

東京市京橋區西紺屋町九番地　立命館大學出版部　電話京橋五六〇六番　振替東京七五三六二



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA





江原小彌太著（新刊發賣）

藝術論

四六判總布裝
六百六十餘頁
定價金參圓
書留送料二十七錢

—東西に類なき獨創的藝術論—

直に大自然に通ずる藝術の大道を指示す

藝術の爲に藝術家で無く人間生活の爲に自然と人生とを觀る私はただ藝術を論じてゐられない、自然と人生とに通じて働く生命が如何に人間生活を支配するかの根本に立つて生命の表現たる藝術を人類がどんな態度で取扱つてゐるかを知り、各自の實際生活の方針と力とに資せんと思ふ。故にこれ迄のありふれた藝術論とは全く趣を異にする、私の「人生學」の延長である。（著者）

上篇 藝術の原理 第一章 心理 第二章 美學 第三章 技巧
中篇 藝術の價値 第一章 藝術の要素 第二章 藝術の本質 第三章 藝術の作程
下篇 藝術と生活 第一章 藝術と其人 第二章 藝術の方向 第三章 個人の生活

江原小彌太著

人生學

好評重版
定價金參圓
送料貳拾七錢
（六百餘頁）

（篇目）第一篇 人體論 第二篇 生命論 第三篇 心靈論 第四篇 生活論

東京麻布區龍土町六三

黎明書院

電話青山五三五三番
振替東京七一七一九五番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



湖光新綠

小杉放庵筆

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

京都帝國大學教授
經濟學博士 本庄榮治郎著

最新刊

日本經濟史概說

菊判一五八頁並製
定價一・二〇
送料〇・一八

日本自らを知り日本人としての誇と憂とを痛感する我々は、あらゆる俗說信仰を排して眞實の日本を見極めねばならぬ。尊き我が國體は抑も如何なる國土に於て、如何なる經濟的環境の下に今日の社會狀態にまで向上發展して來たか。從來の日本史的教養の下に育つた吾々が今一度突込んで日本自らに對する知的要求に迫られるとき「日本」の經濟史的研究は何よりも緊要な問題となる。かくの如き國民的要求が澎湃として起りつゝある今日日本經濟史學の耆宿たる著者が多年の宿志から茲に國民一般の信據す可き「日本經濟史概說」を世に問はれた。之れ啻に學界の久しき渇を醫したといふばかりでなく、國民的自覺を起すに足る。その編述方法の嶄新なる、簡明よくその要を盡せる、古今萬卷の文獻資料を咀嚼するに一の氣魄を以つて一貫かれた。この點は今までの日本經濟史家が觸れなかつた第一の特色でもある。

學校の教科書といふに止まらず、切に日本國民全體の愛讀書たるを期する。

九州帝國大學教授
文學博士 高田保馬著
增訂分業論 菊判 定價一・五〇 送料〇・一八

農學士
法學士 小平權一著
農業保險の機能と組織 四六判 定價一・八〇 送料〇・一八

レウリン・マツクガル著 杉野忠夫譯
農村社會の研究 四六判 定價二・〇〇 送料〇・一八

アレキサンダー・チヤヤノフ著 磯邊秀俊 杉野忠夫 共譯
小農經濟の原理 菊判 定價三・二〇 送料〇・二七

東京神田駿河台（ニコライ堂下）
刀江書院
振替東京七三一一八番
電話神田 三二七一番 三一八九番

婦人

六月號

『戀愛行進曲』

定價七十錢 郵税二錢

中央公論社

若葉薫る初夏に聽けよ！朗

戀愛行進曲

◆初戀以前の戀……堀口大學
◆柄にない戀……江馬修
◆鞭を持つた女……中河與一
◆最高の感激……福田正夫
◆プロレタリヤ作家の心臓の穴……金子洋文
◆戀ならぬ戀……小島政二郎

■『ポンペイ最後の日』……柳澤健

▼妻よ憂ふる勿れ……志垣寛
▼片上伸のことども……片上あさ
▼或る若い女へ……吉田絃二郎

■黒い爪の戀愛……清澤洌

▼女學校の花形卒業生調べ
▼現代美男くらべ……五十八氏
▼異つた職業を持つ夫婦……春山作樂

■男教師と女生徒との戀愛問題……藤瀬雅夫／龍山義亮／倉橋惣三

ムーヴィーセクション
▼戀は盲目
▼バラウー
▼長恨悲歌

▼映畫スター百人傳

口繪
▽セエヌの初夏
▽林長二郎の役々
▽あるポーズ

□(詩)古調惜春篇……白鳥省吾
□(演劇講座)芝居の見方……三宅周太郎
□(現代の音樂家)エルネスト……小松耕輔
□(抒笑畫)戀愛の陷穽……藤本斤夫
□(歌)誕生前後……五島美代子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

公論

から高鳴る戀愛行進曲を

■どんな女性に心を惹かれるか……中村武羅夫／片岡鐵兵／加藤武雄

□人造肉の發見について……土岐章
□總選擧から臨時議會まで……坂水四郎

スポーツページ
□クロール・ストロークの泳ぎ方……
□オリムピックの麗人物語……
□スポーツ辭典……

□(世界のニウス)支那の年次動亂……永井萬助
□(現代偉人の妻)クーリッヂ大統領夫人……古莊國雄

□嬰兒が話すまで……
□初めて洋服を着る注意……
□美爪術の道具と方法……
□姿を美しく見せる着附法……
□家庭で出來る皮革工藝……
□(流行批判)婦人美と夏帯の流行……
□男子服の手入れと保存……
□白地のものの洗ひ方とアイロンの掛け方……
□香水の選び方と使ひ方……
□季節向きの風變りな酢の物料理……
□果物を應用した夏向きのお菓子と飲物……

■ドグマから出た靈幽……山川菊榮

創作

◆夜光……細田源吉
◆脂粉の風……今東光
◆土に癒ゆる……徳田秋聲
◆憂鬱な愛人……松岡讓
◆惱ましき生……落合ちか子

▽エスペラント・ページ……
▽モダーン・トピック……
▽婦人論壇……(三篇)

■最初の接吻

TEA TIME
山村氏の與
八百八蛇の女
未納郵便

わが生ひ立ちの記……林長二郎

明
■男教師と女生徒との戀愛……

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

マルクス・エンゲルス全集

全二十册

上製一册一圓　全拂十九圓五十錢

「資本論」の購讀者の爲めには「資本論」以外の申込に應ず

輝ける不磨の大典

世界に於て最も完全な全集

現下、一切の社會思想と社會運動は、『マルクス＝エンゲルス全集』に淵源す。

世界觀の根柢としてのマルキシズム研究は現下の必要である。之れ世界の諸現象を全體として正確に理解する最大の武器である。總ての思想を理解するは大國民第一の資格である。左翼も右翼も現代を流るる總ての思想を理解した上に行動せ。

內容見本　申込次第送呈

締切六月五日

東京市芝區愛宕下町
改造社
振替東京八四〇二一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田中内閣の反動的思想政策

——（卷頭言）——

共產黨事件に關連して田中内閣が各官立大學に加へた一種の壓迫は、何と評しても驚くべき時代に逆行した反動思想の反映たる跡をかくすことが出來ない。社會科學研究會の解散、所謂左傾教授の處分等の企畫が惡るいとは必しも云はないが、たゞ田中内閣の當局を動かして這個の處置を執るに至らしめた根本動機を尋ぬるに及んで、我々は少くともこの點だけでも此内閣の犯せる重大なる罪惡を糺彈せずには居れないのである。

第一に田中内閣はあの重大な處置を執るに付て曾て專門の思想家に諮つたと云ふを聞かない。寧ろ今日所謂思想界に棲息する者のすべてを敵なるかに見做して恰も之に戰を挑んだ形ではないか。大觀すれば斯れ固より一木を以て大厦の覆らんとするを支うるの愚にひとしと雖も、有ゆる權力を濫用して發威を振はんとすることの現實の結果に想到するとき、吾人はまた洵に寒心に堪へざるものがある。

それにも增して驚くべきは、政府が右の如き狂暴の策を樹つるに當り主として事を諮つたのは政界故老の一部と短見淺慮の黨員だと云ふ事である。或る樞密院顧問官は社會主義と共產主義と無政府主義とボルシェヴイズムとをごッちやにし十餘年も前のデモクラシー時代の世評に基いて今日の思想界を論じたとやら。過般貴族院では帝國大學では貴重な國費を割いてマルクスやレーニンの著書を備付けて居るかとの質問をなせる者があつた。若し夫れ政黨員の末輩が自家の立場に不利なるの故を以て心中常に思想家を呪ふは一面情に於て已むを得ない點もある。蓋し思想家は正直だ、惡を惡と稱するに於て一歩も假借する所がない。而して政黨は如何に善良なものでも今日の政界に在て全然惡より遠かつては一日も存在し得ざるものなるが故に、常に必ず思想家の俎上に非難せらるるは致方が無い。且つ政友會は政權を掌握せしの他よりも永きことと又其傳統的方針として必しも惡辣を避けざりしとに依つて、特に烈しく吾人の排擊を蒙らざるを得ざるの理由がある。選擧の時など之が末輩の黨員に取てどれだけ邪魔になつたか分らない。斯んな理由で政友會は有力なる政黨である丈け眞面目な思想とは遠かつてしまつた。政友會の近來の著しい反動化は必しも陸軍大將を總裁に戴いたからばかりでない。

末派の黨員間の輿論が偶々政界一部の故老の妄見の支持あるを見て取て、之を以て頑迷なる政界の先輩に阿ねり、その幾多の失政に由て民間に失ひたる信望の償ひたらしめんとしたのが、即ち田中内閣の思想政策の本體である。田中内閣のやり方の中にはいゝ所もあつた。が、大體が不眞面目な基礎に立つて居るので、いゝ所までが消されてしまつたのは惜しい。單にそれ丈けならまだ罪も淺いが、あの愚策に依て暫くの間でも健全なる思想的發達を停頓せしめたことに至ては、返す〳〵も憾むべき事である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中央公論



第四十三年第五號
六月號
四百八十五號

日本の現政治過程に於ける無意義と有意義

最近の政局に對する社會史的考察

長谷川如是閑

一　二大政黨の互角的勢力

近代日本の歴史は、封建國家の崩壊以來先進諸國の近代國家的過程の史的軌道を走つてゐるのであつた。わが政治過程に於ける諸現象は、官僚の凋落といひ、政黨政治への進展といひ、二大政黨の對立といひ、無產政黨の出現といひ、普通

選擧の實行といひ、何れも近代國家のすべてが經來つた過程を反覆したのであつた。

近代國家の歴史は、近世の初めに於ける世界的交通の發達に伴つて、擴大された國家的生活の單位としての民族國家の形成に始まつてゐた。それは封建的分立狀態を打破して、近代の世界的商業組織の發展を條件づける新らたな社會形態の發生過程であつた。舊國家の掠奪經濟の組織に於ては、近世の始めに於ける世界的交通と、國家の掠奪的遠征の區域の擴大を意味するだけのものであつた。西半球、南洋、東洋等に對する當時の國家の遠征はその頃盛に横行した海賊の遠征と少しも性質の異らない掠奪の組織であつて、わが御伽噺に於ける桃太郎の寶物漁りと同性質のものに過ぎなかつた。

けれども、その舊國家の桃太郎式遠征も、各國家の勢力が世界の各地に伸張するに伴つて、その國民の商業主義的勢力も擴大され、國家の側に於ては掠奪の目的物の枯渇するに從つて、その國家的企圖に於て消極的となり行くに反し、それを背景とする國民的事業は國家とは獨立した、商業主義自體の發展過程に入つて、舊國家の軍國主義的勢力の伸張に代る商業主義の勢力を以て、掠奪遠征の利得による舊國家の行詰りに反して、商業主義的遠征の利得による市民階級の勢力を持ち來したのである。

國家的權力は、常に必ず國家的機構を支持する經濟力の把持者の手に握られる。軍國的掠奪が國家の經濟力の基礎であつた時代には、國家的權力はそれに從事する軍人貴族の手に握られたが、國家の經濟が商業主義の基礎にある時代には國家的權力は當然商人の手に歸する。

國家が封建的分立から民族的統一に移つたのは、言ひ換れば掠奪の組織が、商業の組織に代つたのは、世界的交通に於ては、廣大なる太洋が、封建時代の山道に代つて交通の要路となり、從つてその交通路を支持するにも、封建的山賊の代りに、廣大なる海軍力を必要とすることとなり、又從つて國家經濟に於ても、その規模を封建的分裂から民族的統一に歸せねばならなかつたからである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此の舊國家から近代國家への轉換期に於ける國家改造の事業には、沒落した封建武士の手から、新らたに勃興する商人の手に國家的權力を引渡す過渡期の仕事に任ずる、武士でもなく商人でもない一種の中間的生物を必要としたのであつた。それは即ち「官僚」であつた。

官僚政治は、それ故に、國家の民族的統一をその主たる機能としたのであつた。ナポレオン、ビスマーク、カヴール其他わが大久保、伊藤等の政治家の所謂國家統一の事業とは、この官僚政治の過渡期の機能を完うすることであつた。

官僚政治は、それ故に、民族的統一によつて、世界的商業主義の單位としての國家の形成過程が終了するに從つて凋落すべき當然の運命にあつたものである。かくして近代的交通の單位として成立した國家は、その商業主義の過程を進展せしめるに從つて、近代的經濟組織の歷史過程としての産業革命の時代に入り、傳統的産業組織のギルド的形態の崩壞に次いで自由主義が經濟組織の、從つて全社會組織の基調をなすに至り、官僚政治は、自分の育てた子供たる新國家が、官僚主義的拘束からの解放を叫ぶ親不幸の兒であつたことを發見するのである。而してそれが即ち資本主義國家の成育であつた。

民族國家の産婆であつたビスマークが退隱を餘儀なくされ、退隱を欲しない伊藤は政黨の首領に早變りを餘儀なくされたのは、即ち此時期に於ける必然的現象であつた。

政黨政治の發達は、この過程に於て、新たな資本主義的國家形態の要素としての階級――即ち經濟的支配階級――が、舊封建國家的乃至民族國家的形態の要素としての階級――即ち、傳統的の軍國貴族乃至地主の階級――に對する政治的機會均等を要求するための勢力の結成に基いたものであつた。それは言ひかへれば、不動産階級に對する動産階級の勢力の勃興に伴ふ過程であつた。而してかかる方法は古來議會制度によつて貴族や地主が國王の權力に對する抗爭をつゞけて來たイギリスのやうな國に於て最もその可能性を見出し得るものである。新興の商人階級は、貴族、地主の階級が國王に對し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て行つた反抗を、その同じ機關をもつて、貴族、地主に對して行ふのであつた。イギリスの保守自由の二大政黨にかくの如くにして、政治的要求の異る色彩を極めて鮮明に映し出すことを得るのである。

わが國の政黨は、反之、外國の歴史のコッピーであつただけ、その形に於て似たものであつたが、その質に於て全く異り、その起原は、舊封建的勢力の新國家に於ける反映に基いてゐた。維新後の新國家は、舊國家を倒した幾個の封建的勢力——所謂、薩、長、土、肥——の權力平均による組織であつたが、彼等の間に、因習的の、又は個人的の、乃至多少は機能的の原因からその地位や勢力やに懸隔を生じた結果、その權力の均衡が破られ、政權の把持がこれらの支配的勢力の一部に局限さるゝに及んで、その劣敗者は、官僚的地位から一轉して、外國思想の輸入によつて、取つて付けたやうな自由民權主義の政黨組織に移つたのであつた。

然し、あらゆる輸入品の場合と同じく、此の思想的輸入品も、わが國家的乃至社會的進化過程の内的要求に應じたもので、その輸入がなかつたとしても、何等かの形で、同じ性質の形態的進化に押し進むべき筈のものであつた。がこの急激な轉化に於ては、無論生活の根據の差別が政治的分野を基礎づけることは出來なかつた。そのフランス的急進主義は、それを基礎づける産業的進化がその主義の必然性を構成してゐたのではなく、それは時代の當然の進運に一致したものであつたに相違ないが、然しその運命の發見によつたといふよりも寧ろ、破られた政治的權力の均衡狀態を回復せんとする意圖によつたのであつた。が、その借り物が、先進國に於ける政治過程のコッピーであつたことの結果、當然、わが新國家の運命をも支配すべき役目をもち得たのであつたが、先進國では、階級的對抗の武器であつたものが、わが國の當時に於ては、支配階級内部に於ける權力爭奪戰に役立つたのである。

されば日本の政黨は、官僚が官僚への挑戰の機關であつた。自由黨も改進黨も、そこでは、その階級的根據を同うしたが、その言論形態を、新國家の將來を支配すべき市民階級的形式——先進國に現はれた——にとつたまでゞあつた。然か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も、わが國の當時に於ては、その意識の基礎をなす商人階級の自由主義への過程が進展してゐなかつたので、當時の急進黨は、滑稽にも、最も保守的であるべき筈の地方的勢力――農民のそれ――にその根據を求めたのであつた。

かういふ變態的の方法が可能である理由はあつた。當時の政治的勢力の分布は全く支配階級内部の機構によつたものであつた事、封建時代のそれと大差がなかつたので、地方的勢力乃至農民的勢力といふのも、單純に地主のそれを意味してゐたのであつたが、それの政治的要求は、近代的階級要求でなしに、舊時代の政權爭奪戰に於けるそれであつたので、地方の有産農民は、その支配慾による政治的進出を躊躇しなかつた。當時の所謂『民黨』『吏黨』の區別は、階級的のそれではなく、政權の把持者とその欲求者との區別であつた。

かういふ發生事情は、わが政黨組織の性質を支配して、政黨といへば、政權を離れた支配的勢力の結成を意味し、而もその扶持離れの支配階級の間に、舊封建的勢力の分立に基く分裂が持續されて、その一つはフランスを、他はイギリスをコツピーするといふやうな意識の形のみによる對立狀態を保つた。それは實は、對立そのことが先在的であつて、何をもつて對立の色彩とすべきかは、後からその看板を選擇したに過ぎなかつたのである。

かくてわが議會制度の初期に於ては、在野黨のみが政黨らしい政黨で、政府黨なるものは、政黨的結成をもたない官僚――在野黨と同じ生活の根據に依つてゐる政權の把握者――を外にしては、微々たる存在であつた。が議會主義の機構は、選擧制度に基くものである結果、政黨的結成をもたない官僚の組織は、市民階級的勢力の獲得に於て、手段と方法とを缺くものであり、從つて官僚はたゞ、議會政治の機能を出來るだけ妨害することによつてのみその政治的地位を確保する外はないことゝなり、暴力的選擧干渉、官職、利益をもつてする買收、脅迫その他の手段が極端に利用された。がワルポール主義、ビスマーク主義、品川彌二郎主義等は、何れもその價値の局限が發見され、つひに官僚自身の政黨化となり、その昔の不平政治家大隈、板垣の輩を、伊藤、桂等の常住的政權把握者が踏むことゝなり、わが議會政治は、今日の形態

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に流入したのであつた。

この形態は、その歴史の當然として、やはり同一社會的根抵に於ける勢力の傳統的分裂に支配され、その「政見」は、先在する對立關係を色づけるために、たゞその時々の機會主義によつて決定されたものに過ぎないのであつた。常に變化する政黨の分野は、多く個人的事情に因つてゐたこと、それらの政黨の成立そのことが個人的であつたのと異らなかつた。

今日の政友、民政の二大政黨は、さういふ同一の生活根據をもつ階級の內部的分裂のつゞきで、その分裂の歴史的因に支配される外は、全く、同一の機構、同一の方法による勢力の爭奪によつて凝集されてゐるのである。

かく同一の社會的根抵にあつて、同一の機構、同一の方法で、その勢力の分け取りが試みられつゝある事が、現在の彼等の勢力を左右的ならしめた理由である。

政黨的勢力の消長は、政黨の立脚してゐる社會的根據がそれ〲異なるものである時は、その異る根抵をもつ社會集團の利害のどれが支配的地位を占めるかによつて定まり、そのうちの甲の利害が乙の利害を排して支配的地位を占めるのは、その當時、社會の當面してゐる利害が甲のそれであるといふ事情に原因するのである。尤も政治的勢力は、さういふ利害の輕重の端的な現はれであるよりは、寧ろ政治的機構それ自體の機械的方法に原因することが多いから、各種の利害の社會的輕重そのこと以外にその勢力の消長を決定する事情の夥しく存在することを考慮に入れねばならぬ。然し、とにかく互に相撓する利害のどれが社會的に重大であるかといふことが、ある程度までは、その消長を決定する力であらねばならぬ。

然るに、わが今日の二大政黨のやうに、その分立が歴史的因緣による外、社會的利害の對立といふものを有つてゐない場合には、その勢力の消長を決するものは、全く彼等の各がもつ政治機構に於ける方法上の相違に因る外はない。然る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、わが二大政黨の場合は、その方法に於ても同一である。或は血緣により、或は地緣により、或は個人的勢力により、或は買收により、又は脅迫により、この他何々——すべて双方同一の——により、その以上は、やはり、殆んど同一の政見を、違つた音聲とスタイルとによつて發表するに止まるといふに於ては、その勢力の消長は、全く偶然の原因による外はないのである。而して偶然の法則は、本來平均の傾向をもつものであるが故に、これを妨げる事情がなければ、男女の率が平均的傾向をもつやうに二大政黨の分布も平均的であらねばならぬ。

政黨の分野は社會的利害の表現であるとすれば、かゝる平均ほど無意味なものはない。それは重大な利害問題を抽籤で決する無意味と少しも異らない。さういふ無意味の勢力の結合は、決して特定の國家的利害や社會利害やの消長を決する何等の機構でもない。日本の現在の政治的支配は、事實に於て、決してかゝる政黨の機構が支持してゐるのではなく、全く政黨的機構と關係のない、その政黨的機構を以上の如く無用の長物に歸せしめてゐる諸勢力の作用によつてゐるのである。

二　無意義の少數勢力

愚劣なる機構は愚劣たる効力によつて運轉される。現在の政局に於ける少數黨として、臨時議會に最も有力に作用したといはれる明政會なるものは、無意味な政黨ではなく、無意味な存在である。元來、第三黨の決定的勢力なるものは、代表政治に於ける不合理性の一つの暴露であつて、其のこと自身に價値を置くのは、たゞ政治的興味による見地に過ぎない。少數黨が、嚴格に特殊の利害を代表する場合、——たとへば、アイルランド自由國以前の英國議會に於けるアイルランド國民黨の如き——は極めて稀有のことで、多くは、社會的生活集團から超越した支配的地位をもつものの個性的乃至小集團的優越意識の結合である。少數黨の眞正の意味は、ある特殊の利害集團が、それを適當に代表する政治的機構をもたぬための少數——たとへば前例の國民黨の場合又は無產政黨の場合——の場合だが、此の場合に於ては、その少數的勢力

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の有力さは、全く代議制といふ政治機構の機械的作用によるもので、それは偶然に幸ひを持ち來し得ると同時に偶然に不幸をも持ち來すことの出來るもので、それによつて政治の組織的な作用を期待すべきものではなく、從つてそれが善く利用された場合にも、その機械作用なるものに危險を感ずることは、それが惡用された場合と少しの變りはないわけである。政治組織の進化は、さういふ不合理性の除去に向ふべき筈のもので、それがよく利用される機會の多いことは、さういふ不合理的機構を持續せしめる理由とはならないのである。

無産政黨のやうに議會制度を無産階級の統制への手段として、決して恒久的制度ではないとするものは、その議會に多數黨として存在するに至つても、その市民國家的政權の把握は、やはり終局的のものではなく、方法的の、過渡的のものであらねばならぬとするものであるから、その少數黨としての存在も、性質上、方法的の意義をもつのである。

反之、普通發生する少數黨は、ビスマーク政策に於けるやうな、多數制度を攪亂する作用をもつことを、その意識的企圖とするもので、その道德的動機の如きも、概ね精神分析的批判を値する錯覺である。明政會一派の今議會に於ける少數黨としての作用は、最も善意の解釋をもつてして、その種の錯覺による集團といふを得べく、惡意に解釋すれば、全く政治的支配意慾——無論それは具體的の個人的利害に基く——の塊である。

かゝる少數黨は、元來政黨的根據をなすべき生活集團をもたず、また社會的生活意識の特殊性も持たず、無意味な二大政黨の何方かに歸屬することを寸毫も妨げない無意味性をもつてゐるものである。これを善意に解して、彼等の道德意識が無意味な二大政黨への歸屬を拒否せしめるものであつたとしても、かゝる道德意識の支持による政治行動そのものに少しの意義も見出されない限り、その少數的地位の支持に何の道德的價値もないわけである。のみならず、道德意識による少數は、不道德意識による少數と、政治的勢力としての數値に何の變りもないものであるから、政治的には、道德と不道德とが協力として一つの勢力を現出することゝなるのである。天使と惡魔との勢力が合體して一個の力をなした時には、天使

はその力を惡魔の力に加へたことによつて、その天使たることを失はねばならぬのである。政治勢力に於ける値は、その道德的內容とは全く沒交涉に働くものであることは黴菌を含む水も清水も、水力については全く同じ値をもつものであるのと異らない。

多年、政治道德の主張者であり、且つそれがためにいつも政治的機會を踏み外づして、今日の孤立的地位を得たといはれてゐた尾崎氏といへども、右の理由によつて、何等政治道德的勢力としての表現を見ないのである。氏が臨時議會に於て、その因襲的勢力によつて浙政會を引廻し、從つて民政黨をも引廻はしたといはれるが、それは氏のもつ道德的意識と沒交涉な機械的作用によつたもので、何人も何黨も、氏の政治的道德意識に對する信仰によつて動いた譯ではないのである。

此の尊敬すべき政治家に對して忌憚なき言葉を許されるならば、氏の道德意識の性質の甚しく因襲的で且つ、階級的で、全く現代的社會意識に觸れてゐないことは、同氏の演說筆記を讀んだものは認めないわけに行かない事實である。『思想國難決議案』とは、誰の命名であるかを知らないが、その內容を見れば、その命名の偶然でないことを知るのである。が凡そこの題名ほど無意義な、而かもその無意味に頑迷な階級的偏見を固着せしめてゐるものはない。果して氏の說明は、この題名の延長であつた。私は此論文に於て、氏の意見を批評する遑はなく、そんな意圖をもたないのであるから、單に、この題名の示唆する意味を評するに止めるであらうが、とにかく、實行力をもたない政治家として、それだけ批判の力と自由とをもつ政治家としては、あの說明演說が、現職にある總理大臣の辯明書から口々しいセンチメンタリズムを除き、それに二大黨と現政府との惡口を附け加へたやうなものであつたことは、氏と時代との距離が、多くの政治家のそれと大差ないことを感ぜしめ、今更ら政治生活の超社會的性質の効果の普遍的なることを想はせるのである。

少數黨としての他の勢力に實業同志會があるが、これは、わが國の資本主義への過程が、國家的保護の時代から、殆んど直ちに帝國主義の時代に飛び越して、中間の自由主義の時代を充分經驗しなかつたゝめに、政治意識としての自由主義

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の發達の充分でなかつたことに對し、比較的、自由主義的環境を經て來た中間層の實業家の間に發生した自由放任主義の立場を代表するものとしては、多少の意義をもつたものであるといへる。が、これ亦、政界に於ける自由主義者と同じく、意識と行動との關聯に終始すべき運命にあるものである。彼れ等自身の生活根據は、國家主義的商業時代の夢から醒れたことによつて自由主義的意識への素地をもつてゐるに相違ないが、時代は既に帝國主義的過程に入つて、彼等の觀念的立場は、識域にだけ取り殘され、既に自由主義の境を跨き越へてゐる彼等自身の實際の立場に支配されないわけに行かないのである。その理由から、此の怪しげの自由放任主義者は、一も二もなく、封建化した帝國主義の政府と握手することを得るのである。

少數勢力の無意義は、二大政黨の無意味と同じく、その政治的意識を基礎づける生活の分野をもたぬためであつて、從つて政治的機構に對する作用は、二大政黨のそれよりも一層簡單な偶然的事情——殆んど個人々々について、彼れ自身又は事情通の第三者によつてその個人的の心理的立場、及び利害的立場の指摘し得らるやうな——によるもので、それだけ、さういふ勢力が政局に對するある程度の決定力をもつといふことの甚しい無意義さを認めねばならぬ。

かゝる無意義が政治過程を支配する狀態の下に於ては、更らにもつと積極的に無意味な、即ち有害な、不合理的勢力が政治過程にある種の實力をもつのは當然のことである。それは即ち暴力の橫行である。

三　暴力の支配

暴力の社會史は、同時に政治の社會史であつた。政治的支配の過程はその發生に於て又その進行に於て、何等かの暴力を必要とすることは、舊政治の支持者も、近代的政治の支持者も、又無產階級的政治の支持者も等しく承認する所であつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、それらの事情は、現に軍隊をもつことが政治國家に特有の現象であることを見ても明かである。

けれども政治の進化は、どこまでも、暴力の過程を漸次に廢用に歸せしめる傾向をとるものであることは、古代國家の發生と近代國家の發生とを比較して見てもわかる。前者は軍國的征服の完成によつて成立し、軍國組織を基本として支持されたが、後者は、軍國的征服が、より平和な商業主義による征服となつた時に成立し、デモクラシーによつて、暴力的對抗の形態を代議制による討議の形式に進化せしめた。

が、この平和的商業主義は、その商業の擴大が屢軍國的征服に依賴し、ある國民は商旗を軍旗に先き立たしめ、他の國民は軍旗を商旗に先立たしめるといふ差違はあるが、とにかく軍國主義は、商業主義の伴侶として役立ち、その帝國主義的段階の必須手段となつてゐる。而してその最後の段階に於て、自由主義國家の封建化となり、商國家的制限が「法治」的形式に於て行はれるゝに至つた。

が近代國家のかやうな過程は、強ちに國家的意圖とのみ認めることは出來ない。近代國家は、その性質上、自由主義的態度を持續する、多少國際的の傾向を帶びることとなり、資本家社會が、無產階級の發展を制限する必要を痛感するに至つても、國家的制約は附力的にその自由主義を持續する。かゝる場合には、非國家的勢力としての暴力の組織が發生する。イタリー、アメリカ、スペイン其他の諸國、並びにわが日本に於ける暴力團の發生は、さういふ階級的動因を機會としたものであつた。イタリーの場合は、この非國家的暴力團がつひに強襲によつて國家的權力を掌握するに至つたものであるが、外にはスペインに於けるデ・ヴアレラの獨裁の成立を除いて、世界に、それほどの無法の類例を數多く見出さないのは當然であるが、不思議でもある。

日本の暴力は、非國家的のそれは、それ自體では寧ろ問題ではなく、國家の合法的――或は反對黨のいふ如く非合法的かも知れない――強制力が有力でもあり、効果的でもある。一般の民間的暴力はたゞそれの陰翳として存在するかの觀が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある。

此の意味の合法的暴力は、多くの立憲國に於ては選擧制度の弊風となつて現はれるが、わが總選擧に於けるそれは、すべての在野黨の指摘した通り、可なり極端なものであつた。最も日本に於ける選擧干渉としては、今回のそれの如きは寧ろ合法的のもので、品川時代の有名な例は、全くイタリー式そのものであつた。警察は無論のこと、役場の走り使ひが、太刀を腰にして選擧民を脅迫し、屢々野黨との間に白兵戰を交へた。

そんな暴力が今日の時代に行はれる筈はないから、現在の政友會政府のそれは、現代的方法としては極度のものであつたといつてもよからう。尤も非國家的暴力の選擧に於ける發動として、今日の日本のそれの如きはいふに足らぬものであることを思はせるのは、アメリカの現狀である。最近のシカゴの市長選擧に於ては現市長派の七人の兇漢が、反對派の運動者である黒人辯護士の自動車を、同じく自動車で追撃して、その黒人紳士を射殺したといふやうな椿事を始め、多數の選擧人が攫はれて自動車で遠方に運ばれ、深夜野中に棄てられるといふやうな始末であつた。これに比べればわが國の民政黨の一議員の斃れなどは殆んど問題にはなるまい。日本の總選擧にも、可なり極端の光景を呈する場合もあつたに相違ないが、アメリカの大都會に於けるこの無政府狀態に比すべきものを見なかつたのは、仕合せであつた。從つてわが現狀に於て寧ろ問題とすべきは、合法的暴力である。

此點については日本の政府の無産階級運動に對する法律的制壓は、全く日本の近代國家的進化に逆行するものである。特に法律が、政黨の共産主義的綱領を禁ずるが如きは、その主義の當否が、現下の日本の社會的段階に妥當するかしないかは別として、近代國家的性質の上から撞着的たることを免れない。

四　異なる制度的立場の禁壓

近代國家は、その社會的構成要素たる各種の集團の利害に均等の機會を與ふることに於て、その國家的性質を舊國家のそれから引離したのであつた。

舊國家の性質は、特定の社會集團――軍國貴族階級及び寺院階級――に限つてその利害に均等の機會を與へたが、一般社會集團の利害は、絶對にこれらの支配的集團の目的に隷屬せしめられ、全く自由な競爭による利害の支持を許さなかつた。從つて特殊の社會的利害集團は、たとへばギルド都市のそれのやうに、暴力をもつて國家に對抗することによつて始めて、その利害を支持することを得た。反之、近代國家はその産業生活を奴隷勞働のそれから所謂自由勞働のそれに轉ぜしめたことに關連して、實質上はとにかく、政治形態としては、各の利害に均等の機會を與へ、その代表制による討議の形式をもつて暴力の制壓に代へ、よつて國家組織に有機的機構を與へたのであつた。

されば近代國家は、その政治的特徴を決定する社會的集團の勢力を、舊國家のやうに、一定の階級的地位に限定せしめず、代表制による討議によつて、その國家の政治形態を形式的に又實質的に進化せしめる實力を有する社會集團に、有機的手續によるその支配的勢力の推移を許すものである。

而かも、それらの社會集團はそれ〴〵生活様式を異にし、生活態度を異にするものであるから、社會の諸制度に對する彼等の態度に於て、及び彼等自からの有する又有せんとする制度の性質に於て、それ〴〵相違するのは當然である。たとへば財産制に於て、ある利害集團は私有制度に立脚し、他の利害集團は共産制に立脚することもあり、又宗教制に於て、ある利害集團は寺院制に立脚し、他の利害集團は寺院制の否定に立脚するといふこともあり得る。がそれ〴〵の利害集團の制度的根抵の異る場合、その一を許して、他を禁壓したのが舊國家であつた。反之、それらの各の立場に均等の機會を與へ、代表制によつて、その支配的勢力を決定し、主たる地位に立つたもの丶制度的根抵が國家のそれを決定するといふ有機的手續による進化を可能ならしめるのが近代國家である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

舊國家と近代國家とは、その支配にかゝる本質があるため、舊國家は、僅かの制度の變化にも忽ち革命的騒亂に陥るに反し、近代國家は、可なり重大な革命的事業を平和に完成するのである。勞働政黨の政府の出現の如きが、何等の暴力過程なしに、何等の騒亂なしに實現されること、イギリスに於けるが如きは、全く國家の近代國家的有機性によつたものであつた。

されば進歩した近代國家の殆んどすべてには、一方には私有財産制に利害をもつ資本家的政黨を認めると同様に、他方に共産制に利害をもつ勞働政黨を認めてゐるのである。

然るに、かゝる近代國家的機構の下に於て、政黨の綱領に共産主義的傾向をもつことによつて、これを禁止し、社會黨といふ名目の政黨を禁ずるといふ國家の如きが、文明國にはあるか何うか疑はしい。日本は何も先進文明國のする通りをせねばならぬといふ理由はないが、日本自身の國家的性質が、既にさういふ有機的性質に進んでゐることは、その近代的商業主義の發達に伴ふ社會的諸制度の關係を考察すれば疑を容れる余地のないことである。それに拘らず、國家の有機性を妨ける政治的制限を支持すれば、それは、政治的混亂のやうな目に見へる損害を招き、又は今回の共産黨事件の如き秘密結社的組織を誘發する等の弊害以外に、國内の社會進歩と對外的發展——近代的方法による——とに何れほどの隠れた損害を與へてゐるかわからないのである。治安維持法のやうな法律、及び集會結社出版に關するわが警察的法規の多くは、この意味に於て撤廢又は改正の必要があることはいふまでもない。

がかういふ期待は、反對に、さういふ法律の制裁を一層峻烈ならしめる法案が臨時議會に提出される筈であつたといふことによつて頗る痛快に、又皮肉に裏切られる。わが日本の近代國家的形質は、それが發達の遅れ、つひに充分の完成を見ないうちに、反動期の潮流に乗じて、封建的形質に逆行するかに見へる。それは、近代國家の構成要素たる資本家階級の超國家的性質、言ひかへれば、資本家階級が國家に支配されずに國家を支配する性質が、欧米のそれのやうに發達しない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ためであるとすると、わが國の資本主義の實質の薄弱を證示するもので、從つて國家の資本國としての實力の消極的なることの證據となるわけで、資本國の信用にも關する次第である。資本主義過程の獨立自存の性質が充分に成立し、持續した場合には、その意識形態に於ける自由主義的精神は、國家的權力の性質をもそれに順應せしめ、從つて法律意識の水準にも近代的變化を來すのである。わが國は、多くの先進資本國家が到達したこの段階に達しないうちに、先進國の反動的形勢に一致し、その退化に於ては、進化の場合と反對に、先進國を乘り込して、多くの非近代國家的法規の制定を見たのである。

それが一種の強迫觀念的被害妄想に出たものであることは、ロシヤ――とは指摘しないが――の勢力による反法行爲を堂々と法律に規定したことによつても明かである。民族的意識のかくも強烈な日本に、もし外國の勢力を借りて、革命的企圖を起すものがあつたにしても、萬一これが成功した場合には――それは絶對にないことだが――吾日本人は民族的征服を蒙つた場合と同じ意識狀態をもつて、いかに猛烈にその外國勢力に反抗すべきかは想像に餘りあることである。われ〳〵は常に民族的意識を批判し、かゝる意識の絶滅が人類社會の幸福のための必須條件であることを痛感してゐるものであるが、然し現實の日本人の多くが、猛烈な民族意識を有する事實に目を閉ぢるわけには行かない。革命に限らず、如何なる企圖に於ても、外國的勢力は日本では一種の障碍となつてゐる。日本で外國の勢力が障碍でなしに實益となつてゐるのは資本主義の企業だけであるといつても差支ない。おめ〳〵外國人の奴隷たることを甘んずる日本人は今の處資本家だけである。外國思想の輸入者と稱せられる學者といへども、資本家が外國資本をその貨幣價値に於て受け容れるやうな態度で外國の學問に對するのを恥辱と心得てゐる。

これにも拘らず、外國の勢力による反法的企圖を禁ずる條項を設くる必要があるといふならば、更らに、外國の資本によつて日本全土を買收する企圖を禁ずる法律や、日本の大資本家がその全企業を外人に賣渡すことを禁ずる法律や、外國

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人が日本の教育機關を買收することを禁ずる法律や、日本の基督教徒が、大規模に外國に歸化することを禁ずる法律や、その他その種の禁制を無數に設けなければなるまい。

愚擧を批判するためには、愚言を費さざるを得ないが、貴重の紙面を餘り多くさういふ浪費に當てることは許されない。

最後に私は、とにかくも、近代國家的過程に入り込んだ國家の統制が、かゝる政治的形質から如何にして脫出すべきかについて、當面の事態から超越した原則的見地を示唆して結論に代へるであらう。

五　結論——近代國家の社會史上に於ける機能

近代社會の形態は、既にいつた如く、世界的交通の發達に伴つた現象であつて、それによる社會的接觸は、丁度、生物に於ける異種の混淆が新種を持ち來たすやうに、社會生活の新形態を産み出す環境的條件となつたのである。社會の發達は必ず、異種の社會との接觸によつたもので、孤立的存在に於て社會の發達の不可能であることは、孤獨な人間の生活に文化的發達の起らないのと同じである。されば社會そのものは常に異種への接觸の傾向をもち、その傾向が社會的統制の常に純粹種の保存につとめる事に對する反對傾向として、如何なる社會にも存在するのである。社會のかやうな自家撞着的性質のために、中世までの孤立的統制の社會に於ても、地理的條件さへ許せば、國境を超越した自由の交通が行はれ、時々大規模に所謂民族移動が行はれたのである。

この統一と分離との社會的傾向の、前者を基調としたのが舊政治の國家であり、後者を基調としたのが近代國家である。

無論、近代國家と雖も、その政治國家たる性質は古代、中世のそれと變りないのであるから、統一が、その國家的規制

の基礎であることはいふまでもないが、その統一を、殆んど生物學的な同性に求め、人々がその階級的地位に從つて、必ず一定の恰好をし、一定の行動をし、その一定の樣式をとり、それを自分一代のみならず累代持續するといふのが、舊國家の統制であつた。

反之、かゝる統一から解放され、階級的一定は個人的特殊に地步を讓り、その特殊性の綜合關係に社會生活の基礎を置くといふのが近代國家の特徴であつた。

その結果、近代國家に於ては、古代の生物學的順位による支配は無論のこと、中世的の社會的機能と沒交涉な外部の叉は內部の非機能的勢力の支配からも解放されたのであつた。蓋し近代國家組織は、舊國家のそれと異り、生產的機能と沒交涉な軍閥階級がその機能的社會集團から掠奪する經濟組織に立脚せずして、生產自體の支配がその國家的支配の基礎をなし、產業に於ける支配的地位は同時に國家の政治に於ける支配的地位となり、產業組織の重心が國家的重心を爲すものである故に、產業組織に於ける地位が、近代國家の形成時代に於ける政治的地位を決定したものであつた。

近代政治の特徴といはれた三權分立主義の如きも、右のやうな近代國家組織が、一つの絕對的勢力によつて支配されることの不可能な狀態にあることゝ關連して發生した組織で、モンテスキューの思想の發源地がイギリスであつたことも、同國の近代國家的進化が、世界のどこの國よりも早かつたためであつた。此の分權主義は、絕對國家的支配が總括的性質を有ち、恰も父の子に對する支配のやうに、全人格の上に、無際限の支配を行ふものであるために、全く近代社會の生活の複雜な發達に伴ふ個人的機能の要求及び其の組織的發展と相容れない制度であつたゝめに、分權主義は、これを生活機能の質によつて區別し、全人格的、總括的權力を社會的行動の性質によるそれ〲の組織に對する各別の權力に分離せしめたのである。古代國家の權力の性質であつた絕對的の「一種權」は、即ち近代國家に於ては、より機能的な人間的管理と代り、從つて機能の異ることによつて支配の中心を異にしたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そこから舊國家に於ける軍國的統制——それは機能社會を外部から總括的に支配する組織であつた——は崩壞した。それには社會的生産の組織に於て、總括的人格的支配であつたギルド的制度に代るに、個人的利己心を動機とした自由主義的組織の發達がその基礎的條件であつた。

軍事組織とは全くその性質を異にし、強制的掠奪の代りに自由な交換に立脚する近代的國際經濟に於ては、既にいつた如く、軍人の代りに、商人が、その國家的生存の鍵を握るものであらねばならない。さうして國家の政治は、國家的生存の鍵を握る地位にあるものの、その國家的意志行動に對する支配に立脚するものであるから、商業主義的統制が軍國的統制に代つて近代國家の性質を決定するのは當然であつた。

舊國家に於ては、政治群と産業群とが全く異つて生活の範疇をもつ別々の社會集團であつて、前者が後者を外部から掠取する組織であつた事、支那の軍閥のそれのやうなものであつたが、近代國家に於ては、産業群に於ける支配的地位を占めるものが政治群を構成することゝなり、その政治階級の經濟的根據は外部的掠取政策によらずして、内部的搾取の制度によることゝなつた。されば、近代國家の政治の機能的性質といつても、それは生産過程自體に於ける生産的機能の性質をもつものでなく、いひかへれば昔の親方の徒弟に對する技術的支配のやうなものではなく、非生産的機能即ち生産支配の機能的地位を意味するものであつた。さういふ近代國家の政治的機構は政治が元來支配階級的生活態度であるといふ性質に何の變化をも與ふものではなかつた。

近代國家の政治群は、たゞその支配的勢力が軍事的暴力に基かずして、商業國家の自由主義的法律秩序に基いてゐる點に於て前者と異るまでゞ、その生活態度が生産行動者のそれでなしに支配的行動そのものであることに於て、階級的超越狀態に閉ぢ籠る傳統的政治群の典型に屬するものである。

所がこの市民的支配に於ては、産業組織に於ける被支配者群即ち勞働階級は、昔の徒弟のやうに、非政治的性質の統制

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を受けてゐるばかりでなく、同時に、さういふ産業組織を支持する政治的支配形態の下にあるのである。近代的勞働者は、昔の職人が、生産者的生活に於て『政治』を感ずることのなかつたのに反して、その勞働生活の組織が、生産管理者の政治的支配に立脚することを感知するのであつた。彼等は、彼等に對する支配群が、親方でなしに政治家であること、少くとも政治的勢力の背景をもつ政治的支配群であることを感ずる。

かくして近代國家に於ける産業組織の搾取制度に對して當然起るべき産業運動は、その産業組織に對する要求であることによつて、同時に、産業的國家の政治組織たるものに對する運動であらねばならぬ。かくて本來、政治に對して反撥的態度を持する生産者群の經濟運動が、政治運動と結合する機會をもつに至るのである。

此の過程に於て、近代國家は、その成立の初めに經驗した政治的鬪爭過程を、この産業組織に對する生産者群の運動に於て經驗せねばならぬのである。前の場合に於ては、それは軍國貴族對市民の鬪爭であつたが、後の場合には、それは市民對生産者の鬪爭である。

元來、かやうな性質の政治鬪爭は、全く近代國家的現象であつて、近代國家以前の國家では決して見ることの出來ない現象であつた。近代國家以前の國家組織に於ては、政治群は、社會群から隔絕し、彼等自から階級内に於て鬪爭を常作的に行つてゐたが、他の社會集團との間には、征服行爲の續きのやうな性質の壓迫的軍事鬪爭のみ行はれ、政治鬪爭なるものは行はれなかつた。政治階級以外の集團も政治階級との鬪爭に於ては、たゞ自己の頭上に臨む政治的壓迫を反撥する運動をとるのみで、決して政治的勢力にとつて代る運動は起り得なかつた。その種の鬪爭は全く暴力による社會鬪爭で、政治機權に於ける鬪爭ではなかつた。

然るに近代國家に於ては、社會集團の組織的綜合内に政治的勢力の所在が移動されたので、地主、貴族の如きものは却つて政治的鬪爭から閑却され、市民と生產者とが政治鬪爭の最も熾烈なる鬪爭者たるに至つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

がそこまで形勢の進んだ近代國家に於ても、市民階級の内部に於ける勢力の分裂による支配階級の内部闘争が今日尙ほ、各國の政治闘争史の主な部分をなしてゐる始末である。わが邦に於ける政治闘争は、つひ最近までは、前にも述べた如く、支配階級の内部闘争としての外は、政治闘争といふものは全くなかつた。然るに資本主義國家としての急激な成育に伴つて、社會闘争的暴力過程としてのみ發展すべき性質のものが、政治的機構に於ける合法的手續による政治闘争——即ち國家的に公認された政黨の運動——として現はれるに至つた。

これは確かに、日本の國家的構造が、その資本主義の過程に應じて、近代國家的機構をもつに至つた結果であつて、暴力的社會闘争が、政治機關の制約に從ふ討議的闘争に進んだものとして歡迎されねばならぬ現象であつた。がその進化過程の圓滿な進行を見るためには、現實の國家的實質を認識することによつて、わが現代的政治の性質を見極め、わが政治的進化の當然の歸決を誘致する政治意識的企圖をもつことが必要である。政治過程に於けるさういふ現實的認識の正確なほど、その近代國家的政治の有機的性質が實際の効果を擧げることを得るのである。

さういふ認識の正確と、その政治的進化過程とを妨げるものは、既にいつた如く、一定の制度的政權を絶對化する階級的意識の錯誤である。中世までの國家殊に古代國家は——無論日本をも含め——所有の制度としては私有を否定して共產的根柢に立つてゐたものであつた。私有制の絶對的確立は、自由主義的社會組織が個人的利己心を產業組織の動機とすることと關連して成立したもので、從つて、その後の產業組織の進化は、自からかかる絶對的性質に影響すべきことは當然で、既に現代國家の法制に於て、所有の抽象的主體を承認するが如き、又個人的所有の過大の蓄積を防止する租稅政策の如き、累進徵收の諸制度の如き、其他、實質的に、私有制度の絶對性を無視する傾向が多く現はれてゐるのである。

されば、財產に關するある制度の如きは決して社會的生活の安危に絶對的なものではなく、さういふ生活當時の生產と分配とに妥當な過程を妨げる諸制度こそ、社會的安危に關するものであることを認めねばならぬ。然し、近代國家の機

構を論ずるに當つて、ある社會集團の立脚する制度の社會的價値を具體的に論ずる必要はないのであつて、近代的政治はあらゆる社會集團の利害に均等の機會を與へるものであることを理解すれば足りるのである。

かくして、近代國家の機構に於ては、政治群的勢力が産業的地位に伴ふ構造をもつに至つた結果、産業組織に於て、最も機能的なる行動の把持者が、漸次に有力たる地位を占めるべき自然の傾向にあるものである。それは總括的、人格的全體の支配を撤廢せしめた近代政治に於て、先づ國家生活の經濟的生命を操るものの勢力が政治的に進展したのと同じ順序である。

が今後の新らたな進化過程に於ける重大な特徴は、傳統的政治群は、必ず生産群の生活を離れて、純文化的生活に進むやうに、その特權の根據と組織とを『法化』するものであるが、生産群の特徴はさういふ『法化』の絶對に不可能なことである。何となれば、元來、生産群の社會的勢力は、生産組織に於ける支配的勢力に根據するものでなく、いひ代へれば、財産制度の法的制約に立脚するものでなく、全く彼等の生産行動の社會的機能に立脚するものだからである。

故にもし生産群にして、その生産行動を離れて、支配的即ち文化的生活の特權をのみ享樂するに至れば、その生産群としての勢力は忽ち失はれ、傳統的支配群の特權に依賴する者——或は現——政治群と同じ地位に墮するものである。さういふ地位に墮する時は、忽ち生産群的運動が、在來の政治運動と化して、それは生産群の犧牲の上に、寄生型の政治群を繁殖せしめることに外ならないのである。

近代國家は、その政治的機構の進化に於て、上述の過程を有機的に、平和的に進行せしめることによつて、その近代國家としての機能を完成せしめ且つ終了せしめるものである。

一九二八——五——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我が產業革命と其の特質

高橋龜吉

一 先進國の產業革命と後進國の產業革命

先進國に於ける產業革命は、「機械の發明」を槓杆として開展した。而して、當時機械が發明せられるに至つたわけは、要するに、機械利用の經濟的條件が已に成熟してゐて、それの發明を哺育し、刺戟したからに外ならない。だから、先進國に於ては、機械の發明は、それの實用化に成功すると共に、直ちに普及した。だが、後進國に於ては、斯くの如き機械利用の經濟的條件の未だ成熟せざる以前に於て、豫め、先進國に於て發明せられたる機械に接觸するわけである。就中、我國の如く永く「鎖國」を續けたる後ち、已に少からず高度の資本主義的發展を遂げたる歐米諸國に、突如として接觸せる場合に於て、殊に右の如き差異は著大である。

然らば、謂ふ所の機械利用の經濟的條件の成熟とは何であるか。思ふに、その主なるものは之を次の點に結び得るであらう。

(一) 大量生產による生產を消化し得るだけの商品販路の開拓せられてゐたこと、乃至はその見込あること。

(二) 資本の蓄積乃至その供給方法が、(一)の商品販路の開拓乃至機械工場制度の發達に必要な資本を賄ひ得る狀態にまで到達してゐること。

(三) 勞働賃銀が相當高價となつて勞働者を使用するよりも機械を利用するを以て有利となる狀態にまで成熟すること。

(四) 外國製品と有利に競爭し得る條件を備へること。

(一)の商品販路の擴大は、或は輸出貿易の開拓に由り、或は國內市場の發展により、之を望み得るのであるが、しかし、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のためには、先づ、內外に於ける交通機關の發達を前提とする。蓋し運河、帆船、汽船、鐵道等の發展先づなくして、海外販路も國內販路も、その範圍は極めて限られ、到底、機械制工場生產の發達する餘地はない。しかし、それ等の交通機關の發達には莫大な資本を必要とする。加ふるに、機械工場制そのものゝ建設にも、從來の手工業に比すれば、丸で比較にならない多額の資本を投ぜねばならない。斯くて、機械制工場生產の發達には前記（二）の資本の蓄積乃至その供給方法が、右の要求を滿たし得る狀態にまで成熟してゐることが必須條件となるのである。

加之、いかに、前記（一）及（二）の條件が備はつてゐたとしても、若し、その勞働賃銀が非常に廉價にて、豐富且自由に勞力を使用し得る場合に於ては、機械力を利用するよりも人力を利用するを有利とし、ために、機械制工場生產は、技術的に人力を以て代へ得ざる一部の生產に發達するに止り、一般生產界に普及することにならない。このことは例へば、勞働賃銀の非常に高い米國に於ては機械の利用を非常に有利とする多くの生產が、勞働賃銀の低廉なる我國に於ては、いま尙ほ人力を使用せる部門の多大なることを一顧すれば（尙ほ詳はしくは後述するが）容易に肯けるであらう。

尤も、以上は、他に强力なる外國競爭者なき生產に對してのみ謂ひ得ることであつて、他に有力なる競爭者のある場合には、事情は寧ろ右と反對となる。即ち、如何に、（一）及（二）の條件具はるも、對外競爭に打勝ち得る條件を有せざる限り、その生產は內地に起らずして輸入に由り供給せらるゝことゝなるのである。

以上の如きわけで、先進國に於ける產業革命は、機械の發明がその直接の原因をなしてゐるに反し、我國の產業革命に於てはその直接原因は、前記の機械利用の經濟條件の成熟そのものであつた。蓋し、機械そのものは維新の開國の當初から已に利用の自由に委せられゐたるにも拘らず、唯だ一つ、之を有利に利用し得る經濟的條件に欠けてゐて、之を利用し得なかつたわけであるからだ。右の點が、我が產業革命の先進國のそれと最も根本的に異るところであつて、之に派生して各種の特色を示すに至るのである。例へば、右の如き特殊事情の當然の結果として、我が產業革命に於ては、先進國に於て見たるが如き、多數の手工業の失職沒落（機械の競爭のため）、幼年及女工の採用に由る成年工の失業と云ふが如き悲慘なる混亂を伴ふことなくしてすんだと云ふが如きその最も顯著な一例である。が、これ等についての詳はしきことは項を改めて更に詳述するであら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

う。

二　外國の刺戟と産業革命の早熟的影響

德川封建制度の下に於ても、江戸、大阪、京都及び各地の城下その他の都市生活の發達の結果、或る程度の商品生産は手工的に已に發達してをつた。だが、我が國民大多數の生活は、未だ自給自足を本流とし、交換經濟に頼る所はその極く一小部分に過ぎず、しかも、その交換經濟すらも、各藩割據内に於ける地方的自給自足であつて、たまく、江戸、大阪等の大都市を中心として、全國的交換經濟の發達が多少發芽してゐたと云ふに止まつてゐた。斯かる狀態の下に於て、商品生産を專業とする手工業者階級の未だ極めて少數に止りしことは云ふまでもない。いかにも國内經濟は漸次に交換經濟化しつゝあり、從つて、商品生産者としての手工業者の數は漸次に增大する傾向にあつた。だが、明治維新當時までに於けるそれは、未だ、云ふに足る數にまでは達せなかつたのであつた。

斯かる經濟狀態に於て、我が産業は、外國貿易の脈管を通じて、突如、明治維新と共に、歐米資本主義生産――早く産業革命の洗禮を受けて、當時已に少からぬ高度の機械制工場生産に發展せる――の影響に接觸したのである。即ち、封建的生産關係、及び手工業者等に對する機械制工場生産の競爭は、先進國に於けるが如く、國内の産業革命と共に襲來したのではなくて、外國資本主義の壓迫と云ふ形に於て、國内經濟が未だ産業革命の準備すら整へざる時に於て已に早く、我が經濟を襲つたのであつた。

斯樣なわけで、先進國の産業革命に於て經驗したるが如き、機械制生産の競爭に由る、在來生産者の解體、沒落と云ふが如き悲慘事は、我國に於ては、明治維新と共に來たのであつた。實に、當時、在來手工業者の多くは、輸入品の壓迫のために失職し、鐵道、汽船等の普及のために、從來の驛助、驛宿等は沒落した。又、從來、農家に於て自給自足せられた手紡と手織の綿布は、輸入綿絲布のために漸次解體せられるに至つたのである。

だが、明治維新當時の、この外國機械制工場生産の競爭に由る混亂は、先進國に於けるが如き大なる悲慘事を伴ふことなくしてすんだ。思ふに、その理由としては、次の諸點を擧げることが出來るであらう。

(一) 國民の經濟生活の大部分が未だ自給自足經濟にて、從つて商品生産に從事する手工業者が比較的に少數であつたこと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(二) 從つて、歐米の機械制工場製品の壓迫は主として「自給自足」の農家經濟を襲つたが、幸ひ、農家は、生絲、茶等の輸出の激増に由つて、勞力を他に轉換し、その打撃を相殺して餘りあつたこと。

(三) 遠く海を隔てゝの歐米からの競爭であるため、自國に機械制工場生産の發達せるに比し、その競爭力が著しく鈍化されてゐたこと。

以上の如きわけにて、我が國の「産業革命」は、それの出現以前に於て已に、それの出現が當然伴ふべき在來産業に對する混亂を、外國機械制工場生産の輸入に由り代つてその責任をとらしめた。しかも、その混亂は、已述の如き三つの理由に由つて、最少限に止り、且つ、當時、宛かも明治維新革命の混亂中にて、旁々、一般社會がその苦痛を――外國機械制工場生産の競爭に由る苦痛を――それと感ぜし程度はいよいよ輕微であつた。

三　我が「産業革命」の先驅的現象乃至準備的發展

我が經濟それ自身の「産業革命」は、次の第四項に詳叙する如く、大體に日清戰爭を劃期とする。だが、その先驅的現象乃至は準備的發展は、已に、明治維新を劃期として顯著に現はれた。先づ第一の現象は、明治政府の「模範官營工場」制度に由る泰西産業の政治的移植の企てであつた。こゝに「政治的移植」とは、資本家的採用に於て引合ふか否かは之を度外して、政治的目的のために、強行的に之を移植せんとしたからである。例へば、當時政府が所謂模範官營工場を經營するに至つた理由を顧るに、左の如き點を擧示することが出來る。

(1) 我が殖産の振興上泰西式産業の移植を必要と認め、その模範を民間に示すことを目的としたもの、――例へば、富岡製絲場、新町紡績所、深川セメント及煉瓦工場、品川硝子工場等々。並に鑛山官營の一半の目的等。

(2) 軍事上乃至は同上の目的より幕府及諸藩より引繼げるもの、――例へば「横須賀、長崎、兵庫等の造船所、赤羽工作所等、造幣、造船兵器等。

(3) 財政的收入目的を多分に含めながら旁々泰西式産業の移植の範を示さんとしたもの、――例へば、鑛山の官營の如きそれであつた。

(4) 紙幣下落防止策としての正貨維持政策の一として行つたもの、――例へば綿絲紡績の官營乃至紡機貸下げ等。

しかし乍ら、以上の如き官營模範工場に由る機械制工場生産の移植の企圖は、もとより收支を度外に於ての空想的政治企業

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であつた。勢ひ、當時の我が經濟的諸條件が、果して、機械制工場生產の發達に成熟せりや否やと云ふが如き科學的研究は全く之を試みることなくして之を實行に移したるが故に、その多くは、收支相償はずして、當時の貧弱なりし政府の財政に多大の壓迫を加へることゝなつた。こゝに於て、あだかも其の他の理由よりする財政難と共に、その破綻が、遂に明治十一年以降の紙幣の暴落となつて突發するに至るや、政府は、明治十三年十一月、有名なる「工場拂下」方針を決定し、從來の官營模範工場制及び其れに含まれたる慈父的干涉主義を一擲して、急角度の方向轉換を以て、自由放任主義へと一變した。(斯くて大體に日清戰爭までは割合に自由放任的であつた)

斯くの如く、政府の官營模範工場制度は財政的に失敗に歸し、中途にして撤廢せられるに至つたが、しかし、その政府の拂へる大犧牲の貿下に於て、斯種の泰西產業の我國に於ける發達に必要なる各種の種は蒔かれたのであつて、他日の我が產業革命は、これ等蒔かれたる種の根を下ろしたるものが少くなかつたのである。

就中、その最も著しいものは、生絲製絲と綿絲紡績とであつた。即ち、生絲製絲は、官營模範工場富岡製絲場に於ける器械製絲の普及を土臺にし、輸出器械製絲の特に高價(從來の座繰製絲に比し)なる利收を受けて、漸く、工場生產に由る器械製絲の發達を見るに至つたものであつて、明治二十一年乃至二十六年平均に於て、已に、全生絲生產高中、その四割一分は器械生產化(幼稚な器械であつたが)してゐた。しかし、その殆んど全部は、輸出向であつて、內地用生絲は依然、從來の座繰りであつた。即ち知る、生絲に於けるこの「器械生產化」の拍車は、全く外國の機械生產の強要に基くものだと云ふことを。蓋し、外國の需要家は、その機械制生產なるの故に、生絲の品質の統一を要求し、之に對し特に高價の代價を支拂つて我が製絲業を、日清戰爭前に於て、已に四割一分まで機械化さしたのであつた。

生絲製絲に次いで、我が產業革命の先驅をなしたものは、綿絲紡績業であつた。蓋し、綿絲紡績の機械は、他の產業の機械に比し、その能率甚しく高く、從つて、最も容易に、在來產業に代り得る競爭力を持つてゐたからである。例へば、手で廻す紡器では一人平均一錘弱を運轉し得るに對し、紡績機械は一人平均四十錘を運轉する。且つ機械の回轉力は遙かに人力よりは高いから、假りに人力の倍とすると、都合、紡績機械は人力の八十倍の能率を有する。之に比し、例へば織機の如き機械は人力の三四倍に過ぎない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯くの如きわけにて、綿絲紡績は、初め專ら內地手紡綿絲と競爭して明治十六年頃より漸く資本家的に發達し、明治十九年乃至二十二年の企業勃興時代には已に、當時の企業熱の中心をなした程であつて、その後、更に輸入綿絲（更に上質なものであつた）と競爭するに至つた。しかし、その遂に在來の手廻し紡器を征服し得たのは、大體に日淸戰爭を劃期とし、又輸入綿絲を大體に漸く驅逐するに至つたのは更に日露戰爭前後のことであつた。

斯く、我が產業革命の先驅をなした最も主なるものは、生絲製絲と、綿絲紡績であるが、しかし、それの一般的產業革命は、之を、日淸戰後に待たねばならなかつたこと後述する通りである。而して、以上、生絲製絲、綿絲紡績を外にすれば、日淸戰爭以前に於てはその他に機械制工場生產をなせるものは、造船、洋紙、セメント等、輸入產業にして且つその生產技術上機械を必須とする少數の工場に過ぎず、その他の殆んど全部の產業に於ては、生產は依然「人力」に專ら依賴してゐたのであつた。此間の事情は、例へば明治二十一年十月、京都に開催せられた關西二府十五縣聯合共進會の席上、農商務省の御雇外人ワグネル氏が、「工業方針」と題して演說せる中に、次の如き一節があるのを一顧すれば、容易に之を看取することが出來るであらう。

「いま日本に於て機械を使用する工業を通觀するに、紡績機械の外は昔日本にあらざりし工業か、或は昔にても機械を使用するものなり。製絲機械は昔時日本にあらざりしが今日にても只外國に輸出する生絲のみを製し日本の用に供せず。抄紙機械は西洋紙を製するものなり。セメントは昔時日本に在らず、煉瓦も亦然り。油搾機械、米搗機械は往時より日本に在りて水車を使用す。今日本の眞の工業を見れば維新以來機械のために進步したりとなすものは一としてあることなし。外國の事のみを考へて自國の事は之を忘却せしにあらざるかの感あらしむるに至る。……日本の紙は印刷局の外は尙昔時の如く之を製す。只漸く西洋の藥を少しく用ふるのみに過ぎず。木を挽くに外國の鋸機械を用ふるものは日本中に有ることなし。鐵の道具類を造るに水車を用ふるものなく、燒物製造も其本場に於ても少しも進步せず、只外國へ輸出するものは其形を改良し、其畫の巧みになりたるに過ぎず。油搾機械、米麥を舂く水車等は今日も二十年前も同一にして不十分なり。何故に是等のものが進步せざるか？……」

四　日淸戰爭を劃期として產業革命の起りし譯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治維新と共に、直ちに歐米に於て發達せる「機械工場生産」を自由に利用し得る利便に接しながら、我が國民經濟が、爾後二十數ヶ年後の日清戰爭頃まで、未だ「産業革命」の洗禮を受けるに至らず、精々の所、その先驅的現象乃至準備的發達に止まつたわけは、そもそも如何なる原因に由るものであつたらうか。

思ふに、その主なる理由は、機械制工場生産の發達に必要な經濟的條件が未だ我國に成熟するに至らなかつたが爲め、折角、技術的條件は完備してゐても（事實は技術の習熟に欠けてゐたと云ふことがないではなかつたが）未だ我が國民經濟それ自體に、産業革命を齎らすことが出來なかつたと云ふことに在つた。現に、日清戰爭を劃期として、我國に「産業革命」が出現した理由は、要するに、我國に從來欠けてゐた機械制工場生産の發達に必要な、經濟的諸條件が、日清戰爭を劃期として、漸く成熟したと云ふことに在るのであつた。

こゝに、「機械制工場生産の發達に必要な經濟的諸條件」の成熟とは、本論の第一項に已述せる、（一）大量生産の商品を消化し得る販路、（二）大量生産を可能とする設備に要する資本の供給、（三）勞働賃銀の比較的騰貴のため手工業を機械制生産化することが有利となつたこと、（四）對外競爭上有利なる條件の具現と云ふ四つの條件が漸く有效的に具備せられるに至つたことを意味するのである。

尤も、日清戰爭を劃期として、前記四つの條件が具備するに至つたと云ふわけは、此の時に於て、右の四つの條件が、茲に初めて、一時に具現せられるに至つたと云ふ意味では決してない、例へば、生絲の輸出需要、綿絲布の多大なる輸入等、大量生産に適する販路は明治開國と共に早くから開かれながら、（二）乃至（三）の條件が不備にて、産業革命を齎らすに至らなかつたと云ふ産業分野もあつた。又當時の我が國の勞働賃銀は歐米に比し極めて低廉にて、此の點に於ては、維新の開國當時より我が機械制工場生産は、優に外國のそれに打ち勝ち得る條件の下にあつた。蓋し、そのわけは、（イ）維新革命の結果、約五十萬戸の武士階級は從來の非生産階級より新に生産者として産業界に流入し來れるため、（ロ）及び、從來已に我が農村は比較的多大の人口を抱擁せる上に、外國の機械制工場生産品の競爭に由り從來の自給自足の解體となり、旁々農家の勞力に少からぬ餘剩を生じたこと、（ハ）並に農民は從來封建的苛斂誅求の下に半農奴的劣惡なる生活程度に慣らされてゐたこと、等に淵源するのである。

にも拘らず、我が産業は、斯樣な資本主義的に優越せる條件

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を抱へたまゝで、日清戰爭頃までは、産業革命に進展することが出來なかつた。そのわけは、前記（一）乃至（三）の條件に欠けてゐたからである。例へば、當時の我が産業は、或は、資本の欠乏の故に、或は販路の狹少の故に、多額の資本を要する機械工場制生産を興す代りに、餘り資本を必要とせぬ、且つ狹少なる販路を相手とするに適せる、而して外國産業の競爭少なき品種の手工的家内工業又は手工的小工場工業に走つたのであつた。而して、かゝる場合に於ては、賃銀の低廉なることは、却つて、産業の機械化を阻害する障害となるものなること、已述（四つの條件中の第三を見よ）の通りである

斯様なわけで、日清戰爭を劃期として、機械制工場生産の發達に必要なる四大經濟的條件が具備するに至つたと云ふ意味は、從來已に部分的には存在してゐた右の四條件が、此の時に於て、初めて一つに結合して現はれたと云ふことに外ならない。而して、日清戰後に於て、此の四大條件の結合が始めて可能となるに至つた基本的原因は、此の時に於て、前記四大條件の中從來最も我が國民經濟に欠乏せし、（一）及（二）の條件が、俄然として大規模に充實せられたことに在る。就中、（二）の資金の供給が豐富化したることが、私見に由れば第一の基因であると思はれる。以下、項を改めてその所以を概述するであらう。

五　我が産業革命の鍵を握りし資本の調達

一方には海外輸出と云ふ大量生産に適する販路を或る程度まで擁し、一方には賃銀の低廉と云ふ武器を有しながら、更にまた一方には鐵道の開發、汽船の發展と云ふ交通機關の建設に由つて内國販路の開拓と云ふ光明を與へられながら、日清戰爭頃までの我が經濟は、何故に、その手に投げ與へられた「機械制工場生産」を、採用することが出來なかつたか？

なる程、機械制工場生産に必要な技術の習熟のために相當の時を要すると云ふことも、確かにその原因の一をなしたに違ひない。だが、上述の如き環境の下に置かれながら、日清戰爭頃までの我が經濟が、産業革命にまで進展することが出來なかつた最大原因は、要するに、資金供給の欠陥であつた。例へば機械制工場を採用するに必要な纏つた資本が、資本家の手に無かつた。又、鐵道一つ布くにもその資本が欠乏で、思ふ樣に之を延長さすことが出來なかつた。例へば、明治十年前後の企業熱は、十一年以降の不換紙幣の暴落（即ち資金不足）に由つて頓挫した。かくて、明治十五年の日本銀行の設立を劃期として、我が金融制度漸く整頓し、その作用に由り資金の供給の少しく豐富になるや、否や、明治十九――二十二年の企業熱は勃興し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たが、しかし、これら資本不足のため、早くも二十三年には一大反動に見舞はれ、多くの事業——鐵道、紡績、鑛山等が當時の企業の中心であつた——は中途にして中止の止むなきに至つた。

然るに、日清戰爭の結果、清國より三億六千萬圓の償金を入手するや、これまで資金不足のため阻まれてゐた企業熱は、後述の如き販路の擴大、政府保護等に由つて更に火に油を注がれ、こゝに我が産業革命を劃する日清戰後の企業の大勃興となつたのである。しかも、その日清戰後の企業の大勃興すら、間もなく、資本の不足のために一時その進行を阻まれ、明治三十年及び三十三年の反動に見舞はれたのであつた。而して若し、此の時に於て、後述の如く、外資輸入の途が拓かれて、不足の資本を補給して呉れなんだならばその産業革命の進行は、更に時期が後れたわけである。例へば當時農商務次官をやめたばかりの金子堅太郎氏は明治三十一年十一月次の如く述べてゐる。

〔同氏著『經濟政策』に由る〕

「今や朝野の事業共に膨脹して財源已に涸渇を告げ、之に加ふるに、各種の事業より收益を見るまでには早くも尚ほ數年を要する今日の場合に於ては、銀行を以て外資を輸入し目下の急を救ふ…………。…………今日商業者の事業たるにも拘らず、資本欠乏のために躊躇をなす能はざるの困難に遭遇して、止むを得ず事業を中止しつゝあるもの甚だ多く、中には七八分通り成功したる鐵道も少からず…………」

以て、我が産業革命が、資本の供給の大小と如何に最も密接なる關係にあるかを容易に看取し得るであらう。然るに、日清戰爭を劃期として、我が國の資本の供給は著しく豐富となるに至つた。そのわけは、我が國の蓄積が此時に於て俄然と增大したと云ふわけでは無論なく——その蓄積は當時の我が經濟の貧弱狀態に於ては尚ほ極めて限られる外なかつた——此の時に於て一方には已述の如き償金及外資の流入あり、一方には、銀行、株式、社債等の金融制度が整備し來つたことに根因する。試に、その主なる點を左に列記するであらう。

(1) 清國より償金の流入——三億六千萬圓

(2) 外資の流入

日清戰爭の「大勝利」に、明治三十年貨幣制度を改革して從來の銀本位を金本位に改正し以て我が金融市場を世界金融市場と結合さしたこと等が主因となつて、外資が流入し始めた。しかし日露戰爭前までに於ては未だ合計約一億九千五百萬圓以上に及ばなんだ。目の前に日露戰爭の爆發の脅威があつて、外人の日本投資を躊躇さしたからである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然るに、明治三十五年日英同盟に由る英國との提手、日露戰爭の「大勝」等は、外人の日本に對する信用を高め、こゝに、日露戰中戰後に於て、外資は滔々として我國に流入するに至つた。例へば、明治三十七年より大正二年末までに流入せる外資は、官民合計實に十七億七千五百萬圓の巨額に達する。此の中には無論、所謂「軍事公債」を含むが、しかしその軍事公債すらも、結局は、その大部分が、廻り廻つて、我が資本家に産業資本を賄ふ役に立つたのであつた。

(3) 銀行、株式、社債制度等の發達

日清戰爭以降に於て、我が産業革命を賄つた資本の供給は、以上の外、銀行、株式社債制度等の金融制度の發達に由つて、資金利用の能率が著しく高まつたことにある。例へば、我が銀行は、從來、國立銀行制度の下に紙幣の發行を主たる財源としたものであつたが、――而して其の効果は已に明治十九年乃至二十二年の企業勃興となつて現はれた――日清戰後に於て、國立銀行條例は廢止せられて、こゝに預金を主とする銀行として發達することゝなつた。斯くて、銀行は預金の吸收、それの利用に多大の力を注ぐに至り、從來或は各戸に分散死藏せられてる資金、或は一銀行に閉塞せられたる金融等は解放せられて、新に産業資金として全國的に活用せられるに至つた。加ふるに、債券の發行に由る長期資金の供給を目的とする特殊銀行(勸業銀行、農工銀行、興業銀行等々)の特設せられるあり、又、手形交換制度、ビルブローカー、コール取引等の發達あり、産業資金の供給は日清戰後著しく圓滑となつたのである。

日清戰爭を劃期として産業革命を賄つたいま一つの資本供給源は、株式會社制度、社債制度の普及發達であつた。一體、我國は明治維新當時、未だ資本の蓄積十分ならざる封建末期の衰弱體を以て、直ちに、已に少からず高度の資本主義生産に達せる歐米先進國の競爭に暴露せられたのであつた。かくて、當時の我が朝野の痛感したことは、資本の不足、資本の弱少であつた。こゝに於て、明治政府の先覺者は、之の欠陥を凌駕する手段として、早く、合本組織(即ち株式會社組織)の普及に努力した。しかし一般産業界に漸くその組織が資本家的に利用せられるに至つたのは明治十九年以降のことであり、(尤も銀行には政府の特別保護政策の下に明治十年を劃期として一般的に採用せられた)それが、いよ/\一般に普及したのは日清戰爭以後のことであつた。現に株式會社の普及に最も必要な會社法が漸く實施せられたのも、株式取引所制度が確立實施せられるに至つたのも、共に明治二十六年のことであつた。

更にまた、社債制度が發達普及したのは更に後れ、その初め

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は已に明治二十三年に大阪鐵道會社が之を試みたるも、しかし、その漸く一般に普及したのは、明治三十八年三月、擔保付社債信託法、鐵道抵當法、工場抵當法、鑛業抵當法が公布實施せられて以後のことであつた。今日の我が重なる產業の殆んど全部が、何れも株式會社制度及社債制度の下に發達せることを顧るとき、日清戰後に於ける以上の如き株式會社及社債制度の發達が如何に我が產業革命の進行に大なる貢獻を與へたかの有樣を容易に推想し得るであらう。

六　產業革命を培つた日清戰後の販路膨脹

日清戰爭を劃期として我國に產業革命が襲來したいま一つの根因は、此時に於て、商品販路が俄然として膨大したことであつた。顧るに、日清戰爭以前に於ける我が經濟は、二様の理由から、大量生產に適する商品販路を有するに至らなかつた。(一)は內地の國民經濟が、封建時代より引繼げる「自給自足」時代の域を未だ脫せなかつたことだつた。從つて、國民消費の大部分は「商品」の需要として現はれず「自給自足」品を以て賄はれた。其の結果は、云ふまでもなく、大量生產を消化する需要の欠乏である。(二)は海外輸出の發達が未だ十分でなかつたと云ふことであつた。いかにも、維新以後、我が輸出は着々と增進した。しかしその程度は、未だ、我が國に、產業革命を齎らすの域に達しなかつたのであつた。

然るに、日清戰爭を劃期として、我が產業に對する此の內外兩方面の商品販路は、後述するが如き理由で、俄然として膨脹するに至つたが、就中海外販路の擴張が特徴的であつた。かく一度び商品販路が增大せば、國民經濟は加速度的に商品需要を增高するものである。何となれば、國民の自給自足經濟は、商品生產の有利化と共に、益々解體せられて、各人の需要するものは之を市場に求むるに至るからだ。斯樣にして、海外輸出の激增を第一因として、我が商品販路は急速に增大した。

例へば、我が輸出は、明治二一——二五年平均の七千二百六十萬圓から、四二——大正二年平均に於ては實に五億二千百餘萬圓と、七倍餘の激增を告げてゐる。此の輸出の激增には二大區別がある。(一)は生絲その他の農產關係品のそれであり、(二)は綿絲布、諸雜貨等の工業品のそれである。而して(一)は專ら歐米への輸出にして、(二)は專ら清韓其他東南洋方面への輸出である。この中、(二)の輸出の激增は專ら生絲のそれに基因し、製絲業機械化の促進に由つて我が產業革命を著しく促進したが、その他尙ほ之に由つて、我が國民經濟を「自給自足」經濟より益々「交換經濟」化し、以て、內地の商品需要を著增さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

した効果は鮮少ではない。だが日清戦争以降に於ける我が産業革命の、直接主要原因たる「輸出の激増」としては（一）のそれよりも、寧ろ、主として（二）のそれ、即ち清韓其他東南洋に對する工業品の輸出増加そのものに指を屈すべきである。蓋し、（二）の種の輸出が増大せられてこそ、我が近代的工業製品の販路は直接擴大せられ、こゝに始めて、我が産業革命の道は輸出貿易の側面より開かれ得たわけである。即ち、此の（二）の輸出の激増なき限り、輸出の側面よりする云ふに足る産業革命は起り得ないわけである。

日清戦争以降に於て、上述の如く、我が輸出の俄然として激増するに至つた理由は思ふに、之を左の諸點に結びつけることが出來るであらう。

（一）日清日露兩戦役に由る帝國主義的進出。

（二）朝野の商工立國政策就中輸出奬勵政策への熱狂。

（三）政府擁護の下に貿易機關の海外發展。

A　我が汽船に由る遠洋及近路の發展（政府の莫大なる補助金下附の下に）

B　政府の特殊保護の下に我が銀行の海外支店及出張所の發展

C　邦商の貿易商權の回復

（四）原料輸入税撤去、製品輸出税撤廢。

（五）企業勃興の結果供給過剰となりその捌口を海外販路に求むるに至つたこと。

轉じて、日清戦後に於ける内地商品販路著増の原因を見るに、これは二様であつた。（一）は國民生活程度の向上、（二）は國民經濟の自給自足的經濟より商品經濟への進化である。就中、その最大の影響ありしものは（二）のそれであつた。思ふに、我が國民經濟が商品經濟化するに至つた原動力は内外兩方面から來た。一は生絲、茶等の輸出の激増に由る農村生産の商品化と、紡績業その他の機械製品の輸入乃至内地製造増加に由る農家自給自足品の衰退とに在つた。蓋し、自給的に各戸の必要品を生産するよりも、商品として買ふ方が低廉且つ品が良く、而して斯くして省ける手間を養蠶その他の輸出産業に振向けるを有利としたからである。我が經濟を商品經濟化したるいま一つの原動力は、鐵道其他の交通の發達に由り、國内經濟の地方的分業の益々旺んとなり、こゝに、自給自足的生産よりも、商品的生産をより有利とするに至つたことである。而して、此の交通機關の發達は又、海外輸出貿易をも同時に益々有利にし、我が國民經濟を愈々商品經濟化するに至れること云ふまでもない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

七　日清戰役に於ける産業保護政策の再擡頭

明治政府の泰西式産業移植保護政策は、明治十三年の「工場拂下方針」に由る急角度の方向轉換以降、大體に自由放任的となれること本論第三項に已述せる通りである。

然るに、日清戰爭を轉期として、泰西式産業の移植模倣に對する政府の保護政策は、再び澎湃として擡頭した。此の政府保護再擡頭の根源は大體に之を二大別することが出來る。(一)は主として軍事的理由、(二)は主として經濟的理由に基くものである。尤も、此の(一)と(二)との二つの理由は時に混淆して或は(一)であると共に(二)であり、或は(二)であると共に(一)の目的に合すると云ふ工合に、兩者は常に必しも截然と區別され得るわけのものではないが、しかし其の主たる根源には、右の二つの理由が、濃淡色々に作用してゐるわけである。而して之を大觀すると、(一)は專ら政府の直接保護(その手段は色々であるが)に由り、(二)は專ら保護關税政策に由つたと云ふことが出來るであらう。

先づ(一)に屬する主なる政策を一覽せんに、大體次の諸項に別れるであらう。

(1) 明治廿九年の造船奬勵法に由り內地造船事業を勃興させした。

(2) 日清戰爭以降政府は兵器の自給自足主義を定め、一方に官營工場を擴張すると共に(八幡製鐵所の新設、陸海軍兵器造船諸廠の擴張等)、民間工場の保護にも力を努した。

(3) 日露戰爭以後、海軍は內地製艦方針に一決し以て造船奬勵法と共に內地造船事業の保護發達を圖つた。

(4) 日露戰後鐵道の國有と共に、鐵道諸要品の內地自給自足主義を定め官民の車輛工場其他の發達に力を努した。

(5) 電信電話及び國有鐵道の電車併用等の國營を利用し、政府は此所に於ても國産使用第一主義に力を盡し、電氣機械事業の發達に貢獻した。

政府の特別保護に由る以上諸工業の發達は、單に、斯種工業の發達のみを意味するものでない。何となれば、汽船一つ、軍艦一つ、汽關車一つ作るには、凡百の附屬工業の發達を必要とするわけにて、これ等凡百の諸工業は、その發達に必要なる第一の脚場を、以上政府の特別保護の下にある諸工業に先づ見出して、爾後漸次に、他の諸方面に發達するに至るの理であるからである。試に、いま我國に於ける機械工業部門の重なる産業について見よ、その何れも、以上の如き政府の特別保護の下に生成せざるものは殆んどなしと云つて大過ない有樣である。以上

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に出つて、日清戰爭以降に於ける我が産業革命の進行が、右に指標せられたるが如き政府の産業の特別保護政策に、直接如何に依存する所多かりしかを容易に想見し得るであらう。

尚ほ、政府保護に由る我が産業革命の進行としては此の他、明治四十四年の關税自主權回復と共に採用せる保護關税政策を除外することは出來ぬが、しかし、ことは少々後日に屬し且つ紙面がないので之れは以上注意を呼ぶに止める。

八　日清戰後の賃銀騰貴と産業革命來

一體、餘りに低廉なる賃銀は、却つて機械の利用を阻むものである。何となれば、賃銀が著しく低廉なれば、機械を利用するよりも勞働者を多數使用する方がより有利であるからである。斯様なわけで、日清戰爭以前に於ては、我が勞働賃銀の餘りに低廉なりしが故に、泰西の諸機械は現に我國にも紹介せられながら、我が産業は依然專ら手工に依賴するを有利とし、ためにその機械化は、政府及「有志家」等の異常の努力ありしに拘らず、遲々として進まなかつたのであつた。(外にも理由があつたけれども)

然るに、日清戰爭を劃期とする諸事業の勃興は俄然賃銀の著騰を招き、こゝに、我が國の産業と機械との關係は激變するに至つた。即ち、この時を劃期として我が經濟は、人力よりも機械の應用を有利とする時代に這入つたのである。(此所には專ら勞働賃銀の側面より見る。その他の側面よりのことは他の個所を參照せられたい) 此間の事情は、明治三十年廻轉式製絲機の特許を得て、「我國の製絲工業に非常な改革を齎らしめた」有名な御法川直三郎氏に聞くが更に雄辯であらう。例へば氏は當時のことを左の如く述べてゐられる。(東洋經濟新報第一一五號)

『……維新以後士族の女子等にして坐食する能はざるもの、勢ひ職業を求めざるべからざるより諸種の業務に從事したり。而してこれ等の女子には製絲女工となりしものも亦尠からざりき。斯る有樣なれば製絲女工には不足を感ぜざるより、別に機械の力を要するとなく……加之賃銀は非常に低廉にして、彼の高價なる機械を購求して之を利用するに比すれば、女工を多く使用して指先を利用するは寧ろ利便を感ずる有樣なりき。……然るに日清戰爭以來漸く諸種の事業勃興したるより、是迄女子の職業なきに困みし者も相當の職業を得ること必ずしも困難ならず、紡績業の如き、織物業の如き、何れも女工を要すること舊來に比して甚だ多きを致せるより、自然に製絲工女を減少するの傾を呈すると同時に、賃銀の昂騰を招き、現時に於ては、夫の指先に於てのみの製絲は最早利益を見る能はさらんと

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す……（例へば）……昔日は百斤の製絲費用は約六七十圓を要せしに過ぎざりしに、昨今は實に百五十圓乃至二百圓を要するに至れり……。」

斯の如くにして、我が生絲製絲業は、日清戰爭以降急激に、在來の座繰より、器械製絲に進出した。此のことはまた當時の我が在來産業一般に當て嵌ることであつて、我が産業全般に亘る産業革命は賃銀の側面からも斯樣にして齎らされたのであつた。

九　我が産業革命の國民經濟に及せる影響

先進國に於ける「産業革命」に於ては、機械の競爭に由る在來職工の沒落、幼年工乃至女工の使用に由る成年熟練工の失業等幾多の混亂と悲慘事とを伴つた。然るに、日清戰爭を劃期として襲來した我が産業革命に於ては、本論第一項に述べし如き理由から、斯くの如き混亂及び悲慘事を伴ふことなく、却つて、その産業革命の進行と共に、一般國民に益々多くの仕事と、より大なる報酬とを與へることゝなつた。例へば、明治二十九年一月五日號の「太陽」は次の如く記してゐる。

「……歐米諸國にては、機械力使用と科學應用の爲に、所謂工業革命なるもの起るや、無數の勞働者が其職を失ひ、其れが爲に大に同志を集めて、製造工場内へ亂入し、器械狼藉を極めたることあるも、我國にては幸ひに製造業發達の爲に、從來未だ無かりし所の新事業續々として起り、却つて勞働者の需要を增し、女子の如きは新たに職を得たるもの多く、其の影響は、新たに娼妓鑑札を受くるものを減じ、又窃盗詐僞の犯罪者をも減じたりと云ふ………。

「我國の工業革命は稀有の好結果を呈したるものなり、何となれば、工業革命の爲に普通に感ずる勞働者の失職は毫も感ぜず、之に反して却つて勞働者缺乏し、雇主間には職工橫奪の弊盛んに行はる。……而して、我國の勞働賃銀は、他國に比して尙ほ甚だ廉に、勞働者は柔順にして技術に堪能なり、加之石炭の産出にも富み、他國に比して生産費少なき故、資本家も亦相應に利益あるべく、利益ある限りは益々製造業を增設し、勞働者の需要も益々增加すべし、實に此の如き好都合なる工業の發達は、他國には多く比を見ざるなり」

我が「産業革命」は、又、女工少年工の壓迫が、在來の成年工を苦しめると云ふが如きことも無かつたこと已述の如くである。例へば第三農商工高等會議（明治三十一年）に於て、自由經濟主義者たりし田口卯吉氏は、次の如き理由で、少年工使用制限（工場法案中の）に反對してゐるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『……此の場合に於て、或は十歳以下の子弟を職工に使ふことはたらぬと云ふのは何である。今日此の勞働問題を主張さるゝ御方は、或は慈善的の考から出た如く、或は衞生上の考へから出た様に思はれる人もある。併しながら本員が彼の英國邊りで幼年勞働者のことを規定すると云ふことの起つた歴史を見ますれば、決してそんな原因ではない、年を取つた職工が若い安い賃金の職工が這入られて困るので、其職人が工場主に向つて反對した所から、斯う云ふ規定が起つた。今日桑港邊りでも支那人の渡航を排斥し、日本人の安い賃金の者を來ない樣にして呉れるか、或は規定を定めて色々なことをやると同じことで幼年職工を禁じて呉れと云ふのは、年取つた職人の意見なんです。其の職人の意見であるから、英國では務めて行はれて居つた。それを以て來て慈善家とか、或は衞生家が之を主張して、十才以下は云々とか、十四才以下は云々とか婦女は云々と云ふけれども、事實はそれより外ない。左れば今日日本の現在に就いて先づ十才以下の者を禁ずるとか、衞生に害があるとか、教育に害があるとか言ひますけれども、十才以下の貧民が職工場に往くのは少しも憐れむべきことでないのみならず、實に嬉しがるので……』

以上の如く、我が「產業革命」そのものは、機械と云ふ新鋭爭者の出現のために、在來の手工的職工階級を或は失業苦に陷れ、或は低賃銀の生活難に導くと云ふが如き、先進國のそれに伴へる混亂を齎らさなかつた。此の根因は本文第一に已述せし如く、當時の我が經濟が、未だ、左樣な手工的職工階級を多く有するの段階に達してゐなかつたからである。いかにも、幕末の我が國は已に多少の商品經濟に發達し、手工的職工が存在してゐた。だが、これ等の職工にして、機械生產の競爭に倒される運命にありしものは、已に、明治の當初外國資本主義的製品の輸入が開放せられると共に破滅したこと已述せる所である。即ち、自國の產業革命の犧牲になつたわけではなくて、已に產業革命に成功せる外國資本主義の犧牲に供せられたのであつた。

然らば、我國の「產業革命」は、在來產業を少しも犧牲にすることなくして進行することが出來たのかと云ふに決してさうではない。我が產業革命も亦、多くの在來產業を壓倒して、その屍の上に始めて機械生產を建設したものである。だが、その犧牲の對象になつた者は、手工的職工ではなくて、主として農家其他の自給自足經濟そのものであつた。例へば我國に於ける器械製絲業、紡績業、織布業の產業革命は、それ等の產業の「職工」を壓倒したのではなくて、（そうした職工の存在する段

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

階にまで未だ國民經濟は發達してゐなかつたから）農家其他の家庭から、手紡、織物等の仕事を奪つて了つたのであつた。茲に、後進國たる我國の「産業革命」の特色があると思ふ。

例へば我が國の一般家庭の仕事から、手紡（ハンドスピンニング）が消滅したのは大體に日清戰爭を劃期とし、同じく手機が消滅したのは大體に日露戰爭を劃期とする。その他、從來農家の副業として生産せられたる生絲製絲が工場の器械製絲に代りたる如き、同じく和紙が機械生産の洋紙に代りたる如き何れも、産業革命が主として農家の仕事を奪つたことを物語るものである。

斯くの如く、我が産業革命の壓迫は、專ら、農家其他の家庭の仕事の上に襲ひ來つた。されば、一體ならば、我が産業革命の結果、農家その他の生活は著しく困難となつた筈であつた。然るに、幸ひにも、此の産業革命と前後して、我が農家は生絲、茶等の輸出の激増に恵まれ、産業革命のため一方に失へるものを、直ちに他方に振替へることが出來た。又、それでも何ほ勞力に餘剩あれば、之を「女工」として工場に送る道が拓かれた。加ふるに、産業革命の打撃は右の如きわけで全國民の家庭の仕事の上に分散し、ために、その苦痛は比較的に輕微であつた。之れ、我が産業革命が國民經濟に云ふに足る混亂を起さすことなくして、極めて圓滑に進行し得た所以である。だが、この結果、我が農村經濟そのものゝ内容は、一大變革を蒙つたのであつた。

更に又、我が産業革命は、なる程、以上の如く、在來の職工を悲慘なる境遇に陷らしむると云ふが如き暗黑面は之を伴はず、寧ろ、國民の大多數により多くの仕事を供給したと云ふ光榮面のみが著しく作用したが、然らば、我が産業革命は、全然、その暗黑面を有せなかつたのかと云ふに、決してさうでは無かつた。其處には、少年工の濫用、女工の虐使等が「産業の發達のため」と云ふ名に於て公然と行はれ、その結果多くの若き人命が蝕まれるに委せられたと云ふ悲慘事を作つた。しかし、此の點については、已に與へられたる紙數を超過してゐるので、茲には之を省略するであらう。

聖書の人物　山室軍平著
神と人とに奉仕すべき同胞のために、聖書の人物五十二に就て説かれたもので、救世の熱意が溢れてゐる。（價一圓五十錢
東京・京橋・南紺屋町一二　實業ビル　救世軍出版部）

私は現代日本の風景を切る　野口米次郎著
「私は現代日本の風景を切る」「光悦の山姥」「芥川論」等の感想漫評廿餘篇を收む。著者の全容を窺ふに足る好著である。
（價一圓六十錢　東京牛込矢來　新潮社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

經濟時評

牧野輝智

英國の幣制改革

近着の倫敦電報は英國政府が同國多年の懸案たる貨幣制度問題を解決するために五月初旬其の改革案を英國議會に提出したと報じてゐる。英國に於ける多年の懸案たる幣制改革案といふのは歐洲大戰以來の變態制度たるカレンシー・ノート（政府紙幣）の問題を處理し、英國の通貨制度をノーマルの狀態に復歸せしめんとするのである。歐洲大戰前英國に流通する貨幣の大部分は金貨であつた。而して紙幣としては英蘭銀行の兌換券のみが流通してゐた。然るに歐洲大戰が突發するや、政府は市場流通の金貨を引上げ英蘭銀行の庫裡に集中せしむる方針を採り、金貨の代りとしてはカレンシー・ノートと稱する一磅及び半磅の政府紙幣を發行し、爾來此の紙幣が英國の通貨の重要部分を占め、大戰が終つても其の狀態に變りがないばかりか、一九二五年四月に金解禁を行ふても政府紙幣の問題は解決せられなかつた。是より曩きカンリフ委員會では政府紙幣を英蘭銀行券に統一することが、其問題解決の最上策であることを決議したけれども、英蘭銀行に合併するとなれば、保證發行の限度を何程に擴張す可きか。何時から實行す可きかといふやうな問題はそのまゝになつてゐた。

◇　◇

然るに此の問題の解決に就ては根本的に攻究す可き一つの重大問題があつた。それは英蘭銀行の發券制度其のものが果して時勢に適した制度であるかどうかと云ふ問題であつた。英蘭銀行の發券制度は學者の所謂固定的制限法であつて紙幣の發行には正貨の全額準備を本則とし、此の外に公債や商業手形類を保證として千九百七十五萬磅まで所謂保證發行をなすことを許され、それ以外には如何に財界が窮迫した場合でも、紙幣發行を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

許さないといふ制度である。然るに各國の發券制度を見ると一九一三年に米國が比例發行の制度を採用して、聯邦準備券（紙幣）の發行に對しては、四割の正貨を保有す可きものとすと定め、發券制度として頗る良好の成績を收めたため、歐洲大戰後幣制改革を行ふた國々は、墺地利、獨逸、ソビエツト露西亞等を始めとし、殆ど全部が比例發行法を採用した。

斯くの如く大戰後比例發行法が世界を擧げての流行となつたので英國でも前藏相で今ではミツツランド銀行の頭取たるマツケナー氏などは英國の新幣制としては、米國や獨逸のやうに、比例發行法を採用することが賢明であると力說してゐた。

◇　◇

併しながら是に對しては有力なる反對論もあつた。同じく英國五大銀行の一たるバークレー銀行の頭取たるグーテナウ氏などは英國の發券制度には其の發達の歷史と特殊の事情が存してゐる。是を無視して各國の制度に倣ふはよろしくないと稱してゐた。而して今回決定した幣制改革案たるものを見ると、グーテナウ氏等の意見が採用され、原則としては依然從來同樣の固定的制限法を維持してゐるが、時勢の必要に應ずるため、英蘭銀行の保證發行限度を著しく增加し、此の外に一種の限外發行方法を認め、財界窮迫の場合に應じ得るの道を講じてゐる。試みに英國の新幣制案の骨子を擧ぐれば左の如くである。

一、英蘭銀行は一磅及び十シルリングの銀行券を發行することを得、現在流通の政府紙幣は一定の日以後英蘭銀行券と看做され、之に對する義務と共に流通高に相當する引換準備を英蘭銀行へ移讓す
英蘭銀行は三ケ月前の豫告を以て右紙幣を新英蘭銀行券と引換ふることを得

二、英蘭銀行の保證準備發行限度を二億六千萬磅とす
保證準備として銀貨五百五十萬磅以內を保有することを得

三、必要ある場合には英蘭銀行の申請に基き大藏省は六ケ月を超へざる期間右保證發行限度の增額を認可することを得、該認可は更新することを得るも引續き二年以上に亘ることを得ず

四、英蘭銀行發行部の利益は費用を差引き每年國庫へ納付し、發行部は所謂税を負擔せず

五、金準備の集中の目的を以て一九二五年の金本位法第一條第一項有効期間中金貨若くは金地金一萬磅以上を所有するものは輸出若くは工業用に供するものゝ外英蘭銀行の要求により之を同行に賣却することを要す

◇　◇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

英國今回の幣制改革の第一の目的は大戰當時設けた政府紙幣（カレンシー・ノート）を處理することであるから、法律の名稱も「政府紙幣と英蘭銀行券統一に關する政府紙幣及び銀行券法」と稱してゐる。是は前に述べたカンリフ委員會の決議を採用して政府紙幣を英蘭銀行に合併し、通貨としての政府紙幣の短所に代ゆるに銀行券の長所を以てせる次第であるが、此の合併と同時に英蘭銀行の現行保證發行限度千九百七十五萬磅を一躍二億六千萬磅に增加した。斯くいふと非常な大擴張のやうであるが事實は寧ろ現狀維持である。といふのは現在の英國の保證發行は英蘭銀行券に對する保證發行の外に、カレンシー・ノートに對する保證發行がある。其の限度は前者が千九百七十五萬磅であるに對し、後者は二億四千四百九十二萬五千磅である。兩者の合計は二億六千四百六十餘萬圓であるから、此の現在の兩度を標準として、英蘭銀行券に政府紙幣を合併した後の保證發行限度を二億六千萬磅と決定した次第である。

次に新制度の特色は一種の限外發行を認めた點であるが、是は從來の制度が餘りに固定的であつて、屈伸力がないといふ非難に顧み、此の餘地を新定したものである。併しながら此の屈伸制度は我國や米國獨逸當りの方法とは趣を異にしてゐる。我國の發券制度では日銀の兌換券が正貨準備額に保證發行額（一億二千萬圓）を加へたる額を超過する場合には、限外發行稅と稱して五分以上の稅金を課することになつてゐる。又米國の聯邦準備制度獨逸の新發券制度では累進主義の課稅制度を採用し、限外發行が增加するに從つて累進的に發行稅率を增加することになつてゐる。斯の如く限外發行に對しては發行稅を課し其の濫發することが普通の方法であるが、英國の新制度では限外發行に對しては大藏大臣の認可を要すること、其期間は六ケ月以內とし更新した場合にも引續き二ケ年を超ゆるを得ざることの制限があるだけで、課稅上の制限はない。從つて此の規定のみを一見すると限外制度濫用の弊が起りはしないかと思はれるけれど、其の氣遣は斷じてない。と云ふのは新制度では英蘭銀行發券部の利益の全部を國庫に收めしむることにしてゐるからである。

◇　◇

今一つ新制度の特色は今後にありても金貨の一般市場流通を禁ずる爲め金貨又は金地金を一萬磅以上所有する者は、其の用途が對外決濟用又は工業用でない限り、英蘭銀行に之を賣却して紙幣と代ゆるの義務を有することである。是は一面に於ては金本位制なるものに對する思想の一變を表示するものであり、他面に於ては英國の金本位制は戰前の意義に於ける金本位制で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はなく、貨幣學者の所謂金塊本位制（ゴールド・ブリオン・スタンダード）であることを示すものである。戰前に於ける英國には一億二千三百萬磅の金貨が市場に流通してゐた。金貨の流通は通貨全體の七割以上を占め、是が英國の金貨本位制の誇りと考へてゐたのであるが、大戰中から大戰後にかけ正貨を中央銀行に集中し、市場にはカレンシー・ノートのみを流通せしめる經驗によりて、金貨を市場に流通せしむることは詰らない虚榮であつて經濟社會の實際に照して何等必要でないことを痛感せしめた。是が私が大戰後英國人の貨幣思想が一變したと稱した所以であるが、新制度に於て一萬磅以上の金貨金塊を有する者に對して英蘭銀行をして是を買取らしむるの權能を與へたのは、要するに間接の手段により金貨の內地市場流通を禁遏するの趣旨に外ならないのである。

英國にては今日まで發券制度の外形にありては全額準備制を採つてゐたけれど大戰後紙幣の流通が激增してゐたため、紙幣と正貨との實際の比率は著しく低下してゐた。五月上旬に於て紙幣流通總額と正貨準備との比率は一〇〇對三八である。新制度に於ては今後も依然全額準備を本則としてはゐるけれども、英蘭銀行の保證發行限度が二億六千萬磅に擴張されたゝめ政府紙幣が英蘭銀行券に統一されて後の銀行券と正貨との比率は大體現在の比率（一〇〇對三八）と類似してゐることゝ想像されるが、さうだとすると表面全額準備制度を支持しても實際の比率は米國や獨逸の比例發行法の正貨率たる四〇%の規定よりも更に幾分低下する譯である。私は是を目して英國の兌換制が危いといふのではない。事實に於てはマッケナー等が提唱した比例發行法の採用と同樣の結果であることを知るために此の點に言及したまでである。

◇　◇

最後は英國の幣制改革に關聯して我國の幣制問題を考察して見ると、我國にも中央銀行の發券制度改正問題は數年前來の懸案である。其の內でも最も具體的に論議された問題は保證準備擴張の問題と日銀利益金國庫納付の問題である。我國現行の保證限度一億二千萬圓は今から二十數年前に決定されたものである。是を擴張せよといふ意見は道理ある主張であるけれども、一方に金の輸出を禁止したまゝ保證擴張を行ふのは通貨を不自然に膨脹せしむるもので、是は通貨政策の順序を誤つた議論である。英國にては一九二五年四月に金解禁を行ひ、爾來今日までの經驗を基礎として保證限度二億六千萬磅（貨幣にて二十六億圓）といふ額を決定したのである。我國にても保證擴張を行ふとすればそれは金解禁後又は金解禁と同時に行ふ可きもので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あるが、それよりも更に根本問題として我國の發券制度そのものが、果して今日の時勢に適するものであるか否かは十分攻究す可き問題である。

世界の各國が發券制度として擧つて比例發行法を採用し、英國の新發券制度に於ても外形は兎も角、事實は比例發行と同一程度の正貨準備に過ぎないことは、比例準備制に十分なる合理的根據が存するからである。私は茲に此の點を論究する餘白を有しないが、要するに比例發行法は單なる一種の流行ではない。是に十分の學理的及び政策的根據があるのである。米國は世界一の金貨國である。而かも聯邦準備制の要求する正貨準備は紙幣發行高の四〇%であつて、是以上は準備として必要はないとしてゐる。我國では全額準備を本則として昨今の日銀帳尻を見ても兌換券發行高十一億八千五百萬圓に對して十億六千二百萬圓の正貨を保有してゐる（五月九日帳尻）。正貨準備率が九〇%に相當してゐる。斯の如く高率の正貨準備を有してゐる國は他にない。而かも是は發券制度に於て强制してゐるやうなものである。私は正貨準備率の高いのを惡いといふのではない。國が富み正貨が横溢して其の保有率が高いのは大に喜ぶ可きことである（例へば今日の米國のやうに）。然しながら金輸出禁止を長く繼續して不自然なる正貨保有率を有することは果して誇る可きことであらうか。又英國が事實に於ては米國獨逸等以下の比例準備率以下でありながら外形のみ全額準備制を繼續することは果して合理的の處置であつたであらうか。

◇　◇

英國の貨幣政策には事實を正面から表示せず婉曲なる手段により實行せんとする例が屢々看取せられる。歐洲大戰起るや事實に於ては兌換を停止しながら制度の外形では金兌換を繼續する如く粧ふたなども其一例であるが、今回の幣制改革にもそれが現はれてゐる。英國今日の正貨事情にて全額準備の本則を支持することは不合理の虚榮である。マツケナー等が提唱した通り比例準備制を採用し、之を今日の英國の正貨事情に適合せしめたことが合理的の改正であつたらうにと私は考へてゐる。斯の如き各國の事情をも參考とし、私は金解禁後の我國の新幣制に就ては單に保證發行擴張の問題でなく、根本に遡つて我國の發券制度の根本方針に就ても十分攻究する必要がある。又日銀の納付金問題は我國でも多年の問題であるが、英國では今回一種の限外發行制を認めたのと同時に英蘭銀行發行部の利益金は總べて國庫に納付せしむることゝした。是は發券銀行の特權と其の公益性に顧みて當然のことゝ思ふ。我國に於ても此の點は十分に考慮す可きことである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會時評

特別議會の戰跡を眺めて

吉野作造

はしがき…今次議會の政爭に關して起れる二三の問題…尾崎氏の態度を遺憾とす…我國政界弊根の由來…之が救治の方策…最近の政爭に於ける少數派の使命

今度の議會は、尾崎行雄氏の言ひ草ではないが、純然たる政權爭奪の修羅場であつた。國利民福を全然念頭に置かず只管政權を取らう遁るまいとする醜い亂鬪の場面であつた。此間に處しせめても無產黨や中立諸團體だけはその形勝の地位を巧に利用して朝野二大黨を牽制し些でも政治を明るい方面に引ツ張つて吳れるかと期待したのに、之さへ十分に徹底しなかつたのは、返す〲も遺憾であつた。私は例に依り、我國政界のより良き發達を冀ふ立場から、今次の議會を如何に觀るかを少しばかり語つて見ようと思ふ。

先づ私は今度の政權爭奪に關聯して起つた二三の問題につき私の正しいと信ずる見解を述べて置かう。

(一) 總選擧の結果依然として絕對多數を占むるもののなき場合には、從來の內閣をして直に其地位を拋たしむべき理由はない。從來の內閣を支持する政黨が第一黨たる場合は勿論だが、第二黨第三黨であつても同じ事だ。但し政府が新議會を切拔け得る見込立たずとして自發的に辭職するは妨げない。

(二) 絕對多數を占むるもののなき爲に居据ることとなつた在來の政府は、新議會の開會に先立ち、新に友黨を求むることに依て機械的に絕對多數の支持を作るに努力すべきである。何となれば彼は政界の安定と云ふ事に付ては第一次の責任者だからである。但し之を爲すに當り公明を缺く運動に出づべからざるは勿論だ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(三) 在來の政府が右に謂ふ所の絶對多數の聯繫を作るに成功しなかつたなら、彼は最早依然として其地位に占據する權利はない。但しさうかと云つて直に辭職せねばならぬか否かは自ら別問題である。

(四) 政府側の聯繫の成功しなかつた場合は、概して云ふに野黨側の聯繫の成立した場合なるを常とする。現内閣に反對なる諸黨の結束が成りそが既に絶對多數を占むるの形勢明白となつた場合には、之を機會に在來内閣の退かざるべからざるは云ふまでもない。

(五) 野黨側に有力なる聯繫のない以上、在來の政府に仍然として其地位を固守する積極的の根據はないが、他に自分に代るべき有力なる權利者なきの已むを得ざる結果として、暫く其地位に留ることを許さるる。この意味に於て今日の田中内閣の存立は、その内面に幾多の缺陷を包藏するに拘らず、形式上必しも不可解な現像ではない。

(六) 今度の樣な場合絶對多數の聯繫を作るか否か又作るなら何の方面に作るかは、一にかゝりて少數中立諸團體の向背にある。而して斯の如きは固より彼等の自由に委されて居る所だけれども、實際政治の論理は、議會政治協動の精神よりして、各々その觀る所に依り小異をすてて大同に就き、朝野兩大黨の孰れかに提携すべきことを要求する。中立が恒に必ず中立で終始するは決して好ましい現象ではない。

(七) 併し比較的純潔なる今次の中立諸團體の代議士諸君の眼に、既成大政黨の醜惡さが兩つ乍ら到底安じて提携するに堪へざるものと映じたのは亦無理もない。政友會と結ぶべかりし明政會が武藤山治氏程の猪勇を缺いたの無論のこと、革新無産の諸派があれ以上民政黨との腐れ緣を深からしめなかつたにも大に同情すべき點はある。從つて私は今度を特別の場合と觀て、中立諸團體が全體として（部分的の問題に付ては姑く措く）始から終まで中立を一貫したことを諒とするものである。

(八) 但し中立が中立で終始すれば政界の形勢は混沌として定まらない。その結果自ら其處に醜惡なる暗中策動の行はるるは避け難い。而して之は一面に於て中立諸團體の責任といふべきである。然らば中立諸團體は、暫く中立として一貫するを許さるるの代償として、他面這般醜惡なる策動の横行を阻止する義務を免るることが出來ない。今度の場合この點に何の遺憾もなかつたかが、私共に取て大なる問題である。

(九) 前にも述べた如く、政友會も民政黨も共に絶對多數を組成するに成功しなかつた。たゞ政友會内閣が擧國一致的の不

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

評判なるに乘じて、民政黨は頻りに一時的でも過半數の頭數を揃へて政府打倒の目的を達せんと焦つた。總括的不信任案が通過して政府の總辭職を見れば、民政黨の直に之に代るべきは云ふまでもない。故にこの運動を目して民政黨の利己的動機に出づると爲し以て強き反對の意志を表明せる尾崎行雄氏の立場にも一應の理窟はある。斯くして野黨側の足並は揃はなかつた。之に乘じて政府はまた猛烈な裏面の潜運動を敢行して敵の目算を崩すべく力めた。之が爲に政界が如何に陰慘な空氣に充ち、さらでも芳ばしからぬ將來への進展をどれだけ停頓せしめたか分らない。之に就き中立諸團體は果してよく道徳的責任を感ぜずして安如たるを得るだらうか。

(十)中立諸團體と云つても、無産黨と革新俱樂部とには大した文句はない。問題となるのは明政會だ。迷妄爲す所を知らずしてあんな態度を執つたのなら、吾人は姑く其愚を恕する。一ト通りの頭があつて計劃的にやつた事とすれば、私は飽くまで其非を咎めずには居れない。

(十一)第一に内相彈劾と總括的不信任とを別個のものとしたのが怪しからぬ。重大な政治上の責任で内相が彈劾され、而もそれが内閣全體の進退に關係なしとは、一體立憲政治のどの理論で許されることか。之は重大な犯行ある貴族紳士が隱居を條件として投獄を赦さるると同樣、我々平民の平凡なる頭には全然了解の出來ぬ思想である。是れ私がこの小細工の動機を忖度して大に明政會の不純を憎む所以である。

(十二)總括的不信任に反對なら内相彈劾にも反對すべきであり、内相彈劾に參加した以上總括的不信任に贊成を躊躇すべき理由は毫末もない。併し之は私共の理論である。政界策士の小刀細工で之が早くから別個のものと觀念された以上、政府が内相を引ツ込めて平然たり・而して密に總括的不信任の不成功に賴んで安如たりしも怪むに足らぬ。

(十三)ついでに尾崎氏の態度に付て一言したい。内相彈劾と總括的不信任とを別個のものとする氏の立場を遺憾とするは茲に再び繰り返さぬが、氏が政權爭奪の渦中に投ずるを潔とせずして、田中内閣の存立を許すべきや否やの當面の大問題に對し全く超然的態度を取られたのは、國民の爲に極めて不親切なるの誹を免れず、且つ政治家としての氏の永き經歴と深き識見とに應はしからざる過失と謂はざるを得ない。この事はまた別の項に於て述べる。

(十四)今度の政爭の眞最中、假令總括的不信任の上程を見ても反對黨側の多數が如何にして作られしかを思ひ且つ之と與黨側との差が僅々數票に過ぎざるを見ては必しも政府に於て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其地位を捨てるの必要はないとの說があつた。不信任案が通過しても辭職しないと云ふのではないが、之を以て再解散の根據たらしめんとするものであつたらしい。實現もしなかつた事だから別段批評する必要もない樣だが、唯朝野兩黨の數の差が少いと云ふ點を輕く觀るの考は、決して立憲政治の運用に許されざる思想なることを注意しておきたい。勿論兩派の差が大きいと云ふことは重要なことであり、その反對に差の少いと云ふことは、詰り國民の意思は大體どッちでも可いと云ふ意味なのだから、之に基いて政權の移動を決する事は一見早計の樣である。が、立憲政治は元來國民の良心を一人でも多く味方とし得たものを政權運用の衝に當らしむるの制度で、依て以て一人でも多くの味方を作ればそれ丈けで政權を握り得ると云ふを樂しみに各黨各派をして眞面目な努力を競はしめんことを期するものである。一人でも多い方が常に必ず正しいと云ふのではない、一人でも多くの味方を得た方に團扇を揚げると云ふ制度そのものが適任者を見出し得る最良の方法だとするのである。從て差數の多い少いは、制度の正しい運用に依て目標とする好果をもたらさしむる上には、甲乙がないのである。斯く考へれば、政府が別にまた觀る所があつて再解散を決行するのは格別として、單に兩派の差の少いことに藉口してもう一遍民意を問うて見ようと云ふのは、實は許し難い憲政の攪亂であつたのだ。

政友會も民政黨も共に國利民福を放擲して只管政權の爭奪に沒頭し內幕公然幾多の醜陋をさらけ出した。此事を憎むの點に於て、私は決して尾崎行雄氏に劣るものではない。併し乍ら斯の如き我國政界の弊竇は、尾崎氏の樣な態度を執ることに依て救治することが出來るものかどうか。好きでもない酒を初めて飲んで醉餘甲と乙とが喧嘩をしたと云ふのなら、酒をやめぬ間は相手にならぬぞと嚴しく双方を叱つて必しも善導の效を奏せぬと限らない。が、多年の酒癖で慢性の中毒となり良心のいささか麻痺して愚にも付かぬ醜態を演ずる者共に向つて、今更飲酒の害を說いたとて何になる。到底度すべからずとして匙を投げるのなら可い。否らずして自らも甘んじて其の中に居り彼等と共に一定の任務を果さんと期する以上、如何にかして彼等に依て煩はさるる損害を最少限に阻止し、忍んで彼等を鞭撻し又は巧に彼等の目前の需要を利導して些でも國利民福に貢獻せしむるの實際的方法に腐心するは、明敏なる政治家の怠る可からざる所ではないか。尾崎氏の樣な主張は、街頭に獅子吼する政治教育の立言としては誠に有益だ。併し實際政治の見地からす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れば、結果に於て既成政黨に勝手放題の事を爲さしむるにひとしく、議會政治の實效に對する國民の期待は之に依て一毫の光明も與へられない。私は必しも同氏の至誠を疑ふものではないが、或は民政黨に對する從來の反感が識らず／＼氏の偏理の性癖を唆つて玆處に到らしめたものでないかと想像せざるを得ぬ。私は平素氏を尊敬することが大なるだけ、今次の行動に對して遺憾を感ずることも亦甚だ大である。

私は先きに既成政黨の徒らに政權爭奪に沒頭するを目して浸性的の中毒症狀だと云つた。之を政黨幹部の一時の出來心に根源するものと觀てはいけない。見よ、個人としては實に尊敬に値する人も、足一たび黨界に踏み入らん乎、忽ち有象無象の間に伍してまるで別人の觀を呈するではないか。病根の由來する所深くして一人の力を以てしては到底如何とも爲し難いのである。故に私は曰ふ、尾崎氏の樣に叱りツ放しでは何にもならぬと。實際政治は一つの技術だ。固より全然理論を離るることを許さざるも、名醫は理論に拘泥せず、巧に患者の習性を利用して事實の上に新しい傾向に轉ぜざるを得ざらしむるとやら。尾崎氏程の苦勞人にこの機轉を缺くのは、私に取て返す／＼も遺憾を禁じ得ざる所である。

一體何處の國でも、專制政治の舊態を脫して立憲政治の完成を見るまでには必ず斯うした好もしからざる時期を經驗するものだ。蓋し立憲政治の完成は云ふまでもなく一朝一夕の事ではない。今之を我國の例に徵するに、我々の父祖は封建專制の古き衣をば明治の維新と共に勇ましくかなぐり棄てたのだ。併し之に代るべき恰好の新衣は直ぐ我々に與へられたりしや。成る程萬機公論の新衣を着けることに方針だけは間もなくきまつたが、何が萬機公論やら未經驗の青年政治家達にはなか／＼能く呑み込めなかつた。やつと之が分つて、扨て誂ひ通りに仕立てが出來上つても、どうもそれが身軀にしツくりと合はない。初めは仕立てが惡いのだらうと思つたが（勿論それもある）、段々反省して見ると、自分の軀體が實は永年の習慣の結果古い衣に合ふ樣に出來上つて居たことに氣がつく。衣物も直さねばならぬが、軀體も之からの新しい經驗に依て漸次別個の習性に移る樣にせねばならぬことになる。一朝一夕の事に非ずと云ふ所以である。我國の立憲政治も明治二十二年の憲法發布で完成したのではない、之が理想的に運用さるるまでには今後なほ幾年の歲月を要するか分らない。憲政の理想的の姿を說くは理論家の仕事として我々も亦大に之に傾聽するが、實際政治家の立場としては、多年の習性が理想の其儘の實現を碍ぐるものなるの事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實を正視して、その兩者の相待ち相制する關係を適當に顧慮する所なくてはなるまい。

以上の點を一層明白にする爲に、私は次に我國近代政界の發達の順序を箇條書きに略述して見ようと思ふ。

(一)專制政治の根柢は、人爲的に固定した權威を作り、一方之を中心的權威たるに適する樣教養することを努むると共に(その反面に於て服從階級に高等の教養を故らに許さざるは云ふまでもない)、他方一般の庶民階級に向ては前者に對する絶對服從を命じ、斯うした機械的構成のうちに社會統制の根源を据ゑることに存する。之に反して立憲政治は、社會統制の根源たるべき中心權威を必要とする點は專制政治と異る所なきも、之を人爲的に固定せず、社會生活の交錯の間に自然に現はるる精神的優越の歸着する所に之を求めるのである。之を平易に云へば、專制政治に在ては特定の階級を優者と豫定して之に絶對的服從を捧ぐべきを命ずるのだが、立憲政治に在ては本當に優者たるの實質を具ふる者を我々の中より探し出し暫く其者の統制に服さうと云ふのである。

(二)故を以て立憲政治に在つては、專制政治に於けるが如く、中心權威の歸着は常に必ずしも明白でない。機械的に固定してはいけないのだから、寧ろ中心權威の定め方も流動的たることを必要とする。從つて之に在ては、何を以て中心權威と認むべきやに付き別に特定の制度が設けられねばならぬことになる。最近まで代議制度が最も之に適する制度として普ねく許されて居た。昨今之に異議を挿む諸説も數々現はれたが、併し今の所未だ之に代るべき良法と普ねく認められるに至つたもののないことは明白である。

(三)代議制度は、社會を構成する各員が獨立人格者としての自覺に立ち自由に其良心の嚮ふ所を表示すると云ふを前提し、且つその人達の生活が有機的關係に結ばるる事の事實に鑑み、その構成各員の向背に由て中心權威の謬らざる歸着を認め得べしとする。理義頗る明白ではあるが、只その前提として立つる所がその通りにならないので、制度の實際的運用も動もすれば規道を外づれ勝になる。人々に初めから完全を期し難いのは勿論の事だが、その外猶ほ古い傳統に依て與へられた習性が識らず/\の間に我々の理性的行動を脱線さすべく有力に働くので困る。

(四)手ツ取り早く之を我國の近代史に徴するに、封建制度の餘勢は流石に從來の人爲的權威の恃むに足らざるを暴露した。從て之を倒さんとするの潮流は今更之を抑へ難く、爲に當年の討幕志士も此點では最も勇敢に活動することを得た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯くして彼等は德川政府の權威を倒すには成功した。けれども彼等は同時に銘々の藩に於ける人爲的權威をも倒すことに成功したか。西鄕木戶大久保の傑士といへども各々その藩公に對しては頭が上らなかつたと云ふではないか。

(五)併し當時の政治家は案外に利口であつた。自分の見識で天下を治むるに一々藩公の差出口を聽いては居れぬ。と云つて無下に之を斥けることも出來ぬので、彼等は「公議輿論」の障壁にかくれて之に對抗したのである。維新以來「公議輿論」を楯に取れば大抵の反對論は引ッ込んだものだ。固より當時の政治家達に「公議輿論」に關する本當の理解があつたのではない。故に彼等に利用せられることに依て「公議輿論」のまじめな發展が民間に起つて來ると、政治家達は漸くその意外な結果に周章狼狽することになる。之を要するに、我國に於ける民間政治思想の發達は、外にも固より種々の動因はあるが、一つには又政府要路の人達が夫れ〲の藩公に對して執つた窮餘の策略に促されたものなることも見逃してはならぬ。

(六)所謂維新の元勳は「公議輿論」を楯に藩侯連の容喙を封じたが、もと〲「公議輿論」の眞義を理解して居つたのではない。彼等の爲政者としての態度は依然として專制主義であつた。己を棄てて國に殉ずるの至誠はある、舊習に拘泥せず廣く世界の經驗を與り聽かんとする淸新の意氣組みもある。併し何と謂ても彼等の方針はせい〲善政主義の範圍を出でない。故に明治十四五年以後民間政治熱の勃興を見るや彼等は遲疑する所なく之を邪魔物視した。之に累せられては、針路を誤らず國政の舵を取て行くことは出來ぬ、之は何とかせねばならぬと云ふことになる。曾て彼等は封建時代に統をつぐ所の政治的障碍物をば「公議輿論」を以て片付けてしまつた。今新に興つた民間の障碍物に對しては將た何を以て當るべきであらうか。斯う云ふ必要に促されて出て來たものが即ち「國論一致」と云ふモットーであつた。

(七)封建時代に在ては、平民の分際を以て政治を論ずることは重き罪として嚴禁されて居た。爲政當局の定めた方針に對しては絕對に異議を許さなかつたのである。故に維新後萬機公論に決すると云ふ新方針が發布されても、世間一般の常識は、從來知らされなかつたお上の御趣旨が之からは一々公布されることになり、人民はその有り難き御趣旨を奉體して積極的にその徹底に協力すべきものと云ふ位に解してゐた。政府側でも當初は全く斯の意味で一生懸命民間の啓蒙開導に骨折つたのであつた。故に當年の新智識ですらが、官命を帶び

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て歐米に留學し、一國の大方針が政黨の分派に依て公然烈しく論爭さるるを見て吃驚したと云ふ話も、まんざら不思議ではない。維新回天の偉業に成功し自ら信ずることの厚き爲政者階級が、民間草莽の間に興りて敢然政府に反噬し來る者あるを見て、心中その不遜驁戾を憤つたのも無理はない。

(八)それにモ一つ幕末以來の傳統的對外思想がまた大に右の風潮を助けて居る。諸外國は我國の周圍に迫つて頻りに乘ずべきの隙をねらつて居る、兄弟内に相爭ふの秋ではないと云ふのである。國論を一にして外國の侵掠に當らうと云へば、少くとも一時は大抵の反對論を抑へ付け得たのだから面白い。斯うした考方が今日でも一部の有力なる政治家の間に行はれて居ることは、私の之れまで屢々説いた所でもある。

(九)斯くして明治十四五年頃から憲法發布前後にわたり、時の爲政者は國論を一途に出でしむるの必要に藉口して盛に民間の政論に彈壓を加へた。政治の大方針に關する國論は本來必しも一途に出づるを要せざるものであり、二つも三つもある意見をば國民の判斷にたゞして交互に行はれしめても一向差支はないのである。斯う云ふ立憲政治の意味は官民共に未だ十分に了解して居なかつた樣だ。從て民間の政客も、自家の政見を行はんが爲には官僚有司のたてこもる藩閥を倒すを先決の急務とした。斯くて官民の間には遂に超ゆべからざる溝渠を生ずることになつたのである。

(十)そこで本當の憲政が行はれるには、もう一段の準備を經ねばならぬのだが、我國の議會は實は之を經るに及ばずして、換言すれば官民反目の情況の下に開かれてしまつたのである。其處に堂々たる君子の爭の見られざるは怪むに足らず、上も下も、多數の力を以て無理にも我意を押し通さうとするは自然の勢だ。尤も初めは民間諸政黨の間の結束が不十分で、動もすれば藩閥に壓され勝であつたが、幾多の難關を切り抜けて、日清戰爭後になると、政黨の勢力も最早牢乎として抜くべからざるものになつた。政黨がこゝまで進歩する爲に、其間如何に多くの醜手段が行はれ又如何に盲目的な戰鬪心が不當に煽られたかは今更云ふまでもあるまい。今日の政黨が斯くして訓練されたものであり而して斯かる訓練の上に始めて強力なる結集となつたものであることは、現代政黨政治を論ずる者のまた忘るべからざる所である。

(十一)斯くして政界の爭は理窟抜きの力の押し合となつた。爭の當事者は其初め藩閥と政黨とであつた。藩閥は最初は政黨の如きは操縱も出來れば壓迫も利くものと高を括つた。實際意の如くならざるを見るに及んで、自ら身を其中に投じて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

操縦の效を完うせんとする者を生じた。伊藤博文は即ち其人である。世間では彼れの政友會組織を以て政黨政治主義に眼を開いたものと爲せども、眞相は恐くはさうではあるまい。私は所謂「一國論一致」の傳統的舊思想をこの新形式で實現せんと試みたものと今以て信じて居る。この同じ精神で動いたものに後に桂太郎がある。兩者共に政黨主義に改宗せるが如くにして其實徹頭徹尾專制主義者であり、而して自ら政黨總裁たるを甘んぜしは所謂武器を敵にかるの故智に學びしものに過ぎず、吾人はたゞ／＼其の老猾に驚歎するの外はないのである。

(十二) 伊藤や桂やの遣り方を藩閥官僚の全部が支持後援したのではない。大正の始めまで山縣を中心とする一大勢力は依然として政界の空氣を支配してゐた。併し何と謂つても時勢の要求には抗し難く、社會一般の進歩と共に民間政治思想の發達は非常な勢を以て進んで行く。明治三十年代藩閥の逆襲頗る猛なるに際して自由改進の二黨の一時提携したことはあるが、大體に於ては創立當初よりの行掛りに拘泥して容易に相結ばない。藩閥と戰ふ上に非常に損ではあつたが事情亦已むを得ないものがあつた。孰れにしても兩派の反目は藩閥の壽命を不當に長からしめたが、政友會の勢力に對抗すべく桂が舊改進黨系と結ぶに至て、兎も角も我國の政界は粗ぼ二大分野對立の形勢となり、藩閥官僚の徒は却てその利用せんとした政黨の勢力を助長したにとゞまり、自らは政界に於ける積極的立場を失つて漸次その一隅に退かねばならぬ運命となつた。彼等が獨自の力を以て内閣を組織したりしは最早三十年も昔の夢となつた。桂内閣の様に哀を政黨の軍門に乞うて僅に廟閣に上ると云ふことすらも今日は許されない。尤も彼等は全然無勢力となつたのではない。樞密院とか貴族院との制度の力に由て今日仍ほ充分の勢力を誇示する餘地はある。是れ伊東巳代治伯の如きが政友會と通じて僅に溜飲を下げて居る所以であらう。それにしても今や彼等の地位は全然消極的であり受動的である。政黨に利用さるべきものたるに過ぎずして、桂全盛の時代とは全く主客の位を顚倒した。何れ遠からず完全に政界から無視されるの日も來ずしてはやむまい。

(十三) 右述べた様な來歴を經て、今や我國の政界は政友會と民政黨との爭奪に委されて居る。明政會其他の泡沫政團は大勢の上に固より何の係はりもなく、無産黨の稍々看過し難き特性を具ふるものあるも、之れとても將來の問題であつて差當り實際の動きの上には重きを爲して居ぬ。斯くて問題となるのは政民の二大黨だが、この政黨は前述べた様な理由で、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力で押すことの外何等の戰法を知らざる團體である。否知らないのではない、この戰法を抛ては一日も存立を保つことの出來ぬ宿命を有つ團體なのである。

(十四) 國論を一途に出でしめて外侮をふせぐを急務とする。この口實で爲政者は盲從を人民に强いた。その聽かざるに及んで彈壓を敢行した。之れが眞に國家の爲めだと彼等は大まじめだつたのである。彈壓でも追ッ付かなくなつて、自ら身を政黨界に投じ、自家の聲望を以て更に政黨の勢力に加ふる所あらしめ、依て以て圓滿なる政策の遂行をはからんとした。斯うした數々の訓練を經て今日の政黨は數さへ集めればいゝと云ふ信條に立つことになつた。甲の政黨が之で行けば乙亦然らざるを得ざるは理の當然である。而して數を集める爲には凡ゆる手段を執て憚らざるも亦頗る睹易き道理である。

(十五) 何の爲めに數を集めるか、政權を乘取らんが爲めである。而して政權を握ることが亦實に數を集める爲めの最捷徑であることを看逃してはならぬ。數が多い結果として政權を取るのはいゝ。政權を取ればその結果として譯もなく多數を作り得るとなると、少數黨をして悪辣なる陰謀を以て多數黨を陥れることに興味と熱意とを有たしむる。然らざるも對立政黨をして政權爭奪の爲に無要の精力を浪費せしめずばやまない。是れ正に我國昨今の政情ではないか。斯の如きは眞に悲しむべきことだが、併し永年の痼疾であつて急に之を如何とも爲し難い。而して之を一片の說教を以て悛めしめ得べしと考ふるは、迂愚も亦甚しいと謂はねばならぬ。

之を救治するの法如何。繰返して云ふ如く單純な說教や一遍の叱責では駄目だ。爭鬪に熱中する者は宋襄の仁を寧ろ憎む。出來るなら宗旨を換へて、正しい方法を取らなければ肝腎の目的が達せられぬと云ふ樣な狀勢を作りたい、少くとも、從來のやうな遣り方では却て目的が達せられぬと云ふ狀勢になつて欲しい。正義の要求が丁度うまく彼等の利害と結びつくまでは、根のすはつた改善は到底期せられないのである。

この點に於て何よりも有効なのは政治教育である。これ多くの人の說く所、而も實績のなか〳〵擧らざることも周知の事實である。一寸話はそれるが、近頃圓本が馬鹿に流行する。爲に良書の刊行は頗る難かしくなつたと云ふ。圓本の中にも良い本もあらう、併し大多數は下らぬものであり、中には隨分ひどい粗悪本もあるとやら。而して之が出版界を風靡して居ると云ふ事實は、如何に一般民衆が輕佻なる宣傳に誤られ易いかを語る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものではないか。讀書階級ですら其頭腦を養ふべき書物の良否をまじめに選ばない。況んや一般大衆をや。圓本の流行は大體に於て文化の發達に害ありとする。併し書肆に向つて出版道德を力說したとて此惡風潮を抑へることは出來ぬ。政界も亦同じ事。民衆が黨人の宣傳誘惑に輕々しく乘る間は、到底その弊害は拭ひ去り得ないのである。そこで成績の容易にあがり難いに拘らず、政治教育が先決の急務であるとせられなければならない。選擧民さへしツかりして居れば、政治家はわけもなく自ら進んで在來の惡手段を封ずるだらう。語り本尾を責めず先づ讀書階級の目を開けと云ふ筆法だ。この意味に於て尾崎氏の近年の努力奮鬪は、眞に我々の感謝して措かざる所である。併し議會に於ける言論を大衆を相手とする地方の講演と同一視されてはまた甚だ困る。

我々と同じ立場で始めから既成政黨のやり方を敵として立つた無產黨議員の出現も、腐敗せる政界に向つて一片の淸涼劑たるは亦申すまでもない。彼等は無產大衆との密接なる人格的關係に支持せられ、代議士たらんが爲に特に力と金とを要するでなし、又政權に有りつかんが爲に時に操を賣らねばならぬ境遇にも居らぬ。出所進退を一に理義の命ずる所に托するを得る所から、格別偉い人達の揃つて居るでもないに拘らず、議場に於ては燦として異彩を放つて居つた。之が相當に他黨を顰むるの數あるは疑なく、この爲め丈けでも私共は彼等に同情し彼等を後援するに吝なるものではない。之と共にまた大にその自重を翼望せざるを得ぬのである。而して之と同じ樣な希望を私共が他の中立諸團體に對しても有つて居ることは勿論である。

以上は根本的の方策ではあるが差當り目に見ゆる效を奏するものではない。當目に附すべからざるは云ふまでもないが、併し之にのみ恃るは亦迂遠の譏を免れない。政治家は更にもツと卑近な所に直接の顯著な效果を擧ぐる底の機會を熱心に探さなければならぬ。進んで機會を作るは時に冒險たるを免れざらんも、折角舞ひ込んだ機會を見す〳〵逸し去る樣の事があつてもならぬ。斯う云ふ立場からしても私は今次の尾崎氏の態度を甚だ遺憾に思ふものである。

最近の政情はそんなら一體如何なる機會を私共に提供するものであつたか。之も分り易く私の見解を說く爲に個條書に述べて見る。

（一）政友會も民政黨も其數相衡き而も共に絕對多數にならない。其結果カスチング・ヴオートを握れる少數中立團體が完全に政局を左右する鍵を獨占することになつた。少數派に取

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て誠に責任の重大な所であるが又最も誘惑に陷り易い所でもある。

（二）既成政黨は、之等少數派の參加を得ずしてはその終局の目的たる政權爭奪に成功し得ぬ所から、如何なる代價を拂ても聯繫を結ばうと努むる。此際少數派に取ての第一の誘惑は、自家の政策の承認を條件として之に援助を約することである。苦しい丈けに何でも云ふ事を聽く、援ければ天下は彼の手に歸する、天下を取らして而して後我が多年の主張を容れさせよう。斯う考へて武藤山治氏はまんまと政友會の籠絡する所となつたが、政友會が益々其地位を確保して後果して實業同志會の政策を實行するや否や甚だ覺束なく、又政友會成立の由來に照しても之を期待するの空夢なるは極めて明白である。何にも增して斯かる援助の不都合なるは、二三政策の實行に安んじて既成政黨成立の根柢に存する根本的弊竇を看過することである。我々が既成政黨を呪ふのは單に個々の政策の實行を怠るからばかりではない。

（三）この點に於て、無產黨が政策協定の好餌を以て來れる既成政黨の一般的聯繫を悉く斥けたのは、最も賢明なる措置であつた。

（四）そんなら既成政黨の政權爭奪に全然超越した態度を取れる尾崎氏の態度をこそ模範的と云ふべきではないかと說く者があるかも知れぬ。彼等を助けることはわるい。が、それかとて彼等の爭ふが儘に放任するのは、全然彼等に反省の機會を與へず寧ろ益々在來の惡業を逞うせしむる結果になる。さうした適當の機會のないのなら致方もないが、あつて之を等閑に附すると云ふは、政治家としては恐らく曠職の罪を免れないだらうと考へる。

（五）我々は既成政黨を何等の意味に於ても助ける必要はないが、其の爲せる罪業を詰責するに就ては幾ら猛烈であつても構はない。之を責むるに當て若し重大なる結果を之に伴はしめ得るなら、其效果は一層廣大であらう。さうでもせねば、良心の萎へたる既成政黨を動して本當に其罪業を悔いしむることは出來ぬのである。この意味に於て、尾崎氏にして眞に我が憲政の發達に貢献せんとの志ありしならば、彼は何人にも先んじて內閣不信任案を主唱すべき筈であつた。

（六）尾崎氏は曰ふ、朝野兩黨の政權爭奪に參加したくはないと。內閣不信任案には目前に犯せる政府の罪業を糺彈すると云ふ獨自の道德的意義あることに氣が付かれないのか。氏また云ふ、民政黨が代り立つたとて矢張り同じ罪を犯すべきは過去の經歷に徵して明であると。之れ〳〵の罪を犯す者を許

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さぬぞと云ふ厳しい態度を示すことに依て將來を鑑戒するを得ば、それだけでも滿足すべきではないか。氏また曰ふ、同じ樣な罪を反對黨も曾て朝に在て犯したことがある、にも拘らず今ひとり政友會のみを糺彈するは不公平であると。此筆法で行けば、他日民政黨内閣が同じ罪を犯しても之を不問に附せなければならない。斯くして何の時か政界の廓正を期し得よう。

(七)過去の事はどうでもいゝ、目前に罪を犯せるものにどんどん厳格なる責罰を與へて行く。その責罰の効果が重大であれば重大である程、犯せる者は必ずや將來を愼むに相違ない。獨り政友會ばかりでない、代り立つべき民政黨と雖も、中立諸團體の態度が厳峻不動である限り、また必ずや同じ過誤を重ねてその反感を買はざらんことに心掛けるに違ない。少くとも中立諸團體は、既成政黨を誘導して斯く心掛けねばならぬ狀勢に到らしむることが出來たのである。換言すれば、既成政黨の利害をして巧に正義の要求と步調を合せしめ得る(少くとも傾向的に)好機會であつたのだ。果して然らば田中内閣の打倒と云ふことは我國憲政の發展上如何に必要の順序であつたかが分るであらう。國民の多數が、既成政黨の政權爭奪たる一面を萬々承知であり乍ら敢て此目標の到達に聲援した趣旨も全くこゝにある。

(八)この意味に於て、其間多少の曲折はあつたにしろ、無産黨議員諸君が終始一貫の態度に出でたことは、我々の深甚の敬意に値するものである。尾崎氏に對しては、必しもその責任を問ふとまでは云はないが、その立場の餘りに空理に偏して大局の進展を阻止されたことに多大の遺憾を禁じ得ぬ。明政會一派の變な態度に至ては土臺論外である。

大學に對する思想彈壓

前號にも述べた共産黨檢擧事件に關連して、其後各官立大學に對する政府の思想彈壓なる問題が一時朝野の耳目を聳動した。形式上は必ずしも政府の高壓的命令に出でたるに非るの外觀を裝ふも、その實當局の直接間接の獎勵に基いて色々の措置が各大學に於て取られたるの事實は、之を蔽ふことが出來ない。學生の組織する各種團體の解散も一應は問題となるが、就

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中教授の地位を文政當局の指令に依て動かせるの一事に至ては決して輕々に看過することは出來ぬ。最近起つた問題としては既にきまりのついた事柄に屬するも、同じ樣な事はこの先きも起らぬと限らぬから、六日の菖蒲の嫌はあるが、前號に云ひ洩らした二三の點をまた更めて論じて置かうと思ふ。

當局の官憲は特に檢擧せられた學生の學籍を調査し、最も多くの嫌疑者を出した學校に重大なる責任あるかの如き口吻を洩らして居る。その學校に一種の責任あることは私も認める。併し之から推して學生の思想はその學ぶ所の學校の教ふる所に依てのみ作らるると考ふるならば大なる誤りであらう。今日の學生が何に依てその思想を作るに至るかは、もツと精密に考慮して貰ひたい。

右の點をはツきり考へぬ人は、學生の危險思想の責任を直に教師に歸する。教師が間違つたことを教へぬ限り學生が不都合な考を懷く筈はないと云ふのである。樞密院や貴族院邊には斯う云ふ考に基いて頻りに大學教授の處分を論ずるものがあるさうだが、今日の大學教授中斯くして處分さるるに値するものありや否やは姑く別問題として、私は右の如き意見を聞く毎に、彼等が自分の昔の經驗に基いて今日の學生を判斷して居るのでないかを想ひ、思はず微苦笑を禁じ得ないのである。

ごく古いことをいへば、初期の大學は名稱は大げさだがその實小學の上級か中學の下級程度のものに過ぎなかつた。幼稚な頭で西洋人から新しい學問の講義をきく。一から十まで講授の内容を其儘金科玉條としたことは云ふまでもない。今の樞密院の人達などは皆此時代に教育された人なのである。モ少し後の時代になると、日本の教育機關も可なり整頓し大學の如きも漸く其の名稱に値するものに進みつゝあつたが、一般社會の學術の進歩がまだ甚だ低かつたので、矢張り教師の講義以外に學問を求むることは出來なかつた。現に私は明治三十七年に東京の帝大を卒業したが、その頃でも、先生の講義を筆記したノートの外に手輕に智識慾を滿足すべき參考書とてはなかつた。固より直接に原書を讀みこなす餘裕はない。僅に早稲田大學で出版した洋書の飜譯はあつたが、可なり杜撰で安心が出來ぬと云ふ有樣であつた。私の時代ですら斯の如しとせば、更に十餘年も前に大學を卒業した人達の狀態や思ひやるべしである。詰り彼等も亦教師の講授を金科玉條として鵜呑みにしたのである、否、鵜呑みにせざるを得なかつたのである。故に彼等が斯うした自分達の過去の經驗に基き、學生の思想は則ち教師の講授の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

正直なる體受なりと考ふるは無理もない。

併し斯く考ふるは餘りに今日の時勢を無視し又餘りに今日の學生を蔑視せるものである。年取つた人達は餘り書物を讀むまいから分らぬも無理はないが、最近に於ける我國學界の進歩は二十年三十年前に比し實に隔世の感がある。教育の普及と共に一つには高等遊民の殖へた爲でもあらうが、凡ゆる新舊の洋書はどん／＼彼等に依つて邦語に移さるる。之につれてまた獨立研究の發表も少くはない。勿論之を西洋の進歩に較べたなら未だ／＼云ふに足らぬのかも知れぬが、我國自身としては進歩の勢駸々乎として實に素晴らしいものがあると謂はねばならぬ。從て學生の氣風も亦自ら一變した。彼等の好學心は默つて居ても頗多な刺激を外界から受ける。周圍の狀況は教師の講授のみを學問の淵源とすることを最早彼等に許さぬのである。多讀亂讀は必しも正しい纒つた智識を青年に與へない。私共は寧ろ今日の青年學生がモ少し教師の系統的な講授に親まんことを冀ふて居る。それ程に今日の學生は實は外界の刺激に累され過ぎて居るのである。故に優れた學生の中には、教師の思想に承服せず相當の筋を立てて見事に抗論して來るのも少くはない。要するに今日の青年は、老先輩諸君の青年時代とは全く違つた氣持で全く違つた雰圍氣のうちに居る。青年學生の斯うした現狀を無視して彼等の思想傾向を云々するは、斷じて當面の急務を解く所以ではない。

學生の危險思想の責任を專ら教師の講授の內容に歸するの誤りは、更に處分さるべき不良教授の選定に於て一層大なる過誤を重ねた。罪人を玆處にあると豫定してかゝる下級の警官が無理に罪人を作る樣なものである。それに世間の頑迷者流が八釜しい。政府に對し相當に威力を有する方面でも此事を以て頻りに政府に迫つて來る。斯くして政府は之等の理由からしても何等かの處置に出づるを急がねばならぬことになる。如何の人を處分すべきかに付て愼重に攻究する遑がないのだ。この點に關し最も遺憾なのは、當の大學に意見を徴さなかつたことである。教師の思想に關する問題につき、大學そのものの意見に何等諮ることなくして輕々に處分するといふは、餘りにも無暴なる仕方だと思ふ。

玆についでを以て一寸大學教授の地位の自由と云ふ事につき一言したい。大學を特別の自治區域と認めたことは、西洋の昔の歷史に根據する一種の傳說にして、今日は最早何處の國でも文字通りに之を認めては居ない。たゞ實際の取扱上大學の如きは多分に自治を認めてやつた方が得策だと云ふ意味にこの言葉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の用ゐられることはある。併し法規上大學に限りて特に上司の監督の外に立つを許さるるのではない。從て大學教授も官吏としては矢張り文部省の支配を受け、相當の理由あれば休職もされ罷免もされるのである。そんなら大學教授は普通の學校教師と全然同一の地位に在るのかと云ふに、唯一つ相違がある。普通の學校教師はその教ふる事の內容に付ても文部省の監督を受ける。故に例へば督學官と云ふ樣なものを設けそれをして講授の內容を視察せしめ又その報告に基いて教師の進退をきめることも出來るのである。然るに大學になると、此處は學術の蘊奥を究める處だから、他にその攻究講授の內容を批判し得べきものはあり得ない。大學自身が相當の方法を以て其判定を下すのはいゝ、上司たる文部省と雖も研究講授の適不適を論ずるの資格は制度上から云つてもない。故に大學教授はその思想の內容に付て地位を動かさるることは絕對にない筈である。外の理由で動かさるる場合にも之を拒み得るのではない。研究と講授の內容に付て絕對に自由だと云ふまでである。この意味に於て而して只この意味のみに於て大學教授の地位は自由なのである。故に最近の事件に於けるが如く、若し政府當局が豫め大學の意見を徵することなくして教授の思想を勝手に批判し次いで其の處分を要求したとすれば、その形式の如何に拘らず、其が不法の處置であるのみならず又實に文政上の根本原則に違背するものたるは明白である。

大學に諮らないのはまだ恕する。政府は處分さるべき不良教授を選ぶに付て次の方面の意見を大に參考とした嫌はないか。若し少しでもその嫌ありしとせば、その選定の著しく杜撰なるも亦怪しむに足らぬのである。(1)元老級の老先輩　之等の人達は今より十餘年前デモクラシーを危險思想とした時代の世評を今なを記憶に留めて、それに基いた種々の進言を政府に向けると云ふことである。(2)頑迷な反動團體の傀儡たる政客の一團　貴族院邊に多い。それ丈け愚論たることの明白なるに拘らず頗る政府を拘束する力がある。之等の人達は共產黨が一二名大學から出たと聞いて大學全體を赤化したと觀たり、社會主義者が髮を長くしてゐると聞くと髮の長いものを社會主義者と獨斷する。共產主義も社會主義も無政府主義も民主主義も皆一緒にして、少し變つた氣を吐く者は悉く危險人物と觀るのだから堪らない。(3)檢事及警察　この兩者は職掌柄教師や學生の行動をよく調べる。その結果某の教授は如何なる學生（又はその團體）と接近して居るとか又は課外にどんな書物を講授して居るとかを詳細に報告する。その報告を冷靜に檢閱するをあやまると、誰れがどの學生を煽動したとか又誰れがどんな思想を鼓吹したと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かの謬見を作るに至るの恐れがある。必ずしも報告そのものが悪いとは云はないが、その報告の見方をあやまつて不當に某々教授を傷けた樣なとは全然なかつたらうか。(4)政黨員　政友會内部からの進言も直接間接に利いた樣に疑はれる。一體學者の立場は物事を理想的に觀るから實際政治家とは根本的に相容れぬ所がある。殊に日本の政黨などは最も手きびしい糺彈を學者から受ける立場に居る。この點は與黨たると野黨たるとを問はないのだが、政友會は幸か不幸か政權を取つて居つた期間が永い丈けに多分に學者の槍玉に擧げられる。政友會が特に惡いのではない、有力な政黨だけにさう云ふ運命を免れぬのである。孰れにしても右の如き理由で、今日政治經濟の時事問題を論ずる學者で一人として政友會に味方するものはない。否、その殆んどすべてが猛烈な批難を差向けてやまぬのである。是れ兩者の間に自ら感情の疏通を缺くに至りし眞因であるが、之れがまた過般の選擧に於て露骨に現れた。そこで學者の實際運動に關係するの不謹愼と云ふ論理をこゝにも當てはめて、無理に不良教授の中に之を包含したと云ふ風說がある。事の眞僞はよく分らぬが、ブラツク・リストに載つて居る人名の中で斷らでも解せねば到底その意味の分らぬ數名あることだけは疑ない。

要するに煙もない處に火を探す樣のものだ、强て之が火だと何物かを差出さねば責任は濟まぬので、手當り次第にそれらしいものを槍玉にあげる。選擇其當を得ざるも怪むに足らぬ。それに肝腎の聽くべき處には一言の相談もなく、却て聽くべからざる處の意向に多く動かされるのだから、遂に杜撰を通り越して飛んでもない亂暴なものとなつたのだ。水野文相の聰明早くこゝに氣付き實際の處分をその甚しきに到らしめなかつたのは勿怪の倖であつた

當局の處置斯の如く見當を外づれて居る以上、之に依て所期の目的の達せられぬは當然である。單にそれだけならいゝ。私は思ふ、却て之が當局の憂へた事態を益々煽揚するの結果になりはしないかと。何を以て之を云ふかと云ふに、(一)當局の處置は要點を外づれてゐる丈けに若い者の眼には單純な無用の彈壓と映じ益々その態度を硬化すべきを以てである。次に(二)所謂左傾教授の處分は青年學生の無思慮な盲動から制動機（ブレーキ）を撤する樣なものである。世間では所謂左傾教授を以て常に好んで學生を煽動し、學生と共に或は學生の陰にかくれて不都合な運動を指導して居ると見做す樣だが、是れ事の眞相を知らざるの甚しきものである。斯かる教授と一部の學生と大體の思想的傾向を同うすることはある。併し如何に經驗が淺くとも教授の默

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を奪する程のものは、一面青年學生の清新潑溂なる熱意に同調しつゝも他面必ず熱情に基く行動にも自ら一定の限界あるべきを能く心得て居る。故に彼等は多くの場合に於て輕々しく學生と事を共にしない。謂はば彼等は寧ろ學生の盲動に對し制動機の役目をつとめて居るのである。之をよくも辨へずして、彼等を擧げて一掃すべしと云ふのは、一體學生の盲動を何處まで深みに陷らせる積りなのか。眞に學生を善導しようと思ふならば、私はもつと〱所謂左傾教授を利用することが必要だと思ふ。

それも老先輩方が考ふる樣に今日の學生も一から十まで教授の講義を金科玉條とするのならいゝ。外部の刺戟を遠慮なく受けて若さにまかせて勝手な世界を展開させんと焦る。眞面目なだけ頭から之を抑へつける譯には行かないが、又一面に於て之を正しきに轉向せしむる爲には大に彼等と戰ふの必要を痛感せられる。所謂左傾教授はこの意味に於て從來烈しく青年學生と戰て來て居るのである。勿論彼等は青年のいゝ方面を大に助長しては居る。一面に助長の功をいたすを以てこそ、又他面よくその弊竇を矯正し得るのではないか。青年學生の熱情に動かさるる行動は到底抑壓を以て之を阻め得るものではない。若し茲に些でも彼等の盲動を制し之を善導するの効績を國家に捧げて居る者ありとせば、そは警察にあらず裁判官に非ず又斷じて文部省の役人にあらずして實に少數の所謂左傾教授に外ならない。私はこゝで左傾教授と目されて居る人の全部を辯護するのではない、個人々々に付てはまた別に論ずべき點もあらう。只大體論としては、所謂左傾教授の處分は正に制動機を徹して電車を坂の上から下走せしむるの類で、危險之よりも甚しきはないと思ふのである。

對支出兵

居留民保護の目的を以て出動した帝國軍隊は圖らず支那南軍の一部隊と衝突し、引いて遂に悲しむべき日支交戰の一大修羅場を展開せんとして居る。今では居留民などはそッち退けになり、出動した軍隊そのものの絕對安全を目標として戰線も相當廣汎なものになりそうだ。一旦拔いた刀は納める樣にして納めて貰はねばならず、必要があれば國力を擧げても帝國の利益と名譽の爲に戰ひ續けるを辭せないが、さるにしても斯んな事のために直接多大の犧牲を拂ふ在外幾萬の將卒に對しては、我々國

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

民として實に何の言葉を以て感謝すべきかを知らぬ。戰爭に確然たる名義がないからとて、異域に心身を勞する正直なる兵士の至誠を粗略に考へてはいけない。

いづれにしても今度の樣な形で支那と戰ふは我國に取て一大不祥事である。直接の責任の何方にあるにしろ、之に依て双方の蒙むる有形無形の損失は測るべからざるものであり、殊に我國に於て、現在は固より、その東洋に於ける將來の立場を思ふとき、眞に寒心に堪へざるものがある。(一)第一我々には今日支那を敵とし戰はねばならぬ何等の理由もないのだ。否、寧ろ支那との敵對は如何なる形のものでも此際出來るだけ之を避くべき必要があるのだ。何を以て斯く云ふやは今更說くまでもなからうから略するが、此點から觀ても今次事變の不祥事たる所以は分らう。(二)それに今次の戰域は今後可なり擴大する恐れがある。彼れから挑まれて已むを得ず起つた事だとしても、現に見るが如く殆んど南軍の全部が極度の反感を我に示すの形勢なるが故に、自家の防衞と云ふことがなかなか容易の業ではないと思ふ。青島より濟南にかけての山東一帶の保障占領ですむかどうかすら判明せぬ。而してこの戰域の擴大はまた同時にそれだけ支那國民の反感を一層深からしむべきを以て、我々としては一刻も油斷は出來ぬのである。斯くて相對峙する兩者をして益々強く反目せしむるの結果となるは、日支兩國の和平を念とする我々の果してよく忍び得る所だらうか。

之等の事情は、ひそかに恐る、多數の國民をして對支軍事行動の上に餘り熱意を有たしめぬ結果にならぬだらうか。併しそれはこの軍事行動の原因たる政治的動機に對する疑問に出づるものであつて、之を移して出征將士に對する國民的冷淡を是認するやうのことあつてはならぬ。出征の將卒は出兵すべきや否やの政治的決定には全然與つてない。その決定の結果に基いて忠實に其の爲すべき務を果して居るのみである。之に對つて滿腔の感謝を捧ぐるは我國民の當然の義務ではないか。ことに動もすれば國民の同情の薄らぐの恐れあるだけ、それだけ我々は今次の出征將卒には格別多大の同情を寄すべき必要を認むるものである。

出征將卒に對する同情感謝の問題と出兵の是非に關する政治的批判若くは責任の問題とは自ら別だ。出兵の必要なかつたとしても、今更中途で引揚げろなどとは云はぬ。たゞ群議を排して出兵を決行したに就ては、政府に於て負ふべき當然の責任があり、この責任は出征の成功不成功とは關係なしに永久に殘るのである。國家百年の大計としては寧ろ此方が重大問題だ。戰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

争の物々しさに眩惑してこの重大なる政治的責任を等閑に附してはいけない。

山東出兵に關して論ぜらるべき政府の責任問題には、大要次の四方面がある様に思ふ。

（一）支那に對する日本の正義の問題として先づ考へて見る。日本の山東出兵が事實に於て彼國南北兩軍の内爭に對する一大支障たるは疑ない。日本の正義は之に對して如何なる態度を執るべきであるか。幸にして南方を援助せよとの議論はないが、間接に北方を助くる結果になることに對しては世論案外に寛大である。併し北方が成功して南方の失敗することが事實我國の利益になると假定しても、公然北方と同盟でも結ぶに非る限り、名義を他に藉りて屢々南方の進路を遮るのは、普通の場合に於て許さるべきことでない。茲に普通の場合といふは、特別重大の理由あればまた別だといふ意味である。

（二）そこで特別重大の理由とは何かと云ふ問題になる。漠然たる言ひ方だが、日本帝國の生存發達に直接の關係ある重大な理由があれば、支那側に向つて暫く隱忍して貰はうと云ふに必しも無理はない。たゞ吳々も考へねばならぬは、場所は彼國領土の中原であり、而も彼等は國家的甦生の爲め決死の奮爭を進めて居る最中だと云ふことである。斯う云ふ諸般の事情を併せ考ふる時、單純なる「居留民保護」と云ふだけの理由で彼國人を十分納得せしめることが出來るだらうか。この問題に付ては、昨年の山東出兵の際本誌上に述べた（七月及び八月號本誌時評欄參照）と同じ意見を今以て正しいと信じて居る。要は可なり大きな苦痛ではあるが出來る丈け早く居留民を引き揚げしめて支那の人達の邪魔にならぬ様にせよと云ふに歸する。

（三）姑く國際的正義の問題を別として單純なる利害打算の觀點から論ずるも、山東の一角に在留する同胞の利害は斯れ程までの大犧牲を拂ふに値するものだらうか。私は必ずしも之等同胞の利害を全然無視せよとは云はない。支那の內紛に干渉するの事實を生ぜざらしむる爲め一時引き揚げたらよからうと思ふのである。或は云ふ、折角安住して居るものを引き揚げさせるのは可愛相だと。併しこの結果として起つた排日騷ぎの爲め南部支那ではもツと多數の同胞が這々の態で引揚げを餘儀なくされて居るのではないか。又云ふ、引き揚げに依て失ふ所の損失は大きいと。併し出兵を繰り返し不本意な戰鬪に貴き血を流すことの損失はその幾層倍になるか分らない。之を要するに今次の戰ひは我が日本帝國の喜んで爲す所でないは勿論のこと、且つ居留民をさへ引き「揚げれば當然避くることを得たものである。この意味で事前に出兵反對の聲は可なり民間にも強かつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。一旦出兵を決行した以上、我々國民は行くところまで行つて最終の效果を收むべきを主張するけれども、更に遡つて現政府が結果の始めから豫見すべかりしに拘らず群議を排して何故に出兵を決行せしやに就ては、飽くまでその政治上の責任を追究するの必要を見るものである。

（四）結果の豫見すべかりしと云ふ事に就ては或は一應の異見を挿む人があるかも知れぬ。他國の兵隊同志が顏を合はしたからとて必しも喧嘩するとは限らない。我が軍隊の派遣はもと／＼單純な居留民保護を目的とするものに過ぎず、彼國軍隊の行動を妨げる意思は毫頭ない、双方誠意を以て忠實に各々の立場を守る限り衝突を見る心配は全然ない筈であると。併し之は白々しい屁理窟に過ぎぬ。形式的な國際裁判の席上ですら昨今斯んな抗辯は流行せぬが、政治家が政策決定の理由を論ずるが如き場合に斯んな愚論は斷じて許されぬ。況んや種々の情勢は一般民間よりも政府當局の方が一層斯うした不祥事の發生を豫見すべかりしを語るに於てをや。その證如何と云ふに、（一）第一今日の支那が理由の如何に拘らず日本の出兵と云ふ事に極度の反感を有することは、少しく彼我の形勢に注意する者の何人も知悉する所でなくてはならぬ。（二）加之これまでの出兵が北軍を援助して南軍の目的を見事に失敗せしめた事實に鑑み、同じ事を繰り返すことは如何に南方側の神經をいらだゝせるかも十二分に打算してあるべき筈だ。田中内閣が支那北方軍閥と特殊の關係に在りとする支那の邪推は一笑に附すべしとするも、我が出兵を彼等が如何に苦痛とせしかは、今日まで唯この事の了解の爲め幾度彼方の密使を迎へたかを省みれば分る。斯う云ふ明白なる形勢を前にして斷然出兵したとすれば、政府に於てまた深く期する所ありたるの結果と觀なくてはならぬ。（三）更にもう一つ政府として必ず警戒すべかりしことは赤露系共産黨の活躍である。之に就ては先頃の南京事件で彼我共に苦い經驗を嘗めた。支那側も之には深甚の注意を拂つたらう。併し我國としては之に安心して平穩無事を推定するわけには行かぬ。現に赤露系共産派の魔手は如何の決心を以て常に東洋諸國に事を起さんとして居るかは、過般の共産黨事件でも明白過ぎる程見せつけられた筈である。詰り共産黨の本部では世界各國に於ける同派勢力の打算をあやまり、何處の國でも階級反感の機運は餘程熟したものと觀て居る。日本などでも最早秘密に運動するの必要はない、假面を脱いで表に顯れた方が却て多數の味方を傘下に集め革命の目的を達するに便宜だと考へて居る。此意味の指令に基いて遂に馬脚を顯したのが最近共産黨員の檢擧を見るに至つた一因ではないか。之と同じ赤露本部の誤算は、國際間に戰

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爭が起れば各國の無産階級は必ず之に反對の運動を起し、國と國との戰よりも各國内部の階級戰の方が大きくなる、斯くして革命の成功すべき機會を作る爲め、國と國との爭は出來るだけ之を激發した方がいゝと云ふ信念を抱かしむるに至つた。南京事件は斯かる指令に基いて起れることの明白なる今日、濟南出兵に際して全然この點を考慮の外に置いていゝと云ふ理窟はない。尤も濟南に於ける南軍一部隊の掠奪開始は共産系の使嗾に出でたと云ふ證據のあるのではない。私の知る支那の友人中には之を否定する人も多い。が、之は相當に豫想し得べき事であり、且つ今後紛亂の機會を利用して新に活躍を恣にせぬとも限らぬ。事實の如何は別問題としても、共産系の浸潤の相當に濃厚な支那の事だ、此處に出兵するに際して若し之等の點を毫も等閑に附したとすれば、それこそ重大な政治責任を辭することとは出來まいではないか。

出兵は是非とも成功さしたい。軍事行動は軍事行動としての完全な目的を達して貰はないと困る。之が爲に我々は凡ゆる犧牲を辭するものではない。殊に出征將卒には無限の感謝を表し之を慰安する爲に最善の方法を講じたいと思ふ。併し之と政府の政治的責任とは全然別問題だ。不快な比喩ではあるが、生れた兒が可愛いからとて親の私通を看過するわけには行かぬ。風教上の問題としては何處までも原因たる事實に遡るを要すると同じく、帝國百年の利害の上からは、田中内閣の政治的責任は飽くまで之を糺すの必要はある。而もこの必要は事件の進展と共に今後ますく重大さを加ふべきは言ふまでもない。

西洋哲學物語

デューラント著　村松正俊譯

本書は主要な哲學者の人物及學說を公平に紹介したもので、從來此種著作に向けられた難解の批難を裏切り何人にも判るよう平易に解明されたものである。而も卑俗なる通俗に墮せず立派に專門的著作としての價値を持つてゐる點。原書が出版以來一年足らずにして十萬以上を賣りつくした所以である。譯筆また懇切平明、哲學入門書として最も適切なものと信ずる。(價上下各一圓五十錢　東京小石川表町　アルス)

土にあえぐ

犬田卯著

土に生れて土に育つもの、土に生れて土に叛くもの、この過渡期に直面した農村の雰圍氣、青年男女の哀歡、そして、そこに捲き起された事件と灰色な彼等の生活とが、質實な筆で描き出されてゐる。(定價壹圓八拾錢・東京麹町區下六番町一〇・平凡社)

演劇評語

三宅周太郎著

著者の近業を蒐めた四百餘頁。現代歌舞伎劇に對する研究者若くは愛好家にとり好個の參考書であり案内記であり又史的記述である。(價二圓　東京牛込矢來　新潮社)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

特別議會と將來の政情

馬場恒吾

現内閣を組織してゐる田中首相及其閣僚は彼等自身では其やつてゐる事が何であるかを知らぬであらう。併し吾々は恐れる、彼等の行爲は、過去五十年に亘つて日本人が努力して築き上げて來た立憲政治に一つの區切りを付け、日本の政治的發展に方向轉換をなさしめるものではないかと。吾々は自由な明るい政治を持ち來す方法として、議會の發達に希望を繋いで來た。然るに普通選擧の實施を一段階として、現在の政府は反動政治の幕を切つて落した。明るい政治は暗い政治に方向轉換をした。吾々はこれより、最も陰欝にして危險なる、絶望的にして不愉快なる時代を經過せねばならぬかの豫感に襲はれてゐる。

新聞は田中首相に和製ムソリニと云ふ綽名を付けた。併し田中首相がムソリニのやうに徹底的な議會否認政治を行ふと云ふ決心を有つてゐない事は明かだ。彼れの思想は講談本的であつても、哲學的ではない。またそれほど惡魔的でもない。寧ろ稚氣滿々たる好々爺と云つたやうな人物である。それ故に彼れは政權を握つてゐたいと思ふ所の、政友會幹部の爲めに、自由に引き廻はされる。從つてどんな事をするか判らないと云ふ所の危險性を帶びる。尤も此政權に噛り付く主義には田中首相も責任がないではない。何となれば此政府は總選擧に六百萬圓も遣つた。其跡始末が付いてゐない。それ故に六百萬圓なければ辭職したくても辭職出來ない。誰れかゞ、六百萬圓持つて來て見れゝば、今直ぐにも辭職して見せると眞しやかに云ふ人がある。此全部が事實でなくとも、選擧に金を遣つた事丈けは確かだ。さうした事情もあるかと、私は半信半疑の状態に居るのである。

其事情は兎も角として、政府が此特別議會に對する唯一の方針は政權を手放さないと云ふ事であつた。其結果がムソリニの如く計畫的に反動政治を行ふ意志はなくして、ムソリニ以上の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

非立憲な行動に出るの已むなきに至つた。其指揮官としては、議會中に遂に辭職するの已むなきに到つた鈴木內相が適り役であつた。

特別議會を切り拔ける爲めには、政府は民政黨の提出し來るべき內閣不信任案を否決する策動に全力を注いだ。初めはそれは十名內外の差を以て否決する確信があると豪語してゐた。其口の下から、若し可決するならば議會を再解散すると云つて、否決の確信なき事を暴露してゐた。それは又再解散の宣傳も亦畢竟するに脅かしに過ぎないと云ふ疑を起さしめた。

議會の開かれる前は、政友會代議士二一九、民政黨二一八で、其差は一名であつた。議會が開かれて後、民政黨四名が脫黨し、其中金澤安之助、武藤七郎、佐藤質の三氏が政友會へ入黨し、福井甚三氏は政友系中立として殘つた。政友會では元田肇氏が議長に當選して黨籍を捨てた。結局議會での對陣は政友會二二一名、民政黨二一四名と云ふ數を示した。

衆議院定員四六六名に對し、欠員二名、安部磯雄氏の病氣欠席一名、議長一名殘り四六二名の過半數は二三二名である。故に過半數を制する爲めには十名內外を得なければならぬ、それが爲めに彼等の惡戰苦鬪があつた。

議員を變節せしむる爲めの作戰は惡辣を極めた。元より誰が何うしたかと云ふ事は、裁判に掛けても全部は判つきりしないであらうけれども、其大體の輪廓は歷史的記錄とする價値がある。或議員は六萬圓で約束が出來た。中に立つてゐるブローカーが一萬五千圓を持つて來て、其三千圓を手渡し、これは當座の小遣にしたまへ、一萬二千圓は周旋料として自分が貰ふと云つて懷に納めた。結局三千圓で身賣りをすると云ふ事になるが故に、其代議士は憤慨してそれでは矢張反對に回ると決心し、壯士五人に守られて或所へ潛伏してゐた。それを又買收側の壯士五十名が奪還して結局變節が實現された。

實業に關係してゐる代議士は大低經濟界の不景氣時代に痛手を負つてゐる、實業家の被選議員で、これに貸しのある連中が、此際自分等の云ふ通りに投票しなければ、貸した金を返へせ、返さなければ詐欺橫領で告訴する。若し其云ふ通りの政治行動をすれば、貸金は催促せず、其上に十萬圓位は融通しやうと出る。

或議員には先輩の實業家があつた。それが半身不隨になつて寢てゐる。一日それに呼ばれて行くと、自分が一生を傾倒した事業を活かす爲めに、君は政府の味方になつてくれ。餘命のない自分の最後の願ひだと云つた。其代議士は『あなたは政治には關係なさらぬ方がよい』と云つて斷はつたけれども、これが爲めに一時暗い氣持になつてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

奈良縣選出の稲井甚三氏は、政友會から十萬圓と參與官の椅子を以て誘惑して來たと云つて居た。民政黨はそれを以て、政府の誘惑の魔手と稱して、政府攻撃の材料に使つた。政府は元よりさうした誘惑を試みた事はないと否認してゐた。然るに後に稲井甚三氏は民政黨を脱黨し、明政會に入會を申込んで拒絶され、結局政友系中立になつた。民政黨では、稲井氏が政友會からかう云ふ條件を出して來たと云つたとき、民政黨でも相當考慮せよと云ふ謎ではなかつたかと、今頃漸く目が醒めつゝある。尤もかうした事に關して血の廻りの遲いと云ふ事は、必ずしも政黨の不名譽ではない。

かうした話しは限りなく聞く。併しすべて潛航艇式の運動なるが故に其眞相を捕へる事は困難である。同時に誰れが政府から金を貰つたとの噂は、其人を政府側に付ける爲めに反間苦肉の策として放たれる事もある。あれは妥協をしたと中傷すれば妥協をせざる者も、捨鉢的に妥協すると云ふ心理状態を覗つたのである。

民政黨の代議士寺田市正氏は牛込矢來町の自宅から議院に出る途中、暴漢二名の爲めに木の角棒を以て向ふ脛を毆られた。それを捕へて見ると、神樂坂で足を踏まれた意趣返しをしたと云ふ事になつた。民政黨では、或不良青年の自白によれば民政黨の代議士を登院不可能にする程度に毆れば手付千五百圓、成功金千圓と云ふ計畫的陰謀があると公表した。それを裏書きするやうに、二三の民政黨代議士自宅へ毆り込みがあつた。幕末新選組の活躍時代が再來したかの如く見えた。

かうした暴行が、民政黨の鐵壁政策を正當化した。議員の一人歩きは危險だ。自宅に一人居る事も危險だ。それ故に十人若しくは二十人の團體を組んで、一ケ所に泊る、そして外部の脅迫に對抗する。其爲めに議員は市中の旅館、熱海、箱根の宿屋に分宿せしめられた。これは暴力的の脅迫を防ぐと共に、意志の弱い議員を、政府筋の甘言誘惑に對して強制的に拒絶せしめる効果があつた。此鐵壁政策は鈴木内相彈劾案が上程された所の、四月二十八日より六日間の停會中は殊に嚴重に行はれ、遂に政府も切り崩しの方法を發見する能はず、鈴木内相は辭職し、五月四日内相彈劾を含む決議案は政府側二一八に對し、反對黨側二三三で通過した。

内相彈劾案は通過したけれども、内閣不信任案は成立しなかつた。内相彈劾案に賛成した明政會が、内閣不信任案には賛成しない。其賛成しないと云ふ事を明かにしない爲めに、不信任案の採決をする事に政友會が反對し、終に議事未了の儘で特別議會の會期を終らしめた。明政會は議事未了にして呉れと政友會

に頼み込んで、政友會と共同作戰を採つたのである。新聞は明政會が馬脚を現はしたと書いた。

内閣不信任案が通過しなかつた故に、政友會内閣は辭職せずに居る。即ち特別議會を辭職せずに切り拔けると云ふ政友會の目的は遂げられた。此點は田中内閣が勝ち、在野黨が負けたのである。

併し私が茲で問題とし度いのは、かうして勝つたのが果して勝つたになるであらうかと云ふ事である。如何なるゲームに於ても、ルールを潜つて勝つたのは、何人も之を勝と認めない。

衆議院を通過した内相彈劾案には『特に普通選擧法實施の初頭に方り、内務大臣は選擧に干渉し言論を抑壓し、暴力の横行を看過し、幾多の非違を犯すに至ては、君國に對する罪責實に深大なりとす』と云つて居る。これは鈴木内相辭職の後に院議で認めた文句である。それ故に政府も之を認めねばならぬ。即ち政府は選擧のルールを潜つて當選した代議士の支持に依つて、其命脈を保つてゐると云ふ事になる。これは立憲政治ではない。

併し政府の命脈はさうした政友會代議士のみの支持で保たれたのでない。他の中立、實同、明政、及民政黨より脱黨した數名の支持をも必要としたのである。政府が如何なる方法に依つて此等の支持を得たかは已に世間に知られたものもあり、知られざるものもある。只民政黨が鎖黨政策を必要とした事實は、何事よりも雄辯に、其所に如何なる悪辣なる脅迫と誘惑があつたかと云ふ事を物語る。さうした脅迫と誘惑とに依つて、僅かに得たる議會の多數は、議會の多數として國民の尊敬を得るものではない。國民は最早神聖なる議院の決議を見ずして、議院の上に掩ひかぶさる悪魔の手を見て恐れ戰くのみである。政府は憲法上の規定に依つて、議會を解散したのではない。併し恰かも憲法以外の方法に依つて、立憲政治の息の根を止めたかの如き印象を與へた。一九一八年一月五日レーニンは一水兵をして、憲法議會の議長席に迫り『守衛は眠むくて堪らない。直ちに閉會せよ』と怒鳴らした。それで憲法議會は消滅した。かれとこれとは周圍の事情が異るけれども、吾々の受ける印象は同じた。

◎

内相彈劾案が通過したけれども、内閣不信任案が成立しなかつた事には尾崎行雄氏の議論の、内相は責むべし、併し政爭はいけないと云ふ説が、幾人かの明政會員の心を支配した事にも依る。立憲政治は政爭の政治である。爭つてゐる内に、正しき政治が創造されると云ふ原則の上に立つ。政爭がいけないとすれば、昨年春の議會に於て、當時の憲政會の若槻首相が三黨首

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

妥協をして、無事に議會を濟ました事が、最も良き政治でなければならぬ。政爭を止めよと云ふは、明るい政治より暗い政治に進行せよと云ふ事になる。鈴木内相は總選擧前日議會中心思想排擊の聲明書を出した。現内閣が反對側の議員を切り崩したのは、此聲明書を實行に移したのである。これは鈴木一人でやつた事でなく、内閣全部が行つた立憲政治非認の行動である。鈴木一人を彈劾して、内閣をば助けると云ふ理論は成立たない。それを政爭はいけないと云ふ概念で包括しても、それは清盛の鎧の上に着た法衣の如く、破綻が諸方に現はれる。

◎

鈴木内相が辭職して、其後は一時田中首相が兼任してゐる。これは早晩專任大臣を置く事になるのであらうが、其改造の際に内閣が崩壞すると希望してゐるものがある。併しさうして熟柿の落ちる事を希望するのは多くは空だのみに終る。内閣改造で内閣が潰れるのは、多少意氣のある大臣が居る時にのみ起る事であつて、今日のやうに、どの大臣も大臣の椅子を離れない事を第一義とする時代には、これの起る筈がない。現に鈴木を罷めさす時には、田中首相は彼れが幾度か新聞記者に云つた一蓮托生主義をけろりと忘れた。中橋商相は大正十一年高橋是清内閣のとき一蓮托生主義を楯に取つて、高橋首相の内閣改造に反對し、そして終に其内閣を潰ぶした人である。今度も初めは鈴木内相を擁護する樣子であつたが後には知らん顏をしてゐた。山本農相も一時は鈴木の爲めに盡力したが、これもほんの一時であつた。安全第一主義の内閣に、改造の爲めの崩壞は望まれない。

◎

若し内閣が潰れるとすれば、山東出兵の責任に依つて潰れるのではないかと思はれる。それは濟南居留民が慘殺された事に對して、日本人誰れ一人だつて同情しないものはない。支那兵の暴虐無道は天人共に許るさゞる所である。出征軍の勞苦に對しては國民全部が衷心より感謝する。併し山東出兵の責任は此田中内閣のみが負ふべきものである。

特別議會中に政府は山東出兵費として三百五十萬圓許り要求して、議會の協贊を經た。議會が五月七日に終つて、其翌日から名古屋第三師團を動員すると云ふ話しが傳はつて、政府は一千萬圓以上の責任支出を要求してゐる。それなら、何故に特別議會の會期を一日か二日か延長して、大部隊の兵隊を送り出す費目に議會の協贊を求めなかつたか。出征軍人の身になつて見れば、背後に國民の後援があると云ふ事がどの位其勇氣を增す原

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

因になるか判らない。然るに内閣は議會の方は一日も早く閉會さし、そして其あとで大部隊の派遣を政府の獨斷で決めると云ふ態度は、出征軍人に對して氣の毒である。

田中内閣は昨年も山東に四千の出兵をした。濟南居留民を其現在居住する地域に於て保護する。憲政會内閣のやつた如く、引き揚げて保護するのではないと云ふ現地主義の下に出兵されたのであつた。それは南京事件、漢口事件で邦人が掠奪された事に刺激されて、起つた出兵であつた。昨年は無事に濟んだ。今年は大事になつた。漢口、南京では出兵しなかつた。邦人は掠奪に逢つたが殺されはしなかつた。今年は出兵した。そして日本人が慘殺された。出兵せずに、居留民を引揚げて置けば虐殺丈けは免れたかと思はれる。昨年以來、輿論は出兵に贊成でなかつた。それを押し切つて出兵した田中内閣は確かに責任を免かれない。

議會での討論を見れば、南方軍の馮玉祥、蔣介石共に、今日にも戰亂の巷になるべき濟南に出兵されると、どんな間違が起るかもしれない。だから居留民を安全地帶に引き揚げて欲しい。其費用は支那側で出すと迄云つて來た。然るに政府はそれに耳を傾けたかつたのである。

田中首相が北方張作霖を援助する意志から出兵したと云ふのは誤解らしい。田中首相は寧ろ蔣介石の北伐に好意を示したと云はれる。張作霖も今月中にはどうにかに始末が付くから、蔣介石も大にやるべしと云つたとか傳へられる。さういふ風に蔣介石に同情してゐながら、事實は蔣介石と日本軍の大衝突に發展して、日本は恰かも支那南方全部を敵として戰ふかの如き形勢になつた。

田中首相の眞意は成るべく此事件は小さく解決し度い。事件を擴大するには反對だと聞く。然るに事件は事件其自身の發展理論を有つ。石を山頂から轉がし落して、成るべく其石を中途で止まらしめやうと希望しても無駄だ。又其石に方向轉換を號令しても無駄だ。石は石自身の轉落方向と地球引力に依る加速度を有つてゐる。

已に日本全國に戰爭氣分を漲らせんとする努力が拂はれてゐる。戰ふもよい。併し何の爲めに、誰れと戰かふかをハツキリ納得さして貰ひ度い。敵は蔣介石か、張作霖か、支那國民全部か。目的は居留民保護か、利權擁護か、支那征服か。何分出發點は議論區々であつた。それ故に今も國民は明確な意識を有たない。出征軍人が外に奮戰する。内では國民が呑み込めない顔をしてゐる。日本の國家は目標の判然しない戰爭に、大軍を動かす餘裕を有たない。國家は永久だ。田中内閣は一時だ。吾々は明快なメスを振つて、吾々の頭腦を整理し、吾等の政治を立て直ほす必要がある。

（三、五、一〇）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人雜誌と性慾記事

コムマーシャリズムの一表現

山川菊榮

ピーくドンくとはやしたてる笛太鼓の音に誘はれて、群がり集まる裏町の子供を相手に、飴屋が演じて見せるのは非藝術的な踊り（？）にきまつて居り、歌つて聞かせるのは野卑な歌にきまり、一錢二錢の雜貨をひきかへに賣りつけるのは、粗惡と非衛生の見本のやうな代物にきまつてゐるのはいふまでもない。誰もあんな踊りや、あんな歌を、すぐれたものだとも、子供のためになるものだとも思ふ者はあるまいし、あんな食物が子供にとつて理想的なものでないぐらゐのことは、分つてゐるであらう。或は飴屋自身も、さういふ他愛のない身ぶりやこわいろにより、下等な顔料を使つた不潔な食物により、無邪氣な子供の手から一錢二錢をくすね取る稼業を、ばかくしいよりは、淺ましく情なく、感ずることもないとは限らない。彼が子供らの手からくすねる一錢二錢こそは、自分と家族の生命を支へる糧である。どんなばかげた、どんな淺ましい仕事でも、生きるためには忍ばねばならぬ。

飴屋の笛太鼓やその下等な身振りこわいろ、あくどい色をした非衛生な食物を聯想させるものに、子供の新雜誌がある。どれもこれも同じような毒々しい彩色、下手な繪、まづい文句、しかもそれが幾種類となく出てゐる。

小學生向の雜誌も同じことである。不自然な、子供の無邪氣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な心を弄び、その頭腦を徒らに疲れさせるよりほか何の役にも立ちそうもない奇怪な探偵談、野蠻な勇猛心と破壞的な本能を煽るほかに效果のなさそうな侵略戰爭とその武勇談、でたらめな講談物を書き直したような歴史美談、そして劍劇物の滿載！少女向のものならば安價な悲哀を賣物にした少女小說。カビの生えた美文等々。子供らは飴屋の笛太鼓やその踊りに魅せられると同じように、繪本や、少年少女雜誌の低級な媚に魅せられてこの虜となり、かの非衞生な粗惡な飴を無二の好物とするように、この淺薄俗惡な繪本や雜誌を、たくてたらぬ精神上の糧としてゐる。

雜誌社や出版社とて馬鹿や氣ちがひの集まりではなし、さういふ低級な出版物が——特に子供のために出版せられてゐるものでありながら——子供の趣味や敎養の上に、決して好ましい效果を與へるものでない位のことは、まるきり氣づかぬ筈はないのである。ではなぜそんなものを出版するか。いふまでもなく、賣らんがためである。一冊でも多く賣り、一人でも多くの兒童の心を捉へんがためである。彼等の目的は、よいものを作ることにあるのではなくて、よく賣れるものを作ることにある。これは一切の生產が利潤のために行はれる資本主義社會の原則であり、必然の約束であつて、出版業者だけが、ひとり例外をつくることのできない當然の結果である。

○

飴屋は、子供の發育狀態を佳良にするために飴を賣るのではなく、子供の繪本、雜誌の發行者も、子供の敎育や趣味の向上のためにそれらを出版するわけではないのは勿論である。婦人雜誌についてもそれと同じことがいはれ得る。

有田ドラッグでさへ、國家や皇室中心主義のために肺病や梅毒の藥を賣る世の中であつて見れば、婦人雜誌が、『夫婦間の危機を救ひ』『家庭の和樂』を齎らすといふ高尙な目的のもとに極度に野卑な、挑發的な文句を列ねた廣告によつて性記事の公開を天下に誇るのも、驚くには足りない。賣らんがためには手段方法を問はない資本主義生產組織の當然の結果の一つにすぎないこの現象だけを、特に全經濟機構から引き放して、責めようと咎めようと、そこに何の效果を期待することができよう。

○

ある婦人倶侶は、性記事を滿載する婦人雜誌の編輯者に對して抗議しようとしたが、雜誌の低級なのは、讀者が低級な結果であると知つて中止したといふ。この人達が、太柄のパラソル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が美術的でないといつて製造元へ抗議を申込まなかつたのは不思議である。營利のための生產が、人爲的に需要を刺戟し、不自然な流行をつくり出すこと婦人雜誌に限つたことでない。低級な雜誌がうけるのは低級な讀者が多い結果には違ひない。けれども同時に、低級な記事が、低級な讀者を作り出し、低級な趣味を普及させることも事實である。

けれども國定教科書の力で、低級な少年少女雜誌を驅逐することはできないように、低級な記事に對する道德的な批難や侮蔑が、特に婦人雜誌に現はれたコムマーシャリズムの一傾向を征服する上に何ほどの力をもつかは疑問である。

或人は婦人雜誌膺懲の手段として、一流の小說家が結束して執筆を拒絕するのが一番有效な手段であるといつた。けれどもどれほど藝術的良心の鋭敏な作家でも、その良心のために、自己の物質的利益を犧牲にして結束して戰ふことは不可能であらう。自分一個にとつて直接利害關係のない問題のために、即ち單なる正義人道のために、自己の生活を犧牲にするといふようなことは、例外の場合、又は例外の人物にしてよくなし得るところで、一般には望むことのできないことである。ストライキは勞働者が自己の經濟的利益を擁護する手段ではあつても、特定の企業家の或る種の販賣政策に對する道德的抗議の手段として行はれることはめつたにない。英國炭鑛夫罷業の當時、保守黨機關紙の植字工が、その紙上の論說を憤つて決然仕事を已め、全國總罷業の口火を切つたような例を、一般の出版物とその從業員の關係に求めることは、少くとも平時においては不可能である。特に婦人雜誌と流行作家との關係の如きに適用のできる方則ではない。また一時そういふ手段が用ゐられても、結局は作家側の敗北に終るにきまつてゐる。なぜなら讀者は必ずしも高級藝術品を要求してゐるのではなく、流行作家の名にあこがれてゐるにすぎないので、雜誌社側が強硬に出て、新しい流行作家を作り出す氣になれば、讀者はおきにその方へついてゆくので、ストライキによつて作家が困るほど雜誌社は困らないからである。作家側はストライキをすれば忽ち生活を脅かされるが、雜誌社側は致命的な損失を蒙る恐れはないのである。雜誌社から頭をさげて「先生」扱ひにされるのは外形だけのことで、一流の作家といへども、雜誌社と作家との間の經濟的關係においては、その人が原稿料によつて衣食する限り、かの植字工や校正係と何の異るところもないのである。即ち作家の報酬こそ違へ、實際の關係は、企業家對勞働者のそれと同じことで、食はんがためには否應なしに稿料のための生產の下僕、たしなければならない。恐らく婦人雜誌の低級さにひんしゆく

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

する作家も、自己の藝術的矜持を維持するために、或は高尙なる趣味の普及のために、結束して罷業を宣言する代りに、むしろ藝術的良心を犧牲にしても、低級な記事に調子を合せてまでも、企業家の要求に應じようとするであらう。

○

婦人雜誌膺懲の手段として、女子教育家が生徒を煽動してボイコット運動を起すべきだといふ論者もある。

けれども今日の女子教育は、婦人雜誌とそれほどかけはなれた、高い水準にあるものだらうか。それは婦人雜誌とほゞ同一の思想的內容をもち、婦人の地位とか職分とかについての根本的な見解においては、全く同一基礎の上に立つてゐるのではないか。女子教育の內容が、婦人雜誌のそれと甚しく異つてゐたならば、婦人雜誌は、婦人の讀者の間にそれほどの勢力をもつことはできない筈である。私の見る所では、女子教育家と婦人雜誌社とは同じ商賣仲間で、互ひにもちつ、もたれつしてゐる間柄である。低級な女子教育と、低級な婦人讀者との間には、切つても切れぬ關係がある。

家政、育兒、結婚、これが今日の女子教育の全內容であり、中心的な題目である。たゞ女子教育家は、これに道德的な假面を被せ、從つてお上品な、退屈なものにしてゐるにひきかへ、婦人雜誌經營者は、より露骨に、しかし一層巧みな、婦人の心を捉へやすい方法で、同じことを行ふてゐるにすぎない。女學校で教へる日常の家庭經濟の斷片的な智識や、常識的な科學智識が、婦人雜誌の家庭調法記以上に出ないものであること、「私はいかにして千圓の貯金を作つたか、」「私はいかにして夫の愛を取り戻したか、」『私はいかにして誘惑を免かれたか、』とかいふやうな記事は、女學校の修身科の教材として提供されたかと思ふほど、その精神內容とよく一致したものである。婦人雜誌の內容は、女子教育と同じ立場に立つて、その足らざるを補ひこそすれ、根本的に異る立場に立つものではない。女子教育家に、婦人雜誌を利用して自分の學校の廣告に努める位が落ちであり、惡くすれば雜誌社の手先になつて生徒の中に賣込む手傳ひさへもしかねない。

要するに問題の根本はコムマーシャリズムにある。利潤のための生產組織全體をそのまゝにして、その中のたゞ一つの結果をどう攻めようとも、咎めようとも、歸するところは同じことである。

裏町の子供相手の飴屋が自分の商賣をばからしく、淺ましく感ずると同じような衝動が、婦人雜誌の經營者、編輯者をも襲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばぬことはないとも限らぬ。婦人雜誌の當局者は、時として、婦人相手の商賈、例へば小間物屋や吳服屋の番頭の卑屈な揉手、輕薄なお追從笑ひを、自分の上に聯想させられることはないものだらうか。

結局どこまでいつても、利潤のための生産は、たとへそれだけのものであつて、そろばんに合はないやうな高尙な趣味とか、藝術とか、道德とか、理想とかいふものを勘定に入れて成立つてゐるものではない。コムマーシャリズムの結果としての俗惡な趣味や、低級な思想に反對するものは、その一つ〳〵の結果について不平をいふ消極的な態度に留まらずに、進んでコムマーシャリズムそのものに對して反對し、さういふものゝ存在しえない社會の組織に向つて進む運動に參加するより外はないのである。

低級な讀者が多い結果には違ひない。けれども同時に低級な記事が、高級な讀者を作り出すものとも考へられない。低級な雜誌は、讀者の中の低級な要求に媚びることによつて、低級な趣味を普及させ、更にます〳〵多くの低級な讀者を獲得する。

婦人雜誌と性慾問題

富士川　游

(一)

チューリヒの教育學教授フエルステル氏が言つた通り、今日の時代は性慾に關することが卑野となり、これに對する監督が緩やかになつたことは、まことに驚くべき現象で、これは最近の教育が知識の方面に偏倚したる結果、知識的文化が著しく進歩し、意志及び誠心の教養が十分でないために起つたものであると言はねばならぬ。まことに今日の世間の狀勢は人間の物質的方面のみの發達と、その滿足とに向つて進むで居る。全く物質的欲求のために動いて居る世界である。その結果として最近の性慾的增大があらはれるやうになつたのは寧ろ當然のことであらう。最近の文化は物質的欲求の上に精神を中心として居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るた、この欲情はそれに伴ひて無耻といふことを當然の歸決として表はして居る。これはまことに嘆ふべき世相であると言ふの外はない。

（二）

改めて言ふまでもなく、性慾は自然衝動で、人類にありても動物にありても同じやうにあらはれるものである。さうしてこの自然衝動は身體の内部から發するところの刺戟に本づくもので、この刺戟は我々の意志によりてこれを自由にすることは出來ぬ。自然衝動が我々人類にあらはれるのは我々がその生命を保持することの需要によるものであるからそれは全く自然の法則に本づくものである。それ故に、我々はこの衝動につきては自然の法則に從順するより外は無い。

しかしながら、我々人類には動物と異なりて、別に精神の世界がある。何事も自然の法則によりて支配せらるるところの自然の世界から離れて、人類たる特性を發揮すべき世界がある。すなはち我々人類は文化のはたらきによりて動物の狀態から離れるのである。まことに文化の世界は我々人類の獨占のもので、我々人類はこの文化の世界にありて、自然のものを高等の位置に進め、又精神の世界をばます〳〵高等の地位にまで進めるのである。ところで、この文化の世界には、我々人類の行爲を正しき方向へと進めるために不可不の要求があつて、それによつて道德の法則といふものが立てられるのである。

（三）

道德の法則は、自然の衝動を調整して、それを精神化するために重要のものである。生物學的に言へば性慾は他の身體的機能と同一の平面に位するもので、呼吸及び飲食と同じやうに生命の保持の上に必要の機能である。それ故に、衝動その儘に活動せしめることが生物の常であるが、しかしながらそれはまさに動物的である。我々人類にありてはかくの如き自然衝動に對して意識的にこれに接し、それを制遏し、又それを調整することが要求せられる。ここに自然的のものを變じて精神的のものとせられるのであるが、それがために、不可不の精神が衝動を抑止してこの滿足を制限することを期圖する。この場合、性慾にありては他の衝動に於けると大にその趣を異にするものがある。

（四）

むかしから今日までの長い經過の間にありて、性慾其他の衝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

動、たとへば飲食とは異なりて、道德的に評價せられることになり、その態度の如何によりて、それが直ちに非道德的又は道德的であると評價せられることになつた。他の衝動たとへば飲食や呼吸などのことにつきては聲を高くして遠慮なく話し合ふことが出來るが、性慾のことにつきてはさう公然と話し合ふことが出來ぬやうになつた。若し性慾の上につきて話すやうなことがあれば他の恥かしさを感ずる場合と同じやうに顏を赤くせねばならぬ。それ故に道德的の規律を說き示して、それによりて性慾を調整せしめ又はそれを抑止せしめることは容易でない。動物が性慾の滿足をなすときにはそれを自然的のものと見ながら人類の間にありてはこれを道德的に評價して或は非道德的なりとし、或は道德的なりとする。それは畢竟するにその衝動によりてあらはるるところの行爲そのものを見るのでなく、その自然衝動に動かされて、行爲をなすところの人格全體を見るのである。かやうにして我々人類にありては自然の衝動たる性慾をば精神化して居るのである。さうして性慾は我々人類にありては必ず精神化せねばならぬものであると思ふ。

（五）

しかるに、近頃になりて、西洋にありても、又我邦にありても、性慾に關する談話論議が尋常となり、公然と雜誌の上などに公にせらるゝやうになつたのは、前にも言ふ通り、その主なる原因は意志及び良心の文化が遲れたためであると言ふべきであるが、又一面から見れば性慾そのものの異常にもよるものと言はねばならぬ。獨逸ギーセン大學教授エーリヒ、ステルン氏が說くところに據ると、性慾のことにつきて話すべき必要を生ずるのは不十分の感情、不確實の感情、一定の範圍を除くべき希望から起るものである、殊に青年のものが性慾の問題につきて興味を持つのはこれがためであると言つて居るが、これもたしかに性慾に關しての談話が尋常になつた原因の一とつである。若しかういふ原因によつて性慾に關する問題が公然と話されたならばその結果はこれを聞くものの多數をして性慾の事項に關する談話に興味を持たしめ、或は性慾の發生を催進せしめ、或は性慾の濫用を致さしめてそれがためにそのものの身體及び精神の上に及ぼす弊害は重大であらう。

（六）

かやうに考へ來りて、近時我邦に行はれて居る婦人雜誌の多數のものは、互に先を爭ふて性慾の問題に關する非科學的の事項を掲載して居るのを見ると、これはまことに慨歎に堪へぬこ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とである。性慾は固より自然衝動の一つであるが、我々人類にありてはそれを精神化して、道徳的に評價して居るのであるから、嚴肅なる態度を以てこれを取扱ふべきものである。性慾に關する問題は一切これを口にすべきものでないといふやうな道學先生の所說はこれを頑冥として排斥すべきであるが、現代の青年の性慾生活に不健全の所がありて、それがために性慾に關する說話に興味を有することに附け込みて、何等の撰擇なく、非科學的の論說を公表することは婦人雜誌として、愼むべきことであると思ふ。

誌上賣淫と性的自由

室伏高信

婦人雜誌が性的な問題を取扱ふことが一つの流行になつたといふ。これは恐らくは婦人雜誌の問題ではなくして時代の問題であらう。時代は今や一つの性的な時代である。强烈な性的刺激の要求されてゐることが今日の一特質であるといふの意味において。

職業婦人が經濟的意味をもつてゐることは明らかである。けれどもこれをもつて單に經濟的意味のみ理解しようとするものは例の唯物史觀の平面的世界理解の公式以上に世界を解釋することを忘れたものである。意味が世界を創造するといふの高き立場に立つものにとつてはかくのごときは何等の解釋でもなくして單なる一說明であるにしか過ぎないのである。

職業婦人はそれ自身一個の性的表現である。それは性的生活の自由への要求がこれを社會的に創造する一要因であるといふの意味においてのみではない。具體的存在としての職業婦人が既に一個の性的表象として立つてゐるのである。

性欲は自由である。自由性欲といふことが本來は無意味であるほどに、性欲は自由それ自體である。それはもとより最高の自由ではないが、けれどもそれは既に一つの高き自由である。科學や、精神や、文明や、民主主義のごとき一切の外的な、虛僞な自由に對して、性欲は一個の全き自由である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それは神の呼びもとめであるからである。たゞに神の呼びもとめであるばかりではなくしてまた實に神への一つの門でもあるからである。

この本然の自由である、外的自由を要求するの眞實なる權利をもつてゐるのは。

性的生活が一つの高き訓練を必要とすることはもちろんである。われ〲の遠き祖先は親子の肉體的關係を制抑し、タブウの精神を發展せしめた時に、性的生活が世界秩序のうちにおいて占めるところの正しき地位を認識したのである。そしてまたこの認識をとほしてわれ〲人類は象徴的性生活のうへに眞實なる文化の一系統を築きあげたのである。この點で實にわれ〲の世界理解にとつても、歴史の解釋にとつても、最も根本的な條件である。けれどもこの訓練が硬化した時に文化もまた硬化したのである。實に性的訓練がわれ〲の文化の動脈硬化をもちきたしたことはわれ〲の看過することのできない歴史上の最も重大な出來事の一つである。

性欲は自由であると私はいふた。それは飽ることを知らないのである。それは外的壓迫によつて克服さるべきものではなくして、如何なる壓迫も遂にはこれによつて復讐さるべきものである。

今日の性的自由の要求は一つの復讐である。モダアン・ガアルといひ、モダアン・ボオイといふも一つの復讐としては甚だ意味深いのである。否、近代人は悉く何等かの意味においてモダアン・ガアルであり、またモダアン・ボオイである。それは一個の文明的現象ではある。けれどもわれ〲は高度文明において遂に一個の文明への反逆を見るのである。硬化した文化の末期において生命の原始的要求が堰を切つて奔放するのを見るのである。今日の性的自由の要求は實にその根ざすところかくのごとくに深く、また起ることかくのごとくに必然なのである。

時代の先端を代表することによつてのみ意味をもつてゐる雜誌の使命がかくのごとき問題に注意を拂ふことは當然すぎるほど當然である。私の見るところでは今日の雜誌記者はこの點において尙ほ甚だ感覺がにぶいといつてもいゝのである。それは獨り婦人雜誌の問題ではなくして凡ての雜誌の問題としてその先端に置かるべきである。性的問題の文明批評的理解こそはわれ〲が諸雜誌に要求する最も重要な問題の一つである。われ〲の文化はこれによつて復活し、これによつて表現され、これによつて創造されるといつても私は決して過言であるとは思はないのである。

けれども性的生活の自由といひ、若しくは性的欲望の自由と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いふことは如何なる劣情の自由といふことでもないのである。自由は訓練においてのみ導かれる。表現とは訓練の度合においてのみ語らるべきものである。性的生活の自由が要求されることはそれの眞實なる訓練――生ける訓練、眞實なる制度――生ける制度が要求されてゐることである。性的生活の藝術的理解といふはこの意味にほかならないのである。

されば性的問題を捕へて人間の劣情に訴へるといふことは眞に性的問題を捕へてゐるのではない。今日の滔々たる性的記事、性的小說、性的假面非科學の悉くはわれ〳〵の謂ふところの性的自由とは何のかゝはりもないのである。

それは一個のコムマアシャリズムである。投機、ペテン、賣淫のほかの何ものでもない。われ〳〵はこれをたゞ紙上賣淫といへば足るのである。それは人間の最も卑劣なる精神をもつて最も卑劣なる精神に訴へてゐるのである。これをもつて獸類に等しいといふことを勿れ。獸類は商業、性的商業のあることを知らないのである。

婦人雜誌の惡傾向について

らいてう

近來婦人雜誌のあまりにも目立つ性的傾向に就いては、既に婦人側からも、教育者側からも非難のあることとて、「婦人を侮辱する婦人雜誌」とか、「風教を害する婦人雜誌」とかいふやうな聲を屢々聞いてゐます。

某婦人會は、教育的立場から雜誌經營者に忠告し、その反省を求め、婦人雜誌の淨化をはからうとしたといふ話もあり、しかしこれが話だけで中止されたのを、「東京日々」が遺憾とし、その社説に於て、營業者が反省すると共に、一般婦人も一層婦人雜誌の淨化をはかられねばならないと論じ、更に是に對して「婦女新聞」は、吾等に一案ありとて、「東京日々」「東京朝日」の二大新聞が率先して、婦人雜誌のいかゞはしい文句の大廣告掲載を拒絕するなら、いはゆる婦人雜誌の淨化も一二ケ月にして行はれるだらう。それに若し實行困難といふ事情があるなら、婦人雜誌經營者の反省も困難な事情があるに相違ないと述

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べたりしてゐます。

今、私の手許にある最も人氣ありと言はれてゐる三四種の婦人雜誌を開けて見ます。

曰く「結婚前後十日間の日記」曰く「戀愛懺悔」曰く「婦人病に苦んで全治する迄」曰く「結婚前に知つて置くべき衞生知識」曰く「妻となりし日」曰く「新婚中に於ける夫婦の十誡」曰く「再婚の男女の秘密の告白」曰く「良人の秘密についての體驗」曰く「良人の秘密病を妻は如何にして豫防するか」曰く「娘、二十前後必ず良縁を得る秘訣」曰く「不美人を美人に改造する方法」曰く「必ず美人になる秘訣」等々。

かうした性生活又は性病に關する記事か、さうでないものは、美容法か折々の流行に關する記事。そして卷頭には何枚もの令孃、花嫁、新郎新婦のブルジョア振りや、流行の衣裳や髮の形を見せた寫眞。表紙はどの雜誌も申合せたやうな近代的美人の半身像で、その内容と同じくどれがどれやら一寸區別がつきかねる。全誌に漲る低級なブルジョア趣味、ブルジョア氣分。

これが現代の日本で最も人氣ある、發行部數の多い婦人雜誌だと言へば實際腹が立つやら、なさけないやらでありますけれど、こゝに今日のブルジョア社會の露骨な婦人觀が現れてゐるのであり、これがブルジョア社會に寄生する今日の婦人の生活の相であり、なぜかういふ婦人雜誌がかうも巾をきかせてゐるかと考へるなら、それは經營者側ばかりがわるいのでなく、讀者側もわるいのであり、更にいふならこの現代がわるいといふことになつて來ます。

この資本主義の、金儲第一の社會では、何もかもが――この雜誌發行の仕事も言ふまでもなく一つの營利事業で、（殊に大資本でやつてゐる大雜誌ほど、猶さうで）極端にいふなら、どんなに婦人の爲めになるものでも儲からなければ出す筈もなく、その反對にどんなに婦人を害するものでも儲かるから出すのであつて、今日婦人雜誌が滔々としてかういふ傾向にいくといふのも結局は、かうするのが一番賣れるからであり、儲かるからであつて、その點讀者である婦人に十分の責任があると言はなければなりません。

是等の婦人雜誌の購讀者は高女卒業前後程度のブルジョア乃至小ブルジョア家庭の極普通な妻や娘が大部分でありませう。（尤も婦人の性生活が書かれてゐる點で、又中には誌上で結婚媒介などしてゐるのもありますから、相當男子の讀者も多いのかも知れませんが）して見れば最も賣れ行きのいゝ婦人雜誌は彼女たちの生活の分野並にその深度を示す一つの鏡でもあり、尺度でもあるのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若し讀者側にゐる婦人たちが、婦人雜誌の良否を識別し、批判し、選擇するだけの眼識をもつてゐるなら、さうして毎月新聞の一面を滿すあの大げさな廣告に迷はされ、その廣告中の刺戟的な文字につられなどしたくなつたら、それだけでも今日の婦人雜誌の內容は變つてくることでせう。

しかしそれには先づ今日の女子教育——女學校教育といふものからして改められなければならないことであり、さうでない限り矢張り一般の婦人が今日通り雜誌營業者の金儲主義に引き廻され、知らず知らず彼等に奉公し、さうして益々その惡傾向を助長させて行くといふやうな結果になつてしまひます。

今日の大婦人雜誌社が營利を離れた、何等かの理想によつて婦人雜誌の大改善を自發的に斷行するであらうなどといふやうなことは望んで見るだけ無理でありませう。といつてこの不快な婦人雜誌の流行を讀者である婦人がわるいのである、いや現代がわるいのであるといつて捨てゝも置けませんから、矢張りさしあたりの改善法としては、もつと婦人側から、教育家側から婦人雜誌排撃の聲を高らかに上げ、輿論を喚起し、婦人團體や教育家團體、女學校などが聯合、協力して流行婦人雜誌不買不讀同盟とでもいふやうなものをつくるのが一番効果的だと思ひます。

書き落しましたが、今日の婦人雜誌の大部分の編輯が男子の頭でされてゐること、即ち男子の頭で考へ、男子の眼で見た婦人を目やすに編輯されてゐること、これも今日の婦人雜誌にへんな色や臭氣をつけてゐるかなりの原因になつてゐないでせうか。婦人雜誌の編輯はもつと婦人の頭で、更にいふならばほんとうの女性のこゝろでしてほしいと思ひます。（昭和三年五月）

性の啓蒙運動と猥褻行爲

市川源三

一

近時の婦人雜誌に對する非難は性の啓蒙運動に對する反對ら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しいが、もし果してさうだとすれば、却つて反對するもの丶誤りだと思ふ。性の啓蒙運動に對しては、今なほ贊否相半して居るだらうが、社會の實相を見貫いてゐる識者は、恐らく一人でもこの運動に反對するものはなからう。歐米の如く交際によつて成立する結婚にも、なほ離婚數の相當に多いのは、性の不適合から來てゐる、と醫者は說いて居る。我々が多年婦人の訴へを綜合して見るに、婦人の煩悶苦惱の大半は性的無智に原因してゐることが明かである。青年の苦惱を救ひ、家庭を平和に導き、子女を健全に養育してゆく唯一の道は、性の啓蒙運動であると思ふ。これ近代に於て、殊に歐洲大戰後に於て、この運動が盛んになつて來た所以である。この時代の傾向を了解せずして、徒らにこれに非難を加へる如きは、時代錯誤の甚しいものである。非難を加へるもの丶多くは、上品ぶつて居る上流階級か、もしくは宗教團體である。舊い形の上流社會は、傳統的に女性の人格を無視してゐるし、宗教家は、これ亦假說に基いて、結婚そのものさへ否定してゐるのであるから、性の啓蒙運動は、前者に對しては反逆者を咬ることになり、後者に對しては修養の妨げとなるので、結局右二種類の人々にとつて無用有害のこと丶なるのである。しかし國民の幸福・民族の繁榮を將へる吾々は、さういふ非難に耳を貸すことは出來ないのである。

二

性の啓蒙運動として、今日の婦人雜誌が性の問題を取扱ふに當つて、果して成功して居るかどうか、もしくは婦人雜誌の使命がそこにあるかどうかといふと、問題はおのづから別になる。その意味に於て婦人雜誌が非難される場合も起ると思ふ。元來婦人雜誌がわが國にかくまで多數あるといふことは、歐米にも類の尠いことである。外國で婦人雜誌といへば、主に家事に關したことか、服裝の流行に關したことなどであり、もしくは娛樂に關したことである。その他專門の智識に至つては、男女共通である。從つて純粹の婦人雜誌の種類はあまり多くない。然るに日本の文化は、まだ低級であるが故に、女子が男子同樣の專門雜誌を讀む力を持たない。そこで婦人雜誌は、昔ながらの姿を存して、あらゆる智識の寄せ集めである。であるから、婦人雜誌に性の問題を取扱ふことも、日本の國狀としては必要であらう。しかしたゞその取扱ふ方法と程度に於て注意しないものがあるといふのは事實である。今日の婦人雜誌の多くは、殆どその點に欠陷を有つてゐるから、その點に非難を加へるのは正當である。即ち婦人雜誌が性の問題を取扱ふ場合に、二つの欠陷を見出す。その第一は羊頭をかゝげて狗肉を賣つて

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐることである。即ち一種の欺瞞行爲である。そも〳〵どの雜誌も、性の事柄を取扱ふ上に於て、女性の羞恥心に觸れないやうにし、且つその筋の差止めに遭はないやうにするために、その記事內容の露骨さの程度に於ては、あまりに大差を示して居ない。しかるに、見出し或ひは題目を、宛ら徹底的に取扱つてゐるかの如く見せかけ、如何なる內秘的事實をもすつかり了解し得るやうな題目を揭げて、それによつて讀者を釣らうとしてゐる傾向の多い雜誌がある、これは甚だ不都合千萬だと思ふ。殊にその記事の中には伏字が多くて、徒らに讀者の想像心を逞しうさせ、從つて惡結果を齎らすといふ場合があり、又一頁か二頁に於て、大問題を解決する如くに見せかけるがために、全く讀者を失望させることもあまりに屢々あり過ぎる。かゝる欺瞞行爲はジャーナリズムの常套手段であらうが、これは大いに非難すべきことゝ思ふ。

その二は、夫婦の關係或は男女の關係を、遊戲的乃至醜業婦的に取扱つてゐることである。即ち人間の人格の尊嚴を毀損してゐる書きぶりである。例へば、『男に好かれる法』とか、『女に氣に入られる法』とか、『他に心を奪はれてゐる夫を自分の方に向はしめる手段』とかいつたやうなトリックを連發した記述を滿載してゐる傾がある。かういふ態度は、性の啓蒙運動に似て、實は却つて性に對する昔ながらの誤れる態度を今一層誇張したものである。これ亦甚しくよろしくないことゝ思ふ。今具體的にどの雜誌といつて指さすことはひかへるが、この種類の幾部かゞあるといふことは、實に不愉快極まることである。

三

性の啓蒙運動が我が國に始まつて以來、未だ二十年とは經たないと思ふ。これに對して現に贊否交々起つてゐるが、反對論は次第に聲をひそめてゐる。それもその筈で、この運動からどれだけの弊害が起つたかといふと、我々は殆どそれを認めることは出來ない。否寧ろ、却つて幾らも利益を認めることが出來る。かるが故に、今日の婦人雜誌の性問題取扱方は感心出來ないとしても、それを非難するあまり、騎虎の勢で遂に性の啓蒙運動さへも非難するものがあるならば、これは非常なる見當違ひと言はなければならない。今日の婦人雜誌の非難者は、よろしくこの點に注意を拂はなくてはなるまい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

海外近事

英國議會の社會主義討論

日本の議會が停會々々でゴタ々々してゐた頃、英國の議會は例によつて朝野の三黨が堂々の陣を張つてゐたが、その中に社會主義に關する決議案といふものが保守黨の一員から提出された。元來日本の議會こそ、その議論は一種の餘興を想像せしむる程度しか内容のないものだが、英國あたりでは議會の討論を新聞で讀んでゐれば、時勢に遲れないぐらゐ進んだものである。その討議の中には當面の問題は無論あるが、それとは縁の遠い抽象的なものもある。いま紹介しようとする社會主義決議案などは後者である。

保守黨のブリテーン君が『社會主義の危險』を述べて、議會にかういふ決議案を提出した。

『英國下院は、社會主義黨の首領及び黨自身の内部において、諸種の政策の大問題について甚大なる意見の相違あるに鑑みて、社會主義内閣を作ることは、國家のために危險なりと思考す』

提案者はこれを説明して、『一口に社會主義といつても、その内容は非常に多くに分れてゐて、ある學者の如きは社會主義の定義だけでも四十種類に上つてゐるといつてゐる。わが英國の勞働黨の如きもマクドナルドやスノーデンの如く漸次にその理想を實現しようとしてゐるものもあれば、マクストン君の如く急速にその實現を主張してゐるものもある。かうして統一のない政黨が權力を握ることは國家の害惡である』といつた。

これに對して勞働黨のグラハム君は修正案を提出した。同君はスノーデン君の親友であり、哲學者である。『本院は、近來の產業が合同、シンヂケート、トラストの方向に向ひつつある傾向に加へ、かつ國民の多數が物質的不安定である事實に鑑みて、公共の管理及び所有の主義に何等の危險なきものと認む』。グラハム君はこの修正案を説明して、『英國の產業界がトラストの方面に進みつゝある事、現在の保守黨内閣を以てしても鐵道を管理し、電氣產業を買收し、またラヂアを管理するに至つた事』を述べ『この事は時代の力が產業の社會管理を當然とするに至つたことを物語るものではないか。社會主義に反對するものは置き去られたる經濟社會に生きる人々である』と述べた。

これに續いてサクラトバラ君が立つた、同君は共產主義者であるが『社會主義と共產主義は同一のものだ』といふと、保守黨側から盛んな拍手がある。勞働黨はこの言葉を非常に嫌ふからだ。『現在同一でないやうにみへるのは社會主義者が卑怯にして、その主義を捨てたからだ』と見得を切つた。

ついでアスター夫人が立つ。『われ等は惡い資本主義を排斥する。同じやうに惡い社會主義を排斥する。われ等は現代の社會組織を少しも變更することを欲しない保守論者に同じえない。それと同時にわれ等は社會主義を宗教として説く者を排斥する、それは飽くまで一の經濟理論たるにすぎない』と云ひ、更に勞働黨のスノーデン君や政府委員が續いて、議論に花が咲いた。

採決の結果は豫定の如くこの決議案は二百

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二十八票對百〇七票の相違で通過し、勞働黨の修正案は敗れた。

政治家の年齢問題

英國の議會ついでに同會で論議されて居る年齢問題を紹介してをかう。勞働黨の代議士として、また社會學者として有名なるシドニー・ウエッブ君の意見では、英國の議會は七十歳を以て最高年齢とし、それ以上になると強制的に引退せしむべしといふのである。その理由としては人間が七十歳以上になると、廢頽し始め、かつ頑固になつて時代の推移が分らないから、かういふ人々に國家の重大なる任務を託すは不可だといふのである。

說明するまでもないか、英國では議會に席を有する人でなければ、政治的に重要な椅子につくことは絕對に不可能であるから、七十歳以上の議員を排斥するといふことは、結局老人を重要な位置から排斥するといふことなのである。日本でこんな法律が通らうものなら、重要な椅子の數が大分空いてしまうわけである。

併し英國でも今のところこれが輿論となつてゐるわけではない。寧ろかうしたことを法律できめることには大體反對なのが英國人の性格である。そこで假りにかういふ法律が出來て影響を蒙るものがあるかといふと、必らずしもないことはない。下院には八十歳以上の議員が一人あり、七十歳以上のものは三十名もある。上院には九十五歳の者が一人、九十歳以上が二人、七十歳以上などは無茶に澤山ある。

こゝで一寸年齢調べをやつておく。保守黨首領で現首相たるボルドウイン君は六十歳であり、勞働黨のマクドナルド君は六十一歳であり、ロイド・ジョージ君は六十五歳だ。大臣としては文部大臣のパーシー卿が四十一歳で最年少、外相のチエンバレーンが六十四歳、內相のジョインソン・ヒックスが六十二歳、藏相のチャーチルが五十三歳だ。

英國ではまだ年齢などについては大して注意を拂はない方だが、米國になると年齢の多い者は大統領候補者になることすらが不可能である。ヒユーズ、ローデン及びドーズなどが候補者として有望でないのは六十歳を超してゐることが重要の一理由だ。今までの歷代大統領の內で最も老人だつたのがハリソンの六十八歳で、最も若かつたのがポークの四十九歳で、平均は五十七歳になつてゐる。誰よりも忙がしい激務につかせるのと、それから國家を凝滯せしめずして進行せしめるのには若いものでなくては駄目だ。それが米國人の信じてゐるところなのである。

日本人と西洋人の優劣試驗

日本人は他國人に比して優秀なのか、それとも劣つてゐるのか。今まで統計的にこれを調査したものは全くない、またそうした機會もなかつた。然るにそれが不完全ながらも行はれた事實があるが、その結果が案外日本人に有利でない。

米國のカリフォルニア州には同地で生れた日本人兒童が多いが、同州の當局者は最近これ等の兒童に對し智能率の試驗を行つた。これについてその成績をかう發表してゐる。

「カリフォルニア州における日本兒童六百五十八名についてビネー・シモン方法により檢査した結果、年齢十歳乃至十三歳にして智能指數の平均は九十點であつて、歐洲系米國兒童の平均九十九點に比して劣つてゐる。併しこれは日本人兒童が英語に堪能でないことゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一部分は民族的素質から來てゐるのではあるまいか。テストの内で鋭敏な機的智覺と緊張せる注意集中性といふ點においては、加州における日系兒童は米國兒童と毫も遜色なきのみならず、却つて秀でてゐる。然るに智識の檢査（テスト）にあつては日系市民は明らかに劣つてゐる。數の計算では殆んど差違がない。この檢査の結果はまた學校教師の評定とも一致してゐる。これを換言すれば日系兒童は米國兒童に比して獨創性及び一般素質において劣つてゐる、

以上は專門家の調査の結果であつて、排日的感情が挿まれて居るやうなことがないことはわれ等も保證し得る。たゞ問題は（一）以上の數を以て全般を押しうるか（二）日系兒童が智識において劣つてゐるといふが、その家庭において兩親は日本語を使ひ、智識的なことを教はる機會が少ない事實などを考慮に入れる必要がある。但し、獨創性が少ないといふ點については、日本國全體から考へて當然らずと斷言するのに、やゝ躊躇されるやうだ。

イタリーの新選擧法

イタリーに新らしい選擧法が出來た。それが何時から施行されるかは、この文を書いてゐる時には尚明瞭でないが、ムッソリニが考へ出したもので、それが今のイタリーで實行されないものはない。

現在のイタリーの議會といふものはあつてなきに等しいものであることは何人も知るところである。併しムッソリニの考へでは、これでも充分でない、かれは國家を一個のシンヂケートと見て、中央に總ての權力を集めて、そこから統合せねばならぬと感じてゐる。この點では勞農ロシアと同じだが、ロシアがプロレタリアの獨裁を主張してゐるに對し、イタリーはファスチスト・アリストクラッシーを主張してゐるとみていゝ。いづれにしてもかれの目がけるところは「全階級の幸福」にあつて、誰もこれに異論のある筈はなかろうから、政黨などは不必要だといふのが、その一流の論理である。

そこでこの目的を達成するために、まづイタリーを十三のシンヂケートに分つ。六個は勞働者階級より、六個は資本家より、そして殘る一つは專門家階級（醫者とか藝術家とか）を綜轄して造りあげ、かくしてこの十三の組合はその本部をローマにをいて政府と密接な關係を持つのである。この組合の會員は除り多くない。ファッシストがこれを運轉することに努力てある點において、ロシアの共產黨の組織に似てゐる。

議員を選ぶのには選擧はない。これ等の組合から八百人の候補者の名をファッシスト中央會へ提出し、中央會ではこの中から四百人を選び、この外に有力なる科學者、藝術家等を自由に加ふることが出來る。この人々が選ばれて後、この名前を印刷して一般に配り出し、昔はファアシスト中央會で選んだ議員の人々を承認するや、と投票せしめるのであつて、贊否同數の場合は有效と認めて議員はそれで當選したことになり、反對が多かつた時は再び五千人を選んで、その中から直接に國民をして投票せしめるのである。

詳細はこの欄では紹介できないが議會の權能を極端に縮少して、政府に殆んど無制限な權限を與ふるのがこの法の眼目である。議會政治の否定もこれまでに行くと痛快といへば痛快である。

ドイツ農民の反逆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ドイツにおける農民の反逆と不安は極めて注目すべき現象で、同國の農民は劍と砲銃を持つて暴動を起し、警官との衝突が諸方面に行はれるといふ狀態である。

元來ドイツは餘り農民騷動といふものがなく、大戰後帝政から共和制になつた時にすら農民は靜かであつた。これがドイツの革命がロシアやフランスのそれに比較して急激でなかつた理由である。この事はなにもドイツに大地主や小作がないといふわけではなく、それは他國と同程度にあるが、あの固苦しい國民性が問題を起さしめなかつたのであろう。

然るに最近このドイツの國内で申し合せたやうに農民不安が起つて來た。東プルシヤにおいて、ポメラニアにおいて、メクレンブルグにおいて、ブランデンブルグにおいて、シレジアにおいて——即ち大地主が蟠居する地方において、地主に對する反抗や、示威運動が盛んに起つて居り、大擧してベルリンに乘り出すなどといふ風說もある。先月の終りにプレスローに一揆起り警官では鎭壓しきれず、軍隊が繰り出したといふ事件すらもあつた。

この農業の反逆は何故であろう、それがやや日本の狀態に似てゐるところに注意すべき點がある。戰後ドイツの通貨は膨脹して紙幣の價値は下落し、そこに一種の空景氣が起つた。その頃農家もこの『好景氣』に連れて浪費生活を送つたが、一度經濟界が落ちつくやその損失は多くは農家に轉化さるゝに至つた。農具は高くなる、肥料は騰る、租稅は高率を課せられる。しかも金融の道は途絶し、土地を有せざるものは無論として、小さい土地を有するものも、これを以て金融の道を講ずることが出來ないといふ有樣であつた。そこでプルシヤ政府の如きは自から出動して土地を買取つたのであつたが、かうした一部的な方法で、危期が救はれるものではない、農民の不滿は益々嵩して行つた。

驚いたのは大地主である。これ農民の『赤化』なりといふので、政府の援助を得て、これを鎭壓せんとし、かくて前記の如くに處々に農民と警官との衝突が起つたのである。この農民の不安は將來益々甚だしからんとし、ドイツの識者の注意をひきつゝあるところであるが、ドイツでは反動的な現政府が却つて暴動を刺激しつゝあるといふので『上からの革命』といつて、政治鬪爭に農民を犧牲にしつゝあるの非を攻撃してゐるものが多い。

新刊紹介

支那史概說
ポット博士著　保々隆矣譯

"A Sketch of Chinese History"

滯支四十年王正廷顧維鈞等の新進政治家を始め幾多の英才を養育した上海セント・ジョーン大學總長ポット博士の "A Sketch of Chinese History" の日本譯である。今日の科學的意味に於ける唯一の支那史たると共に其記述の簡にして要を得たる雜蕪忽屑な從來の東洋史の缺陷を補つて研究家の稗益する所多きを思ふ。滿洲教育專門學校長保々氏の譯筆亦其精髓を傳へて餘蘊がない。(定價二圓八十錢　牛込赤城元町　文教書院)

マルクス主義の宗教否定を難ず
寺田彌吉著

著者多年の研鑽の結果になる佛教基礎論の立場より、マルキシズムに檢討を加へたもの。著者の眞摯にして獨自なる見解には學ぶところ多い。(價九十五錢　東京市外西大久保一〇八　人間高昇社)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夏目漱石論

正宗白鳥

（一）

私はこの頃、はじめて「虞美人草」を讀んだ。この長篇小說は、夏目漱石が朝日新聞に入社最初の作品で、森田草平氏は「明治大正文學全集」に添附された解題に於て、「この作品は、先生が入社後京都に遊んで、歸來直ちに筆を執られたもので、即ち純粹に作家として世に立たれた道程の第一歩で、先生としても比較的此の一篇に力を注がれたらしく、想ひを構ふること愼重に、プロットの上から云つても、一絲亂れず、文章から云つても實に絢爛と精緻を極めたものである」と云つてゐる。

この批評は當つてゐる。プロットが整然として、文章も絢爛と精緻を極めてゐることは、誰れにでも認められる。この一篇だけを例に取つても、漱石が近代無比の名文家であることは、充分に證據立てられる。それでは「虞美人草は讀んで面白かつたか」と訊かれると、私は、言下に否と答へる。「私にはちつとも面白くなかつた。讀んでゐるうちは退屈の連續

を感じた」と、私は躊躇するところなく答へた。

漱石は、獨歩などと違つて、文才が豐かで、警句や洒落が口を吐いて出ると云つた風であるが、しかし、私には、さういふ警句や洒落がさして面白くないのだ。「猫である」は、作者が匠氣なく野心なく、興にまかせて書きなぐつたところに、自然の飄逸滑稽の味ひが溢つてゐて面白かつたが、「虞美人草」では、才に任せて、詰らないことを喋舌り散らしてゐるやうに思はれる。それに、近代化した馬琴と云つたやうな物知り振りと、どのページにも頑張つてゐる理窟に、私はうんざりした。馬琴の龍の講釋でも虎の講釋でも、當時の讀者を感心させたのであらうし、漱石が今日の知識階級の小説愛好者に喜ばれるのも、一半はさういふ理窟が挿入されてあるためなのであらう。

「氣焔を吐くより、反吐(へど)でも吐(は)く方が哲學者らしいね」

「哲學者がそんなものを吐くものか」

「本當の哲學者になると、頭ばかりになつて、只考へるだけか、丸で達磨だね」

哲學者を評した警句として、讀者が感心するのか知れないが、私には、ちつとも面白くない。

「そよと吹く風の戀や、涙の戀や、嘆息(ためいき)の戀ぢやありません。暴風雨(あらし)の戀、曆にも錄(の)つてゐない大暴雨(おほあらし)の戀、九寸五分の戀です」

「九寸五分の戀が紫なんですか」

「九寸五分の戀が紫なんぢやない。紫の戀が九寸五分なんです」

「戀を斬ると紫色の血が出るといふのですか」

「戀が怒ると九寸五分が紫色に閃(ひか)ると云ふんです」

かういふ氣取つた洒落は、泉鏡花の小説のある部分と同樣に、私に取つては、ちんぷんかんぷんである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「長篇虞美人草」の前半は、かういふ捉へどころのない、美文で續くのだからたまらない。私はさきに、漱石を低級の名文家と云つたが、名文家と云ふよりも美文家と云つた方が、一層適切である。兎に角、彼れは美文的饒舌家である。三馬楼などが連想される。

かういふ餘計なものを取去つてしまつて、小説のエッセンスだけを殘すと、藤尾と彼女の母、甲野、小野、宗近など、數人の男女の錯綜した世相が、明確ではあるが、しかし概念的に讀者の心に映ずるだけである。女性に對する細密なる觀察はある。人生に對する作者の考察も膚淺ではない。しかし、この一篇には、生き〳〵した人間は決して活躍してゐないのである。思慮の淺い虚榮に富んだ近代がかりの女性藤尾の描寫は、作者の最も苦心したところであらうが、要するに説明に留まつてゐる。謎の女にしてもさうだ。宗近の如きも、作者の道徳心から造り上げられた人物で、伏姫授受の玉の一つを有つてゐる犬江犬川の徒と同一視すべきものである。「虞美人草」を通して見られる作者漱石が、疑問のない頑強なる道徳心を保持してゐることは、八犬傳を通して見られる曲亭馬琴と同樣である。知識階級の通俗讀者が、漱石の作品を愛誦する一半の理由は、この通常道徳が作品の基調となつてゐるのに本づくのではあるまいか。

私は、最近、菊池寛君の「新珠」など、二三の通俗小説を讀破したので、連想がそれ等の小説に及んだが、藤尾や糸子、あるひは二三の青年の如き男女を表現してゐる點では、むしろ、菊池君などの方が優れてゐるのである。わが佛尊しと見る偏見を離れて見るがいゝ。「虞美人草」の小説的部分は、通俗小説の型を追つて、しかも至らざるものである。……しかし、漱石の大作家たる所以は、その通俗小説型の脚色を、彼獨得の詩才で磨きをかけ、十重二十重の錦の切れで包んでゐるためなのであらう。私の目には、あまり賞味されない色取りであるが、他の多くの人々は、その錦繍の美に眩惑されるのであらう。美辭麗句が無限に續いてゐるやうに思はれるのであらう。

馬琴は、「饑ゑたるものは食を擇ばず、迯ぐるものは道を擇ばず、貧しきものは妻を擇ばず」と云つたやうな、格言じみ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た氣取つた文句で、一回一章を書きはじめることがあつたが、「虞美人草」は、かういふ癖を有つてゐる。「蟻は甘きに集まり、人は新らしきに集る。文明の民は激烈なる生存のうちに無聊をかこつ……」（十一回）「貧乏を十七字に標榜して、馬の蚤馬の尿を得意氣に咏する發句と云ふがある……貧に誇る風流は今日に至つても盡きぬ」（十二回）などの書出しは、今日の讀者には、古めかしく思はれるだらう。宗近と妹との對話、藤尾と母親との對話など、サクリ〱と齒切れがよくつて、なか〱巧みなのだが、例の説明の邪魔が入るので、折角の興が醒まされ勝ちになる。

要するに「虞美人草」は、最初の新聞小説であるがために、雜誌に掲げられるために執筆されてゐたそれまでの小説とは、作者の心構へが自から異つて、そこに作爲の跡が現はれ、作者の缺點を暴露することにもなつたのであらう。何としても冗漫だ。新聞の讀者がよくもかういふ長つたらしい隨筆錄漫談集を、小説として受入れて、辛抱して讀み續けたものだと、不思議に思はれる。今日の時世では、朝日新聞のやうな新聞でも、かういふ長篇小説を安んじて掲載してゐられないであらう。

私は、「三四郎」といふ小説を、半歳ほど前にはじめて讀んだのであつたが、これは、「虞美人草」ほどに隨筆的美文的でなかつたに關はず、一篇の筋立さへ心に殘つてゐない。讀者を感激させる魅力のない長編小説を讀通すことのいかに困難なるかを、その時感じたことだけ、今思出してゐる。

（二）

森田草平氏の「煤煙」が朝日新聞に連載されて、評判になつてゐた時分のことである。ある日、私は、博文館の應接室で、田山花袋、岩野泡鳴兩氏と雜談に耽つてゐるうち、談たま〱「煤煙」の價値に及んで、誰れかゞ非難の語を挿んでゐたが、

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「しかし、漱石の比ぢやない」と、泡鳴は例の大きな聲で放言した。
「それはさうだね」と、花袋は輕く應じた。

私は、默つてゐたが、心中この一氏の批評に同感してゐた。「漱石の比ぢやない」といふ評語を、今日の讀者が讀んだら、「草平の作品は漱石には及びもつかない」といふ意味に解するかも知れないが、あの頃なら、その評語は、「煤煙は、評判ほどのものではないにしても、漱石物のやうな詰らないものではない」といふ意味に受入られるのであつた。それほど、あの頃の漱石は、一般の讀者には盛んに、歡迎されてゐたに關はらず、文壇からはをり〳〵侮蔑の語を投げられてゐた。泡鳴の如きは、最も勇敢に漱石や鷗外を蔑視して、「二流作家」呼はりをもしてゐたのであつた。人間の毀譽褒貶、毀譽褒貶の定めがたきことは、ここにもよく現はれてゐるので、漱石の作品は、死後年を追ふて、ます〳〵世上にのさばり返つて、泡鳴の作品は、この頃たやすく手に入れることの出來ないくらゐに埋沒されてゐる。それは、作品の眞價の然らす自然の結果なのであらうか。私は斷じてさうは思はない。私自身の好惡を別にして、漱石の嶄然たる大作家たることは否定し得ないのであるが、しかし、泡鳴が漱石などとは異つた素質を有つた傑れた作家であつたことも否定し得られたいと思ふ。泡鳴の作品は今日の一般の讀者に認めらるべく、あまりに深いところを持つてゐるのではあるまいか。

世界の文學の種類は千差萬別である。批評家や讀者の好みもさま〲である。私にはおのづから私の好みがあつて、それはいかんともし難いのである。たとへば、明治の中頃以後、特異の作風によつて、一部の文學愛好者に熱愛され、目まぐるしい文藝思潮の動搖變遷の間にも、堅くおのれを持してゐた泉鏡花氏の作品については、私は緣なき衆生と云つていい。幼少の頃から、いろ〳〵な文學に親しんで來た私も、鏡花氏などの作品を鑑賞する素質を、生れながらに缺いてゐるのかも知れない。

さういふと、「自然主義を信奉してゐる作家には、鏡花氏の藝術が分る筈がない」と、獨善的評語が、鏡花崇拜の人々か

ら下されるであらう。しかし私は、文學に於ける自然主義の信仰者であるかないかは別問題として、可成り種類の異つた文學を賞翫して來た。哀傷の文學をも、怪奇の文學をも、艶麗な文學をも、淡彩の文學をも、みなそれ相應に愛誦して來た。私は、長い間歌舞伎芝居に惑溺したこともあつた。「即興詩人」に心魂を蕩かされたこともあつた。かつて「隅田川」を讀んで恍惚としたこともあつた。青年期に於てさへ、落寞たる實生活を經驗してゐた私は、藝術の世界に於ては、人一倍現實を離れた夢をそこに見てゐたかも知れなかつた。父祖の遺傳や環境から云つても、藝術的才華を身心に具へてゐないに違ひない私は、自から艶かな夢を描く力は缺いでゐて、貧寒な文章をのみ書きつゞけて今日に至つたのであるが、自分の描かんとして描き能はざる美しい夢を描いた文學を愛好することは、人後に落ちなかつたと思つてゐる。しかし、鏡花氏の文字によつて描かれた夢の世界は、私には窺ひ得られざる別の天地である。氏の文字や着想は、すべて私の翫賞慾を跳ね返して、氏獨特の世界へ私を入れさせないのである。殆んど、一章をも一節をも快くは讀み得られないのである。………氏の讃美者のいろ〳〵な評語も、私に取つては、いつも空言としか思はれない。したがつて、明治以來の知名な作家の重な作品は大抵讀破したつもりの私も、鏡花氏のだけは、いくばくも讀んでゐない。讀まうとしても讀めないのである。

これでも、氏の初期のものは、昔幾篇かを通讀した。そして「照葉狂言」「湯島詣」「夜行巡査」「高野聖」「琵琶傳」など、初期の作品は、氏のその後の作品よりも、鏡花臭があくどくなくつて、純新素朴で、藝術として傑れてゐるのではあるまいかと、ひそかに思つてゐる。

私の學生時代には、當時の新進作家のうちで泉鏡花の名聲が最も光つてゐた。島村抱月氏主宰の下に、我々數人の文科生によつて催された合評會で、最初に撰んだものは、「新小説」所載の鏡花氏の「註文帳」であつた。私が世間に發表した最初の文章は、この「註文帳」の批評であつた。私はまた、その頃數人の級友とともに、鏡花氏を訪問したことがあつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。島村氏も、屢々鏡花氏を推讃してゐた。歐洲留學から歸朝した後、間もなく島村氏は、當時の文壇の不振について批判を加へてゐるうち、「しかし、鏡花だけは、他の凡庸の徒とちがつてゐる」と云つて、文藝倶樂部所載の「[illegible]」と題された彼れの新作を稱讃した。

年少の頃には、人はたやすく周圍にかぶれるものである。自然主義流行の時代にでも、マルクス主義流行の時代にでも、周圍が騒がしく囃立てゝゐると、年少の徒は、それ以外に眞理はないと思つて雷同するのである。確信をもつて異を樹つることは難い。私も、鏡花讃美の聲を、左の耳からも右の耳からも聞かされてゐると、譯も分らずに、正體も分らずに、鏡花のえらさに感歎しなければならない氣持になることもあつた。多數の拜む偶像をば、われも拜みたくなるのが、人間通有の面白い心理らしい。鏡花漱石など二三の文人について、私自身の經驗した些細なことも萬般の世相に廣く押及ぼして見ると面白いのである。

私は、今、新潮社出版の「現代小說全集」中の泉鏡花集を取出して、久振りに鏡花氏の作品に目を觸れた。しかし、何縺らず讀むに堪へぬのである。何となく名文らしい感じがするだけで、私の心に響くところは少しもないのだ。卷頭の「玄武朱雀」は、ひどくイナセな景氣のいゝ書きつ振りだが、この鏡花式とも云つていい調子づいた文章が、私には快く受取れない。有り振れた平坦な寫實的描寫を試みないのが、この作者の特色であるが、異常な特色を有つた文學は、それを受入れるに足る素質を備へた少數の讀者にのみ賞翫されるのであらう。「玄武朱雀」を努力して讀通した私はこの調子づいた文章に於て、作者がうしろ鉢卷でステヽコを踊りつづけてゐるのを見るやうな感じがした。

「國貞描く」は、久振りに歸省した男が舊知を訪ねる道すがらの追憶などに、情趣が豐かに漂つてゐる譯なのだが、それでさへ、文章がいやに踊つてゐて、感じが私の心に傳はつて來ない。「白鷺」の如きは、優にやさしい女性の心を現はしてゐるらしいのだが、曲りくねつた文章に、私の神經はじらされるばかりであつた。……ただしも初期の文章の方が、いや

みがなかつたのではあるまいか。

私は、昔の鏡花氏の小說のうちに、酒宴の席に、誰奴か誰れかゞ入つて來たのを形容して、「池田の宿から朝顔がまゐつて候」と書いてあつたのを、よく思出すのである。含蓄のある洒落で、鏡花式修辭法から云へば、一つの標本的名文句としていゝのであらうが、私の心は、かういふ表現法にはどうしても從つて行けないのである。

(三)

夏目漱石は、泉鏡花を非凡な作者として推稱してゐたさうである。さう云へば、漱石の文章には、鏡花と似たやうなところがないでもない。「虞美人草」のなかに散亂してゐる洒落や警句には、鏡花の文章から受ける感じに似通つたものがある。一種のくさみをもつた氣取りである。

これ等二氏を、舊式の文學分類法により「ロマンチシズムの作家欄」に收めて觀察すると、兩者の間にいろ／＼な類似を見出し得られるのであるが、しかし、それは皮相な類似であらう。

私は、「虞美人草」以前の漱石の作品は、少くも過半は、發表當時に通讀してゐる。そして、隨筆が自由自在で、千言立ちどころに成るといつた文才を不思議に思つた。「カーライル博物館」とか「倫敦塔」とかを讀んで、名文章として感心してゐた。當時の文壇には、鷗外以外には、かういふどつしりした文章を書く人はなかつたのだが、鷗外はもつと骨つぽくて、漱石ほどの滋味を缺いてゐた。「草枕」を三日で書上げたとか、「二百十日」を一日で脫稿したとかいふ噂を聞いて、その筆の速さに驚いたこともあつた。しかし、「二百十日」だの「琴のそら音」だのは、小說としては詰らないものだと、發表當時に、私はさう思つたのであつたが、當時の讀後感を、私は今も改めようとは思つてゐない。「倫敦塔」や「草枕」などが、漱石の天分と修養とをよく發揮した作品であつて、世相の描寫や、人間そのものの眞相を掘つて行く力は、當時の彼れには、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まだなかつたのであつた。四十近くなつてから筆を取出した彼れの作品には、「舞姫」も「うたかたの記」もなかつた。青春の悩みなどは、彼れはつひに描かないで済んだ。

漱石は、よくも悪くも、「虞美人草」から、小說道に踏込んだのであつた。妙なもので、小說を自己畢世の職業とすることに極まると、左右前後の人生を、小說家的眼光をもつて見渡すやうになるのである。それで、以前は、淡々として、俳句か俳體詩でもつくるやうな氣持で、心のまゝに筆を動かしてゐた漱石も、（意識的にか無意識的にか）新たなる態度で、左右を見るやうになつた。彼れは、朝日新聞のお雇作家となつたがために、一歩々々人生を深く廣く見るやうになつたのである。聰明炯眼な彼れは、たとへ多く書齋裡に跼蹐してゐても、門下生や崇拜者に取卷かれて、太平樂を云つてゐたとしても、怠慢な觀察に安んじてゐなかつた。人間のいろ〳〵な心理を見る目は光つてゐた。「虞美人草」は、前期の漱石の趣味に蔽はれて、小說的人物は、たゞお粗末な形を具へてゐるに留まつてゐるのだが、それからはじまつて最後の「明暗」まで、彼れの小說道の努力は續いた。

しかし、四十以後に小說修業の途に上つた彼れは、根本に於て變化を來すことはなかつた。時代の流行に附和雷同することもなかつたし、左顧右眄煩悶苦惱するところもなかつた。乙女小說から「蒲團」に轉じた田山花袋のやうな自己革命など無論經驗しなかつた。

彼れの小說の見本は、初期の「ぼつちやん」に於て決定されてゐるのであつた。「猫」とゝもに、最も廣く讀まれてゐる小說で、私も三四度讀んでゐる譯である。先日本郷座の舞臺に上演されたのをも見た。讀んでも面白かつた。芝居でも面白かつた。通俗小說としても、通俗劇としても、しめつぽいところのない、明るいお目出たい、懷疑のない、健全なものであつた。漱石が日本の國民的作家となつてゐる所以もこゝにあるのであらうか。英國の國民的作家として先日逝去したトマスハーディが暗憺たる運命觀を保持してゐたのとはちがつてゐる。漱石を愛敬する日本の國民性は、しかく、明る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くつてお目出たくつて、懷疑のない健全なものなのであらうか。外來の自然主義風の文學が、地味の適しないところに播かれた種子の如く、發育不良で繁茂しなかつたも、その譯なのであらうか。

私は、「猫」のまだ世に現はれない以前、漱石がまだ無名作家であつた時分、彼れに關する短評を、讀賣新聞に掲げたことがあつた。それは、「源兵衛村から誰れとかゞ大根を持つて來た」といふやうな瓢輕な俳體詩を、「ホトトギス」誌上で讀んで感心したゝめであつた。

當時、私は新聞記事の材料を得るために、近所の畔柳芥舟氏ををり／＼訪問してゐたので、ある日、氏に向つて、俳體詩の話をすると、氏は、それに連關して、漱石の人となりを、いろ／＼私に話して聞かせた。彼れが讀書家であること、世間的名譽の外に超然としてゐることなどを話して、畔柳氏自身、彼れに敬服してゐるらしい口吻であつた。「高濱君と俳體詩なんかをやつてゐゝ氣になつてる」と云つてゐた。これによつて見ても、漱石は、無論、他の多くの文學者の如く文筆を以つて世に立たうとする考へはなかつたのだと察せられる。鷗外や上田柳村とも異つてゐた。私が讀賣新聞で、漱石を讃美し、柳村を貶した筆法を非すると、柳村は、「積極的に何かやらうとするものを非難して、消極的な生活に甘んじてゐるものを褒めるのはいゝことであらうか」といふ意味のことを、私に云つた。しかし、間もなく、漱石は急轉直下の勢ひで世上に活躍しだした。

當時の讀賣新聞の主筆であつた竹越三叉氏は、漱石招聘を企てて、自分で交渉に出掛けたやうであつたが、私も一度主筆の命を奉じて、駒込の邸宅に漱石を訪問した。新聞記者として訪問ずれのしてゐた當時の私は、學生時代に鏡花訪問を試みた時のやうな純な氣持は失つてゐて「お役目に訪ねて來た」といふ感じを、露骨に現はしたらしかつた。部屋の樣子も、主人の態度も話し振りも、陰欝で冴えなかつた。「草枕」を發表して名聲嘖々たる時であつたのに關はらず、得意の色は見えなかつた。「竹越さんが先日訪ねて來たが、僕を先生と云つてゐた。しかし、竹越さんの方が僕よりも年上ぢやない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だらうか」「小説を書きだしてから、丸善の借金は濟した」と、與もなげに云つたことだけは、今もなほ覺えてゐる。その時坂元雪鳥君が來てゐたが、この人の話の方が元氣がよくつて座が白けないで濟んだ。讀賣入社の件は無論駄目であつたが、間もなく日曜の文學附錄へ、一篇の評論を寄稿されたのが、漱石が讀賣に對する寸志と見るべきであつた。

例の叫柳氏にこの話をすると、「漱石が新聞社なんかへ入るものか」と、賴みに行く方が馬鹿だと云はぬばかりに云つて、笑つた。私は成程と同感した。

ところが、それから、半年も經たぬ間に、夏目漱石先生は、堂々と朝日新聞社に入社した。私は意外に感じた。人は、處世上の利害の打算によつてどうにでも動くものである。あの人に限つてそんなことはないと斷言するのは淺墓な考へである。漱石先生と雖も例外である筈がない。竹越氏は私に向つて、「漱石は、讀賣入社については不安を感じてゐるらしいが、社では約束は確實に守る。本野一郎君に僕からさう云つて、將來の地位の安全は保證する」と云つたが、さういふ言葉をそのまゝに受入れるべく漱石は、あまりに聰明であつた。讀賣では前途に不安を感じて、乘り氣にならなかつた彼れが、朝日ならと乘り出したところに、彼れの人生觀察の目の動きが見られる。

島村抱月は、その頭腦の聰明さに於ては漱石に劣らなかつたが、晩年一婦人の愛に惑溺して常道を逸した生活を過した人ほどあつて、あまく調子に乘つて利害を見る目のくらむことがあつたらしかつた。衆人の期待を荷つて歐洲留學から歸朝した時、讀賣では、かねての關係もあることだから、彼れの助力を待設けてゐたのであつたが、彼れは、容易に日々新聞の招きに應じた。當時は文藝には緣のなかつたその新聞を踏臺として、自己の勢力を扶植しようとした。それが出れば不適當な舞臺でも生かして見せると氣を負つてゐたのであつた。ところが、滿一年を過ぎると無雜作に社の方から斷はれてしまつた。その頃私は伊原青々園氏に聞いた。氏は抱月に忠告して、「君は日々のやうな場所違ひの新聞に書くよりもやはり讀賣に書いた方がいゝぢやないか」と云つたが、彼れは、自信あるらしく、忠告に耳を傾けなかつたさうであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

抱月よりも漱石の方が、自己と周圍との觀察に於て用意周到であつた譯だ。

（四）

「坊つちやん」は、筆がキビ／＼してゐるのと、例の美文脈の衒俐味よりも、事件の運びに富んでゐるのと、主人公の人となりがキビ／＼してゐるので、萬人向の小説になつてゐる。大抵の人に面白く讀まれさうである。「不如歸」や「金色夜叉」などよりも、いやみがなくつて、いゝ通俗小説である。しかし、ここに現はれてゐるいろ／＼な人間は型の如き人間である。ここに現はれてゐる作者の正義觀は卑近である。かういふ風に世の中を見て安んじてゐられゝばお目出たいものだと思はれる。

漱石が、モウパツサンの「首飾り」を非難した講演錄を讀んだことがあつたが、そこに含まれてゐた非難の個所は、このフランスの作家が、作中の薄給者夫妻の長い間の苦辛を無意味なものゝやうに取扱つた點にあつた。モウパツサンに對する道德の立場からの非難は、トルストヰによつて、峻烈に下されたのであつて、さういふところに、いろ／＼な文學者の見解の相違が見られて面白いのであるが、トルストヰ自身の描いた人間は、漱石の描いた人物のやうに、やす／＼と道德の支配を受けるほど薄手ではなかつた。そしてトルストヰの道德觀は、彼れの深い惱みと表裏してゐた。「ぼつちやん」に現はれた漱石のそれのやうに安價ではなかつた。

漱石の大部の「文學論」集や「文學評論」集は、彼れの學殖と批判力とを充分に現はしたもので、文學研究者を裨益する良書である。私は學ぶところが少くなかつた。「英國十八世紀の文學評論」は、日本人の觀察した西洋文學觀として、これほど委曲を盡したものは、他に類がないだらうと思はれる。私としては、漱石が小説は書かないでも、この調子で、英國各時代の文學史を書殘してゐたなら、もつと有難かつたと思つてゐる。

「文學論」集の序文に於て、彼れは、から云つてゐる。

「倫敦に住み暮らしたる二年は、尤も不愉快の二年なり。余は、英國紳士の間にあつて狼群に伍する一匹のむく犬の如く、あはれなる生活を營みたり。……歸朝後の三年有半も亦不愉快の三年有半なり。去れども、余は日本の臣民なり。不愉快なるが故に日本を去るの理由を認め得ず。日本の臣民たる光榮と權利を有する余は、五千萬人中に生息して、少くとも五千萬分一の光榮と權利を支持せんと欲す。此光榮と權利を五千萬分一以下に切り詰められたる時、余は余が存在を否定し、若くは余が本國を去るの擧に出づる能はず、寧ろ力の續く限り、之を五千萬分一に囘復せんことを努むべし。是れ余が微少なる意志にあらず、余が意志以上の意志なり。……英國人は余を目して神經衰弱と云へり。ある日本人は書を本國に致して余を狂氣なりと云へる由。……歸朝後の余も、依然として神經衰弱にして兼狂人のよしなり。親戚のものすら、之を是認するに似たり。……余が身邊の狀況にして變化せざる限りは、余の神經衰弱と狂氣とは、命のあらん程永續すべし。……」

かう鬱勃たる不平を述べてゐる。「猫」その他の諸作品に於てどなく「文學論」の序文に於て、精神の惱みを直截に述べてゐるのは面白い。そして、神經衰弱にして狂人なるがため「猫」や「漾虛集」や「鶉籠」を著はしたと、皮肉を云つてゐる。

「十八世紀文學論」のうちでは、スヰフト論が最も光彩を放つてゐて、これほど微細に且つ鋭利に、スヰフトを解剖し觀察し賞賛したものは、英國に於てもないに違ひない。サツカレーやハズリツトなどのスヰフト觀も、漱石に比べると見方が皮相である。そして、漱石は、この稀代の諷刺家厭世家スヰフトを非常に高く評價してゐる。「不滿足を現はす文學的表現」の階段を四種に分ちていろ〳〵に例を擧げたあと、スヰフトをもつてそのどん詰りとしてゐる。

「普通の不滿足は必ず一方に滿足を控えてゐる。もしくは夢見てゐる。スヰフトの不滿足には此對立がない。…… 過去現

在未來を通じて、古今東西を盡くして、苟しくも人間たる以上は、悉く嫌惡すべき動物であると云ふ不滿足である。從つて希望がない。救はれ様がない。免かれ様がない。彼れの諷刺は噴火口から迸しる氷の樣なものである。非常に猛烈であるけれども、非常に冷たい。人を動すための不平でもなければ、自から免れるための不平でもない。どうしたつて世界のあらん限りつゞく、不平の爲めの不平だから、スヰフト自身は常て激してゐない。冷然平然としてゐる。何だかスヰフトなるものが重たい石のやうに英國の眞中に轉がつてゐるやうな氣がする。さうして此石が一つある爲めに、左右前後は無論、全世界に蠢動する人間と名のつくものが、悉く石に變化した樣に思はれる。なぜと云ふと、彼れは如何に憎惡の意を洩らしても決して赤くならない。又決して殷懃にも出ない。同情は固よりない。……」

漱石の見たスヰフトは、通俗の文學史家の見たやうな淺薄皮相な諷刺家ではないのである。古今東西の文學史に散在してゐる諷刺家や厭世家は、大抵は一方で甘い夢を見てゐるので、彼れと心を同うして見てゐると、世界の殆んど凡ての文學者が甘ちやんなのである。馬琴の「夢想兵衛」などは「ガリヷア旅日記」に比べると、お話しにならないほど卑俗であり膚淺である。そして、漱石の所論を熟讀してゐると、彼れはスヰフトを客觀的に研究し解剖してゐるだけではなくつて、スヰフトの見解に可成り同感し共鳴してゐるのではないかと疑はれる。さうでなければ、あゝまで深くスヰフトの心境に立入つた傑れた批評が出來る譯はないと私には思はれる。

しかし、一部分だけでもスヰフトと心を同うしてゐる漱石が、自分の創作に於ては、なぜ「ぼつちやん」の如き、通俗的小說を書くのであらうか。留學中にも歸朝後にも滿腔の不平を抱いてゐた筈の彼れの鬱憤はこんな小說で洩らされる程度であつたのか。………私は、漱石の創作に現はれてゐる彼れの心理について、少からぬ興味を覺えだした。鷗外は聰明至極で筆致も明快であつたが、心の働きが單純であつた。漱石は複雜である。

彼れは、生眞面目に堂々とスヰフトを論じてゐるうちにも、時々はおひやらかしを云つたり、忘れてゐたものをふと思

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

出したやうな態度で卑近な道德に拘泥した口吻を洩らしてゐる。こゝらが、讓步のない冷靜なスキフトとは違つた漱石の眞面目なのであらうか。彼れは「ドンキホテ」についても、「多數の評家は諷刺と見るやうだが、私には花見の畫同樣な感がある」と、おひやらかしてゐる。

(五)

私は、「それから」を改めて讀んだ。

この長篇は二年ほど前に、歸省の途上、汽車のなかで通讀して、直ちに簡單なる讀後感を讀賣に寄稿したのであつたが、作品から受けた印象は間もなく私の頭から全く消失せてゐた。それほど感銘の薄い作品であつた。

しかし、この小說は、漱石の作中でも、殊に深刻味のあるものとして、知識階級の讀者に推讃されてゐると聞いたので、今度改めて讀直したのである。

「虞美人草」を讀んだあとで「それから」を讀むと、この作者の小說構成術の進步が見られる。前作では、小說らしいところはぽつちりしかなくつて、隨筆風の低徊趣味が果てしなく跋扈してゐたのであつたが、後作では、全篇の初中後がもつと有機的に構成されてゐる。作中人物のそれ〴〵がもつと現實の姿を備へてゐる。しかし、私には、最初讀んだ時にまさつた興味は感ぜられなかつた。

「虞美人草」でも、「彼岸過迄」でも、「心」でも、あるひは「明暗」でも、漱石の長篇小說の作風は、後に何か奇拔なことが出て來さうに讀者に期待させながら、くどく長く讀者を引づつて行くので、讀者には辛抱が入る。凡庸な作者は、讀者を釣つて行くだけで、最後に手品箱から取出された手品の種は案外詰らないことが多いのだが、漱石の手品箱には、いつも相應に見事なものが潜められてゐる。「それから」にも、主人公代助が友人の妻三千代に對する心理の交錯に、讀者の心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を充分に捉へる力を有つてゐるのである。彼れの胸に潜んでゐた秘密を、女の夫や、父や兄や兄嫁や讀者の前にさらけ出した時には、彼れの人生は混亂し、「世の中は眞赤」になる譯である。………ところが、作者が筆を盡してゐるにかゝはらず、事相が私には空々しく思はれて、胸を抉られるやうな感じがしないのだ。私ばかりがさうなのであらうか。

「代助は西洋の小說を讀むたびに、そのうちに出て來る男女の情話があまりに露骨で、あまりに放肆で、且つあまりに直線的に濃厚なのを平生から怪しんでゐた。日語で讀めば兎に角、日本には譯し得ぬ趣味のものと考へてゐた。從つて彼れは自分と三千代との關係を發展させるために、舶來の臺詞を用ひる意志は毫もなかつた」と云つてゐるが、漱石は男女關係を描くにあたつて、つねにこの心構へを棄てなかつた。人倫五常の道義を表に振翳しながら、傍ら、忌憚なく淫蕩の情景を描寫してゐた馬琴とは違つて、漱石はあくまでも品位を保つてゐた。それは彼れの創作の風格として尊重していゝことなので。私は、漱石がモウパッサンなどの作風を眞似なかつたのを遺憾に思つてゐるのではないが、「それから」の代助が、そんなに熱烈に三千代を戀してゐるやうには思はれないのである。代助の心は躍つてゐない。血は沸いてゐない。作者の頭は自在に働いて、戀愛心理の經過に於ても、へまなことは書いてゐないのだが、どこまで行つても理詰めな感じがする。へまなところがなさ過ぎるので窮屈である。新聞小說執筆前の初期の作品、「猫」の如き、「草枕」の如き、「ぼつちやん」の如き、みんな、のび〳〵としてゆつたりしてゐたが、「それから」やその他の長篇小說は、くどく詳しく書かれてゐるに關はらず窮屈である。

「代助は泣いて人を動かさうとするほど、低級趣味のものはないと自信してゐる。凡そ何が氣障だつて、思はせ振りの、涙や煩悶や、眞面目や、熱烈ほど氣障なものはないと自覺してゐる」と云つてゐるが、彼れの創作の用意にはこの氣持が嚴守されてゐる。普通の小說の思振りに對する彼れの反抗心もここに徵見してゐる。

彼れ漱石も、ある意味で代助の如く、ニルアドミラリの域に達してゐたのであらう。……私はかう思ふ。彼れは、學究

的職業から離れて、小說によつて生活の料を得ることになつて以來、當面の必要上、世間と人間の眞相を考察し思想して、それを机上に持つて來たのであらうが、考察や思想の結果として得た人と人との間の愛慾や鬪爭を、彼れは、つまりは、ニルアドミラリの目で見てゐたのではあるまいか。彼れと同時代に自然主義作家として區別された花袋や藤村などは、案外傍觀的や客觀的の作家ではなくて、漱石の見方から判斷すると、思はせ振りの涙や、煩悶や、眞面目や熱烈を作品に傾注した、氣障な作家であつたのかも知れなかつた。彼れがツルゲネーフ全集を讀んでゐるといふ噂を[illegible]聞いたことがあつたが、彼れはツルゲネーフに於ても、思はせ振りの氣障な作家を見たかも知れなかつた。

ニルアドミラリの極は、文學としてはスヰフトの域に達しなければならぬ。彼れは一面さういふ素質を有つてゐたらしいのだが、それを、徹底させなかつた。……思はせ振りのもの氣障なものを、思はせ振りのもの氣障なものとして、スヰフト式に冷靜にあるひは冷嘲に、人間といふ生物の愚かしき行作として描寫しないで、尤もらしく重みをつけて書いたのは、彼れの職業意識と、傳統的道德癖とに由るのであらう。彼れは腹の底では、雜多紛々の色戀沙汰などに、卑い人生の意義を見たりしてなんかゐなかつたのであらうか。

深い人間心理を微細に取扱つたいくつかの彼れの小說を讀むと、よく知つてゐるのに感心されるが、いつも實感が缺けてゐて、生な人間らしいところが缺けてゐるので、强く胸を打たれることがない。

何と云つても、彼れの長篇小說のうちで生氣に富んでゐるのは「道草」である。「それから」なども、漱石の他の多くの小說の如く、頻りに道草を喰つてゐる小說で、その道草が例の如く、アンドレーフの「七刑人」の說明だつたり、ダンヌンチオの部屋の色の說明だつたり、文學論だつたり、社會觀だつたりして、やゝもすると、小說の中へ雜錄がまぎれ込んだのぢやないと思はれるのだが、「道草」は、題は明らさまに道草を標榜してゐながら、內容は首尾を通じて、生々した人生記錄なのである。

（六）

「門」を今度はじめて讀んだ。

窓前の若葉を見上げては目を休めながら、半日足らずの時間で讀通した。逝く春の感ぜられるこの頃の時節には、私は毎年、「花よく〳〵と浮れぞめきし人の心も稍々鎭まりて、一輪早咲きの躑躅花の上を、孱弱の蝶の行き戻りする四月の末の春景色」といふ、北村透谷の「宿魂鏡」の書出しの一節と、「江南四月草青々、千山花落杜鵑啼」といふ、鷗外一派の翻譯詩集「面影」のうちに收められた平家物語鬼界ヶ島漢譯の一句を思出すのを常例としてゐる。これ等の平凡な詞句にも、それを初めて愛誦した當時の、少年の夢が纒綿としてゐて、私には言ひ知らぬ懐しみが存するのである。我々の文學鑑賞には、作品それ自身の價値以外に、かういふ讀者各自の主觀の色が添つてゐるのである。

私は、「門」を机上に伏せては、窓外に澱んでゐる悩い春を眺めた。あるひは、漱石の他の文集にある「修善寺日記」や「思ひ出すことなど」を拔讀みして、小說以上の興味を感じた。漱石自身も職業意識の伴つてゐる小說に筆を執るよりも、かういふものゝ方に、自己本來の趣味を感じてゐたのである。

縹緲玄黃外、生死交謝時、杳然無寄託、懸命一藕絲、命根何處是、窈窕不可知、――――孤愁來落枕、又擾蕭蜩悲、仰臥秋已闌、苦病欲銀髭、寥廓天猶在、高樹空餘枝、對比仲悵久、晚懐無盡期

病後に作られたかういふ古詩を私は微吟した。そして、この詩人の氣持がぴつたり自分の氣持に合ふのを感じた。小說については、私の氣持は何となく、彼れの氣持とそぐはないところがあるやうに思はれるのだが。……

しかし、「門」は、傑れた作品である。「それから」のやうに理窟責めのギチ〳〵した小說ではない。「虞美人草」のやうな美文で塗り潰された退屈な小說ではない。漱石は、ここに於てけば〳〵した美服を脫いで、袴も脫いで、平服に着替え

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、業々と浮世を語つてゐる。例の今に面白いものを見せるぞと云つたやうに、讀者を釣らうとする山氣がない。はじめから、腰辨夫婦の平凡な人生を、平坦な筆致で淡々と敍して行くところに、私は親しみをもつて隨いて行かれた。この創作態度や人間を見る目に於て、私は漱石の進境を認めた。——さう思つて讀んでゐた。ところが、しまひの方へ近づくと、この腰辨夫婦は異常な過去を有つてゐることが暴露された。私は、新劇で、鱶七が引抜いて金輪五郎になつたのを見るやうだつた。安官吏宗助實は何某と變つて、急に深刻性を發揮するのに驚かされた。友人の妻を奪つた彼は、「それから」の代助の生れ變りのやうな氣がした。さう云へば、はじめから、何かの伏線らしい變な文句がをり〳〵挿まれてゐたのだが、他の小説とはちがつて「門」にはしみ〴〵とした、街氣のない世相の描寫が續いてゐたので、私は、それだけに滿足して、貧しい冴えない腰辨生活の心境に同感して、變な伏線なんかをあまり氣にしなかつたのであつた。それほど柔順な讀者であつたために、後で作者のからくりが分ると、激しい嫌惡を覺えた。宗助が正體を現はしてからの心理も一通り書けてゐるには違ひないが、眞に迫つたところはなかつた。鎌倉の禪寺へ行くなんか少し巫山戲てゐる。……作者はどの小説にも〳〵なぜこんな作法を用ゐるのであらうか。腰辨宗助の平凡生活だけでいゝではないか。作者はこれだけで世相を描出し得る手腕を有つてゐるのである。

思ふに、責任感の強いこの作者は、新聞小説家として讀者を面白がらせなければならぬと云ふ職業意識から、こんな餘計な作爲を用ひたのではあるまいか。初期の漱石は、水の流るゝ如く雲の動く如くに筆を運んでゐた。「門」のはじめの方に、「いくら容易(やさし)い字でも、こりや變だと思つて疑り出すと分らなくなる。此間も今日の今の字で大變迷つた。紙の上へちやんと書いて見て、ぢつと眺めてゐると、何だか違つた樣な氣がする。仕舞には見れば見る程今らしくなくなつて來る」と宗助に云はせてゐるが、かういつた感じは、私もをり〳〵經驗することがある。日常の茶の間ばなしのうちにこんなことを云はせて置いて、最後に迷ひを晴らしに禪寺へ行くのが、宗助の人となりとしてさう不調和でな

いやうに仕組んでゐるなんか、この作者が脚色に抜け目のないことが察せられる。兎に角、構成の才は充分に有つてゐる人なので、戯曲を書かうと思へば書けた人なのである。

この頃劇場で上演用の新脚本に缺乏してゐるため、盛名ある漱石の小説の戯曲化が流行しだした。「猫」のやうな、どこから見ても芝居にならないものまでも脚色しだした。やがて、彼れの他のいろ〳〵な長篇小説が戯曲化されるのではないかと危まれる。生前の漱石は夢にも思はなかつたことで、芝居嫌ひの彼れが、地下で聞いたら、作品の神聖が傷けられたやうにいやな顔をするだらう。

しかし、彼れの新聞小説には、お芝居じみたところがあるのだ。探偵小説じみたところもあるのだ。彼れは、探偵といふ者を嫌つてゐたに關はらず、探偵小説を書き得る素質をも有つてゐた。「彼岸過迄」は、殊に探偵小説らしい分子に富んでゐる。

彼れは「門」を書いた後大病に罹つて、暫らく新聞小説の筆を絶つてゐた。責任感の強い彼れは、お雇ひ作家としての義務を怠つてゐたことを心苦しく思つてゐたらしい。「久振りだから成るべく面白いものを書かなければ濟まない」といふ氣になつてゐた。俗受けを顧慮する氣持が不斷にも勝つてゐたことは、「彼岸過迄」に添へられた序文を讀んでも察せられる。森鴎外が、日日新聞に於て、平然として、あの非通俗甚だしい考證的史傳を書續けた氣持とは大いにちがつてゐる。

私は、數年前に一度通讀したことのあるこの長篇を、今度讀直した。この小説は、この作者のどの小説よりも手の込んだもので、漱石の頭腦がいかに複雜に回轉するかに驚かれる。前半の探偵趣味浪漫的探偵趣味、「異常に對する嗜欲」の發揮は、彼れが愛讀してゐたらしいスチーヴンソンなどから、暗示され啓發されたらしく思はれるが、理智に於てスチーヴンソンより優れてゐた彼れは「新アラビア物語」や「寶島」の作者のやうに、「異常」や「冒險」に陶然として心を浸しただけではゐられなかつた。自分で作つた夢を、自分で破つてゐる。ここには、鏡花趣味も含まれてゐるが、漱石は白鷺にタ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へイのない夢を見て、そこに安んじてはゐられなかつた。蛇頭を彫つた異様な洋杖でも、女占ひ者の神秘らしい話でも、條理明斷に取扱はれてゐる。鷗外や漱石の小說を通して見る人生には、神秘不可解の影はないので、外の作者に物足りないからそんなものを感じるのではないかと思はれる。

「話が理窟張つて六ケしくなつて來たね。あんまり一人で調子に乘つて饒舌(しゃべ)つてゐるものだから」と、作中の人物に云はせてゐるのは、作者自身、あまりに獨りよがりの心理解剖をし過ぎてゐるのに氣がついたゝめの申譯であつて、「右か左へ自分の身體を動かし得ない唯の理窟は、いくら旨く出來てゐても、彼れには用のない贋造紙幣と同じ物であつた」と、他の人物に云はせてゐるのも、作者自身讀者の思惑を氣にしたゝめの照れ隱しであらう。

しかし、この小說のうちの「須永の話」は、今度も面白く讀んだ。「虞美人草」の藤尾は、着物は派手に出來てゐるが肉體が作られてゐない。「これから」の三千代は、影が薄い。「門」のお米は日陰の女らしく描かれてゐるが、女性としての神經が通つてゐないやうな感じがする。……私は「須永の話」を中心とした「彼岸過迄」に於て、はじめて、漱石の頭から描きだされた潑剌たる女性を見るのである。それほど千代子はよく描かれてゐる。温かい肉體を備へてそこに鮮かに浮出してゐる。彼女に對する須永の嫉妬焦慮の氣持も讀者の胸に迫る力を有つてゐる。今までの漱石の作中に現はれてゐなかつた氣持である。私は漱石の人生觀察心理解剖が、一作每に深くなつて行くのを感じる。彼れは新聞小說を職業としたゝめに、餘儀なく人生研究に目を向け、その結果が自己の修養になつたのである。

かういふ性質の須永が千代子に對してかういふ態度を取つたと云ふだけで、一篇の好材料になる譯だが、この作者は、例の如く二重にも三重にもひねくつて、須永をある不幸な運命の下に置かれた男として、そこに須永の性癖の由つて來たる原因を索つた。

鎌倉で小鯵の一匹を食ふことから、ふと話の筋を引出して「是はまた誰れにも話さない秘密だが、實は單に自分の心得

として、過去幾年かの間、僕は母と自分と何處がどう違つて、何處がどう似てゐるかの詳しい研究を人知れず重ねたのである――缺點でも母と共に具へてゐるのなら、僕は大變嬉しかつた。長所でも母になくつて僕だけ有つてゐると甚だ不愉快になつた。そのうちで僕の最も氣になるのは、僕の顏が父にだけ似て、母とはまるで緣のない目鼻立で出來上つてゐる事であつた」といふ須永の話を讀むと、讀者は作者のからくりに氣がついて、また例の趣向かと微笑されるのである。

果して、須永は現在の母親の實の子ではなくつて、早逝した父親が小間使に生ませた子であつた。しかし、續けて讀んで行くと、この事實が、さして痛ましい世相として讀者を動かすほどには描かれてゐなかつた。むしろ、須永出生の秘密に關する追窮はいゝ加減にして、千代子との交渉をもつと發展させて小說を進めた方が面白かつたのだが、それに漱石は、企てゝも爲遂げ得なかつたかも知れない。

（七）

「彼岸過迄」の須永と云ひ松本と云ひ、「それから」の代助と云ひ、「心」の先生と云ひ、その他の作品中の某々など、漱石の小說には、可成りの資産を有つてゐて遊んで暮してゐる高等遊民が多い。知識があつて、暇があるのだから、ともすると、丹念に自己解剖に耽るのである。そして、作中の老人は、詩會へ行つたり骨董を翫んだり謡曲をやつたりする。今日の文壇で盛んに論爭されてゐる社會意識は、彼れの小說には殆んど現はれてゐないと云つていゝ。しかし、彼れが、今日の世に働いてゐたなら、聰明なる見解をもつてそれを取扱つてゐたであらう。鷗外は、共產主義に關する歷史的研究をはじめたが、はじめたばかりで倒れた。彼れは旺んな知識慾によつてさういふものを研究はしても、盲目的に時の流行に附隨しなかつたに違ひなかつた。「善とは家畜の群のやうな人間と、去就を同うする道にすぎない。それを破らうとするのは惡だ。善惡は問ふべきではない。家畜の凡俗を離れて、意思を强くして、貴族的に高尙に淋しい高いところに身を置きたいといふのだ。その高尙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な人間は假面を冠つてゐる。假面を尊敬せねばならない」と云つたやうなほこりを彼れは有つてゐた。しかし、漱石はもつと平民的であつた。鷗外よりも豐かな藝術的天分は有つてゐたが、周圍を顧慮するところがあつた。「成金の亂行を見ると、強盜が白刃の拔身を懷に突き立てゝ良民を脅迫してゐるのと同じやうな感じになるのです……僕は是程臆病な人間なのです」と、云ふやうな須永の手紙の文句も、必しも作中の人物だけの心持ではないかも知れない。

「心」には、今までの作品のうちにも微見えてゐた憎人厭世の氣持が最も強烈に出てゐる。憎人厭世が自己嫌惡に達してゐるのである。「私は個人に對する復讐以上の事を現にやつてゐるんだ。私は彼等を憎むばかりぢやない、彼等が代表してゐる人間といふものを、一般に憎むことを覺えた」と云つてゐる作中の人物は、つひに自分自身の憎さに堪へられないで自滅した。漱石の人間研究心理研究の最高點に達したものと云つていゝ。そして此處には例の美文脈が全く跡を絶つてゐる。警句や諧謔がたまにあつても、「猫」や「虞美人草」時代のやうな作者自身面白がつてゐるやうな洒落や警句とはまるで違つてゐる。嚴肅である。陰鬱である。私の讀んだ範圍内に於ては、この一篇が彼れの小説のうちで、最も通俗味の乏しいものである。讀者の好奇心を惹かうとする脚色ぶりは例の通りであるが、小細工はしないで、平押しに押して行つてゐる。「私」と云ふ青年に取つての參考になると「先生の遺書」に云つてゐるのが、青年の田舍の家庭の情況に照らして、何となく適中してゐるやうでもあるし、田舍の老父の重患と「先生」の自殺とが對照的に人間の生存について讀者の思ひを致させるやうな書振りは、彼れの他の小説のわざとらしい趣向とは格段の相違がある。

「惡い人間といふ一種の人間が世の中にあると、君は思つてゐるんですか。そんな鑄型に入れられたやうな惡人は、世の中にある筈がありませんよ。平生はみんな善人なんです。少くともみんな普通の人間なんです。いざといふ間際に、急に惡人に變るんだから恐ろしいんです」といふ、この一篇の結晶點として見るべき言葉を、前に引用した鷗外のほこりとしてゐた假面説と比べて見ると面白い。兩者は相反してゐるやうなところもあり、似通つてゐるやうにも思はれる。「假面」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も、大學生である一人の青年に向つて、主人公の信念が語られ、「心」も、大學生である一人の青年に向つてだけ、主人公の生死の秘密が洩らされてゐる。ところで、鷗外はほこりを有つて、青年の蒙を啓く如くに語り、漱石は、「先生」をして妻にさへ云はない心底を、委曲を盡くして、青年にだけ語らせながら、「最も強く明治の影響を受けた私どもが、其後に生殘つてゐるのは必竟時勢遲れだといふ感じが烈しく私の胸を打ちました」とか、「あなたにも私の自殺する譯が明らかに呑み込めないかも知れませんが、もしさうだとすると、それは時勢の推移から來る人間の相違だから仕方がありません。あるひは個人の有つて生れた性格の相違と云つた方が確かかも知れません」とか、自己の强烈なる信念の發露についても、韜晦させてゐる。漱石には、執筆にあたつて、移り行く周圍の風潮を顧慮するところがあると、私が云つた所以である。

「彼岸過迄」には一端を現はしてゐただけの嫉妬が、「心」に於ては、最も熱心に追窮されてゐる。財産に關する暗鬪、親類緣者の反目、嫉妬、孤獨感などが、在來の彼れの作品に見られないほどに强く、陰鬱に書かれてゐる。いろ／＼な人々の心理を研究して、ついにどん詰りまで來たやうなものである。

そこで、彼れは、「心」の次ぎには、「道草」を書いた。この小說は彼れの自叙傳らしく思はれるが、この自叙傳小說を讀むと、今までの彼れの小說の人物について思當るところが少くない。

「道草」讀後感は、私は去年讀賣新聞に揭げてゐる。

最後の大作「明暗」は、永久に未完のまゝで殘されてゐる。結末に近くほど波瀾を起させるのが、彼れの創作の慣例になつてゐるので、「明暗」は、どう發展して完結するのか、讀者には想像がつかないのみならず、作者自身の意圖もハツキりしてゐなかつたのぢやないかと思はれる。そして書殘された範圍に於ての「明暗」は、少し箍がゆるんでゐるやうな感じのする作品である。運びがまどろこしく退屈だ。しかし、お延とお秀などの女性は、よく描かれてゐる、これまでの彼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れの小說には、多くの女性は、斷片的に現はされてゐるか、あるひは型に入つたやうに現實味を缺いでゐたが、お延とお秀と、吉川夫人とは、充分に現實の女らしい羽を擴げて羽叩きしてゐる。

「眞晝間提灯を點けて往來を步くのは、世の中の暗黑な所を諷した皮肉な仕事と取れば、取れないこともあるまいが、一方から云へば、髭をつけて花見をするのと同一の氣樂さから出ないとも限らない。花見の趣向などは現在に滿足を表はす程度の尤も甚しいもので、不平や諷刺の表現でないことは明かである。現に「ドンキホテ」なども、多數の評家は諷刺と見てゐるやうだが、私には花見の髭同樣な感がある」

漱石はかう云つてゐる。我々が彼れの作品に對して、事々しき穿鑿を試みるのも、花見の髭同樣なものに殊更らしく深刻な意味を附することとのやうに、彼には思はれるかも知れない。

ところが、漱石自身は、「明暗」に於ても、小うるさいくらいに、心理の穿鑿に從事してゐる。作中人物は、互ひに相手の目叩き（まばたき）の數までも數へて、それによつて相手の心理を批判するといつた態度で、そのために作の進行がのろく、且つ實感が水つぽくなるのである。人物も筋肉の微動にも、一ページも書續けられるほどにその人の心の表現が籠つてゐるらしく見られてゐるのだ。漱石の面前では、うつかり痒いところをちよつと痒く譯にも行かないやうである。

しかし、「明暗」には、我々が日常見聞してゐる平凡な現實生活の眞相が多分に出てゐる。書殘されてゐる範圍內で云へば、異常な事件がない。この作者には免れがたい癖であつたロマンチクな取扱振りがない。詩がなくなつてゐる。「三四郞」よりも「門」よりも、どれよりも平凡な筋立で、人物も事件もそこらにありさうに思はれる。兄嫁と小姑、若夫婦をつゝいて喜んでゐる意地惡い中年女の交渉は、微細に渡つて實相が描かれてゐる。私は、「明暗」まで讀んで、はじめて、漱石も女がわかるやうになつたと思つた。老いたる彼れは、もう「草枕」にあるやうな詩的女性を朦朧と幻想し得られなく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なつたのであらう。鏡花式の夢から醒めて現實の女を見るやうになつたのであらう。それ故、「明暗」は、運筆の點では作者老衰の兆が見えるにしても、意義のある作品たることを失はない。

もう一つ面白いのは、この最後の小說のなかに、小林といふ皮肉ないやがらせを云ふ變な男が抛り出されてゐることである。ニルアドミラリの域に達してゐるといふ「それから」の代助にちよつと似てゐるところがあるが、代助は、要するにブルヂョアのノラクラものである。小林は、卑俗であるが、自棄的闘志を持つてゐる。プロレタリア意識をもつてブルヂョアに反抗してゐる。有產階級が彼れを侮蔑するなら、彼れも有產階級を侮蔑してやる。復讐してやるといふ反抗心を有つてゐる。漱石の作中に、皮肉揶揄反抗の氣分は珍らしくないが、プロレタリア意識を持つた皮肉揶揄反抗は珍らしい。

彼れの作品の殆んど全部を讀去り讀來つた私は、最後の「明暗」に於て、こんな人間が、水に油を點したやうにぽつりと現出してゐるのに、甚だ興味を感じた。漱石としては、柄にない人物を創造した譯で、取扱ひ方も上手ではない。しかし、社會主義か共產主義か、さういつた假色を使ふ人間を、ブルヂョア仲間へ割込ませたところに、時代に關心する作者の氣持が分るやうに思はれる。

兎に角漱石は凡庸の作家ではない。私は未完の大作「明暗」の最後の一行を讀終つて、この作者の一生を回顧した。そして、例の「縹緲玄黃外、生死交謝時、杳然無寄託、懸命一縷絲……」といふ彼の病中の詩を思浮べた。

今夜は波の音が高い。（四月十八日、大磯にて）

右の如く漱石論を書いてしまつたところへ、手許に書物がなかつたために讀落した「行人」がふと手に入つたので、次手に速讀することにした。

例の如く讀者をもどかしがらせる小説であるが、前半は讀者を惹きつける力をもつてゐる。弟に對する兄の疑惑には深刻性が含まれてゐて、弟と兄嫁とが暴風雨の夜和歌山の宿に泊るあたりは、異常に、緊張してゐるが、それから後は、甚だしく氣が拔けてゐる。中心を逸して、徒らにまはりを廻つてばかりゐるやうな小説である。くどくつてまどろこしくて、讀後の感銘が甚だ薄い。漱石にも似合はしからざる小説である。彼れの哲學觀宗教觀が現はれないこともないが、それが乾燥無味な叙述に終つてゐる。この長篇執筆中、作者は病氣をして一時稿を中絶させてゐるが、作品の不出來なのはそのためかも知れない。

この小説は、「彼岸過迄」と「心」の間に作り上げられたのであるが、これ等前後の作品と連關させて考へると、この作者がいかに、男女關係についての暗い心理に思ひを致してゐたか、またさういふ暗い氣持から脫却するためにはいかに苦鬪しなければならぬかと、思ひを潜めてゐたことが察せられる。……藝術として劣つてゐてもその點では興味がある。

小宮豐隆君は、漱石の修善寺に於ける大吐血を以つて、彼れの生涯の轉機としてゐるが、それはさうかも知れない。しかし、大吐血後の漱石が前期の彼れよりも、人生の見方が一層溫かになり、一層寛大になつたとは思はれない。却つて反對ではないだらうか。「心」「行人」「道草」「明暗」がそれを證明してゐる。他人の心の暗さ醜さを傍觀的に描いたといふやうな容易しいものではなくつて、これ等に現はれてゐるいろ／＼な疑惑は、作者自身の心に深く根を張つてゐたのぢやないかと思はれる。そして、大病前の作品よりも洒落つ氣が少くて、一貫した眞面目さがある。「ぼつちやん」時代の薄つぺらな明るさが影を潜めて、懷疑の深さが見られるやうになつた。

「思出すことなど」のうちの病床感想に、知友門下生愛讀者などの好意に感激して、「世の人は皆自分より親切なものだと思つた。住み惡いとのみ觀じた世界に忽ち暖かな風が吹いた」と云ひ、「四十を越した男、自然に淘汰せられんとした男、さしたる過去を持たぬ男に忙しい世が、是程の手間と時間と親切を掛けてくれやうとは夢にも待設けなかつた余は、病に

生き還ると共に、心に生き還つた……」とも云つてゐるが、かういふ言葉は、大抵の病人が回復後に起す感傷語であつて、特別に意味の深い言葉とは思はれない。それに「さしたる過去を持たぬ男」と云つてゐるのは、漱石の謙遜した言葉であつて、若し彼が作家として名聲を博してゐなかつたなら、あんなに賑かに彼れの病床が顧みられよう筈はなかつた。

人間は氣力の衰へた時には、年甲斐もなく、いやに感傷的な言葉を吐きたがるものである。「人の死せんとするや、その言ふことや善し」と云ふのも、畢竟は、氣力の衰へをさすに過ぎないことがある。……「心」「行人」「明暗」など、漱石晩年の作品に、私は、彼れの心の惑ひを見、暗さを見、惱みをこそ見るが、超脱した悟性の光りが輝いてゐるとは思はない。

上田敏全集

豫約募集
內容見本送呈

柳村博士が文藝鑑賞家として卓越せるは、恐らく多く西人にもその比があるまい。ペエタア、イブセン、マアテルリングその他の近代文豪、本土に於て評價未だ定まらざるに、早くもその眞價を紹介し、佛蘭西象徴詩の名篇、晦澁として英國にも飜譯なきに先立ち、『海潮音』所收の諸譯は、創作以上の創作として吾が邦新詩興隆の源泉をなした。學問には細心精緻、研究には徹底的溯源、創作には清新明朗を旨とし、西歐文藝に敏感なる傍ら、傳統ある祖國の人文を熱愛するに於て何人にも讓らなかつた博士は、實に明治大正昭和三代を縱貫して、日本人の趣味好尙の最高水準を示すものである。吾社が完璧の全集を成すは、一に故博士を敬慕せる讀書家多年の翹望に報ゐんとの微志に出づ。

申込殺到

菊判で美麗高雅毎卷七百餘頁の大册

◆**刊行期日** 昭和三年六月より毎月一册づつ刊行。昭和四年一月完結。

◆**申込方法** 申込金四圓五拾錢（最終の會費に充てます一時拂ひの方は不要）を添へて、期限迄に御申込みを願ひます。

◆**申込期限** 昭和三年五月三十一日。（此廣告を見て直ぐ申込者有效）

◆**會費**
一時拂　全八册　參拾參圓（送料は別に申受く）
毎月拂　一册分　金四圓五拾錢（書留送料內地卅六錢臺灣朝鮮滿洲樺太南洋六十五錢（書留料共）市內十二錢（書留料共））

編輯顧問
上田萬年　桑木嚴翼
佐々木信綱　新村出
永井荷風　平田禿木
與謝野寛

編輯委員
石田憲次　乙骨三郎
小牧健夫　吹田順助
竹友藻風　茅野蕭々
富田碎花　成瀬無極
日夏耿之介　山內義雄

裝幀
藤島武二

東京・芝・愛宕下町
改造社
振替東京八四〇二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Onoto the Pen

オノトの耐久力

ペン先の走りやインキの流出の具合はドナタにもすぐ鑑別が付きますが、耐久力は一寸には分りません。がオノトは既に御使用の皆様の保證付きで永く持つ計りでなく使へば使ふ程書きよくなります。

オノト萬年筆　七圓五十錢以上
アテナ萬年筆　三圓五十錢以上（カタログ進呈）
萬年筆用アテナインキ　三十五錢　送料各十八錢



Y1.80

バレー安全剃刀が特絶の聲價を有する所以

一、特許された最新式の機構を有する事
一、自働研なるが故に極めて簡單に研ぎ得る事
一、一枚の刄が毎日使用しても優に半年以上持つ事
一、價格も低廉で一回使用の刄代は他式に比して比較にならぬ程經濟的なる事

價一圓八十錢（刄三枚革砥一本付）送料十八錢（カタログ進呈）
其他に二圓、三圓三十錢、四圓八十錢、十三圓五十錢以上等あり
販賣所　大百貨店著名洋物雜貨金物店等

"VALET"



東京日本橋通三丁目
丸善株式會社
大阪　神戸　京都　名古屋　横濱　福岡　仙臺　札幌
東京＝神田｜芝三田｜早稲田｜丸ビル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



トロツキーの失脚

とソウエート政府の眞情

布施勝治

一

ソウエート政治は云ふまでもなくボリシエウイキー（共産黨）の一黨獨裁政治である。たゞ十月革命の當初半年ばかり、ボリシエウイキーはスピリドーノワ女史の率ゆる左派エス・エル黨（社會革命黨）とゝもに、共同戰線を張つたが、ブレスト・リトウフスク媾和の直後、この媾和に反對した同黨をも敵黨と見て、これを彈壓した。爾來革命のロシアは完全にボリシエウイキーの獨裁專制の下におかれ、他の政黨の存在をゆるさぬことゝなつた。たゞに資本主義の政黨のみならず、社會主義の政黨（たとへばメンシエウイキーや、エス・エル黨の如き）すら、ボリシエウイキーの專制下にあつては、閉息潛伏の外なき狀態におかれたのである。

そも〱『ブルヂョア制度の顚覆後、社會主義建設までの過渡期は、プロレタリアの專制時代であらねばならぬ。そしてプロレタリアの專制はこの階級の急先鋒であり、またその運動の唯一の指導者たる共産黨の手で行はるべきものである』と云ふのが、ボリシエウイキーの信條であつて、彼等は峻烈なる獨裁專制主義をとつて動かぬのである。ソウエート・ロシアでは、討論機

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

關即ち新聞雜誌等は悉くボリシエウイキーの機關である。他の政黨の機關紙は云ふまでもなく、單行本の出版すら許さない。極端なる言論壓迫である。政治、軍事、産業等、各方面に亘つて、その主要地位を占むるはすべて共産黨員である。共産黨は『政府の上の政府』であつて、格式から云へば、全聯邦ソウエート議長カリーニンが勞農國の大統領であるわけであり、また政府の首腦は當然勞農内閣議長ルイコフであるべきだが、實權はむしろこの二人の背後にあつて、傀儡師の役目にあたつてゐる共産黨の幹事長スターリンの手にある。

昨年秋、ロシアは十月革命の十週年祭を行つた。今年は已に十一年目である。即ちロシアは已に十有餘年、ボリシエウイキーの一黨獨裁下にあるのである。既往の十年が、さうであつた如く、現在も亦、然り、恐らく將來も長くこの狀態で行くであらうと見られてゐる。

しかし、私の觀るところ、以上はたゞ表面から下した極めて平凡なる觀察であつて、まだ十分ソウエート政情の眞髓にふれた研究の結論とは云へない。嚴格に云へば、既往のソウエート政治は、矢張り、二黨政治であつたと私は思ふのである。然らばその二黨とは何を指すか。曰く、第一、レーニン直系のボリシエウイキー、即ち『幹部派』と、第二、トロツキーの率ゆる『反對派』の二派對立を指すのである。

トロツキーは一九一七年夏、革命のロシアへ歸つて、始めてボリシエウイキー黨に入黨した。爾來彼はレーニンの部下として働き、またボリシエウイキー黨の規律にも服從してゐた。然し、彼はカーメネフの語をかりて云へばその胸底深くに『正しきはレーニンにあらず、トロツキーなり』てふ自家の信念を堅く秘めて、入黨したのである。ツアリズム及びブルヂョアの政權を打倒するまでは、トロツキーはレーニンとゝもに、共同戰線で進んだ。また政權獲得後も、外國の干涉又は國内反革命亂の蜂起で、内外多事の難局に際して、二人は互ひに協力して奮鬪した。然し、ソウエート政權のいよ〳〵その根柢を固めて、安定狀態に入るや、トロツキーはあらゆる問題について、レーニンと意見を異にし、黨の政策に對して反對論を唱へた。たゞ、トロツキーは已に一旦ボリシエウイキー黨に入黨し、その正式黨員となつた以上、議論の最後には、いつも黨の決議の前に腰を屈し、黨の紀律に服從せさるを得なかつた。然し、少し時日を經過し、新らしい問題が起る毎に、彼は再び敢然立つて自派の說を唱へたのである。即ち既往のソウエート政治は形式において一黨獨裁政治であつたが、事實においては、レーニン派とトロツキー派の對抗政治であつたと云ひ得るのである。さればソ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ウエート政治の眞相を知らんと欲するものは、先づレーニンとトロツキーの二人を知り、兩者の關係、その主義主張の差異、レーニズムとトロツキズムとの政爭史を研究せねばならぬ。私は左にこの問題の研究資料の一端として、『十月革命前におけるレーニンとトロツキーの關係』について、少しく記述して見ようと思ふ。

二

一九〇二年の秋のこと……と云へば、今から二十五年前のことで、當時のトロツキーはまだ二十四歳の青年で、彼の先輩格のレーニンもまた三十をこえて間もない頃のことであつた。

若きトロツキーはこの年漸やく長い間の流刑と獄中の生活から逃亡し、最初ウインナに逃げ、それからロンドンへ來て、レーニンを訪ふたのである。しかもそれがトロツキーにとつては、最初の國外旅行で、またレーニンとの初對面であつた。トロツキーの手記に、左の如き回想錄が記してある。

一九〇二年の秋、たしか十月であつたと思ふ。朝早く馬車をかつて、狹い路地をくねり廻り、漸やくレーニンの侘住居にたどりついた。合圖のノックをすると、ナデジダ・コンスタンチノヴナ（レーニン夫人）が出て來て戸をあけてくれる。案內されて通されたのが臺所兼茶の間である。レーニンはまだ床にあつたが、余の來訪と聞くや、早速起きて來て、茶をすすめてくれた。私は脱獄と逃亡途中の苦辛談を訴へるやうにもの語り、またロシア內地から委託された書類等を夫人に手渡した。

その日の朝であつたか、或は翌朝であつたか、よく記憶せぬが、私はレーニンに案內されてロンドン見物をした。ウエストミンスター寺院の前に來たとき、レーニンは『これが、彼△等△の有名なウエストミンスターさ！』と敎へてくれた。レーニンが『彼等』と指したのは單に『英國人』と云ふ意味でなくて、『敵』を指したものである。

レーニンがトロツキーを連れ出して、ロンドン見物に出掛けたのは、たゞの見物のためでなく、レーニンは散歩しながら、トロツキーに色々の質問を試み、若き革命家を試驗しようとしたものである。即ちトロツキーの手記に曰く

レーニンは各課目にわたつて私を試驗した。私はレーニンの質問に答へて、レナ地方の流刑者の狀態や、その思想的分派の模樣などについて詳しく話した。當時レーニンの特に注意を拂つたのは各派思想上の論爭であつた。私は獄中ベルンシテインや、カウツキーの本を讀んだこと、流刑地でレーニンの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『何をなすべきか』『ロシアにおける資本主義の發達』『資本主義』を耽讀したことを語り、レーニンの努力を賛歎したところ、レーニンも頗る滿足の態であつた。………これ等の試驗問答を終つたあとで、私は今後の身のふり方についてレーニンに指揮を仰ぎ、自分としては先づ既刊新聞と書籍を閲讀した上で、ロシアへ密行し度いとの希望をのべたが、この際ともかく私は先づ急がずに愼重考慮しなければならぬと云ふことにきまつた………

×　×　×　×　×

これがそも〱レーニンとトロツキーの初對面の幕である。未來のロシア大革命の二大大立者の初對面……場所はロンドンの狹い路地の小さなアパートメント、台所を兼ねた茶の間で、茶をすゝりながら、脫獄の苦辛談……それからレーニンにつれられてロンドン見物をしたトロツキーの赤毛布振り……散策中の試驗問答……まことにトロツキーにとつては感慨深い思ひ出であらねばならぬ。彼の回顧錄にはこの時のことがもつと詳しく面白く書いてあるがこゝには省略する。

三

レーニンはトロツキーより三年早く、即ち一九〇〇年、故國を逃れて、西歐各國流浪の身となつた。そして、一九〇二年にはロンドンに來て、『イスクラ』紙の編輯をやつてゐた。

イスクラ紙はロシア社會民主勞働黨（ボリシェウイキー黨の前身）の機關紙である。當時のロシアはツアー政府の專制政治が極度にその威力を發揮してゐた時で、左傾分子は全く潜伏閉息の狀態にあつて、手の出しやうがなかつた。そこで黨の領袖株はレーニン始め、多くはみんな國外に逃れ、わづかにその機關『イスクラ』紙によつて、その主義主張を宣傳し、同志の指導をはかつたものである。（『イスクラ』は當時ロンドンで發刊され、ひそかにロシアへ密送し、勞働者間に配布されたものである）從つて當時の機關紙は殆んど黨の中心をなし、その編輯幹部は

プレハーノフ、アクセリロード、ザスリツチ、レーニン、マルトフ及びポトレーソフ

の六人で、みんなロシアにおけるマルクシストの大先輩であり、またロシア社會民主勞働黨のリーダーであつた。たゞプレハーノフ、アクセリロード、及びザスリツチの三人が、當時已に歳老いて、長い間の流浪生活中に、潑溂たる革命氣力が拔け、やゝもすれば消極方針に傾き、『イスクラ』紙の編輯について

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も、どちらかと云へば文學趣味の事業の如くに心得てゐたやうな風があつたが、レーニン、マルトフ及びポトレーイフの三人は、これに反して、當時恰も元氣のはちきれさうな青年革命家であつた。殊にレーニンはロシアにおける實際運動から飛び出して來たばかりで、故國の革命の成功をあくまで信じ、『イスクラ』紙の編輯も、徹頭徹尾實際運動の鼓吹と指導を眼目とした。こゝにおいて『イスクラ』紙の編輯會議は、常に老人派と青年派との二派にわかれて、議がまとまらない。老人派の筆頭プレハーノフはマルクシストとして、已に全歐洲に聲名をはせ、またロシアの同志間においても、大先輩として尊敬された人である。然るに彼から見て弟子格のレーニンが、少しもこの大先輩の前に讓らない。レーニンは常に敢然として自説を主張し、老人派に喰つてかゝつた。かくして『イスクラ』紙はプレハーノフとレーニンの『二人の主筆』の下に、硬軟兩説で、內輪もめがたえなかつた。

そこへ、風來坊の如くやつて來たのがトロツキーである。彼はこの二大先輩の中の誰の側に傾き、また二人の中の誰がより多く若きトロツキーを愛したか。トロツキーの手記した『レーニンと舊イスクラ』てふパンフレットによると、彼は最初明かにレーニンの方により多く私淑し、プレハーノフとは初對面の時から、向ふからも、すかれず、こちらからも親しまうとしなかつたらしい。

プレハーノフは前記の如く社會主義者として、世界的に聲名をはせた人ではあるが、長い間（當時已に二十年間）の國外流浪生活で、故國との緣が遠くなり、從つて實際運動の元氣がなく、所謂革命文學者と云つたやうなタイプの人となつてしまつたのであるが、當時のレーニンは、これに反して、當年三十三才、血氣盛りの革命志士で、最も勇敢なる過激主義の急先鋒者であつた。つひロシアから脫獄して來たばかりの若きトロツキーにとつては、勿論レーニンの方が偉らく見えたのは云ふまでもない。而してトロツキーがレーニンに親しんだと同時に、レーニンも亦トロツキーを愛した。

四

『イスクラ』紙の編輯幹部六人が以上の如く、プレハーノフ、アクセリロード及びザスリッチの老人派に對抗して、レーニン、マルトフ及びポトレーソッフの青年派が、少しも讓らず、常に內輪もめを續けてゐたが、兩方とも三人づつで、多數決をとることが出來ない、結局大先輩のプレハーノフに引きづられる恐れがあつた。然し、六人を減じて、五人もしくは四人にする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わけにも行かぬ。そこでレーニンはもう一人幹部を增して七人とし、それで靑年派が四人となれば、老人派を壓することが出來ると考へた。而してレーニンが新幹部として推薦したのがトロツキーである。この一事から推してもその當時、如何にレーニンがトロツキーを信賴したかゞ推測されるのである。卽ち若きトロツキーはレーニン先生の前で見事試驗に及第したわけで、レーニンはトロツキーに對し、最初から多大の望を囑したものと思はれる。但し、このレーニンのトロツキーを『イスクラ』編輯幹部に入れやうとした計畫は、プレハーノフの反對で實現するに至らなかつた。しかし、レーニンとトロツキーとの關係はその後も引きつゞいて頗る圓滿であつたらしく、多くの場合トロツキーはレニーンの側にたつて、プレハーノフに反對した。この二人の間の圓滿な關係は一九〇二年の秋、ロシア社會民主勞働黨第二次大會の開催間際まで續けられた。

當時のレーニンとトロツキーとの親睦な關係は、左の如きエピソードもある。

××××

二人がフランスに移り、パリーに住んでゐた時のこと、レーニンはある日一足の靴を新調した。然るにどうも小さくて具合がわるい。いつの間にか足にまめを生じ、苦しんでゐた。それをトロツキーが見かねてか、『そんなら私がもらつてはきませう』とて、そのまゝゆづり受けた。最初はいて見たところ、恰度足にあつたので、それをはいてレーニンと共にオペラ見物に出かけた。するとレーニンの足に小いさかつた靴は、トロツキーの足にも小いさく、途中から足がいたみ出した。レーニンはトロツキーを顧みて、その跛をひくありさまを例の調子で大きく笑ひ乍らも、氣の毒さうにしてゐた……

××××

おもふにその頃のトロツキーの眼には、已に老境に入つて、氣力のぬけたプレハーノフよりも、覇氣滿々のレーニンの方が、賴み甲斐ある首領に見へたのであらう。同時にレーニンも亦トロツキーを前途有爲の靑年と見たのであつて、兩者は初對面の時から、互ひに意氣相投合したものである。然るに一九〇三年の秋、第二次大會が開かれ、そこでいよ〳〵ボリシエウイキーとメニシエウイキーの二派分裂が始まるや、意外にも、老人のプレハーノフがレーニンの過激主義に贊同し、靑年のトロツキーがマルトフとともに穩和主義に走り、トロツキーは明らかにレーニンの敵手となつた。一九〇三年の秋から一九〇四年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の中頃まで、トロツキーはマルトフとともに、メニシエウイキー創業の中心をなし、ボリシエウイキーを向ふに廻して兩派對抗戰の火蓋を切つた。レーニンとトロツキーの反目は實にこの時から始まつたものである。

五

ロンドン流浪當時トロツキーはレーニンとマルトフとを比較して

マルトフは今日に生き、當面の世事に沒頭し、レーニンは今日をふみつけて、思ひを明日に集中してゐる。

と批評し、レーニンに對して、禮讃の辭をならべたものである。當時のロシア社會民主勞働黨の大立者はプレハーノフとレーニンで、この二人は勢力人望ともに伯仲の間にあり、黨員はこの二人の中のいづれか一方につかねばならぬありさまであつた。マルトフもたしかに領袖株の一人ではあつたが、前二者に比しては、常に一枚下の役者であつたのである。然るに一九〇三年夏、ブラツセルで開かれた第二次大會でトロツキーは『今日に生くる』マルトフと共同して、『思ひを明日に集むる』レーニンを敵とした。

一九〇三年夏のロシア社會民主勞働黨の第二次大會は實にロシア革命史に特筆大書すべき重大な出來事であつた。（同黨の第一次大會は一八九八年ミンスクで開かれたが、大會と云つても來會者は僅か五六人に過ぎず、且つその後間もなく幹部は悉く逮捕投獄されたので、黨は自らその存在を失つた。從つて、第二次大會が黨の創業と見てもよいのである）即ちこの大會において、ひとしくマルクシズムを標榜してたつたロシア社會民主勞働黨がレーニンの率ゆる過激派と、マルトフを首領とする穩和派との二つに分かれ、特に黨則案の討議に際し、兩派は猛烈なる議論を戰はした。レーニンは『黨員の資格』について『黨所屬の何等かの機關に加はり、能動的に黨の事業に參加し、活動してゐるものに限る』との嚴格なる制限を加へ、以て『あくまで、かたく結束し、眞にプロレタリアの革命戰爭を指導し得る黨』の建設を主張したのであるが、これに對し、マルトフは『黨の門戶を廣く開放して、學校の教授や學生、多數の家族を有する勞働者の如き、黨の機關に加入し、積極的に活動し能はざるもなほ黨綱に贊成し、多少でも黨のために物質的援助を與へ得るものは、これを黨に入れて差支なし』と云ひ、レーニンの說にはプレハーノフが贊成し、マルトフはアクセリロードとトロツキーの援助を得た。結局レーニン派が多數を制したが、然し、マルトフの少數派は多數派の議決に服從せず、ために黨は多數派

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と少數派の二つに分裂し、爾來前者をボリシエウイキー(ボリシエは露語の「より多き」)、後者をメニシエウイキー(メニシエは露語の「より少き」)と稱することゝなつた。

第二次大會において、トロツキーがそれまで深く親しみ、且つ敬愛してゐたレーニンに對して反對の態度に出で、むしろ心中ひそかに輕蔑してゐたマルトフの側に走つたことは、甚だ不可思議のやうであるが、トロツキーのレーニンに對する尊敬は要するにその人格と革命的覇氣に對したものであつて、その主義主張に對したものではなかつたのである。トロツキーが第二次大會においてマルトフ派に加はつたことは、彼がその『思想上の生立』において已にボリシエウイキーでなく、むしろメニシエウイキーに近かつたことを、何よりも強く證するものであらねばならぬ。

ロシア社會民主勞働黨分裂の直後、トロツキーはマルトフと肩を並べてメニシエウイキー派のリーダーシツプを握り、大いにボリシエウイキーを向ふに廻して對抗した。同年ゼネヴで開かれたメニシエウイキーの大會で可決された反ボリシエウイキーの決議文の如き前半はトロツキー、後半はマルトフの手になり、即ち二人の合作であつた。

その後間もなくプレハーノフがメニシエウイキーに鞍替し、レーニンはプレハーノフ、マルトフ、アクセリロード、トロツキーなど云ふ社會民主勞働黨の目ぼしい巨頭を悉く向ふに廻はして戰はねばならぬことゝなつた。その頃からボリシエウイキーは却つてメニシエウイキーよりも少數となり、一時黨の機關たるイスクラ紙すらマルトフ及びトロツキーの手に讓らねばならぬ苦境に陷つた。

レーニンの手からイスクラ紙を奪ひ取つたトロツキーは同紙上において、さかんにレーニンを攻撃した。一九〇四年の夏、トロツキーは『我等の政治的使命』と題する小冊子において、レーニンを批評し、『彼はわが黨の反動右翼の首領である』と罵倒し、また『レーニンの人を疑ふの念のしぶとさは道徳的に唾棄すべきものがある』『彼は他の人の說をいれることが出來ぬ點において、その頑迷偏執、全くジヤコビン主義者そのものである』などと毒々しい惡評を加へたものである。たとひ當時のトロツキーが、革命浪人として所謂『野人禮節にならはず』の時代にあつたとしても、あまりにはげしい攻撃ぶりと云はねばならぬ。

六

一九〇四年の半頃、トロツキーはマルトフとも、意見が衝突

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し、メンシエウイキー派の幹部の地位を去つた。爾來彼はボリシエウイキーとメンシエウイキーの中間にあつて、兩派に向つて攻擊の矢を送つた。トロツキーが思想上において成熟し、一つの獨立した思潮として、トロツキズムの基礎を築き出したのは、抑々この頃からのことである。當時彼の宣傳した思想、主張した革命戰略はすべて今日のトロツキズムの根柢をなし、最近の彼の幹部派相手の政爭も、これを仔細に檢討すれば、すべて、その端を二十年前の政爭に發してゐる。

× × × × ×

一九〇五年、トロツキーはパルヴスとともに『不斷の革命』なる原理を唱導したが、これぞトロツキズムの根本をなすものであつて、最近三四年間スターリンやブハーリン等との論爭に際しても、この『不斷の革命』の原理がその重要なる中心をなした。トロツキーはその著書（一九〇六年）『總決算と將來の算段』において、左の如くこの原理を說いてゐる。

ロシア革命の指導者はプロレタリヤであらねばならぬ。農民やインテリゲンチヤは何等獨立的役目をになふ力がない。從つて革命成功の曉は、當然プロレタリヤの政府が建設され、この政府は必然ソシアリズムの實現に向つて進まざるを得ない。然し、ロシアの勞働階級は到底獨力では――即ち國は全國のプロレタリヤの國家的直接援助なくては――その政權を支持することが出來ない。然らば如何にしてプロレタリヤの政權を維持すべきか。ロシアのプロレタリヤはブルジョア階級との一時的提携によつて、政權を握つた場合も、必らず世界の反動勢力からは壓迫を受け、世界のプロレタリヤからは援助の用意を以て迎へられるであらう。ロシアの勞働階級は自力だけでは國內農民の離反とともに、直ちに、反革命勢力のためにおし潰されてしまふであらう。こゝにおいてロシアの勞働階級は自家の政治的覇權、從つて同時にまたロシアの革命全體をあげて、歐洲社會革命とその運命をともにせざるを得ない。ロシアのプロレタリヤがブルジョア革命分子との一時的提携によつて握り得た偉大なる國家の政權はこれをあげて資本主義の全世界における階級爭鬪の秤にかけなければならぬ。手に國家の政權を握り、背後に國內の反革命を負ひ、歐洲の反動勢力を前に控へたロシアの勞働階級は全世界の同胞に援助を請ふの外ないのである。

かくして、ロシアの革命は直ちに歐洲の革命を伴はねばならぬ。革命は息氣をつがずに不斷に繼續されねばならぬ……これがそも〳〵トロツキズムの根本をなす「不斷の革命」の原理の要旨である。而してこの原理は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ロシアは農業國である。國民の大多數は農民である。從つてロシアの革命は農民を度外視して、行はるべきでない。ロシアの革命は勞農の提携を絶對の條件とする。農民をはなれ、無暗に革命の進行を急いではならぬ……

と云ふレーニニズムの農民尊重方針とは徹頭徹尾相容れないのである。

七

一九〇五年のロシア革命に際し、トロッキーはペテルブルグ勞兵會（ソウエート）の牛耳を握つて、大いに活躍したが、革命はやがて無殘な失敗に終り、トロッキーも他のソウエート幹部とともに一網打盡に投獄されたが、一九〇七年二月彼は流刑先から逃亡して、再び國外に逃れ、ロンドンへやつて來た。恰度その年の五月、ロンドンで、ロシア社會民主勞働黨第五次大會が開かれた。大會出席代表三百三十六名の中、ボリシエウイキーが百〇五名、メニシエウイキーが九十七名であつたが、兩派の差があまりに少なかつたゝめに、中立派の態度一つで大會の形勢が左右される觀があつた。然し、兩派の主張はこの大會でいよ〳〵判然と離反するに至つた。メニシエウイキーの巨頭ツエレテリー（ケレンスキー内閣の遞信總長となつた人）は

ブルヂョア・デモクラシーと提携するにあらざれば到底われ等の自由は得られぬ

とて露骨に資産階級の革命分子との妥協政策を唱へた。これに對し、レーニンは

ツエレテリーの主張は全くレウイジオニズム丸出しであると

て眞向から反對論を浴びせた。而してこの兩派の論爭にあたり、トロッキーは最初メニシエウイキー側に加擔して、ボリシエウイキーの主張のあまりに偏執頑迷に失せるを攻撃したが、大會の終り頃に至つて、彼はむしろボリシエウイキーに近づいて來た。ロンドン會議の直後、レーニンはその頃主宰してゐた『プロレタリヤ』紙にトロッキーをひきつけやうとして、寄稿を勸誘したことがある。然し、トロッキーはこの勸誘に應じなかつた。左記は當時レーニンがゴリキーに送つた手紙の一節で、よくその頃の二人の關係を描寫してゐる。

『プロレタリヤ』編輯局の名でトロッキーに執筆勸誘の手紙を出した。特に一つの題目までかゝげて寄稿を求めた。ところがトロッキーは編輯局の名を以てしたのが氣に障つたのか、自筆でなく、人に代筆させて『トロッキーは多忙で執筆出來ぬ』とブッキラぼうにことはつて來た。實はトロッキーとは自分は彼が一九〇三年から一九〇五年にかけてメニシエウイ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

キーであつた間恐ろしい猛烈な絶望的な喧嘩をやつたものだから、つひ自分の名でトロツキーを招聘する氣になれなかつたのだ。(中略)……プレハーノフ、アクセリロード、ダン、マルトフ等は近く新機關ゴーロス・ソシアル・デモクラト紙によつてたつさうだ。われ等(ボリシエウイキーとメニシエウイキーとの)の戰鬪は益々激しくなつて來る。而してトロツキーは依然兩派の上にたつて、優越地位を占めやうとするらしい……

八

一九〇五年の革命は無殘な失敗に終つた。そしてツアー政府の反動政策はストルイピンの鐵腕によつて、遺憾なくその猛威を逞しうした。こゝにおいて失望落膽、鬪志衰へ、尻込氣分に傾いた軟派黨員は擧つてメニシエウイキーに走り、敗戰と壓制に刺戟されて益々鬪志を固くし、反抗的に左傾した硬派黨員はレーニンの周圍に集まり、こゝにロシア社會民主勞働黨はいよ〱判然ボリシエウイキーとメニシエウイキーの二派分野狀態を明らかにするに至つた。たゞ一九一〇年一月のロシア社會民主勞働黨幹部會議において、各派協調一致の最後の努力が試みられ、その結果極左派と極右派とが互ひに讓り、大體において、レーニン直屬のボリシエウイキーを中心として、各派はともかく一致協力することに決議文だけは通過したが、しかしこの會議の直後マルトフ派のメニシエウイキーが單獨行動をとり、協調を破つたため、全黨擧つて再び内訌紛糾の渦卷の中に投ずることゝなつた。

ボリシエウイキーが『第一革命(一九〇五年)は失敗に終つた。われ等は新たに第二革命をおこさねばならぬ』と主張せるに對し、メニシエウイキーは『狂ひじみた革命の患禍はもはやくりかへされぬ。將來の運動は平和な、そして合法的の手段によらねばならぬ』と駁し、ボリシエウイキーの『專制政治の打倒(民主共和國の建設)、地主所有地の沒收、八時間勞働制の三大標語』に對し、メニシエウイキーは『勞働者のために罷業、言論、集會等の自由』を要求し、ボリシエウイキーの唱導せる『武裝革命』の代りに、メニシエウイキーは『國會請願運動』を以てした。

メニシエウイキーはまた革命運動におけるプロレタリヤの指導的地位を認めず、革命の指導權はブルジョアの手に委すべく、勞働者はたゞその賃銀、勞働時間等の勞働問題に沒頭すべきだとなし、社會民主黨に代へるに、非革命的勞働黨を以てせんとした如きも、ボリシエウイキーとその方向を全然異にした

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

點である。かくして、ボリシエウイキーとメニシエウイキーとは各問題に亘つて主張を異にし、根本から手を切らねばならぬ羽目に陷つた。而してこの間に處して、兩派の中間に介在し、或は兩派の上にたゝんとし、或は兩派間の仲裁役たらんとしたものは、誰かと云へば、それは實はトロツキーであつたのである。彼は『余等は分派に屬せざるソシアル・デモクラトである。余等は各派の協調一致を唱導する』と云ひ、超然主義をとつてたつた。しかし、どちらかと云へば彼は從前の通り、メニシエウイキーの側により多く傾いてゐた。一九一二年の『八月大同團結』（反ボリシエウイツク）はトロツキーの肝入りで出來たもので、ボリシエウイキーにとつて、即ちレーニンにとつて、トロツキーがいよ／＼由々しい强敵として目せられるに至つたのはこの「八月大同團結」組織以後のことであると云はれてゐる。

× × × × ×

元來ひとしくマルクシズムに立脚し、同一の政黨、即ち『ロシア社會民主勞働黨』に加はり、ツアリズムを以て共同の敵となし乍ら、常にボリシエウイキーとメニシエウイキーとが、前記の如く互ひに論爭をこと〻して來たのは、一見まことに不可思議の如く感ぜられるところであるが、しかし左派と右派といづれが勞働大衆を自派に引きつけ、黨及び革命の指導權をわが手に握るかと云ふことは、決して小さな問題でない。彼等は鎬を削つて爭つた。レーニンの云へる如く『絶望的な喧嘩』が續けられたのである。たとへば左記は『プラウダ』の新聞名について、レーニン派とトロツキー派が爭つた挿話であるが、かゝる一小事實に徴しても、なほよく當時各派間の暗闘が如何に烈しいものであつたかゞ察せられるのである。

一九一二年の春、レーニンはボリシエウイキーの機關としてペテルブルグで『プラウダ』紙を發刊した。（今でもこの名が同黨の機關紙の名となつてゐる）然るに、それ以前からトロツキーは同名の新聞をウインナで刊行してゐた。そこでトロツキーはペテルブルグのプラウダ發刊を聞くや、『新聞名を剽竊するとは怪しからぬ』と憤慨し、早速レーニンに向つてプラウダ題字撤回の要求と、同時に、『もしこれに應ぜざる場合は第二インターナショナルに告訴する』との威嚇的抗議を送つた。苟も一つの思想を標榜した運動のリーダーたるものが、新聞の題字などで、かゝる内訌を構へるなど、今から考へて見て、まことにトロツキーともあらうものがつまらぬ喧嘩をしたものだ……と笑はざるを得ない。しかしその當時ではこんな問題でも眞劍に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爭つたものである。

九

一九一一年、ロマノフ王朝末年の偉傑ストルイピンがキーエフの劇場で刺客の手に倒れて以來、ロシアの反動政治は俄かに緩和され、革命分子は國の內外において再び頭を擡げて來た。然し、革命運動の勃興と同時にこの運動の指導權を握らんとする革命黨各派間の競爭暗鬪も亦年を逐ふて激烈を加へた。かくする中に一九一四年歐洲大戰爭が勃發した。

歐洲大戰爭中のロシア社會民主勞働黨は依然として三派分裂狀態を續け、ボリシエウイキーはその左翼を、メニシエウイキーは右翼を、そしてトロツキー派は兩派の中間派をなした。戰爭に對しては各派皆なその態度を異にした。

ボリシエウイキーは一九一四年十一月一日の幹部會において、レーニンの司令の下に對戰宣言なるものを決議し、その機關『ソシアル・デモクラット』紙上にこれを發表した。ボリシエウイキーはこの宣言において

戰爭は帝國主義的政策の結果である。戰爭の張本人は列强の帝國主義的政府と資本家團體である。戰爭は資本主義制度の破壞のはじめである。社會主義者は政府を援助すべきでなくわれ等の使命は社會革命の名において、帝國主義的戰爭を轉じて內亂となすにある。眞の國際主義者は第二インターナショナルの「革命裏切り」首領と斷交し、勞働大衆に向つて現實の眞相を說明して、戰爭、帝國主義、社會主義の裏切者とに宣戰し第三インターナショナルの新設を唱導すべきである。

と記し、歐洲大戰爭に際して、社會主義者のとるべき態度として、『帝國主義的戰爭を轉じて、內亂戰爭となすべし』とのモットーを掲げた。敵國と交戰中に、內亂をかもすは當然その國の敗戰を招ぐもので、レーニン等のモットーは普通に考へてまことに非愛國極まる主張であつた。當時ボリシエウイキーが『敗戰黨』の名をつけられたのも、この主張によるものである。メニシエウイキーの多數はこれに反して、大戰爭の當初から、國防方針をとり、その勢力下の勞働者に向つて故國の防禦に當るべきを慫慂し、よつて『國防黨』の名を得た。而して兩派の中間に介在せるトロツキー派は、戰爭そのものに對しては態度を明かにせず、たゞその機關『ナーシエ・スローヲ』によつて、頻りに各派の提携合同を唱導した。

しかし、前記の如く敗戰論のボリシエウイキーと、國防論のメニシエウイキーとの合同を唱するは到底不可能のことであつた。殊にメニシエウイキー及び第二インターナショナルの領袖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が殆んど悉く、開戦とともに直ちに各自國のブルヂョアの味方となり、政府の政策を助けて國防論に走つたことを以て、『社會民主主義に對する裏切り』となし、これを憤慨し、罵倒し、最も極端なる「非愛國的」の敗戦論を唱へたレーニン派は當然トロツキーの合同提唱に對して反對せざるを得なかつた。從つてトロツキーの方でも、左右兩派の中間に立ち乍らも、常にメニシエウイキーの側に接近し、ボリシエウイキーに對しては、これを眞向から敵視したのである。

レーニンが如何にその主義主張において頑固であり熱烈であつたかは、歐洲開戦當初の彼の態度と行動において最もよくこれを知ることが出來る。ドイツてふ強國を前に控えて戦ひつゝある故國に向つて、『帝國主義的戦爭を轉じて内亂とせよ』てふ敗戦標語をぶつけるなど、何たる過激さであらう。開戦の當初ロシアの議會には社會民主黨の議員が數名あつたが、その中のチヘーゼ及びスコベレフの一派はメニシエウイキーを代表し、ボリシエウイキーはバダーエフ、ペトロフスキー外三名の議員を出してゐた。ボリシエウイキー派の議員はレーニンの敗戦主義によつて、一九一四年八月の臨時國會における戦費支出案に反對し、ために政府當局に睨まれ、同年九月四日芬蘭の某所で、ボリシエウイキー中央執行委員カーメネフを加へて會議中、官憲に睨みこまれて、逮捕され、西伯利に流された。當時本文の記者はペテルブルグにあつたが、この報道を耳にし、同時に各地の勞働者や、學生間の過激運動と、各方面における一種の親獨排英傾向から推論し、大膽にも開戦の第一年において（第一）ロシアに革命勃發の恐れがある、（第二）ロシアがドイツと單獨講和を結ぶに至るべき可能性があるとの斷定を下し、長文の通信を大阪毎日新聞に寄せた。同通信は當時『結局露獨の妥協か』と云ふ見出しの下に三回に亘つて掲載されたが、この通信は當時ロシア當局の忌諱にふれ、私は親獨記者の嫌疑で、西伯利旅行途中、ロシア憲兵の手で汽車から引きずり下され、二日間監禁されたことがある。然し、私の通信はその後間もなく、事實となつた。即ちロシアに革命がおこり、革命の結果、ブレスト・リトウフスクで露獨の單獨講和が締結された。

十

一九一五年九月五日乃至八日、チンメリワルドにおいて國際主義者の大會が開かれた。この大會は國際社會主義者の對戦方針の決定上、頗る重大な歴史的意義を有するものである。この大會においてレーニンは前記ボリシエウイキーの對戦宣言の趣旨によつて極端なる『敗戦主義』を唱へ、大會の左翼少數派はこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れに賛意を表した。然し、多數派はレーテブール、マルトフ、アクセリロード等の釆配下にあつて、『國防主義』と『敗戰主義』のいづれにも、反對の態度をとり、ボリシエウイキーと『社會主義裏切派』との中間にあつた。

翌一九一六年四月二十一日乃至五月一日、國際主義者大會は再びキンタリにおいて開かれた。この大會においてもレーニン派は益々強くその所信を主張し、ために大會は著しき左傾を示した。

トロツキーはこの二つの大會においてもマルトフ派に接近し、『敗戰も非、勝利も非』てふ、どつちつかずの標榜を出した。レーニンはトロツキーの『敗戰も非、勝利も非』の標榜を以て、事實上國防主義と同じものであるとなし、痛烈なる攻擊を加へた。かくして、歐洲大戰爭の前半期間、レーニンとトロツキーとは對戰方針においても、常に反對の立場に立ち、互ひに論爭を交はした。而してこの二人の敵對的關係は一九一七年三月革命突發の間際まで續いたのである。

十一

一九一七年の春、『三月革命』勃發の當時、レーニンは瑞西にあり、トロツキーはアメリカにあつた。レーニンはジノウイエフ以下十數名の部下を引きつれ、ドイツを通過して、四月十七日ペトログラードに歸つた。彼は『革命の都』に歸着した當日、直ちに各派ソウエート代表會議に向つて、有名なる『四月提案』を提出した。『四月提案』はボリシエウイキーの革命に對する方針を大膽に表明したもので、當時實に革命のロシアに向つて力の知れぬ『爆彈』を投じた概があつた。

トロツキーは三月革命の報を手にして、急遽米國を去つたが、その途中カナダで英國官憲のために抑へられ、アムハーツの捕虜收容所に入れられた。歸心矢の如き彼は約一ケ月間こゝに抑留され、漸やく臨時政府から英國當局に交涉の結果釋放されて、五月十七日ペトログラードに着いた。トロツキーは當時の記憶について『レーニンをおもふ』の小冊子中に面白く書いてゐる。トロツキーとレーニンとの提携史上最も興味深い挿話であるから、左にその要點を譯載する。

レーニンがペテルブルグに着くや、直ちに戰爭及び臨時政府反對の氣焰をあげた……と云ふ報道は、私は米國の新聞によつて、アムハーツの捕虜收容所で知つた。……

芬蘭に來て私は始めて革命後の新しいロシア新聞を手にし、ツエレテーリ、スコーベレフ、その他の『ソシアリスト』が臨時政府に入閣したことを知つた。レーニンの『四月提案』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はペテルブルグ到着後に讀み、これぞ眞に革命の進むべき途だと贊歎した。

私はカーメネフと申し合はせて、プラウダの編輯局（當時レーニンその他ボリシエウイキー幹部の集まる所であつた）を訪ねた。たしか私がレーニンと革命後始めて會つたのは五月十八日か十九日であつたと思ふ。私は早速レーニンに向つて

『私の政見は貴下の『四月提案』と少しも異らぬ。また貴下の歸國後とられた政策には全然贊成である。私は今直ちに個人單獨で入黨するか、または私の派の逸材を連れて入黨するか、二者その一つを選びたいと思ふ』

と入黨を申込んだ。

當時私の同志はペテルブルグの勞働者三千人を率ゐ、首領株にはウリツキー、ルナチヤルスキー、ヨツフエ、ウラヂミロフ、マヌイルスキー、カラハン、ユレネフ、ボゼルン、リトケンス等の逸材があつた。同志アントーノフ・オヴセーエンコはもう已に入黨し、ソコルニコフも亦入黨濟みの筈である。レーニンは單獨入黨か、同志連れで入黨か、いづれとも返答を與へなかつた。レーニンとしては四圍の狀勢と、私の同志各個人について考慮の必要があると考へたのであらう。レーニンはマルトフ及びその當時外國から歸來した國際主義派のメニシエウイキーの一部との提携も可能と考へてゐたらしい。私はレーニンが私の入黨申込みに對して、已に默諾を與へたものとして、形式的の入黨手續を急がなかつた。已にわれ等の政策は共通であつた。私は歸國の初日から、勞働者や兵卒の集會で『われ等は國際主義派のボリシエウイキー』であると聲明した。かくして私は、入黨の形式手續よりも一歩さきに、已にボリシエウイキーと政治的に合同したのである。

十二

以上の敍述を要譯するにレーニンとトロツキーとはその初對面の時（一九〇二年）から、歐洲大戰爭の半頃（一九一六年）迄で、たゞ最初の一年間と、一九一二年のロンドン會議の末頃との二期を除いて、殆んど終始、その主張を異にし、互ひに論難攻擊を交付した。レーニンは最初から社會民主黨內の左翼として終始一貫し、非安協主義、武裝勞農革命主義、を以て進み、歐洲大戰爭に際しては『敗戰主義』を唱へ、曾つてその頑迷一徹の過激主義をまげたことがない。トロツキーはこれに反して、時々その態度と方針を變へた。彼はレーニンの人格崇拜者から、レーニンの政敵マルトフの率ゆるメニシエウイキーに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

走り、次いでメニシエウイキーからも離れて、ボリシエウイキーとメニシエウイキーの中間に移り、時に兩派の合同提携を唱導し、時に甲派に接近して乙派を牽制せんとし、他の派の政策を攻撃し乍ら、自家の政策を明示しなかつた。しかし概して云へば彼は七分通りメニシエウイキーに近かつたと見なければならぬ。

然るに一九一七年、三月革命おこるや、彼は俄然その從來の『七分通りメニシエウイキーに近い中立態度』をすてゝ、レーニンの配下に馳せ參じ、ボリシエウイキーの一員となつた。

一九一七年三月革命以後のトロツキーは明らかにレーニンの采配下に立ち、十月革命に際しては、拔群の功をたてた。ソウエート政府の建設後、彼は陸海軍總長の要職にあつて、反革命動亂鎭壓の難局に當り、やがてレーニンに次ぐの革命の元勳として、世界にその雷名を轟かすに至つた。

然し、トロツキーは、ボリシエウイキーの黨員としては新參者である。外樣格である。三月革命迄ではレーニンの政敵であつた。十數年間レーニンとは「絕望的政爭」をつゞけた敵手である。而してボリシエウイキー黨への入黨に際して彼は實に『正しきはレーニンにあらず、トロツキーなり』との堅い信念を胸に秘めて入黨したのである。

ボリシエウイキーの政權獲得後、ソウエート政治は一黨獨裁專制の觀を呈した。しかし、一黨必らずしも一黨にあらず、黨內常に二つの潮流が爭鬪を續け、トロツキーの『不斷の革命』の原理は、レーニンの『勞農提携』方針と相容れない。

トロツキー派がレーニン直系の幹部派と分裂すべきは、當然の趨勢であつた。十月革命の元勳たるトロツキーが、ソウエート政權存續の今日において當年の同志スターリン等のために貶せられ、トルキスタンの山奥ウエルヌイで、配所の月を歎ずる身となつたことは、一見不可解の出來事の如くに考へられるが『革命前におけるレーニニズムとトロツキズムの政爭史』を繙くならば、トロツキーの失脚は全く『當然の趨勢』の『當然の歸結』であると見るの外ないのである。

本文の敍說は已に大部分史實に屬する範疇であるけれども、トロツキーの失脚てふ『不可解なる出來事』の謎を解き、また現在及び將來におけるソウエート政情の眞相を研究する上において、最も有力なる參考資料たるを失はない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

總辭職と再解散との間

普選第一議會の内面的記錄

來間恭

一

特別議會の前景を、まづ見る。

普選最初の議會に、政變をまきおこさんばかりの政治的狂風を生ぜしめたのは、正に、第一回普通選擧の意地わるい判決であつた。強烈な政權慾に燃えつゝある二つの黨派が、均齊の分野に置かれるとき、政權は宙にさまよひ、政局は激しい動搖を免れない。

政民兩黨が、總選擧の直後から、おのおの勢力を增さうとあせり出した樣子は、何人の目にも寫つた。兩黨が、柄にもなく社會政策を唱へて看板の塗りかへを競つたり、琉球選出の議員一名を迎へるために大騷ぎを演じたりしたのはその一例である。たゞ政友會の方は傳統的に肌合ひが荒つぽい上に、政權を握つてゐるのだから遣り口が、いかにも露骨であつたのにくらべて、民政黨は、お上品に構へて、はがゆいやうな感じを與へたけれども、床次、安達兩氏等の隱れた努力はなかなかどうして眞劍であつた。既成政黨の慣用手段とする切り崩しは、敵から奪つて味方で使ふのだから、一名の轉黨で、勢力の上に二名の差を生ずる。從つて今度のやうに際どくなると、一名の代金十萬圓を出しても惜しくないわけであるが、政權の歸趨がわからぬ互角の對陣では、切り崩しがむづかしい。

そこで、いきほひ中間地帶に目を向ける。中間地帶は、僅かに三十名そこそこの議員を包容する狹隘な區域である。それをひと纏めにして、そつくり持つて來ることが出來れば、問題はないが、その狹い地帶の中でまた、無產黨、明政會、革新黨、實業同志會、など、それぞれの歷史と立場を持つた小黨がめい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めい理をめぐらしてゐるのだから始末がわるい。中間地帶に屬する人を個々に檢すると大ていは一風變つた、きかぬ氣の人物である。賞らん哉のいはゆる中立議員が少い。これは、原則として中立議員の存在を否定した第一回普選の意思としてみれば面白い現象である。が、今は何としても中間地帶に侵略——いな援けを乞はねばならぬ二大政黨にとつては困りものである。求める者は弱い。どうかすると微弱極まる小黨のために、大政黨が牛耳られる。二大政黨は、これら小黨を懷柔するのに汗をかいた。『少數專制』といふ聲をさへ聞くに至つたが、中間地帶はいかなる色合ひを示したか？

無產黨は八名を擁して、議會の第三黨、その向背が直ちに政局を左右するわけだが、これに對しては、朝野兩黨とも、うつかり手が出せない。政府筋では、無產黨が左右二つに割れるのを、かなり遲くまで期待してゐたやうであるが、無產運動をいぢめ拔いた現內閣に、無產黨の一票でも漂流すると思ふのは錯覺も甚しいと申す外はない。革新黨は往年犬養氏と袖を分つて以來、反政友の暖簾をブラ下げてゐる。

實業同志會は政策協定といふわけで、內實は傳へらるゝが如く、鐘紡がアマゾン河の流域に獲得した土地の開拓に絡んでか、素直に政府の手を握つた。無所屬議員の中四名は明かに政友會の出店と目された。

そこで、無產と革新の約十票は民政に合流させ、實同と無所屬の七票を政友に附着させて見ると、朝野の均勢はなほ破れない、むしろ野黨が些少の優勢である。こゝにおいて、最後の決定票は、明政會の七名と尾崎、長島、田淵の三氏の手に落ちた。もつと精しくいへば、假りに尾崎氏等の三票が民政に行つて、明政會の七票が政友に行けば、朝野は同數か、違つても一二票の差、明政會が二つに割れて約半分政友に行き尾崎氏等も政友に附くとしてもほゞ同樣の結果となり、勝敗の岐れ目はデリケートを極めた。ところが、尾崎氏は今や、文字通り獨立自尊の立場にある。長島氏は床次氏の姻戚たると同時に田中首相とも多年の親懇があるので進退に窮したか、專ら尾崎氏に追隨の態度を取り、田淵氏に至つては凡眼の窺知を許さぬ仙人である。しからば明政會は如何？これまた不可思議な集團である。山崎氏は、前議員の菊池謙二郎氏と同じタイプ、椎尾氏は達德碩學の上人であるだけ、大內氏は無偏無黨の國士型、藤原氏は學堂崇拜、鶴見氏は得體のわからん新自由主義、小山、岸本兩氏は政民いづれにも加擔し難い立場にゐるのだから、明政會の旗幟は鮮明でありやうがない。困つた人々の手にキャスチングヴォートは握られたものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

混沌たる情勢のまゝに日は移つて、開幕に近づく。四月十日、共產黨檢擧の公表と共に勞農黨鐵槌をうけ、同十二日、無產黨第三回共同委員會は反政府合流の態度を明示し、同十四日ごろから鈴木內相に對する彈劾の聲が、野黨各派の間に高まりつゝあつた。同十六日、政民兩黨はおの／＼恒例の臨時大會を催して出陣ののろしを揚げ、同日明政會は鈴木內相彈劾の意向を示したがなほ態度の明快を欠ぐ。やはり同日、政府側では田中首相私邸に閣僚懇談會を開いて軍議を凝らした。その際の一致意見として非公式に發表されたところは、多分に宣傳味を帶ぶるとはいへ、頗る興味に富む。

一、內閣不信任案は十名內外の差で否決し得る

二、內相彈劾案も少くとも五六名の差で否決し得る

三、官立大學の左傾教授を議會前に處分する

四、政府と與黨の結束上、大臣又は政務官の中から院內總務を選ぶ

五、與黨の內部に鈴木內相の單獨責任論があるけれども政黨政治の根本精神に從ひ一蓮托生で進む

六、元勞農黨の水谷、山本兩代議士が不穩の言動ある場合には除名決議の處置に出る。（東京日日、同、一六）

（果して翌十七日、河上教授の辭職は實現されたが、右六項の中で現實されたのはその一項のみである點に注意されたし）

四月十七日、朝野兩黨から各自の優勢を放送し、政府側の民政切崩し盛んなる模樣、同十八日、野黨聯合協議會開かれ、同十九日、熊本第六師團山東に動員、同日、佐藤議員民政より政友に轉じ、同夜、後藤子は政府の依囑によつて中立議員を自邸に招き政府援助を勸告せんとしたが、明政會應ぜず、その女婿たる鶴見氏さへ『岳父と行動を共にせず』と公言した。

二

いよいよ特別議會召集の四月二十日となつたが、重荷を負うて綱を渡るやうな政府と與黨の不安と、長門一步の地まで政權に近寄つた民政黨の焦燥は、むしろ苦悶といふべき程度であつた。民政黨は果して倒閣の目的を達するか、政府が難關を切り拔けるか、それとも再解散の一八勝負と出るか、直接利害の關係者でなくても興味が湧く、いづれかの結果に到達するまでの道程において、政民双方が、どんな手段を弄するであらうか、キヤスチングヴオートの活躍ぶりは如何、初めて檜舞台に躍り出した無產派が、この政局をいかに彩るものか、そこいらには何か普選の新時代にふさはしい新味が見られはせぬか、との期

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

待も多分に向けられた。

召集日の正副議長選擧には、特別に注意が拂はれた。情勢が極めてデリケートで、議場の驅け引きが勝敗の岐れ目ともなる今度のやうな場合に、議長を取つた方が非常に有利であるのは無論だが、それよりも新議會最初の投票が、分野を示す點に深い意義があつた。政民兩派がおの／＼候補者を立てゝ、集まる票數を以つて議會の前程を測定するバロメーターとしやうと思つたのであつた。まづ議長選擧において、最初の堂々廻りには過半數を得た候補者がなくて、決選投票を行つた結果、政友會の押した元田氏が民政黨の藤澤氏より僅か二票の多數で當選した。凱歌は一應政友側にあがつた。議長を得て、幸先はよし、議事の都合もよい、がバロメーターの現はした勢力の分野が甚だ面白くない。といふのは議長選擧の決選に當つて無產黨の中四名の棄權があつたために、やつと元田氏の當選となつたのであるが、その四票は、内閣不信任問題になれば疑なく反政府として生きるからである。ところが、こゝに面白いのは、それに似た悩みが民政黨にも生じたことである。すなはち民政黨では無產黨の四票が棄權となつても、自派の藤澤氏が二票の差で勝つ目論見であつたのに、まんまと豫想が外れた。野黨を裝ひながら與黨に款を通じてゐる者が二名だけ必ずあるわけだから、味方の結束について憂色なきを得なかつたのである。副議長選擧には決選投票となつてから無產派の七票（安部氏缺席）が野黨側に投ぜられて、野黨側の清瀬氏が政友の磯岡氏より七票の多數を得て當選した。

形勢非なりと見た政府は、反對黨の切り崩しと中立議員の誘拐に、一段と馬力を掛けて議會切り抜けの一途に狂奔しながら、一面においては、再解散斷行の決意を仄めかした。二十日の夜には明政會が、内相彈劾案を提出することに態度を決定した。これよりさき、鈴木内相の狂暴に近い選擧干渉に對しては、政友會以外のすべての議員が痛憤を示してゐた。議會政治否認の聲明事件まで加はつて鈴木内相の不評判はひどいもので、政友會の内部にさへ「内相を擁護する餘地はない」と唱へる者があつた。民政黨嫌ひで、現内閣の倒壞には不贊成の尾崎氏も、内相の振舞ひに對しては決して好意を持たなかつた。そこで、直接に倒閣を狙ふ總括的不信任案では野黨の足並を揃へにくいけれども、内相彈劾案でならば過半數の結束は、さまで難事ではない形勢になつてゐたのである。

結局において、内相彈劾が、今度の議會戰の絶頂となり、しかもそれだけで特別議會は終りを告げるやうなことにさへなつたのであるが、内相彈劾について野黨の聯繫が全く成るまでのい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きさつ、その間における政府側の對策、與黨における內閣改造論の急速な成長、內相の辭意表明から辭任完結までの經路、それらすべての、內相彈劾をめぐる全面の動きには政治的術策が遺憾なく盡されて、千波萬波、政爭の全容を見る思がある。

三

明政會が、內相彈劾の意を決するに至つたのは、尾崎氏を指南役として種々談合した結果であつた。しかしてそれは單純な內相彈劾ではなかつた。その根本精神において朝野兩黨のいづれにも加擔せず、いな兩黨の非を二つながら打つ、と同時に新政策の實現を期せんとするところの中間派的是々非々主義であつた。その具體化されたものが、思想的、政治的、經濟的各國難の三案に外ならぬ。三案は尾崎氏の起草にかゝる。內相彈劾は、政治的國難決議案中の一項として掲げられてゐるに過ぎない。それも尾崎氏が『內務大臣の反省を求む』と書いたのを、明政會の連中が『內務大臣を彈劾しその處決を促す』と改めさせたのであつた。そして一方思想的國難案には倒閣運動を非とする旨を明記してある。しかも尾崎氏は、國難三案の不可分を固く主張したのである。

革新黨は直ちに國難三案に贊成し、無產黨は、國難三案の全部に對しては容易に首肯し難い點がむしろ多かつたけれども、野黨の結束を保つとに主點を置いて考へた結果、忍び難きを忍び『內相彈劾を倒閣の有效なる一手段と認め』これに贊成するとに、廿一日の共同委員會で決した。

問題は、民政黨の側にあつた。その目指すところは一路倒閣にある。すでに總括的不信任案の提出を決意してゐた。總括案に野黨を合流させるのが民政黨の第一義であつた。ところへ明政會から示された國難案は倒閣を否認する傍ら內相を彈劾するものである。なほ國難案中には將來民政黨が政權の地位に立つたときに多大の束縛を受ける條項さへ多々含まれてゐる。民政黨としては首をひねらぬわけに行かない。殊に愼重派の大將濱口總裁は、國難案中の將來にわたる政策を讀んで苦澁の色を泛べた。廿一日朝革新黨の關直彥氏（貴族院議員）が訪れて、濱口總裁に『まづ內相彈劾を含む國難案を通過させた上で、その餘勢を驅つて總括不信任案を上程するのが民政黨としても得策である』旨を縷々勸告した。同日午後、民政黨は幹部會を開き、熟議の末に案じ出されたのが、折衷案であつた。その案文は簡潔に、內相の非違をあげて內閣全體の引責辭職を求めるものであつた。これを野黨各派に示したが、尾崎氏と明政會は、國難案を執つて動かない。よつて民政派は折衷案を拋棄すること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とし、廿三日の野黨聯合協議會で、國難案の中から内相彈劾の條項だけ切り離すべきとを主張したけれども、なほ尾崎氏等の容れるところとならなかつた。民政黨の内部にはこれについて二論あつた。一方は床次氏を頭とする本黨系であり、他は安達氏等の憲政系であつた。床次氏は、野黨の結束に主力を注ぐ方針に傾き、安達氏等の逡巡するのに對して『早く態度を決せねばならぬ、明政會との聯繫を失ふやうなとになれば自分も考慮せねばなるまい』と強硬な一語を吐いたので、遂に民政黨が讓歩の態度を決し、安達、小橋等六氏が明政會と協定を結ぶために明政會を日本倶樂部の一室に訪うたのは廿四日午後十一時四十分であつた。深更に及んで、國難案の一部に修正を施した上、民政黨もこれに贊成する事になり、直ちに『内相彈劾について意見一致した』との共同聲明を發表した。なほ民政黨は別個に總括的不信任案を提出するとを發表した。野黨聯盟の成立に脅威を感じた政府は切崩しに狂奔した結果、民政黨の金澤氏を轉黨させる事に成功した。

翌廿五日、議會は初めて本舞台に入り、田中首相の施政演說あり、御大禮費豫算が滿場一致可決された後、共產黨事件說明のための秘密會を經て、國難三案の中の思想的國難案が上程され、尾崎氏自ら起つて提案理由を演說したが、案の主旨は

一、共產黨事件に對し刑罰のみを以て之に臨まず環境を改善すべし
二、政府は共產黨檢擧を手柄顏せず罪を聖明に謝し、國民に謝すべし
三、共產黨事件に對し議會も謹愼し、之を黨略に利用すべからず

といふにあつて、大多數で可決された。

然るに、尾崎氏は、經濟匡救案（國難案の名稱變更）中の責任支出廢止に關する民政黨の修正には應じ難い、と主張したので、野黨聯盟に再び暗影を生じて來たけれども、床次、鶴見、長島諸氏の熱心な勸告によつて尾崎氏も廿六日に至つて修正に同意したので『内相の處決その他に關する決議案』及び『經濟匡救案』について野黨の足並みは完全に調つた。民政黨は、内相彈劾案の上程を一日延ばせばそれだけ切り崩しの餘地を與へるものであるとして、その上程を急ぎ、廿七日の本會議にこれを緊急上程して一擧に雌雄を決せんと闘つたが、政府と與黨の策應による上程阻止のために目的を達せなかつた。戰機高潮に達して政府筋の魔手は民政にも、明政にも無產にさへも延ばされたのに、野黨の結束は、意外といふべきばかり鞏固なために、誘惑の功まるでなく、政府は生色を失つた觀があつた。民

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

政黨は二十七日夜から、いはゆる鑵詰め政策をとつて所屬議員全部を各府縣別に分宿させ、弱腰と見られる議員には院外團の猛者を監視につけた。廿日の夜、自宅に歸つて寢たものは濱口總裁と床次氏の二人きりであつた。民政黨の寺田、林、清水の諸氏が暴力團に襲撃されたのに鑑みて、無産黨では組合の逞ましい連中が、議員の身邊を護衛した。中にも舊勞農黨の水谷、山本兩氏の宿所を突きとめやうと、各警察が血眼になつても、遂に探し當てなかつたのはお氣の毒である。

明くる廿八日も政府與黨は内相彈劾案の緊急上程を阻止することに全力を盡したが、野黨側はその策戰の裏をかいて、内相彈劾案の上程されるまでは一切口をつぐむことに申合せ、無抵抗主義の戰略に出た。これには流石の政府と與黨も當惑した。政府委員と與黨議員の八百長問答だけで、八時間も十時間も議事を引きのばすとはできない。種が盡きて了ふ。遂に政府も意を決して廿八日の議場で政府提出諸案の議了するを待つて、内相彈劾案を上程することに政府と野黨の諒解がついた。政府の口癖にしてゐる解散が全然ないとも限らぬといふ、豫想もあつて、議場は極度に緊張した。午後四時に至つて、内閣の心臓を射んとする彈劾案は遂に上程された。尾崎氏が約三十分にわたる彈劾演說を終へて將に壇を離れんとするや、この時おそしと鳩山内閣書記官長の手から紫のふくさ包が元田議長に渡され、二十八日から三日間停會の詔書が降つた。

四

事こゝに至るまでに、政府と與黨の方面ではいかなる措置をとつたであらうか？

鈴木内相の非常識な言動に對しては、與黨内にも平かならぬ者があつたとは前記の通りである。すでに議會開會前から、内相彈劾が政府全體の致命傷となるかも知れぬといふ心配があつたから、閣議でもその對策が話題に上つたが、當の御本人は『切り崩し、抱き込みその他の手段で無事に切り拔けて見せるから心配するな』とばかりで一向、氣にもとめぬ樣子であつた。野黨側の步調が内相彈劾の一點で揃ひさうな鹽梅になつても、内相は依然として一笑に付するやうな素振りを續けてゐたから、閣僚一同も安心してはゐたものゝ、政府として解散をほのめかせることによつて野黨の陣營を攪亂する方策を立てゝゐたので、野黨側が内相彈劾案によつて聯繫をつくらんとするのに對して『政府は一蓮托生だから、若し野黨が内相を彈劾するなら、政府全體を彈劾するものとして政府は所信を斷行するぞ』と威嚇する方法をとつた。後になつて、内相の自裁より外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に途がなくなつたときに、この『一蓮托生』が自縄自縛とならうとは神ならぬ身の、である。

廿八日の停會ごろまでは、事實閣議の意向は一蓮托生、連帶責任論で進んでゐたらしい。なぜならば、政府側では、やはり勝つ見込であつたからである。鈴木内相は敵に冷酷苛烈を極めるのみならず、與黨内の者でも關係の薄い者には冷淡であるが、その乾兒といふやうな者に對しては身を捨てゝも情誼を盡す、いはゆる親分肌だから、いゝ乾兒もある。義弟に當る鳩山氏は無論のこと、森外務政務次官、宮田警視總監、山岡警保局長、内田海軍政務次官、その他は鈴木内相を盛り立てゝ、政府部内に最大の勢力を形成してゐる。今度の議會で内相に對する風向き險惡と見て、議會切り拔け手段に寢食を忘れ、渾身の努力を試みた者こそ鳩山氏等一聯の面々であつたのである。切り崩し、抱き込み等のために彼等の拂つた物質的、精神的、肉體的犧牲は非常なもので、政府全體からの深甚な謝意に充分値した。首相はその間の消息を知り拔いてもゐたし、鈴木内相に對しては閣僚中の誰にも增して信賴してゐた。首相の心情として『一蓮托生』は僞りのないものであつたらう。ところが閣僚の中には鈴木内相の内相としての存在に快からぬ人が二三あるのである。元内相であつた水野現文相が鈴木内相と仲の惡いのは周知の事實。その他にも鈴木氏の沒落を遺憾とはせぬ閣僚があつたが、何しろ政友會は、その昔高橋内閣の改造で懲り懲りしてゐるし、今の政府部内に有力な手下を植えつけて威勢隆々たる鈴木内相にうつかりしたことを云つて開き直られでもしたら最後、一ぺんに内閣お陀佛と知れてゐるから、鈴木嫌ひの閣僚も、心の内は別として『一蓮托生』を合唱したものであつた。

ところが未だ問題がある。與黨の最高智囊たる岡崎長老と小泉準長老は、古くから鈴木嫌ひであることこれだ。與黨内の内相單獨責任論――内閣改造の震源地は、そこいらだ。

しかし、政府は廿八日停會後の臨時閣議でなほ一蓮托生と再解散の態度を捨てず、野黨の反省を促すこと――切り崩すことに最後の暗中飛躍をなすことにした。野黨側の警戒も到れり盡せり、民政黨では議員一同を箱根、湯河原、熱海その他へ鑵詰め旅行に出した。明政會でも廿八日、政府からの妥協申込を、はねつけた。明政會から見縊られるやうになつてはお終ひだ。二十八、二十九、三十日の三晝夜にわたる鈴木派の必死の懸賊的作業は、完全に失敗を告げた。萬事窮す矣。

切り崩しの失敗、それは總辭職か再解散かを導くのみである。與黨議員たちは慄然とした。颯と解散よけの軟風が吹いたからである。その刹那に與黨議員は殆ど洩れなく、解散恐怖

患者になつた。與黨の陣笠にとつては政權なんか大して有難くない。彼等の持つてゐる資――衆議院議員、それだけが生命と同じ位に大切なだけである。たつた二月前のあの苦しい逐鹿戰、そして當選の甘酔。そしてたちまち解………解散の力の字に震え上がる。この連中が、二十九日から三十日にかけて地方團體別に寄り集まつて、一議に及ばず政府へ向つて『お助け下さい、人類愛によつて御考慮を願ふ』人類愛なんて、しほらしい言葉が、狒々のやうなあの連中の口からでも斷末魔には飛び出すと見える！

内閣改造論は見る／＼燎原の火だ。小泉、秋田、岡田などの諸氏がそれを煽る。曰く『内相彈劾案は通る、總括不信任案は通らない、内相さへやめればいゝ、解散はない』筋は通つてゐる。某大實業家と某銀行總裁の口からも解散不可論が田中後入齋將軍の耳につぎ込まれた筈だ。さうなれば首相にも選擧費調達は絶望だ。そこまで行つても首相は鈴木内相に『やめろッ』と號令を掛けるには忍びない。

再停會明けの五月一日――朗かなメイデイ――衆議院内の閣議室には陰慘な緊急閣議が朝から二度も開かれた。在野黨は一名の落伍者もなく歩武堂々と登院したとの報せ、缺席者があるだらうとの最後の頼みの綱も切れた。閣僚の中には、今こそとばかり、解散反對を唱へる者が出た。會期の殘る六日間を再停會で押し通さうとの說も出た。依然たる一蓮托生論もある。蜂の巢をつツゝいたやう、この時スックと起つた鈴木内相は『我輩は敢てこの地位に戀々たる者ではない、諸君安心して下さい』と聲をあげて一言。とにかく、今日のところは直ちに再停會を奏請して後圖をめぐらさうといふことになり、午後一時廿分、本會議開會の電鈴が鳴り渡ると同時に開會に及ばずして更に三日間停會の詔書が降つた。

内閣は五分どころ參つた。起死回生の法――おれの男の見せどころ、内相は一日の午後三時ごろ永田町首相官邸へ行つて『サア』とばかり辭表を首相に渡した。首相は慰めの言葉に詰まつた。その瞬間に少くとも來春までは、田中、オラが首相である、とに氣がついた。内相は間もなく引き取つた。寂滅からやつと甦生へ辿りついた首相は安堵の息をついてその夜は久しぶりに私邸へ引き上げ、責任の公平なる分配のことなんか忘れて、ノオノオと快眠を貪つた。

翌朝の新聞をひろげて、オツ魂消たのは、それを初めて知つた閣僚であつて、民政黨の最高幹部などは却つて『豫定の籤拔けをやり居つたワイ』と落付いてゐたからお笑草だ。が内閣の方は大變な騷動になつた。まづ早朝の寢呆け面を、いとゞふく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らませて首相官邸へ飛びこんだのが山本農相、その後へ慌しく自動車をのりつけたのが田中首相、つゞいて望月遞相、水野文相、三土藏相、その他小者大ぜい。改造派と、非改造派がみんな血相を變へて右往左往、いまにも内閣が潰れさうな氣配である。山本農相が顔をひつつらせて玄關へ、自動車へ、内相官邸へと急ぐ。内相官邸には鈴木一門の大小乾兒が應接間から溢れる勢ひ、やがて内相と密談を終へて出て來た山本農相が一同に向つて『内相の辭職は改造派の宣傳だ』と言ひ殘してまた自動車を首相官邸へ飛ばす。

午すぎに、當の鈴木内相は新聞記者を引見して『俺は斷じてやめん、それだけだッ』と怒鳴る。

内相はなぜドタン場で居直つたか？ それは半分は乾兒たちに泣きつかれて、半分は、切り崩し成功の見込みがあるとの情報に誤られたのである。

田中首相は狼狽の極、大急ぎで長老會議を赤阪の高橋邸に開いて貰つた。長老の意見は初めから平穩無事に決まつてゐる。『居直りはいけない』といふわけで、議會後に内相を辭職させることにして、尾崎氏に諒解を求め、内相彈劾案の撤回を依頼する手筈になつた。が使者に立つた濱田國松氏に、尾崎氏が『將來の辭職を條件として内相彈劾を引つ込めることはありませぬ』とキッパリ言ひ渡した。そこで翌朝、また揺り返し。改造派の三土藏相が各長老邸、その他を驅け巡つて大勢を説く。首相も鳩山氏等を通じて内相に即時辭職の止むなき次第を述べたので、内相も納得し、午後の臨時閣議に出かけて閣僚一同に辭意を表明して、さしも大がゝりの悲喜劇はやつと鬼になり、再休會明けの四日、議會開會に先だつて辭表御聽許、田中兼攝内相の親任式が行はれた。與黨の解散恐怖病患者一同全快。

泰山を鳴動させた政治的國難案は、鈴木一匹を追ひ出して、骨抜きの修正を加へられて、四日の議會をパスした。その時野黨側の票數が五票多かつたのが、せめてもの心遣りとはとんだ御難案であつた。

腕の關の肩すかしに、たんまり砂をしやぶつて、濱口部屋の一同、業腹でたまらず、『もう友黨に頼まず玉碎主義だッ』と總括的不信任案の上程を急ぐかの如くであつた。ところが、これが滿更捨てたものではなく、どうかすると通過しさうだから、中風病みでも生命の惜しい田中内閣は、五日の本會議が開ける前に捨て鉢的に又候『解散』の吹聽に及んだ。と驚くべし、中風病みの世迷ひ言に怖ぢ氣ついたものがある、明政會であつた。明政會は民政黨の總括案上程を妨げるやうに政友會と協力を始めた、これなん『明るい政治』の正體であつたのか！左ー

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の本會議には追加豫算案が可決された。その中には第一次山東出兵費が含まれてゐるが、民政黨は『第一次山東出兵費に反對すれば濟南事件の責任を負はされる恐れがある』とて贊成した。無產黨は擧つて反對した。

五日夜、明政會は、民政黨の總括不信任案に對する態度として左の如き、ユーモラスこの上なしの申合せを發表した。

『野黨聯盟の情誼を重んじ條理ある解決を告ぐるために結束して進む』

これは何のことか判る方には、お褒美を、と云ひたい。念のために翻譯すれば

『民政黨の總括不信任案を握り潰しにする』といふのである。

ところで、これは民政黨の希望なのだつた。といつても驚くに當らない。ウソで固めたものが現在の政治なのだから。卽ち民政黨は『總括案を上程して採決において否決になると、その結果は院議で現内閣を信任したとになるから、望の薄い總括案を採決まで行かせたくはない、たゞこれを上程して濱口總裁に說明演說をやらせ、その中でウント現内閣を痛罵すればよろしい』といふ腹なのだ。通過を要望すればこそ總裁自ら起つて說明する案を、通過させまいと望むとは何たる不合理！などといひますまい。無產黨がその日に出した聲明に『明政會は馬脚を露はし、民政黨すでに闘志を失ひ』とある一節に盡きる。

氣のぬけたビールよりもつとひどい最終日、六日の本會議には經濟匡救案通過、お次の總括不信任案は握り潰しにするために、わざわざ六時間も休憩の後午後九時から上程された。濱口總裁が威勢のない演說をした。握り潰しの陋策に反對する無產黨から討論打切り、採決の動議を出したところ堂々めぐりで時間を空費した上で動議は否決。會期全く盡きんとする午後十一時五十五分、眞に最後の五分前に、不信任案は條理ある解決？を告げて記念に値する議會は終つた。

五

今度の議會は會期の短い、しかもお休みの多い議會であつた。その短い間に政治的な現象のあらゆる相が盛られてゐる、それは疾患の種々相である、ブルジョア政治家はプロレタリア戰術の鋒先にかゝるを待たずに自分の手でブルジョア政治の正體を解剖したのである。われらの目に寫るもの、政權を繞る人々の政治の行き詰まりである。ブルジョア政治の破綻である。袋露路の奥で堂々巡ぐりをしてばかりゐる黨人の群が見られる。黨人がまだ行き倒れにもならずに、とにかく政治を動かして行くために用ゐる唯一の道具としての虛僞が見られる。何一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つ眞實のかけらでもあるとか？政治はすなはち空虚、欺瞞、せいぜい苦笑でしか有り得ない。と申す證據に、第五十五議會中に盛んに用ゐられた新語を少しばかり註釋付で並べてみる。

反省――切り崩し。一蓮托生――見殺し。

玉砕主義――瓦砕けのこと。

新自由主義――二股膏藥のこと。

條理ある解決――有耶無耶に葬ること。

政治的な事件はお話になりかねるほどつまらぬものばかりであつたが、議場の上に被はれた色彩、あるひは議場の底に流れてゐる潮流、の一種異様に目を刺戟するものがあつた。それは滑稽なほど濃厚な反動的傾向であつた。それは單に最近の共産黨事件のみから生み出されるものではないのである。ある男が、普選法と同時に治安維持法を制定した時代、あるひは、ある男が、普選を危險思想と唱へた時代、あるひはもつと古い時代からそんな流れは流れつゞいてゐるのであらう。それにしても今度の濃厚さはどうだ！黨人も役人も、そんな反動的傾向が、いづこに行くかについても少し眞面目に考へてはどうか？幻影の盾にひとしい治安維持法に、更に幻影を加へんとする遊戲をやめて。

咽せかへるほどの反動的傾向に抗して、鮮かに鋭く、その存在を示したものは粗野なる無産黨議員の一群であつた。彼等が、議場のドアを推して一歩中に入つた刹那に、彼等以外の議員をして『おゝ此處へ敵が踏み込んで來たッ』と思はせるとについては失敗しなかつた。招かれざる客が、毅然として座席についてゐることは、ブルジョアにとつて少なからぬ脅威に違ひない。假りに去る二月の總選擧に無産黨が全敗して一人の議員も出さなかつたとしたら、特別議會は、あれほどの反動的傾向を示したであらうか？恐らく否である。あの反動的傾向は無産階級の進出に對する脅えの現はれに過ぎない。共産黨事件に絡ませて、無産黨を壓迫せんとする氣流が濃厚であつただけ、無産黨闘士の占めた八つのシートは光りを增したわけである。彼等は、よく重壓の試鍊に堪えて、無産階級的信念による鮮かな行動をとり得た。今後も彼等は着實な足どりで眞一文字に進むであらう。決してあせる必要はない、亡びる日はないから。

詩集『發足』　半谷三郎著
（價一圓　東京牛込若松町四十番地　椎之木社）
詩集『春・影・集』　河原直一郎著
（價一圓二十錢　東京神田今川小路一丁目　金星堂）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我子の場合……學生の社會科學研究問題

「大學から監獄へ」の途をとつたとして

○

内田魯庵

小生は萬事、子は子、親は親として我が子の進退行藏には餘り干渉しませんが、殊にコウ云ふ國家の大不祥事を我が子の場合として考へたくありません。が、革命前の露西亞が大學學生と國家との思想上の軋轢を連年繰返して大學の學生を糺彈し嚴罰し追放して更に寬假しなかつたのは爲政家の深く鑑むべき事と信じます。此度の事件に就て或る司法官の談話として新聞に載つたのを見ると、司法官が青年の客氣を憐れんで堅く將來を戒めて釋放するつもりであつたものを文部省が命じて（若くは文部省の意を體して）學校當局者がマヽ罪狀が疑はしいのに早くも放校處分にしたものがあるにはアッケに取られたといふ記事が見える。教育家又は教育者の涙が司獄官ほどもなく學生に對して嚴刻峻嚴なのは青年の危險思想以上に國家を禍ひすると信じます。左に右く露西亞の大學生の危險思想が年々募つて官憲と大學生との衝突が毎年反覆されて次第に激成した革命前の露西亞の狀勢は爲政家の宜しく戒心すべきである。青年の心は恰も綿火藥に等しきもの、徒らに壓迫して爆發性を喪はせ又は鎮靜すべきものではない。

○

今井時郎

親子關係は本質結合たるにレーゾンデートルを有する。就中母子は主として情感的結合によるが父子は主として理智的意圖的結合によるものであるから我子にして社會成員として非常軌的行動に出でたならば父たる私はよし法律的乃至社會的に罪を問はれないにしても自ら同罪を以て居るべしと考へざるを得ない。隨つて子が果して罪に落ちたとしたならば自らも罪に落ちたものと考へて自ら所決するところなければならない。私は其の社會的地位が私を許さないならば其の儘にして何等か己が罪を償ふに足るだけの特殊な行動に出る決心をするであらう。然し許すならば恐らく私は私の從來の社會的地位を捨てゝ新しい自然環境と新しい社會環境に新しく生きる方途に出るだらう。そして徐に子の許さるゝ時を待ち共に新キャリヤの開拓に進むだらう。かくすることによつて始めて徹底的に相携へて舊社會的行動の形式を捨てつゝ而も確き社會行動の取るべき實質を新しく生かし且つ成長せしめ得るであらう。具體的に云ふと相共に滿蒙西比利亞邊に出かけ來るべき第三世界

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

建設の先驅者となるだらう。

○

倉橋惣三

若しも自分の子が……といふことは、餘りに大きい假定です。强いて萬々一にそんな場合の想像をして見るとしても、その時の心持は、想像では、とても考へられない程恐ろしい、そして厳粛なものであらうとのみしか考へられません。しかし、此の思想亂濤の社會に居る子ども達のために、その方面に對する用意なしにゐることは出來ません。それには、私自身がもつ國體尊重の觀念を平生の生活の實際にあらはしてゆくことの外に、たとへば今度の樣な事件の起つた場合には、子ども達の理解程度に應じて、出來るだけ正しい說明と批判とを與へてやることを必要と思つてゐます。

○

野村兼太郎

人の親として、己が子が如何なる意味に於いても國家の罪人となるやうなことがあれば、耐へられないことであらう。今日未だ罪の有無も定まらず、單に嫌疑をかけられたに過ぎないとしても、なほ不安な苦しさを免れまいと思ふ。しかし彼等は最早大學の學生として事の是非善惡は十分わきまへてゐる筈である。もし彼等が衷心から出たある信念から何等かのことを行なつたのであるとしたならば、(假令若年なるが故に無分別であつたとしても)親であるとしても、これを如何とも爲し難いであらう。むしろさう云ふ信念を抱かしむるに至つた社會惡に對して十分研究し、これが除去に努むべきであらう。たゞ親としてはかかる嫌疑を蒙つたゝめに、現に帝大の如きはこれを放逐したが、その子が將來常に社會から危險視され、それでなくとも世路の困難なるに、如何なる苦しさを嘗めるかと思ふ時に、恐らく云ひ難き危惧の念と苦しさとわびしさとを感ずることであらう。

○

杉村楚人冠

丁度私の子供が一人は大學に一人は高等學校に居合せますので、この問題には相當考へさせられて居りますが、さりとてこれほど大きくなつた子供に指圖がましいことも申されず、たゞ何はおいても善良なる國民たらんことだけは考へちがひのないやうにと多少の舵を取つて居るに止めて、他はすべて成行に任せて居ります。

私の考では思想の傾向といふものも畢竟は趣味の問題で、その趣味は交友と讀書に大部分影響さるゝものと存じます。だから成るべく廣く各種のちがつた人と附き合ひ、成るべく廣く方面のちがつた書物をよんで趣味が一方に偏しないやうに心がけさせるの外はありますまい。一方に偏してもいゝが、一應各方面を見ておいてその結果一方に偏するなら已むを得ません、一方しか見ずにゐてその一方に偏してしまふのが一番困るのです。若い者は頭が單純だから、兎角一番手近に目についたものに一向きになり易い。私なども學校にゐた時、社會學の先生(米人)から初めて社會主義の講義を聽いて、無上に面白がつたものですが、だん〳〵他の先生の話を聽いてるうちに社會主義では人間を勞働者と資本家の二つにきつかり分けてしまはなければ承知せぬやうなところが、どうも私の氣に入らず、又人間を何處までも唯物的にのみ扱つて、其處に靈的人間の方面のあることを認めないやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なのが、私の腑に落ちなくなつて、いつしか前日ほどの興味を引かなくなつてしまひました。尤も私が右のやうに社會主義を解したのは私の誤解から來たのかも知れませんが、いづれにしても之に對する熱のさめた事は事實です。熱の覺めない頃は相當極端なことをいつても見ましたが、これもいつしか年と共に衰へてわれながらイクヂのないほど圓熟(!)してしまひました。だから若い者が若い内にやいくいつても、年を取る内に大抵は變つてしまふものと存じて居ります。たゞ年と共に變るまでに逸早く取りかへしのつかぬ變道にはいつてしまふことが最も憂ふべき點と存じます。

それさへ注意して居れば若い者の少々過激なことをいふ位のことはさう大した問題になりません。何もいはせないとなると、いはずにはゐるが腹の中で考へる。腹の中で考へることを、考へさせまいといふは、いくら親の力でも出來ることでありません。いはれるよりも寧ろ考へられる方が恐しいのです。

○ 三井甲之

我子の場合として、子弟教育の上から、學生が共產黨事件に關係して國法に觸れたといふことを考へる、といふ課題は僕にとつては新しいそれではありません。大正十五年の京都帝大中心の學生檢擧事件の時にも、地方高等學校の生徒で放校され郷里に歸つて居り、父母の膝下で自分の家から見ゆる母校の中學校の建物をながめて詠んだといふ十數首の歌を友人から示されて僕は涙を流してよんだのであります。字義通り前途有爲の青年が入學試驗の難關を越えて高等學校大學と進んで行く途中國法に觸れて學校をも追はるゝといふことになつては、人間として斷ち難い恩愛の情はその父母兄弟全家庭を死の暗黑に導きませう。スポーツ武道等に向はずに讀書慾に引きづらるゝ秀才型に此のマルクスかぶれが多いといふことは事實でせうから、正しい方向をとれば拔群の秀才となり有爲の青年となるべきものが躓くのですから、親の嘆きは一層いたましいものとなりませう。――されば年若き學生を處分するよりも、指導を誤つた教授監督不行屆の當局者が反省自決すべきでありませう。

○ 紀平正美

自分の子であつたならばといふ問ひですが現在さうでない以上は批判的に御答へするより外にありません。一體に社會全體の罪であります。歷史の轉回期に於て其の弱點は弱者に現象し、長點は强者に現象します。やがて只今氣の毒な狀態にあるものは其の弱者であります。其の弱者を作りしは功利主義的の皮相の教育にありと云はねばなりません、もつと眞劍な努力をせしめなかつた、親自身が功利主義的に教育し來りし罪と自ら悔まなければならぬ。

○ 土田杏村

思想の問題についても子弟との間につねに研討してゐたいと思ひます。父兄は父兄、子弟は子弟と全然違つた思想の圏内に生きることを避けたいものです。併しさうした上でなほ子弟が自分の信念に隨つて或る途を進んだとすれば、それは父兄といへどもどうする譯にいきますまい。また强いてそれを止どむべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きものでありますまい。か、今度の問題はコンミユニズムが正しいか否かを先きに決定しなければなりますまい。子弟の進んだ途が正しいか否かはその上で決定せられるでせう

○ 石原純

今日の學生が思想的に動いてゆくのは餘りに當然です、社會科學研究は世界の全人間の最大な重要な問題です、この研究の眞摯に行はれることこそ甚だよろこぶべきことだと思ひます、只國家の法律に觸れることは問題ですが、一體今の行政官がむやみに理解を欠いてゐる嫌があるのではありませんか、彼等を理解と慈愛とをもつて導かなくてはなりません、壓迫は過激を養成する最も有効な手段です。

○ 千葉龜雄

今日の家庭教育が及ぼす感化範圍は、いたつて限定されたものになつて居ます。今日の青年程度の子供は、學校教育と學生環境から享受した知識や見界を土臺として、思想なり方向なりを決定する偏向が大勢になつて居るのですから、現代のやうな社會にあつては、たとへば「我子の場合」にも、かうした困つた遺憾事が、どうして起り得ぬと誰が保障されませう。この場合はこれも已む得ぬ事として常人の成り行きに任せます。青年以上は、自分で自分の責任を持つのが當然ですから。

○ 高畠素之

親として自分の子供の監獄行きを喜ぶ者はあるまい。問題となつた所謂左傾教授たちにしても、まさか監獄に行かせるために人の子弟を薫育したわけでもあるまいが、煽動的に教授すれば必然さういふ結果になることが見越せない程の年でもない教授たちであつた。乃木將軍が部下の戰死について抱いた心痛の百分の一も持合せてゐる左傾教授たちであるなら、今頃は子をもつ親の心情に對してのめ〳〵生きてはをれぬ筈だ。

○ 下村海南

主として財政と經濟の關係により就職失業難を少くすること。

人種改良により弱質者を少くすること。

我子の場合にあてはめると一層より眞劍に上記の主行を徹底するよう努力いたします。

○ 森莊三郎

親の教育が惡いから斯樣な連中が出來るのです、子供の教育につき親は深い注意を拂はねばなりません。

○ 齋藤茂吉

自分の子が惡い事をしたならば、それは親として殘ぶのことで、親自身が悲しんでいゝと思ひます。今でも、まだ、帝國大學校の學生。つまり角帽。それから横文字。さういふことを餘り特別あつかひにするのでをかしいと思ふ。もつと社會一般が向上すれば、繁雜な獨逸流のいひまはし方も常識的になり、輸入學說一に向つて直ぐ漂動する模倣餓鬼が尠くなるでせう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○

水野廣德

「大學より監獄へ！」何と云ふ悲痛な文字であらう。若し之が「我子の場合」であつた時、親としての心は恐らく九腸寸斷の思ひがあるであらう。子の罪か、親の罪か、人の罪か、世の罪か、私には判らない。

惡法も法なりで、國民として國法を犯すことの是非は論ずる迄もない。併し古今の歴史を見れば法律を犯かすことは必ずしも絶對惡ではない。武士道の鑑と云はれる赤穗の四十七士も、義人の手本と稱ばれる佐倉宗五郎も皆國法の罪人である。社會科學研究の學生が國法に觸れたりとせば、彼等は賣名の爲めでもなく野心の爲めでもなく私慾の爲めでは尙更なく、唯研究に熱心なる餘り、眞理追求の切なる心と、社會現狀に對する靑春氣鋭の公憤の爲であつて、其の至純至誠の精神は主義こそ異なれ、明治維新の志士が屍を刑場に曝して悔いざりしと同じ意氣であると信ずる。

私は當時の志士の親の心がどんなであつたであらうかを獨り推想する外、此問題に對して御答する言葉を知りません。

○

生田長江

かりに私の息子が大學生であつても、それはマルクスやクロポトキンを崇拜する以上に私を崇拜してゐますから、さしあたり「社會科學研究」會といふやうなものに仲間入りはしないでせう。呵々。

序ながら「研究の自由」といふやうな非現實的なことを、靑少年の頭に注入する低能教授等は、その低能の故に放逐さるべきです。

○

靑木得三

共產主義、無政府主義等の誤れることを社會科學の眞面目な研究に依つて覺り得れば誠に之に越したことはありません。私の子供に對して社會科學の研究を禁止することは不可能と思つて居ります、何とかして眞面目なる研究の結果其の誤れることを覺つて貰ひ度い、子供に對して本を讀むなと云つてもそれは行はれませぬ、私は寧ろ福田德三博士のやうな立派な優れた學者が年若き人々の爲に共產主義の缺點を指摘せられたわかりやすい著書を公にせられんことを切望して居ります。

新刊紹介

藝術論　江原小彌太著

「自然と人生とに通じて働く生命が如何に人間生活を支配するかの根本に立つて、生命の表現たる藝術を人類がどんな態度で取り扱つてゐるかを知らん」とするのが著者の意圖である。未だ曾て世に表れなかつた獨特の藝術論として、この七百頁に亘る大作を推奬し度いと思ふ。（價三圓　東京・麻布・龍土町六三　黎明書院）

近世哲學史（上）　ヘフディング著　北昤吉譯

ヘーゲル學徒とも見做すべき獨逸哲學史家にも依らず、又思辨哲學をも排擊したヘフディングは、丁抹を鄕國に持つたといふ點でも、何れの學派にも囚はれない自由な立場を採る事が出來た。此の意味に於てもヘフディングの哲學史の紹介は問題となり得る。北氏の譯述に就ては此處に云爲するの要はないだらう。（價參圓參拾錢　牛込矢來三　新潮社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

脂取り一揆

田中貢太郎

明治四年の十月比のことであつた。高知縣吾川郡の奥になつた仁淀川の支流川内川の谷間には秋の夕陽が射してゐた。其の川内川の谷を挾んで兩岸に攢り立つた山やまには、雜木が赤や黄に染まつてゐた。其の山やまは見渡すかぎり中腹まで耕地になつてゐて、其の耕地から蕎麥を刈つてゐる者もあれば、麥を蒔くのであらう畝を切つた耕地の傍で物を燒いてゐるものもあつて、其の焚火の煙が處どころに立ち昇つてゐた。村の人家は其の耕地の雙になつた山麓に二軒三軒と點在して、其處からは牛の聲が聞え、馬の嘶きが聞え、犬の聲が聞え、鷄の暢んびりした聲も聞えてゐた。

村の通路になつた谷川の上の路傍では、家の庭前になつた崖の側面を刳つて竈を作り、それに大鍋をかけて楮を煮てゐる處があつた。其處には五十位の頰髯が延びて熊のやうな感じのする男がゐて、竈の火に注意しながら、煮えた楮の皮を出したり又新らしいのを入れたりしてゐた。其の通路の一方は谷川の縁に向けてなだれた耕地で、曳き殘された蜀黍や黒豆の枯葉ががさがさと擦れあつてゐた。谷川の流れは其の縁になつた淡竹の竹籔の陰になつて水は見えなかつた。其の耕地の入口には二組の者がゐて煮た楮の澁皮を除つてゐた。それは熊のやうな感じのする男の母親らしい白髮の老婆と其の女房らしい四十七八の女が一組になり、其の子供らしい二十歳位の男の子と十七八歳位の女の子とが一組になつて、割竹のやうな物でそれぞれ楮の中央を挾んで引き合ふやうにして扱くのであつた。そして、澁皮を除つた楮の皮は谷川で洗つて傍に晒した。磧の下手の方では其の楮の皮を晒してゐる者であらう大聲で何か云つてゐる聲がしてゐた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

通路の前方になつた曲り角から頬冠をして一本の枴を肩にした男が、出て來たが、やがて楮を煮てゐる處へ來て熊のやうな感じのする男と顔をあはすと、急いで頬冠を除つて、
「これは、よう御精がでます、」
と云つて挨拶した。と、熊のやうな感じのする男は、顎の下を掻きまはしてゐた棒を杖のやうに立ててそれに答へた。
「お前さんこそ、御精がでます、なんでございますか、伊野から今お歸りでございますか、」
「さうでござまいす、伊野の紙家（かみや）へ楮を渡して、高知の親類に病人がありましたきに、それを見舞ひがてら、高知へまはつちよつて、今、戻りよるところでございます、」
「それは、おつかれでございませう、」と云つたが、熊のやうな感じのする男は、そんな判りきつた挨拶よりも早く聞きたいことがあつた。「時に、なんでございますか、高知でも、めうな噂がありますか、」
「あの、異人のことでございますか、」
「さうでございますよ、異人が脂を取ると云ふ噂でございますよ、」
「あるだんではございません、わたしもそれが心配になつて、高知から戻りに、伊野へよつて、楮の錢をもらひたいと思ひましたが、それどころでないきに、夜どほし戻つて來ました、高知の親類で聞きましたが、五臺山の異人の病院には、脂を取る鐵架（てつか）をかまへてあるきに、其の上にあがると、痛くも痒くもなしに、笑ひ笑ひ脂を取られるさうでございますよ、」
「それでは、やつぱり、門札（かどふだ）を打つのは、異人に賣る目標（めじるし）でございますか、」
「目標でなうて昔からなかつた門札を、何のために打ちます、戸籍戸籍と云うて、家内の數から生れ歳まで詮索をして、順番をつけて異人に賣らうとしてをりますよ、それに兵務司からの布達（おふれ）ぢやと云うて、十八から二十歳までの男の子の名を戸長が付けだしたと云ふぢやありませんか、」
「さうでございますよ、わたしの子供も十九になりますきに、それを聞いて心配しをるところでございます、兵務司と云ふ處にして、異人に喫はすと云ふ人もありますが、云ひかたは違うても、どのみち異人の餌食にすることはかはりません、困つたことになりました、」
「それを、わたしも一番に心配してをります、わたしにも十八になる子供がございますきに、」
「さうぢや、お前さん處にも兄さんがありました喃（のう）、」
「二人あります、一人は未だ十五でございますが、わたしも、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

伊野へ寄つて楮の錢をもらはんと、村の衆に楮代を拂へんが、異人の餌食になるやうぢや、そんなことはしてをられんと思うて、もらはずに戻りました、御一新になつて、士も百姓も身分の高下がなうなつたと云うて、皆が喜びましたが、穢れのある非人共と一緒にされたり、こんなことなら御一新になつてくれん方がよかつた。眞箇に惡い役人ぢやありませんか、」

「さうでございますよ、お上へ納める物も、昔は夫役と雑穀ですんだものが、錢を出さねばならんし、今度の御政治はろくな御政治ぢやありませんよ、それにだいいち、同じ日本國の人間でありながら、自分の仲間を異人の餌食にするとは、鬼か蛇か、眞箇に惡い奴ぢやありませんか、」

「異人から間金を取つて、自分だけ好えことをしたいためでございますよ、それで、庄屋とか、年寄とか、名主とか、昔から村の差配をしてをつた者を置いては、邪魔になるきに、それを廢めて戸長を置いたり、未だ其の上に御知事様を邪魔者にして、東京へ呼うだと云ひますよ、困つた時勢になつたものでございます、」

「どうしたら宜しうございませう喃、」

「さうでございますよ、わたしも、これや何とかせにや不可と思うて、考へ考へ戻りましたが、これや、此のままではをられませんぜよ。」

「さうでございます、」

楮の澁皮を除つてゐた者は何時の間にか傍へ來てゐた。

「男の子の脂から先に取ると云ふは、眞箇でございますか、」

それは熊の感じのする男の女房らしい彼の女であつた。高知から歸つてゐる男は其の方を見た。

「眞箇のだんではございません、五臺山の異人の病院には、鐵架をかまへてあると云ひますぜよ、これも高知の親類で聞いた話ぢやが、長崎から戻つた人の云ふには、路をいきよると、前を歩いてゐた男が、姿の見えん者に脂を取られて、みるみる色が青くなつて死んだと云ひます、」

「まあ、どうしたら好えぢやらう、」

女が聲を出して泣くと、傍にゐた白髪の老婆も泣きだした。

「わしは、此の歳になつて、孫が脂を取られるのを見にやたらんとは、なんと因果なことぢやらう、わしは早う、爺さんの傍へいきたい、」

明治維新直後の日本は舊制の變革に變革を以てしたので、民心が非常に動揺した。わけて士の常職を解い四民を平等にし、續いで非人など云ふ賤民の稱を廢して民籍に編入したの

で、格式的階級的組織に慣れてゐる國民の中にはそれを潔としない者が出て來た。其の一方で戸籍法が改定布告になつた。其の戸籍法の第七則に、『區内の順序を明にするは番地を用ゆべし故に毎區に官私の差別なく臣民いつ般番號を定め其住所を記すに都て何番屋舖と記し編製の順序も其號數を以て定むるを要す』と云ふ條項があつた。もう其の時は庄屋年寄名主が廢せられて、郷村には官選の戸長と用係がおかれてゐた。戸長は命によつて毎戸に就いて屋敷番號を調べて門札を打たしたが、又其の一方で徴兵令發布の準備として、兵務司から十八歳以上二十歳までの男子を調査報告さした。戸籍法の改定布告になつたのは明治四年四月四日で、賤民の廢稱は其の年の八月二十八日であつた。當時賤民の總數は三十八萬二千八百八十六人あつた。其の戸籍法の改定と賤民の廢稱との間に挾まつて、即ち七月十四日、廢藩置縣が行はれて、大中小各藩の知事は本官を免ぜられたうへに、九月になつて歸京を命ぜられて東京に永住することになつたので、疑惑は疑惑を生んで民心ますます動搖した。

高知縣下では高岡吾川土佐三郡に渉る北部山間の郷村が動搖した。動搖の光景は私が最初に叙述したとほりであつて、原因は尊王攘夷によつて養はれた外人憎惡の感情が、維新の際外國使臣の參朝によつて、政府の姦吏と外人の結托と云ふことになつてゐるところへ、戸籍の改定布告となつて、屋敷へ門札を打ち、兵務司の布達によつて十八歳以上二十歳までの男子を調査報告したので、外人の食料のために外人に賣つて脂を取ると云ふところまで往つた。度會縣下では其の時天皇が外國に行幸して、伊勢神宮を東京に移すと云ふ流言があつて亂民が蜂起した、それに納税は維新前までは出夫と雜穀で濟んでゐたのが、現金徴收となつたのも動搖の一因をなしてゐる。山梨縣下と岡山縣下でも、其の時それがために亂民が蜂起した。維新の際佛敎を疎外したことも動搖の一因をなしてゐる。新潟縣下でもそれがために其の翌年亂民が蜂起した。其の他動搖の原因は數多ある。庄屋年寄名主を廢して戸長用係を置いたことも異人贔屓の姦吏の仕業だとせられてゐた。賤民の廢稱に至つては動搖の大きな原因の一つであつた。飾磨縣下では其の時それがために亂民が蜂起した。其の不安不平の中に廢藩置縣が行はれて、舊藩主であつた山内豐範が歸京を命ぜられた。舊國主が在藩にては邪魔になるので歸京を命じたものだと云ひだした。

三郡の北部でも、尤も動搖したのは吾川郡の名野川と池川の兩郷であつた。女達は脂取りの話を聞いて泣き叫んだ。郷村からは請問的な歎願書が出た。名野川郷並に大崎村から出た歎願

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

昔が高知縣廳の記錄の中にある。

一、御チジ樣御登京被レ遊候ては百姓の業仕る楽み無ニ御坐一候に付、人心の亂に相成何卒御兩大樣御國にて御養を御守不レ被レ下時は百姓業仕事も相立難に奉レ存候此儀は一々御作配被ニ仰付一度奉レ存候

二、異國人を御引入に相成り一體不通に奉レ存候古より此の御國にて相調候處何故以異人ニ御入れに相成候御拂を被付候か直に又は百姓共へ御マカセに可レ被レ下候か此兩道御作配御付被レ下度奉レ存候

三、○○新在家に相成り○○が百姓交はり候時向に悲物に相成候百姓○○ナサレテ何の用前か有レ之御作配御付不レ被レ下には一體百姓共不所知に御座候

四、此度初年十八歳より二十歳迄男子指出之事戸長場より百姓共へ沙汰無しに指出に相成り候一體の不得心に御座候其上何番屋敷何右衛門指出之儀も一同相守心得無ニ御座一候。

脂取りの對照となつたものは高知市外になつた吸江、今野中兼山を祭つてある春野神社のある處に建つてゐた病院であつた。それは土佐藩の財力を以て建築した威風の建物で、病院の幹部は皆外人であつた。そして、其の病院の病室にはそれぞれ鐵製の寢臺を備へつけてあつた。脂取りの鐵架と見られたのは此の鐵製の寢臺であつた。脂取りの流言は三郡北部の郷村ばかりでなしに高知市あたりでも叫へられた。私は高知縣の大判事として其の時其の衝に當つてゐた林有造翁に親しく當時の模樣を聞いたことがあるが、脂取りの訛傳は相當教育のある者でも信じてゐたとのことであつた。翁は痩せた頤の出つぱつた顋の短い、越王勾踐の長頸烏喙を思はるやうな骨格をしてゐた。それは大正八九年比で翁に逢つた場所は小石川林町の翁の親戚の家であつた。其の日私は其の家で晩飯の馳走になつて翁と一緒に食事をしたが、翁はカチカチと齒を鳴らして食事をした。翁はそれから間もなく土佐の宿毛の實家へ歸つたが、直ぐ病氣になつて翌年になつて物故した。

又、土佐の名家として私の尊敬してゐる森下高茂翁の話によつても、其の當時翁の漢籍の師匠であつた人も脂取りの事を事實として弟子達に話してゐたとのことである。明治の新政に對する反動はかうして脂取り事件となつて紛糾した。私が少年の時何人に如何なる場合に聞いたともなしに聞いて、今に其處此處記憶してゐる數へ歌めいた文句がある。それは『一に太政官と云ふ人は、二に日本をわやにして、三に士平げて、四つ世の中よいやうに、』と云ふやうなことで、そして、五六七八九は忘れて、『十で東京へ逃げてゐた』と云ふ終りの文句を記憶してゐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るが、脂取り事件の前後に唱はれた姦吏を罵倒した流行歌のやうに思はれる。要するに當時の太政大臣三條實美から縣廳の役人、村吏に至るまで、異人と結托し、もしくば異人贔屓の姦吏として見られたのであつた。

高岡吾川土佐三郡の北部で尤も多く動搖したのは吾川郡の名野川池川の兩郷村であつた。其處は吾川郡の西北端で伊豫國浮穴郡と境を接した山間の僻地であつた。其の池川郷の用居村、仁淀川の支流になつた川内川に臨んだ用居に竹本と云ふ農家があつた。

竹本家は土地の舊家で、田二反、畑五反、切畑八反餘をもつてゐたと云ふから中以上の農家であつたらしい。其の竹本の當主の長十郎は、色の白い、背が六尺あまりもあつて力が強く、若い時には倉王山と名乘つて宮角觝を取つてゐたので、高知市附近でも角觝取として知られてゐた。其の長十郎の家には古い古い一領の鎧があつた。縅の糸も斷れ、鍜鉞もこぼれてゐるが、良く見ると篠割札の黑革縅で、胴に揚羽の蝶の紋處を打つてあつたらしい痕がある。それは平家復滅の際、土佐へ逃げて來て竹本家の祖先となつた、小松内大臣重盛の末子侍從土佐守宗賢の落胤で從丸と云はれた者から傳はつてゐると云ふ傳說のあるものであつた。かうした傳說をもつた家の子と生れて、まして家の由緒を唯一の誇としてゐた封建時代に生を享けた人として、祖先を崇拜すると共にそれを矜らない者はなかつたであらう。長十郎もさうした氣持を多分に持つてゐたものと見えて、時とすると家系を口にすることがあつたと云はれてゐる。

長十郎の日常生活の斷片として傳はつてゐるところでは、長十郎の最後まで長十郎の左右にゐた荒馬の時次と云ふ乾兒が、高知へ往つて急病に罹つたと云ふことを聞くと、徹夜して看病に往つたが、途中で生父を尋ねあぐんで投身した女を引きあげて介抱し、女の身の振り方をつけてやつたと云ふやうなこともあつた。角觝の怨みから長瀧と云ふ谷間の丸木橋を渡つてゐて、其の橋を切つて落され、谷底へ落ちて九死に一生を得たが、荒馬の時次はじめ切齒する乾兒を戒めて復讐させなかつたと云ふやうなこともあつた。又、川内神社の夏祭の夜、村の池野惣兵衞と云ふ者の娘が、母親に伴られて參詣に往つてると、池川郷の鄉士岩田熊藏と云ふ亂暴者が、其の娘に戯れかかつてゐる處へ往きあはして、岩田を取つて投げ、其の緣で娘の家から娘を嫁にもらつてやつてくれと申込まれたが、外に考へがあるからと云つて承知しなかつたと云ふやうなこともあつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

長十郎は何時の間にか附近の紛擾に口を利くやうになつて、池川名野川方面の唯一の俠客とせられてゐた。明治二年になつて、土佐藩廳が池川郷の竹が谷に明誠館と云ふ文武の教習所を設け、十六歲以上三十五歲以下の男子を入館さすことになると、長十郎は率先して入館した。長十郎は其の時三十位であつた。其の明誠館は明治元年に建築に着手したものであつたが、長十郎は五百本の杉柱を獻上して乾兒を人夫に出した。明誠館の科目は、文學、槍術、劍術、砲術で、館內五反餘の地面に設けた練兵場では、蘭式の操練をやつた。其の文武の教習所は郡奉行の管轄で、時どき郡奉行が巡回して來た。長十郎は其處で劍術をやり傍ら文學をやつた。

其のうちに明治四年の動搖となつた。由緒ある舊家で、文武の大體に通じた俠客の姿は、無智文盲の農民の眼に威嚴を以て映らないではゐなかつた。農民は長十郎の左右に集まつて來て新政を怨嗟した。此の長十郎の左右に集まつて來て新政を怨嗟する農民の中に、隅田教學と云ふ易者があつた。名野川郷僧津村の生れで、父は教法院山了、家は代代の陰陽師であつたが、明治二年に陰陽師が廢せられたので、還俗して卜筮を業としてゐる者であつた。私にそれを斷定する材料はないが、明治維新後宗教を疎外した政府のために、世襲の家業を奪はれたに就いては、教學にも其の不平があつたではないかと思はれる。其の教學は文學の素養もあり口才もあつた。教學は新政を怨嗟してゐる農民の間に往來して、横倉神社の神託と云ふやうなことを云ひ觸らした。

横倉神社のある横倉山は安德天皇の御陵傳說地として附近の信仰を集めてゐる靈山であつた。教學の云ひ觸らした神託なるものは、高知市で發行してゐる土陽新聞と云ふのに、明治十六年關係町村から投書を募つて、其の事件を書いた高峯迺役風の中に出てゐるから左に引用してみる。

「今度政府より改定なりし戶籍法及び廢藩置縣等の公布は素より吾吾人民に傷害を及ぼす筈は無譯なれど其詐僞旨を誤解し諸方へ集會し珍事を惹出さんやの噂あるゆへ我們其改革事件に付き篤と勘考を廻らす所頗ぶる疑惑の廉尠なからず就ては箇樣の場合には靈驗新たなる神佛の御託宣を受けば其意の正邪善惡自から判然すべしと存じ當所人民の第一信仰する横倉神社の御託宣をうかがひ申さんと自から齋戒沐浴して一七日參籠なし一心に祈念を凝したる所滿願の夜となりて不思議の御示現を蒙りぬ先づ其概略を語らんには今般此新戶籍法なるものは在廷の官吏等がおそくも朝夷の爲めに誑惑されかかる發布に及びしなれば上は國體を汚し下人民の性命に關する大事件なり中中之を等閑

に思ふべからず先づ第一及び第三則に舊來郷村になる庄屋年寄名元等を廢し更に戸長用係なんど云ふ者を置く是乃ち姦吏の同類にて異人贔屓の奴原を此役に申付置き扨戸籍編纂の後は毛唐人より日本人民を奴僕に買ふとか妾に取るとか云ふ時は豫て定めたる區劃の順番にて外國人に賣渡し姦吏們が中にて其金を分配する巧術也又第七則に銘銘の宅へ何番屋敷と票札を掛さすは是即ち各賣渡の目錄なれば何時醜夷の望次第此札を視て片端より拔取に攫ひ出すの方法なれば此番に當れば決して一人も脱る事能はず箇樣な姦策を施すに付ては何分舊國主の在藩にては事の邪魔となるを以て知事を廢し己が同類を夫夫の縣へ据へ置けり而して玆に尤も怖るべきは一般此の醜夷の中には西蠻殘忍非道の者あつて他國人を買受し上は恰も人間を畜類同樣に思ひ或は人體を烈火に掛て其脂を燃し取りて之を飲み又は其皮肉を膾にしてこれを喰ふ抔實にも無類酸鼻な奴あれば所詮汝們性命を全くする事覺束なし惟此上は是非に及ばず速かに兵を起し姦吏を誅し醜夷を追拂ひ舊藩主を歸國させよ然らんには我日本は神國也六十餘洲の神明何ぞ汝們を擁護せざらんや軍の勝利努疑ふべからずと拔殘てかに神示現ありき潜ゐ難有き神託爭でかおろそかにいたさるべき各是より急ぎ軍の準備をなし先づ戸長役場に打入て諸帳簿を奪ひ取り互ひの一命を助かるべし』

横倉神社の神託の噂は、爆弾の導火線に火を點じたやうなものであつた。農民は忽ち蜂起した。大崎村の井上善平、片岡作次、名野川の岡村柳吉、尾崎鍬太郎など云ふ激徒は、郷村の間を廻はつてますます煽動した。激徒に煽動せられて十五歳以上五十歳までの農民は一揆に加はつた。激徒は首領として長十郎に眼をつけた。

長十郎は終に起つた。長十郎の股肱には元郷兵の伍長であつた鎌倉作治をはじめ荒馬の時次などがゐた。野老山の岡林寅太郎も同方面の首魁の一人として長十郎の股肱の一人となつてゐた。長十郎は一揆軍を率ゐて仁淀川に臨んだ名野川の川口へ向つて出發したが、其の隊伍の中には白木綿で作つた旗があつて、それには總大將平兵部之輔と大書してあつた。

長十郎は川口に本陣を敷いて、柵をめぐらし、幕を張り、自分で指揮して造らした木製の大砲數門を据えつけた。其處には彼の大將旗と共に數十の赤旗を建て又蓆旗を建てゝ黑森幽に翻してあつた。夜は篝火を焚いた。農民は獵銃、和製銃、竹鎗、刀、鋤、鍬の類を思ひ思ひに携へると共に、それぞれヲゴ縄を持つてゐた。ヲゴ縄は棕櫚で綯ふた六尺縄で一方が輪になつてゐた。それは後世から高知のお城を引き倒すと云つて用意してゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たものだと云はれたものであつた。時には束にし、時には物を縛り、時にはつなぎ合せて家を引き倒さうとしたものであつたが、騒擾鎮定後縣廳の庭に山と積まれたのを、後に關係村にさげ渡して、紙にすかしたとのことであつた。長十郎はそこで教學等と相談して激文を作つた。其の激文と云ふのは、

此度政府藩主を追出し、夷人最屓の姦吏を縣廳へ据へ我日本人民を外國人に賣り渡し脂を取りて彼の滋養に供せしむる趣甚だ以て容易ならざる事に有之一日も早く藩侯を取返し姦吏を誅し夷狄を追ひ拂ひ不申候ては日本人民は五年間に皆無と可相成に付就れも押出しの用意可致事

但孰れもヲゴ縄竹槍鐵砲等用意し何時にても押出し不差閊樣可致若し此度押出の組入不致ものは政府と同意者と見附片端より居宅燒拂ひ可申候

明治四年十二月

惣大將　平兵部之輔　印

諸郡村

百姓中

としてあつた。檄文は村次を以て東西の各郡村に配布さすと共に、要所要所を塞いで、戸長役場の小使は元より飛脚に至るまで通行を禁じ、貢租は上納しないで本營へ送致せよと觸れさした。

檄文によつて吾川郡では、名野川、大崎、安居、狩山、用居、池川、横畑の各村、高岡郡では、九木、野老山の各村から千七百名の農民が集まつて來た。長十郎は其の農民百人を一隊として、それぞれ隊長を置き、又各村に三人宛の總代を置いて、時をり本營に來て軍事を商議さすことにした。

一揆は仁淀川を渡つて越知に出で、それから佐川を經て縣廳を襲擊すると云ふ作戰を立てた。狩山村の用係岡部重三郎が戸長役場の籍編製に盡力したと云ふので、井上善平の一隊は狩山の戸長役場を發砲しながら襲擊した。岡部は一揆の襲擊を知つて帳簿を隱居して自宅へ歸つたところで、一揆が追擊して來た。岡部は長男の愛吉と一緒に裏手の山路から逃げやうとしたところで、老母が一揆の竹槍に傷づけられた。二人は驚いて引返さうとしてゐると一揆の投げたヲゴ縄が飛んで來て捕へられた。岡部の女房は二人の小さな子供を伴れて隣家に隱れてゐたが善平に探し出された。善平は女小兒を赦して老母の介抱をさし、岡部父子を川口の本陣へ拉致した、長十郎は亦愛吉を赦して村に返し、岡部を訊問した。岡部は詐つて帳簿の所在を知つてゐると云つたので、其の夜、岡部に道案内さして鎌倉作治の一隊を差し向けた。

作治は狩山の戸長役場へ行つて捜索したが、岡部が信實の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所在を云はないので、戸籍簿は出て來ない。作治は怒つて岡部を殺さうとしてゐるところへ、小使の一人を捕へて來た者があつた。詮議をすると戸籍簿は今一人の用係岡林作三郎の家にあると云つた。作治は川内神社の境内で勢揃ひして、松明に途を照しながら山上にある岡林の家へ押し寄せて、岡林を捕へたが、やはり戸籍簿はないので、岡林を拉致して歸る途中、岡林は足を踏みすべらして谷の中へ落ちた。岡林はそれがために一揆の手から脱れることができたので暴動の狀況を縣廳へ報告しようと思つて、出かけやうとしたところで岡部が捕へられたことを聞いた。岡林はそこでそつと岡部の家へ往つて、愛吉を誘つて晝夜兼行で高知へ出發した。其の時狩山の戸長西田彥太郎は、村民が貢租を上納しないのみならず、戸籍簿を掠奪しようとする形勢があるので、重要書類は隱匿して高知に出、奔走苦心の結果、貢租の上納をすまして歸村しようとしてゐるところへ、岡林と岡部の子供が來たので、相携へて縣廳へ出頭した。縣廳では權參事中村貫一郎が面會して一揆鎭壓を命じた。

今般人民動搖不二一方一付暴行する者は切二捨之一可レ爲二勝手一

明治四年十二月廿二日　　　權參事中村貫一郎

當時縣の行政は明治三年九月に變革した藩制のまゝになつてゐた。それは物成十五萬石以上の藩を大藩、五萬石以上の藩を中藩、五萬石未滿の藩を小藩として、知事、大參事、權參事、小參事、權少參事を置いてあつた。縣廳では西部の暴動が知れると聽訟係で兵學者として有名な原傳平に、細川是非之助をはじめ數十名の巡卒を添へて一揆の說諭鎭壓に向はした。當時は未だ巡査がなかつた。細川是非之助は後に安藝郡長として土佐へ潛入して來た江藤新平を甲浦で捕縛した人であつた。

原の一行は佐川を經て越知まで往つた。越知には既に縣から派遣せられて一揆の情況を探索してゐる岡本辰男と云ふ者がゐた。岡本は高知の越前町に居住する偏月刀使(なぎなたつかひ)として名のある者であつた。岡本は、一揆は吏員と見れば暴行するから、改藏と云ふ當地の農民の一人を雇うて、それに云ひ含めて各村を廻はらし、鄕民の誤解のある處を辯明さしてあると云つた。そこで原は越知に留まり、細川は改藏に力を協はせて北部の諸村を說諭することにして出發した。

其の時西田彥太郎の一行は黑岩村まで來てゐたが、一揆はそれを知つて忽ち其の旅館を圍んで薪や石を投げた。それがために西田は負傷したので、越知へ往つて治療すると共に、それを原傳平に報告し、それから狩山の方へ往かうとしたが、其處には平兵部之輔の屯する川口があるので、黑森道を取

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ることにして險阻な山道を往つた。それは寒い寒い夜であつた。夜明けになつて黑森峠の頂上に近くなつたところで、一揆の銃聲が響くと共に三十人ばかりの一揆が道を遮つた。一揆は口ぐちに罵つた。

「逃すな、」

「殺せ、」

「縣廳の間者、」

西田は當惑した。西田は仕方なしに一揆を瞞して其の場を逃げやうと思つた。

「暫く待つてくれ、わしは縣廳の間者ぢやない、わしは狩山の戶長の西田彥太郎ぢや、わしは異人贔屓の役人が嫌いぢやから、兵部之輔の義兵に加はるつもりで、そつと高知へ出て、一味を募り、一方で縣廳の容子を探つてみると、縣廳では高知の士族を驅り集めてゐるが、兵器彈藥はあるし、其の又士族が、皆會津戰爭で腕をきたへたものばかりぢやから、とても豪い、これぢや竹槍位で立ち向うても駄目ぢや、池川の竹が谷にある明誠館の鐵砲と火藥を引き出して、要害の地に立て籠らにやいかんと思うて、心配しながら歸るところぢや、」

一揆は西田の詞を聞いて西田を味方と思つた。一揆は西田を先頭にして黑森峠を北におりて竹が谷へ向ひ、難なく明誠館の兵器と彈藥を取つた。西田は其の兵器と彈藥を狩山の戶長役場へ運ばして、それを防禦の兵器にして一揆を鎭定しようとした。西田のために一杯くはされた一揆は、戶長役場を襲擊しようとしたが、防禦の兵器があるのでどうすることもできなかつた。

其の時川口の本陣でも兵器彈藥の不足から明誠館へ目をつけて人をやつたところで、もう西田が奪つて往つた後であつたから、長十郎は地だんだ踏んで口惜しがつた。ちやうど其の際、吾川郡柳瀨川に沿うた、新別、樅の木山、東西津賀方、下八川の諸村でも一揆が蜂起した。下八川村では吉村喜八、新別村では小笠原仁右衞門、樅の木山では岡林剛藏などが首魁となつて、先づ下八川村の廣瀨と云ふ處で勢揃ひをし、新別村の戶長役場へ押しかけた。戶長役場では戶長の西本が縣廳に往くと云つて既に逃げ、用係の淸川金三郎が事務を執つてゐた。一揆は淸川を捕へて帳簿を悉皆燒棄しようとしたが、有志が仲に立つてなだめるので、淸川を拉致して下八川の戶長役場へ押し寄せた。下八川の戶長種田仁藏は右の手に銃創を負ふて狩山村へ逃げた。岡林剛藏は右の始末を川口の本營へ報じた。長十郎は怒つて狩山へ燒打をかけやうと云ひだしたが、吉岡喜八と云ふ者に止められて中止した。

長十郎はいよいよ今成砦に勢揃ひして、仁淀川を渡り、越知佐

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

川を蹂躙して高知を略ることにしたが、味方が集まらないうへに、既に味方してゐた者も縣から派遣の吏員及び有志に說諭せられて反覆する者が多いので、暫く形勢を觀望することにして、一方で出張の吏員を襲撃さすことにした。それは油紙に包んだ火藥を腰につけて、二三人が一組になり、各村を徘徊して、縣吏有志の別なく姦吏の一味と目される者の止宿する旅館に火藥を投入するのであつた。

一揆の兇焰は高まるばかりであつた。縣廳では原傳平の言を聞いて出兵しようとしたが、大參事林有造が國札引換へ平均相場の重要事件のために上京してゐるので、後の福岡孝悌、當時の福勝次外二人の連名した書面を大阪の大谷小傳次に持たせ、上京して其の指揮を受けさした。

林翁の自叙によると、ある日在京中の林の許へ三條太政大臣から使が來た。林が往つてみると國許が不穩であるから即時歸國せよと云つた。林は三條太政大臣の詞に從つて直ぐ歸ることにして、板垣退助と後藤象二郎に逢つた。二人は口を揃へて、一揆は猖獗の模樣であるから、土佐の獻兵半大隊を率ゐて歸るがよからうと云つた。林は「それはけしからん、參事は牧民官で縣民の父母である、いくら暴動するからと云つて、もともと疑惑から起つたことだから、良く諭せば解らないことはない、其のうへで尙ほ聞かなければ、行政處分に付せばいい、兵隊の引率はおことはりすると云つて東京を出發し、大阪へ往つて滯在してゐると、縣廳から派遣された彼の大谷が來た。林は大谷に俺が歸るまで兵を動かしてはならないと云つて、大谷を前に歸し、自分は大阪の所用を果して歸廳したのが十二月二十五日であつた。林はそこで小屬某を佐川へやつて原傳平に出兵の不可を諭したが、原が承知しないので、原の職を解いて大谷小傳次を鎭撫使として佐川へ出張さした。

大谷は各地に人を出して一揆の首領株を捕縛しようとした。と、其の時長十郎は脚のうちみが起つたので、川口の醫師の家へ移つて其處で治療を受けることになつた。長十郎の脚疾のことは直ぐ探索の耳に入つた。細川是非之助岡本辰馬の一行は、夜になるを待つて醫師の家を襲うて忽ち長十郎を捕へた。

岡田教學は其の夜野老山の岡林兼太郎の許へ往つて、長十郎の脚疾のことを話した。兼太郎は其の夜教學を歸した後で、部下を伴れ、大谷の旅館を襲撃するつもりで往つてゐると、長十郎が捕縛せられて細川の止宿してゐる大崎の方へ伴れて往かれたと云ふことが解つた。兼太郎は口惜しがつたがどうすることもできなかつた。彼は仕方なしに其の翌日野老山の戸長役場を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

襲撃して、吏員の一人の豊岡源蔵と云ふのを自盡さし、勢に乗じて、大平、長者、高瀬、桐見川、別枝の各村と呼應して、長十郎を奪回しようとしてゐるうちに捕縛せられた。

鎌介作治も自宅で捕縛せられた。井上善平も岡林卿吾も捕縛せられた。教學は逃げた。長十郎はじめ首領株を失つた一揆は四散した。大谷は長十郎はじめ首魁五名を死刑にすることにして、越知獄に五名を引出し、先づ岡林雅太郎を斬つたところで、野老山の村民が大擧して越知獄に迫つて發砲した。大谷は仕方なしに後の四名を暗殺して佐川に引揚げ、佐川の士族を募つて、一揆に備へた。それは正月の六日のことであつた。林大參事は其の飛報に接すると快馬一鞭佐川へ出張して、翌朝後の四名を處刑さしたが、林が出掛頃越知の獄へ往つた時には、既に五名を斬つてゐた。川の向ふでは盛に鯨聲がしてゐたが襲撃して來る者はなかつた。

高岡吾川方面の一揆は簡靜に歸した。林は斷罪は以上の五名に止めて後は多く不問に附した。

池川郷と地脈續きになつた土佐郡の本川郷、森郷に暴動の起つたことは當然すぎるほど當然のことである。

異人脂取りの噂を先づ同方面に傳へた者は、本川郷戸中村の伊藤猶次と云ふ者であつた。伊藤は吾川郡へ旅行してゐてこれを聞いて來たものであつた。

脂取りの噂が傳はると郷村は洶湧した。本川郷脇の山村の山中良吾と云ふ大酒家が、大晦日になつて借財の始末ができないので、其の轉換策に村民を煽動して、一揆に加はらない者は燒打をかけると云ひ觸らした。村民は我も我もと獲物を持つて集つて來た。

良吾は登川の嶺に本陣を布いた。それは明治五年正月元日のことであつた。二日になつて良吾は三百餘人を率ゐて寺川村の番人山中猿三郎の家へ燒打ちに往つた。山中は自若として一揆の首領を庭に集めて説服した。一揆は山中に説服せられて歸つて來た。

其の時森郷中切村に山中陣馬と云ふ郷士があつた。陣馬の家は相當に資産があつて、性剛直、文學もあり武藝もあつて郷黨に信望があつた。此の陣馬の友人で本川郷井野川村に和田米蔵と云ふ者があつたが、これは至つて頑固な保守家で、新政を喜ばないところから某夜陣馬を呼んで此の際擧兵をしようと云つた。陣馬は一たんは止めて門を出たが、情誼に厚い男であるから引返して同意した。そこで二人は同方面の同志を集めて登川の陣へ往つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三日になつて總勢千人ばかりが、登川を出發して大平村水船に往つて作戰を議した。米藏は、「大平村の番人山中左衛門次郎、中野內守賀及び延命寺の猪くひ坊主を燒打にし、それより別子銅山、原地銅山を燒打にし、高野村へ往つて番人頭和田庄太郎を燒打にし、船戶村の番人和田悅彌太を燒打にし、汗見川から森に出で、本山通り高知に押し出さう、」と云つた。それまで默つてゐた陣馬は、其の時詞を出して、「どうか此の陣馬を總大將にしてくれまいか、」と云つた。元より信望のある陣馬のことであるからだれ一人の異議を唱へる者もない。そこで陣馬を總大將に推戴することになると、陣馬は云つた。「不肖ながら陣馬が總大將となつた以上は、燒打などの亂暴は一切させ申さぬ」と云つて燒打ちを嚴禁した。

一行はそれから高野村の舊練兵場へ往つて陣を張つたが、六日の夜の未明、陣馬は吉野川を泳ぎ渡つて、中切村船戶向ひの自家の墓地へ往つて自殺した。一揆はそれを知つて四散した。土居に出張してゐた縣吏は陣馬の首を切つて三日間土居の磧に梟首した。頑固一徹の和田米藏は再擧を謀つてゐるうちに捕縛せられて、一年半の禁獄中病死した。山中良吾も捕縛せられて入獄してゐたが、そのうちに出獄した。青地紋次、筒井梅松、山中菊彌、筒井權之丞、伊藤安八など云ふ者は笞罪に處せられたがこれを最後として土佐三郡の暴動は終結した。

マキーバー著 原實譯說
共同社會・結社・國家
四六判上製 價一圓五十錢 函入二八〇頁 送十三錢
目下社會科學に於て國家論程重要性あるものはない。國家の正しき認識こそは現下の社會問題に對する恐らく最終的解決の鍵である。マキーバーは英米社會學界の權威、譯者は眞摯なる新進社會科學學徒。本書は混沌たる我國社會科學に於る研究者に必ず有力なるヒントを與ふるであらう。

門田重雄著 論文總覽 日本の博士研究 價一圓八十錢 送十五錢

カウツキー著 近藤宗男譯 四六判上製函入 上下各一圓五十錢 送各十五錢
基督教の起源
カウツキーが無產階級の見地から嘗て神學及宗教史の專門家が研究せざりし原始基督教の本質を其唯物史觀の鋭き眼光で描き出したのが本書である。最も古き歷史と有力なる傳統とを有する基督教が社會科學の新しき光の下に照し出された其の發生の過程は我我に何を語るであらうか。

フロイド著 吉岡永美譯 四六判上製 定價二圓 函入三二〇頁 送料十五錢
トーテムとタブー
本書は民族心理學・精神分析學上の諸問題に興味深い解を與へた名著

發行 東京麹町元園町一の二九 振替東京十四三六一番 啓明社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

餘憤錄

不平二つ三つ

野口米次郎

客、『しばらく君の不平を耳にしないが、恐らく君は今日の世相に滿足してゐるのではあるまい。』

私、『僕を不平の問屋かのやうに思つて吳れてはこまる。實際僕に不平大いにこれ有りだが、さあ語つて御覽と來られると、僕の不平は恰も天人の如くに柔和にその羽翼を納めて雲間に漂ふて仕舞ふ。不平といふ奴も詩のやうなもので、さあ語ると云ふと出てこない。詩は偶然の產物であるやうに、不平も偶然のものであつて始めてその力が偉大だ。』

客、『偶然の不平でもいい、また豫定の不平でもいいから二つ三つ語つて吳れ給へ。』

私、『二つ三つといつて箇條書きにして不平は語られないが、兎に角語つて見るとしよう……僕は日本人を無理にも世界的の日本人として考へたい、從つて日本のどこに住んでも巴里に住み倫敦に住みまた紐育に住んでゐるのと同じだと思ひたいといふのが僕の希望だ。この希望の力一つに賴つて僕は日本に住んでゐる……然し僕が書齋のなかに潜り込んでゐる間は無事だが、足一たび外へ踏みだすと見るもの聞くものみな僕の希望を裏切るのだから堪らない。僕は一兩日前名古屋の方から歸つて來たが、汽車のなかで「日本といふ國は野蠻國だ、日本人といふ人間は禮儀作法を知らない野蠻人だ」と思はざるを得なかつた。僕が日本人を世界的日本人であるといふ考へは無慙にも破壞されて仕舞つた。僕の取つた汽車は所謂特急とかといふ奴であつたから、乘客も先づ相當修養のある日本人であるべき筈であつた。然るにだ。人の前で洋服を脫いでシャツ一枚になつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て日本服に着かへる奴もゐるし、また人の前で平氣で尻を出して褌をしめ直した奴もゐた。まづ第一、僕が名古屋で汽車に乘り込むと列車内の客がいづれも二人分をとつてながながと眠つた風をして居つたことだ……僕は給仕の親切で座席を見出したが、列車内の奴等に痰唾を吐きかけて遣りたいと思つた。それから彼等はぺつぺつと唾を床に吐くし食つた蜜柑や林檎の皮を捨てるし、一體彼等は列車内を何と心得てゐるだらうかと疑つた。彼等としても家へ歸ると立派な旦那樣で綺麗に住んでゐる先生方であらうが、彼等に公德心がない……これが日本人全體に渡る最大弱點だ。日本人にこれが發達しない以上實際は到底世界的一等國人になれる譯がない。』

客、『僕も君に同感だ……君の語る所は極めて平凡な實見談に過ぎないが、僕もしばしばそれを實見して君のやうな意見を持たざるを得ない。それから君の第二の不平は何かね……』

私、『さう催足されてはこまる。少しく舊聞に屬する感があるが例の羽左衛門の洋行する間際の狀態は僕を悲觀させた……といふのは、日本人はいよいよ田舍ものに過ぎないといふ感を深くさせたといふことである。なるほど羽左衛門としては初めての洋行であるから大事件であるに相違ないが、なぜ彼が外國へ出かけることは恰も隣りの叔母さんを訪問するに等しといつたやうな態度を取ることが出來なかつたか。紐育と云ひ倫敦と云ひ巴里と云ひ、それが何だ……つい隣りの都會に過ぎないではないか。それを何ぞや、それ送別會だといつては新聞にその寫眞を出させ、送別の興行だといつては愚にもつかない筋書を書かせて歌舞伎で演じさせ、いよいよ出發となつて恐ろしい澤山の人々が彼を見送りに東京驛へ集つた……すぐ船に乘るのかと思ふと羽左は箱根へいつて一泊してその翌日乘船するのであつた。若し彼がこつそり一人で箱根へ行つてこつそり船へ乘つたならば少くも僕の羽左衛門評價はぐつと高いものであつたであらう。彼は立派な舞臺藝術家だ、僕は之れを疑ふものでない……然し彼の態度は如何にも田舍ものまる出しであつた。恐らく彼も所謂興行師の宣傳に利用されたものかも知れないが、それにしても僕はああいふ態度を見せつけられると、日本はいつ世界並みになることが出來ようかと悲觀せざるを得ない。』

客、『然し君が日本を所謂一等國と考へ日本人を世界的の人間だと思つてゐる方が間違つてゐる。近頃の政界の有樣はどうだ。』

私、『僕は詩人で新聞の論說記者でもなければまた批評家でもない。然し僕は訪問客から現政府の選擧干涉について詳細に聞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かされた。それからまた僕の知つてゐる新聞記者から、深川に於ける警官の暴行についても聞かされた。濱口民政黨總裁の内閣不信任に對する演説を僕はくはしく讀んでゐないから何とも云へないが、恐らく之れも何一つ奇なるものなしの議論であらうが、側から見ると濱口君に贊成したいやうな氣もする……然し五分五分の力では政府は倒されない。相撲でも五分五分は分けとなる……兎に角僕は、ただ政權にありついてゐたいといふ丈けで、何等一大帝國を善導する政策と人格のない政府には早く退いて貰ひたい。さりとて民政黨に政府を托したいといふのが僕の議論でもない。」

客、「要するに何れの政黨たるを問はず黨略はあつても天下を指導する政策がないといふ狀態である。」

私、「そこが僕等の考へねばならぬ要點だ……必ずしも昔を謳歌する譯でないが、明治維新當時の日本人全體の勇氣は如何にもすばらしかつた。この元氣一つで今日の日本人を築いた。然るに今日の日本人はお叔父さんの遺産をなしくづしにして食つてゐるのがある。元氣を出して興新の路を開くのが最初で最後の問題だ。政權などだれが取つたかとて問題でない。元來今日の政事を所謂政事屋云ひかへると利權屋の手から奪はねば到底國は救はれないといふのが今日の狀態だ……こんな狀態では日本に永劫に田舍ものの國で終らねばならない。」

撲滅より免疫

水野廣徳

所謂重大事件として共產黨秘密結社なるものが摘發せられ、政府が我黨內閣の手柄を見よとばかりに、聲を大にして思想國難を叫ぶと、在野黨も負けぬ氣になつて政治國難、經濟困難などを持出して政府の向ふを張る。更に對支國難などを加ふれば今年や國難の當り年じや。南瓜も生產過剩になると値段が下落する。國難も一時に斯う澤山出ては利目が薄い。

田中首相が「義一身を以て國難に當らん」などと、垢拔けのせぬ軍隊的舊式國士を氣取る國難とは一體如何なるものであらうか。總選擧後の特別議會を目前に控へて內閣の命脈正に風前の燈の如く、議員一頭の賣買價格二十萬圓に迄騰り上げられたる時、突如として發表せられたるものが思想國難の手品の種たる所謂「神人共に許さゞる」共產黨秘密結社事件である。

曰く、全國一齊に一網打盡、檢擧一千名を超へ、起訴三四百

名に達する見込と。恰も檢擧數と起訴數との多きを誇るかの如く、之でも我黨內閣を信任せぬかと言はぬばかりに、鐘大鼓のチンドン式で賑々しく共產黨宣傳の勞を取つた。政府の權力を以てすれば、何萬人でも、何十萬人でも檢擧することは容易である。檢擧數の多きことは必ずしも當局者の名譽でなく、千餘名の檢擧者中より僅に三四百名の起訴を見ると云ふ檢擧數と起訴數との差の大なることが寧ろ當局者の不名譽である。そこに官權亂用と人權蹂躪との明らかなる事實がある。徒に無辜の人民を縛つて其の自由を奪ひ、其の名譽を損し、其の生活を脅かして置きながら、政府は之に對して寸毫の責任をだに負はずとすれば、人民は何處に訴へたら良いのであらう。嫁入前の女教員を事件の嫌疑で二晝夜も留置場に投げ込み「御氣の毒だつたが、もう御還へり」では泣くにも泣かれぬであらう。

六千萬の國民中、僅に三百か四百の不逞主義者が現はれたりとて、直に國難など﹅仰々しく騷ぎ廻はる政府の氣が知れない。世間では之を以て、政府が政局の危機を切り拔けん爲めの政府であると非難する者が多い。前後の事情より推せば或はさうかも知れぬ。田中內閣は其の命拾ひに對して、共產黨員と濟南の支那兵とに厚く御禮を言はねばなるまい。

政府は今回の事件を機會に、我國に於ける過激思想を拔本塞源的に撲滅せんと聲明して居る。聲明は大にかなりである。併しながら政府は果して其の可能を信じて居るのであらうか、若し信ずるとせば如何なる方策に依らんとするのであらうか。政府は先づ其の小手調べとして勞働農民黨竝に極左團體の解散を命じ、左傾教授及學生を學校より放逐し、尙ほ治安維持法の峻嚴化を特別議會に提案した。憲法の保證の下に國家が一旦公認したる政黨を不法理に解散したり、眞理の研究に生くる學者を無理由に罷免することの是非に就きては識者の間に既に定論がある。唯是等の事實に依つて、政府の過激思想撲滅策なるものが、專ら法律の威嚇と、權力の彈壓であると云ふことが判る。

治安維持法の重刑や、警察の暴壓ぐらゐで過激思想の撲滅が出來るならば、帝政露西亞には共產主義者の種子が切れた筈である。ビスマークの獨逸には社會主義者の根が絕へた筈である。元來思想とは眞理の研究か或は生活の體驗に基づく自覺の產物であつて、主義又は理想に對する一種の信仰である。一難を經る每に益々强く、一厄に會ふ每に愈々固くなるのが信仰の力である。如何なる彈壓迫害を加ふるとも、人間の思想と信仰とを覆へすことは絕對に出來ない。思想は行爲の母である。過激行爲は或は一時的に防壓し得るとするも、過激思想は其の源を塞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

がさる限り之を絶滅することは出來ない。既に思想の存する以上行爲の發生は之を豫期せねばならぬ。

然らば過激思想の源は何處に在る？。左傾學者の口から流れ出るのでもなければ、左傾團體の手からひねり出すのでもなく、資本主義に避くべからざる社會缺陷の生む必然の産物である。即ち過激思想の根源は資本主義である。故に歸納論法に依れば、過激思想を撲滅することは資本主義を破壞することを意味する。左傾教授の罷免や左傾團體の解散に依つて過激思想を根絶し得ると思ふならば、之ぞ小供の買食を叱つて親爺の道樂を止めしめんとする母親よりも、尙ほ一層御目出度き見當違ひである。

石川五衞門ではないが、所有權の存する限り世に泥棒の種子が切れぬと同樣に、資本主義の續く限り社會に過激思想の根は絶へない。併しながら泥棒が絶へないからと言つて、直に所有權が消滅せぬ如く、過激思想が絶へないからと言つて、必ずしも資本主義が崩壞するとは云へない。若し資本主義が崩壞することありとせば、それは過激思想の爲めと云ふよりも、寧ろ資本主義其のもの丶缺陷の爲めである。現に英佛獨の如き歐洲諸國に於ては過激思想の共産黨なるものが、國家公認の政黨として堂々と存在し、議會には共産黨の議員が日本の如く除名問題も、自決問題も起らず、悠然として居つて居る。しかも是等の國に於ては日本の如く思想國難などの意氣地なき悲鳴を曾て聞かない。

チブスや疱瘡の如き傳染病を防ぐには、病菌其ものを撲滅する防疫法と、病菌を無害とする免疫法との二つの途がある。前者は「隔離」「消毒」等患者は勿論周圍の人に對して多くの苦痛と不便とを與へ、しかも防疫は確實でない。之に反し後者は豫防注射や種痘を行ふもので、其の手段は頗る輕易でしかも免疫は比較的確實である。過激思想は一種の社會的神經病である。之に對し西洋諸國は主として國民訓練に依る免疫法を執れるに反し、我國にては專ら彈壓的撲滅の防疫法を執つて居る。しかも井戸と便所とを隣合せにしながら、治安維持法など云ふ惡臭紛々たる消毒劑を矢鱈に播き散らして、一生懸命防疫に力めて居る觀がある。

外國では共産黨が公認せられ、日本では共産黨の秘密結社が發見せられたとて、國難騷ぎを演じて居る。一體之は何らいふ譯であらう。或人は、日本と外國とは國體が違ふ、共産主義の如き不逞の主義や思想は斷じて日本に存在を許さないと云ふ。一應は至極御尤の說である。併し今では許す許さぬの問題でなく、事實に於て既に存在して居るのである。美人を泣かす疱瘡

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の如き惡疫は我國に存在を許さぬと頑張つたところで、旣に疱疽が流行して居る以上、厭やでも牛の濃汁を腕に植へ付て免疫となるか、ビク／＼しながら「爲朝御宿」の張札で濟ますかゞ問題である。

日本國民より見れば日本の國體は共尊嚴に於いて萬邦無比である。併し共產主義より見ばれ日本も英國も等しく一個の君主國であつた、恐らく日本の國體のみを目の上の瘤とするものではあるまい。然るに英國に共產黨あつて國體搖がず、日本に共產黨現はれて國難到るとは是れ何故であるか。日本の國體が英國の國體よりも脆弱なる譯では斷じてなく、恐らく老人の杞憂にあらざれば、卑劣なる支配階級者等が名を國體に藉りて自家擁護を爲すものとしか思へない。

山に、海に、避暑避寒して纔に健康を維持することが眞の健康體ではない。紅塵萬丈の熱鬧裡に奔馳して疾病に犯かされざる者こそ眞の健康體である。斯かる健康體でなければ今日の激烈なる社會競爭に堪へ得ぬが如く、國體も亦然りである。國體は尊嚴なると同時に鞏固でなければならぬ。國祭日に於ける國旗の閃きや萬歲の聲ばかりでなく、如何なる主義思想の眞つ唯中に在るも儼として侵かれざるだけの堅實味が無ければ、國際間に立つて尊嚴を維持することは出來ない。

或人は又、今の日本に於ては共產黨を許す程に國民思想の訓練が出來て居ないと言ふ。是も亦一應は誠に御尤の言である。實際今の日本國民は思想的には何の訓練もなく、全く赤ん坊同樣である。國政に參與する代議士にして、ボルとアナの區別の出來ぬはまだしも、帝國主義と君主政體との混同などは敢て珍としない。色の識別の出來ぬのを色盲と云ふから、思想の區別の判らぬ者を思想盲と言ひ得るであらう。色盲は汽車や汽船の運轉手に禁制である。然るに我國では思想盲が政治のハンドルを握つて居るのだから危險此上もない。

思想國難を叫ぶ政府當局は然らば國民思想の訓練に對し果して如何なる施設と努力とを爲しつゝあるであらうか。歷代政府の爲すところは千篇悉く一律、所謂思想善導主張なるもので、在鄕軍人會、青年團、處女會などの官製諸團體を動員して、偏狹なる國家主義、空疎なる愛國主義、時代錯誤の帝國主義など、保守的反動思想の注入に力めて居る。之と同時に他面に於ては自由主義社會主義等の左翼的言論を極度に厭迫して、國民に自由なる思想批判の機會を與へない。凡そ思想の訓練は各種主義の討檢批判に依つてのみ行はれるもので、一方の思想のみを注入して國民思想を訓練せんとするは、粥ばかり啜らして胃を强堅ならしめんとすると同一の短見である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本の美術展覧會では裸體美人畫を陳列禁止したり、裸體美人像に腰卷を纏はしたりするさうである。其理由とするところは觀覽者が之に依つて不良心を起し、風俗を壞亂する虞がある爲めじやと云ふ。久米の仙人ですら女の白脛に見とれて雲を踏み外した程である。況して血氣横溢の青年が窈窕美人の曲線美を見れば……と當局が他人の痴氣を頭痛に病むのも滿更無理ではない。警察が惡いのでもなく、觀覽者が惡いのでもなく、作者が惡いのでも勿論ない。罪は異性訓練の足らざる社會にある。

巴里の町には公園と云はず、道端と云はず、到る處に大理石の裸體美人像がニヨキ／＼と突立つて居る。繪端書屋や額緣屋の店先には、裸體美人畫が昔の吉原の張店の樣に並んで居る。巴里つ子が之を見て一々涎を流した日には、廣い巴里も涎で浮くかも知れない。幸に生れ落ちるとから裸體像と裸體畫との中で育つた巴里つ子は裸體に免疫して居る。町に於ても、公園に於ても、涎を垂して曲線美に見とれて居る佛蘭西の青年を見たことがない。倫敦ハイドパークの路傍のベンチや軟かい芝原の上で、日本なら忽ち「警察まで一寸來い」式の纏十綿かの男女の抱擁接吻を見たら、日本の若い女は餘程氣の強い者でも顏を赤めて逃げ出すであらうが、倫敦の少女は傍で平氣で小説を讀んで居る。巴里の青年たちつて木でもなければ、倫敦の少女だつて石でもない。唯社會の自然訓練が此に至らしめたのである。

歐洲戰爭の眞つ最中、倫敦の公園の入口で、しかも巡査の目の前で、白晝公然平氣で非戰演說をやる者もあれば、平氣で之を聞いて居る者もあつた。けれども反動暴力團が辯士に鐵拳を振つたのを見たこともなければ、民衆に非戰示威運動の起つたことも聞かない。日本では支那出兵に反對するには、先づ傷害保險に入つて置く必要がある。英國人は思想的には此處まで訓練が出來て居る。斯かる國民に依つて支持せらるゝ團體こそ、最も強固で最も堅實なるものである。

粥ばかりで育つた人間は澤庵の一切も食へば忽ちにして腹を壞はすに極つて居る。男子の誘惑に最も陷り易い女は世間知らずの箱入娘であるが如く、過激思想に最も染まり易いものは思想の訓練無くして政治の腐敗せる國の民衆である。過激思想は權力の彈壓による撲滅策よりも、思想の訓練に依つて免疫とすべきである。思想の訓練は先づ言論の自由より始めなければならぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

代議士失業防止聯盟

岡本一平

×

議會を觀るといつまでも幽默が少くなる。『世の中つていゝ加減なものだ。嘘をつき合つてそれが大臣だ代議士だ。――眞面目にくよくよするのはばからしい』

今度の臨時議會を觀ると一層この感を深くした。

然しこれはまだこつちに政治家といふものを高く買ふ封權的因習が遺つて居るからだ。

×

兎に角あんまり物事にこだわる神經結滯症患者には一會期議會を見學させるがいゝ。世の中に對する神經の抵抗力が可成り强められる。

×

『おれ達は家重大の田地田畑を賣つて漸く代議士に出て來たのだ。大臣の奴等が自分の失業を逃れる爲めにおれ達を失業させるのはけしからん。やるならやつて見ろ』

再解散說の高まつた日の議會の廊下で一政友會代議士が幹部に向つて、こう激語してゐるのを聽いた。

然り。解散は大臣が一二ケ月乃至一年間失業を延ばす爲めに陣笠を一生失業さす事であるのだ。彼等の一生の願望は帝國議會の議員となつて登院する事に在つたのだ。この望みの爲めに彼等は家産を蕩盡し郡會議員より縣會議員と階段を一つづつ丁寧に踏み登り、幹部の頤使に甘んじ、順番の來るのを待つて漸く晴れの舞台に立つたのだ。その滿足をろくに味ひもせぬうちに、たゞの人に逆戻りさせられる事はあまりに人間の欲望を無視したものだ。

もとより再選は期し難い。彼等の怒るのも無理はない。

陣笠の間にこの失業觀が共通に打算せられて居る間は再解散は覺束なかつた。彼等は代議士失業防止聯盟の會員たる事に於ていつでも政黨政派を超越し得るのだ。今度の臨時議會に於てこの代議士失業防止聯盟ほど根强い集團勢力は無かつた。それは集團の組織も集團の機關も備へない集團である。たゞ默契の上にのみ立つ集團であつた。然し腕の喜三郎はこの集團の意志に逆らつて寢くだけをしてしまつた。田中大將はこの意志の命ずるまゝに一蓮托生をひるがへした。明政會がぬえになつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

總括的不信任案を敵味方共に手を助け合つて閉會まで飴のやうに引伸した。

この意志の上に現れた幾多の政爭は、磁力の上に踊る鐵片である。實はどんなに跳ね返つても安定の重心はあつたのだ。

×

それは鑵詰製造全盛時代の事である。

民政黨の地方分けの黨員部屬の部屋へ黨の總裁始め幹部の面面が一人づつ入り込んで黨員の御機嫌を取つて居る。黨員は心持ちよく御機嫌を取られて居る。

由來民政黨の幹部ほど愛想に近付きの少ない顔はない。それが愛想を振り撒いて居るのだ。

酸鼻な喜劇だ。

×

再停會が開けて總括不信任案も大概たかゞをくゝれる日に與黨の幹事長が議席で扇を使ひ始めた。

×

朝の新聞に六號活字で鈴木喜三郎君の辭職聲明の取消しが出て居た。夕方の地方版には大々的の二號活字で彼の辭職の確報が載つて居た。

×

無産黨はひたすら内閣倒壞の實効を期し、時間をつぶす舌の浪費を一切慎んで居た。それが總括不信任も便りなくなつて來たので最後の五分間にすべてを演壇上にぶちまけて與黨も野黨もひつくるめて所謂既成政黨の裏をあばく作戰であつたらしい。然し議場の掛け引に慣れないので時間を投票に喰はれて彼の咆哮を聽くを得なかつた。今の議場はトリックである。議場に出る以上トリックを逆用する必要があらう。

×

田中大將は嘘と判つてる事を言明する時ほどます〳〵莊重な態度を現して來る。一種の異人だ。

×

既成政黨は無産黨に對してあまり正面的に彌次らない。たまに外れ彈が行くだけだ。『謎』に對する漠然たる脅威を感じて居るのだらうか。時代の推移の根本原理に手を措くのが賢い仕方と直觀してるのだらうか。『新』と『少數』に對する物珍らしげないたはり心があるのか。

無産黨もおとなしい。この點議場中最教養ある紳士だ。

既成政黨間の彌次はいよ〳〵惡辣を極める。中立議員の攻擊の鋒が互の黨に向ふ時互に痛快がつて拍手をする。中立議員を憎ます。中立議員を通して相手の既成政黨に憎みを現はす。既

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

成政黨間の鬪爭を見る時、それは公的の鬪爭といふ氣がしない。私的の鬪爭、分けてもいがみ女のヒステリックな鬪爭に感じられる。

×

鶴見祐輔君は一度も口を開かなかつた。彼は賢明だ。この狀勢に於ては彼の雄辯を加へるに足りるどんな言葉も發見出來ないから——

×

明政會はあまりにスキルフルだ。苦勞を知り過ぎた青年の姿ゑだ。

×

溫泉場の出先から鑵詰議員が長距離電話をかけて新聞社へ問合せて來た『只今わたしの黨はどうなつてるのでしよう』鑵詰の中に居ては自黨の消息も判り兼ねると見える。しかし『あなたはどなたです』と名前を訊いたら『いや、なに、一鑵詰です』と答へたのは可愛らしかつた。

二つの抗議

前田河廣一郎

『ムツソリーニ』劇

田中内閣下の反動思想熱の反映として、今年になつてからムツソリーニ崇拜の氣風が、雜誌に、新聞に、傳記に、小說に、凄さまじい勢ひで橫溢し出した。戯曲もその一と役を受持たねばならない。私の知つてゐる範圍でも、三つの劇場が『ムツソリーニ』のためにその門戸を開いた。坪内士行氏のメロドラマ化したムツソリーニは寶塚に於て演ぜられ、淺草の某劇場も或種のムツソリーニをいたに濶歩せしめ、五月の明治座は小山内薫氏の『ムツソリーニ』を左團次に演ぜしめてゐる。直接間接にこれらの筋立を左團次に見聞したところによると、如上の三脚本と三舞台とは、いづれもベニト・ムツソリーニを英雄化し、その組織的勢力に看客からのごく原始的な共感を絞り出そうと試みたもののやうに思はれる。

本來ムツソリーニの出現と彼れの獨裁統治とは、ムツソリー

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ニその人の『偉らさ』とか『英雄マキヤベリズム』とかに在るのではなくて、彼をして出現せしめ、棍棒をもつて議政を動かしむるに至つたイタリーの國情、――その政治的紛亂と、經濟力の極度の消耗と、思想の低下とに在るのである。ムッソリーニが鍛冶屋の（サンジカリストの）息子から身を起して、イタリーの『國難を救ふた』といふブルジョア傳記的見地から見て、しかもその扮裝に一脈冒險小説的色彩と多分のジンゴイズムとを有するに於ては、大方のブルジョア劇作家が垂涎措く能はざる傳奇的テーマとするのも無理からぬことである。だが、我々は、そこでブルジョア藝術の根本失策を認めるのである。佐倉宗五郎にしろ、大鹽平八郎にしろ、星亨にしろ、又、このムッソリーニにしろ、いかなる人物であらうとも、その人間が史的存在を確立するには、その人間の個人意志よりも強大な外的諸條件によるものである。それを、舞台的配合に使用するといふ意味以外には、ムッソリーニを出現せしめて今日に至らしめた諸要因を刈り取り、或ひは全然否定し去つて、その刈り取りと否定との後に殘つた貧弱な『個人』のみを擴大鏡に映出すといふことは、『クロムウェル』を書いたカーライルとその頭の古るさに於て、英雄崇拜主義に於て、プロレタリアに加へられる暴壓力の讃美に於て何等異るところがないからである。その同じやうな心理のあらはれを、逆な所で云つて見ると、川上博士を京大から辭職せしめることによつて、學生の社會科學研究が褪色すると考へるやうな個人主義的觀察なのである。

かういふ意味で、私はこの一月に自分の見た『ムッソリーニ』を發表した。それには、到底人物中心主義の現在の劇壇のドラマトルギーに容れられぬほどミリユウにのみ力を注いだ。偶々新劇協會がそれを上演したいといふ意志を發表したとき、演出の任に當る金子洋文が、その第三場フイウメ占領の場を、何等の劇的聯關なしといふ理由からカットしようとしたが、私は全くそれに不服であつた。フイウメ占領が、ムッソリーニに彼れの暴力團構成の一大インスピレーションとなつたことは、その當時のイタリア軍隊のモーラルの頽廢を示すだけでも十分に認めらるべき要因である。――が、いづれにしても、私の描いた『ムッソリーニ』は、邦樂座に於て、新しく結成された新劇協會の手で上演されようとして、あらゆる準備を整へてゐるところを、『國際的關係を惡るくする』といふやうな事情の下に、突然上演禁止を宣告されてしまつたので、今業々しく愚痴を述べようとはしないが、歴史の見方がちよつとちがつたと云つても斯くまで上演の自由を閉塞される劇界といふものは心苦るしいものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

餘談ではあるが、反動的効果しか與へぬ『ムツソリーニ』に扮した市川左團次は、近々勞農ロシアの招待で、イタリーとは絶對に政治的に相容れぬプロレタリア共和國に於て、日本の『歌舞伎』を演じて見せるさうである。

一言、私としての立場を明かにして置く。

ロシヤの日本文學

ごく一般的にではあるが、最近、私は、勞農ロシアの學界が、研究の焦心を日本の文藝界に轉じたことを欣ぶものである。尤も新聞の上では、勞農ロシアの極東研究が、各種の學者を網羅して組織的に行はれてゐることを、コズロフ將軍とか、ウラデミルツオフとか、オブルチエーフとかいふ名前と共に承知してゐるが、それがデー・アルキン氏達の演劇研究となつたり、スパイルン博士の日本文學研究となつたり、更らに、日本から小山内氏や秋田氏などがロシヤへ招待されたことなどによつて、彼我の間のより現實的な、日常生活に密接の關係のある文化的方面にまで延長して來たことは、何と云つても相互の啓蒙期には重要な生きた統計の任務を果たすこととして、この際あらゆる機會の公開と自由とを與へられることを希望する。

しかし、米川氏などの話を聽くと、つい革命十周年のこの頃まで、ロシアの兒童讀本には荒唐無稽なほどの日本風俗の寫眞が載つてゐたといふやうなことである。又、一般ロシア人は、殆ど日本人の何物なるやも知らぬ向が多いとのことでもある。そのほかロシアを漫遊して歸へつた人々の話を聽いても、實際、私には、ロシア人の日本に對する興味は、教育人民委員會の幹部どころや特殊な學者文藝家はいざ知らず、往々にして歐米人が持つ不思議な國としての日本、封建制度の殘滓物としての日本、グロテイスクな日本、ローマンテイツクな日本、迷信國としての日本程度のものでないかが愛惧される次第である。

しかも、その知識がロシア人によつて吸收されて、メアホールド氏の應用した花道ぐらゐまでの實用性を帶びたならばまだしもの話であるが、單に現實の日本を目して『ブシドウ』の國、『ゲイシヤ』の國であるといふやうな概念を與へ、何等明確な史的解釋なしに、印象的批評を斷定されるとすれば、むしろ害あつて益のないことではないかと思はれる。

事は日本の政治と經濟とに直接關聯しないからと云つて、今日の『歌舞伎』劇の如きを今日の日本の劇壇の代表であるとするが如きは、嚴密な『歌舞伎』劇場の背後に潛む興業資本家の現狀についての註釋を附さぬ限りに於ては、危險千萬な話であると思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さうかと云つて、我々は、今日大部分のロシアの翻譯劇を上演してゐる新劇團の大半を、直ちにロシアへ持つて行つて、これらが日本の代表的劇團であるとは云はない。それはローブシンの翻譯を携げて、それが今日の日本の文學であると云ふのと、その馬鹿さ加減に於ては遜色がない。

しかし、劇に於てさうであるやうに、文學に於ても、衰へつつある舊文學を持つて來て、宛も今日の日本人は鶴屋南北の如き思想を有してゐるとか、ロシア物の翻案を巧みにした尾崎紅葉のレヱルであるとか、モウパッサンのこつを捕へた獨歩の如きものであるとか妄斷されたならば、それは迷惑千萬な話で
る。

かういふ意味に於て、我々は先づ研究の對照としての日本の文學へ、單なる好奇心をのみ持つて近かれることを抗議したい。スパイルン博士などの研究してゐると云はれる、日本のブルジョア文學には、それぞれの史的根據が儼存し、その根據を離れては、何等プロレタリア文學と對比してブルジョア文學と併せられる存在理由がないのである。もし又、ブルジョア文學の數種類のみを指して、これが代表的な日本文學であるとするならば、久原房之助氏や後藤新平氏のみを指さしてこれが日本人の代表であると云つてもいいわけである。

この半面に於て、私の切に進言したいことは、ロシアの文藝的方面の研究者が、日本の政治經濟等方面の研究を試みると同じやうな唯物史觀をもつて、日本の文學をも徹底的に研究して貰ひたいことである。殊に、大正七八年度から擡頭した、殆ど世界にその實例を多く見出せないプロレタリア文學に對して、その發生と過程と方向とを良く理解して、それが漸次翻譯期を蟬脫して、ブルジョア文學の持つ日本の文學の特殊性を昂揚して、無限の苦痛と犧牲とをもつて盛り上げて來た新時代への眞の詮釋者とならんとする力を感能して貰ひたい。我々は、ロシア人を怒らせようとすれば、今日ソウエート聯邦社會主義共和國の文學を知らんがために、アルツイバセフやクープリンの作を示して、これが勞農ロシアの作物であると天下に誤報することであるにちがいないのを知つてゐる。(五・九)

代議士國難來

高島米峰

普選最初の帝國議會。それには、普選最初の總選擧の結果に

失望した僕等は、もとより大した期待は持ち得なかつたのであるが、それにしても、餘りと言へば餘りの結末に、呆れて仕舞つて言句が出ない。二週間の會期に六日間の停會、御大禮豫算を決議した外に、一體、何をしたといふのであるか。

曰はく野黨切り崩し、曰はく中立議員買收、曰はく政權踏り附き、曰はく倒閣運動、曰はく議員鑵詰、曰はく鼠色、曰はく思はせぶり、曰はく決議案の押賣り、曰はく宙返り、曰はく背負投げ。

此くの如くにして、しかも、閉院式に際しては、陛下畏くも『卿等精勵克ク協贊ノ任ヲ竭クセルノ勞ヲ嘉奬ス』といふ、優渥なる勅語を賜ふ。諸君果して、恐懼するところなきか。

政策を有せざる鼠色議員が、キヤスチングヴオートを握るといふこと程、議會を汚濁ならしむるものはない。普選最初の帝國議會が、これ等無政策の鼠色議員のために汚されて仕舞つたことは、國民の永記すべきところである。鈴木内相の辭職もこれがためであり、内閣不信認案の審議未了もこれがためである。

二大政黨の間に介在して、思ふ存分、これを手玉に取つたと言ふであらう。手玉に取られた二大政黨なるもの、間抜けさ加減は、愍笑に値するが、さりとて、手玉に取つたもの〻政治的良心が、果して健在なりや否やは、國民の多數が、嚴肅にこれを裁くであらう。

野黨の結束といふものが、如何に薄弱なものであつたかは、その鑵詰方法に依つて、遺憾なく暴露せられて居る。結束とはもとより精神的結合でなくてはならない、苟も精神的結合である以上、身體の拘禁を必要とせざること言ふまでもない。身體を拘禁するにあらざれば、結束の實を擧げ難しといふが如きものならば、これ結束にあらずして烏合である。正にこれ代議士を動物扱にしたものであつて、畢竟、人格として認められては居ないのである。宜なるかな、解散の風一たび吹き荒むや、ヘタ〳〵と腰をぬかすもの、敵と言はず、味方と言はざることや。

内閣不信認案は、審議未了となつたのである。否決せられないでもない、可決せられたのでもない。從つて、國民の意志が、現内閣を信任して居るといふのでもなく、信任しないと言ふ譯でもない。現内閣たるもの、當然の權利のやうな顏して、居据はつて居ては、相濟むまい。

かうした埒もない議會で、埒もない連中が、思想國難に關する決議案を可決したこそ、笑はせる。言ふが如く、果して、思想國難だとして、それが、總理大臣が恐懼したり、議員が決議

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したりした位で、何となるものだ。

政權爭奪の外に能の無い政黨者流、黨利黨益あるを知つて、國利民福あるを知らない政黨內閣の閣僚、賣名賣節にあらずむば、則ち不正に利權を獲得しやうとするより外に、仕事を持たない議員輩、彼等の行動こそ、實に、最も多く、純眞な、生一本な、うぶな青年をして、反抗心と破壞心とを増長せしめる、根元をなして居ることを、思はなければならない。思想國難を決議する前に、まづ、彼等は、政黨國難、議員國難を決議する必要を感ずべきである。

共産黨事件とや、それが若し、政府の發明するが如く、國體變革の企てだとするならば、國家の權力を以て、これに彈壓を加へ、これが剿絶を計ること、もとより當然。だがしかし、發生して來たものだけに、彈壓を加へたからとて、それで、それが絶滅するものでないこと、蚊に看よ、蠅に看よ。

蚊が出て來た、蚊遣線香をくすべる。蠅が出て來た、蠅取り日を行ふ。それは出て來たものに對する餘儀ない手段ではあるが、そんな消極的な手段だけで、蚊は滅びない、蠅は絶えない。我等は、まづ、何故に、何處から、蚊が發生し來るのか、蠅が發生し來るのかを研究して、その原因を除かなければならない。應急手當てとしては、蚊遣線香や、蠅取り粉の功果を無視することは出來ないが、根本策としては、もつと積極的な方法が無くてはならない。

思想を、蚊や蠅と同樣に見やうといふのではないが、國家が、思想を取締らうとする手段が、たゞ消極的な彈壓に依つてのみ、目的を達し得られるものでなく、必ず、積極的方法が、併せ行はれなければならないといふことを、言ひたいのである。

元來、人が思想するといふことは、人の自由であつて、これに對しては、國家の權力を以てしても、如何とも手の下しやうの無いものである。それは、思想は、空間の支配を受けないものであつて、思想に國境は無いと云ふのは、そのためである。故に嚴密な意味に於て、思想は取締ることも出來なければ、彈壓することも出來ないものである。

しかし、思想が、若し、行動となつて現はれて來れば、その行動の正邪曲直に依つて、國家も社會も個人も、これに對して、讃美もする宣傳もする、非難もする、攻擊もする、彈壓もする、撲滅もする。思想には國境は無いが、行動は、國家の立場から言へば、その國家の歷史や傳統や意志と、矛盾し衝突するものは、その存在を許すことが出來ない。即ち、行動は時間と空間との約束を、無視することが出來ないからである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人は、理窟だけでは生きてゆけない。思想したことが、實際の行動に現はせないといふことは、思想したものに取つて、どんなにさびしいことであらう。しかし。各人の思想したことが、一から十まで、悉く行動し得られるやうならば、それこそ、誠に黄金世界であつて、娑婆即寂光土と言へやうが、そううまくは問屋が卸さない。そこに、純理と實際、理想と現實、研究と運動の衝突が生じて、悲劇も起れば、喜劇も演ぜられる。

思想は、思想を以て制御しなければならぬと言ふ。言ふは易く、行ふは難しだ。行ふは難いが、それより外に道はあるまい。若し、マルキシズムが惡いならば、それよりも、より善い思想で、各人の精神生活の内容を充實させて置いて、マルキシズムなんかゞ、飛び込んで來る、間隙の無いやうにして置くことが、肝要ではないか。

唯物論對唯心論、科學對宗教、靈對肉、知識對信仰、各、自己の立場を固執して、互に鬪爭して居ては果てしが無い。人間は單なる物の塊りでは無い、イヤ、物の塊りでもあるが、同時に又靈的存在でもある。人間は、一日に、何カロリーあれば生てゆけると、科學者は言ふ。しかし、好きだ嫌いだといふ、個々人々の嗜好は、カロリー説を超越して存在する。そこに、物心一如論が可能であり、靈肉一致が成り立ち、科學と宗教との調和が考へられる。

頭から、無暗に、ガミ／＼怒鳴りつけたのでは、子供だつて承知しない。無理解な斷壓は、却つて、潛勢力を養はしめ、他日の勃發に備へしめるやうなものである。過去に於て、日本の政府が、社會主義に對する無理解な壓迫は、遂に、今日の共產黨事件を發生せしめるに至つた、大きな、國家的失策の一つではあるまいか。

ソクラテスを殺したつて、ソクラテスの哲學は滅びない。キリストを磔にしたゝめに却つてその教は擴まつた。今日、日本で、淨土宗や眞宗や日蓮宗が、最も繁昌して居るといふのは、その宗祖たる、法然、親鸞、日蓮が、時の政府から、無理解な迫害を更けたことにも、原因して居ることを考へなければならない。

磯邊の松は、眞つすぐに伸びない。陰慘なる家庭からは、不良兒が出る。惡い環境は、惡い思想を作るといふことに誤りが無いならば、今日の如く、腐敗し墮落した代議士連に依つて、國政が料理せられて居る限り、國民の思想は、惡化せずには居るまい。ア丶、代議士國難來る、その決議案は、そも／＼、誰が提出するのであるか。

（昭和三、五、八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

銀座舗道記

高田保

銀座。

眞夏になると、妙な男が現はれてといふ話。

まさかとは思ふが——二丁目と三丁目との間だといふから、教文館の角あたりかも知れない。高い電信柱の根元に蹲つて、見上げながら頻りに、大きな團扇で、その無心な一本の棒柱を、煽いでゐるのださうである。

「暑いだらう。〱」

白足袋を穿いて、苦味走つた、江戸前のいゝ器量な若い男だといふのであるが、こんな馬鹿げた話でさへ、場所が銀座だと聞くと、どこか成程と思はせらるもののある氣がする。

それにしても白足袋とは、と思ふかも知れない。が敢て斷はる。銀座は必ずしもモボとモガとのみの世界ではない。カツフエーのライオン。タイガア。ゴンドラ。クロネコ。等々。ここの酒場にきつと二人や三人は、この古風に白足袋を穿いたのが、藍微塵の結城か何かで乙に澁めいてゐるだらう。決してお店者の白足袋ではない。わざと氣取つて、謂はゞこれが一種の「反動」でもある。一日に三足は穿き捨てますといつた風の、見様によつては時に鼻持のならない氣もするが、時に却つてこれが甚しく銀座と釣合ふことすらある。

この銀座、ここである時。

＊

僕は仕立卸しの鮮かな夏服を、——新しい洋服を、始めて身に着けた時の爽々しい氣持を察してくれ給へ。夕方に屆いたのを、箱を開けて、着て見るなりすぐ様飛び出したくなつて外へ出た。

日比谷でバスを降りる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

濠端を通つて、馬場先きから京橋の方へ拔けて、この道は夏の夕方など、己れが靴音に聞入りながら一人で散歩するには恰好な通りである。やがて外濠を渡り、向ふに明るく「銀座」が見える。

「やあ！………」

聲をかけられた。

相手は僕よりもぐつと先輩の、だが氣持の非常に若い――といふよりも謂はゞモダンな――さる紳士であつた。瀟洒たる服の着こなしで、細身のステッキを洒落れて小脇きに抱込みながら

「何處へ行く？」

「銀座へ」

我れながら不出來な答ではあつた。

「何しに？」

果して相手は、鼻で瞭りふゝんと笑つて置いて、皮肉に僕の眼の裡を見た。

「散歩さ。」

これも決して面白くない答である。

「宜しい。だつたら默つて僕について來給へ。」

そこで僕は柔順に彼の後について歩き出したのだが、――さて、この彼が僕を何處にどう引廻したか？

明るい銀座の舗道に出て、そこから右なり左なり、と思つたのを、件の先輩は冷然としてそのまゝ眞直ぐに電車道を突切り、草花屋の角から、又しても向ふの横丁へぐん／＼と進んで往つたのである。

「何處へ？」

追ひついて僕は聲をかけた。

「何處でもいゝさ、默つてついて來給へ。」

やがて幾つ目かの横町を、變に暗い場所だつたが、ついと右に折れた。と思つた所に、狹い、といふよりもやつと肩幅が入るほどの隙間といふ具合な路次口があつて、

「此處だ。一番、奧の突當りの右側」

命令するやうに彼が指した。

で僕も、その細い隙間を、何處かがた／＼とする足許の溝板を踏みながら、入つて往つたその突當りに、成程、小さな扉があつた。

コツ、コツ……

先輩は、默つて抱えたステッキの握りの銀金具で、輕くかう叩いたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「どなた？」

同時にがらりと、頭の上で硝子窓を繰上げる音がして、これが派手な女性の聲だつた。見上げると其處に、半身を後から灯りを浴び、斷髮の一少女が、僕達の方を覗き下してゐたのである。

それからやがてして扉が開いた。が開いた中は全く薄暗く、たゞ妙にふはりと白い影のやうなものが見えたばかりであつたが、その影がやはり女性の、しかし別な人物である事だけは氣配で知れた。

「出られない？」

これは先輩の聲である。

女の聲は聞えなかつた。

「三時間」

これも先輩の聲だつた。

意氣地のない事だが、僕はこれだけを聞屆けただけで、忽ちにまた窮つとその溝板の上を踏んで、表の横町の方へと出てしまつたのである。

出て吻と息をついた。それからその邊の風景を見廻した。

つい眼の前に、たゞどす黒く何處かの建物がどつしりと暗を囲として何處か遠い離れた感じだつた。

こゝが銀座？

あの賑かな、雜踏きはまる通りから、ほんの一歩である。

當然、僕は妙な疑惑に似た感慨だつた。月を眺め、建物の影を眺め、それから靜かに長く映つた自分の影を地上に見た。

と、靴音がして、先輩が戻つて來たのである。

「何？　今の家？」僕は聲を潜めた。

「君は銀座を知らなさ過ぎるらしいな」先輩は昂然としてステツキを振つた。「まあ、少し緩り歩いて行かう。いま服を着換えて來るらしいから、向ふの香水屋の前あたりで待つててやらうか」

成程、こゝにも、その奇妙な通りにも、一軒の明るい香水屋があつたのである。

實際、僕は銀座を知らなさ過ぎる。

「いらつしやいまし」

七三に分けた洋髮の、太々と脂ぎつた、年配は四十に近い、さういつたのがお內儀さんである。店先へ入りかけた先輩を見るやいなや、馳け寄るやうにして出て來ながら、それが妙に絡ませた感じの物言ひだつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この店の事を仔細に觀察して置かなかつた事を僕は今となつて後悔する。何故ならこの店が曲者だつた事を、後になつて知つたからである。迂濶すぎた。

「お待たせしたわね」

僕が、野暮つたく默つて、その店の眞中に突立つて、先輩とお内儀との應對を眺めてゐた時である。颯爽として洋風の絢爛とした裝ひの一女性が入つて來た。

「少し高いな。……これだとどの位？」

「いゝ處、半日でございますわね」

「半日は長すぎるよ。三時間が恰度いゝんですぜ。香水なんていふ奴は、長持ちしないとこに値打ちがあるんですからなあ。」

「まあ、御器用な事を仰しやいます」

お内儀が太々しい指の手を口元にあてゝ、ちらりと僕の方を窃見ながら、ほゝゝゝと笑つた。

先輩は、やがて一瓶を選んで買つたのである。

それから歩き出した。

今度は雜踏の中へである。その洋裝の女性と先輩と、その後から、氣が利かなく僕がとぼ〳〵と。

實際、これは氣が利かなさ過ぎた所業だつた。折角に仕立卸しの鮮かな夏服の僕である。それがたゞとぼ〳〵とこの二人の後について雜踏の中を、南へ、南へ、

尾張町の交叉點を過ぎる。

すらりとして、女性の後姿は仲々に讃むべきものではあつた。足取りの調子にも仲々並々ならぬものがあつた。が一體何者なのであらう？僕はうつ〳〵としてたゞこのやうな事のみ考へながら歩き續けてゐたらしくもある。

咽がかわいた。

「なにか飲まない！」

「贊成」女が勢よく振返つた。

先輩が微笑してうなづいた。

だが依然として二人は歩き續けて行つたのである。で僕は、たまらなく彼の腕を輕く引いて指した。

「エスキモへでも寄らうぢやないか。」

すると先輩は、冷然とした笑ひで僕を見返しながら

「君は銀座を知らなさ過ぎるよ」

かういつて、折柄の横町を、又しても颯つと右へ、二人とも身をかはすやうに威勢よく折れ曲つたのである。

不可解に、僕も亦仕方なく折れ曲つた。

とそこに、今はもう變つてゐるが、當時には妙な木造建築の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

このホテルの一室で、アイスクリームの盃を舐めながら、僕は先輩に訊ねた。

「ね、今、玄關へ入つて來た時さ、帳場の人が、お歸んなさい、つて言つたね、あれは何故なんだい？君はこのホテルに泊つてでもゐるのかい。それとも……」と女性の方へ眼を遣つたが、言ひ殘ねて噤んだ。

「とにかく、君は銀座を知らなさすぎるよ。」先輩は三度びこの言葉を繰返した。「とにかく僕は香水を一瓶買つたのさ」言ひながら、意味ありげに女性の方に見返つた。「ねえ。」

時に、ドアに音がした。

「お入り」

給仕の女が、手に一葉の紙を持ちながら

「あの、奥様は今夜、お泊りなのでございませうか」

「いゝえ、すぐに」凛然として女が答へ、それまで冠つてゐた帽子を、ひらりとベットの上へと投げ捨てた。

で、僕は俄かに周章したのである。

「おゝ、これはいかん。僕は餘りに長く附合ひすぎたらしいな」

立上つた僕を見て、高らかに女性が笑つた。

で何度も目にこの會話を、僕は背中に[illegible]聞いたのである。

*

この話はこれだけの話である。だがこれだけの話ならば、何も僕は目明に日見發の鑄などしなくてもよかつたであらう。實は、これに續いて、後日に、その先輩から耳にした話がある。

——女性は、もと、さる劇團の女優だつたさうだ。たゞ姿だけがよく、藝は蹈張りだつたのが運命となり、某人に見込まれて郊外で小さな喫茶店を開いてゐた事があるといふ話。がこのやうな前身はどうでもいゝ。

ある晩、省電を有樂町で降りて、日比谷の方へ歸る時だつたさうだ。

「あの、青山の方へ參りますには？」

道を訊かれた。

帽子を目深にかなつて、黒い洋裝で、しとやかにすらりとして、いきなりから聲をかけられて、先輩は

「さあ、日比谷でお乘りになるか、それとも數寄屋橋」と言ひながら、すぐに言葉を次いで「僕も同じ方面ですが。」

それから五六歩、歩き出すとすぐに女性の方から立停つて、

「あの、銀座はまだ起きていますでせうかしら？」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「何處がです？」

「何か、つべたいものが飲みたいんですけど」

先輩は、この時突嗟に「外國」を想出したさうである。――言ひ遅れたが、彼は洋行歸りだつた。

「恰度、それが日本へ歸つて來て、まだ三月位しか經つてゐない時分だ。僕は盛んに銀座を罵倒してゐたよ。何たる風流つ氣のない都會か。悉ゆる女性が餘りに善良な人妻である世界！」

だが僕はそして彼の言つた說などを取次ぐ必要はない。とにかく彼は慇懃に彼女をカツフエー・ライオンの階上へ案内をしてやつたのださうである。

カクテルを二杯、鮮かに呷つてのけた。その彼女を見て先輩は、いよ〳〵愉快になつたさうである。

で、タキシイを呼んだ。送つて同乘した。がその車は緩かに外濠をぐるりと一周しただけで、元の銀座へと歸つてきた。着いた所がホテルだつた。

とかう書くと、この女性が、さきの女性と同じ人物と思ふだらう。がこれは違ふ。二人がホテルの玄關を入ると、いきなり

――ようー！

と聲をかけた男があつた。これが、先輩が始終行き着けの酒場で、殆んどその度每に顏を合せる見知越しの人物だつたのださうである。

――君は？

面喰つて、こつちからかう聞き返した。すると瞬間に、女が

――あら、御存知だつたの？

先輩にはすぐとその女性と男との關係が暁りと讀めたのである。讀めて引込みがつかなかつた形だつた。だがその當惑はまたすぐにその男にも讀めたのだらう。

――いゝえ、構やしませんぜ、どうせあなたなら見知越しだ、あはつはつは。

だが、かうなつては流石に勇敢な先輩もたじろいださうである。で遠慮を申出た。勿論女性との間は、萬事「取引」の約束ではあつたにしろ。

そこで結局が、誰か外の人を、といふ案文で、件の男と女とが色々と相談の末に、やがて呼んでくれたのが、僕の野暮な不注意からつい氣の利かぬ附合ひをしてしまつたあの女性だつたといふ話。

所で、問題はこの男のことである。

白足袋を穿いてゐて、謂はゞ「いなせ」と言つた恰好の人物だつたさうである。彼について、先輩が說明したことには「澁い好みの着物に、きりゝと角帶を合せて、突かけ草履か何か

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り、江戸前といふ點では十分服[illegible]、
いつも酒場で見かけながらも、餘りに古風な、時代からは遠い人物」として冷たく眺めてゐたといふのである。
「だが、それが、その時以來、僕にはなぜか彼が、誰よりも新しい、都會的な人物のやうに見え出してね、その彼の姿が、最も新しい流行の型の洋服を、憎らしいほどしつくりと身につけた人達よりも、遙かに新時代な、そして謂はゞ、最も銀座的なもののやうにさへ感じさせられ始めたんだよ。」
　僕が書いてゐるのは一篇の小說ではない。從つて、ここにこの男の事を詳しく描寫し出すことを止めるが、この白足袋の人物が、以上に誌したやうな、怪しい女性達の謂はゞ、元締めであり、そしてその女性達が、僕の誌した先輩のやうな銀座人種を、最もよく悅ばしてゐる事を思ふと、右の先輩の言葉にも又意味があるであらう。
「銀座を作つてゐるものは、決して洋風の文化ばかりぢやないよ。いや寧ろ傳統の上の變化だけだよ。彼女達がよしんば悉くボツプになつてしまつても、彼女達のボスだけは、多分永遠に白足袋で小氣意な小唄かなんかを唄つてゐるだらうよ。」
　これも亦、その時の先輩の言葉であつた。

＊

[illegible]
と頼まれた。
「一體、どんなものです、例へば？」
「例へば」とその人が答へた。「一人のモボが散歩しますね、雜踏の中で一人の、まあモガ振りの奥樣を見つけるとしますね、ウインクします。すると向ふからそれを返す。一度通り過ぎる。又合ひますね、又ウインクをする。三度目位に「お茶を上りませんか」とやりますね」
「待つて下さい。事實、そんな事があるんですか？」
「ありますとも！」とその人は昂然として、恰かも僕をたしなめるが如く言放つた。
　事實、僕は夜每に銀座を遊步する。が事實は決して、僕にこのやうな事を見せてはくれない。
　銀座は、最も速かに「噂話」が傳播する所である。時には單純な「噂話」が忽ちにして「事實譚」にまでも進化する。
　ある時、僕は不圖したいたづらから、ある喫茶店で、三四の友人に次のやうな事を傳へた。
「ねえ君達、僕は今とても愉快なものを見たよ。大變な人だかりなんでね、覗いて見ると、一人の若い男がね、とても凄いモガと步いてるんだ。何のこつたい、と思つて足を返さうとする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とね、愉快ぢやないか。その二人が一匹の……ね、何だと思ふ?……豚だよ。仔豚だよ、それへ赤いリボンをつけてね、綱で引張つて歩いてるんだ。」

勿論、友人達は聲を立てゝ愉快がつた。

「それはまだいゝんだよ。何しろ大勢の見物人だ、後から大勢ぞろ／＼さ。……が豚の仔つて可愛いゝもんだね、しかも綺麗に磨かれてゐてね、あの肉色の味はとても素敵に素晴らしく色氣のあるもんだよ……處がさ、暫くするとその男が、いきなりそいつをかう抱へ上げてさ……諸君、何もふしぎは無いぢやないか、何故犬の子や猫の子が當り前で、豚の子が可笑しいんだ、とかう言つたかと思ふと、自分の頬ぺたへ擦りつけるやうにして、そのモガと二人でね、おゝ豚よ、豚よ……」

勿論、これは思ひつきの僕のいたづらだつた。

のが三四日程經つて後である、僕は不圖、それとは同じ別な喫茶店の隣のテーブルで、次のやうな事の話をされるのを聞いた。

「驚いたよ、何しろ馬鹿に目立つて立派な自働車だらう。で氣もなく中を覗き込んだのさ、電氣まで點いてゐるんだ。するとどうだつたと思ふ? 立派なクッションの上にさ、何だと思ふ? え? こいつが豚さ、豚の子さ!」

はつとして振向いた。五六人、それがみんな僕の見知らぬ人達ばかりである。いつの間にか僕の豚が出世した。彼はすでにキヤデイラツクの大型車に豪然として据りながら、この大路を驅走してゐる!

で、當然、僕は銀座についての様々な噂ばなしを信じない。だが僕は、ある時、この界隈で札つきの不良少年の一人と連立つて、尾張町から新橋までの間を往復しながら話を聞いた。

「向ふから來る奴で、あいつと思ふ女がありますね、したらこつちは連れの者と、極めて愉快さうな風で笑ひながら話して歩くんですよ、そして、先づ一間ほど前に來た時ですね、ふいとその腰を折つたやうにして止めて、行き過ぎながら、ぢいつと、これが仲々の呼吸もんなんだが、眼に力を籠めて、その視つた女の眼の中を射込むやうにして行き過ぎるんです。その時はそれだけで通つちまふ。するとこいつが大概が又行く所まで行つて戻つて來る。この時に今度は、行違ひ樣、一寸、唇元で笑ひかけて見せるんです。これだけでもう大概が判りまさあ、必ずこいつが振返るが、その振返つた時の表情でね」

成程、と僕は思つた。心理的なのに感心したからである。すると彼は

「まあ、御覧なさい。例へば——」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と恰度、その時に擦れ違つた令夫人風の女性に、その手を目
あて見せてくれた。突嗟に彼女は感じたらしく、眼を不意に落
し、心持脚を早めたらしかつた。
「ふん!」と彼は鼻で笑つて「あいつ、今度は向側で會ひます
ぜ」
　果してその通りだつた。僕達が松坂屋の前を過つて反對の側
の方へ出た時に、遠くその人の影が見えた。
「御覧なさい。今度はあいつ、決して今見たいに足を速めたり
なんかはしないから」
　いかにも、ゆつたりとして彼女は歩いて來た。遠くからすで
にこつちの來る事を意識してゐるらしく、故ら視線を外らして
商品窓の方を見ながら歩いては來たが、擦れ違ひ樣、瞭りとこ
つちに顏を向けた。その時、成程、足をも速めず、却つて、何
處か微笑に似た表情を、僕ですらが感じた程だつた。
「大丈夫、」そこで この不良少年は僕の腕を捕へ「こゝで今度
は、あいつを追越しながら、ひよいと振向いて、具合によつち
や、もう占めたものになるんです」
　と直ぐ様、引返さうといふのであつたが、意氣地なく臆病な
僕には、到底その勇氣がなく、謝して別れて歸つたことがあ
る。

この事實から思へば、銀座の舗道の中にも、或は實際にあ
るのかも知れない。
「お茶を飲んで、それからどうするんです?」と僕は蓄音器會
社の人に質問した。
「お茶を飲んで?」彼は僕の迂濶さを嗤ふやうな表情をもつて
答へた。「たゞそれだけですよ、オウ、ルヴオアル! それがあ
なた、銀座でさあね!」

*

　氣づいたことには、この蓄音器會社の人も亦、柾目の下駄
に、白足袋を穿いて、前垂れをまで締めてゐた。

*

「どうも、君の方がずつと銀座を知つてゐさうだ」
　と言ふと、彼は答へた。
「なあに、たゞカツフエばかりでさあ」
「處が、そのカツフエを僕は知らない」
　實際、僕は知らないのである。
　ある時、僕はさる友人に誘はれ、ユング・フラウといふ家の
扉を押したる その折、
「ユング・フラウね、ほう、これは山の名前かい?」と訊いた
のは僕である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「いゝえ、戀せよ乙女、つていふ事よ！」

から答へたのは斷髮の少女給であつた。瞠若して僕は退散した。

彷徨し盡して、深夜、尾張町の交叉點に立つ事が、屢々ある。その時、僕は辻々の四方から潮の如くに押寄せて現はれる令嬢群のある事を知つてゐる。十一時半から十二時である。何とこれは華かに裝はれた職業婦人達であることか？

それを指して、僕の友人が數へてくれた。

「ね君、あそこの角に立つてゐる男があるだらう。それからあの電柱の蔭、こつちの商品窓の前、あれがみんな相手を待つてるんだぜ。凄じいもんだよ」

僕は、その時、眼前を急ぎ足に行き過ぎる一人のつゝましやかな女性を見た。

「あれは？」

「あれも女給さ。女給の中で地味なのと來たら、とても反動的に地味だからね」

その時、僕は又、悠々として女王の如く濶歩して行く華かな一人を見た。

「あれだよ。見てゐ給へ、やがてあれが自働車の中に姿を見せて、この前を走つて行くから」

圓タクが止つて、又走り出した。成程、有髯の紳士と彼女とである。

「外の女達はね、大概この近所の帆かけ壽司とか長壽庵とか梅月とかの類ひに立寄るんだ。さあ、その一軒へ案内しやう。」

一軒のそばやだつた。案内をされて、意外なのに驚いた事がある。あられもない女連れで幾本かの銚子を並べたのはよしとして、彼女達を振舞ひに同伴した客の多くが、決して所謂モボではなく、すべて分別のありげな年配の人達だつた事である。

すると、友人は僕の評言に答へて言つた。

「そりやそうだよ。今日ぢやもうカッフェは決して特殊な、所謂文化的虛榮のための存在ではなくて、實際的必要の時代にまで進んでしまつてゐるんだよ。だから文化人はどん／＼と驅逐されて仕舞ふだけさ、代つて占領したものは一般的大衆さ、從つてここには氣分的なものが存在しなくなつて、實質的なものだけが存在する。見給へ、いかに彼女達が實質的であるかといふ事を！」

更に、この友人が銀座について言葉をついだ。

「だから、この點で、銀座の往來とカッフェは決して同一のものぢやないんだ。例へば戀事について言はう。往來でモガ張りの不良マダムがする浮氣の氣持は、贅澤な文化的遊戲だよ。し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かしカッフヱで女給達がする手管の裏引きに、必要な時代的生活だよ。だからもし君が丹念な觀察者だつたら、一つの面白い事に氣付かずにはゐられないだらうと思ふ。それは、同じやうにこの銀座に集る人種が、自づと二つに別れてゐるといふことだ――即ち、カッフヱ人種は、多くの場合、たゞカッフヱからカッフヱへ移るため以外にはこの往來を悠歩しない。遊歩する人種は、多くの場合、カッフヱをたゞ裝飾的な存在として眺めるだけで通り過ぎる、といふこの現象だ。」

さて、僕は、この單なる遊歩人種に屬してゐる。で、不幸にして僕は、あまりにカッフヱの事について誌すことが出來ない。

*

が、ある時、ある友人から可笑しい告白を聞いた。

あるカッフヱで、ある女給と約束が出來たのださうである。

――この友人といふのは、名代のカッフヱ通ひだつたが。

――ぢや二丁目の停留所で待つてますわ。

――よろしい。

そこで、女の方が先きに店を出た。

それから友人は、タキシイを呼んで貰つたのださうである。

やがてそれに乘つた。乘つて運轉手に

――二丁目の處で、女を一人乗つけるんだ。徐行してくれいゝ心持にかう命じた。

處が、その約束の場所に、どうしても彼女の姿が見つからなかつたさうである。

可笑しいな、ぢや一丁目かな？

がそこにも見えなかつたのださうである。で引返した、がやはり見出せない。

糞！と思つたといふ。そこで友人は

――築地へ行け！

かう運轉手に言ひつけた。

築地、といふのは、彼の行きつけた待合のある處だつたのださうである。

――着きました。

そこで降りた。待合の門前だつたさうである。金を拂つた。車が歸つた。

車を歸して、それから氣がついたのださうである。――はて、俺は築地に行け、とだけ言つた筈だ。待合の名まで言つた覺えはない。

可笑しいと思ひながら、明けてその翌日のことである。件のカッフヱにまた出かけて、件の女給に會つたのださうである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

するど彼女が、何よりも先きに

——あなた、駄目ぢやないの、あんな車に乘つてさ！

詳しく聞いて友人には始めて判つた。女給はちやんと約束通りの停留所に立つてゐたのださうである。すると車が來た、見るとその運轉手が、彼女にとつては馴味の男だつたのださうである。

——ですもの、出られやしなかつたぢやないの、

運轉手にとつては、その僕の友人が、とりも直さず戀仇であつた。仇の動靜は隈なく知り拔いてゐた彼である。築地へ、といはれて早速に、その待合の門前へ車を運んだのだといふ話。出來すぎた話のやうでもあるが、なかりさうな話でもない。が、それは別として、この友人に僕は聞いた。「一體、面白いのか？」

すると彼は憮然として答へた。

「變りはないよ、やつぱり一種の花柳界さ。決してモボだのモガだのぢやありやしない。第一僕がこの通り」

繰返す、この友人も白足袋組だつた。

＊

僕はかねてから、かなり屢々銀座を遊歩してゐる男ではある。が僕は結句何にも知らぬらしい。

「暑いだらう。〱」

もし知るとすれば、冒頭に語つたあの團扇の男の、可笑しな心理に同感が出來やう筈の事だけである。

僕は決して白足袋組ではない

では、今流行のセーラア・パンツか？

どういたしまして、僕は穿いた事もない。

社會學序說　岩崎卯一著

社會學は若き科學である。殊に理論社會科學の一として其の體系を樹立せる學者は世界を通じて寥々たるものである。此時に際して本書を得たることは我等學徒の慶びでなければならぬ。本書は岩崎教授の舊著「社會學の人と文獻」以上の該博なる智識と精緻なる理論とを集約せられたものであつて、プロレゴメナたると同時に、教授の體系を展開せられたものである。凡そ社會科學の何たるを問はず、苟くも社會を究め論ぜんとするものは本書によつて訓へられるところが多いであらう。敢て世に薦める次第である。（定價二圓　東京神田駿河臺　刀江書院）

政界裏面 白眼樓夜話

刀　吏　公

◇……臨時議會を見物に行つたかい。さうじや、乃公も一二度のぞいて見たが、あんなザマを永く續けてゐると、國民がみんな議會否認論者になつてしまふぞ。始めから終りまで政權略奪戰のかけ引き許りで、普選議會なんていふところは少しも見えない。政權の取りつくらも駈け引きも好いとして、あの野良犬の噛み合ひ吠え合ふやうなザマだけでも何んとか今の中にしないと、全く危險思想は議會が釀造場になるヨ。乃公は、餘んまりヒドイので床次や望月を議會の廊下で捉えて、「この方が國家の大事件ぢやぞ、貴公等も少し若い者を押えたらどうだ」と餘計なことだつたが言つて置いたが、先生達ももう麻痺してゐるのか、「困つたもんだ」といふだけで、大して屈托してゐないやうだつたからホントに困つたものサ。政友會の天下が續くとか、民政黨が取つて代るとかいふ事よりも、近頃の議會のバクチ場氣分の方が政治家として先づ考へなければならない問題だと乃公は思ふ[illegible]はこれには全く氣がつかずにゐる。何れ西園寺あたりから一言出ないと駄目らしい。今の政黨屋には西園寺が政權の神様だから、あの爺さんのいふことなら可笑しいほど有難がつて聴くヨ。早い話が、今度の議會の解散非解散の政府の腹も、西園寺の顔色を見て、大方始めから決めてかゝつて居たといふことだヨ。

◇……議會の始ろ前に田中と水野が與津詣りをやつたが、その時和尚さんは、「理窟のない解散は愼むがいゝ、政府は解散したところで勝目があるかしら」といふやうなことを言はれて歸つて來たものだヨ。これは閣僚にも餘んまりいはなかつたらしいが、水野などはこの御託宣を後生大事に獨りで胸の中へしまひ込んで、始終、閣議でも解散反對論者の筆頭だつたやうだ。解散といへば、二度目の停會明けの時、田中がわざ／＼參內したので、「そら解散だ」といふ騒ぎになり、新聞も一つ殘らずデカ／＼と書き立てたが、あの參內は中々よく利いたやうだ。それに田中が御所から歸ると後を追つて侍從次長の河合がわざ／＼議會へ來て田中に會つたりしたので、解散說が物々しくなつて了つたのだネ。「餘んまり芝居染みたことはせん方がいゝじやないか、參內に事よせて、解散風を吹かすのは田中の爲めにも政友會のためにも面白くあるまい」と政友會の者に注意し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てやつたら、「あれは濟南事件で參内したのを勝手に新聞記者が騷いだのだから仕方がない」といふことじやつた。だが、これにしても待從次長がわざ〳〵議會へ直ぐに來たのはヘンじやないか。乃公が後で聽いたところでは、田中はあの日參内して、支那問題に關し刻下の情勢を伏奏し、それから「議會の政情に關しても、勢の赴くところ如何なるかわかりませぬ」といふやうなことを極めて抽象的に申上げて歸つたのじやないかといふことだつた。河合はもと貴族院の書記官長を永くしてゐた男だけに、田中のいふ事が解散の奏請らしくも聞えたのでその邊をはつきりして置く必要上、わざ〳〵議會へ來て田中にダメを押したものらしい。あの場合待從次長があゝいふ動きをするのはよく〳〵の事だヨ。矢張り田中のあの日の參内はヘンなところがあつたと大分、民政黨の頭株の間でも問題になつたが、事が宮中に關することだけに、問題にしなかつたやうだ。

◇……うむ、二週間の臨會に二度六日の停會は無論目茶だヨ。尤も、政府ははじめから、この議會の會期は五日か七日にしたかつたのだが、二週間にしたのは、三土と小川の說でネ、何んでも小川はこの議會で鐵道擴張案を片づけやうといふ考で、それには三日や五日ではどうにもならないといふ主張だつたさうだ。だが蓋をあけて見るとあの騷ぎで鐵道どころの話ではなかつたが、二度の停會で結局會期八日といふのと同じことだつた。あの停會で、政府は最初十四五人を野黨から切り崩す筈だつたさうだが、この目算はがらりと外れたネ。乃公の耳に入つたところでは、鈴木彈劾案が出た後のはじめの停會中に先づ明政會の中の椎尾、山崎、岸本、藤原あたりに目をつけたといふことだが、明政會の連中は新聞人氣を可笑しいほど氣にしてゐるのと、總選擧中に選擧干渉では皆鈴木から非道い目に會つてゐるのでこの案だけには一緒に固つて了つた。これには政友會はひどく狼狽てゝゐたヨ。それから無所屬の尾崎だとか、長島だとか、堤、增野、守屋あたりにも一通り手は廻はしたが皆んなダメで、隨分あわてたものだ。しまひには民政黨の中にも切り込んで行つたが、その行き方は、議員等の事業關係で政府に弱味のある奴を利權で誘つたり、舊惡をあばいて引つくゝるぞと嚇したりしたものだ。議會の始る時に民政から鞍替へした三四人の連中は大ていこの手で參つたのだが、まだ〳〵參つて來る奴が四人五人は居る筈だつたさうだ。北海道から出てゐる前田といふ民政黨の男のところへは、或る實業家の手で、三十五萬圓といふ身の代金で買ひに行くことに話がきまり、承諾したら議會後洋行させて歸つてから政友會に入黨といふ細い話まですることになつてゐたが、この男例の箱根にカン詰にされてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たので、どうしても話が附かなかつたさうだヨ。議員のカン詰なんて民政黨としても不面目極まるではないかといふのか！其の通りサ。だが、今の政黨員に面目なんかあるものかい。カン詰めだらうが、雪隱詰めだらうが、彼奴等は負けない爲め、勝つためには何んでもやるヨ。カン詰め政策がなかつたら、惡因緣とか金力とか暴力などで民政からも三人や四人はかどわかされたらうヨ。

◇……明政會は實は始めから政府不信認には贊成する氣はなかつたのサ。さつきも言つた通り、內相彈劾案だつて皆んなが皆んな贊成でなかつたのさ、あれだけになつたのは時の勢ひで、それは全く社會の力だヨ。鶴見などは新聞の人氣許り氣にしてゐるので、どうもやる事があの男の演說振りのやうに人氣活動役者といふ臭味がとれないやうだナ。明政會といへば直ぐ鶴見といふやうに新聞のポンチにまで出るやうになつたのはあの男としては成功かも知れないが、あの新人とか新團體とかの會としては少し小利口に立廻り過ぎたネ。あれ等の考は、兩大黨伯仲の勢力で續かせるといふのが付け目だが、それが淺智慧といふものだヨ。こんな幼稚園のシーソー遊び見たいな狀態がさう永く續くものか。冬の議會が解散にならなくても、どつちにか重みはつくに極つてゐる。第一、夏の間に民政黨のカン詰だつて好い加減腐るかまけられるかするヨ。さうなれば、もう明政會はほんとの迷政會になつて小利口に立廻つただけ總スカンになるじやないか。こないだ床次に會つて、次の議會までにカン詰は大丈夫かいと訊いて見たら、「實際あぶないヨ、何しろ議會前に四人もとられたなどは僕の方の無力のためだ、冬の議會までにこの儘の勢力で行けるなんて斷言は出來ない。殊に僕の本黨系が政友とつながりが多いのであぶない」と正直なことを言つてゐたが、こゝらが先づ本音だらう。尤も民政の方にも相當手取りは居るから、相當に逆襲もするだらうが、そこへ行くと同じ切り崩しでも野黨は分が損だ。

◇……明政會の七人が七人みんな最后の政府不信認に反對してゐたワケではなかつたやうだ。先づあの中の三四人を何んとかすれば、民政黨は立派に勝てたのだが、あれん許りの引き廻しが出來なかつたものかと、安達に會つてきいて見た。その安達の返答が、また正直なもので「實はそれもやつて見た、解散になつたら、なつたで民政黨員と地盤の協定も選擧費用のことも話して、提携を隨分口を酢つぱくして說くには說いたんだがネ」と笑つてゐたヨ。明政會の實際上の舞臺監督は鶴見でなくて海千山千の大內暢三あたりで、御指南役は尾崎老だつたやうだ。尾崎の鈴木彈劾提案演說も、濱口の內閣不信認案演說と同樣、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

冴えもすごみもなかつたやうじやないか。尾崎は武藤山治とは切つても切れない關係があり、それにもと〱憲政會の昔からの關係で民政黨よりはどつちかといへば政友會の方に今では氣が向いてゐるのだから、大勢は始めから極つてゐたのサ。政友會の福井縣から出てゐる佐々木といふ男は尾崎の娘婿ださうだが、議會が終へると、佐々木の家へ田中と尾崎が出會つて、一晩話をしてゐるじやないか。その時田中はしきりに尾崎に禮を言つてゐたといふがこの會合は尾崎にして見れば娘婿への義理もあつたことだらうが、そこが共れ「血は水よりも濃し」といふやつで、憲政の神樣も近頃は一本氣ではなくなつてゐる。それにしても、鈴木彈劾案の說明者にわざ〱、晩がゝりで總理大臣がお禮をいふなんて、鈴木がきいたらカツとするだらう。

◇……鈴木といへば、あゝして辭められたとなると、世間はヘンなもので、自然と同情はあつまつて來るやうだから妙さ。鈴木が辭めるといふ事が、突然朝刊で一時に報道された時は、當の鈴木はじめ、鳩山、森恪、宮田、山岡なんどの一黨は全く面喰つて、駈けつけた新聞記者等にも「閣僚內のアンチ鈴木派の陰謀だ、そんな事を言つたのは水野か中橋あたりだらう」など、言つたさうだから、餘つぽど逆上したものと見える。そこで、鈴木が辭職せずと言ひ出す。それが夕刊に又一齊に報道される。一蓮托生のお題目を繰りかへしてゐた手前と、內閣が今にも倒れさうな瀬戸際とで、田中はもと〱無い智慧の出しやうがなくなつて、例の長老會議といふ奴を又開くやら、あの時は全く見じめなものだつた。その長老會議の高橋、岡崎、犬養等の中、岡崎と犬養は總選擧が濟むと直ぐに、「鈴木が議會の問題になるぞ、あれを今の中に替へて置かないと、船を岩にのしあげるぞ」と田中に注意してゐたのだから、この老人會議は一議に及ばず、鈴木をやめさせろといふことになつたのさ。岡崎や犬養は後で、「田中にも困つたものだ、やればやる程智慧のないのを廣告する總理大臣だ、鈴木よりも田中の方が問題だらうよ」と言つてゐたとかいふ話だ。

◇……鈴木としちや浮ばれまいョ。根が強情な男だから、乘るか反るか再解散と行く覺悟でゐたものだ。始め田中が議會の形勢を見て、遠廻はしに議會後に辭めてくれるかと氣を引いて見たら「辭めて呉れなら、今辭めやう」と言つたので、田中は議會中は「どうでも一蓮托生じや」といはなくてもいゝ事まで言つて其の話を切つたものだ。ところが、あの騷ぎになり、どうでも辭めさせないと政府不信認案も通りさうな形勢となり、老人會議の意見もさう極つたが、流石に田中も自分の口から詰腹の口上は言へない義理なので、鳩山や森あたりを呼んでこの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

使者をさせたものだ。鈴木といふ男は芝居や活動を見ても、一寸した場面でボロ〳〵涙を流して泣くといふ程の涙もろいところがあるので、自分一人の首と、味方の二百何十人、廣くいへば四百何十人かの代議士の首が兩天びんにかゝつてゐるなどといはれると「ウン宜しい」と直ぐに返事をして了つた。あれが關東人の好いところだ。第一次の停會中、濱田が尾崎に鈴木助命の使に行つたら、尾崎は「鈴木は將來のある政治家だから、この際彈劾案通過前に辭める方が同君のためにも好からう」と言つたさうだが、これは尾崎のほんとうの鈴木觀だらうヨ。

◇……これから、鈴木はどうなるかつて？新聞では、政友會の副總裁説だの、筆頭總務だのといつてゐるが、ほんとの事はまだ何んにも極つてゐないやうだ。政黨といふのは、水商賣の本性をかういふ時に一番よく出すもので、一度あゝいふ破目にして了はれたら、オイソレとは浮ばせない。それには豫ねて副總理氣取り、内相氣取りの小川、中橋、水野などが居て、鈴木の復活運動に反對してゐるからネ。中橋は自分の一蓮托生事件の苦い經驗から今度の鈴木の事件には可成り同情的の態度に出たが、最后の土壇場ではケロリと忘れて辭職贊成組になつてゐたではないか。鈴木の支持者は山本一人だつたのも妙な廻り合はせだが、山本は内閣の出來る抑もから田中や閣僚の大部分と氣が合はず、のけ者にされてゐた形なので、かういふ機會に自然鈴木と共鳴して來たんだネ。

◇……始めの鈴木辭職説は閣僚中の誰がしやべつたかつて？乃公は中橋に會つて「貴公が宣傳したといふぢやないか」ときいて見たら、「馬鹿いふな、あれは株屋に關係のある奴がわざと新聞記者に話したんだ、はゞかり乍ら乃公は政府の機密で株などやる量見はない」と啖呵を切つて居つたヨ。東京の新聞が一つ殘らず朝刊で「鈴木内相辭職」と書き、夕刊で今度は「辭せずと言明」といふのを素人や新聞記者は無邪氣にたゞ政界の大事件として騷いで居るが、これが株をやる奴にはどんなに面白いタネだか氣がつかずに居るからお目出たいよ。あの一日の朝と晩の騷ぎで東株に五六圓の動きがあつて、政黨屋の手先きをしてゐる大〇とかいふ株屋などの手で大分動いたのを知つてゐるのは、素人仲間では乃公位ひのものだらう。乃公もその株をいぢつたらうつて？馬鹿な、乃公は皆んな後祭許りを聞かさせられるので、いつまでもかうして政界の浪人をしてゐるのだヨ。政黨屋の株といへば、今度の内相一件の變動などは大したものじやなかつたが、それでも名古屋や大阪方面からの買ひ筋が大分機密を前から知つてゐたやうで、旨く圖星しを指した賣り買をやつて居たといふことだ。どういふものか、大阪と名古屋の

株屋に内閣の機密が早く知れるやうだヨ。山東の出兵でも大分株でもうけた奴が居るぞ。

◇……内相の後釜と外相問題か。外相は久原に内定してゐるが、久原も外國の船會社までから借金をせめられたりして、方方の借用の片をつけるのに困つてゐるさうだし、いろ〳〵小面倒な問題で一寸行なやみだネ。内相には田中は犬養にしたいだらうが、犬養は實は田中の後釜にしやうといふ一味もある位だから、ウンと田中が口說けば引受けるかも知れない。其の他素人芝居の勘平志願者のやうに小川だ、中橋だ、水野だ、望月だと皆んな自稱勘平役者許りだから、今のところ花道に勘平式——いや内相式が出來てゐる圖だ。そんな事よりも問題は濟南事件だが、この方がまづく行くと内閣の大ひどになるぞ。戰時編成の一個師團を一年支那へやつて置くと三千萬圓はかゝるさうだから、わるくすると第二のシベリア出兵になつて、一億ばかりの金を無駄費ひして排日熱を殘して引揚ることになる。尤も、皮肉にいふとこの出兵騷ぎで政友會は次の總選擧費をかせぐだらうといふ事だ。あの兵隊を輸送する船のチヤーター料など大低はいゝ加減なもので、シベリア出兵の時など使ひもしない船が使つてゐた事になつてゐたり、浦鹽と門司の間を三航海しかしない船が五航海したことになつてゐたりしてゐたと或る將校が話してゐたヨ。田中は事件に釣り合のとれない大軍を起して得意がつてゐるが、これを好い機會に支那問題を解決する位ひのつもりかも知れないが、あの頭では危ぶなかしくてならない。まあお手並みをゆつくり拜見しやう。大分政友會のアラ許り探したが、この次は民政などのだらしのないところを聞かせてやらう。

基督教の起源（上）　カウツキー原著　近藤宗男譯

カルル・カウツキーの名と本書の題目とは一見奇異の感を抱かしむるであらう。が、「たゞ基督教中唯物史觀の見地より最も主要なりと私の思惟する諸相の理解に寄與することを得ば滿足である」といふ彼の抱負より生れた本書は、社會科學上の好文獻として廣く世に迎へられてゐる。下卷も近く上梓せらるゝ由。今、我國にも、この良譯書を得たことは慶賀に堪へない。敢て一讀を薦む。（價一圓五十錢　東京・麴町・元園町一ノ二九　啓明社）

日本經濟史概說（第一分册）　本庄榮治郎著

日本經濟史に關する最近の研究が、兎角、歷史的說明にのみ瞭するか若くは一時代の記述に過ぎない物のみである時、歷史の特殊性と普遍性とを認め、種々の特徵、變遷、發達に就て概觀せる本書は、充分その欠陷を補ふて餘りある。而も著者の簡明よくその要を盡せる編述は學校關係者及一般研究家に裨益する所大なるものあらう。（價一圓二十錢　東京神田北甲賀町　刀江書院）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

八ポイント欄

一、一この八ポイント欄」は有名無名を問はず、普く世の篤學者、趣味家、好事家、旅行家のために開放して隠れたる智識と洩れたる珠玉とを集めて之を天下に紹介しようと思ふ。故に「八ポイント欄」への投書を特に歡迎する。
一、原稿は出所責任を明かにするため筆者不明のものは採らない。紙上の匿名も許さない。そして掲載した分には十圓以上の謝禮をするが、枚數は四百字詰五枚以内にコンデンスして頂きたいことを希望する。

革命裁判

田口運藏

（一）

かぜさへもない澄み切つた幻のやうな白夜にともなはれて、一九二一年の夏は、モスコウへも訪れて來た。

戰爭と内亂と革命と反動革命とに疲れ切つてゐたロシアの民衆もボルシェウキキ政權の確立に依つて、やつと甦つて來たやうだ。クロンスタツトの騷擾も形附き、サイベリアへ入寇せる列强の聯合軍も失敗の汚名を負ふて淡雪の如くに消え去つた。民衆の要求にもとづいて新經濟政策が施行さるゝやうになつた。そしてロシア社會革命黨の反動的内亂騷擾罪に對する革命裁判がモスコウに開かるゝやうになつたのもその頃であつた。ロシア社會革命黨は所謂虚無黨として革命的テロリズムの實行家として、ブルジヨア、ローヨツパにはひどく恐れられたものであつた。それがどうしてロシア革命の實際に當面して反動的役割を演じ、革命の裏切りものになつたのであるか。この點は何人と云へども疑なきを得なかつたのである。

（二）

六月廿一日からモスコウの勞働組合宮殿に於いて三週間を期して革命裁判が開廷された。この事件はヨーロツパの社會運動、とくに第二インターナショナルの社會民主主義者の間に非常なるセンセションを惹き起した。モスコウ政府もこの裁判をロシア一ケ國丈けの問題とすることを避けて、コンミンターンの立場から全世界の戰鬪的プロレタリアの審判にゆだねることに決定した。それで丁度コンミンターンの第三回會議が催されてゐた六月に裁判を開廷することになつたのである。また他方第二インターナショナルの首領達を虚無黨の被告のために特別辯護の要求が提出したのでこれを許すことゝした。その特別辯護のためにモスコウに來た紳士は、當時ベルジユーム國の首相であつたバンダーヴイルトとドイツ右翼勞働組合の指導者リビクネヒトの二人であつた。このリビクネヒトこそ、彼のスパルタカス・ブンドの首領として革命家としての名聲の横死をとげたカロロ・リビクネヒトの實弟である。なんと悲しむべき皮肉ではないか。

法廷は勞働組合宮殿の大廣間であつた。ステージの正面は裁判長ピアタコフの席で左右に書記の數名が並列してゐる。裁判長席から一段低い中央のテーブルが檢事總長クリレンコが着席した。クリレンコの周圍を若く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て美しい女の速記者が四人取り卷いてゐる。

左側が被告席になつてゐる。而も被告席は二つの班に等分されて、上段の第一班はプロレタリア、及び農民出身の虛無黨員でテロリズムの實施者二十人の席に宛てられてゐる。下段は第二班の黨の中央委員及び實際的の指導者達十六名の席である。右側は第三インターナショナルから選出された陪審官が約十名ほど列してゐた。特別辯護人の席は被告席の前に證人達と並んで定められてゐた。この裁判は公開されたので平土間の大きいのが一般人の席である。會場に制限があつたので一日約千人の入場劵が交附された。しかし勿論團體を基準に取つてゐる勞農ロシアのことであるから、その入場劵の交附された個人はどれかの團體の代表ばかりであつたに相違ない。平土間の左方の前列は被告の親族席であつた。右方の第一線は全世界の新聞記者とコンミンターンの代表者達に供提されてゐた。

(三)

私はアメリカの同志ホルウイチに伴はれて開廷式とも云ふべき初日に列席した。付劍した赤衞軍の兵士は場の內外を警戒してゐる。被告席の廻りと眞赤に裝飾された裁判長席の後方には嚴しく武裝した兵士が直立してゐる。どことなくものものしい空氣がたゞようてゐた。午後の一時には被告の全部が着席した。彼等は皆な體格のよいものばかりで、疲勞してる樣子さへもない。或る者はニコニコ笑を浮べてゐる。或る者は親族席に向つて靜かに頭を下げて親しみのある默禮をしてゐた。この樣子は淚ぐましい程に哀れさをそそつてゐた。

「立禮!」

ばかに太い嗄れた聲でとなつた。守衞長が裁判長の入廷を知らせたものだ。被告はもとより總ての列席者は直立した。そして唾を呑んで靜かにステージを見つめてゐる。背の高い裁判長ピアタコフも、五分刈頭にルバシカを着た檢事總長クリレンコも着席した。

「着席!」

の聲とともに、どよめきながら皆な腰ををろした。ニコニコした紅い童顏の裁判長はやをら立ち上り被告席を橫目に、心もち重い句調で、

「吾々はこれから一九一七年以來、プロレタリア革命に對して、あらゆる狂暴なる手段で防害した反革命的の被告を裁くのである。……
……」。

と論じ始めた。嚴しいうちにもゆつたりとした、ブルジョア法廷と全く異つた空氣がどことなくたゞよつてゐる。裁判長席に演說中のピヤタコフは卷煙草に火をつけて、甘さうに一ぷく吸い込んで言葉を續けてゐる。左手の先に火のついてゐる煙草が細い煙を渦卷いてゐるのも面白い場面である。それでゐて少しも威嚴を傷けてはゐない。もしこれがブルジョア國の法廷であつたならば、「司法權の權威」を完全に破壞されて終ふことは明かである。こゝがプロレタリアの空氣とブルジョアの空氣の差異であろう。

「…:法律は由來支配階級の利益を擁護のために作られたものである。これは吾等が先輩マルクスの喝破したところのもので、吾が勞農ソヴエヰット共和國に於いても、その通りである。勞農ソヴエヰット共和國の法律は、その支配階級たる勞働者と農民の利益をまもるために拵えられてゐる。然らば勞働者及び農民の緊急の利益とは何んであるか。社會革命の完成である。であるから社會革命の完成の途上に防害する反革命家は、これを、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

法律の範圍に於ても重く罰すべき者である。この意味に於いて、この裁判はこれから開廷さるるのである。…………」。

まことにハッキリとした說明である。私はこんなにハッキリとした階級的の立場の宣言を聞いたことがなかつた。檢事に先立つて裁判長が、此裁判の歸結すべき處を明示するのも確かにプロレタリア的でよいと思ふた。

次にクリレンコは檢事總長の立場から、ソヴエキツト法律に依つて告發した由來と、世界の戰鬪的プロレタリアートの審判にゆだねた理由を細かに述べた。丸い五分刈りの頭、ルバシカを無造作に着てゐる革命の元勳クリレンコの手を振り頭を動かしての雄辯の姿は、私に彼の一九一七年の秋の革命的アジテイションを想像せしむるに充分であつた。この勞働出身のクリレンコが、スウエスに亡命中社會主義者なるがために職が求められないで、ポテト袋を背負ふて工場附近の勞働者町をさまようて、やつと生活を續けたと云ふエピソードを思ひ浮べて限りない尊敬の念が私の胸にせまつて來た。

（四）

私の最も驚いたのは、こゝの被告達はペンと云ふを與へられてこれで彼等のある者は一生懸命に檢事總長の演說をノートしてゐるのであつた。また或る者は小さい白い牛乳瓶を口に當てゝラツパ呑みをやつてゐた。ではあるが四十人程の被告席は決して雜踏しくはならない。死が迫つて來てゐるにも拘らずこの虛無黨員達はゆつたりとして檢事總長の言葉の一語すらも聞きのがすまいと耳を傾けてゐた。

――さすがは千軍萬馬の古武者である。テロリズムの勇者として恥かしくない態度であることよ――

私は心の裡に感心してゐた。

街上の雜踏しく絶叫する聲が、入口の戶の開かる度每にもれて聞へてくる。それで大通りには示威運動が進行中であることが知れた。

ブハリンはコンミンタンの陪審官を代表して一場の意見を述べた。

――……この被告には二通りある。第一班は眞に革命精神に燃えてゐたのであつたが、誤れる幹部に導かれて欺かれたものである。第二班は自から革命狀勢を見誤つて、ロシア革命の進展につれて、民衆から遊離し、遂には反動的暴動を演じ、海外の反動的白系ロシア・ブルジョアと手を握るのみならずして、フランス、イギリスのブルジョア政府と共に吾等ソヴエキツト政府を倒崩せんと企てたものである。

第二班の反動的幹部は救ふべからざるものであるが、第一班の被告等はもし社會革命黨の中央委員等がかく裏切者と墮落してゐたことを知つてゐたならば當然脫黨してゐたものと思へる。彼等は今では欺かれたことを知つてゐるに相違ない。この意味に於てコンミンターンは第一班の被告に對して出來得る丈けの辯護をするつもりである。……
……―

と云ふやうな主旨を述べた。

最後に裁判長にさしまねかれて、被告の一人が太い軀をゆすり上げて立つた。滿廷どよめいて來た。さゝやきがこゝかしこに起つた。開廷式に被告の代表が自由に彼等の主張を論ずることを許した法廷はまた世界に類のないことである。彼は社會革命黨の中央委員の一人でゴツチと云ふ者であつた。辯護士が彼の職業であつたらしい。彼はこの場にのぞんでも民衆に對して彼等の立場を辯明す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べく宣傳することを忘れてゐなかつた。彼は太い軀をぐるりと左に廻して、一般聽衆へと呼びかけたのである。語調と朗々たる辯舌はたしかに一黨の首領たる何物かを示してゐた。長く牢獄に呻吟してゐた者とは思へない程に元氣である。法廷は再び水を打つた樣に靜まつた。彼は熱してくると手と顏とで雄辯を補ひながら約三十分も立てつゞけに論じた。ときどき裁判長と檢事總長にくつてかゝる樣な態度を示してゐた。

「……吾等は正義の立場で、ロシア革命の障害となつてゐるボルシェウヰキをのぞくために、黨の傳統に依りテロリズムを決行したまでゝある。吾等の立場はやがてロシア民衆の支持を受くる日の遠くないことを確信する……」

これが結論であつた。彼はどこまでも彼等の行爲を正當視してゐる、革命家として恥じてゐない樣にも思へる。そしてボルシェウヰキを反動と絶叫する。たゞ問題は彼が主張する正義の解釋がなんであるかである。ブルジヨア正義かプロレタリア正義か、この階級的の見解が彼にはハッキリしてゐないらしい。

(五)

私は私のために親切に一々通譯してくれるホルウイッチの言葉を聞きながら色々のことを考へてゐた。

――裏切者になつた虛無黨の首領達も、指導理論の根本的誤謬と、階級的認識の不充分から知らず識らず横道に入つたのであろう。横道であることが意識された時は、ボルシェウヰキに對立してゐるために、愛黨的の「吾が黨精神」に引きづられて横車を押しながら奈落のふちに落ち込むより外に途がなかつたのであろう。怖るべきは理論の誤謬である。つゝしむべきは「吾が黨精神」の誤れる鼓舞である。

――輝ける歷史を有する虛無黨が、ロシア革命のためにテロリズムの幾多の有難き功績を殘した社會革命黨が、ついに收穫の秋に總てを失ふて裏切り者になつて終ふた。

――昔プレハノフがこの理論では將來は「社會反革命黨」となるであろうと、社會革命黨の根本理論の誤謬を喝破してあつた。

こんなことが、くりかへしながら幾度となく私の頭を占領して來た。

初日はこのゴッチの雄辯で幕は降りた。

(六)

街上の大示威運動は軍樂隊を先に立てた幾つかの行列から成つてゐた。すべての行列は勞働組合宮殿の前に足踏みして赤い旗をふり、彼等の要求を絶叫した。そして赤い廣場へと進行して行く。大衆の要求は「プロレタリアの敵を死刑にせよ」であつた。幾つかのワラ人形の大きいのが行列の波の上にたゞようてゐたのが人目を惹いた。リビクネヒト、バンダーヴイルトの馬鹿ヅラの似顏であつた。革命の裏切者のために、恥かしくもなくモスコウへ態々來た珍しい紳士に對する歡迎の意味であつた。

死刑免除の大衆運動はよくヨーロッパにある。しかし「死刑にせよ」と云ふ珍しい要求はたしかに革命的プロレタリアの國でなくては見ることが出來ない

三週間のあとで、第一班の被告は執行猶豫として事實上の解放を與へられ、第二班の被告は全部死刑の宣告を受けたことを知つた。

私は七年前の記憶をたどつてこの一文を綴つた。當時の裁判長ピアタコフは反幹部派の闘將としてロシア共産黨を除名され、ウラルの邊境を流刑の旅にさまようてゐることを最近のモスコウ電報が告げてゐる。彼の如

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き明晰なる頭腦の人は時に利あらずして、流刑の謫に死するとも反動に行くことはないと私は信じてゐる。私は在露中の幾多の經驗のうちで、この革命裁判の一日程、有益で且つ澤山のことを考へさせられたことはなかつた。これに依つて私は階級的正義の實質をハツキリと摑むことが出來た。

少しの根本的理論の誤謬が實踐に於いては、恐るべき程の大きな差違を生むことを讀者諸君が考へてくれればこの讀物の使命は滿足されるのである。（一九二八・四・二）

小鮎と大鮎

石川　千代松

東海道の汽車で西下し、米原又は大津の驛へ停車すると、「琵琶湖名產小鮎の飴煮」と云ふて賣りに來るのを誰れも知らるゝであらう。彼れは琵琶湖に殆んど無數に產するやつと二三寸位の鮎で、古い昔時から小鮎と云ふ名の付いたものである。

總てサケ、マスの類は河川で產卵し、孵化したものは海に下つて生長するが、生殖期に成ると又河川へ溯つて來るのが彼等の本性である。處が其内には孵化したものが河川に計り止まつて居るものがある。斯樣なものは河川で產卵して終生河川にのみ居るので、夫れ等を英語でランド、ロツクド（Land-locked species）された種類と云ふて置く。本邦產普通のものでランド、ロツクされた魚はイワナである。又ヤマメと稱さるものにも夫れがあつて、其内には雄魚丈けがランド、ロツクされ雌魚がさうでなく海へ下るものもあるやうだ。何れにしても斯樣なものは世界中澤山あつて、其内には全くランド、ロツクドされたもの、さうでなく、一部はランド、ロツクされて他の一部はさうでないものもある。今云ふた琵琶湖の小鮎は湖水にランド、ロツクされた一つである。處が玆に面白い事には琵琶湖には此小鮎の他に又大鮎と稱するものがあつて、之れ等は瀨田川を溯つて來たものであると云はれて居たのである。であるから此大鮎と小鮎とは全く違つたものだと思はれて居た。

小鮎と大鮎とは違つたものだとは土地の漁民は無論、水產學者の方でも、大學の先生もジヨルダン博士迄もさう信じて居られたのであつた。

私は明治二十七八年頃に琵琶湖の魚類を少し調べ、其時小鮎はランド、ロツクされたものであると思ひ、其後動物學雜誌に一寸した論文を英語で書いて置いた。處が其後段々調べて見ると琵琶湖の小鮎は同處に居る大鮎又は他の河川に居る大鮎と全く同じものでランド、ロツクされた小鮎は境遇の惡い爲めに彼の樣な小さい形で居るのである事が解つた。即ち小鮎の小ないのは身體上に起つた變化で其生殖細胞迄變つたものでない。

斯樣な考へから私は一方には小鮎の形態を調べたが、又一方には其發達も調べた。處が此二點に於て小鮎と大鮎との間には少しも區別が見られない。

此れ等漁民も水產に關係して居られる學者の方々も中々私の云ふ事を聽かれない。天野川河口に近い處に居る川森幸四郎氏の如きは自分は三四十年も小鮎の漁業をして居るが此小鮎と大鮎と同じものである抔とは夫れは實に可笑しい話だと申し遂此頃迄私に反對したのである。又或る水產の先生は大鮎には首の後に黃色の斑點があるが、小鮎に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は之れがない抔と云はれた。併し之れ等は何れも小鮎と大鮎とは別物であると云ふ一種の迷信から來たので何にも學術上の論據がある譯ではない。

斯樣な考へから私は明治三十六七年頃かと思ふが、小鮎を好都合の池へ入れて充分に餌をやつたらば大きくなると考へ、彦根の試驗場でこれをやつて貰ひ、明治四十二年には西江州稚內分場では池中養殖で一尺位のものを造る事が出來た。夫れと同時に小鮎を好都合の河川へ放流すれば、これも大鮎になると考へ、其試驗をせられん事を滋賀縣試驗場の方々に御話し申したが、其の結果を疑はれて中々行つて見られなかつた。夫れで私は大正二年に自分で今云ふた川森幸四郎氏の所から小鮎を靑梅迄輸送して玉川へ放流したが、其結果は悪かつたと聽いて居たが、藤田榮吉君と同御子息の俊雄君とに依つて夫れが大成効であつた事が證明された。

夫れから大正八年になつて滋賀縣試驗場では始めて天野川の支流に於て放流試驗を施されたが、其結果が非常に良かつたので、夫れから兩三年續けて同じ事を試みられ、其都度良成績を擧げられたので、京都府では漁民が自發的に大正十年頃から之れを行ひ、十四年になつて同府試驗場でも之れを行ふ事となり、其成績は非常に宜いのである。昨年は三重縣でも愛知縣でも之を行ひ、今年の如きは滋賀縣試驗場長川端君から聽いた處では湖水から其目的で輸出する小鮎の數は六百萬以上であるとの事で今後年々此數は增加する計であると。

此小鮎を河川へ放流して大きな鮎を造る事は一方から云ふと昨今水力電氣業の旺盛になるに從ひ、鮎が生長する樣な河川には皆堰堤が設けられ、鮎の溯行を妨ぐる樣になるので堰堤を造る場合には必ず魚梯又は魚道を設置すべしとしてあるが、此魚道又は魚梯が又中々の難物である。夫れに又河口に近い處に種々の工場も出來るので、河川に依り海に下つたものが溯らない樣になつた處も澤山出來た。

斯樣な有樣で見ると、私が始めた此事柄は一方には水力電氣の方にも利益がある。夫れは本邦の如き小國では他の理由で許されない河川は別として、之れを許した以上は出來得る丈電力を使ふのは直接には電氣會社の利益になるのだが間接に云へば日本の爲めになるのだ。であるから、魚梯魚道は有效の場合にのみ之れを設け他の場合では今云ふた樣に小鮎(鮎丈けの事では)を放流するのが最も宜しい譯である。

では放流した小鮎が秋になつて何割位大きくなるかと問ふと今日迄の經驗では一萬の內七千は捕れて居るから先づ七割である。此七割は實に大きな數で、之れを普通一尾の雌魚が產む卵の數が平均七萬であるとすると、夫れが海に出て元の川へ溯つて又產卵する迄になるものが僅か二尾あれば同一の河川に居る鮎の數が變らない事になる。此三千五百分の一と七割とが大した差違である事は述べる迄もないのである。であるから今も云ふ樣に今年は琵琶湖から輸出するものが三百萬尾以上もあるのだ。

又一方には小鮎が斯樣に大きくなるのは、ワイスマン先生の後天的變異が遺傳せないと云ふ事を又新たに證するのである。夫れは小鮎は何年位前から琵琶湖に入つて彼の樣な形で居るのかは一寸分らないが、夫れが餘程久しい前からであるに相違ない。處が夫れが今でも好都合の場處に入れて大鮎となるのは、之れは其變異が全く身體細胞に止ま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて其生殖細胞は元の儘である事が判るのである。

又私が小鮎は必ず大きくなるものであると思つて自分でも其試驗を施し、川端內山の兩君に之れを勸めて前述の如き好結果を得たのも一つは、純粹學術攻究の事實と論說とからである。

ワイスマン先生が一八七〇年頃アカマダラ蝶やメキシコのアキソロートル抔で試驗をせられたのは何にも實用を目的とせられたのではなかつたが、其結論を應用すると、前述の如き滋賀縣に取つては、一つの大きな事業となり、又鮎が溯らなくなつた河川にも元の通り大鮎が捕れる事となつたのである。純粹科學の尊い處は實に玆に存するのである。（終り）

ペーロン

永見 徳太郎

「ペーロン、ペーロン、ゑーえ、よいやさあのさ、〱、〱、……。」

長崎の街で、こう言ふペーロンの掛け聲が、初夏になると、よく聞えて來る。端午節句の祝日には、見物人が、海岸に押かけ、靜かな海面には、一ぱいの客を乘せた無數の艀の中から、「ワア……〱。」と、嵐のやうな賑ひがくりかへされ、その上、銅鑼太鼓が、グアン〱、ドン〱耳を聾するばかりに、鳴り初まると、競漕舟が、吾勝にと波を切る。

ペーロンは、ペイロン。パイロン。ハイロン、ペーロンとも呼ばれ、划龍、扨龍、扒龍、伯龍、白龍、排龍等の文字が使はれて居る。南支那に行はれる競渡船が、此ペーロンと、よく似て居る點より考へて、支那より傳來した事は、爭へない事實で、長崎名勝圖繪の饒田實齋は、

競渡を以屈原を弔するの遺事なりといふは、荊楚歲時記の說なり。寶曆元年辛未唐國漂流の日本人を送來る船主福建省の童天榮、黃福二人應對の說に、划龍（ペーロ）は五月五日にこれを爲す。五十艘ばかりの船を出し、一艘の乘組廿人宛にして、船には龍頭龍尾を拵へ、五色の旗を立、乘組の者は金襴緞子を以身にまとひ、太鼓鑼を打鳴らし、右艫を持て水をかき前後を爭ふ。これを競渡といふ。見物の船より活（イキ）たる鴨（アヒル）を頭罌を詰て押流せば鴨苦みに堪かねかけ出る所を右の船より爭ふてこれを取る。划龍の旨趣は此事を作せば瘟疫流行せずといふ、年々必これあり。廈門より福建の島は皆然りといへり。これに由てみれば屈原を弔する說しひて執すべからざるに似たり。崎陽にてはまたその義を轉じて船神を祭るの式事とすといふ。

說を遺してゐる。楚の惠王に追放された太夫屈原は、その年の五月五日、湘南汨羅の入江に身を投じたのであつた。村人は狼狽して、艪も櫂もつけるひまなく、板子や手を以て水を掻分、爭ふて屈原を救はんとしたが、彼は讒言を歎き死んでしまつたのである。その靈を弔ふ意味に於て、此日に、每年、舟を漕ぎ競ひ、又供物として、粽を拵へたとも傳へられるが長崎のペーロンは、端午節句のお祝、水神さまのお祭りとして催ふすのであつた。

明曆元年、唐船四十五艘が入港した時、暴風や洪水が激しかつたので、滯留中の唐人達

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、海神・風神を祭り、此競漕をしたのが、その源をなした様である。

寛文、延寶をへて、元祿を中心に、享保時代に於て全盛期を見せたが、何時の頃より舊暦五月五日の催しものとするやうになつたかは分らない。文化前後には、例の戒飭令で、屢々その筋の干涉や禁止を喰た。後には、長崎港外の漁村から、競漕舟が出る様になつた。

南支那は、南洋諸島に近い土地である事を、忘れてはならぬ。南洋では、ペーロンに似た原始的な獨木舟がある。その根源を辿れば、或は熱國のものではなかろうかとも思はれる。南方支那沿岸で此種のものが發達した譯は、日本から海を壓して襲ひ來つた八幡船や、其地方の海賊の防備に迫られ、小艇操縦の練習上、これを行つたものと思はれる。琉球でも、此ペーロンに似た爬龍舟がある。

爬龍舟は、琉球の端午節句である四日(舊五月四日)の催しもので、支那から册封使渡來の時にも、餘興としたのである。糸滿や那覇がその本場で、ことに那覇は盛んである。泊・久米・若狹町では、各一艘を出し、選手達は生命がけで、水盃をくみ交はし意氣揚々と舟に乘こむ。

久米村は、明の洪武二十五年、文學指導の任を帶び來り歸化せる閔氏の子孫のみが、一部落をなしたので、琉球士人と風俗を全々異にして居る。舟の人達は、海岸を離れる時より出發點までの間を、とても悲哀な爬龍舟歌を謠つて漕いでゆく。競漕は那覇港より豐見城跡までで、此城主である安司が、父の攀安治と母を慰める爲に催したのが、起源であると傳へられてゐる。久米の歌は、支那語であるからよく分らない。

泊の歌

之れまでがやゆら、またいちえがしやびら、きゆの出立や定めぐりしや。

註　これまでであるか、また行逢ひませうか? 今日の出立は定め苦しい。

若狹町の歌

波のくいんとまれ、風の音もとまれ、首里天下　様、にゆんち、うがま。

註　波の聲止れ、風の音止れ、首里天子さま、御機嫌、拜む。

爬龍舟の形は、龍身に象り、村の大旗をたて、銅鑼をたたき、漕手の鉢卷姿等、ペーロン舟によく似て居る。その銅鑼の音度に依つて舟の速力は、緩急がはかられる。

此爬龍舟の日には、大和(薩摩)の役人を棧敷に招請する事が習慣となつてゐた。

長崎のペーロン舟の種類には、大舟や小舟があり、小さい方には、十三四歳の少年選手が乘る小競船もある。ペーロンの初期時代には、此特種の舟があつた譯ではなく、輕快な鯨船を使用して居た。後、鯨船の構造を基礎として、ペーロン舟が現はれて來た。

ペーロンは五月節句の當日と、裏節句に催されるので、その定日には、朝五ッの頃(午前八時)より競渡が始まり、薄暮に止む。競渡二艘の場合には、二艘セリと言はれ、その他三艘セリ、四艘セリがある。競漕の火蓋が切られると、紙采配又は幣を、采配振がサット打振のを合圖に、太鼓・銅鑼が響きわたり、楫取は、楫の旋回に身を委ねる。漕手は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一齊に櫂を取り、シッ、〳〵、〳〵と、自慢の腕を動かす。ペーロン、ペーロン、エッと叫ぶ采配振の聲が、ペロンペロンペロン、エッと早くなると、支那風の色彩濃き舟は、龍の如く百足の如く、蕪地に波を蹴り、舟の人達は海水を頭に浴びて數尺を爭ふ。

昔の選手達は、緋縮緬(ヒヂリメン)の襦袢に白縮緬(シロチリメン)の、襷をかけ、頭には、手拭の鉢まき……今では、白シャツに木綿の三尺、向ふ鉢卷といふ輕裝で、流汗淋漓としたその姿は、寔に勇ましくも、華やかに見える。

勝負に參加するのは、海手の町を始め、長崎に近い浦々の船津・馬込(マゴメ)・大浦・戸町・小ヶ倉・稻佐・小瀨戸・茂木等の人達。現代では、市内の者はあまり見受ない。

乘組人數は、舟の長さに差のある事は勿論で、舟の長さは、十五尋・二十尋・二十五尋・三十五尋を越すのもあつて、二三十人より六七十人が乘れる。何れの舟も輕快を主眼として、幅を狹く、吃水を鋭く作られてゐる。

競漕場所は、大黑町の濱邊から、港の入口迄。港外木鉢(キバチ)より高鉾島(タカボコ)までが、普通であつたが、大舟の時には、三四里も沖へ漕出したことがあつた。舊幕時代、一時港内での催しを禁じた事もある。

月桂冠を獲た勝舟の人達は、酒樽・肴を贈つた知人の家に、町印(シルシ)・浦印(シルシ)の旗を押立、銅鑼・太鼓を鳴らして廻禮に行く。

その日の海上には、遊參船に赤毛氈を敷き、愛妓を擁して見物する大盡、贔屓〳〵の聲援等で、大賑ひを呈す光景は、長崎ならでは、見る事の出來ないものであらう。俠客跋扈時代には、血の雨降らした大喧嘩が絶へなかつた。

寛政十二年の時には、晴の勝負に、本五島町と深堀船との競漕があつた。勝敗の決せぬ前に、深堀船は、本五島町船の進路を横ぎつたので、舟は見る間に衝突し、怒つた本五島町連中は、相手の船に飛移つて、大爭鬪の揚句、深堀方は二人の水死者と、負傷者を出し、遠島、市中郷中拂、叱責等の刑をうけた者が、双方で百餘人も數へられ、その上、氣の毒なのは、本五島町乙名・町組頭二名は、町内の者共へ能く訓諭しおく可き事を閑却した爲めといふ理由で、それ〳〵の刑罰をうけた事である。

「どう、好大氣(ヨカ)じやろか。小瀨戸舟が早かバイ、そうら見まつせ、一番先になつたケン。」から言ふ風に、長崎人が無中になるのは、今も昔も變りはない。

ことに、長崎から一里半餘隔つた茂木は、一番盛んな土地柄で、茂木の名物に過ぎたるものは、枇杷に一香口(イッコッコ)（菓子の名）にペーロンの三つと數へられる位である。三つに分れた濱の中では、その競漕に負けた組は、勝つた方から罵倒され、女房子供に至るまで、仇同志の意地が手傳ひ、「ぴやーろんに勝(カテ)よ。」と大聲あげて、熱狂する有さまが、眞劍味を含んでゐる。茂木や諫早方面では、ぴやーろんと言ふ。

ペーロンの影響か、陸の遊戲にも及んで、陸(オカ)ペーロンと言ふのが起つて、初めは少年のみであつたが、次第に大人も交り、ペーロン船に擬へ、四五寸廻りの青竹を二間計りに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て翩となし、紅木綿幟、三角の大旗を拵へ此彩紙小旗を數百作り、「劍旗」と名附、これに參加する者は、赤繪具で顏を彩り、頭に疊紙を結び、雀笠といふ蘭で作つた小さな編笠を被り、大旗小旗を押立て、銅鑼太鼓を打鳴し、「セロウワタイ、〳〵。」（競爭する者は來れ。」と叫び乍ら、町々を練り歩き、競爭する一團を見附ては、出發點、決勝點を定め、年齡・背の長短の順を選び、一組宛の選手がヘピーを出して馳け、勝つた方がその劍旗を取る。

「セロウワタイ。」は後に、「セーラエンヤ。」と呼ぶやうになつた。セーラエンヤとは、競爭が出來ないか？ の方言であつたから、陸ペーロンは、セーラエンとも稱された。

海に競ふペーロンが、東洋獨特のボートレースの開祖であつて、又陸ペーロンのセーラエンヤが、マラソン競爭に似た先驅であつた事は、面白い。

セーラエンヤは、明治三十年頃で廢絕したが、ペーロンは、今でも、盛大な年中行事の役目のやうになつてゐる。

人造人間机上論

高田義一郎

米人ウエンスレー氏に依つて造られたテレボックス」と稱せられる電氣仕掛の機械製の人間は、胴體の中にいろ〳〵の裝置があつて、上部には顏の形までつけてあり、よく發明者の命ずるがまゝに、掃除をしたり電話をかけたり、或は電燈のスイッチをひねつたりして、非常に便利な者であると云ふ。現に本年二月二十二日の初代大統領ワシントン記念日には、ニューヨークで開催せられた晩餐會の席上で、ワシントンの肖像の除幕をして見せたといふ話であるが、それは血液の通はない人造人間の事で、私達門外漢の容喙し得ない所であるのみならず、少々人間味に乏しいのを遺憾に思はせられるのである。何とかして血の通つた普通の人間を例へば、孵卵器で鳥を卵からかへす樣な工合に、人造する工夫は有るまいかと、考へさせられてならない。

人間が若しも鳥類や魚類の如く卵生であつたならば、人工孵化は何でもないが、人類を卵生させることは、先づ難事中の難事であらう。胎兒をカンガルーの如き有袋類程度に、未熟の間に生んで、之を現在小兒科醫の使用して居るクベーズといふ小箱形の溫室內で、母胎內のかはりをさせて居る位を、人間人造の實現されて居るものと認めなければならないのは、餘りに心細い次第である。

しかし人體を組織するいろ〳〵の細胞の、體外培養が行はれて居る式に、精蟲と卵子との合一した卵細胞を發育させて、之に胎兒が母胎內で供給されるのに類似した榮養を供給することは、幾十年かの後に出來ない事ではないと信じる。それが出來れば血の通つた人間の人造は、完成するわけである。現在、人工生殖の必要上、精蟲を體外に生存させる硏究をして、一週間以內ならば何處へでも郵送して、夫の不在中に夫の子を造り得る事實は、もう一歩を進めて、妻の存在をも不必要とする域に進めたいと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

法律上、「私生子」といふのは所謂「てゝなし子」であつて、私に云はせれば私生の意義に適合したものではない。父も母も存在せずに、第三者たる局外の學者の手に依つて出來上つて、「官製はがき」に對する「私製はがき」式に出來る「私製子(しせい)」にして、創めて本當に名實共に「私生子」と呼ばるべき資格を具備するわけである。私生子を人造人間の異名とする時代の遂に來らんことを私は切望して止まないものである。

性に關する研究が、問題の性質上、人類に就て實驗し得ないことは、之を動物實驗の推定に止まらしめるけれども、モルモット等の動物で睾丸を、取出してしまう事に依つて、男性を女性化せしむるに十分であるし、更に雌の卵巣を取つて之に睾丸を移植し、又反對に雄の睾丸を取つて、之に卵巣を移植することに依つて、雌を男性的にしたり、雄を女性的にしたりすることも容易である。之は畢竟睾丸なり卵巣なりから分泌せられるホルモンの作用なのであるから、之を人類に及ぼして同一の結果を得られることは勿論であらうが、同時に又一歩を進めて、睾丸を有する者に卵巣を移植し、又卵巣を有する者に睾丸を移植するのみで、男性或は女性のホルモンの作用を中和して、性的衝動を沈靜させることも亦可能でなければならない。之を醫學的禁慾手術として、色情狂者の取締に利用する等も面白からう。要するに人造人間の部分的事業として、現今に於ても男女の性的特長を、人工的に變換することは、可能であるといふのである。

人間胎生の間に、如何して男女兩性の別が出來るかは未定の問題であるが、姙娠中の母の營養の如何に依るといふ説等を考へれば、或は男女の性を、姙娠の初期に於て任意に定めることは可能になるであらう。男子がほしい人もあれば、女子を望む人もあるし、子供自身も男女の如何に依つて待遇に大差を生ずるのであつて、之だけでも人造出來れば、社會に及ぼす所が至大であらう。又それが出來ないにしても、出生の始めに於て、前段の如く睾丸と卵巣を入れ替えて、それ〴〵性の異る教育を施したならば、餘程精巧な人造の男性や女性が出來るであらう。少くとも成長後の附け燒刄とは同日の談でないこと、勿論である。

人間人造の問題は、部分的としても面白いのみならず、その應用も廣く、利益も大きいものである。況んや根本からの人造に於てをやであらう。金持の道樂に、一つこんな研究室でも建てゝはどうか、八々に球つきに藝者ばかりでは、道樂にしてもあまりに古過ぎはしないか。あまりに考が無さすぎるとは思はないか。

ヨッフエ自殺事件後聞

大竹博吉

「ヨッフエが短銃自殺をした」――といふ新聞電報は、日本でも可なりなセンセーションとして取扱はれた。それから、「中央公論」

と『改造』の四月號に、トロッキーに宛てた『ヨッフェの遺書』が譯載された。一讀、痛ましいやうな、感傷的な印象をあたへるものであつた。殊に、その遺書はたゞちに幹部派の手に押收され、隱匿されたが、ヨッフェ自身この事あるを感じて秘かに國外の同志にそれの寫しを送つておいたので、その方から世間に傳はつた——といふ意味の前書(まへがき)によつて、この遺書は讀む者に一層センチメンタルな感じを與へた。

ヨッフェの自殺と遺書は、ソヴエト聯邦共產黨反幹部派から可なりに利用された形がある。共產黨中央統制委員會の書記長ヤロスラヴスキーは論文『頽廢哲學』の中で『トロッキー派は精神的頽廢によるヨッフェの自殺と遺書を政治的投機の材料につかつてゐる』と評してゐる。それから『ヨッフエの遺書は直ちに共產黨中央委員と中央統制委員の全體に配付された』とも言つてゐる。事實、共產黨の機關誌『ボリシヴイク』の十二月號には、『ヨッフエの遺書』は、公表されてゐる。

反幹部派はヨッフエの自殺事件に關連して幹部攻擊の火の手をあげやうとした。この點で、國内の反幹部派と國外の反幹部派とは手を携へてヨッフエの自殺を問題にしてゐる。昨年十一月十六日と廿四日にヨッフエ自殺問題に關する『論爭材料』なる秘密印刷物がモスクワの反幹部派の秘密印刷所で印刷、配布された。同時に曾てドイツ共產黨を除名されたマスロフ派の機關紙や、フランス共產黨内の反幹部派の機關紙トレナでもヨッフエの遺書が載せられ、ヨッフエ自殺事件は幹部攻擊の材料にされ、ヨッフエの死は幹部派の最近の態度にたいする抗議だと強調された。十一月十六日の反幹部派の秘密出版物には次のやうな一節がある。

『ヨッフエの自殺、——それは社會的頽廢や悲觀主義の現はれではない。もしも我が逝ける同志が勞働階級の黨を信ぜず我々の未來を信じないとしたら、單に彼のもとに闘爭の力が無くなつたといふ理由だけで彼は自分の生命を絕ちはしなかつたらう。ヨッフエは個人の利益ではなく階級の利益を何物よりも重しとする革命家だけが死んで行くやうに、死んだのだ。ヨッフエは死をもつて、彼の爲し得なかつた未來の闘爭に向つて他の人々を召集するために死んだのだ、それは惰眠と現狀偸安との危險にたいする決然たる抗議だ。かうした彼の死は、戰士のうちに頽廢主義や悲觀主義を喚び起すものではなく、反對に、刺激をあたへ、鼓舞をあたへ、前進に向つて召集するものだ。ヨッフエは死の瞬間にも旗を放棄せず、レニン主義の旗のため、共產主義の旗のため、偉大なる國際的プロタリアートの事業のために、古い旗のもとに死んで行つたのだ。さうだ、ヨッフエの旗、——それはマルクスとレニンの旗だ。……我々はこの旗を捧げて前進しやう。この旗を最後まで捧げて行かう』

だが、幹部派はヨッフエの死をもつて、共產黨員らしからざる、頽廢主義の現はれとして批判してゐる。この不幸なる病者の死を政治的投機に利用しやうとする反幹部派の行動を『左翼的言辭と——右翼的行動』——ト

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ロツキストの行動の特長だとして排撃してゐる。

ヨツフエが自殺するまでの、最近の彼の病狀や生活狀態はどんなものであつたらう？それは彼の自殺の眞實をもつとも正直に語るものであらう。彼の主治醫を加へた共產黨中央委員會附醫務委員會は、次のやうなヨツフエの病歷と治療の經過とを公表してゐる。

× × ×

『同志ヨツフエは一九二三年に重病人として日本からモスクワに運ばれ、直ちにモスクワ郊外の『ボクロフスコ・ストレシネヴオ』精神病療養所に入院した。彼の病症の根本をなせるは、强度のモルヒネ中毒と、いはゆるコルサコフスキー精神病であつた。

『同志ヨツフエは一九二二年に滿洲において或る傳染病に罹り約十日間それが繼續したが、その豫後として起つた强度の神經痛にたいし、最初支那において、次で日本において一年半にわたり治療を加へた。治療の手段として疼痛を除くために阿片とモルヒネとを服用した。治療に際し同志ヨツフエは一晝夜二グラムに達するモルヒネの服用をした。神經痛は治癒せざるのみか、モルヒネ中毒と錯覺症を伴ふコルサコフスキー精神病に罹れる同志ヨツフエは、モスクワ郊外の療養所において治療後、急激なる精神病症は治癒したが、種々治療の方法を講じたにかゝはらずモルヒネ中毒は全治しなかつた。

『モスクワ到着以來、同志ヨツフエは療養所及びクレムリン病院において專門家を主治醫として充分なる手當をうけた。

『同志ヨツフエは病中一再ならずクレムリン病院に入院し、その上、一度は彼の希望により一般の規則を曲げて彼の妻と幼兒とを病院内に同棲せしめた。

『醫養委員會は一九二四―五年と一九二七年に、主としてウインナのアドラー博士の治療をうけるため各三、四ヶ月づつヨツフエを外國に送つた。一九二六年には妻と共にクリミヤ半島へ療養に赴いた。

『同志ヨツフエのために在外療養費として一九二四年―一九二七年の間に支出された費用は二萬六千留である。

『上述のごとく同志ヨツフエの根本的病症は强度のモルヒネ中毒である。他の症候の多くは之によつて起つた副作用であつた。

『モルヒネ中毒の治療は病院内において充分嚴格なる監督と共に行はれる治療でないかぎり全治困難なるものであり、最近のヨツフエの海外治療の結果は少しも良好なる結果を見るを得なかつた。そのため遂に國內において充分に治療を加へるといふ問題が起り、各方面の醫師が協議會を開いた結果、クレムリン病院内において專門家の嚴格なる監督のもとに治療を行ふに決し、同志ヨツフエの同意を求むる事となつた。この醫師協議會の決定は、同志ヨツフエの自殺により實行されるに至らなかつた。

× × ×

それから醫務委員會は、ヨツフエが遺書のうちで訴へてゐる――最近ではクレムリン藥局から醫藥を貰ふことすら出來ずに市中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の藥店で藥を買はねばならなかつた。――といふ點について次のやうに公表してゐる。

× × ×

『同志ヨッフェは醫師であつたので、常に主治醫の處方もクレムリン病院長や中央委員會醫務局の許可もなしにクレムリン藥局からヨッフェ自身の處方によつて藥品を與へられてゐた。然るに同志ヨッフェは最近異常に多量の劇藥(モルヒネ)を含む處方を出しはじめたので病院は共産黨中央委員會醫務局に注意をあたへ、中央委員會は主治醫の處方によつてのみ藥品を與へるといふ命令を出すに至つた。勿論劇藥を含まざる他の醫藥は制限なしに彼に與へられてゐた。

『最後に指摘せねばならぬことは、モルヒネ中毒症の豫後患者の生命は多くの場合甚だ望み少なき狀態におかれるといふことである。モルヒネの害が繼續する時は、强度の衰弱に陷り、早晩死に到らしめるものである。或る患者のもとでは精神的頽廢が起り、自殺に導かれること往々である。

× × ×

ヨッフェの自殺の原因は、果して彼の遺書にあるやうに黨幹部の壓迫や、反幹部派の人人が宣揚するやうに、黨の惰眠や現狀偸安にたいする抗議であり、未來の闘爭に向つて他の人々を召集するための死であつたらうか? 幹部派のヤロスラウスキーは次のやうに言つてゐる。

『同志ヨッフェは數年間病氣に惱んでゐた。その病氣は短氣になり怒りつぽくなるばかりか、周圍の人々の態度にたいする正當な判斷を缺くやうになる特徵をもつてゐる。ヨッフェの場合、黨が彼にたいして冷淡だといふ訴へとなつてそれが現はれたのだ』

またヤロスラウスキーは次のやうにも言つてゐる。

『このやうなことを數へ立てるのは悲しいことだ。然し黨がヨッフェの治療のために一千留を吝んだ、と言つて黨を攻擊するのは卑劣だ。ヨッフェの海外治療のために支出された三萬六千留は、今の國家の經濟狀態としては格外の支出だ。ヨッフェは、「革命は私の生活を奪つた」と訴へてゐる。なる程ヨッフェは革命前までは富裕であつた。然し、それを以て「革命は私の生活を奪つた」と訴へるのはプロレタリア的でない。小ブルジョア的不平だ。「黨は俺を壓迫する」――これは反對派の口癖だ。ヨッフェは「黨は反對派分子に仕事を與へないし、私にたいしても最大限の力を盡しうるやうな仕事を與へない」と言つてゐる。しかしそれは噓だ。第十五大會まで(一九二七年末)、つまり反對派が反ソヴェト的、反黨的行動を露骨に現はすまで(黨に反對するために秘密印刷所を設け、街頭示威運動を起し、ヨッフェの盡力のもとに反ソヴエト的、反黨的運動を援助するための秘密機關『赤十字』が組織されるまで)黨は反對派に二つの人民委員(スミルノフとペロボロードフ)の椅子をさへ與へてゐた』

× × ×

ヨッフェの自殺は痛ましい。殊にその自殺の遠因が、彼が日本に來て日露豫備交涉のために惡戰苦闘してゐた時代、多量のモルヒネを服用しつゝ病を押して働いたことにあるのを思へば一しほ同情が湧く。けれども彼の遺書を注意ぶかく讀む時は、暗い『モヒ中毒患者の不平』がありありと見える。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

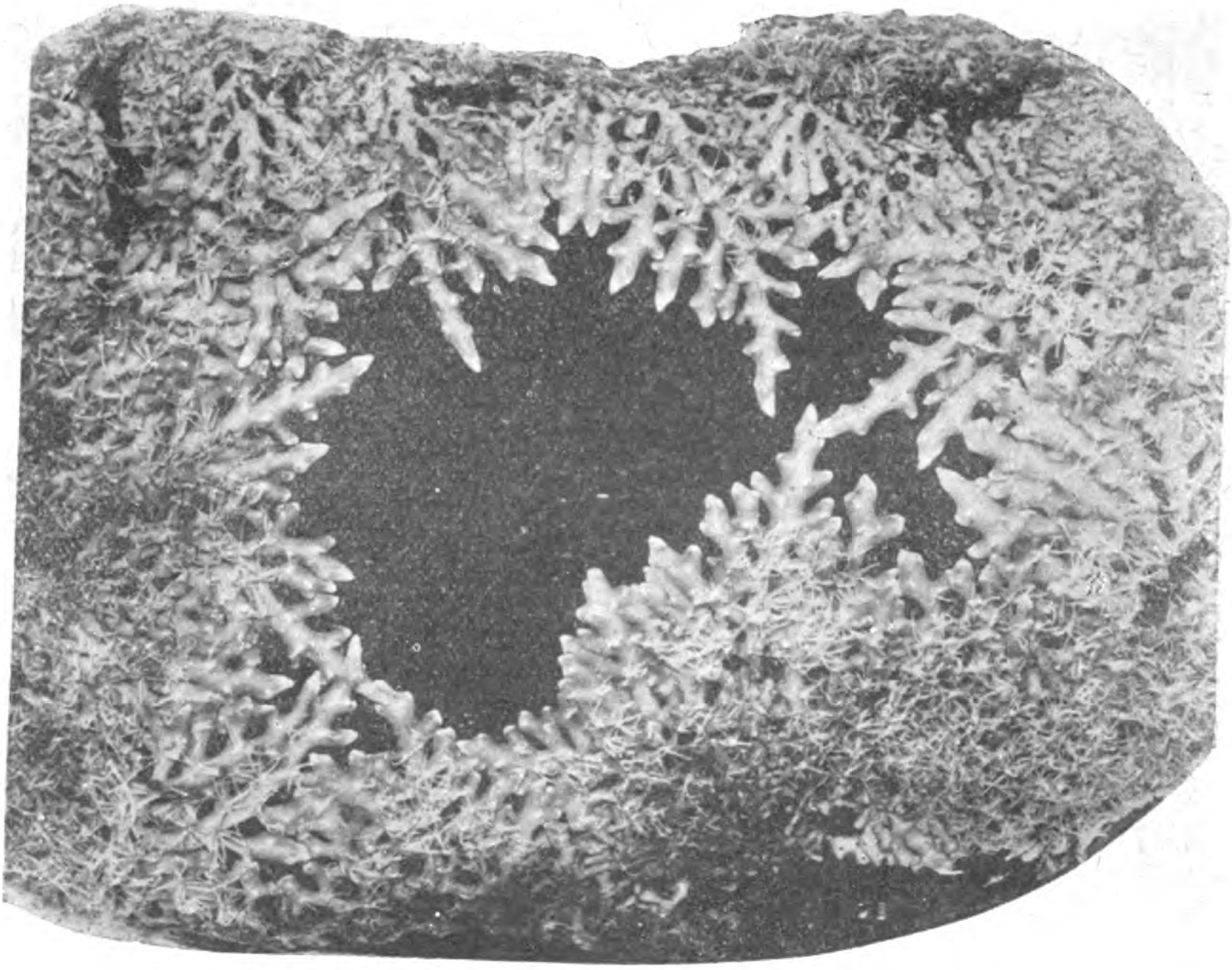


文身藝術

高田義一郎

文身の現代に行はれて居るものは、外觀上三つに大別される。第一は未開國民間に行はれる單調で、別に意味のない裝飾的のもので、一種の模樣に過ぎない(圖A參照)。第二は日本の文身で、大きな連續した繪畫である(圖B參照)。第三は前二者の中間に位すべき歐米の文身で、單一なる小さな繪畫の集合である(圖C參照)。歐米のものには大きい繪は少く、キリストの最後の晩餐を描いたD圖の如きは異例である。しかし日本のものも、近年漸く歐米化して、小繪畫の集合になりかける風があるのは歎はしいことである。日本の文身は、單にその技巧のみならず、圖柄に於ても世界的のもので、立派な一藝術であらうと考へる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



カハゴケサウの夏の形——丸石に着生したもの（自然大）

カハゴケサウ

郡場　寛

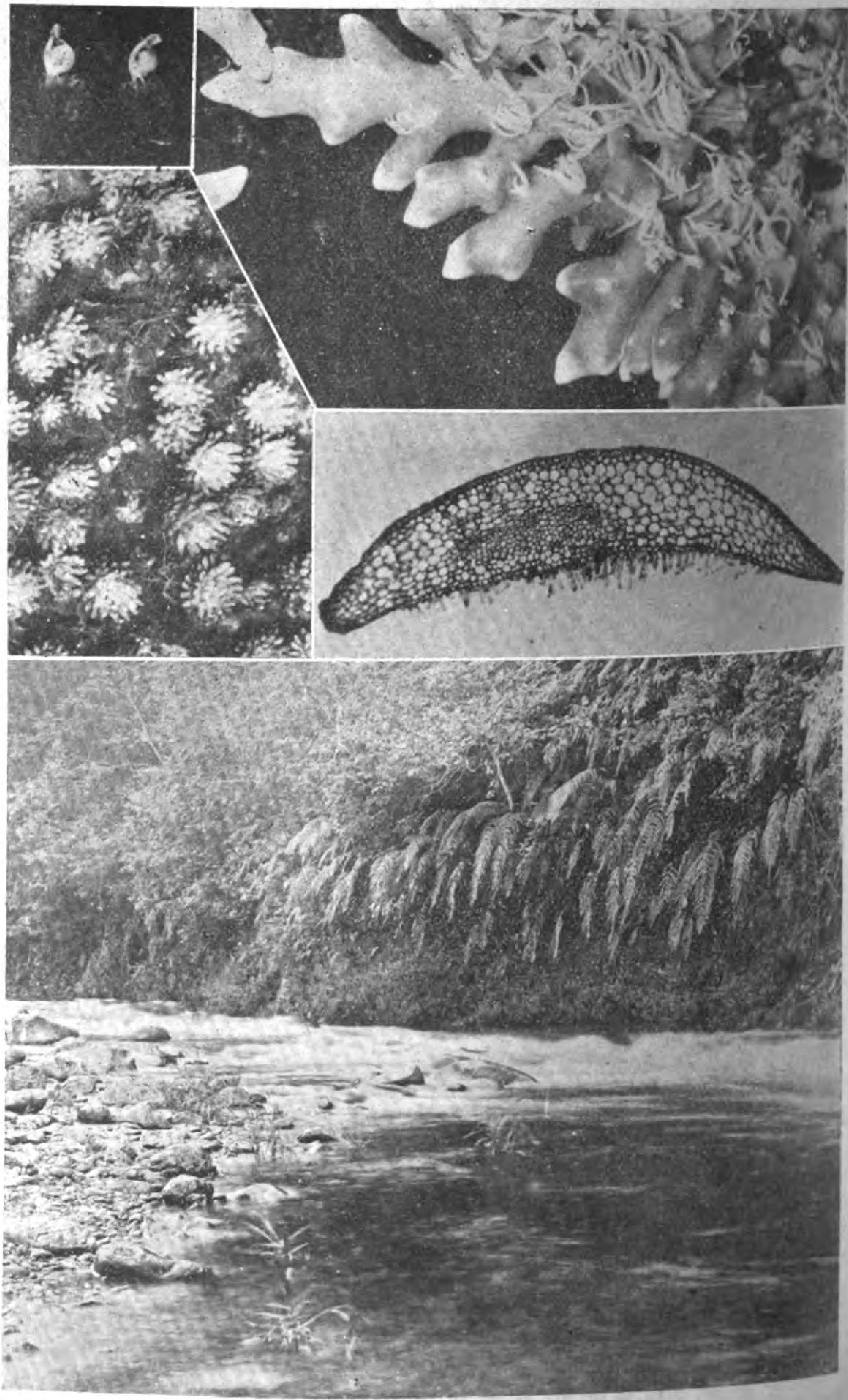
カハゴケサウは理學士今村駿一郎氏が昭和二年八月鹿兒島縣川内（センダイ）川の中流域で發見した新植物である。此科の植物は主として熱帶産であつて、我國迄分布して居ることは此發見に由り初て知られたのである。何れも皆急流の岩石に着生して生活し、顯花植物でありながら藻地衣苔蘚などに似た形のものが多い。

カハゴケサウは根が扁平綠色で根毛に依り岩面に密着して伸び擴がる。其表面には澤山の小さな芽が出來、夏の間は其から細い葉を散生して居るが、秋になると其上に澤山の鱗葉を密生するので外觀が全く變はり丁度短い蘚が簇生して居る樣に見える。其各先端の苞内に一花を生じ、花は無花被一雌蘂一雄蘂で澤山の微小な種子がある。

カハゴケサウは水深一尺秒速二三尺位の急流で最良く育ち、水が深いか流の遲い所では川ごみや藻の類が殖えるので發育が妨げられ遂には無くなる。丸石に着生したものでは流に向つた側面に良く育つ。冬になると大部分枯れて見えなくなり五月頃から又伸び出して來る。然し同年十月同縣萬瀬（マノセ）川で土井美夫氏により發見せられた種類は殆ど常綠である。

將來我國諸地方に此類の植物が益々廣く見出されて來ることゝ思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



花（三倍）

夏の形（三倍）

秋の形（三倍）

根の横斷（擴大）

（今村駿一郎氏撮影）

カハゴケサウの一産地（鹿兒島縣薩摩郡山崎村久富木川）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



（悲しい顔）



（平靜な顔）



（泣いた顔）



（笑つた顔）



（感激した顔）



（怒つた顔）

チンパンヂイの感情の表現

石川千代松

此寫眞もコーツ夫人が長い間イオニイを研究中に得たものであるが、其說明は顔の横に一々書いてある。卽ち上の左が平心の時、其右が悲しみ、中の左が笑ひ、其右が泣く時、下の左が怒りで、其右が感激である。

人間と動物の表情については、今迄隨分多く研究せられ、文献も仲々ある樣だが、ダーウヰンは彼の有名な『人間とサルの感情の表現』に下の樣な事を云ふて居る。『サルの多くの種又は屬のものは其感情を違つた仕方で表現するが、これが興味のある事は、人間の所謂種族と云ふものが、別々の種又は變種として見るべきものであるか否かである。后の章に說く樣に、人間の違つた種族は世界中何れも皆其の情緒や感覺を驚くべき程同じ樣に表現する。それに又サルの表情が今一つ面白い事は、其あるものが人間のそれに大層能く似て居る事である』と。

ダーウヰンの此のサルと人間の表情が能く似て居ると云ふ事は、此寫眞と自分の顔を鏡で見て、較べて見れば誰にも御判りになるだらう。少くとも、私は此チンパンヂイの寫眞に酷似して居る樣である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ラヂギン・コーツ夫人のチンパンヂイの視覺試驗

石川千代松



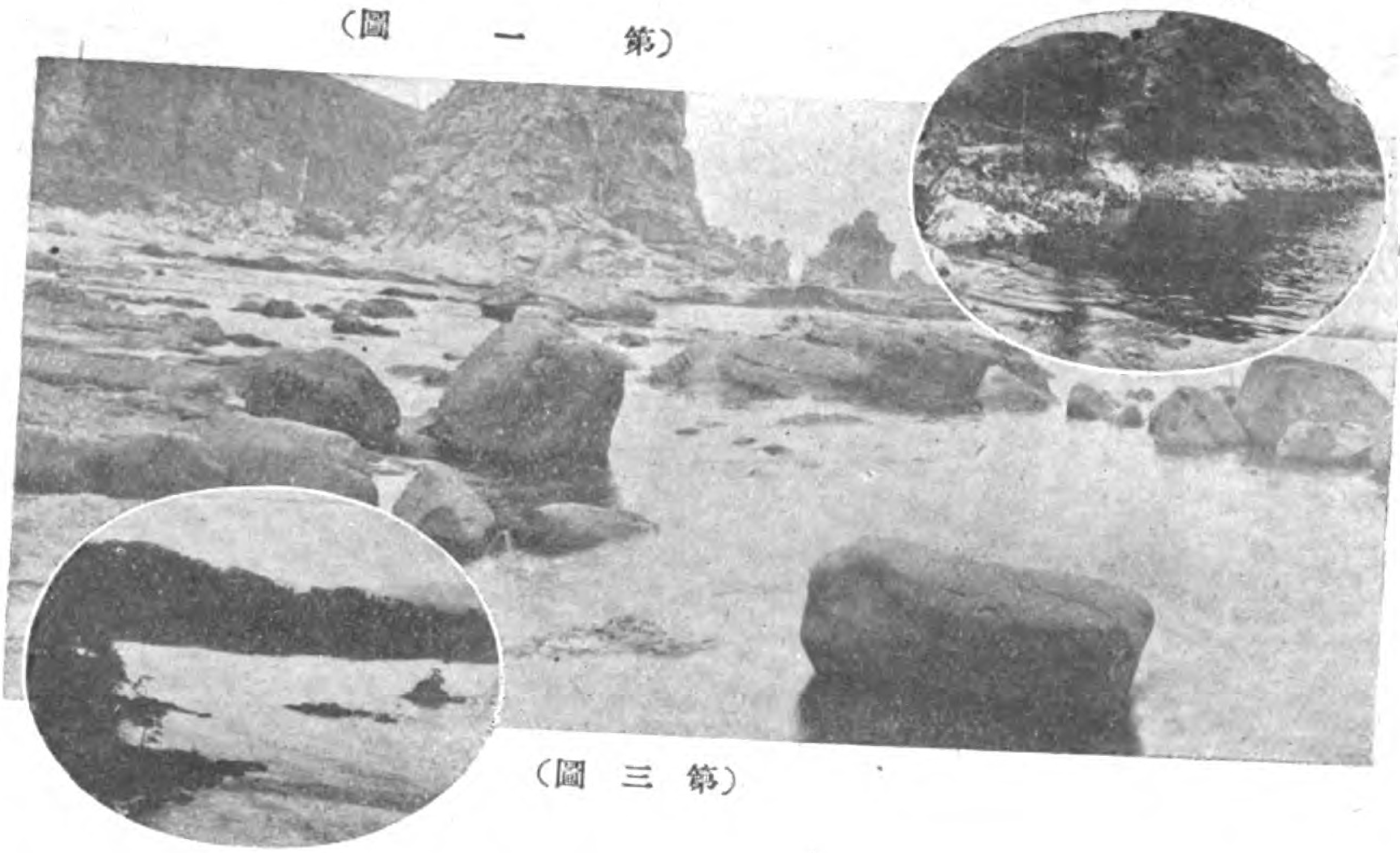
トーマス・ヘンリー・ハックスレーが『自然に於ける人類の位置』を書いてから、今年は丁度六十五年になるが、當時は人間がサルに近いと云ふた計りでも反對したものであつた。處が其后ジャワの猿人が發見せられ、ハイデルベルグ人其他色々の化石が出て來たので、今日これを疑ふものは狂人の外にはない様になつた。*



*若しさうであると、人間に近い即ち我々と同じ先祖を持つ類人猿が精神上幾等位人間に似る所があるかを研究する人が澤山出て來た。玆に出した寫眞も其一つで、露國モスコーで大戰中イオニイと云ふ若いチンパンヂイに試驗をして居るものである。

此試驗はサルに着色した紙片、又は木片を見せ其種類、光輝、着色した物の形、大いさ、並びに數を凡そ數へた后、サルを自分の前に坐らせ、これ等の物を命令に依つてサルが取り、試驗者の手に渡させるのである。コーツ夫人の此試驗は大層委しいもので、僅かの紙數でこれを説明する事は出來ないが、それを報告したヤークス教授は、『短かく云ふとコーツ夫人はチンパンヂイの視覺が大體に於て人間のそれと能く似て居る事を證明したと思つて居られる』と云ふて居る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



（第四圖）

（第一圖）

（第三圖）

地震前徴たる地形變動

今村明恒

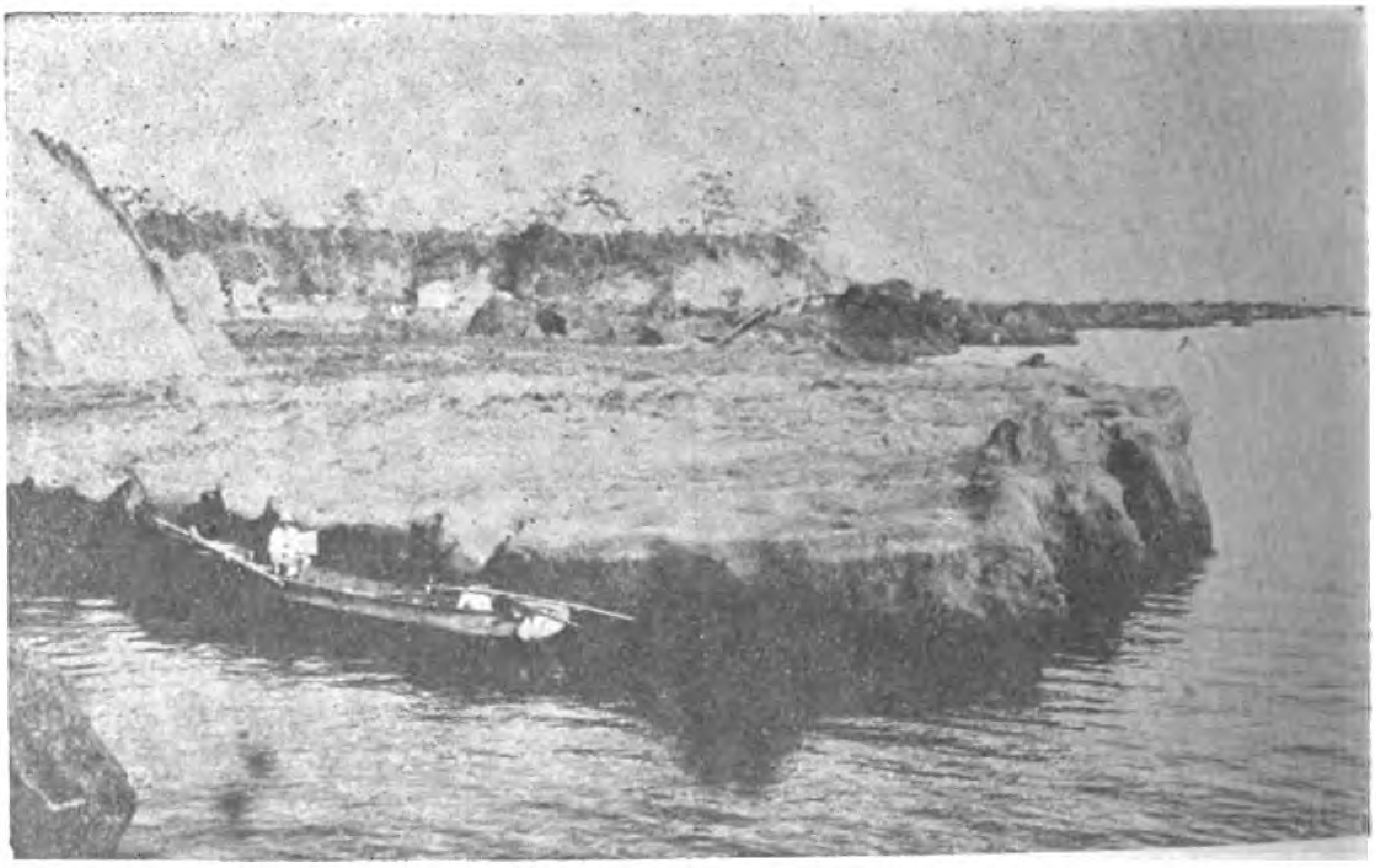
概して地震の起る前には、局部の地盤が隆起、沈下或は傾斜などの地形變動をなすものらしく、此變動は一時的のものもあり又其儘永久に殘るものもある。寫眞は何れも斯樣な經歷を有する場處を示して居る。即ち**第一圖**は寛政四年十二月二十八日津輕大地震に關係するものであつて、此日沿岸地方は早朝から隆起すること最大二米程であつたが、晝過ぎに大地震となつた。寫眞の場處は大戶瀨小戶瀨と名づけて、二見浦の樣な海上の絕景であつたが、其時以來、陸上のものとなつた。**第二圖**は享和二年十一月十五日佐渡小木の大地震に關係するものであつて、此時も隆起は早朝から起り、碇船中の船は海底に膠着してしまつたが、午後一時頃大地震が起り、小木の町は丸燒けになつた。其時の隆起は四尺程であつたが、現在も其儘である。**第三圖**は明治五年二月六日の濱田大地震に關係するものであつて、海上の小嶼は濱田浦の鶴島である。此時の地震は午後五時頃に起つたが、其三十分前に、地盤二米程隆起の爲め海水は鶴島の根元まで引去り、漁者は魚や鮑を手取りにしたといふ。又**第四圖**は昨年三月七日丹後大地震に關係し、夕日港に於ける地盤隆起を示すものであるが、之に接した沿岸に於て、前二時間半に一米程の陸地隆起を認めた。

此等の變動は何れも日本海沿岸の大地震に關係して居るが、これは此海の水面が一日中殆んど同じ高さを有して居る爲めに、斯く認めるに好都合であつたのである。若し特別な方法を以てすれば、內陸に起つた地震にも斯樣な變動が認められる。**第五圖**は昨年十月二十七日越後長岡の西方關原に起つた局部强震の區域を示して居るが、明治二十七年、昭和二年七月、同十一月に於ける三回の精密水準測量によつて、小圖に示した通り、局部一里程の地域に於て二糎程の隆起が地震と共に起つたのみならず、地震前にも隆起が全く同樣に進行しつゝあつたことが明かになつた。

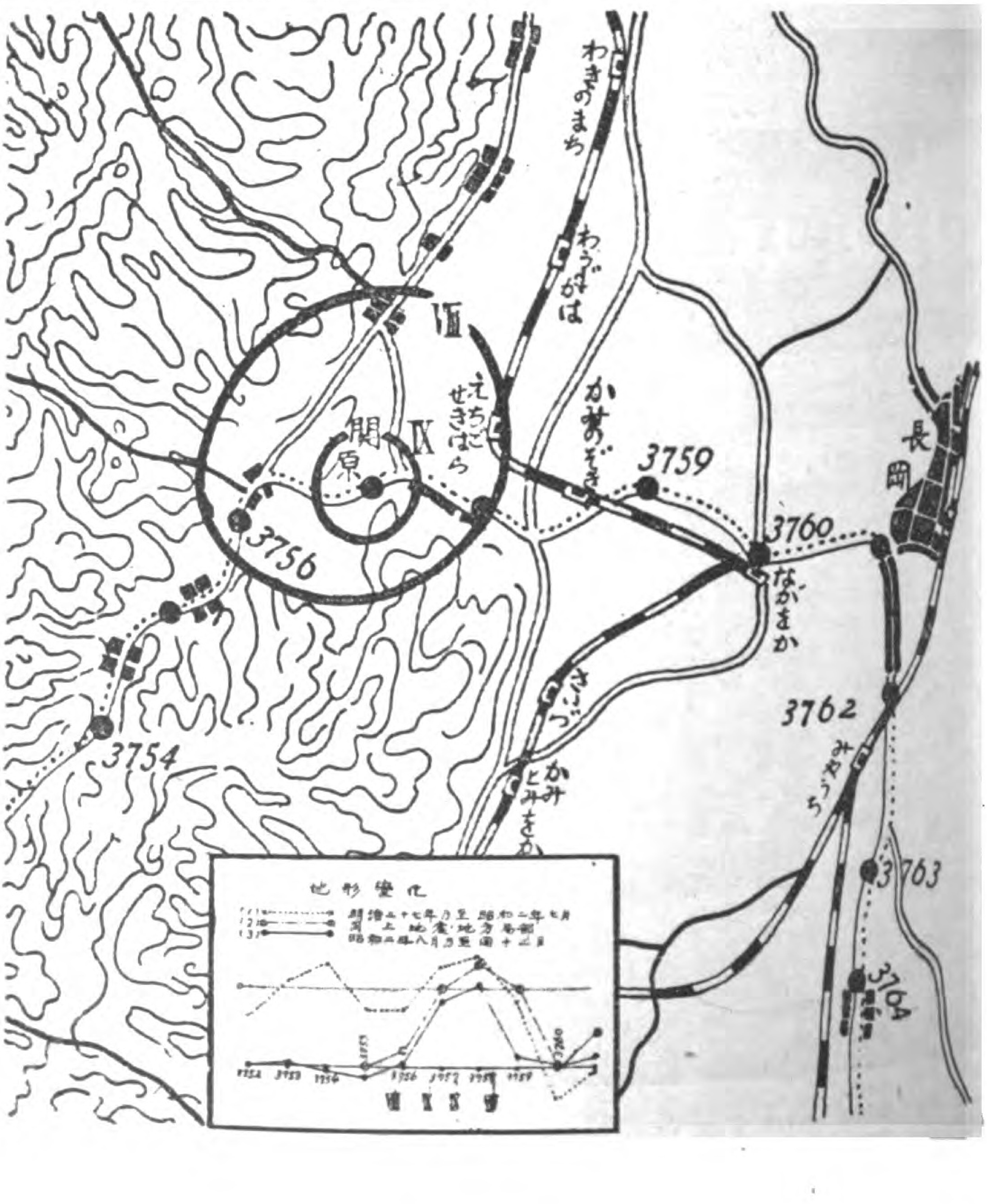
地震前の地形變動には數十年前から漸進的に起　初期のものと、二三年乃至一二週間前に起る中間期のものと、地震直前數時間內に起る末期のものとがあるが、大正十二年の關東大地震は此三期の地形變動を完全に備へて居た。自分は此事を去る四月帝國學士院に於て發表したが、都下の新聞紙中には、そんなことが今頃分つたのでは何にもならぬと批評したものがあつた。これは學問の開發が溫故知新によつてもなされるものたることを無視した暴言と謂ふべきであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（第二圖）



（第五圖）

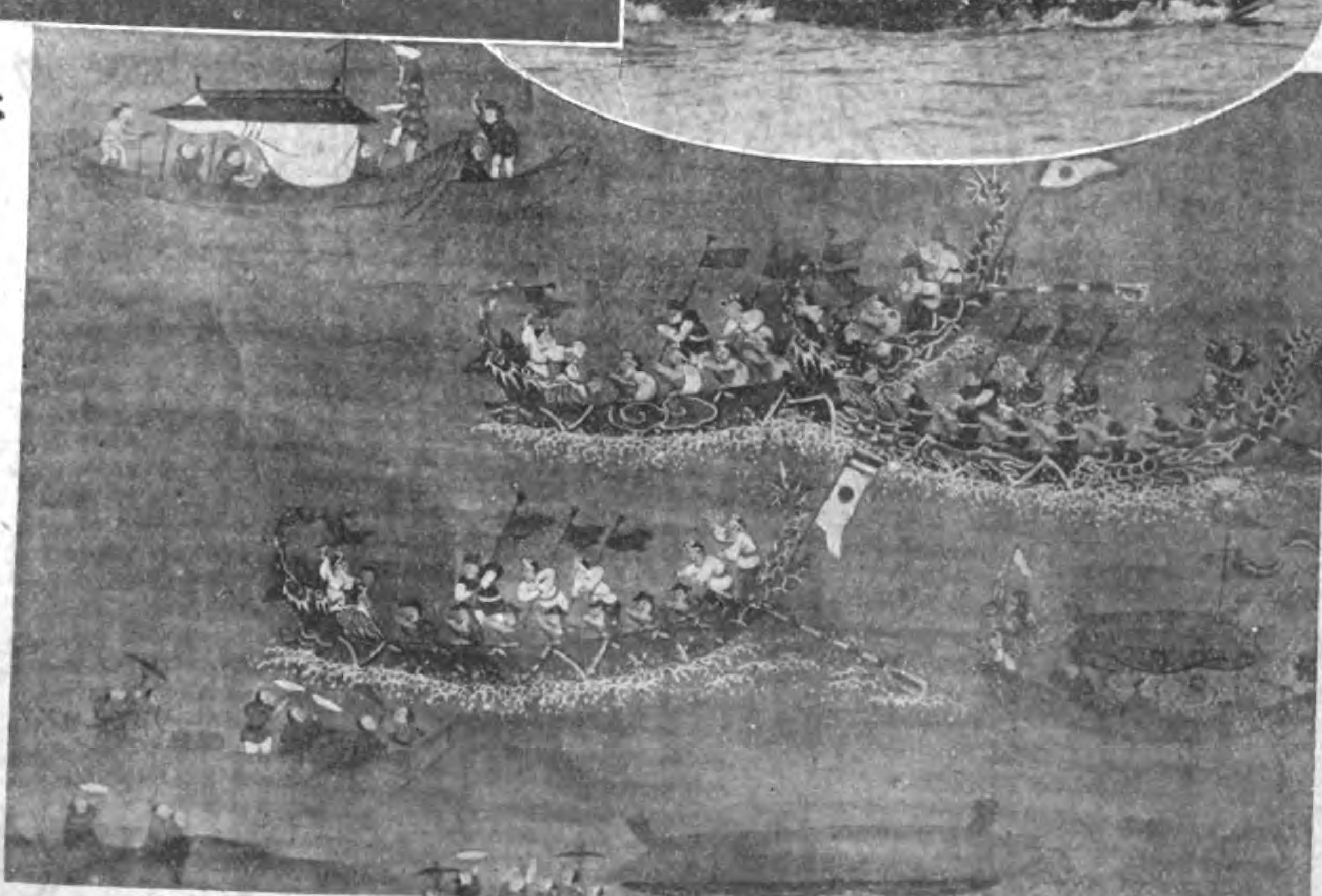


Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA









ペーロン
（本號八ポイント欄參照）
永見徳太郎

映畫時評

小山内薫
久米正雄
室生犀星

スタンバーグとチヤプリン

「サーカス」が上映されても些しの刺戟を感じなかつた自分は、第一週の公開の日には何故か見に行く氣にならなかつた。自分には解り切る位解つてゐたからである。彼の演技の常套と情勢、後へも先へも出られない行詰りで呼吸を窒めてゐる彼、自分の殼を生涯低迷することしか知らない彼、中途で藝術的な自覺と天才的煽動の綱渡りをして、マンマと彼自身の喜劇的生活を生活したまでの、演技的舊時代の英雄、——

自分は「サーカス」を見て思はず笑はされ、他の看客も同じく雷の如く笑殺されてゐた。その間にチヤアリイ・チヤプリンは二巻物時代の再描寫を臆面もなく繰り返してゐた。彼獨特のポーズへの興味は自分を倦怠させ、厭惡的な欠伸となり、寧ろ十年に近い今日迄是等の演技を打通した彼の自信に今更ながら驚き、それをそのまま受け容れてゐるお人善しな我々自身に不愉快を感じた。我々は笑へない生活をしてゐる者ではない、唯我々は笑ふ時を、笑ふやうな事情を、笑はなければ居られぬものを時々感じることは事實である。心から笑つて見たい願望は疲勞した神經がこれを要求してゐる。我々はチヤアリイを見て笑ひ、「我」を離れて久振りで笑ひ、さうしてチヤアリイに別れて館を出たあとに、笑ひの滓の如きものすら頭に殘らなかつた。「サーカス」の中の人生をかかる強い絃が一本も頭に餘韻をつたへてゐなかつた。凡そチヤアリイほど頭に殘らないものの甚しいものはなかつた。映畫的な新聞紙を演技する彼ではない、併しながら自分の頭の中には「ソレルと子等」の如き失敗の作の中にあつたものすら感銘しなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「ゴールド・ラッシュ」や「キッド」の俤よりも一層古色蒼然たる「緞子の戻り」かけた彼、手法の困憊と疲勞、疲勞以上の絕望的な衰退期、——喝采と拍手との中に、彼自身の運命をも暗示する拍手が交つてゐることは、聰明であるべき彼の特に心付いてゐることであらう。

彼の身邊にどういふ生活があつたかは知りたくはない、又「サーカス」が二年間の製作時日を要したことも問題ではない、彼の「うまさ」が度合と調子とを越えてゐることも問題ではない、只彼の中に知りたいものは彼が在來の作品から、どれだけ身をかはしたかといふ事、どれだけの速度で轉換期的な演技上の新鮮を表現し得たかといふ事である。チヤアリイ・チヤプリンは昔のまゝの彼であり、昔のまゝの氣の好い子供對手のチヤプリンであり、遂に今日の我々の「失笑」を盛り返すだけのものは、どういふ意味にも彼は最早持合さなかつた。凡ゆる天才の常軌的な行動は彼の上にもその勢ひを揮ひ、今日の我々に通用する映畫的なレッテルは最早我々には興味がなかつた。

彼は「時代」をその演技的な獨特な世界に於て噛み下してゐた。併し彼の噛み込んだ「時代」の年號は正しく千九百二十年前後だつた。併し乍ら此天才の莫大なる信憑に據れば千九百二十年の年代と、千九百二十七年の年代との間に、何等の急速度的な精神的な時代の變貌がなかつた。變貌ばかりではない、此時代に特に缺くことのできない「心理」すら彼が幾度となく再描寫的の操り返しに過ぎなかつた。これは他の俳優ならば兎も角、彼の場合見遁すことのできない僞瞞に近い狹い藝風であつた。

自分は曾て彼が名俳優であるよりも、寧ろ名監督であることを何等かの機會を得て述べて置いたが、實際彼の俳優として演技の絕頂時である「ゴールド・ラッシュ」と「サーカス」と較べて見て、彼は再び新しく立つの彼でないことを手痛く感じた。比較的輕快とされた道化的な行動さへも、今は頭底莫迦々々しくて見るべくもない。それは持味とするには餘りに常套的な持味である。假に文藝的な作品に於て彼が踏襲するところの再描寫が操り返されるとしたら、殆再讀するに堪えない惡趣味を强制するであらう。

自分は「サーカス」を見た後に、何となく「巴里の女性」を想起した。彼が監督の位置のみでなく自ら演技しなければ居れぬ氣持は解るが、何故俳優的位置を放擲することに依つて彼の手腕の中にある「監督」的な、鮮明な腦髓を思ふさま振はない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であらうか、これは永い間俳優としての彼の最も思ひ切りの悪い困難な抛擲に違ひない。併し今日の「サーカス」一篇が「巴里の女性」への人生的な効果と表現美を擧げてゐないことは、誰しも氣の付くことである。「喜劇」が彼の中に固め込まれてゐる間、世界の喜劇が成長しないといふ譯ではないが、その澁滯的な停止線を彼が持つてゐることは事實である。同時に凡ゆる喜劇は不用意な運命と機會との命令によつて生じ、最初からそれに目的されたものに誠の喜劇的條件は有り得ても、その喜劇的な爛熟は有り得ないと同樣である。自分は俳優としての彼に何等の將來を感じない。尠くとも長い間踏襲したあれらの惡趣味的な娛樂的の媚に甘えた彼から「飛出さない」限り、自分は遂に何等の期待をも感じ得ない。

自分がチヤプリンに監督的手腕の確さを認め得たのは「巴里の女性」であつた。その快適な簡潔さは就中自分に彼の手腕を信じさせた。彼は實際「巴里の女性」に於て飛躍し跳梁したことは、何よりもその頭腦の働きの速かなことであつた。映畫人でなければ持たぬ閃光的な腦漿、腦漿の圓熟が指揮する人生を數學的に解剖する組織、そこに彼は美事な監督としての地位を自分に信頼させ實行してゐたのである。恐らくチヤアリイ・チヤプリンが素人の間にも一個の藝術家として、（決して一喜劇俳優として止まらないで又監督たる映畫人としてここに認められたのも、此の「巴里の女性」の優秀な表現、手腕、テクニツクやカメラワークの諸相が渾然としてゐたからであらう。尠くとも彼に的確な極印を打つたものは「巴里の女性」以外ではなかつたのである。自分は最早演技する彼のうまさも面白さをも見たくない、見たいのは彼が氣を取り直した監督的な手法だけである。彼は餘りに過去の樂園に彷徨し過ぎた。彼は彼をヒロインとした抒情詩的な回想に耽ることは決して惡くはない、「サーカス」の最後にある諦めも味氣なさも決して自分は批難はしない。唯、彼は彼の抒情詩に低迷しながらいゝ氣になつてゐることに、彼らしい聰明を缺いてゐるとしか思はれないのである。

自分はチヤアリイ・チヤプリンとスタンバーグとの距離、時代、睨み、速度、構へ等に就て當然比較されるべきものを感じた。「救ひを求むる人々」一卷を携へて彼を訪ねたスタンバーグは、もはや無名の何處へ行つても買手の無かつた時代のスタンバーグではなかつた。チヤアリイは無名の彼を認め彼に力を盡した。彼の「救ひを求むる人々」を世に紹介したのもチヤアリイだつた。スタンバーグの手腕に驚嘆と讃同と激勵とを與へた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものもチヤアリイだつた。或はチヤアリイがゐなかつたらスタンバーグの世に出ることは、今少し位は遲れてゐたであらう。スタンバーグに取つて大家であるチヤアリイの懇切さは、絕大な喜であつたに違ひない。

併乍らスタンバーグは昨日のスタンバーグではなかつた。「暗黑街」を持つて立つた彼の周圍には、敵手のないまでに鮮かな出現的な地位を贏ち得てゐた。彼の目的されたものの精神には妥協的な過程を踏むことはなかつた。決して顧見ることなき人生派の詩人の踏み出しを敢行し明日と共明後日へ働きかけてゐることは「暗黑街」を評價した折に述べたところであるが、チヤアリイは此間に造花に似た本物に近い一本のばらの花を、何時までも振り廻してゐるとしか思はれなかつた。回想と昨日の眞實に躊躇してゐる彼の身悶えは、結局チヤアリイを疲勞させ澁滯させ、出口のないところに追ひ詰めてゐた。彼が「サーカス」の鏡の間に追ひ込まれたのは、何と皮肉な彼自身への、出口のない昏惑と行詰りを意味し、運命と自然との何と快よい折檻であることか、――全く彼自身は鏡の間に於る八方に映る彼を見きわめ、その幻影的な回想的な抒情詩への拒絕を以て立たなければならないのだ。

チヤアリイの神經は間伸びがしてゐる。スタンバーグは今の時代にピツタリと身を寄せ、身を寄せることに依つて全神經な銳さ新しさに立脚してゐる。併し何とチヤアリイは時代から離れた胡散な顏付をしてゐることだらう。彼は彼自身をさへ胡魔化してでもゐるやうな古色蒼然たる「サーカス」の中に、ハロルド・ロイドの調子を繰り返してゐる、自分は綱渡りの中にも彼自身の姿を見たに過ぎない。

ともあれ一代のチヤアリイ・チヤプリンと雖も、もう時代遲れであることは疑へない、これ以上彼と步調を揃える「時代」は世界中に滅びてもゐるし、彼自身の演技に於て既に亡びかかつてゐる。彼に望をかけることは最早監督としての彼の外の物ではない。「サーカス」の場面への檢討と嚴格な批評では、到底彼の未來を暗示し物語るものはない。自分は彼の「サーカス」を二年間の沈默の後の作品などといふ、いい加減な胡魔化しと曖昧な常套的な手法でマヤかされることは、彼の爲にもしないつもりである。

ハロルド・ロイドやダグラスやデニーの喜劇的な世界に於て、チヤアリイが唯一の「蒼白さ」を持つてゐたことは曾て自分の說いたところである。彼が人生の中の「蒼白さ」を喜劇の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中にこもらした事、決して喜劇が喜劇で停まらないところの、彼らしい悲喜劇的な人生觀照も自分は認めるものである。過去に於る凡ゆる喜劇俳優の中に最も意識的な彼であり、最も徹底的な喜劇が悲劇に代繙すべき程度にまでの高揚を敢て演技したものも彼である。併乍ら彼を説くことは何よりも未來を釋明することでなく、過去を計算するところの最早記錄的な「數字」でしか無いところのものである。チヤアリイ時代遲れとし、その儘映畫的急速度の精神と、進展さるべき未來への「働き」の爲に先づ彼をその「いい氣持」から引き摺り下すべきことよりも、彼自身の自覺によつて何等かの起直りを意味しなければならぬのだ。

恐らく今後に於ても彼の如き明徹の頭と、抑揚と曲折、笑ひと悲しみを持つて立つところの俳優は、再びあゝいふ型では見ることができないであらう、彼の如きものの輩出は或は絶對に見ることができないかも知れぬ。ヂョーヂ・バンクロフトの如き肉體的な喜劇俳優は出て來ても、彼の出現は再び見ることはないに違ひない、事實に於て彼の如き「過去」を自分は見ることを拒絶したい願望を持つてゐる。

喜劇が將來の映畫を握るまでには、新しい今一人の別の「チヤアリイ」の出現を意味しなければならず、その新人が押展いて行くべき「新しい喜劇」の出現は將來に遠いことではないであらう。勿論悲喜劇的な要素の中に「草臥れた過去」の喜劇でないところの、眼覺るばかりの鮮さ快適さを抱擁することに依つて、一層將來の喜劇の內容があるのだ。凡ゆる喜劇は運命から出發しなければならず、運命は凡ゆる人生の最も深奥的な内容でなければならず、從つて喜劇は何時も悲しい笑ひの中に靜に育てなければならぬ。喜劇がもはや單なる喜劇でのみあつてはならない、それだけで組み立られ演技されてはならない、我々の生活疲勞への注射的な血精であり得るまでの、又凡ゆる映畫的諸々の目的を持ち合さなければならぬ。「喜劇」の中に溶け込むときの我々は「喜劇的な固さ」を感じてはならない、柔かに抱き込まれ、あやされ、笑はされなければならない、笑ひすら心からの「突き上げ」た笑ひでなければならない、笑ひを無理に引き摺り出されることは飽迄拒絶しなければならない、彼らの過去に於る笑ひの奪取的な惡どい強壓は、もはや自分らを再び彼等チヤアリイの中へすら呼び込まらないであらう。藝術家氣取の彼等の僞瞞の中に、その無邪氣の缺如された意識的喜劇に自分らは迷ひ込むことは、今迄はともかく、今後に於ては絶對に無くなるであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

コールマンとマンジウ

アドルフ・マンジウは何時も短篇と小品の中に、彼一流の演技をこなしてゐる。新しくも古くもない、氣の利いた持味で充分に行動してゐる。「セレナーデ」の彼は最近にない好技の潤ひを出してゐた。

ハリー・ダラストの鮮かな韻律は、マンジウを隨所に引締めてゐた。最初の貸間を見に行くところ、グレツチエンが夜の石段に腰かけてゐたところ、その以前の植木に水を遣つてゐるところもよかつた。――マンジウのフランツが夜遊びから更けて歸つて來て、唇をタオルで拭いて女の口紅がタオルに殘るところも、强い韻律的な表現であつた。ともあれ妙に小品風な、或型を起すことに秀てゐる彼は、行くところに小さい締つた成功をしてゐた。ダーラストの手際も纒つた冴えを見せてゐる。「婦人に給仕」程の冒險は無いが、文字通りの「セレナーデ」風な、纒つた作品である。

ロナルド・コールマンとマンジウとは好一對のスタイルを持ち、どちらも些かアメリカ臭を脱してゐる點が、自分に好ましさを與へてゐる。コールマンには妙な憂愁味があり、藝風は地味な行方をし、マンジウは派手で「派手の澁味」を出さうとしてゐる。彼等の孰方も澁味へ落着く俳優にちがひない、あれらの演技的極北は頭底澁味以外に落着くところがないからである。彼はねらふこと無くして自然に澁味に辿り着くであらう、演技といふものは結局幅の問題ではなく、奥行の問題に過ぎない。マンジウの時には喜劇的なポーズの中には、西洋人のハイカラがあり贅澤があり、それらに向く「面」を持つてゐる。コールマンのハイカラと妙な高踏風なポーズには、弱い憂愁的な抒情詩が窺へないでもない。彼らは殆好みに合はないアメリカ物の俳優の中に、僅に自分の好きな俳優である。

映畫的な讀書

自分は映寫中に神經の疲勞することを時間的に計算して見て、映寫時間と殆匹適するやうに思はれた。何とも云へない鈍い打撲傷を受けた後の疲勞を感じ、その疲勞の量積は決して讀書や執筆に依つて感じる如き輕微なものではない。心理的には不機嫌な狀態になり行動的には全神經に「くたびれ」が沁み込んでゐる。その「くたびれ」は不愉快な腦の中に蟠つてゐる。

讀書の後の疲勞の囘復は、映畫の場合よりも速かで、柔かさを含んでゐるが、映畫は本來の機械的な速度に伴ふ疲勞の爲、刺戟や壓迫や速度の關係上、容易に囘復しない、何か金屬的な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

チラチラする機械的なものを感覺の中に印映されてゐる。これは一つは年齡の爲かも知れないが、併し一時的に映畫見物の神經的疲勞は、青少年と雖も同じい程度の疲勞を感じるであらう。惡速者なフラッシ・バックの鋭い速度や、畫面の中の「白」の眩ゆさは視神經の働きと腦神經の働きとに、强度な刺戟性を與へ、映畫と同樣の働きを視神經が敢てすることは決して有害で無いとは言へないであらう。

自分は映畫を見ることは、決して愉快な娯樂的なものであるよりも、讀書的な欲求によつて爲されることが多い、漫然と映畫を見ることのできない程度に映畫に打込んでゐる自分は、機械的苦痛の中に痛ましい自分の神經を見ることが多いのだ。その疲勞の中にさへ自分は何者かを讀み得ることを豫期するのだ。約めていへば我々の「勉强」が、そこにも、實に容易な大衆的な娯樂の中にもあつたのだ。讀書が文字通りの讀書に限られた時代は、もう十年前に亡びた。映畫が映畫とされ、ただ「見物」された時代は後戻りした。映畫はそれ自身で讀書的な能力を持たなければならず、又凡ゆるファンは讀書と同樣な內容と魅力とを「彼」から引き出し感覺せねばならぬ。又凡ゆる教養あるファンは「映畫」の中に無いものをも、自ら監督的な地位から讀書し指揮しなければならない。我々の映畫的讀書力の深まさりゆく底には、我々の精神的な努力と同樣な苦痛の翳を帶びてゐる。我々の神經上の諸々の疲勞的な犧牲は、最早明かなる娯樂的なそれによつて支拂ふものでなく、我々の藝術的なとまで言つていいところの彼の「讀書」や「勉强」に外ならないからだつた。さういふ露骨な併も幼稚な併乍倘迄左うあるべき必然的な努力は、今日のファンの全き精神を代表するものであり、倘迄我々の欲求的な映畫への大背景を爲すところの今日のファン——即今日の我々自身であるからである。

映畫的讀書は同時に或時間內に於る絕對的讀書であり、又同時に强制的讀書である關係上、我々のよき讀書、よき映畫への欲求も起るのである。一度活動館に入れば或時間內は「見物人」の範圍から脫けることはできず、又全き神經上の疲勞を豫期せねばならないとすることは、どこまでも「勉强」の域にまで自分を置き、そこに自分の立場からの增益されるところの「映畫」を取り入れねばならない、——かくて我々の讀書は完全な讀書の層と渾然とを築き上げるであらう。

伊藤大輔氏の「高田の馬場」

伊藤大輔氏の「高田の馬場」は大河內傳次郎氏を生かしてゐる。神經的な鋭さ尖りを持つ大河內氏の安兵衞は、最後の井戶

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

水を浴びるところ、手紙を繙讀するところ、飯を食ふところ、江戸市中を彷徨するところ等に最も適當な効果を擧げてゐた。伊藤氏の手法もかつちりと鍔鳴りを感じさせる程度の手固さがあつた。

浪宅に於る同じい朝と夕方のシインの再描寫に、或効果を豫想してゐる伊藤氏は此點寧ろ愛すべき稚氣があつた。あゝいふ場面の繰り返し、(多少ポーズとデテエルの變化は見たが、)は危險な失敗を見ることが多い、それを避つて退けたのはいいが、失敗は立派な失敗だつた。もう一つお勘婆さんの馬場へ馳けつける大向を豫期した手法も、むしろ無駄な挿話的な失敗だつた。安兵衞の長々しい驅つこも、効果の尠い徒勞に近いものだつた。興行的方面の喝采からも、かういふ陳套な幾度か操り返された場面は省略すべきであつた。浪々の江戸市中を彷徨するあたりに目立たない場面の變化と抑揚とを試みたところに、地味な鮮さが印影されてゐた。それらのリズムの一見變化の無いやうに見える「變化」は、殊に矢場や矢場のある附近の光景に多かつた。伊藤氏の試乘的なものに絶えず努力の跡の窺はれるのは、何よりも自分を快適にした。

大河内傳次郎氏には度たび論及したが、何時かの「彌次喜多」何とかいふ天下の態を集めた映畫の中に彼を見た時ほど、腹立しいことはなかつた。何故あゝいふ映畫に妥協するのか、自分は大河内氏の大成を信じなければならない、それ故あゝいふ愚昧主義の安價な妥協に攻勢を取らなければならない、――いゝ加減な映畫にいい加減な演技を揮ふことは、それだけの場面的な惡い馴致が恐ろしい未來の、演技的な高さへまで影響もし、又その妥協への卑俗性がダニのやうに憑き纒ふのだ。凡ゆる俳優の陷井的惰勢は何時もここから呪はれて行くのである。大河内氏よ、伊藤氏とよりよく取組め、そして第一流から辷り落るな、決して妥協するなかれ、これは貴君を愛する一人の看客の聲であることを忘れるな、貴君を愛することに於て熱情をもつものの聲を、絶えず貴君は背後に感じ演技し行動しなければならない。

「最後の命令」

チヤプリンとスタンバーグに就ての小稿の後、自分は期待を持つて「最後の命令」を見た。巨漢エミイル・ヤニングスを監督するスタンバーグ、ヤニングスとスタンバーグとの藝術的な結合がどの程度までの表顯を爲し得るかといふこと、恐らくヤニングスとスタンバーグの間によき相互の感激が流れ合うたであらう豫想は、全きまでに的中した。ヤニングスはスタンバー

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

グに硬化はせず、スタンバーグは最早堂々たる大家の風貌を手法に表はしてゐた。少しも澁滯なく足音は重く、すつしりすつしりと響を立て此二人は歩いてゐた。「暗黒街」の潑剌さ自由さはないが何よりも其大事を取つた緊張振りは、スタンバーグの亂れない昂奮の中に終始してゐたやうである。

エミイル・ヤニングスは其撮影所に於て零落の老將軍の適役を完成したのは、元より彼の腹藝からの本味だつた。エキストラの騷々しい行列、行列の中のヤニングス、そこにメガフォンを取つたスタンバーグ、――露西亞の帝政時代の將軍としてのヤニングスの手重い、それでゐて決して手重さの誇張の無い流暢な彼は、やはり堂々たる世界的な巨星であるところのヤニングスだつた。此の現世的ライオンを操つる豹の如きスタンバーグの周到さ綴密さは、城砦のやうな一篇の構成的な或る「映畫標準」を製り上げてゐた。寧ろアカデミックであり過ぎ、映畫的であり過ぎるものかも知れない。

エブエリン・ブレントの女優ナタリーは、冷かな美の中に彼女特有の「幅」を押展き、ヤニングスと心臟的に呼吸を合してゐて餘蘊がなかつた。寧ろスターンバーグはブレントに對う時に鋭く自在に、その蒼白な美を抉り出すことに一段の感奮を持つてゐるやうに見えた。「暗黒街」に見たブレントは此適役に於て離れさない成功を擧げてゐるのは「暗黒街」の成行からスタンバーグの中に循つてゐる發見でもあるらしかつた。

ウヰリアム・パウエルは拙い俳優である。併乍らパウエルの神妙さに影響してゐるスタンバーグの働きかけてゐるものに、自分は曾つて見たことのないよきウヰリアム・パウエルを感じた。俳優と監督といふ一筋の神經の重要さを今更乍ら考へない譯にゆかなかつた。

雜

映畫の選擇　自分はよい映畫である見込を立て行き、詰らない映畫を見ると苦痛を感じる。不愉快などといふ生優しい感情ではない。それ故嫌な俳優や惡い監督の映畫は絕對に見に行かないことにしてゐる。豫めどの程度の物であるかが頭で一通り感じられない限り行かないことにしてゐる。好きである爲に選擇を僞ることはしない。暇があるから活動でも見ようといふ氣持は拋棄すべきである。眞摯な演技へは看客としての尊敬を表すべきであり、同じ藝道的な分野に立つものゝ理解と同情を持たねばならないと考へてゐる。

自分は過去に於て只面白いから映畫を見物してゐた。併し今は面白いからではなく、どういふ面白さが我々に影響するか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いふ點、面白さの中に「自身」を見る點、面白さにある新鮮への喜びを經驗する點等である。併乍ら單に無目的に面白いから見る側の人もあるだらう、さういふ人への立場へは自分は緣の無いことは云ふまでもない。

劍劇の根本問題 兒童は劍劇に依つて劍劇を摸倣したのではない、劍劇以前に遊戲として「戰ごつこ」があつた。これは戰國時代からの現象だつたし、決して今更に劍劇的遊戲が唱道された譯ではないのである。日清戰爭直後兒童間の「戰ごつこ」に據る死傷は百に對する二の單位であつたし、日露及歐洲戰に據つてどれだけ「戰ごつこ」が進展されたか分らない。唯歐洲戰に據る兒童の「戰ごつこ」は砲彈や飛行機戰の關係上、自ら「戰ごつこ」に新しい距離を與へてゐた。何故かといへば文明戰は距離戰であるため、兒童の「戰ごつこ」も同時に距離のある戰法を採用した。時勢に對する敏感性を持つ彼らは坂の上と下とから、着彈の距離の計算もして「戰ごつこ」に試乘するところの、光榮ある文明の兒童でなければならなかつたからである。

併乍ら劍劇的現象はこれらの距離を元の位置へ、白兵戰へ引き戾した。徒に劍劇的現象の弊害を云々討議するよりも、その根本に忘られた「これら」の問題を一層解體すべきである。單に劍劇的遊戲が現時に劍劇その物からの現象でないことは、自分の言ふところに依つて明らかになつたであらう。

美貌の時代的淘汰 コーリン・ムーアの「戀せよ乙女」を見たが、コーリン・ムーアはまるで菓子のやうな女優に過ぎない。美貌が單なる美貌に終り、生きて潑溂してゐないのは、彼女の演技の拙劣さを意味し、その拙劣さが美貌を損じてゐても決して生かしてゐない。リア・デ・プチイなどと較べると、美貌が表現されてゐるもののみの場合と、内部から美貌を助成する演技的な諸相を持つものとの場合に於て、殆比較にならない位「美貌」そのものの生活の違つてゐることを感じるのだ。内部からのものの美が働きかけ作用する美しさに、一本の嚴格と威嚴とが、鳴つてゐる。コーリン・ムーアの雛菓子のやうな美の中に、遂に何者の權威さへ見ない。かういふ美しさは次第に陶汰されてゆく美しさであらう。今の時代に斯くまでにやくざな美貌が役立つといふことは、意味のないアメリカ趣味に過ぎないであらう。美貌が既に嚴然たる時代的陶汰の洗禮を爲されることは、もう疑ひもない「美貌」のみで立たれない現世を意味してゐる。

監督の腐蝕 ドロレス・デルリオの「アマゾンの紅ばら」を見て、デルリオの旨さ潑溂さを少しも感じなかつた。ジョン・

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

グリフイス・レイの腐蝕した監督手法には、少しもデルリオの演技を理解してゐない、あれ程のデルリオをあれ程通俗的に墮落させたのは残念だつた。

「最後の命令」を見て

（室生犀星）

ストオリがラヨス・ビロオス、主役がエミイル・ヤンニングス、監督がヨオゼフ・フオン・シユタアンバアクと聞いただけでも、吾々フアンは心が躍る。その上、私は友人が送つてくれるアメリカの諸新聞で、早くから賞讃の辭を澤山に讀んでゐたので、一日千秋の思でこの映畫の渡來を待つてゐた。

神戸へ著いたが、検閲で引つかかりさうだ、ことに依ると上映不許可になるかも知れないといふ噂を聞いた。殘念だとは思つたが、どうも爲方がない。諦めるより外にしやうはあるまいと思つてゐると、やがて邦樂座の外壁に、例の赤地に白抜の長い旗がさがつて、「最後の命令」近日封切と鮮に讀まれた。

封切の第一日、私は萬事を放擲して、子供のやうに心を躍らせながら邦樂座へ出かけた。ところが、そこの玄關でぱつたり會つた旬報の田村君に聞くと、許されるには許されたが、二卷ほども切られたと言ふのである。

私は直ぐと或暗い豫感に打たれた。きつと、一番大切なところ、この映畫のクライマツクスとも言はるべきところが切られたに違ひない。私は突嗟にさう思つたのである。そして、不幸にもその豫感は的中したのである。

この映畫劇の構成は單純である。趣向の妙は、一九一七年のロシヤ革命とハリウツドの映畫製作場とを結びつけたところにある。ツアアルの徒弟であり、軍司令官であるドルゴルツキイが、革命に際して、民衆憎惡の的となる。散々な目に會つて、危く命を失はうとするところを、以前は彼を射殺しようとまでした敵でありながら、今は彼の愛人となつたコンミユニストの女優に救はれて、僅に身一つをアメリカへ逃れる。その時の大きなショツクがこの偉大な將軍を忽ち力のない中風症の一老翁にしてしまふ。彼は絶えず首を一方から他方へぶるぶると動かすのである。帝政時代のロシヤの將軍の古手は、アメリカへ渡つても「つぶし」が利かない。彼はその癈軀をハリウツドへ運んで、映畫撮影所のエクストラとなるのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或日、彼は或撮影所へ雇はれて、ロシヤの將軍に扮することになる。彼を指揮する撮影監督は、彼が昔故國で鞭うつたことのあるコンミユニストであつた。彼はセットの塹壕にはひつて、ロシヤの軍隊を指揮する。ロシヤの古い國歌が、撮影所の音樂者に依つて奏される。風の機械が廻る。兵士の一人が將軍の命令に反抗する場面になると、彼は思はず實感に襲はれて、昔の將軍になり切つてしまふ。そして、興奮のあまり心臟痲痺を起して死んでしまふのである。

シユタアンバアクは目まぐるしいカットバックの挿入的方法を用ひずに、映畫全卷の前部と後部とにハリウツドの描寫を置き、比較的長いその中部に續けて革命前後のロシヤの描寫を置いた。

ハリウツドの描寫には、或サタイアが見られて面白い。だが、要するに、それはコント的興味であつて、この映畫のドラマチツクな要素は、悉く中部のロシヤに含まれてゐると言つて好い。殊に、そのクライマツクスは、モツブに叩きのめされた將軍が、身を以て故國を脱出するところにあるらしい。そして、そこがあつてこそ、はじめてハリウツドの老エクストラが生きて來るのであらうのに、そのあたりがまるで切られてしまつてゐる。

それでは、この繪の眞の鑑賞は出來ない。謂はば斷篇を見せられたやうなものである。私は非常な意氣込で出かけて行つたのに、がつかりして、萎れ返つて歸つて來た。

幾多の事情はあらう。それを察しないではないが、かうした亂暴なカットを受けてまで、興行者が強いて繪を發表する必要があらうか。また檢閲官にしても、かうした破壞的なカツトをしてまで、強いて上映許可を與へる必要があらうか。

シユタアンバアクの爲にもエミイル・ヤンニングスの爲にも、こんな不具な繪は寧ろストツクにして置いて貰ひたかつた。

「見ないで想像してる方がよかつた。」

「最後の命令」に對する私の僞らざる感想はこれである。（五月六日）

○再びチヤツプリンに就いて

「ザ、モオニング、ポスト」の記者レストレンジ・フオオセツト著すところの「フイルムズ、事實と豫想」が手にはひつた。

早速その第十六章と第十七章とを讀んだ。いづれもチヤプリンに關する研究である。前の章は、丁度チヤプリンが「サアカス」を撮影してゐるところへ著者が行き合せた時の記錄で、例

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のライオンの檻のくだんが、非常に面倒な仕事であつたことがよく分かつた。だが、私の今の目的はこれを紹介することではない。

私が同志に一讀を勸めたいのは、むしろ後の章——即ち第十七章——である。この一章に盛られた「人としてのチヤツプリン」に關する著者の觀察は、悉く肯綮にあたつてゐる。

私は先づ、この書物の著者が、チヤアリ・チヤツプリンを、詩人哲學者として祭り上げないで、飽くまでも彼を、大衆相手の藝人實際家として推奬してゐるのが氣に入つたのである。

「チヤツプリンは唯現在のみに生きる。嘗てミルドレッド・ハリスが嘆いて言つた。如何なる外界の興味も、現在彼の作りつつある映畫から彼の心を逸らすことは出來ない。彼は晝も夜もその題目についてのみ讀んだり話したりするだらうと。私はこの詞に間違ひはないと想ふ。なぜと言へば、セツトに於ける彼は、どんな短い場面にも惡いところがあつてはならないといふので、一刻も休まずに心を碎いてゐるからである。彼は彼が「事件の連續の心理」と呼ぶところのものを研究する。そして、それが見物に與へる効果を考へる。その効果が惡いと思つたら、忽ちその一日の爲事の豫定を全部變へてしまふ。總ての彼のセンスとノンセンスとは、その展開に於いて論理的であらねばならない。そして、[illegible]ならない。若し、觀客の道が許されるならば、[illegible]價ひに、極めて細心な扱ひ方が要求されるのである。」

チヤツプリンのフイルムを熱心に待つてゐるものは大衆である。チヤツプリンはその大衆の絕對的奴隷である。彼が絕えず細心に注意するのは、大衆に對する効果の問題である。殊に、或場面の時間の測り方である。一秒長いか短いかで、効果が非常にあるか、まるで無くなるかの場合がある。それを彼は細に考へる。「黃金狂時代」にも「給料日」にも、その苦心が讀まれる。今度の「サアカス」などでも、例へばあの雜巾で金魚を拭くところ、驢馬のくだん、いづれも拔差のならぬ時間が測つてある。

フオオセツトはチヤツプリンが最も興味を持つて作つた映畫が「巴里の女」であるといふ言ひ傳へをも信じない。まじめなナポレオン映畫の製作などは、チヤツプリンの撮影所でさへ、信ずる者は誰もあるまいと書いてゐる。

チヤツプリンは決して夢想家ではない。飽くまでも實際家である。極端に言へば、彼は大衆に受けないやうな、金の上がらないやうな映畫は決して作らない人である。さうして、彼の役者としての天才と撮影監督としての細心が、いつも必ず彼にさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うした作品を作り上げさせてゐるのである。

同じ「サーカス」でも、武藏野館で見た時は、見物が餘り笑はなかつた。（恐らく、見物は哲學的瞑想に耽つてゐたのだらう。）ところが、淺草の帝國館で見た時は、見物が初から終まで笑ひ通しだつた。

私の言ひたいのは、從來日本のシネマ批評家のチヤツプリンに對する態度が餘りに「武藏野館的」であつたといふことである。そして、チヤツプリンに對する最も正しい態度は「帝國館的」であらねばならないといふことである。

前者はインテリゲンチヤ的プチ・ブルジョア的態度である。後者はプロレタリア的大衆的態度である。そして、チヤツプリンが常に目ざしてゐるところのものは一般大衆なのである。

「サーカス」に不滿を感じた日本のシネマ批評家は、チヤツプリンに對する態度を變へて、もう一度あの繪を見直す必要がある。（五月七日）

○不幸なるロシヤ映畫

日本で上映を許されるロシヤ映畫に碌なものはない。最近の「熊の結婚」もその一つであつた。

「パチエムキン」「母」の如きが送り返されて、「ポストマスター」や「熊の結婚」が見せられることは、ロシヤ映畫の信用の爲に、誠に悲むべき現象であると言はなければならない。

だが、今の日本の狀態としては、どうにも爲方のないことであらう。唯、望むところは、ロシヤ映畫にも屑は多いのだから、いくら許されたからと言つて、屑は絕對に出さないで貰ひたい。

せめては「ポリクウシユカ」である。せめて、あの程度の作品でなければ、出さないで貰ひたい。

エイゼンシユテインが可哀さうだ。プドオフキンが氣の毒だ。（五月九日）

（小山内薰）

トーテムとタブー　フロイド原著　吉岡永美譯

廿世紀の學界を風靡したフロイドの精神分析學を今日知らぬ者は殆どあるまい。本書は此の學說から人類原始生活に就て彼獨特の解說を試みたものであつて、一見奇怪にして而も鋭き科學的正確さを失はぬ彼の洞見に對しては、徒に資料を誇るヴント、フレーザー等は一籌を輸さなければならない。加之、本書は到る處讀者の好奇心を唆るべき幾多の好題目を含んでゐる。最後に、譯者の流暢なる譯文と深き理解とに敬意を表し、ひろく世に推奬したいと思ふ。（定價二圓　東京・麴町・元園町一ノ二九　啓明社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

長崎紀行

廣津和郎

汽車が長崎の停車場に著いた時には、丁度雨が降つてゐた。改札口の外で赤帽からスウツケエスを二個受取つた自分は、小さな停車場の建物の軒から、雨垂れがだらだら流れ落ちてゐるのを見て、へんに忙しい氣になつた。知らぬ都會に對する人見知り——何處に行つても始めての土地では自分は乾度これに襲はれる——が、自分の心を重くして來た。はるばると九州の端まで來てしまつた、といつたやうな感慨も混つてゐた。

このへんな人見知りから、驛前に三四台あつた自動車を、瞬く間に他の客達に占領されてしまつた。そこで、それ等の自動車のどれかが歸つて來るまで、自分はスウツケエスの番をしながら、雨垂れのする軒の下にぼんやり佇んで、眼前の町を眺めてゐた。

町の家並はこの都會を取りまく丘陵の上までも延びて行つてゐて、その丘陵のところどころには、何やらの木の若葉と櫻の花とが、夕方の雨の中にぼうつと煙つて見えた。それは軟かな穏かな感じで、或趣きのないものでもなかつたが、併し汽車の窓から、殆んど日本の半ばにも近い長い間沿線の風光を見て來た自分の眼には、日本の自然の景色は、何處も彼處も一樣に退屈な、忙しいものに思はれて來てゐた。

十分位待つて、やつと歸つて來た自動車に乘ると、自分は云つた。

『ホテルが好いんだがな。日本の宿屋よりも……』

『ホテル……それぢや、ジヤポンホテルがよろしいでせう』

自動車は動き出した。自分は旅の要領と云つたやうなものに益々囚はれて來た。自分は今日は博多に一泊するつもりで、そこに下りて見たのだが、併し福岡にあると聞いてゐたホテルが、一二年前から呉服屋のデパアトメントストアになつてしまつてゐたので、急にその土地に泊るのが厭になり、長崎まで一

氣に來てしまふ氣になつたのだつた。實際日本の宿屋の不愉快さは、いつでも旅を閉口なものとさせる。鍵もかからない室、時には隣りの客との間が唐紙一重でさへある、さう云つた室に通されて、人の風體をじろじろ見る女中が引込んで行くと、頭をへんにぺこぺこ下げる番頭が宿帖を持つて來る。――顔馴染になつてゐる家なら氣安さもあるが、知らぬ他郷の一夜泊りの氣持の惡さは、自分をいつも不眠にさせる。

それでホテルをと望んだのであるが、この日本最古の開港場のホテルはどんな感じで自分を迎へるか。

ところどころに水溜りの出來た道を、ぴしやつと泥水をはね返しながら、自動車は町を通り、橋を渡り、明治初年以來そのままのやうな舊式な木造の洋館が並んでゐる海岸通を走り始めた。『兩替』『Exchange』といふ看板が幾つも眼についた。そしてさうした建物の間から、時々支那の女が何やら窯見たやうなものを手に持つて、ひよこつと現れ、自動車のはねを避けるやうに、路傍の雨の中に、傘もささずにぼんやり佇んだりした。

海岸通を暫く行き、それから左に曲つて二丁ばかりすると、自動車は停つた。

『此處がジヤボンホテルです』

それも舊式な二階建の木造洋館で、水色に塗つたペンキも剝げちよろになり、おまけに雨のせゐもあつて、甚だ陰氣にはえなく見えた

Hotel du Japon と書いてある玄關の硝子戸を開けても、森閑として、人間の姿が見えなかつた。スウツケエスをはこんで現れた運轉手が、『お客樣ですよ』と大聲で叫ぶと、間もなくぱたぱたと驅ける足音が聞えて來て、二人のボオイが現れた。白い上衣に、日本足袋を穿き、草履を突つかけてゐた。

『いらつしやい』

一人が運轉手から荷物を受取ると、直立の姿勢で傍らに突つ立つたもう一人に向ひ、『何番がいいだらう？』と云つた。

『四番』

『うん、四番』それから自分に向ひ、『どうぞ』

そして先に立つて二階に案內して行つた。剝げちよろの手摺、古びた床板、それにも拘らず掃除が行きとどいて、靜かな病院の廊下を歩いて行くやうな氣がした。

往來に向つた一室に自分を案內して行くと、

『お名刺をお持ちでしたら』

自分が名刺に住所を書いて渡すと、ボオイは直ぐ引退つて行つた。自分は室の中を見まはした。近代的なところは一つもないが、英國の片田舍にでも行つたらあるかも知れないと思はれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るやうな、鄙びた味がないでもない。鏡も戸棚もみな明治時代の洋家具の匂ひがして、室の一隅の台の上には花模樣のついた洗面器が、同じ模樣のついた水瓶と共に並べてある。――それで顏を洗ふのはやり切れないと思つたが、併し又大森の望翠樓にゐた頃の事を思ひ出して、自分は一方親しみのある靜けさを感じもした。

それにしても、靜か過ぎる位の靜かさだつた。表から見ると狹く見えたが、內に這入ると相當に廣いホテル全體に、何の物音も聞えない。往來に向つたバルコニイの外には、雨が相變らずさあざあ降つてゐる。その雨の中を、誰かがボルガの船唄を口笛で吹いて通つて行つた。

茶を持つて來たボオイに、バスの用意を頼んで、自分は二三枚端書などを書いた。

バスルウムも總ての仕掛が舊式で不便なものだつた。湯は階下で沸かして、二階のその部屋まで、バケツか何かではこんで來ると見えて、はこぶ間にこぼれた滴が、廊下に點々として汚點を殘してゐた。

『どうも設備が不完全でございまして』と案內して行つたボオイは卑下した微笑を浮べながら云つた。『私は昨年から半年ばかり大阪や京都の方に行つて居りましたが、長崎は何もかも時代に遅れまして駄目でございます』

『かう云ふホテルが幾つ位あるの？』

『はあ、今はみんな閉めましたので、ホテルと云へるやうなものは、此處ともう一軒だけになりました。――長崎はもう駄目でございます』

併し仰向けになつて、湯の中につかつてゐると、少しづつゆつたりした氣持になつて來た。汽車の嫌ひな自分にしては、よく此處までやつて來たものである。又同じ道を汽車で歸つて行くのはやり切れないが、併し此處まで來たと云ふ事は、そんなに惡い事でもない。――そんな事を考へてゐると、階下の食堂で、ガランガランと銅鑼が鳴り出した。自分は急に食慾を覺えて來た。

食堂はかなり廣く、清潔で氣持が好かつた。テーブル毎に插してある草花が生々した感じを與へる以外に、別にこれと云つた裝飾もないところが、却つて上品な感じを與へた。

ストオヴの側のテーブルに腰を下ろしながら、ぐるりを見渡すと、自分以外に客は一人もゐなかつた。

もう四十を越したと思はれる食堂ボオイが、パンをはこんで來たので、

『大變靜かかね』と云ふと、

『へえ、今は旦那さんお一人だけですから』と答へた。
『えツ、僕以外にお客がゐないの?』
『へえ、旦那さんがいらつしやるまで、三日間一人もお客さんがありませんでした』
　自分が驚いて、ボオイの顔を見ると、彼は淋しさうに頬笑んだ。
『それぢやこれだけのホテルが立つて行きやうがないぢやないか』
『へえ、さやうでございます。長崎はもう駄目でございます。好い船が着きませんし、もう異人さんがゐなくなりましたから。——今は長崎全體で外國人は二十何人しか居りません』
『ほう、さうかね』と自分は盛りの過ぎて行つたこの大都會の寂しい影を、急に見せられたやうな氣がしながら云つた。『みんな福岡に取られるのかね』
『へえ、福岡にも取られますし、大阪、神戸にも取られます。——國勢調査の度に、人口が三萬位減つて行きます』
『……』
『はははは』とボオイは人の好い、あきらめてゐると云つたやうな笑ひ方をして、『もう全く長崎は駄目でございます』
　そして料理をはこんで來るために、向うに歩いて行つた。

　それにしても、三日間に客が自分一人とはひど過ぎる。——自分は日本の文化の源であるこの都會の歴史を追想して、感慨無量といふ氣がした。して見ると、さつきのあの勢の好い銅鑼も自分一人のために鳴つたわけだつたのだ。あれを鳴らしながらも、さぞ張合のない事だつたらう。自分は改めて食堂の中を見渡した。清潔な卓布（テーブルクロース）の上には、どれにも挿しかへたばかりの生々した草花が咲き、そしてナプキンを載せた皿の兩側には、磨かれたナイフやフオクが、來もしない客を靜かに、行儀よく待つてゐる。亂雜なところや、投げ出したやうなところは微塵もない。
　そしてやがてボオイのはこんで來たオオドブルを、彼の持つた皿から取りながら見ると、皿の上には、自分一人のために作つたのではない、何人前かの料理が、小綺麗に盛られてゐた。
　自分は輕い溜息をした。
が、料理は美味（うま）かつた。汽車の食堂の洋食に惱まされてゐた後であるといふ事を割引して考へても、それは相當にうまい料理だつた。
『長崎はもう駄目でございます』先刻（さつき）室ボオイから聞き、今又食堂のボオイから聞いたこの言葉を、腹の中で嚙みかへしなが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら、自分の部屋に歸つて行つた。

　自分は原稿用紙を擴げて、K雜誌に約束の感想文を書き始めた。滅び行く都會といふ事から受けるしつとりした哀感が、自分の筆を滑かにはこばした。

　ペンをはこぶのに飽きの來た頃――九時頃だつた。靜かなノツクをして、室ボーイが這入つて來た。

『雨が降りまして、御散歩も出來ませんから、御退屈でせう』

二十五六の血色の好い彼は、彼自身が無聊さから來る人なつこさを、その顏全體に浮べて云つた。

『まあ、腰かけて、煙草でも喫つて行き給へ』

『はあ、ありがたうございます』

　昨年から半年ほど關西の方へ行つてゐたといふ彼は、物珍しげに、大阪京都、のホテルの話をした。彼が興味ありげなのに、自分は我慢して暫くそれを聞いてゐたが、やがて堪へられなくなつて來たので、

『一つ雨の夜の長崎でも見て歩くかな』と云つて、彼の話を遮ると、

『はあ、さうなさいまし。私が御案內いたします。どうせ夜は何も用がございませんから』と彼は呑込顏に立上つて、直ぐ自働車を呼びに行つた。

　自働車が來た事を知らせて來た時の彼は、背廣服に早變りしてゐた。

　自分は彼と一緒に自動車に乘つた。

　彼は運轉手に命じて、賑かな町、賑やかな町と撰んで通させては、『これがまあ長崎では、一番好い町なのですが、大阪、京都から見ましては、取るに足りません』と例の卑下した云ひ方で說明した。

『君は酒が飮めるかね？』

『はあ、少しは飮めます』

『長崎は料理がうまいところだと聞いたから、一つ話の種に案內して貰はうかな』

『ええ、よろしうございます』さう云つて彼は運轉手に向ひ、

『松亭に』

　賑かな町のとある角で自動車を下りて、敷石の敷いた橫丁を十二三間ほど步いた後で、彼はその松亭といふ料理店の玄關に、自分を案內した。ホテルの客でも案內しつけてゐて、彼が顏馴染にでもなつてゐるのかと思つてゐたが、さうでもなささうだ。

　彼は女中の後から、自分に先立つて步いて行き、座敷に通さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れると、火鉢を眞ん中にして、自分の眞向うにどつかとあぐらを掻いた。自分は彼が自分を案内して來たホテルのボオイであるやうに、女中から思はれたくないらしいそぶりが見えたので、彼が困るといけないから、彼の方をなるたけ見ないやうにした。

『兎に角、お酒と、何かうまいものを』と彼は云つた。

『はい。――誰を呼びませうか？』と女中は立ちかけて、中腰になりながら云つた。

『君の知つてる女はゐないのかい？』と自分が云ふと、彼はにやにや笑つてゐた。

『誰でもいいから、三人ほど呼び給へ』と自分は女中に云つた。

『此處が長崎では三番目位の料理屋です。これより好いのは、F樓などといふのがありますが』と女中が去ると、彼は説明した。

『いや、此處で結構。唯話の種だから』

隣りは大廣間らしく、婚禮の披露と見えて、飲めや唄への大騷ぎを演じてゐた。

自分が少しも酒を飲まないので、ボオイは窮屈らしく、一向盃を取り上げなかつた。併し時々不器用に猪口を口に持つて行く手振を見ると、彼も『少しは飲みます』などとさへ云へない程度の、下戸に近い男らしかつた。

やがて、若い妓が三人來た。十七八位から二十一二位までの年恰好で、酒のはづまない、默つてゐる客の前に來て、手持無沙汰にちよこんと坐つてゐた。――この知らぬ土地の子供染みた藝妓達に向つて、自分は何も話す話題がなかつた。それで女中のはこんで來る料理のあれやこれやに箸をつけてゐたが、ホテルで夕食を食べてしまつた腹には、別に食欲もなかつた。從つて噂に聞いてゐる長崎料理も、美味いのか不味いのか解らなかつた。

妓達は彼女等の間で話をし始めた。丁度隣りの婚禮が彼女等の間の話題になつて、一人が、『妾は屹度奥さんになつて見せる。二年經つたら奥さんになつて見せる。妾はどんなにお金貰つても、お妾さんは厭だ』といふやうな事を云ふと、一番年長の上唇の少し出た妓は、『妾はお妾さんでも構やしない。心さへ』と云つてぽんと胸を叩いて見せながら、『好きなら、何でも構はない』

そこに今一人の無邪氣な、何處か間の拔けたやうな若い妓は、一方の云ふ事に贊成して見たり、又他方の云ふ事に贊成して見たりするので、この『どうしても奥さんに』と『心さへ好

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きなら、お妾さんでも構はない』との一つの立場は、いつにたつても勝敗がつかず、暫くの間論じつづけられた。

一言毎に『妾は……妾は』と早口で云つて、時々『ばつてん』を挾む言葉は、自分には何の事かその意味が解らないやうなところもあつた。——意味を考へずに、その音を聞いてゐると、發音は九州の特徴ではつきりしてゐて氣持が好いが、併し調子が強いので、全體として雜然とした騷音に聞えた。

『どうしても奥さんになつて見せる』と主張してゐる妓は、まだ少し前までは半玉だつたと云つたやうな恰好をして、赤い背負揚を帶の上に高く出したりしてゐたが、その顏の輪郭のはつきりしてゐる通りに、その云ふ事も生々して、三人の中では一番に知識的な感じだつた。

芝居の話が出た時、

『妾は澤正大好き』と云つて、急に何か思ひ出したやうに憤然として、『中里介山が「大菩薩峠」を澤正に斷つたのは怪しからん』といきまき出した。

『ほう、君はそんな事を知つてるのかね』と自分は始めて彼女の方を見まもつた。

『妾は小說大好き。「大菩薩峠」も好きだけど、始めだけで、後は少しも面白くない』

『ふゝん、なかなか文學の事を云ふね』

『妾は菊地寛を好かん』

『妾は菊地寛大好き』と上居の出たのが躍起となつて反對した。

『妾はどうも好かん』

『ふう、それぢや君は誰が好きなんだね?』と自分が訊くと、彼女は言下に答へた。

『妾は小杉天外一番好き』

『ほう、小杉天外がね』と自分はその返事の意表外だつたのに頰笑んだ。

併し三人が一番面白いといふ事に意見の一致したのは、中村武羅夫の『青春』だつた。『あれは面白い』『あれは面白い』と三人は口を揃へて云つた。

その文學談に自分が退屈した頃、その一番生々した物の云ひ方をする赤い背負揚は、

『こなひだ久米正雄さんと片岡鐵兵さんとが長崎に來た』と云つて、再び自分の注意を惹いた。『片岡鐵兵さんは若いけれど、なかなかしつかりしてゐる』

『ほう、それで君が呼ばれたのかい』

『妾は麻雀に二人をつれて行つた』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『麻雀をやらせるところがあるのかい？』

『それや長崎は麻雀では上海よりも本場ですからね』と赤い背負揚は得々とし云つた。『此家にだつてありますよ』

『それぢや道具を借りて來ないか』

この旅の一夜を、長崎の藝妓と麻雀を圍むのも一興といふやうな氣がして、自分は云つた。

併し彼女等はその廣言にも似ず、甚だ下手だつた。一回一回彼女等の數をかぞへてやらなければならない事に閉口した自分は、東の風のまはらない間に退屈して、直ぐこの遊戯を中止してしまつた。

赤い背負揚とぼんやりしたのとが、我々の自動車に乗つて、ホテルまで送つて來た。彼女等はホテルの部屋をめづらしがつて洗面器などを叩いて見たりしてゐたが、テエブルの上の書きかけの原稿用紙を見て、

『あんたも何か書くのか？』と訊いた。

『あゝ、やつぱり久米君や片岡君の友人だ』

赤い背負揚はスウツケエスの名刺に眼をつけた。

『これがあんたの名か？』

『さうだ』

『知らんな』と彼女は首をひねつて、『この頃書き出したのか？』

『さうだ、この頃書きだしたんだ』

一緒だつたボオイが階下から茶をはこんで來て、そして部屋を出て行くと、彼女等は眼を瞠つた。

『あれは此處のボオイさんか』

自分は松亭のボオイの態度を思ひ出して、『うん』と答へるのが氣の毒だつたので、曖昧に笑つてゐた。

待たせてあつた自動車で、彼女等が歸つてしまふと、自分は再び原稿用紙に向つた。

自分は感想十一枚を書き上げて、ベッドに這入つた。

翌日正午頃起きた。自分は銅鑼をベッドの中で聞いてゐたので、例の洗面器で顔を洗ふと、直ぐ食堂に行つた。やつぱり自分の外に誰もゐない。――自分は朝食時を寢てゐてこの食堂に缺席した事が、ボオイに氣の毒だつたやうな氣がした。

食後、昨夜書いた原稿を書留にしてK社に送るために、郵便局に行き、それから町を散歩した。雨は降つてゐなかつたが、やつぱり暗雲が重く空を閉さしてゐて、險惡な天候だつた。風がかなり強く吹いてゐて、海岸通などは四月とは云へないくらゐに寒かつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分は何處に行つても、名所舊蹟を見る事に興味を感じない人間であるが、併し繪とか彫刻とか云ふものは、見る興味を持つてゐた。自分は長崎の舊いさうした美術を見るためには、永見徳太郎氏が書いた『長崎の繪畫』と云ふ本を捜す必要があると思つた。自分はその本を讀まうと思つてゐて、今まで讀まなかつたものだが、こんな機會に手に入れて置くのもいいし、そしてそれを讀めば、長崎の美術を見るのに、案内記になるかも知れないと考へた。

自分は昨夜自動車の通つた街筋を思ひ出しながら、賑かな町の方へ出て行つた。ある橋の上で擦れ違ひに自動車に乘つて行つた鳥打帽の少年が、ボルガの船唄を吹いてゐた。それから氣をつけて見ると、自分はその後町中で、ボルガの船唄の口笛を二三度聞いた。この外來の歌は、今や日本國中の流行唄となつて、カチユーシヤの歌のやうに行亘つてゐるかも知れないといふ氣がした。

自分は目抜きの通の本屋といふ本屋を一軒のこらず、『長崎の繪畫』を尋ねて歩いたが、何處にもなかつた。永見氏が長崎の人である事を思つて、不思議な氣がしたが、併し永見氏がさういふ本を出してゐるといふ事さへ知らない本屋が多かつた。自分は本の題が違つてゐるかと思つて、周到な尋ね方をしたが、これでも解らなかつた。

本屋といふ本屋の店先は、夏目漱石全集の廣告で目さましかつた。そして或本屋の店先には、又教科書を買ふ學生達が群がつてゐた。

目抜きの町は流石に相當の繁華をしてゐるが、何處かに消極的な、活氣のなさが漂つてゐた。自分は何といふ事なく京都の消極的な感じを思ひ出した。自分は京都の風光を愛しながら、京都の町の消極的な暗さを好かない。と同じやうに、この亡び行く都會を歩いてゐると、わけの解らぬ憂鬱を感じて來た。

長い賑かな通の端れの、魚の匂ひのする町まで行き、そこから再び引つ返して來ると、繁華な中でも一番繁華な町中に、突然三台の自動車が向うから異樣な人物を乘せて走つて來た。一番最初のには樂隊が乘り、ドンドンブカブカ町の靜かな空氣を掻き亂しながら走つて來る。綺麗な顏をした運轉手は、後から樂隊にガンガン囃し立てられるためか、それともこの町中に晒しものとして雇はれた事の恥しさからか、首を横に傾げ加減にし、顏を眞赤に緊張させて、ハンドルを握つてゐた。

次の自動車にはいろいろの假面をかぶつた男達が乘つて、走つて行く車の上で手振り足振り踊つてゐた。そして最後の車には、手拭を襟にかけた娘達が乘つて、車上から往來に何か赤い

ビラを撒いてゐた。それを又店々から中僧や小僧や、中には紫の仕事服を着た年頃の娘までも走り出て來て、爭つて拾つてゐた。

自分は丁度自分の肩のところにフワリと飛んで來た一枚が掴めたので、それを讀んで見ると、『カツフエエ、タイガア、開店披露』と書いてあつた。――安來節の一行でも乘り込んで來たのだと思つてゐたら、カツフエエの宣傳だつた。

自分は歩いて行く中に、そのカツフエエ、タイガアなるものの前に出た。一寸這入つて見ようと思つたが、止めて、それから半丁ほど行つたところにある或カツフエエに這入り、紅茶を命じた。家の中ががらんとして、テエブルが疎らに置いてあり、眞ん中の板の間は廣く開けてあつた。カツフエエらしい裝飾もしてないやうな家だつた。

『長崎にも大分カツフエエがあるんだね』

と自分は紅茶を持つて來た女給に云つた。『今町を歩いてゐたら、タイガアといふのが自動車でビラを撒いてゐたぜ』

『ええ、あすこが前からやつてゐたんですが、今度新築して、今日から開店したんですの』と彼女は殆んど東京言葉に近い言葉で答へた。『でも、カツフエエばかり澤山出來ますけれど、何處も此處も皆駄目ですわ。――長崎はもう駄目でございます』

『……』と自分は昨日から度々聞いたこの言葉が、此處でも亦繰返されたのを聞くと、何も云はずに唯うなづいた。――長崎はもう駄目でございます。何といふ哀調を帶びた言葉だらう。

自分は急に溫泉ケ岳を思ひ出して、その道筋を訊いた。彼女は汽車と自動車と船との三つの道を説明した後で、

『雲仙はまだ駄目でございませう。寒くつて。つつじが咲くやうにならなければ、お出になつても仕方がないでせう』と附加へた。

自分はそれも面倒になつて來た。

するとこの都會にかうしてゐるのが、急に厭になつて來た。永見氏の本でも見つかれば、美術を見てまはる興味もあるが、アテもなく寺から寺を廻つて見ても仕方がないといふ氣になつて來た。

自分は汽車の時間の都合が好かつたら今夜、それでなければ明日、直ぐ此土地を發ちたいと思ひながら、急ぎ足にホテルの方へ歩き出した。

（三年四月）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

邪眼記

松村武雄

△

人間の眼は恐ろしい

舊約全書の『箴言』第二十三章に、

『惡しき目をする者の糧を食ふことなく、その珍饈を貪りねがふこと勿れ。』

と戒めてゐる。沙翁の『戀の骨折損』第五幕に、婦人たちが貴族から贈られた戀の記念章をつけてゐるのを見たビロンが、ロザライン姫に對つて、

『どうか、あの三人の體に「主よ、憫み給へ」とお書き下さい。三人とも冒されてゐます。心臟に惡疫が潜んでゐます。あなたがたの目から移つた傳染病ですよ。』

と叫んでゐる。近松巢林子の『大織冠』にも物凄い目が活躍してゐる。第一段で忠臣山上次官有風と逆臣入鹿とが眼力くらべをして、有風が先づ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『四角に切れたる兩眼を、八角に見出し、向ふをくわつと睨めつくる。折ふし南門の軒に止りし番の鴉、念力の眼に打たれ、羽を叩き身を縮め、かつぱと落ちて死してけり。』

といふことになると、入鹿も負けてはゐまないで、

『明星のやうなる眼を開き、きつと睨みつけければ、南門の棟瓦、作り据たる赤銅の唐獅々、揺めき鎔け湯となつて、軒に滴り流れしは、恐しかりける眼力なり』

と、大變なことになる。更に第五段で、鐵の檻から放たれた猛虎が、萩の戸の片隅に入鹿を追詰めて、あはや噉ひかからうとする途端に、

『入鹿が最期の念力に睨殺して除くべきと、虎に向つて拳を握り、はつたと白眼む眼の光、さしもの猛虎毛を伏せて、じりりじりりと尻込す。撓めば寛り、寛れば睨み、とどろとどろと小足を使ひ、而も振らず瞬ぎもせず、吼り吽つて睨合ふ、虎と入鹿が根比べ、猛虎は睨み伏せられて、一文字に逃歸り、仁壽殿の軒近き一叢竹にぞ隱れける。』

とある。更に愛蘭の傳説にも、バロルといふ『惡しき日』の持主があつて、一睨みに對手のものを斃してしまふ。ミアダ王なども、自分は、世に珍らしい寶劍を手にしてゐるから、バロルの眼懼るるに足らずと傲語してゐたが、さて睨まれる段になると、やはり他愛もなくころりと參つてしまつた。勇敢な一漢子がたまりかねて、巨石を投げつけてバロルの怪眼を叩き潰してしまつたので、やつと一世を震撼させた目の禍が熄んだとある。希臘の神話に現れる蛇髮の妖女メデュサの眼に睨まれたものが、忽にして冷やかな一塊の石に化してしまつたといふことは、誰でもよく知つてゐるところで、彼の女を屠りに出かけた稀代の英雄兒ペルセウスも、これには甚く閉口し、その眼を避ける爲めに、後向きになつて近寄り、ヘルメス神から授かつた楯の面に映る彼の女の姿をたよりに、突如一擊してその首を斬り落さなくてはならなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或るものが恐るべき目を持つてゐるといふ記述が、かやうに多くの民族の文藝に現れてゐるといふことは、さうした目が、個人の單なる作爲若くは空想ではなくて、民間の實際的信仰觀念に根ざしてゐることを思はせるに充分である。

舊約全書のところどころに現れてゐる箴誡が、總じて民間信仰の反映であることは、碩儒フレーザー氏の『舊約全書に於ける民俗』に待たなくても、すぐに判る。名高いモーゼの『十誡』などはまさしくさうである。『惡しき目をする者の糧を食ふ勿れ』といふ箴言も、固より空想の産物ではなかつた。恐るべき目は、ソロモンの時代から今日の猶太人まで生きつづけてゐる實際の信仰である。英國でも、黑死病がはやる時には、この病に冒された者の上吊つた目に睨まれると、忽ち傳染して死んでしまふと信ぜられた。『戀の骨折損』で、ビロンが洒落れのめしたのは、この信仰をうまく採り込れた沙翁の手柄でなくてはならぬ。巣林子の『睨み比べ』が、實際の信仰を自家藥籠中のものにしたのか否かは、はつきり斷言しかねるが、バロルの眼力が、愛蘭民衆の紛れもない信仰であつたことは、エルトンの『英國史の起原』が立派に證據立ててくれる。フリユーゲルは、その著『多面的生殖器崇拜象徵と男根割除錯綜』に於て、メデュサの頭に、近頃大流行の精神分析學的な解釋を加へて、この蛇髮の女怪の頭は、畢竟するに、一個の『男根象徵』である。男性の魔の頭は一の『男根象徵』である。男性の性慾的追迫から女性を保護するところの陰莖の象徵である。これを目撃するものは、情慾の衝動を喪失してしまふ。永遠の處女神であるアテナがこの頭をその胸甲に着けてゐるのは、それがためであると云つてゐるがこれは飛んでもない、的をはづした解釋である。希臘人は古くから『惡しき目』の災をよく心得てゐた。噓と思ふなら、テオクリツスなどを繙いて見るがいい。彼等はかうした目をオフタルモス・バスカノス（ophthalmos baskanos——『凶惡な目』の義）と呼んで、太だしく忌み懼れてゐた。ゴルゴンの一人としてのメデュサの目は即ちその信仰の現れの一つであつた。そしてゴルゴンの頭を鑄つた金物を、自分たちの胸にかけて、惡しき目の災をそれで禦いでゐたものである。いはゆるsimilia similibus curantur ——『類は類によつて醫す』の法則に従つて、ゴルゴンの凶惡な目を以て他人の凶惡な

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

目を克服せんとしたものである。この風は、中世紀まで歐羅巴のもろもろの國に行はれてゐた。アングロ・サクソンの王者たちも、貨幣の面にゴルゴンの頭を刻ませて、惡しき目を克服する大切な護符となした。

△

『心の窓』などいふ稱呼の下に珍重がられてゐる『眼』なるものは、いつも優しい思を傳へる愛すべき媒體であるとは限らぬ。それはまた恐るべき害毒の放射原體であるとして、古くから世界の到るところで、人々を怖毛立たせたものである。さうした眼がいはゆる問題の『邪眼』である。

邪眼の力は廣大無邊である。人間でも鳥獸でもこれに睨まれると、忽ち息の根がとまつてしまふ。ありとある事物を壞し岩が根でも裂くといふのだから始末におへぬ。亞弗利加のコゾラに住んでゐたエルザナンといふ男などは、おのが邪眼によつて、二年間に八十人の男女を殺したと云はれてゐる。だが、自分はここで邪眼の實例を並べ立てるつもりではない。(實例が知りたい人は、エルスウオージイの『邪眼』やゼリグマンの『目の魔力』などを繙いて貰ひたい。それから南方熊楠氏の『南方隨筆』にも多くの例が載つてゐる。)自分が話したいことは、他にある。

すべての人間が邪眼の持主といふのではない。だが誰が邪視力を具へてゐるかは、災が起つて見なければ判らぬから厄介である。親が邪眼であつたために、自分では愛撫の眼差を投げかけたつもりでも、その子が片端から斃れてしまふことがよくあると、ものの本に記してある。一人の愛情深いスラブ人が、ふとしたことから自分が邪眼をしてゐることを知つて、子供を害なふことを懼れる餘り、自分の眼を潰してしまつたといふ哀れな話も存してゐる。

邪視力は性によつて違ふと考へられてゐる。古代にあつては希臘人でも羅馬人でも、女性を目してより猛烈な邪眼の持主と信じてゐた。ヴァロなどは、眞面目くさつて、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『女はおのが激情に手綱をかけることが出來ぬ。だからその眼の災は男より一層強猛である。』と一喝してゐる。ところが敬虔と任侠と女人禮拜を標語とした中世紀の騎士道が、この傳統的な信仰を逆轉させた。女人の明眸に邪惡な力を見るのは、大きな女性冒瀆であるとでも考へたのか、近代では男の方がより兇惡な邪眼の所有者とされるやうになつた。

邪眼の災の力は、その持主の意志を超越して働くから厄介である。憎みや妬みの思を込めたとき、邪視力がより強くなるのは言ふまでもないが、さうした感情が起つてゐない場合、いや災を與へたくないといふ意念が動いてゐても、双の眼は當人の心持に無頓着に依然としてその毒手を恣にする。フロマンドが『申命記』第二十八章第五十四節に、

『汝等のうち柔か育ちにして軟弱なる男すらも、その兄弟と、その懐の妻と、その遺れる子女とを疾み視……』

とあるのを、持主の意志に反する邪眼の禍に觸れたものであるとする見方は、一寸肯き難いやうな氣がするが、しかしさうした觀念は、昔はもとより、今日でも歐羅巴の田舎者の間に屢々見出されると、例のエルズウオージイが言つてゐる。

もつと惡いことには、賞讃そのものが邪視力を意味するからやりきれぬ。

民草を祝福することを天職としてゐる羅馬法王さへ、この現象から自由であることが出來なかつたのは、何といふ皮肉であらう。一千八百四十八年伊太利は墺太利人と戰を醸して、つづけさまに勝利を得てゐた。が、法王がそれを聞いて、これを嘉賞すると、それ以來急に形勢が惡くなつた。同じ法王が聖アグニースの大祭典に列して、群る人々を祝福すると、俄然床が落ちて、大勢のものが壓しつぶされた。同じ日に聖母堂に訪づれて、そこに働いてゐる職人たちを褒めると、間もなくその一人が足場から轉げ落ちて死んでしまつた。これみな賞讃から來る邪視禍であるとして、伊太利民衆の心に烈しい激情を起さしめたとある。

グラント女史は、自分の生れ故郷である蘇格蘭の往時の風習を偲んで、感激無量といふ形で、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『自分の若い時代のハイランドに於ては、友達を誇り若くは祝福することは、之を呪ふことゝして受取られ、乳母の腕にある幼兒を賞讃することは、その兒の頭上に災を與へる望に出たといふ疑を惹き起した。』

といふ意味のことを述べ、そしてさうしたひねくれた邪推は、蘇格蘭人が永い間な陰氣で無慈悲な『自然』にさいなまれた爲めであると斷じてゐるが、強ちさうとばかりは考へられぬ。賞讃が呪咀の代用物であるとする觀念は、何も蘇格蘭に限られたことではなく、多くの民族に共通なものであるからである。昔の羅馬人は、人や物を褒める場合には、いつも『御免下され』といふ極り文句をつけ足すのが常であつた。今日でも伊太利の多くの地方で、賞讃の言葉は屢々

Si mal Occhio non ci fosse.

なる陳謝の辭に伴はれる。つまるところ『私の賞讃は邪視の災を含んで居申さぬ』と、豫め斷るのである。こんな場合に神の名を擔ぎ出して、不慮に起る邪眼禍を防ぐやり方が廣く行はれてゐるのは當然である。かくて土耳古人は Mash-allah と唱へ、愛蘭人は glory be to god と唱へ、英吉利の百姓は Lord be wi' us と云ひ、伊太利人は grazia a Dio と云ふ。いづれも邪視以上のより強い力を引合に出して、その保護の下に、おのが持つかも知れない惡しき目の禍を避けようといふ心づかひの現れである。

かうした心づかひをしても、往々にして厚意の賞讃が思はれぬ災を對手に與へる場合が少くない。そこで幼兒を抱いた母親や乳母は、出來るだけの注意を拂つて、他人のお褒めから幼兒を引きはなさうと努めたこと、猶月の光を幼兒に浴びさせると、氣が狂つたり病氣になつたりするといふので、月夜に子供を外に出すことを恐れ憚つたと同樣であつたといふから、子を持つものの心配は、いつになつても絶えることはあるまい。

更にもつと困つたことには、自分で自分を褒めたたへても、邪視の災にひつかかるのであつた。ナルキッソスといふ美女が、澄みきつた泉に映つた自分の容貌に惚れ込んで、日に日に痩せ衰へて、はては一莖の水仙に變じたといふ希臘神話の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

如き、近頃流行の精神分析學の創始者ジグムンド・フロイドに云はせると、無意識的性欲の一つの形相としての「自己讃美錯綜」の好い例であるが、邪眼研究者の随一であるエルズウォージイは、これを解して、自分の顔をあまり惚々と見詰めてゐたために、われとわが邪視力にひつかかつたのであるとなしてゐる。

エウテリダスは昔て麗しかりき。
美しき頭髪をしたりき。
さあれ流に映るおのが面貌（おもは）を嘆賞して、
わが身の上に恐ろしき魔力を投げつ、
かくて彼は病に痩せさぼらひぬ。

と歌はれたエウテリダムスも、邪眼研究者から見れば、疑もなく自己讃美にうつつをぬかして、おのれ邪視に捉へられたものでなくてはならぬ。テオクリツスの詩に現れるダミタスといふ男は、同じ自惚漢でも、ナルキツソスやエウテリダスよりか賢明であつた。此の男も亦水に薫るおのが姿に惚れ込んだ一人であるが、それを眺めるときには、いつも自分の胸に三度唾を吐きかけた。これは邪眼の災を厭勝する呪術としてよく知られてゐたものである。

人間は自惚心の強いもので、何でもかでも自分たちを中心にして考へなくては氣がすまぬといふ悪い癖を持つてゐる。だから人間に邪眼があるとすれば、神々の間にも當然それがなくてはならぬと考へた。希臘人の信仰によると、オリムポスの神々も時々水鏡で自分の容貌に見とれて居るうちに、いつの間にか目の災にひつかかつたさうである。そこでヘルメス神などは、用意周到に一本の杖をいつも身邊に置いて、さうした失敗を豫め防いだとある。

△

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

邪眼に對する恐怖は、古往今來いろんな防禦法を人の子に考へさせてゐる。迂濶にしてゐると、あたら命を失ふといふ大問題のこと故、各民族があるたけの智慧を絞つて、邪視力退散の法を案出したのは尤千萬な人情であらう。

邪眼防衛の一つは、他力本願の形で現れてゐる。それには神に縋るのが第一で、希臘人や羅馬人は女神ネメシスに祈ると、いかな邪視力も施すところがないと信じてゐた。基督教徒は勿論『主』を擔ぎ出す。

邪眼は惡魔との契約によつて獲得されたものであるといふ考方は、自ら邪視力の恐怖者に惡魔が忌み嫌ふのを身に着けさせることになつた。狼の尻尾、鬣狗の前脚、バツカリスとかバツカリとか呼ばれる、臭の強い草などがそれであつた。玉葱も結構な邪眼除けであるとされた。なる程臺所の女中たちにほろほろ涙を流させるこの植物にあつては、虎を縮ました入鹿も到底眼をこすつて退散せざるを得ないであらう。

最も人氣のあつた防衛法は、護身符（アミュレット）を體につけることであつた。これにはいろんな種類があり、そしてその一つ一つが民間信仰に裏づけられてゐる。

先づ第一に寶石である。フレデリック・クンツの『寶石に關する珍奇な民俗』をめくると、邪眼の持主を嫌がらせる寶石がいくらも現れて來る。一番有力なのは瑪瑙である。この石には眞中に白味がかつたところがある。それを守護靈の眼玉と見立てて、その眼玉が油斷なく警戒してくれるから、邪視力何ぞ恐るるに足らんと心得たものである。ダイヤモンドはその燦然たる光輝によつて、邪眼を壓倒するといふので、よく身につけられた。二世紀頃の詩に

護符としてダイヤモンドを帶びるものは、
邪眼もこれを害ふ力を有せず、
君主もその人の意に逆はず、
神々さへその人の望みを滿さむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とあるから、随分古いものである。アッシリア——ニネヴエ——には、三種の眼を表してゐるところから、これを信仰と希望と運命とを表してゐるものと見なし、從つてこれを身につけてゐると、邪眼の持主も手の出しようがないと信ぜられた。面白いのは猫眼石である。この石は、これを帶びる者の視力を明かに鋭くするばかりでなく、これを見るものの眼を暗くし若くは盲にさへする力を持つてゐると信ぜられた。邪眼を凌ぐにはあつらへ向きの重寶な石である。しかし重寶なものは、惡賢い輩に惡用されるといふ世間哲學の原則に漏れず、エリザベス女王の御代にステフエン・バツトマンがものした書物を見ると、盜人連が好んで猫眼石を身につけてゐたといふ。人を眠らせる爲めには、處刑された男女の手を切り取つて、指の先に蠟燭をともす程の工夫をする盜人たちのことだ。猫眼石によつて他人の眼をつぶしてやらうといふ考を起したのは無理からぬことである。

それから邪眼の持主の注意を他にそらすといふ目的からも、或る種の護身符が産れ出てゐる。一體邪眼の力は、その最初の一瞥に最も强く發揮せられるものであるといふのが一般の考へである。だからその最初の一瞥を避ける爲めに、人々はひどく苦心した。苦心の結果いろんな工夫を案出した。即ち

一　好奇心を起さしめるもの

二　笑を催さしめるもの

三　不快の念を釀さしめるもの

などを造つて、身につけることにした。さうすれば、邪眼の持主は、その方に氣をとられて、毒々しい視力がいつの間にか弱つてしまふといふのである。

歐羅巴諸國の博物館を訪づれたものは、そこに奇怪至極な形をした首飾を見出すだらう。人間の顏から鳥の脚が生えて、禿げ上つた額がぬつと伸びて馬の頸になつてゐる奴だの、二匹の動物が背中合せにつながりあつてゐる奴だの、まる

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で化物展覧會でも見に行つたやうな氣持になる。それが邪眼除けの大切な發明品で、こんなものを身につけてゐると、邪眼はどうしても先づこれに注がれざるを得ない。そしてそれを眺めてゐるうちに、可笑しくなるか、嫉氣がさすかして、肝心な毒氣が脱けてしまふといふのが、發明者たちの手前味噌であつたのである。自然民族がよく頭に素晴しい鳥の羽根を突立つてゐるのも、一つには、屋根の上の避雷針と同じく、邪視力をそこに引きつけようとする試みである。我が國の神事にも『一つ物』と唱へて、祭禮に大切な役目をつとめるものが、山鳥の羽根、若くは海、鷹の類を身につけたり笠につけたりして參列する風習があつたことは、人のよく知るところであらう。これ等の『一つ物』は、禁厭の意味を含んだ一種のタブーであつたとか、尸童(よりまし)と深い交渉を持つてゐるとか解釋せられるのが普通であるが、自分は邪眼除けの意味も併せ含まれてゐたらうと考へる。祭禮には大勢の見物人が集る。その中にどうして邪眼のものが交つてゐないとも限らぬ。殊に大切な役目をつとめるものほど、目をつけられ易い。かうした理由から、大勢の前に自分の身を曝すものは、どこの國に於ても古くから豫め何等かの方法で邪眼を禦ぐことを心がけてゐたものである。

そこで問題が假面(マスク)に移つて來る。假面を被ると、第一に邪眼にわが顏を曝さなくて濟む。それから假面の形相をおどけたものにしたり、恐ろしいものにしたりすることによつて、邪眼の持主を腹を抱へさせ若くは眼をそむけさせることを出來る。假面の起原に關しては、さまざまの説明もあらうが邪眼除けといふ點からも眺めて見る必要がある。マスク(mask)といふ名稱そのものからして、希臘語バスカ(Γaska)の古い形の崩れたものである。そしてバスカから抽き出されたバスカニア(Baskania)は實に護身符を意味してゐる。古代希臘の芝居で、俳優たちが悉く假面を着けてゐたことは、誰でも承知のことである。そして普通の解釋では、青天井の下、廣大な劇場で夥しい觀客を相手のことだから、素顏では、目、口、鼻すらはつきり見えぬ。そこで顏面の擴大として假面を被るのだと云ひ、また芝居そのものが、デイオニソス神の祭儀から發達したものであるからだとも云ふが、しかし邪眼除けの意味が含まれてゐたことは、いろんな點から見て、疑ふことの出來ぬ事實であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さすが獰猛な邪眼氏にも、やはり弱身がある。男根、女陰の前に出ると、蛇に見こまれた蛙のやうに、から意氣地がなくなる。これを心得た人間は、早くからこれ等の性器を邪眼退治に利用してゐる。ルーヴルやナポリの博物館、コレギオ・ロマノ博物館などに入つた程の旅人なら、きつと陽物の形をした垂飾、頸飾がいくつとなく列べられてゐるのに氣がついたであらう。同じ性器でも、女陰は殊に破邪の力が強いとせられるところから、今日でも伊太利あたりでは、拳を固めて、食指と中指との間から拇指を覗かせた形——これは我が國でも女陰を意味する——をした垂飾が店先で賣られてゐる。エルスウオージー氏はこの怪しからぬ垂飾を購ふ度に、わざとしらばくれて、『これは何にするものかね』と尋ねて見たさうであるが、賣手の返答はいつもきまつて『邪視を防ぐため』であつた。即ち羅馬では Contra malocchia と答へられ、ナポリでは Contra la jettatura と答へられたと云ふのである。

先年巴里で或る繪畫展覽會を觀た自分の一友人が、裸形の女の繪の多いのに眼を圓くして、佛蘭西人は女陰曝露症に罹つてゐると叫んだが、我が國の神話も亦一人の女陰曝露患者を持つてゐる。天鈿女命（アメノウズメノミコト）がこれである。彼の女は、天照大神が天岩戸にお隱れになつたときに、

『天之岩屋戸に桶伏せて踏みとどろかし、神懸りして、胸乳をかき出で、女陰（ほと）をおしたれき』（古事記）

とあり、更に天孫瓊々杵尊が大八洲にお降りになるとき、天八衢に立ち塞つてゐた猿田彦神に對つて、

乃露二其胸乳一。抑二裳帶於臍下一而笑噱向立』（日本書紀一書）

とある。おそよ女陰は惡魔、害蟲などの大敵で、ヴエスピアスの噴火に命を落した羅馬の大學者プリニウスの『博物志』にも果樹園に害蟲がついたとき、女を裸形にして園を一巡りさせると、蟲が悉く落ちるとあり、琉球の一傳說にも、女が陰部を鬼に見せると、鬼にしりごみし始めて、はては崖から墜ちて死んでしまつたとある。女陰がかくも烈しい驅魔の力を持つのは、破壞力の反對原則としての生成の原動力であると信ぜられたためであらう。さうすれば桃が支那に於て、林檎が歐羅巴に於て、共に多產の樹であるところから、邪氣を拂ふとされたのと趣を同じうしてゐると云はなくてはなら

ぬ。尤も女陰を見ると、何となく可笑しくなつたり、若くは嫌な氣になつたりするところから、破邪の力がこれに内存すると考へられるやうになつたと解釋する人もあるが、さうした考が第二義的のもの、後代的のものであることは、ウエストロツプ氏の『原始的象徴』やクローレイ氏の『神秘な薔薇』の説くところによつて明かである。さうしたなら天鈿女命が、『眼は八咫鏡の如くにして照り輝くこと赤酸漿に似たる』猿田彦神に陰部を見せたのも、邪眼を威壓するもくろみであつたに違ひあるまい。彼の女が目勝神（マカツ）と云はれたのも、邪眼を克服する神の意味であると考へる外はない。そして克服の手段と云へば、即ちおのれの大事なところを見せることとであつたらしい。

八

邪眼はどうして生れるかといふことは、興味の多い問題である。この問題については、古くからいろんな解答が與へられてゐる。

先づこんな方面にはいつものさばり出る『惡魔』が引合に出されてゐる。ルーヴァンのジエスイット教徒のマルチン・デルリロの説によると、

『邪視は、惡魔との契約によつて獲得せられる力である。』

といふ。『ファウスト』や『ウインの大學生』の型をふんだ中世紀的、傳説的な解釋である。しかしその契約が、型の通りに死後自分の靈魂を惡魔に與へるといふ旨の血書を必要としたか否かについては、デルリロ先生沈默を守つてゐる。

パレスチン地方では、淡藍色の目に生れついた男が危險人物であるとされてゐる。その上に腮鬚が無いと來ると、その邪視力は最も強いさうである。『生れたその兒が不惑でござる』で、そんな目色に産み落された子供こそいい迷惑である。で、例の『類は類によつて醫す』の原則に從つて、シリアの婦人連は藍色の珠數を體に飾つて、邪眼の力を殺ぐ。殊に綺麗な頭髮を持つ乙女などは、淡藍色の眼に睨まれては、折角自慢の髮の毛が臺なしになるといふので、わざわざ藍色のリ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ボンを結びつけてゐると、ステルン氏がその著「土耳古人の醫法、迷信及び性的生活」の中に書き記してゐる。アビシニアでは、製陶師と鐵細工師とが、特に邪眼の持主であると信ぜられてゐた。彼等は人間の姿で他人に災するばかりでなく、鬣狗その他の獰猛な獸に自由に變ずることが出來、爛々と光る惡獸の目で人々を睨み殺すとされてゐた。だから彼等はみんなから恐れられ嫌はれて、神聖な祭禮などには、いつも列席お斷りを食つたさうである。ナサニエル・ピヤースといふ亞弗利加旅行家の話によると、彼の友達が實際鬣狗に變つてゐる製陶師を見たさうで、製陶師たちはブダ人の後裔たる印として異様な耳環をつけてゐるものであるが、その鬣狗の耳にもちやんとそれが篏つてゐたと云ふ。少し面妖な話で、自分はこれを保證しかねるが、しかし紀元前五世紀にヘロドトスが、臆病な自分に代つて、確かとその眞實さを受合つてゐる。この希臘の大歴史家の云ふところによると、ブダ人は心のねぢけた妖術師で、毎年一日が豺狼に姿を變へたさうである。

あるものは、心理學者らしい口吻の下に、眼を通して嫉心が作用するのであるといふ。希臘のヘリオドロスは說明して曰く、嫉妬の邪氣はたやすく大氣のうちに放散する。邪氣に汚された大氣は、運惡くこれにぶつつかつたものの眼を通して、その心身を腐蝕させると。碩學ベーコンもヘリオドロスの亞流であると云へるだらう。彼はあの名高い論文集の第十一編『嫉妬につきて』の中で、

『愛と嫉みとは共に强烈な望みを持つてゐる。兩者は直ちに想像と暗示となつて、たやすく眼に入り込んで來る。……

われ等は聖書が嫉妬を呼んで邪眼となしてゐるのを見る。』

と云つてゐる。

更にあるものは、科學者らしい口振で、或る種類の眼は、おのづからにして一種の有害なラヂオ（radio perniciosa）を放射する。そして催眠的な力によつて、對手の神經組織に作用するのであるといふ。エルズウオージイ氏は、一人の乙女――それは溫良で、敎養があつて、完全に正氣であつた――が、ある日知合の醫師と顏を合せると、忽ちふらふらとなつて、拳銃を取り上げるなり、醫師が永年心密かに憎惡してゐた一人の男を射殺したといふ事件や、或る催眠術師の婦人が、幾多

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の牛津大學生を眼の力で自由自在に操つたといふ事件などを舉げて、

『邪視力は要するに我々が今日呼んでメリメリズム若くはヒプノチズムとなすところのものに外ならぬ。』

と斷じてゐる。

最後に人類學者で、この頃物故したイー・エス・ハートランド氏は、その著『儀祭と信仰』の中で、邪眼の起原に對して、人類學的な解釋を試みてゐる。近頃宗教學、人類學、さては社會學などで喧しくなつてゐる一問題は、『神秘的勢能』の問題である。自然民族の心理を新しく觀察し直して行くうちに、學者たちは、多くの未開人が、人格的なものの背後に或る非人格的な力を認めてゐるといふことに氣がついて來た。イロクオア族がオレンダと呼び、アルゴンクイン族がマニツウと呼び、オーマハ人がワコンダと名づけ、メラネシア人がマナと稱してゐるものがこれである。かやうに呼名はさまざまであるが、要するに

一　宇宙には非人格的な、神秘な、不明確な力が普ねく行き渡つてゐる。

二　そして人間、動物、事物にその神秘的な勢能が潜勢力若くは雰圍氣として不可分離に結びついてゐる。

三　あるものが他のものに、熟練、忍耐、その他いろんな點で優れてゐるのは、即ちこの神秘的勢能の多少による。

といふのである。そこでハートランド氏は、問題の邪眼を目して、この力の信仰から來てゐると解釋した。即ち或る人間に内存してゐる神秘的勢能の有害な部分が悉く双の眼に集中したとき、邪眼の作用が現れると、自然民族は考へてゐる。從つてまた彼等は、いろんな手段によつて、これと反對の神秘的勢能を働かすれば、邪眼の作用を一時的に無効にしたり、永久に消滅させたりすることが出來ると考へてゐる、と說いてゐる。

こんなにいろんな解釋があつても、自分にはまだ充分に納得が出來かねる。時の古今を問はず、洋の東西を論ぜず、普く邪眼の信仰があつたとすれば、單なる迷信とばかりすげなくけなしつける譯にも行きかねる。何とか片をつけて見たいが、自分の手に負へぬ問題だから仕方がない。しばらく記して識者の明快な解明をまつことにする。（三、五、一二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯者雜記

△

特別議會は終了した。あの醜態を見せつけられたのでは、眞面目になつて批評できないのも無理ではないではないか。バカバカしいツてこれ位バカバカしい議會もあるまい。嘘ばつかり吐いて國民教育も聞いて呆れる。何處に健全なる思想があるのだ。今に皆が皆愛想をつかして相率いて過激思想に走つたら、其責任は今日の爲政者が負ふべきだ。

△

谷讓次君からは未だ原稿が到着しない。今月號には必ず掲載するとお約束しておいたがもう一月待つて貰ひたい。谷君は恐らく責任を感じ過ぎてゐるに違ひない。その代りキツト良いものを送つて來るに相違ないから。

○

餘りに陰慘な世相だ。どつちを向いても梅雨期のやうなじめじめした空氣だ。何時になつたら明るい太陽の光が仰がれるのだらう。人人の心は漸く重い暗さの壓迫に堪へられなくなつてゐる。明るい世の中、公明な社會への熱烈な要求は人々の心に強く深く目ざめてゐる！

○

餘憤は單なる餘憤では終らない。人々の胸に炎ゆる憤りの念をして爆發を未然に防がねばならぬ。「餘憤錄」一に於ける諸家の憤物たる不平を聞け。人々は何を憤つてゐるか——その代表的な聲が「餘憤錄」だ。

×

特に性的記事を中心とし婦人雜誌最近の傾向に就て諸家の批判を乞うた。性に關する眞面目な研究と正しい理解とは勿論必要だ。併し其が單にコムマアシヤリズムの手先としてのみ使はれ、最も批判力の弱い模倣性にのみ富む階級に對して與へられる時、世の中にこれ程危險な事はない。一般輿論に愬へると共に雜誌當事者の反省を必要とする點である。

×

第一篇發表と共に異狀の期待を寄せられた眞山氏の長編力作、本號には百枚を登載の筈であつたが、作者の都合で豫定の半分しか發表出來なかつたのは遺憾である。次號を大いに期待して貰ひたい。

◇

うつとうしい陰鬱が續きます。降りみ降らずみなど云ふところは、丁度此頃の出鱈目な政界に良く似てゐます。あんな曖昧的な政情は、批評雜誌の編輯者を惱ます事頻りです。あんまり馬鹿々々しくて批評の對象にもなりません。

◇

對岸の支那問題は大分騷がしくなりました。今度の對支問題こそ、組閣以來これといふ仕事らしい仕事をしなかつた田中內閣にとつての一大試錬でせう。それに比べると、雜誌編輯者は毎月毎月が一つの試錬です。一つすがすがしい青葉で眼を洗つて、これから次の試錬へ驀進します。

□

婦人雜誌のポルノグラフイレン、眉を顰むるもの我等のみならんや、だ。ヴエデキントの「春のめざめ」は藝術にして、婦人雜誌の性的記事は商品なり。賣らんかな、面白い——婦人雜誌を斯くあらしめしもの、編輯者の罪か、將た讀者の罪か？　敢て識者に訴へ、輿論を喚起せんとする所以である。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

CHEVROLET

新シボレー號の新しい作動

シボレー號が世界の自動車中最大の製造高を示し、愈よ斯界の指導者たる地位を確立しました理由は、間斷なき機械の改良によつて、より良き作動とより大いなる經濟とを購買者に與へんとする根本方針を最も忠實に實行してゐるからであります。

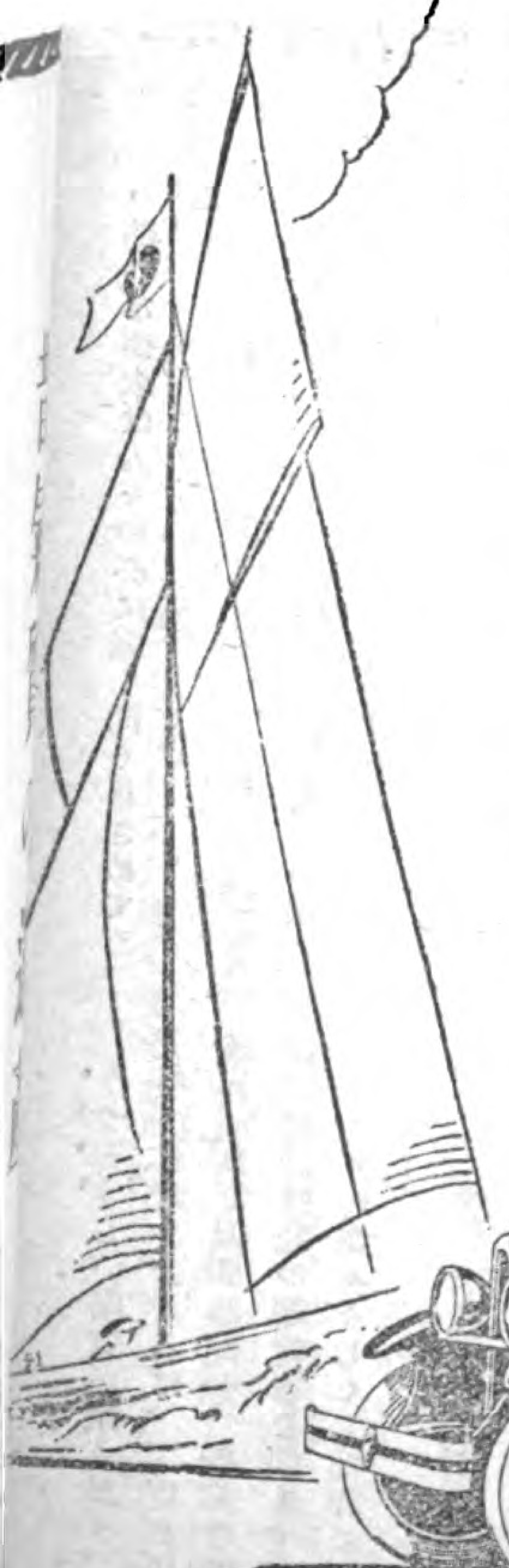
「より良くより大きく」なつた一九二八年式新シボレー號は幌型もセダン型も、操縱の安全と運轉の經濟と作動の優秀とを保證する左記の改良點を有してゐます。

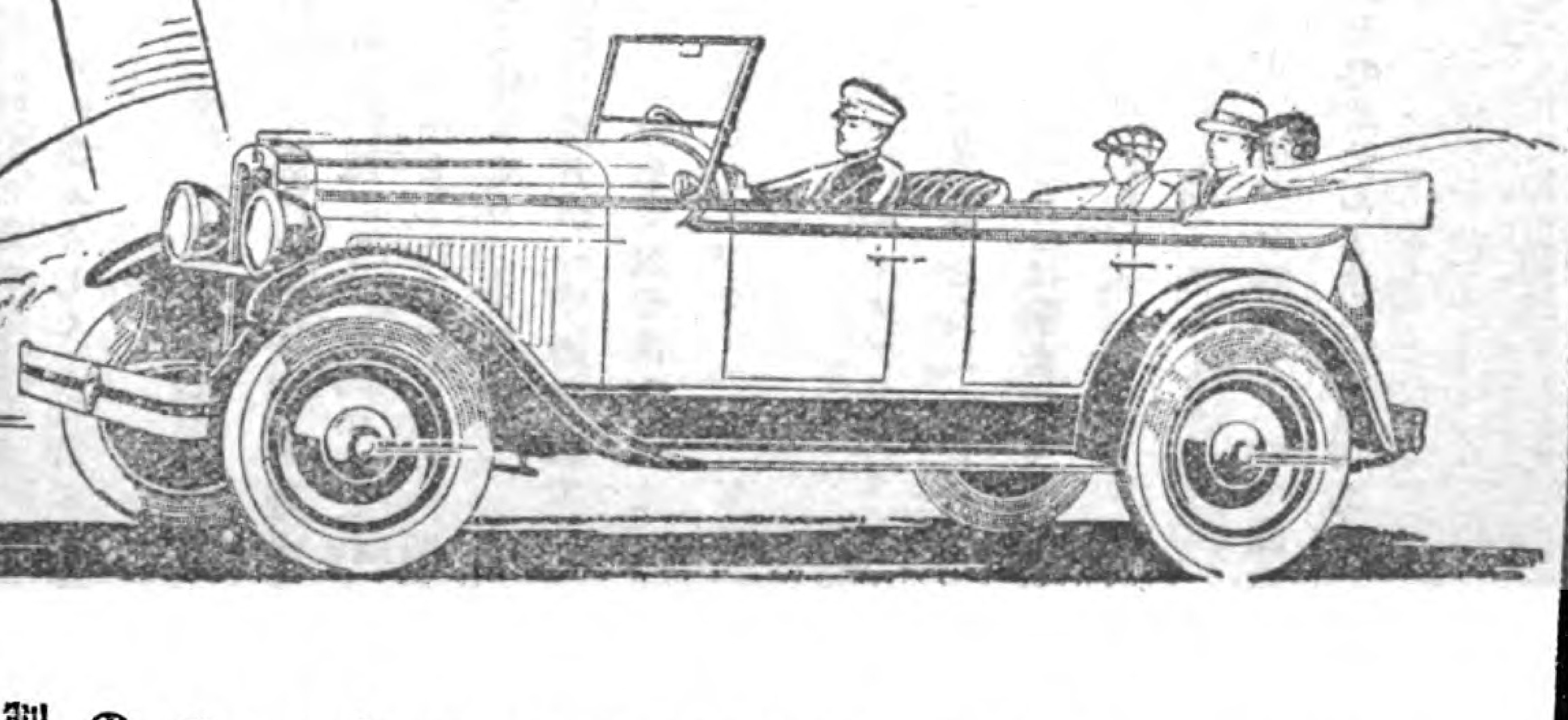
停車用並に應急用の獨立せる二組の制動機。
整温式冷却裝置。　アルミニユーム製喞子。
四輪制動機。　球入軸承附移動操舵機構。
扇風機包套。　空氣濟淨器。
高くなつた昇揚桿、　大きくなつた發動機多岐管。
滑油濾過器、　曲柄軸套吸氣裝置。
後部に取附けた安全ガソリン槽、

新シボレー號幌型　定價　金千九百拾五圓（大阪渡）
新シボレー號セダン型　定價　金貳千四百九拾五圓（大阪渡）
（シボレー號はゼネラル・モータース金融會社による月賦販賣の便あり）

日本ゼネラル・モータース株式會社

（型錄は販賣店にて進呈）





シボレー號はゼネラル・モータースの製品なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



昔氣質の遺産

細田源吉

一

親類の仲はありながら、お岸婆さんの柏屋一家のしきたりといふものは、殆ど他人のそれであつた。いくつかの身内も氣輕に寄りつく隙がなく、只遠巻きに柏屋を目戍るより仕方がなかつた。人になさけをかけぬ代り、人のなさけにも縋らぬといふ人ほど手強いものはない。今日かなりの高に揣摩されるお岸婆さんの蓄財も、その一徹さで押しきつた結果に他ならないのであつた。

それほど氣儘な、謂はゞ恐しいものなしのお岸婆さんが、今年六十五になると、臥つきこそしないけれど、併し多病になつたといふ噂さが、身内の間に傳はつた。殊にこの不順な十一月に入つてから、めづらしく幾日か臥たといふことであつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。そこで誰れ彼れが口さがなく、さも待つてゐたやうに、おばあさん、普段あんまりひどく吝ン坊するんで、今度こそ自分の命を喰つちまふのかも知れない、この寒さに坐敷中火鉢一つおかない始末だから、うつかり見舞にも出かけられない、などと、噂ふやら貶すやらするのであつた。また吝いといつても、およそお岸婆さんくらゐ、萬事に身を詰めてゐる人も少なかつた。つい歸へる客もお茶を出したら長居をするから、とそのくせ家中でも一杯の茶で冷たい咽喉を潤すといふこともしないのであつた。時たま身内の誰れ彼れが用事を持つて訪ねて行くと、火のない狹い座敷に一人通しておいて、婆さんは養女のお留といつしよに燒芋の客にばかりかまけてゐるといふ風だつた。昔ながら冬が來ると土間の一隅に土で築きあげる大竈の前へでも出て、長い火箸で竈の中の藁灰を掻かうとすると婆さんはうるさく止めるのであつた。芋の燒き加減は藁灰の蒸れ方一つだといふのであつた。

ともあれ今度は死病かも知れないといふのに、お岸婆さんを下手に見舞ひでもしたら、無い肚まで探ぐられるといふ嫌な懸念も、身内の人達を少なからず躊躇させた。そのくせ、これがもしお婆さんにとつて死病だと決つたら、溜め込んだ財物は養女夫婦の手に入るだらうか、それとももう長年行き來を斷つてゐる實の娘のお徳さんとその息子の手に落ちるだらうか、もし後の場合だつたら、養女夫婦こそいゝ面の皮でなければならない譯だつた。それは身内の間に長いこと吝な因業婆さんの下で、飲まず喰はず働らき通して來た養女のお留とそのつれあひの佐助とに同情が集つてゐるからだつた。實の娘のお徳さんも年をとつてさすがに以前のやうな浪費も出來ない貧しさに落ちてはゐるが、この頃その息子の銑太郎が勤めてゐる銀行の內部にいゝ穴を見つけたらしく、芝居だ温泉だといつて日曜に母親をつれ出すことなどがあり、その上にも息子は殆ど待合に入りびたつてゐるといふ惡い噂さへ立て、而も得意だとのことだつた。そんな評判も祖母のお岸婆さんをひどく嫌がらせて、前々に輪をかけた母子嫌ひになつてゐるさうだつた。

（おばアさんがいよ／＼死ぬとなつてどんな遺言をするか、溜めた金をどう處分するか）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お岸婆さんが夜の目も寐ずに溜めた財產だけに皆なの興味がそこへ寄り聚つて來た。

（お岸さんのは現金だから二人にいゝくらゐに分けるのに世話はない）ともいふ者が出た。見て來たやうにいふのがをかしいと云つても、當のお岸婆さんが長年に亘つて銀行を信用しずに、小錢が百圓になると一枚の紙幣に引き替へて、あれだけはお岸婆さんの家に不似合だといふ頑丈な金庫の中へしまひ〱するといふのであつた。事實、お岸婆さんが銀行へ預金してゐないことは、利殖に渴えてゐる今の世の中で、目立たしく愚かな蓄財の方法だつたから、傍でも目をそばだてゝゐたのであつた。而もその蓄財方法をあまりに子供染みた世間知らずのもの措みと釋つて、お岸婆さんを嘲笑さへしてゐたのであつた。

「あんな吝坊のくせに、銀行の利用を知らないなんて、お婆さんも今操つてる二萬なんて現金が、四十年も預けつ放しにしといたら四五萬にもなつてるものを……齒が分けのわからない田舍漢の頑固婆さんで目先きのことだけで溜めてる晒呆さ……尤も讀み書きが出來ないんだから……」

どれほど溜つたといつたところで、馬鹿な溜め方をしてゐては話にも自慢にもならないといひたい身內の人達の中には、一度ならず、多かれ少なかれ婆さんに融通を賴み込んだことがあつて、その度、すげなく突つ撥ねられた過去を持つてゐるのであつた。

その惡口が廻り廻つて婆さんの耳に入ると、

「そりあ、どうせ惡くいふだらうさ」

さういつてけろりと笑つて濟ませるお岸だつた。人から憎まれようとも、人に哀願しないでもいゝ婆さんの途は樂なものであつた。只、醜いといへば、僅かに嘲通り、なんの爲めともない蓄財一途の辛苦に身心をすり減し、この年といふ年はめき〱身體が弱り出したことであつた。同時に親類の間でも、一つになつて俄にお婆さんを非難してばかりは濟まさ

れさうになくなつて來たことであつた。養女夫婦の側に立つ一族も、長年の喰ふや喰はずの働きも蛇蜂とらずに終るかも知れないからであつた。又實の娘のお徳おばさんとその息子の側に立つ一族もこの際二人の母子のために資産らしい資産をとつてやりたいのであつた。目に見えない偏り方が悪罵の中にも現はれるのであつた。

二

この四五日、お岸婆さんが臥込むといふことはよく／＼のことであつた。いゝ加減に風邪をあしらつてゐたので、こぢれて來たのかも知れなかつた。養女夫婦のお留と佐助は、傍から醫者に診て貰ふやうにすゝめても、自分の發意でないことには、お岸婆さんはいふことを諾かないのであつた。

お留は店を一人で仕切つて一日釜を離れることが出來なかつた。ぽかつとした暖かな日和で、芋の賣れ方も少ないと見た良人の佐助は、朝から屑籠を背負ひ、町を廻りに出て行つた。その留守であつた。一人二人客が入つてゐるところへ、思ひがけないお岸婆さんの孫の銑太郎が入つて來た。重さうなオバアを着たまゝ、お婆さんに逢ひたいといひ出した。一年の内、滅多に行き合ふことのない銑太郎に向ふと、お留は厭されるやうに氣伏せであつた。それに昨日も銑太郎の母親のお徳が、一言でお婆さんに斷られたのであつた。昨日の今日と續いてこの人達が來はじめたのには、なにか重要なことが隠れてゐるのだらうと思ひ／＼、彼女は低くつぶやくやうに、

「な、もし、きのふ義姉さんがわざ／＼いらしつてくれたのに、大變まア失禮なことになりましたよ、銑さん……そいでけふもどうかと思ひますけど、すぐ聞いてみますから、何んていひますかね」

「一身上のことでどうしても逢ひたいからつて……」

と、それだけ云つて、顎の角な、心もち窶れの見える銑太郎の眼は、焦々とお留を促がした。義理の深い銑太郎である

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

上に、ぐつと押して來る力にうまい思ひつきの口實の浮びやうはなかつた。彼女は途方もなくせいてゝ來るに、普段お岸婆さんの口癖を知つてゐるから——末にはわたしの金でも當てにして今いい氣で暮してるンだらうが、わたしの眼の黒い内は一度だつてこゝの閾は跨がせない、といふのであつた。汚い店先を恥入るやうにお留は甘諂の茶などを片寄せたりして愛想をした。六疊の坐敷を覗くとお岸婆さんはうと〳〵眠入つてゐた。呼びかけて起せば機嫌を惡くするのは知れてゐながら、併し一度は取次がなければならないものゝやうにそつとお留はお婆さんの耳に口を寄せた。

「おばアさん、銑さんが見えたが逢ふかね、おばアさん！」

呼ばれて薄目をあいたお婆さんは、

「銑が來たつて……さつさと追ひ返しなよ、わかつてるだろに、お前もから意氣地なしだよ」と、もどかしく聲を勵ますのであつた。

「でも、銑さんは歸へるまいから……昨夜はお德さんが見えたし、なんか困ることでもあつたら惡い」

「煩いつたら煩いねえ、病氣を知らないのかえ」お岸婆さんは店の方へ聞えるくらゐの聲を出した。

叱りつけられたお留は店へ戻つたが、銑太郎もその氣色で表情を險しく尖らしてゐた。

「お婆さんでなくつてもいゝのですよ。どうせあのお婆さんは冷酷な人なんだから……佐助さんが歸つて來たら」と、銑太郎は前よりも一層力強く押して來た。「急に僕、朝鮮へ逃げなけりやならない事情が起つて始末に困つてるんで、二三日中に三百圓ばかり都合してもらつて下さい。なにしろ急なんで、昨日から銀行を休んで支度してるんですがね、出來るだけ金が欲しいんで、うまくいけば三千圓もつくるけれど、……出來なければ二百圓でも。僕どうせこれつきり內地へ歸つて來ないかも知れないから、後々のことはどうなつたつてあんたや佐助さんのいゝやうにして貰ふつもりですよ、その譯を話して、きつと二百圓はこしらへて下さい」

露に云はないまでも、お留にはさういふ銑太郎の肚がお婆さんの遺産に係はつてゐることは讀めるのであつた。それだけ彼女も返事に窮した。

「なにも、私や佐助はこんな肚黒いこと考へてやしませんから、さう釋らないで下さいましよ。佐助が夜歸つたらよく相談してなんとかなるやうに……そいでどうしてまた急にそんな譯が出來たんですかね」

いひつゝお留は非常な苦痛が自分達夫婦の上に被さつて來たことで頭が重く暗々となつた。

「つまらんことですよ。……どうせわかりますがね、僕は馬鹿らしい目に逢ふなんか嫌だからいつそ二階かけてあつちでなんかやらうと思ふんですよ……尤も今夜銀行の重役に面會して三千圓ばかりふんだくるつもりだけど」

お留は只怖しい心持で目戍つてゐた。いひおいて歸へる銑太郎に、もし出來たらどこへ屆けるのか聞き損ねて了つた。後で、お留は茫やりと竈のところに寄りかゝつてゐた。夫婦二人で身を詰めきつて殘さうとしてゐても、かうして一纏めに半年一年の些少なへそくりが消えて了ふからだつた。

お岸おばあさんは眼をしば叩いて店の樣子に耳を立てゝゐたが、話し聲がひつそりと靜まると、お留を呼んだ。いきなり起き返へればすぐ咳き込むので、ぢつとそのまゝ動かなかつた。枕許のみゝずの煎藥が鼻をうつた。

「銑はなくてツたね？ 何にイ話してツた？」

「なあにも……なんかひどく心配さうなことらしいから、放つといていゝかと思ふけど」

「お前は氣藥ばつかり云つてるよ。さう〳〵人のことにかまけてゐられるか」

それには違ひなけれど、お留達の立場として、時々の銑太郎の無心を拒むことは出來かねるのであつた。沈んだ顏色でお留が店に戻ると、お岸婆さんはいゝ氣持でないまでも一寸微笑むのであつた。辛いのは一時だつた。それを思ひきり突ツ外してしまへば、後はむしろせい〳〵と輕くなる氣持をお岸婆さんは忘れなかつた。身内といふ因緣に捉はれるからこ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そ身内も付け入つて來ると思ふのだつた。昨日はお德が訪ねて來るし、今日は猿太郎が逢ひたいといふ、この二人の孫共は年寄りの病氣を重いと見て、その樣子を探ぐりに來たとしか思へなかつた。

六十五だといつたつて、まだ／＼これからすぐ丈夫になれる、うか／＼あれ達に乘せられて惑みなぞ持つまいとお岸婆さんは考へた。この年になるまで自分で仕上げたお岸婆さんだけに、人の苦勞に取合はないのであつた。さういへばお岸婆さんには古い日のことが心に返つて來る。お岸婆さんは埼玉の古い××町の生れだつた。そこの町でも一流どこの資産家の二人兄妹として氣儘ない日を過したものであつた。兄は家の後を嗣いだ。お岸はその頃縣廳と呼ばれることになつた役所の中でも相應の官吏のところへ貰はれて行つて、そこで一人の女の子をあげた。それがお德であつた。お岸の良人は彼女の父親が見込んだ男だつたが、結局は父親からかなりの仕送りを受けなければ、派手な良人の交際は張りきれないほどであつた。酒のみの良人は役人の顏もあつて土地の花柳界では鳴らした遊び人だつた。父親の方が死に、實家も沒落の憂目を見た。彼女の兄が縣の政界などへ顏出しをしたゝめであつた。お岸は父親の仕送りをあきらめなければならず、遊び人の良人は見る／＼詰るばかりだつた。そこで良人の仕事の上に暗い影が射すことになつた。良人は或る年役所を退くか、牢に入るかしなければならない破目に陷つて、長官の好意から民間の會社へ入ることで始末をつけた。その間に良人は目に見えて健康を害してゐたが、東京へ出て二年目に急死したのであつた。彼女はお德を抱へて賴るところがなくなつた。兄も無一文となると手も足も出ないお坊ちやんに過ぎなかつた。そこで思ひきつて身を落すことに決心した彼女は田舍の身内の者の手から什器をとりよせ、燒芋屋の店を開いた。夏は氷屋をした。お德は年頃になると汚い商賣を嫌ひ出し、若い或る會社員のところへ自分から嫁いで行つた。たつた一人になつたお岸婆さんは鄉里の身内から小娘を引きとつて店の手傳ひをさせた。それがお留だつた。お德が家を出てしまつた後だつたから、お留の籍をお岸婆さんの方へ移し、二十七まで獨身を通させてゐたが、五年前に同じ鄉里の百姓の息子を婿にとつたのであつた。それが佐助だつた。二

人の間には子供がないらしいことが、たつた一つお岸婆さんのもの足りなさだつた。

「お德みたいに親を嫌ふものもありあしない。なりふりが汚いからつて、これでも誰一人に頭をさげなくたつていゝだからね、お德はわたしが金をのこしてるのを知つて、氣が荒つてるんだよ、子供に金が自由になると思はせたら往生だ、一生親をたよりにするから」などと、お岸婆さんは昔を思ひ出して一つの失策は母と娘が離れて了つたことだと考へてゐた。お岸婆さんには、婆さん自身だけが地道に辛苦してゐると思はれるのであつた。それは無理もないのだつた。併しその婆さんの人知れない辛勞も、結局は彼女一代のものらしく見えた。なぜなら娘のお德は婆さんの辛勞から生れた甘い裕富の方にばかり目がけてゐるからである。婆さんは自分の羽搔ひの温さを自分で知ることの出來ない雌雞のやうなものだつた。いつも自分では貧血してゐるやうな氣持で、日に日を追ひかけて年をとつた一人に過ぎなかつた。お岸婆さんこそ自分の甘い裕富に浸つてゐてもいゝのに、四十年一日のやうに貧しい床に寢て、最後の安心に向つて自分の血肉を絞るのであつた。お留夫婦は、さういふお岸婆さんの望むところに從つて、若い身空を冷たい土の上に引き廻すのであつた。

立場によつては人はどうにでも考へてみるものである。お岸婆さんには親を棄てた娘が憎ましいのであつた。世間體をとりつくらふばかりで、ないのにある振りをしたがるお德の心根が、むしろ卑しく見えるのであつた。中學から私立大學へと銑太郎を通はせたことさへ、お岸婆さんの不服の種であつた。小學卒業後すぐ丁稚に追ひやつておいても、何年か後にやつと大學を出て、二流どこの銀行などへ入れてもらつて端た給料をあてにする結果と、およそ一致すると考へるお岸婆さんだつた。

見ないやうでも、お岸婆さんはこの頃噂さに立つ銑太郎の不自然に膨らんで來た金の出どころを睨んでゐた。それは自然にあり得よう筈はないのであつた。いつかに銑太郎は思ひ知ると考へてゐた。二人の母子の末始終を考へないあの浪費癖の背後に、お岸婆さん自身が立たされてゐることは考へてみようとしなかつた。それは彼女が拒むだけでいゝと思ふ淺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嬉さだつた。

(こんな働らきもの〻ばあさんの娘や孫に、あんな冗な爲にもつかぬ人間が出來るなんて……)そんな意味のことを、時々丈夫の時の婆さんは店で客にうつたへてみることがあつた。

さうはいひながらお德自身も丁度母親のお岸婆さんと似通つた運命を嘗めたのだつた。會社員の良人は四十を半ば越さない内に病死してしまつた。會社でも相當の地位にゐたところから、子供の教育資金だけのことは弔慰金として貰ふことが出來た。それもお德は秩序も立てず銑太郎の在學中に使ひ盡してゐて、その後の工面は親類の内でもお德の側に立つ新屋などが、末を見て引き受けてくれたくらゐだつた。銑太郎は在學中に不良染みてしまつたが、卒業の成績もよくなかつた。自然に就職の方も三流どこの日本實業貯蓄銀行などに求めなければならなかつた。それもお岸婆さんに考へさせると、及ばぬ爪先き立ちだといふのであつた。困る〳〵といふお德の泣き言は、どこからお岸婆さんの耳へも入つて來たが、昨夜もお留の話に、晝間不意に見舞のつもりで來たお德が、きれいに髮を結つて、着物もいい縞柄のお召を着て來たといふほどだつた。今、枕においたお岸婆さんの頭の中には、世間體の氣苦勞で困つてゐる娘のお德が浮ぶきりであつた。祖母とお德母子との間のこぢれきつた狀態は、このまま死んでも解けさうに思はれなかつた。

「死んだら……?」

その考へがお岸婆さんを脅かした。目をつぶつて、そんな不吉な考へを振り拂はうとつとめた。死ぬなんて怖ろしい。そんなことが自分の上にある筈がない、只この頃のわるい陽氣に負かされただけのことである。世の中には自分なぞよりも、もつと病人らしい病人がゐる。それを一寸病氣したばかりに死ぬなんて、それこそ理窟にもなにも合ひはしない、と思ふのであつた。厚ぼつたい額際の毛を掻つてみた。ところが身體の弱りといふものは爭はれないものであつた。お岸婆さんの身體の疲れは、そのまま心の疲れでもあつた。頭から足の爪先に亘つた頼りなさであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

皆なしてこつちを悪口しといていざ死にさうになると次々と押し寄せて來る、これがなによりお岸婆さんの心を曇めることだつた。婆さんの胸の中には獣のやうな怖れと獣のやうな呪ひがこみ上げて來た。どう考へても働いて汗水ながして長い年月の辛苦を耐へた自分が正しいと思ふのだつた。このこゝろぐみを汲んでくれるのはお留夫婦きりないといふ氣がして來た。日頃自分の目のつけどころは誤つてはゐなかつた。お留夫婦がゐてくれるからこそ今日まで淋しくなかつたのかも知れなかつた。

急に本能的にお岸婆さんは首を擡げようとした。まだこの年月になるまで、金庫の鍵のあけ閉ての符牒を、お留夫婦に教へておかないのであつた。それを今婆さんは思ひ立つた。そつと布團の上に起き返るなり、

「お留や、お留ッ！」

二度、店の方へ聲をかけた。それでも一寸お留の耳に入らないらしかつた。その内、またお岸婆さんはふつと思ひを翻したのであつた。もしまた自分が丈夫になれるとすると、第一に今迄お留夫婦を惹きつけておいた最後の希ひを、あんまり手輕に開け渡して了ふやうな氣がした。それが不安で仕方がなかつた。うつかりするとお留夫婦がすべての現金を渫つて逃げないものでもないと邪推するのであつた。矢張りこれは自分がもう一寸大事に抑へておく方がいゝと考へ返した。さうなるとまたお岸婆さんはぐんなりと身體をもて扱ひ、枕の上に崩折れて了つた。

その夜、一時二時になつてもお留夫婦は寢つかれなかつた。晝に訪ねて來た銑太郎の申出に二人とも消え細るかと思ふほど悄げてゐるのであつた。お留は泣いた。あれから一日中三百圓の金のことで頭が煩く病めてゐた。夜になつて歸へり、なにも知らずに屑籠の始末をしてゐる良人の傍に寄つて、銑太郎の依頼を呟いたのであつた。良人の佐助は、籠から屑を選りわけてゐた手をやめて蒼白くなつた。三百圓はおろか百圓でも身を切られる辛さだつた。お岸婆さんに隠して日に五十錢なり一圓なり、また日によつて思ひがけない掘り出し物のあつた時五圓なり十圓なりを、それこそたまかにこつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その預金をしてゐる金か、三年この方やつと六百圓ばかりの高になつてゐるのであつた。その中から三百圓も出す、そんなことはとても出來る譯のものではなかつた。これは萬一の場合の二人の生綱でもあつた。

「人の切ないことを考へないで……あの人達たア迷ふんだもの……なんぼ義理だつて」と、聲を忍ばせてお留が歎いた。

「……あゝ、おらつまらね」

と、良人の佐助は腹の底からこみ上げる唸きを、ぢつとこらへた。

「逃げませうか、どうせ碌なことないよ、この上こゝにゐたつて……お婆さんに預けといた二千圓くらゐ思ひきつても二人きりでみつちり働けば……？」

「馬鹿ッ！」

佐助は抑へつけるやうな小さい息苦しさで突きこくつた。二千圓も預けた金は現金のまゝ金庫の中に入れてあつた。お婆さんが使ひあまりの通帳に書き込んでおくのであつた。三百圓の無心に二千圓からの金を取替へるのはひどい馬鹿さ加減だつた。併し佐助にもお留の氣持はいつも働いてゐるのであつた。こゝにゐたくない氣持はあたりまへのことだつた。只なにもこの際、三百圓いふなり出してやることもない譯だ。良人は痺びる後頭部を枕におき替へ、

「いゝよ、おら明日百圓だけ銀行から出して銑の奴に渡さう！また、なんかいゝことだつてあるだろさ。こんな切ないことばかりぢや、死にたくならあ……あゝあ、嫌だ、嫌だ……」

溜息を深く吐き出した佐助は、どつかへ身體ごと滅り込んでしまひたかつた。お留も佐助も、それからまだ二十分も三十分も屈托したもの思ひに引き廻はされ、とても寢入れさうでなかつた。ふと向ふの六疊でお岸婆さんの寢返へる氣配がした。おち〱と睡れない身體をもてあつかつてゐるらしい。それと氣づくと、二人は呼びかけられるのを恐れて、一口も口を利かなくなつた。表通りを遠く馳り消える自動車の警笛がいつまで尾をひいてゐた。どこかそこらの家で赤子が泣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いて、深い街中の更けてゐることが知れた。

霜の夜であつた。

三

翌日佐助は夕方前に町歩きをやめて、銑太郎の勤先の日本實業貯蓄銀行へ訪ねてみたところが、半日で歸つたといふことだつた。一人の行員が出て來て探すなら××通りから一寸入つたところのカフエー・アヤメといふ家へ行つてみたらと敎へてくれた。佐助は仕方なしにそこへ廻つて行つた。

扉を押して覗いてみるとどのテーブルにも銑太郎はゐなかつた。内から若い女給が見咎めたので佐助は引つこめなくなつて訪ねる人のことを拙い調子で訊いた。

「ゐらつしやいますよ、なんの御用？」

と、白い顔は素氣なく訊き返した。佐助は銀行へ訪ねたりしたことを持ち廻るやうに話した。彼は二階へつれて行かれた。そこへ通るのに帳場の裏をぬけるのであつた。他の客を通すところでないことも彼にのみこめた。

銑太郎は毛布にくるまつてうたた寢でもしてゐたらしく充血した眼であまりいい機嫌でもなく佐助を迎へた。下にゐた女給でない細面の二十くらゐの色白な女が狎々しく銑太郎に甘へてゐた。早く引き上げたい佐助は、天井の低い、どことなく陰氣に見える部屋の内を見廻す餘裕もないやうにすぐ用事を切り出した。彼は額に汗を滲ませるほど骨が折れた。

「ま、なんか飲みながらでも……」

銑太郎は傍の女にささやいた。その女の下りた暇にと、佐助はまた惡丁寧につゞけた。

「もつと出來るといゝんだがなア……」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不滿らしく銑太郎は吐いて、とても怠るさうに身體を横にした。佐助は後から先刻預け先きの××銀行から出したばかりの紙幣を押し遣つた。すると銑太郎はさう喜びもしずに指の先きでちよいと毛布の端つこへ突ッ込んでおいて、

「どこも駄目で弱つた」と赤い眼を二三度瞬いた。「もう自棄でね、事によると朝鮮なんかへ飛べなくなるかも知れない。さうなつたらお終ひさ……佐助さんの手で思ひきつてどうかなるといいんだが、もう駄目かしら。尤も今夜また銀行の重役と會ふ話にはなつてるんだが、あいつ逃げ廻つてるんで、もしさうだつたらこつぴどくあかるみへ恥を曝してやるんだ」は、はと、それは空虚な氣味のわるい笑ひ方だつた。

佐助は腰を浮かしかけてゐたが、そこへ女が飲みものを持ち込んで來た。歸へらうとしても銑太郎と女が抑へて放さなかつた。もう何年にも酒類に親しまない佐助は只尻込みするだけだつた。

「佐助さんみたいな人もないなア……いつそ苦勞がなくつて羨ましいや……僕なんか人にいへない苦勞が出來てゐるけど、そこへ行くと佐助さんなんか實は歩いて夜は休みさへしたらいいんだもの、僕なんか一日の中一度や二度は死にたくなるんだぜ。佐助さんはいいアな……働いてさへすりあいつか金はのこるし、また無理しないから死にたくなることもなしね！いいな、僕羨しい」

「なアんの……そんな氣樂なもんですか」

佐助は胸にこみ上げてゐる氣持を一つも巧みに云ひ現はせない上に、面と向つて云ひにくいこともあるのであつた。死にたいなんて、見え透いた可怕がらせをいふとしか佐助には釋れなかつた。辛い朝晩を忍んで、うまいもの一つ口に出來ない自分達夫婦を、お前こそこんなにも苦しめておいて、とおもふと、佐助はいひやうなく憤りを感じた。すゝめられる洋酒が小さなグラスに少しばかり盛り上つてゐるのも空々しいのであつた。彼は流眄でその黄色い球のやうに透きとほつた液體を見遣つたばかりだつた。銑太郎はくたびれると腹這ひになつてもう二三度もグラスをあけてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「この女をつれてッてやらうとおもんだけど、ねえ、佐助さん、僕この女が好きなんだ」

佐助は只にやつと阿呆らしく笑つて、心では銑太郎を睨み据ゑてゐた。こんな女に入り上げるために、一年もかゝつた自分達のへそくりが、みすみす泡のやうに費はれて了ふと思ふと、ぢりつくやうな胸苦しさを覺えた。

「この女が僕をこゝへ泊めといてくれるんでね、家へ歸らないのさ……おふくろもがぢがぢしてゝ家へ歸つたつておもしろくもない。でも佐助さんなんか人生に幸福を求めてるからこそ埃のやうに働けるんだね？僕なんかもうこの女だけさ…ねえ君、もうどうならうとかまはないね？」と、銑太郎は終ひを女の方へ云ひかけた。

「え、いゝわ、こちらと違つて私達は私達でまたずつとおもしろくつてよ、ひよつくり明日自殺してるなんて、そんな氣持、こちらにわからないでしよ……働らき屋さんには」

見る通り侮辱されてゐることも佐助にわからないことはなかつた。大概かつとなつてゐる彼の胸の中で、ふとその瞬間、自分で自分の毎日のことが、急にわからなくなり出して來た。一體自分の毎日はなんのことなんだと考へ沈んだ。

「飲まないの、佐助さん、僕だけ飲んでゝも張り合ひがない、おいそれぢあ生を持つといでよ」と、傍で銑太郎が見る見る顔を赤め出すのに、佐助はもぢもぢと入口の方へ下つて行つた。それでゐて、この部屋の中の浮はついたでたらめさが、またそれだけ重苦しい空氣を背負つた銑太郎が、わけなく彼を曳きずるのであつた。彼は自分の毎日してゐることに、まるで違つた物指をあてがはれた氣がして、考へのつけどころを失して了つた。彼は腑をぬかれたやうに茫茫やりしながら、また女の手から生のビールをすゝめられて、二つ三つお辭儀しながら引き退るのだつた。やつと彼は銑太郎が生欠伸をするのを見て自分に返つた。

彼は女にだけ階段の下まで送られて、捉へどころのない氣分で外へ出た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四

或る朝、それも凍りきつた寒さだつた。こないだから快くなつて一度起きてしまつたお岸婆さんが、どうしたのか、また、

「お腹が痛い」

さう云つて、外の暗いうちお留を呼び立てた。その時は詳しく聞かないまでもお婆さんのものごしに異様な不安を感じた。

（ひよつとしたら？）とお留は恐しくなり出して傍の佐助を搖り起した。自分はすぐ通りの藥種屋まで走つた。そのついでに急いで日野屋へも知らせに廻つた。日野屋はお留のためには仲人であつた。いつも商賣がうまくいかず、店先につるしたハンケチや胸掛の類が古ぼけてゐた。日野屋から薪屋へも知らせてもらつた。薪屋へ知らせるのは一層事を大きくするやうなものだつたが、お德さんに附いてゐる向うの親類だけに、後のことが煩くなるからだつた。

お岸婆さんの熱はかなりに高かつた。冷し手拭で婆さんの額を冷してゐた佐助夫婦をひどく不安にした。丁度起きぬけに日野屋のおかみさんが見えた時、お岸婆さんの耳へ入れないやうに三人して相談した。婆さんの嫌ひな醫者を呼ぶためだつた。すぐ醫者が診に來てくれた。驚いたお岸婆さんは、それを拒む元氣がなかつた。只歸つた後で、

「誰が呼んだ？」

と云つて、不服がるばかりだつた。それに日野屋と薪屋を呼んだことも大業過ぎると思ふのであつた。お岸婆さんはなにか身に迫つた大きな不安を感じながら、

「皆なで寄つてたかつて大病人にする」と叫んだ。お留にしてみると、薪屋を呼んだことでほつとしてゐたのに、それも

推薦してくれぬ病人がうらめしくもあつた。併しお留は陰で良人と耳うちすることを忘れなかつた。

「この際に却つて向うの側の親類の新屋さんからお婆さんに話してもらはふかね……預けた金のことをさ……。さうすると、さも財産のことかなんかに釋とられるだらうね？」

「まあ、もう少し待つてみろよ。いよ〳〵いけなさうだつたら日野屋に賴まう、日野屋だつて、こつちが新屋へ初ツ端から相談したとわかつちやあ、いゝ氣はしまいよ。日野屋に寢返られたらこつちはどうなる？」

それもその通りであつた。二人はこれまでが馬鹿奉公に終るだらうと想像するだけで、まるつきり沮喪してしまふのであつた。といつて今が今、そんな掛合も出來かねることはわかつてゐた。お留には、お岸婆さんに養はれ働かされてからざつと十五年になる月日が、辛く心に刻まれてゐた。婆さんは手帳へ書き止めてくれた筈だつたが、萬一金庫をあけてその結果が曖昧にしか判じられない場合も彼女に浮ぶのであつた。夕方もう一度診察に來た醫者を彼女は竈の側へ誘つて病人の樣子をしつかりと云ひきつてもらはうとした。

「お氣の毒ですけどまア七日と持ちませんから、そのおつもりで……」といふことであつた。

醫者の言葉は日野屋へも新屋へもお留がそつと傳へた。日野屋は、

「お前達の二千圓とかはどうなつてるかな。新屋さんにも立ち合つてもらつて一つ婆さんの口を確めなければなるまい……割のわるい役だ」と、苦笑してみせた。

僅かな事はお岸婆さんが間近かにこの世から姿を搔消してしまふことだつた。すべてはその前にとり決めなければ、どう事が變るか知れないのであつた。

こんな場合になつて、身内の間の醜い疎隔くらゐ佗びしいものはなかつた。新屋は誰れにいふともなく、まづ眞先にお德さんを呼んで欲しかつたと、あきらかに平かならない口吻を洩した。それがお留夫婦の氣を腐らせた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「だつてそんなことしたらお婆さんがなに云ふか知れないもの。それより日野屋と新屋さんでその所置をしてくれる方がいゝ。それなら誰もなにもいひやアーしない」お留は片隅へ行つて自分だけでうらみ深くつぶやいてゐた。新屋と日野屋では、まだ云ひたいことをどつちからも云ひ出さないらしかつた。それがまた、お留夫婦をもどかしがらせた。新屋の成心では、お岸婆さんのものは當然お德のものだと決めてゐるらしいのであつた。そのためか、新屋は落ちつき拂つてゐるのだつた。

丁度前の日佐助が立ち廻つたと見えて、佐助の妹で、砲兵工廠の職工に嫁いてゐるおていが、無沙汰の詫びかたぐ〳〵來てみると、このとり込みだつた。併し新屋はさう釋らないのであつた。どこまでもお德の方が除外された證據だときめてゐるらしかつた。

「おゝ、おていさんかい、お前まで來てくれて？……そんなに惡かないよ。まだ婆は死にたくない」

さう云つておお岸婆さんがおていの方へ手をのばしかけたが、不意と叫び出した。「……婆々は死にたくない。お醫者さんはなんといつたい？死ぬなア、嫌だよ。嫌だよ。……なんて云つたいお醫者さんは、風邪だつていつたろ？死ぬなア嫌だ。あゝ、死んぢあ可怕い。今死んぢあ大變だよ。ねえ、お留や佐助や、助けておくれよ。これから呑氣に遊んで家の方はお前達に任せるから……」

目の前に被さるものでも掃きのけようとするお岸婆さんの、手を振りながら叫ぶ聲は傍の者を焦らせた。頑固なお岸婆さんはもう自分の力を信じなくなり、なにものかに縋らうと藻搔くのであつた。白毛の束ね髮が汚く枕にとりついた。皆なその枕許に顏を寄せて、婆さんを頻りに落ちつけようとした。このお岸婆さんが死を怖れあわてる樣子に、むしろ愡れみさへ咬つた。それだけまた嚴かな壓へるやうな空氣が釀されて來た。

面會を謝絕しなければいけないといふ醫者の注告があつて、新屋は不平であつた。まだお德が來ないので、どうでも逢

はせるつもりだつた。日野屋としても、表向きいけないとも云ひ出せなかつたが、度々こんなことをすれば助かるものも殺してしまふかも知れない、さうつぶやいて、蔭で傍の者の反對を煽つてゐた。他かの醫者に診せたら案外恢復の望みを持つた病人かも知れないと思ふからだつた。

いつの間にか新屋の使ひがお德のところへ走つた。それを知ると日野屋は顏をしかめながら、そつと佐助を呼んで、「命とりだ」とさゝやいた。「お前も考へておきよ。事によるとこゝの家はお前のものになるだらうが、婆さんの現金は三割ぐらゐしきあ貰へまい」

「わたしやもうどうでもいゝ。わたしの二千圓が返りあそれでいゝから……」と、佐助は家中の空氣に重く壓しつけられながら後頭部を撫で叩いてゐた。氣が詰つて、なにがなにかわからないのであつた。ふいにこゝからわツと喚いて逃げ出したくなりさへした。お留が案じ顏に耳こすりをすると、一言も返事がしたくなくなつてゐた。なにもわからないといふことは彼に恐怖を感じさせた。長いこと身を詰めて蓄財したお岸婆さんが、かうとは考へてもみないことだつた。人間が生きてゐるといふのに、かうも脆く死んで行ふのか、あまりにも賴みない人間の力であつた。さうしてそのお婆さんの動きやうのなかつた財産が明日の日どこへ散らばつてしまれてゐた。今日のお岸婆さんの運命は、いづれ一度この通りに自分の上にも落ちて來る。溜め込み一方の人間の見苦しい狼狽が今から想像されるのであつた。

お德はいひ難い暗い顏色の人々に迎へられた。新屋がお岸婆さんの枕許へ誘つた。

「おばあさんよ、お德さんだ、前から度々來ておばあさんに許してくれつていつてたんだから、ここですつかり昔のことは忘れてやつておくんなさいよ、……さアお德さん、もつとこつちへ……銑ちやんもゐるとよかつたのに…」

すゝめられるまゝお德は久々でお婆さんの枕許へ寄るなり、わつと泣けた。そのお婆さんの窶れた老顏には、この世の

ものでない影が刻まれてゐた。お岸婆さんはまぢ／＼とお徳をみてゐるうち、一時に爆發したやうな泣聲を立てた。お徳はお婆さんの胸に顔をおしつけ、身體で庇護ふやうに掩つた。

「おッかさん、まあこんなに病氣して！早く癒つてね、癒つてね……みんなこれまでのことは私が惡かつたんですから、勘忍して下さい、ようおッかさん！私は皆なに誤解されたんですよ。なんにも私には惡い心なんかないんですよ」

二人の涙でぬれた顔はこすりつけられた。興奮してゐるお徳とはいひながら、傍にゐる日野屋やお留夫婦とおていなどは、ゐるにもゐられなかつた。それも見るから理窟なしに抱き合つてゐる母娘だつた。二十年からの冷たい距の塀が一氣に毟しりとられたのだつた。新屋は繻絆の袖で目を拭き／＼してゐた。

「あ、なんでもない、わたしあ助かりあもうなんにも文句はいはないよ、皆なで仲をよくして遊びたいんだ……わたしあ死ぬかい？　お徳よ、死ぬだらうか？　あゝ怖いよ、死んぢあ怖い……」と、お岸婆さんはまた目の前のものをしきりと掃きのけようとかゝつた。

新屋がそつとお婆さんの耳に口を寄せ、

「おばあさん、お徳さんも可哀さうだから一つお金をわけてやつておくんなさいよ。わたしが後見して、ちつとも心配ないやうにするから」と、押して云つた。

「まあ……」お徳はさすがに後へ居退つて新屋の袖を引いた。

「あ、いゝとも……だけど、死ぬないやだ、お金はこれにいくらやると、金庫の中の手帖に書いてある……早う快くなつて、皆なで一つわたしの溜めたお金を見てもらはふ。あゝ死ぬなアいやだ、まだ死にたくないよ。いゝお醫者さんを呼んでおくれよ。さうすりあ、みんなで樂みだろ、金庫をあけてみせてやるから……」

この世の財貨一切が自分の金庫に集められでもしてゐるやうなお岸婆さんの[illegible]かしさだつた。枕許にゐる人達も、みん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なその肩の中のものを拜まうとして首をあつめてゐるやうに見えた。併しお岸婆さんはもう自分では身體を捻せ起し得ないのであつた。すぐひどい衰えが婆さんにもわかつた。すると、今迄が輝かしい得意に溢れてゐただけ、

「あ、死ぬ、わたしあ死ぬかも知れない、なんだつてわたしや一文も使はずに死なゝけりあならないんだろ！　死んぢあつまんないよ、死ぬなァいやだよ……あゝあゝ、お留、お留、お前わたしを抱いてゝおくれ……お前だつて佐吉だつて可哀さうだ、わたしが死んぢあ……わたし一人を賴つてたんだもの……」と婆さんは掻き口說いて泣きつゞけるのであつた。

身內の誰れ彼れが前後して店の方に集つて來た。その後は誰れもお岸婆さんに會はせないことになつた。病人の容態は目に見えて惡くなつて行つた。二日前から竈は冷えてゐたが、誰か思ひついて一くべ藁をくべると、その火がかつと店の壁をあかるくした。そこへ行方の知れなかつた銑太郎がインバネスの襟を立てゝ入つて來て、無愛想に通らうとした。お留は遠慮から默つてゐたが、それを見て佐助がたしなめるやうに、

「病人はひどいからなんにも話さないで下さい。もうわかりあしないんです」と云つた。

病人は焦點のきまらない視線を銑太郎に投げた。それが銑太郎にはいきなりたまらない氣持を起させた。疲れきつてゐる銑太郎の神經は見る／＼興奮した。

「おばあさん、僕わかる……？　僕なにもお婆さんを呪つてやあしないからつまらないこと考へないでね…おばあさん！だけどお婆さん、僕一言今のうち賴んどくけど、財産はしつかりした人に賴みなさい、銀行へあづけるなんかだめだよ、蔭でそんなこと相談してる人があるさうだから、お婆さん流に銀行へなんか預けない方がいゝよ。今の世の中なんて、何一つ信じられやしないんだから…うつかり人間を信じちあ駄目だ…この家にだつて廻者がゐるからさ」

喋舌りつゞける銑太郎を、突嗟に佐助が遮つた。日頃忍びきつてゐる佐助だけに傍の者ははら／＼した。日野屋も薪屋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も家へ歸つて、丁度居合せなかつた。

「銑さん出て下さい。一寸私がお話ししたいですから…どうぞ出て下さい」

その銑さに銑太郎も訪ひ出された。

「おんまりぢやおありませんか、銑さん！ちつたあ私の心になつてみて下さい。一日中黒に働いてお婆さんの爲めになつてればこそ、かうしてゐられるんですよ……なんか變に勘ぐらないで貰ひませう」

「ほう、釋り違つてる」

そのくせ銑太郎は今にもつかみかゝりさうな百姓然とした佐助を怖れ退くのであつた。慥かに彼は佐助をはじめ周圍の者をあてこする氣で云つてゐたから。「君に僕がわかるもんか。少し融通したぐらゐで累にかゝらなくつたつていゝだろ」

それはまた佐助の意外とするところだつた。今の場合、只彼が誤解されてゐることだけが不服なのであつた。佐助は口でよりも手で打かゝらうとした。そこへ二人三人の居合はせた身内が割り入つて了つた。

病人の方では、銑太郎が來たことさへもう意識に映らないらしいのであつた。きれぎれの囈言が婆さんの口から漏れてゐた。お留はお婆さんのむさ苦しい裾の方に突伏したまゝ、唇を嚙み嚙み忍び泣いた。店から良人も銑太郎も裏口の方へ廻はされたが、大學出の銑太郎の口吻は、てんで頭から佐助を呑んでかゝつてゐた。

「百圓のことといつてやりあい〳〵……なんで又默つてる」と、お留はむしろ、良人の行くところ迄行かない性分にさへ叱を立てた。病人は今も唸つてはゐたが、お留の耳へは入らなかつた。

五

ものゝ十日とも病まずに、あれほど強情なお岸婆さんが死んで行つた。殘されたものはお岸婆さんの少なからぬ現金

と、この世の樂しみに對する未練な言葉であつた。親類の人々は通夜に集りながら、お岸婆さんのどの思ひ出話にも、或る輕侮と揶揄を裏付けないでは話し盡せないことを知つたくらゐであつた。ところがまた、それが皮肉なことにはそれら口前のいゝ親類の人々こそ、お岸婆さんに對する輕侮と揶揄以上のものに價する性質の惡さを忘れてゐることだつた。

初七日が濟むか濟まない内に、お岸婆さんの金庫をあける會合が五六の親屬の間に約束されてゐたが、その日取が曖昧に取消されてしまつた。それといふのは佐助夫婦に力を入れる日野屋の主人の心事がだいぶ後暗い、なにしろ震災で下町から燒け出された日野屋は、今以つて舊の町へ立ち戻れず、日増しに行き詰つて來る苦境の際中だから、佐助に全部の財産を相續させ、その上で相當の融通なり謝禮なりを受ける下話が出來てるさうな、それならまことに以つて不都合極まる、といひふれる者が出たためであつた。その上日野屋に不利なことは、去年の年の暮れにお岸婆さんへ主人が泣きつき、大きな金を借り出さうと試みたところ、例の通り苦なく斷はられた事實が知れ渡つてゐるからだつた。

勿論日野屋はその噂を打ち消した。あべこべに新屋の下心を讀みとつたやうな宣傳をした。さういへば新屋も大きな世帶にも拘はらず、歐洲大戰當時の好景氣時代にいくつかの小つぽけな事業會社に手を出した揚句、九年の反動來でひどい痛手を喰ひ、今日いまだに極力整理につとめてゐるのは事實だつた。それに長い間お德母子の後楯をつとめて、その分の出し前をもこの際とれるだけとらうといふ肚だ、と見てゐるのであつた。もけ一つはお德がお岸婆さんの籍から出て了つてゐることだつた。それだけ新屋側の躍起となるのが見え透いてゐるとよろこぶのであつた。

「なによりお婆さんの目の黒い内に復籍しとくことだつたよ。これでいざ裁判沙汰といふ時には、新屋も何割か損なことだ。いくら日を延べたつていつか一度は金庫をあけなあならないものを、つまらなく焦つたものさ」

その日野屋の豪語には、慥かに根據があるといふものだつたが、日を繰り延べた間に、日野屋側の一人二人を、新屋がそつと寢返らせようと立ち廻つた。この際のことで新屋は利を露はに持ちかけることを躊躇しなかつた。なにしろ實の娘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であり孫でもあるのに、みす〳〵山屋を繼げないといふことから考へてもお德さんは不幸な人だ、それにあの鐵太郎って息子が手賴になる男ではなし、傍々同情してやって欲しいと、相應の理窟もあるものであつた。新屋はさう賴んでおいて、いざお岸婆さんの遺言が少しでもお德さんに不利だつたら、手賴りない女一人の爲めに臨機應變の所置をとらせて欲しい、なにをいふにもあの强頑なお婆さんのことだから、その遺言狀も思ひきつたものかも知れないと巧みな掛合ひ方であつた。

うち續いた看病と、言ふに云はれぬ煩雜な經緯とで疲れきつたお留夫婦は、前より一層むつつりと無口になつた。それも當然であつた。二人はなに一つ考へつかないやうな、またなにもかも考へぬいた後のやうな、茫然とした恰好を人々の前に曝してゐた。それは主人を喪した飼犬の據りどころなさであつた。お岸婆さんを亡くしてみて、佐助夫婦ははじめてその日〳〵の遣りにくさを知つたのであつた。佐助もお留も、お岸婆さんの强頑さはとても受け嗣げる性質の人間ではなかつた。

その證據に彼等は心易い誰れ彼れの賴みでもきつぱりと斷りきれず、澁い心痛さを忍びつゝ中川の半分くらゐで耐へてくれるやうにと、こつちから頭を下げる方だつた。こないだも日野屋にいはれるまゝ手形の裏書きもし、一時の融通をもしたのであつた。日野屋は口を拭いてゐて、世間へ云ふだけのことは云ふのであつた。

或る夕方も佐助はこれといつて商賣を勵む氣がなく、店でこと〳〵と芋を刻むお留に手傳ふでもなく、變に鬱ぎ込んだまゝ坐敷で臥そべつてゐた。そんなことがお岸婆さんの死んだ後で何度もあつた。お留もげつそりと力ぬけがして、開かれない金庫に氣を腐らしてゐた。飯時になつて急に佐助はお留を促がし、

「嫌だからいつそ田舍へ歸らう。おれたちにお婆さんの眞似はとても出來ないものな。こゝん家でも貰へばいゝが、さもなかつたらこれからどうする」と、ひどく弱氣につぶやいた。

お留も良人の心とあまり違つてはゐなかつた。只お留の方がお岸婆さんの遺産に對して、十七の年から三十二になる今日迄、合力した未練を捨てかねるのであつた。

「これから日野屋に頭を押へられるもの、もし婆さんの金を貰つたら何のことだよ……先々長い間押へられるのも辛いからな」

佐助の疲れきつた頭の中には事毎に人の口の端のうるさゝが刻みついてゐた。ふり切らうにもふり切れないうち、親類の立會ひで金庫をあける夜が來た。日野屋の主人夫婦と、新屋の主人夫婦、それに他の四五軒が加はつた。お德は佐助夫婦と並んで座つた。お岸婆さんが最後まで金庫のあけ方を教へずに死んでしまつたところから、金庫屋の番頭を頼んで鍵の符牒を合せるのにしばらく手間をとつた。

佐助は厠へ立つふりでそこを起つて裏口を出た。北風の滲みつく寒い夜だつた。自分がゐなければ肝賢のところでぶち壞しになると思ひながらも、彼は自分で自分がどうにもならなかつた。邸町の暗い人通りのない通りへと彼は曲り／＼歩いた。三十分か一時間か、彼には見當がつかなかつた。只彼はこのまゝ一夜歩き通してゐたくなりさへした。彼はこの頃心の調子が外れたやうで、自分ながら不安だつた。前のやうに心を斂め直さうと考へても、それがなんの强い張り合ひにもならないのであつた。頭の中がすつと冷える感じがした。

歩きくたびれた彼は茫やりと歸つて來た。坐敷では親類の人達がさわめいてゐた。そこらへ彼を探しに出た人も諦めて引つ返したといふところだつた。

「佐助さんもこれぢあね！　佐助さんにこれだけの店は慥かに荷だろ！」と、新屋の主人がだめを押した。

彼は默つたまゝだつた。すると日野屋が、

「なんで荷になる？　商賣は同じで、只資産だけが佐助さんの名義に變はるといふだけだもの……」と、譲らず云ひ張つた。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今迄座の眞中に持ち出されたまゝの手提金庫が、七八人の人達の注視の中で蓋をあけられようとした。すると丁度それと前後して佐助が見る〳〵蒼くなつて後へ倒れかゝつた。傍にゐたお留があわてゝ支えた。皆なが立ち回つた。寒い中を、この頃衰えた健康の佐助はあまり長時間歩き廻り過ぎたのであつた。貧血を起した佐助は、隣りの三疊の方へ運ばれて行つた。

その夜は新屋のいふところに從つて手提金庫を細繩で結び、立會つた人々の封印が施されることになつた。使ひが印形のない人達のところへ差立てられた。

六

醫者は佐助に一ヶ月くらゐの靜養をすゝめてゐたが、お德の側では少しでも佐助の快い日にもう一度親類の會合を催促して來てゐるのであつた。さうした後で、縱り佐助に轉地させればいゝといふ意見だつた。佐助の容態は少しも晴々しなかつた。最初の會合を催した夜から、數へてやつと七日しか經つてゐなかつた。

その日、噂は親類の人達を驚かした。銑太郎の行方を不明にしてゐた間に、いつか拘引されたといふのであつた。彼の勤めてゐる銀行では頭取をはじめ二三の重役と貸付課長が上げられたといふことも確實らしくなつた。狼狽したのは新屋であつた。頸筋の太つた五十六七の新屋の主人は、その筋を確めた上で××刑務所へやつて行つた。その日から彼は苦い不機嫌さに捉はれた。すべてがこゝで頓挫したことを氣づいたからだ。といつて彼のやうな叩いたり叩かれたりして人の波を押し分け押し流されつけてゐる人間は、そこにもう一つ拔道のあることを考へつくのであつた。

佐助の病氣がぐづ〳〵してゐる、その隙にむしろこつち側の要求として親類達を結びつけ、佐助を牽制しようといふ企てだつた。それに病んでゐる佐助は、さうでなくともお人好しの部類の人間だ、そこへ附け入つて佐助の口證を摑んでし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まふことだ――お岸婆さんはどう遺言しても、現金の全部は（佐助の預け分二千圓を除いて）苦情なしにお徳へ渡すといふことを。今はお徳に同情の集る時だ。この時親類を纏めるのは容易だし、前に一人二人は日野屋を裏切つてゐるからだつた。

お徳は突きのめされたやうに呆然としてゐた。前々から銑太郎はどこかに泊り〳〵して家へ歸ることは少なかつた。だからお徳は狎れつこになり、時々思ひ出したやうに案じるといふ風だつた。日頃のひどい荒み方を見ては、或る疑を持ちながら、併し重役に特別の引き立てに預つてゐる以上は、何事もないものと一人ぎめにきめてゐたのであつた。お徳は町に立つた風評で脅かされてしまつた。涙を拭つたばかりに、すぐまた泣き出してゐた。薪屋へ泊つたり薪屋の誰れかに泊りに來てもらつて事情の確められるのを待ち暮した。日毎にお徳は窶れ目が立つた。

薪屋が焦り出して一通りの意見を纏めてしまふと、後には日野屋ともう一人きり殘つてゐるだけだつた。連判で佐助の同意を求めて來た。臥てゐる佐助よりもお留が憤つて日野屋へ飛んで行つたが、その後で佐助の口から七八分通りの要求に從ふといふ意味のことを約束したといふのであつた。

「まあ、佐助さん、あんたお婆さんの粒々辛苦を忘れたんですか、お留さんだつてえらい犧牲を拂つてゐるんですぜ」

と、日野屋は泣かないばかりに佐助の枕許で身體を揉んだ。

「いゝつていつたわけぢやないんで……只、私の考へぢや銑太郎にケチがついたらこれから先、お徳さんが困らうと思つて…」

「お徳さんの背後に薪屋がゐるのを忘れたかね」

「日野屋のおぢさん！あの人はどこ迄も强いんで仕方がない」佐助は投げて云つた。「それに私は煩くつて頭が病めて助からないから」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うつかりしてゐた日野屋はうま〳〵と薪屋に喰はされたのであつた。自分の側の一人一人が薪屋に加擔して印を捺してゐるのをみると、結局ぶち壞せば壞せるやうなものゝ、この上世間體も考への中におかないわけにいかなかつた。

「ね、佐助さん、あんたも四十前ぢやないか、すこし元氣を出してお婆さんの殘したものを失さないやうにさ……親類に早く集つてもらふんだ。本來をいへば薪屋もお徳さんも謹愼すべきところなんだ……」

どつちに向いても、日野屋はぬかり過ぎてゐた。親類達の意見が彼から離れたことは連判狀で見てとられるのであつた。

佐助は目をつぶつて日野屋を避けやうと考へてゐた。お留に泣き込まれるだけが、佐助を苦しめた。

お岸婆さんの賣物の現金二萬千五百圓の中千五百圓が佐助の手にのこり、殆ど全部がお徳の手に入ることになつた。薪屋がさういふ所置を佐助に柔かく持ちかけたゝめだつた。その日は、金庫をあけるのに日野屋夫婦も立ち合つたが、すべて萬事はどうにもならず終つてゐたのであつた。お岸婆さんの遺言は――お徳に一萬五千圓、佐助には六千五百圓と店の家屋權利――といふ中で、お徳のとり分を五千圓殖やしたのは佐助の申出だつた。佐助は一度自分で全部投げ捨てようと思つたくらゐの心持でゐたからこそ、薪屋のぬかりない手が彼へ伸ばされたのであつた。彼は正直のところ愉快ではなかつた。親類の連判といふものも日頃自分がどう見られてゐるか、それをまざ〳〵と見せつけられたやうなものだつた。彼はお留の前で、壓しつけられた嫌な氣分を焦々しく呟いた。先手に來られるのは嫌なものだつた。「今になつてあんたもいひたいことをいふ方がいゝや……私ア十五年もこの家に働らき通したんですよ。それをむざ〳〵遊び暮してるお徳さん達にとられてさ……人情も何も屁の役にも立つもんか、あんた、あんまり意氣地がなさ過ぎる……」お留はおい〳〵と口惜しがり、涙で顏中を濡した。

十五年、その通り一日でもお留はお岸婆さんの壓迫から逃れることも出來なかつた。その上またその實の娘や親類達に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

壓迫される。お留としてはまるで生殺しも同じだつた。

或る日お留が店の土間からとりあげたのは一通の手紙だつた。どこからか來た不氣味のものに見えた。お留は佐助のところへ行つて封を截つて渡した。佐助の方がまだ彼女より少しはマシに讀めるのであつた。

――時下寒氣きびしき折柄御尊下にてはお變り御座なく候や。この度、さぞかし皆々様をお驚しいたしたことと存じますが、私は銀行の頭取重役を欺き、同時に自分も犠牲になる決心にて、取調べを受けてゐます。豫審の終結するのはまだ一年も先きのことゝ思ひますが、彼等と私の罪狀はもはや遁れられざるもの、私も又固く心に契ひ、すべて知るまゝ關係のあるまゝに申述べ、潔く罪に服する心算に御座候。思へば私も醜き悪足掻いたし御尊家へ非常な御迷惑をおかけ申し、こゝ未決にて慚愧いたして居ります。あの頃、お留様を脅し貴下に強請いたしましたのは朝鮮へ高飛びしたき心算のためにて、實は當時重役の一人に一切の罪狀自白せずとの約束にて二三千圓貰ひ、それにて身を隠さんと企て居り候ひしに、つひに重役が、その筋の手配早くも彼等に廻りたるを見てとり、急に私を突つぱね、彼等にて巧みに退職手當先取りを企てた模様でありました。その結果私は世間を欺き得ざる苦痛に堪えず、三度四度自殺を決意しながら、どうしても自殺出來ず、銀行を休みて只自暴自棄の中にみぢめな日々を送つてゐたのでありました。百圓の紙幣をあのカフエーの二階にて受取りたる時は、少しも有難き心せず、ふゝんと思ひ、あなたを嘲笑いたし候。これ、あなた方の拜金の程度極點に達し居るものと思ひましたる故に御座候。祖母様のこと申すまでもなし。只々、苦しく腹立しく、しかも私自身、日に夜にあさましき金錢的飢渇の頂點に立ち居りし時に御座候。今日、私が筆を執りあなたへおわびいたしたきは只の感慨のため又は人情のために御座なく候、小生はその反對に感じたく候、こんな未決にゐて、女々しき感慨の餘り貴下に詫びするはむしろ失禮なりと存じ候。私の申上がたき心持は、恐ろしき私の存在に御座候。私は今日までよくせき地道に金をとりたること少なく、大方は瞞着糊塗したる揚句の金でした。それといふのも今日考へれば祖母――並々ならぬ祖母に反抗したい。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爲めでありました。恐らく私の母も祖母に對しては仇敵の如き反抗心に燃えたることと存じます。世間より祖母が酷く非難されるにつけ、私は出來る限り上品に世間を渡りたきものと思ひ、（おそらく母も同様にて）人より嗤はれざる生活、小ぎれいの生活、世間氣と體裁の生活を、どのくらゐ求めたかわかりません。私達も初めより不幸でありました。他方私達の祖母にしましてもこれ又不幸でありました。今日までの私達のすべての不幸は、お互ひに角目立たざるを得ざる境遇に生みつけられたことであります。

　また顧つてあなた方の立場に思ひ至れば暗然として憂鬱に閉ぢこめられずには居られません。あなた方も今日迄は正に犠牲の數年、十數年であつたことゝ思はれます。祖母は何故蓄財一途の生涯を送つたのでせうか、これも結局いふにいはれざるほど哀れの運命かと存じられます。私、母、あなた方、祖母と考へ來れば、何故のお互ひの苦しみなるや不可解のことに御座候、只々金欲しき世の中、金なしに過せざる世の中といふにはもう少し考へざるべからざるものこれあることゝ存ぜられ候。先きに私が只感慨哀切のまゝお詫びするはをかしく思ひたることも許させ給ふべし。小生、頭疲れ心衰え、事の成行に自分の責任の重大なるを考へて辣然といたし候。あなた方、お覺えなきや、銀行を信じるなと小生のいひたることを。銀行が惡業に陷れば鬼畜以上なること恐しき限りに御座候。詐欺横領、文書僞造、贈收賄、ありとあらゆる商法違反等々、小生の勤めたる日本實業貯蓄銀行などその巣窟に有之、事實を一々書くこと困難に御座候。小生の係はりたる一例を上げれば××省派遣の屬官を誘惑いたし不良不當の貸付内容に充ちたる帳簿の檢査を寛大にさせ、その報酬として、影もなき人間の空なる約束手形を受入れ、貸付名義にて大金を贈賄したること三回四回に及びたる事實、これ實に天を欺く所業に候はずや。小生、魔に魅られしやうにて、重役よりその都度慰勞金のふるまひによろこび居りし次第に御座候。重役に頤使される私達も不甲斐なけれど重役の厚顔無恥には憤しきもの有之候。落つれば同じ地獄の決心にて日頃の罪状を曝露すること、何かの戒めとも相成るべく候。世の中のこと表裏矛盾、なにがなにやらわからざる中に、歴然とし

て指摘し得るものこれあり候、そは持たざる人間を持ちたる人間が壓迫する事實の爲めに候。持たざる人を、持ちたる人間が更に搾取する故に候。初め祖母も我身を防ぐ爲めの自衞的蓄財なりしならんに、あまりにも深入りしたる結果と存じ候。母と私とはその祖母を片時も栖として忘れざりし弱者に御座候。……小生は少しく前まで虛無の他何者も信ぜず、惡業も當然と思ひ居り候、そのため重役のよき小猿と相成り居り候ひし、されど重役は小猿はどこまでも小猿として扱ひ、いざ露見となれば見捨てるものに候。昨日の味方も、今日は他人の如く扱ひ申候。その時彼等を憎みたりとて、惡業の加擔に於いては等しく小猿をも網に捉へるものに候。嗚呼なんの力なき小猿の私、小猿ながら躇くだけのことは躇くべく候。小生の生きる途は只その一つに御座候。なにやら纒らずに候へども今日疲勞のあまりお許し下され度候。差入物は伯母の手を經て毎日不自由なく候。一寸申添候。

十二月二日

××刑務所未決△△號にて

銑太郎

佐助様

お留様

その手紙は息苦しかつた。文字が亂れてゐて佐助にもお留にも讀みづらかつた。後返りしては讀み終はると、そのまゝ佐助の方は仰向いて枕の上にぢつと目をつぶつて了つた。お留はところどころ讀み直しながら、佐助にきれぐな問ひをしてゐたが、

「まだお婆さんの遺産のこと知らずにゐるのね？　家はまだ預けないでおくの？」

と、合せて三千圓ばかりの金をどうするのか腑に落ちないまゝ獨言のやうに呟いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

七

母親のお徳は薪屋の注意で刑務所へはもうしばらく見舞はないやうにと引きとめられてゐた。薪屋があれこれとお徳の身の廻りの事をとりしきつてゐるのであつた。お岸婆さんの遺産の分け前は、薪屋のかゝり合ひから和田部銀行へ設けられた。これまでの遺産の成行のあらましを薪屋の主人の口から銑太郎の耳へも入れた。

「つまらないことして！」

と、面會に出た銑太郎が薪屋の主人に陰鬱な表情を見せた。と歸つて來ての話であつた。お徳は寒さの中で絶えず眩暈を感じ、歩きながら柱につかまつてしばらく立つてゐることがあつた。前にはよく出て歩いたお徳も、人目がうるさく、まるで屈み縮むやうな毎日を弱々しく送つてゐた。銑太郎から時々來るたよりを毎日待ちきつては、來ない日を[illegible]繼めるほど案じるのだつた。薪屋が和田部銀行へ預金をするといつた時、お徳は日本實業貯蓄銀行の背任事件が町の噂さを搔き立てたことをひどく氣にした。で貯金をとり戻すあてのなくなつた貯金者達がお岸婆さんの遺産のことを取沙汰されるのは苦しいのであつた。

「そりあ、そんな人達に氣の毒だけど、ま、なにさ、さういつてた日にあいくら金があつたつて及びあしない」

と、薪屋の主人は苦笑した。一週間に一度は親類の誰れ彼れが刑務所へ出かけて行つたが、銑太郎は和田部銀行も十二年の大震災以來破綻に瀕してゐるといつて薪屋の主人に注意を言傳へたのも一二度ではなかつた。

「和田部が潰れるやうならどこの銀行だつて潰れる」と、薪屋の主人はいくらか不安ではありながらさう輕く見てゐた。その彼は早速にお徳から三千圓を借り込んで、一二三百圓づゝ親類の二人に約束通り無利子で貸付けてたのであつた。

或る日——私もこの頃はすつかり落ちついて非常識なことはしなくなりました——といふ書き出しの銑太郎の手紙か、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

母親の手許へ屆けられた。

――度々承りましたがお祖母さんの遺産について何々私は不安であります。本來はもう私達はあきらめてゐなければなりませんのでした。新屋の叔父樣がよくして下さるやうなもの〻、お互ひに傷いた心はとり返す術もありません。私は御心配をかけるやうなことは書きたくないのですが、お祖母さんは一度その日にも困る生活に落ちた人です、そしてお母さんも私もお祖母さんのお蔭でそんなひどい日には逢はないで日が過せたのです。その代りお祖母さんは非難されつ〻生き、私達は死につ〻あるも同じです、でもこれは私の書き過ぎです、今お母さんは嘸々私の身を案じて下さるでせうけど私は思ひの他光明を見ることが出來るやうになりました。私は罪人です。刑を受ける日もいづれ決るでせう。それでも私は死なないで生きられるのを感謝してゐます。私のなすべきことをこ〻で立派に果します。私は重役が私財を隱したことも知つてゐるのです、また頭取が山陰の方の或る銀行に預金をし土地を買つてゐる事實を知つてゐるのです。それを早くおさへさせたら預金者の迷惑も減るわけです。お母さんは――なんでもこなひだ良心を責めてゐられたとのお話を新屋の叔父さんから聞きましたが、その事はもう少しお母さんが丈夫になられた上で、私も考へを申上げませう……いけないと思ふことは早く捨つべきですが、時期と狀態も考へなければなりません。これも柏屋の血を統いた者のいひさうなことです。矢張りどこまでも惡利にへばり着きたがるのだらうと、つい考へます。おばあさんの血が私へまで慥かに傳はつてゐます。私は只人道のために自分を犧牲にすることは出來ない人間です。私には懺悔など出來ません。只、私のは事實をうつたへるのです。

お德はこの手紙がどうしても讀みきれなかつた。途中で目を放しては茫やり考へてゐた。銑太郎のそれからもつゞく文字は恐しかつた。柏屋の者に限つてどうかういふわけでもないのに、と茫やりながらお德は辛く打ち消した。閉ぢ籠つてしまつたお德の家へ新屋の人達が交る〳〵用事を達しに出向いてゐたが、お德は口も利かなくなつた。目の

中には暗い窓の下に、夜々どうにも寝つかれずにゐる銑太郎が映つてゐて離れなかつた。日は少しづゝ暖かくなつたが、思ひかけず雪になつたりした。

三月十四日の午後であつた。衆議院の豫算委員會でK藏相が「本日正午、東京和田部銀行がいよ〱破綻いたしました」と云ひきつたといふ新聞記事が市内の商店の店先きで、雪に轉つた泥路の上で、役所で、工場で、電車の内で、ステーションで、ありとあらゆるところで鋭い風評の戰慄を與へた。もうとつくに前の年、その前々の年から和田部銀行は破綻に瀕してゐたが、帝都乘合自動車會社の二百萬圓の社債を融通することで、辛じて辻褄を合せ、和田部一家の所有土地時價二千萬圓と唱へる擔保で勸業銀行から六百萬圓の借入れをしたりしてゐたのであつた。大地主和田部家を前々通りだと信じてゐた新屋は見誤つたのだつた。その翌日の午後三時、交換尻の決濟が出來ないために和田部銀行は休業した。それも藏相の失言を楯に預金者への通口上に役立てたも同じであつた。

お徳が預金先きの銀行が休業したと聞いたのは十五日の午後だつた。お徳の家に來る酒屋の若衆が世間話に云つたのであつた。座敷の方で只默つて聞き捨てゝゐたのに、それが和田部銀行といふ一言でお徳はいきなり火鉢のところを立ち上つた。薪屋まで歩くのにお徳としては骨が折れるのを、黑い呼吸を彈ませてあわて急いだ。その顏色は血の氣もなく眞白だつた。喘ぎ〱年寄のお徳が薪屋の店へ入ると、三四人の若衆が暗い土間であつと叫ばずにゐられなかつた。

「××町のおかみさんが……」といつて小僧が奥へ飛んだ。積み上げた薪の束につかまつたお徳は眩暈で動けないのであつた。

お徳は主人から氣安めを云はれた。佐助のところでも二千圓だけ預けたさうだ、いけなければこの口も一緒だと。それは主人の僞であつた。佐助はまだ預ける決心を決めずにゐるところだつた。

奥の坐敷で安靜にしてゐるうち、少しづゝ元氣が出て來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「危いから……」ととめられるのに、お徳はわけのないやうなふりで薪屋の店を出た。小僧が一人彼女を送り屆けるやうに吩咐つて來たが、お徳は寄道を考へついたことにしてその小僧を欺してしまつた。彼女は俥をみつけ、〇〇町の角の和田部の支店前まで乘つた。バラック造りの派手な銀行の建物は、群がつた人間の荒々しい焦燥の波の向うに偏平く押つけられてゐるやうだつた。閉めた戸には七日間休業のあてにならない白い札が貼りつけられてゐた。

お徳は二三度前後から突きこくられて、ふら〳〵と地面の上に居づくまつてしまつた。人中へ入るのは亂暴だつた。どこかの小僧のもてあました自動車の輪が、突伏した彼女の身體に觸れた。

「どうしたンだ……？危いッ、危いッ」

さう誰か呼んだ。すぐ大勢の足がぐるりとお徳をとり圍んだ。誰もこの口を利かない行き倒れ同樣のお徳を知らなかつた。それにしては着てゐるものゝ上品さに皆なが引き起さうとかゝつた。

「引き出しに來たつて銀行はだめだ。つぶれちまつたも同じだもの……」そんなことをいふ者もあつた。

「瓦斯會社の金を三百萬圓も凹つたんださうだが、そいつをどうしちやつたんだ……」

引きおこされたお徳は、今迄耳にしたこともない絶望的な叫びに壓倒され、昂奮で喘ぎながら、

「潰れたんですか。私あ十日前に一萬三千圓も預けたばつかりで、私のおふくろが四十年も汗水たらして溜めた金なんですからね、一錢だつて失せない」と、もうまるで自分を忘れ、喘ぐやうにあたりかまはず叫んだ。

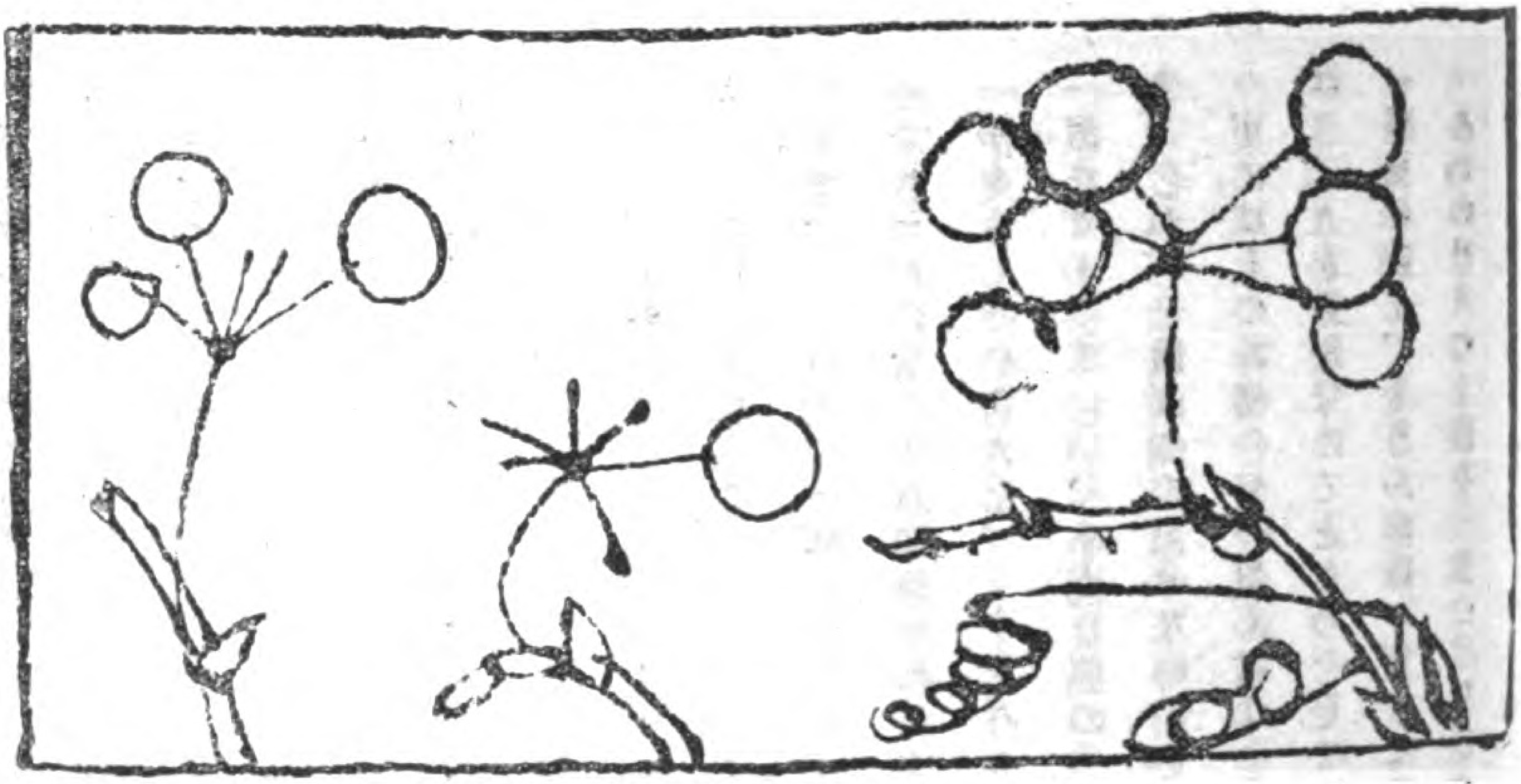
中にはそのお徳の目の凄く据はつた一心さを、驚いて目戍る人達もあつた。前へ出たところで扉が閉つてゐるのに彼女は二三人を掻き分けて進んだ。その時また彼女はへた〳〵と地面の上に崩折れて了つた。

「隱居の遊んだ金なんかいゝぢやないか」

あかの他人の正直な一瞥の、思ひきつた投げ言葉だつた。

（五月作）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



女優

犬養健

一

しばらくの間、私はその女優があまり突然隣り合はせの席に坐つたゝめに具合がわるくなつてしまつてゐるのか、それとも私に氣がつかずにゐるのか、それを觀察してゐました。それから、大體私といふ人間に挨拶をしたくないではないかとも思つて見ました。さういふ事も向うにとつては一理あつたからです。或る道義心をはたらかすと、私はこの小さい女優——毬子に對していつも一種の引け目を感じてゐたのです。西日の强い夏の午後でした。私は本を伏せて毬子が眼をひらくのを待つてゐました。ひどく搖れる省線電車の窓際で、毬子は氣分でもわるいやうに眉を寄せながら、髪を風にあてゝゐたのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私にはそれが只事でない疲勞に見えました。同時に、いかにも巧みに挨拶を外らしてゐる仕草にも思はれたのです。この曖昧な點にやはり女優たる面目がありました。――

眼をつぶつてゐる間、毬子は小さい薬瓶を膝に置いてゐました。地味な着物を着てゐました。さう云へばずつと前に新聞の社會面の記事で毬子の結婚の噂を讀んだ覺えがありますから、或ひはそれを機會に舞臺を退いたのではないかと、そんな風にも私は考へました。

レールが大きく迂廻して、西日が山ノ手の高臺から眞直に私達の席へ差し込んで來ました。私は立つて鎧戸を締めました。すると、毬子は眼を開いて不愛想に私を見たのです。平凡な何の態も持つてゐない眼差でした。氣が付かないでゐたのだ。――と私は判斷しました。

やはり私の判斷が當つたのです。私が車臺の動揺によろけながら挨拶すると、毬子は忽ち以前のとほりの勝氣な、女學生風な、小さい女優に變りました。變らうと努めました。小さい女優といふのは私の第一印象なのです。毬子が最年少女優であつた初演の時の印象なのです。

「伊東さんの修吉さん。――さうだわ！ほんとうに修吉さんね」

あまり子供らしい、卒直な氣のつき方なので、私も打ち解けて笑ひ出してゐました。聲が以前よりも嗄れてゐるのです。しかし私は兩側の吊り革の白い輪が音を立てて揺れてゐる電車のなかで、非常に古い知り合ひに出會つてゐるのだと今更に感じてゐました。私の苗字を呼ばずに名を呼ぶ人はごく少ないのです。

「さつきから眠てゐるところを見ていらつしやつたんですね。起して下さればいいのに」毬子は云ひ譯のやうに先刻の疲れた顰め顔を、もう一度繰り返して見せました。「今年は暑さ負けをしたんですよ。毎日三十分たつぷり乘るもので、電車ぢやあかうやつて眼をつぶつて休息するんですよ。ほんとに早く起して下さればいいのに」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「新宿だつたか、あの邊から氣がついたのだつたけれども——」

ひどく變つて見えたから。と云ひかけて、私はそれが若さを失つてゐない——二十代の婦人に云ふべき言葉ではないと思ひ直したのです。

「えゝ、大久保からいつも乘るんです」そして毬子は獨り言のやうに、しかし相變らず率直につぶやきました。「あなたもあつちの方ぢやないかしら。誰かにそんな事を聞いたけれど」

「さうです。たつたひと停車場先きです」

「——お子さんは大きいんですか」

近くに住んでゐる者同志の挨拶を危うく口にのぼせかけて、毬子は話題を替へたのです。私にはそれがよく分りました。私は毬子のその心事を憐れみました。といふのはその瞬間の毬子の本質を愛したのです。私は彼女をごく眼近かに視つめて、世辭ではないのだといふ意味を籠めてしみじみ云ひました。

「子供をお見せしませう。遊びにいらつしやい」

毬子は故意と輕く聞き流して笑つてゐました。

「遊びに？——いゝんですか」

「どうしていけないんです」

しかし私はそれ以上言ひませんでした。私の家が昔から毬子の家に對してどういふ態度を取つて來たか、よく知つてゐたからです。——すると毬子は、聞きにくい事は却つて遠慮なく聞いてやるのだといふ様子を見せました。古くから私の知つてゐる、毬子の持つ娘らしい反抗心なのです。

「お姉さんは御丈夫？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「丈夫です。名古屋にゐます」
「お従姉さんは。――松江さんは」
「別に變りはないんでせう。よく知りません。――福岡にゐます」
従姉を話題にのぼせた時、私はやはり毬子の前に、何となく弱者の位置に立つてゐました。そして私は従姉の今の生活にはあまり關係も興味も持つてゐないのだといふ語氣を自然に漏らしました。それは私にとつて事實には違ひないのですが、しかし殊更にこの場合現はす必要もなかつたのです。私はその弱身をはつきり感じました。そして――私の方でも反撥しました。私は明らかに従姉に關聯した事柄として訊ね返しました。
「兄さんや姉さんはどうしてゐます」
「ちつとも便りがありませんわ」
「何か新らしい探偵物の主役になつたとか」
「さうですか。兄の出る映畫もつい見ませんの。ホリウッドの町外れになかなかいゝ家を買つたといふやうな話を、却つて彼地(あつち)から歸つて來る方に伺ふだけですわ。お金も大分溜つたやうですわ」やはり女學生風の茶化した物言ひをやめないのです。「それよりか、あなたはどう？」
私は娘つぽい皮肉を豫期して、笑つてゐました。
「笑つてゐられるやうならば結構ね。わたしのやうに身體の調子が狂つてはお終ひですわ。昔は病院なんて、見た事もなかつたのに」
私にはそれが毬子の出世役であつたチエホフの芝居の臺辭のやうに響きました。つまり冗談には響かず、弱弱しく、眞實らしく、しつとりと響いたのです。私は無理にも毬子の氣を引き立たうとしました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「この暑さは誰にもいけないんですよ。僕もこの間うち、たうとう仕事を休んでしまつた」

「何云つてらつしやるの。僕もなんて。――わたしが遊んでゐられる身分に見えますか」

かういふ手嚴しさには馴れてゐたもの丶、流石に私は話が繋ぎにく丶なつて默つてしまひました。昔はこれも愛くるしい印象の材料になつてゐた手嚴しさであつたのに。――私は毬子がいま焦立つた滿ち足りない生活をしてゐるのだと考へてゐました。話を途切らせて並んだ二人の正面には、銀座の屋根の塊りのうしろに熱氣を帶びた海の雲が立ちのぼつてゐました。旅心の起るやうな高い、薄赤い雲です。

「あすこに、今、出てゐるのですよ」

不意に毬子から話しかけられて、私は一瞬間、小兒らしいその雲か何かの話だとさへ思ひました。しかし毬子は、私達の高架線にごく近い町家の上に大きく裝置してある邦樂座の電氣廣告を指してゐたのです。

「どこを見ていらつしやるの。Aさんの興行にいま出てゐるんですよ」

「嘘でせう」

と私は打ち消しました。その月の邦樂座の興行といふのは、毬子の特色とは全く反對な味はひの腑物であつたからです。

「いゝえそれがほんと。――ほんの端役なんです。御新造さん姿になるんですよ、わたしが。――あんまり身體を動かさないで濟む役に廻して貰つてゐるんです。身體のなほつた後の事を考へて、辛抱してゐますの。兄に仕込まれた時分の勉強を思へば何んでもありませんわ」降りるべき驛に近づくにつれて、毬子は手周りのものを纏めながら、いつの間にか今しがたの皮肉、手嚴しさを次第に捨て丶ゐるのでした。「ほんとに、いつか樂屋に來て下さいませんか。市外に引つ込んで、おまけに病氣をしたもので、友達らしい人がすつかりなくなつたんですよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私達は有樂町の驛で別れました。藥瓶を下げて、毬子は人氣や夜更しや自惚れや情事などとはもう無關係になつた女のやうに、入日前の蒸暑い邦樂座への横町に出て行きました。しかも私の觀た毬子の初演のをりの劇場は、その邦樂座の敷地に震災前まで建つてゐた有樂座なのです。しかし、私は衰へた新造姿の毬子には興味がありませんでした。今更端役に出てゐるところを見るに忍びない心持もありました。それに第一暑くて――九十度に近い夜の屢々續いたその月の終りまで、たうとう出不精のまゝに過したのです。

二

毬子がロスアンゼルスにゐると云つた義兄の晴彦は、學生時代に私の家に寄食してゐたのです。新聞記者として自由民權を唱へた仲間で、私の父と晴彦の父と面識のある關係でした。晴彦はW大學の文科に通つてゐました。面長の、頭髮の硬い、黑眼の恐ろしく大きい、兎も角も印象の強い容貌でした。器用な男で油繪を描き、素人芝居の幹事であり、そのうへ文科の競爭選手になつてゐました。また庭球部といふものをW大學に創つたひとりでした。つまり大學生としては人の目につき易い、派手な質の青年だつたのです。

晴彦は學校で覺えて來たテニスコートの作り方を、私の家の裏庭にも應用しようとしました。それは庭といふよりは空地があつて、春になると雜草のなかにつくしが澤山出るのです。晴彦はその草の上から白い線を按配したのです。「この方が英國式で洒落れてゐるんだ」と私に說明しました。晴彦は其處で私の姉や從姉に球の打ち方を教へました。私はまだ小學生で仲間には入れて貰へなかつたのです。

テニスを覺えたいといふ姉の友達が學校の歸りにこの空地に集るやうになりました。晴彦は女學生に取り卷かれながら汗を流し、硬い頭髮を逆立たせ、大きい黑眼を動かし、東北訛むき出しの氣合をかけました。時には轉んで遠い球を受け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ました。かういふ樣子の晴彦は袴を長くはいた娘達に或る恐怖を與へたのです。姉の友達はみな晴彦を「こわい人だ」と云つてゐました。しかし結局噂の中心はその晴彦になり易いのです。要するに晴彦は得意だつたのです。

そのなかで國井さんといふ名の娘だけが晴彦に臆しませんでした。國井さんは五尺五六寸もあるといふ體格で、所時代の埴輪人形のやうに落ち着いた立派な娘でした。美しいといふよりも立派といふ言葉が當てはまるのです。聲のいゝ、しつかり者ではあるが、心持の細かい娘なのです。國井さんはいつも落ち着いて、この厭味のないでもない、一本調子な晴彦を傍觀してゐるのです。一種姉らしい魅力を具へてゐたのでせう、私の姉も從姉も絕えず國井さんの傍に附き纏つてゐました。傍で見てゐると二人の間に一種の競爭が起つてゐるのです。そはそはしたり當惑したりしてゐるのです。

可笑しな事ですが、私もまた國井さんに附き纏つて歩く一人でした。姉は私には活潑過ぎたし、從姉は私には無口過ぎたのです。私もまた國井さんの來るのを待ち兼ねました。國井さんの周りをぐるぐるまはりました。國井さんはよく笑つて云ひました「わたしぢやあお友達には少し大き過ぎますね。こんなにのつぽでせう。だから今度いつか、あなたより少し小さい妹を連れて來ませうね。まだ行儀がわるくて、今のところ駄目ですけれど」——

國井さんを中心にして、無口な從姉は到底活潑一方な姉の敵ではありませんでした。姉さんは遠慮なく國井さんを奪ひました。國井さんと同じ組になつてテニスを樂しみました。草の上で友達に揶揄はれました。揶揄はれて笑ひながら云ひ返しました。そして一番動作の緩い從姉は、勝負の平均を保つためでせう、晴彦と組ませられたのです。私は姉の勝氣に壓迫されて細面の顏を赤らめてゐる從姉に同情しました。國井さんに關した事柄ならば私にもよく察しがついたのです。

そこで、晴彦がテニスに勝つには餘程働かなければ追ひつかなくなつたのです。熱情家の晴彦は相變らず頭髮を振り亂し、氣合をかけて馳けまはつてゐました。息を切らせて從姉を叱りながら從姉を庇つてゐました。自分もさうですが、晴彦は從姉を勝たせて見たいのです。ところが、私の驚いたのは從姉のしぼらしい忠實さなのです。絕體服從の樣子なので

す。柄にない熱心さなのです。從姉は國井さんと組むわけに行かなかつた、その押し隱してゐた感情の吐け口をそんな所に現はして行つたのです。……

三

どういふ徑路を經て行つたものか私は知らないのです。しかし翌年のひと夏過ぎた夕方でした。戰捷の祝ひか何か、東京ぢうで祭のある夕方なのです。しきりに往來がさわめいてゐました。提灯行列を見に行くのだと云つて例の姉の友達が縁先きに塊つてゐました。殘暑が漂つてゐたのでせう。少し離れて腰かけてゐる國井さんの前に晴彦が立つて、聲を押へながら、懊惱し、憤慨して喋つてゐました。座敷に點つた電燈を眞面に受けた晴彦の赤黄ろい顏を私は無氣味なものに覺えてゐるのです。國井さんは平常のやうに落ち着いて、言葉少なく宥めてゐました。誰か姉の友達のひとりが國井さんを「顧問だ」と云つて――少くもそれに似た言葉で揶揄つてゐました。しかし燈に脊中を向けてゐる國井さんの表情は私には分らなかつたのです。

「あの人は本當は冷たいんだ!」

と晴彦が罵るやうに、何人か第三者のことを訴へてゐました。すると國井さんが短く、穩やかに答へるのです。

「いやさうは思へない。それあ表面の事だ」

もともと表情の多い晴彦は首を振り、居たゝまれないやうに、もう暗くなつてゐる庭土の上をうろついて居るのでした。二人は私の傍で符徴の多い言葉を使つてゐるのです。しかし尋常でない晴彦の昂奮を何事かと訝つて、私は長い間柱の横で聞き耳を立てゝゐました。

半年ほど經ちました。不意に晴彦は繪の制作の都合があると云つて近所の寺の離れに移りました。その頃晴彦は大學に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

興味を失つて、既に美術學校に轉校してゐたのです。この不意の轉校のために郷里の家とも私の家ともまづい關係になつたらしいのです。しかし晴彦が寺に移つてからも、私だけは始終遊びに行きました。急に晴彦のゐなくなつたのを私は人懐こく淋しがつたのです。私は晴彦の机で水彩畫を描いたのです。

或る夕方でした。薄暗くて寒いのに晴彦は燈をつけず、火を入れませんでした。郷國から金が來なくなつたのだと私に聞かせました。毎朝牛乳を配達してゐるのだとも云ひました。寺の離れはすゝけて濕つぽく、私は退屈でした。私は歸らうと思ひました。突然障子の外で女の聲がしました。私はどきりと胸を打たれたのです。私の直感のとほりに、入つて來たのは國井さんでした。學校の歸りなのでせう、國井さんは紫いろの袴をはいてゐました。その紫の袴が部屋を明るくしたのです。私は急に快活になりました。さう云へば國井さんは私の家に殆んど來なくなつてゐたからです。國井さんは私を認めても、やはり落ち着いて笑ひながら相手になつてくれました。いつもの國井さんだ、と私はしみじみ考へたのです。なぜならば、國井さんが晴彦の寺に來たりするのは決して普通の習慣ではないのだ、かう漠然と感じてゐたからです。

二三十分して私は國井さんと往來に出ました。長い坂を一つ登りました。その坂の上から私の家が樹を越して見えるのです。「もうお歸りなさい」と國井さんが穩やかに云ひました。その時に私は、立派な國井さんがもう決して私の家には來ないのだと何故か考へました。そして私は多少感動してゐました。

一種の贔屓から、私は家に歸つても寺で國井さんに出會つた事は誰にも云はなかつたのです。

幾月か過ぎました。不意に私の母や姉が茶の間でひそひそと國井さんの噂をするやうになりました。餘人が入つて行くとすぐに止めるのです。しかしかういふ事柄はぢきに知れ渡るものです。國井さんが晴彦と同じ家に住んでゐるといふのです。そして晴彦と一所に、新らしく出來たT博士の俳優養成所に通ひはじめてゐるといふのです。

同じ家に住んでゐる。——私には不思議ではありませんでした。私は思ひ當りました。しかし俳優と聞いて私は目を見

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

張つたのです。舞臺に立つ、顔を異様に塗り立て、異様なあかりを浴びて大きな聲を出す――それは熱情家たる晴彦の特徴にはいかにも似合つてゐるのです。しかし悠つたり大柄な國井さんの何處にそのやうな情熱が潜んでゐたのでせう。國井さんは日本で最初の新劇女優のひとりになるのです。落ち着いて、笑つて、友達からいつも一目置かれてゐた人が。――たゞ一點だけ、あの唐窯の埴輪人形のやうに表情の大まかな人は、以前から何となく默つて思ひ切つた事をしさうな娘には見えてゐたのです。

間もなく國井さんのお母さんが私の家に來ました。未亡人らしい質素な身なりをした、眼の大きい婦人でした。國井さんのお母さんは度び度び足を運びました。そして結局私の兩親が媒人に立つて、晴彦と國井さんとは結婚したのです。

事件はこれでひと先づ圓滿に解決した筈なのです。しかしそれ以來、國井さん――もう國井さんではなく白川の奥さんなのですが――に對する私の家のすべての人間の態度は一變しました。勿論國井さんも自然と足遠くはなつてゐましたが、以前寄食してゐた者の細君として、年始とか盆とかには必らず挨拶に來るのです。よく國井さんは長い間客間に待たされて、ぼんやり庭を眺めてゐました。嘗て友達仲間の中心になつてゐた同じ客間なのです。時には留守を使はれる事もあつたのです。それでも、國井さんは努めてへり下つてゐました。晴彦のとほりに裏口から上るのです。あまりひどいと私は思ひました。これも以前の國井さんならば却つて內輪な、親しい間柄のあらはれに見えたでせう。だから私の堪へられなかつたのは、眼に見えた國井さんのさういふ控へ目な態度ではなく、家のなかに存在してゐる眼に見えない冷たい空氣だつたのです。

二三年過ぎました。或る日私は演藝雜誌の新劇俳優列傳といふやうな讀み物のなかに、すでに何度かの公演によつて評判であつた白川晴彦と白川奈美子の名を見つけました。奈美子は云ふまでもなく國井さんの舞台名なのです。――讀んで行つて、私は頁を見据ゑたのです。從姉の名が引き合ひに出てゐるのです。晴彦と從姉とが嘗て戀に陷ちたといふので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す。雜草の上のテニスが仲立ちをした、演劇に對する晴彦の熱情が從姉を惹きつけた、それを晴彦の貧しいために從姉が心變りしたといふのです。晴彦は從姉の親友であつた國井さんに打ち明けて相談した、そして相談されてゐるうちに國井さんは同情して、心が動いて行つた。――かういふ大體の經緯なのです。

それは演劇記者が面白く書き立てた、安つぽい文章でした。しかし私の家の構造や裏庭の趣など、なかなか描寫の焦點が合つてゐるのです。私は醉つた勢でいゝ氣持に手あたり次第過去を喋り立てる晴彦をありありと想像しました。晴彦の誇張趣味、感傷趣味を想像しました。が、それにも係らず、私はやはり或る直感からその記事が決して事實無根ではないと思つたのです。私は急に從姉に對して嗅覺をはたらかせました。從姉が一時私の家から遠のいてゐた事、從姉が姉よりもずつと早く、不意に話がきまつて結婚した事――何か影があるのです。何か匂があるのです。

しかし私の一番思ひ當つたのはその點ではないのです。誰が本當に戀を得たのか誰が敗いのたか、どうして雜誌一冊で遽かに判斷出來ませう。私の思ひ當つたのは家のすべての者の採つた、謂はゞ自己防衛的攻擊の態度なのです。晴彦と國井さんとの出來事をいゝ機に從姉の方の痕跡をうまく打ち消してしまはうとした心理です。「これが眞相だつたのだ」「晴彦はかういふ人間なのだ」といふやうな態度です。――私が白川の一家に對して一種弱者の位置に立つたのはこの時分からなのです。

この前後に國井さんは初めて母になりました。それを私が覺えてゐるのは、滿一年になつたといふ男の子を抱いて來たからです。相變らず他の客が居合はせてゐるからといふ理由で私が接伴に出されました。しかし國井さんは私だけに會つて役目の濟むのを寧ろ喜んでゐる樣子でした。國井さんはどこか面瘦れして、その赤ん坊も決していゝ色澤ではありませんでした。暫らく逢はずにゐると話が途切れがちで、私はその赤ん坊を物珍らしく弄つてゐました。國井さんの赤ん坊は私の手を握るとすぐに口を寄せて嚙みにかゝるのです。すると國井さんはそれをいかにも可笑しがつて、いちいち聲を立

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゝ笑つてゐました。私は國井さんの變つたのに驚きました。以前の國井さんは一寸した事で大聲に笑ふ人ではなかつたのです。

四

有樂座の樂屋番は私を女優訪問常習の男と睨んで、不愛想きはまる應對をしましたが、實際を云へばその夕方私ははじめて劇場の樂屋といふものに足を踏み入れたのです。十年經つてゐました。足もとにある上草履さへ取つてくれない扱ひに驚きながら、私は幾分の不安をもつて階段を登つて行きました。長細い窓から秋らしい薄明るみの落ちてゐる階段でした。私はその四月に規則づくめな高等學校の寄宿舍を出たばかりなのです。

階段を登りきつて、たちまち私は開幕前特有の忙しさ亂雜さに度膽をぬかれた態でした。晴彥の主宰する朱面協會の「ヴエニスの商人」の初日で、どの部屋の前に脫ぎ棄てたとも分らないスリッパアの散らばつてゐる廊下には衣裳屋、小道具、寫眞屋、花輪店、辨當屋の番頭や小僧が往來してゐるほかに、ヴエニス市民の上着だけを着て毛脛をあらはした男優や、眉と頰紅とを粧つた半裸體の女優が片側の部屋から向ひ側の部屋へ出入りしてゐるのです。――で、戶口の素早く締まらないうちに近づいて、私はその女優に思ひ切つて案內を賴んだのです。

私は扉のすぐ後ろに國井さんの、白河奈美子の聲を聞きました。一座の中心女優であると同時に庶務をまで切り廻してゐる奈美子は不足がちな初日の手配に苛苛してゐるらしいのです。「え？イトウさん？――誰だらう。――お入りなさいつて」――私の失望したほど、奈美子は氣の向かない返答をしてゐました。

しかし案內された私を認めるや否や、電燈の眞下で女主人公ポオシヤの着付けに取りかゝつてゐた奈美子は、紅で緣をとつた眼を大きく見開き、昔とはまつたく違つた早口で騷ぎたてました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「なんだ、修吉さんだわ！先生はどこにゐるんだらう。舞臺裏かしら。誰か濟まないけれど先生に、伊東さんの修吉さんが來ましたつて、さう云つて下さいな。まあお坐りなさい、修吉さん！」

「先生はお隣りですよ」多分柄合ひから云つてボオシヤの侍女の役を受け持つらしい先刻の女優が、部屋の隅から奈美子に教へてゐました。「今朝雇つた學生さんのかたちをつけていらつしやるんですよ」

事實耳をすますと、粗末な板壁をとほして晴彥の東北訛が聞きとれるのです。

「本當だわ。でもあれは直きですよ。それよりかまあお敷きなさい。何年ぶりでせう！きつと白川が珍客だつて驚きますよ」それから奈美子は斜向うの鏡臺の前に坐つてゐる十八九の女優を顏で示しながら說明するのでした。「妹は御存知でせう。やつぱり毬子の本名でね、今度から舞臺に出るんですよ」

圓顏の、見るからに快活なその女優は奈美子が最初に聲をたてた瞬間からもう振り向いて、娘らしい好奇心をあらはしながら笑つてゐました。この部屋で彼女ひとりがまだ素顏でした。私ははじめて宿題の園井さんの妹を見たわけです。昔の奈美子の口振りを土台にして、私は何となく氣むづかしい、ひねこびた、貧弱な少女を想像してゐたのですが、それどころか、私のすぐ横で血色に充ちた頰の肉をくりくりと盛り上らせながら笑つてゐる毬子は、面長な姉とは骨格を全然異にした、疲勞なぞ知りさうにもない、惡戯氣の溢れた、健康な、若若しい少女優だつたのです。

「おや始めてかしら。お宅に連れてあがつた事があつたと思ふけれど」

「これあ話だけよ。姉さん」これも姉とは種類の違ふ澄んだ癇高い聲で、少しの遠慮もなく毬子が口を出すのです。「姉さんの嘘つきは今にはじまつた事ぢやないわ」

「人聞きのわるい。毬子はね、シヤイロツクの娘をやりますよ。どんなものですか。ジエシツカつてね。この芝居は無論御存知なんでせう」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「せいぜい下手なところを！　厭になつちまふわ」─

私は窓と鏡台と、二種類の明るいもの丶並んでゐる部屋を見廻しました。奈美子が舞台で使ふ手匣や大扇や腕輪や、それから毬子が柱に掛けた女學生臭い銘仙羽織や着物や帯を見廻しました。此處にはたしかに芝居の社會らしい愛嬌が活躍してゐました。また久し振りの公演の初日らしい昂奮が存在してゐました。しかしそのほかに私は、來る筈のない家の人間が來た、伊東の家族が來た、といふ感情の逆りを感じたのです。女優らしい愛想のほかに人の好意に對する弱さを感じたのです。──

時刻を見計らつて、毬子が隣室の様子を見に行きました。ジェシツカに扮する毬子はまだ「出」には間があるのです。隣室では臨時雇ひの稽古がもう終つて、私の入つて行つて行つた時には晴彦が性急に顔をつくりながら、煙草の烟の立ち籠つたなかで、二三人の客を相手に氣焔を擧げてゐるところでした。

「やあ修吉さん！有難いです」　絵具のために一層すさまじく變つてゐる形相を大きく動かして、晴彦はさも懐しげに聲を出しました。せつせと刷毛を使つてゐる際中で言葉が途切れるのです。「こんなガラガラな芝居を──いや、恐縮です。──御沙汰ですつかり氣が挫けてゐるところでしたが──家内もまつたく喜ぶです」

すると來客達は一度に笑ひ出すのでした。また晴彦の口癖が出た、といふ風な哄笑なのです。

「いや冗談でなく──この惡友共はわたしが家内を引き合ひに出すとすぐに茶化すです。修吉さん今日は觀客席へ行つちやいけませんよ！樂屋でゆつくりしていらつしやい。芝居は舞台裏から觀るです。表からは明日でも明後日でも改めて觀ると、それでい丶でせう！」

「いやな兄さん！すつかりい丶機嫌になつて」毬子は殊更眉を寄せて客達の前に並べられたビール瓶の列を見ながら、しかし相變らず笑つてゐました。「本當に修吉さんは樂屋に殘るの。ぢやあ御飯はどうするの」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「さうだ、洋食辨當を四つか五つ！あと何か出來るなら聞いて御覽」數侍の心もちが十分に現はせないで焦る、といふ風なのです。「財布はこゝにあるよ。それ十兩（ダカット）」

ダケットといふのはシャイロックの台辭に出て來る中世ヴエニスの貨幣の單位なのです。

「はい、ダキット！」

毬子は義兄の訛を上手に眞似て、それから誰より先きに自分が聲高く甘えるやうに笑ひ出してゐました。

扉が開いて、縮れた頭髮を無雜作に伸ばした、額の大きい、眼のぎろりと動く、風采からして一見藝術家とわかる、豪放な物腰の紳士が、太い煙管（パイプ）を銜へて入つて來ました。

「やあ先生。一別以來ですな、一昨日はあれからどうしました」又もや威勢よく聲をかけて置いて、晴彦は私の耳に囁くのでした。「有名な惡魔主義作家のGさんですよ。名前は知つてるでせう」

何々派とか何々主義とか區別する事の好きな晴彦は早速說明するのです。しかしG氏は空いた椅子を手元に引き寄せながら、露西亞人には露西亞語で、と云つた調子で晴彦の口辭をその儘眞似ながら話しかけてゐました。

「どうです、白川氏。印稅は來たですか」

「怪しからんです。やつと昨日の、それも晩になつてからです。本屋のやつ、シャイロックよりもなほ性が惡い」

「あつはつはつは、しかし君の處女作は評判がいゝぜ」

「それがつまらんです。——修吉さん、わたしの「毒酒」といふ自叙傳小說の出たのを知つてますか。一本を獻じますから讀んで下さい」晴彦は如才なく諸方に話題を振り向けるのです。「それがGさん、一向つまらんです。白川にしちや上手すぎる、あれはGが全編に手を入れたのだらうといふ噂ださうです。いや光榮ですな」

「つまらん」が急に「光榮」になつたりする邊り、いかにも調子で物を云つてゐる面目が丸出しになるのですが、また共

處に一寸した人の善さが現はれて、聽いてゐる私は惡い氣持にはなりませんでした。

「それあ氣の毒だな。序文なんぞあげなければよかつたな」

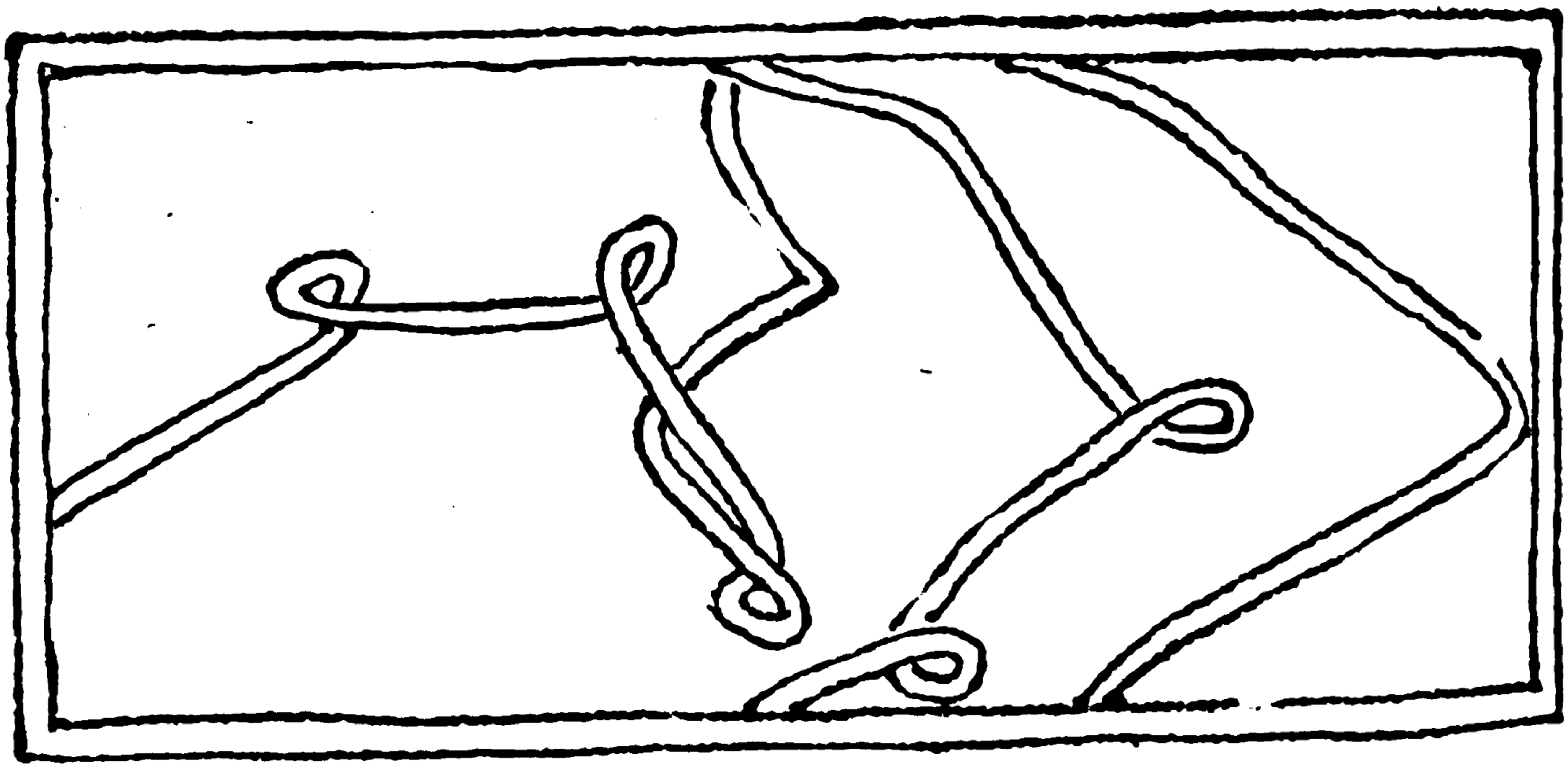
「どうしまして。友達甲斐に我慢するです。處女作でさへあなたに嫌疑がかゝる以上は、もう作者の前途恐るべしです。まつたく、有島武郎何のそのです」

「はつはつはつは。まだあの軍歌を歌つてゐるのか。はつはつはつは」

「それがね、一昨晩はあなたに褒められたといふので、すつかり昂奮を感じたです。惡友共と有島武郎何のその、を唱つては飲み、飲んでは唱ひして氣がつくと、たうとう夜が白白とあけてゐたです。そこで家に戻つて一萬部賣り盡した夢を見た、なぞといふのは嘘ですがね！」

—以下次號—

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



いのち

久保田万太郎

……その日、旦那、三時ごろに一度おみえになりました。――いつになくお客の立込んだ日で、丁度そのとき、わたくしも、かみさんも、時はづれの茶漬を大急ぎで掻ッこんでをりました。

「御飯中で……」

さういつてそのとき、わらひながら、いつものやうに機嫌よく入つておいでになりました。

「へえ、どうも。――すぐでございます、たゞいま……」

「いえ、ごゆッくり……」

わざとさう叮重(ていちやう)に。……御存じか知れませんが、旦那といふ方、とき〳〵どうかすると、へんにさう固い、しかつめらしい口をわれ〳〵にでもおきゝになりまし

た。……切口上にさう被仰つて、そこの、あなたのいまおかけになつておいでの、ちやうどその隅のところへ腰をおかけになりました。――いゝえ、どういふものか、旦那、そこの場所がお好きで、いくら外のあいてゐるときでも……といつたところで、これだけのものですが……定つていつもそこへおかけになりました。――ですから、みなさん、始終おみえになる方はよくそれと御承知で、入つておいでになり、もしそこの隅があいてゐると、「吉田屋さんは、今日は？」とまづさうおたづねになりました。――で、おみえになつたといへば安心してそこへおかけになりますが、まだ今日はおみえにならない。……さういふと其奴アいけない。……どなたも遠慮なさつて、いつまでゞもちやんと、旦那のみえるまであけてお置きになつたんだからいゝぢやアございませんか……

いつも、へえ、五時から六時がらみ……あかりのつき際といふとおみえになりました。たまにもつと早くおみえになることがあつても、大ていはさういふとき、どこかのお歸りがけで、お寺詣りに行つておいでのときとか、今日はどこそこまで用達に行つておいでになつたといふときとか、でなければ、問屋の方でもおつれになつて、どこかでいま御飯を上つておいでになつたとでもいふそのお歸りとか。……きまつてをりました、さうと。――ですから、その日も、

「今日はどちらへおでかけで？」

すぐさう申したので、わたくし……

「何ね、茅場町まで一寸……」

と、旦那、品板を御覧になりながらさう被仰いました。

「茅場町？……あゝ御本家へ？」

「上のむすめが、今度、嫁に行くことになつてね。――いよ〳〵きまつたとさういつて來たものを、打捨つても置けない、

今日いま一寸顔を出して來た。」
「それはお目出度うございます。」
わたしがさう申すと
「それが、いゝえ、ちッとも目出度くないんだ。」旦那はさう被仰いました。「わたしア氣に入らないんだ。」
「どちらへ、しかし？」
「行くさきは□□銀行の頭取のせがれだ。」
「結構ぢやアございませんか、それは？」
「結構どころかれつきの不良だ。」旦那は吐出すやうに「新橋だつて、赤坂だつて、柳橋だつて、すこし料簡のある奴はてんきりもう相手にしない。——これほど聞えた女ッ蕩しだ。」
わたくしは驚いて「茅場町さんでは御存じないんでございますか、それを？」
「すつかり調べた末といふんだから知らないつてことはないだらう。」旦那は皮肉に「が、本家ぢやア□□銀行の頭取つてことにみんなもう眼にくらんでゐる。——この緣をとり外したら先祖の位牌に申譯がないくらゐに思つてゐる。——だから可哀想なのは當人。……人身御供に上るその當人だ。」
「けど、それは。」また申しました、わたくし。「何とか被仰れないもんですか、旦那から？」
「素直にわたしのいふことを聞くやうな連中ならはじめッからそんな眞似はしないよ、親方。」
さういつて旦那はお笑ひになりました。
「でも……」
「本家で、わたしのことを、何といつてるか知つてるか、親方？」旦那はつゞけて「金の冥利を知らない馬鹿、箸にも棒

にもかゝらない道樂者、話の分らない唐變木。——かげぢやア、みんな、いはず語らずにさういつて厄介ものにしてゐる。——第一、この年まで、獨身でゐるつてことがさういふ連中には氣に入らないらしいんだ。——可笑しいぢやアないか、しかし？」

「どうしてさうお嫌ひなんです、御親類が？」

「みんな金持だからさ。」

「それでしたら旦那だつて……」

「戯談いつちやアいけない。——それほど持つてやアしないよ、わたしア……」

旦那、わざとさう聲を出してお笑ひになりました。——いゝえ、旦那、金持はきらいだ、あたじけないからきらひだ、とは始終さう被仰つてゐるので、ですから知らない方は、旦那をこの界隈切つての地面持とは夢にもおもひません。

そんなことを被仰りながら、さア、あれで三四本も上つたでせうか？　おさかなには蟹を上りました。——が、その日に限つて、いくら待つてもどなたもおみえになりません。——そんなつてことはないので、大てい、いつも、その時間でしたら、材木町の尾宮さんの御隠居か、でなければ原庭の宮本さん（この方は、一日隔きに、吾妻橋をわたつて田原町の和倉温泉までお湯においでになります。で、おいでになると、必ずかへりにはわたしどもへ寄つて行つて下さいます。）かがおみえになると定つてをるんですが、どうしたのかその日はお二人ともおえみになりません。——間の惡いときつていふものは仕方のないもので、さうなると意地をわるく、出來ごゝろにふらりとおいでになる方もありません。

「どうなすつたんでせう。今日は？」

「何が？」

「いゝえ、みなさん。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「こんなへんな天氣だから出て來ないんだ。――いくらかいまは明るくなつたが、先刻の工合ぢやアいまにも一ぱいかゝりさうだつたからね。」

「それには、いまになつて、わるく蒸々してまゐりました。」

「うん、これからは當分、とき〴〵こんなくさ〴〵する日にぶつからなくつちやアならないんだ。」

「御酒を上るには、しかし、結句かういふ日のはうがおよろしかアありませんか？」

「どうして？」

「いゝえ、へんにしづかで。」

「嫌ひだね。わたしア。」旦那はハツキリ被仰いました。「わたしア、カラツとした……何でもいゝ、カラツとした、目の覺めるやうに明るい、それこそ肚の底まで透いてみえるやうな氣のする日でなくつちやア酒だつてうまくない。――何がいやだつて、陽氣でもなんでも、物事じめ〴〵されるのが一番いけない。――以前はこんなぢやアなかつたんだけれど。――隨分、じめ〴〵した、それこそへんにしづかな光景もいやぢやアなかつたんだが……」

「どうなすつたもんでせう？」

「どうなすつたものか分らない。――ことによつたら、それだけ、死目が近よつたのかも知れない。」

「御戲談……」

わたくしはわらひました。――と、そのとき、いゝ聲をして苗屋がおもてを通りました。

「苗屋だよ、親方。」

旦那は被仰いました。

「あゝ、ほんに。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「あの聲を聞くと、わたしア、子供の時分のことをおもひだすんでね。」

しばらくそのまんま、聞えなくなるまで、ぢッとそれを旦那は聞いておいでになりました。

と、四五人さん、どや〳〵とそこへ入つておいでになりました。みなさん、はじめての、知らないお顔ばかりだつたので、とう〳〵旦那、しびれを切らしてお立ちになりました。

「また來ます、あとで。」

「お歸りでございますか、お宅へ？」

「いゝえ、うちへは歸りません。——うちでは、今日は、晩まで出抜けると思つてゐるから。」

「さうでございますか。」

「だから、すこし、どこかあるいて來ます。」

さう被仰つて、旦那、外へ出ておいでになりました。

……さういふこともあるもので、どや〳〵とその入つておいでになつた四五人さんを手はじめに、その日は、夕方から宵にかけて、お畫にまた輪をかけたいそがしさ。……それも不思議なことに、お馴染の、始終來て下さるお客さまはどなたも矢つ張おみえがなく、ふりの、はじめての方だの、たまにしかおみえにならない方だのが入替り立替りなすつたので。——ことによるといつもの御定連の方々は、門まで來て、その光景をみて驚いてお歸りになつたのかも知れません。——それこそ雨がふつても、槍がふつても、日に一度は必ず顏をおみせになる花川戸の桝久さんでさへさうなると顏を見せて下さいません……

急にあとを煠でることにした豆の加減をみながらわたくしは内儀さんにいひました。

「どうしたつていふんだらう、今夜は?」

「ほんたうに。――あたしも先刻からへんだと思つてゐるんだよ。」

わさびを下ろしながら内儀さんも申しました。

(……が、これは、あとになつて分りましたが、桝久さんはその日、町内の方と一ト晩泊りではじめて三峰さまへお詣りにおいでになつたので、それでしたらおいでのないのは當りまへでした。)

ですが、これ、お馴染の方でないだけ切上げは早く、八時すぎにはみなさんもうお歸りになりました。で、あとに、小みよさんといふ芳町の藝妓衆だけお一人殘りました。……と申すのは、この方、大王橋の飾間さんのおなじみで、飾間さんと御一緒にそれまでゞもとき〴〵みえてをります。――それを、さうやつて、なぜさうその晩一人でみえたのかといへば、いふまでもなくそれは飾間さんを掴へるため。……つね〴〵、飾間さん、俺にもし用があつたら「菱や」へ來い、毎晩七時から八時までの間だつたらいつでも間違ひなくゐると被仰つてゐるんださうで、それをほんたうにして、正直にわざ〳〵たづねてみえたといふものが、どうなすつたのか飾間さん、この半月といふもの、まるツきりその御婦人のところへ顔をおみせにならないのださうで、手紙を出しても返事が來なければ、電話をかけてもいつも留守。……さうするより仕方がないキマリがわるいけれど出て來た。……といふわけなんでございます。――無論お酒と二人づれ、みえたときからいゝ加減御機嫌だつたのを、その上、さア、あれでまた帳場のかげで三本は上りましたらうか?

が、飾間さん、いくら待つたつておみえになりません。せめてどなたか飾間さんのおつれの方でもと思ひましたがそれもみえません。――そのうち外のお客さまはだん〴〵お歸りになります。――はじめのうちこそ、その御婦人、しごく元氣につないでおいでになりましたが、さうなるとだん〴〵口かずはすくなくなり、顔の色は悪くなり、それこそみてゐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のもお氣の毒のやうになりました。……といつてわたくしにどういたしやうもありません。――こまりました、わたくし……

　と、そこへ

「誰も來ないのか、まだ？」

　大きな聲でいひながら、威勢よくおもてをあけて、そのとき旦那が歸つておいでになりました。どこで、また、上つたのか、先刻出ておいでになつたときとは打つてかはつた大した御機嫌……

「何だ、小みよさんぢやアないか、そこにゐるの？」

　すぐにみつけてさう被仰つたもんです。

「あら、しばらく……」

　小みよさんにすると地獄で佛。――うれしさうにすぐいひました。

「どうした、飾間さんは？」

「駄目ですわ。――すつかりしくじつてしまひましたわ。」

「どつちが？」

「あたしがですわ。」

「どうして？」

「どうしてつて逢つてもくれないんですわ、このごろ！」

「それで出て來たのか、こゝに？」

「えゝ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「出て來ても駄目か？」

「えゝ。」

「やつぱり逢へないか？」

「えゝ。」

と、旦那、

「よし、ぢやア俺が逢はしてやる！」さう被仰ると一しよに「親方、すぐ電話をかけてくれ、天王橋へ。」

「あら、駄目ですわ、電話は。——いくらかけたつていつも留守ばかりですわ。」

狼狽てゝ小みよさんはいひました。

「お前の名前でかけるんぢやアない、俺の名前でかけるんだ。——俺の名前でかけてすぐにこゝまで來るやうにさういふんだ。」さう被仰つて、旦那、わたくしに「すまない。——たのむ、親方……」

で、わたくし、隣の電氣屋の電話を借りて飾間さんへおかけいたしました。矢つ張お留守でした。それから、わたくし、お歸りになつたら「菱や」までみえるやうに、とかたく〴〵お宅の方へおねがひして電話を切りました。——歸つてその向きをさう申すと、旦那、「有難う。——それだつたら、すまない、來たらすぐ飾間君に、中洲のいつものところへ來るやうにさういつてくれ給へ。」と、どういふ話になつたのか、わたくしにさう被仰るとすぐ、小みよさんを連れて、いそいでまた店を出ておいでになりました。

「旦那も大へんだねえ、あんなことまで。」

それを見て内儀さんのしみ〴〵さういふのを

「あゝいふ性分なんだ。——何でもあゝいふこと默つてみちやアゐられないんだ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さう申しました、わたくし……

　それから三十分とたゝないうちでした、飾間さんの俥をお乗りつけになつたのは……

「まア一公……」

　飾間さんはその一伍一什をお聞きになると安心したやうにお笑ひになつて「とにかくいゝ日をくつた。——もうちッとで、其奴ア、どんな目にあふか分らなかつた。」

「すぐ、しかし、中洲へおいでなすつて下さい。——待つておいでゝす、旦那が……」

「いやなこつた。——誰がそんなところへ行くもんか。——吉田屋さんが附いてゝくれゝば、また、行くこたアねえ。」

「お宅へお歸りになつてすぐおいでになつたんですか？」

「すぐだ。——うちへ歸ると吉田屋さんからこれ〳〵いふ電話だ。——さう聞いたから、下りた俥へすぐ乗つて馳けつけた。——と、ちやうど、駒形まで來ると黒山のやうなんだ。」

「何かありましたんで？」

「電車と自動車と衝突したんださうだ。」

「其奴は、また……」

「よッぽど酷くぶつけたんだとみえて自動車は滅茶々々。——乗つてるお客は大へんな怪我をしたさうだ。」

「氣の毒な……」

「ちやうど、いま、その怪我人をあすこの實費診療所へかつぎ込んだといふところよ。――あすこいらにするとまだ宵の口だから、わい〳〵いふ野次馬で通り切れないんだ、俥が……」

「ちやアまんそくにおいでになれたら雷門ぐらゐでお逢ひになつたか知れません。」

「さうかも知れない。――まんそくに來られなくつて仕合だつた。」

……知らないとはいへ、飾間さんとわたくしとは、わらつてこんなことをいつてをりましたんです。――けど、實際、その自働車の怪我人を旦那と小みよさんだと、その場合だつたら、神さまだつて一寸はお氣がおつきにならなかつたらうと思ひます。……

……旦那のそのお通夜の晩、わたくしどもの店でのお附合のみなさんだけで、吉田屋さんのお宅のはうのそのお通夜とは關係なく、べつにわたくしどもだけのお通夜をいたしました。尾富さん、宮本さん、桝久さん、それに河岸の方々、多町の御連中、そろつてみなさんおいで下さいました。――申譯がないと被仰つて飾間さんだけはおみえになりませんでした。――さういつても月のいゝ晩でございました。

……が、しかし旦那のやうな何御不自由のない方でも、さういふ廻合せなら、實費診療所の寢臺の上でお亡りにならなければなりません、それを思ふと全く怖い氣がいたします、――金持ぎらいな吉田屋さんだ、大學なんぞで贅澤をして死

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬよりそのはうがいつそ本望だらうなんぞと戯談は申しますものゝ……

……小みよさんの方は、でも、若いだけに、いのちだけは助かるだらうといつてをります。（昭和三年五月）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



京都御構入墨者

眞山青果

第二幕

時――前の幕と同じ日の夜。四ッ時過ぎ。(午後十時頃)

處――京都三本木、丸太橋通り上る。煮賣屋まる金。

その頃の小皿物燗酒など煮賣屋の見世を内部より見たるところ。

舞臺に顯はるゝ裝置は、客の飲み場なる土間を中心として、道具を廣く飾るべし。その正面は腰高の油障子にて直ちに道路に面す。土間の下手は屋臺構ひの料理場なれども、見物席よりはその内部見えず。障子にて仕切り、その前に女どもの腰掛場あり。土間の上手には三疊ほど疊敷きの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

坐席あり、低き衝立を置き客席を區別す。なほその上手に六疊ほどの小坐敷あり。障子を閉す。正面土間には入口の横に菰かぶりの酒樽を据え、二列に飯臺をならべ、醬油樽の腰掛を置く。一列には三四人を坐せしむべく、一列の飯臺には七八人を坐せしむべし。見世のさま、安普請ながら新築後間もなきため、戸障子も新しく明るく、器具など不潔ならず。軒暖簾、ビラなど、色町近き氣分を見すべし。土間の中央に八間と稱する大行燈を吊る。

幕明く。遊び所の夜もやゝ深けて、一しきり繁かりし客足も、次第に歸り足となる時刻なり、土間の腰掛には職人風の客、店者らしき二人連など三組ほどの客あり。疊敷の方にも一組ほど酒を飲みゐる。この家の養女分おうめ、雇女おしん、小女などその間を世話する。雇女おしんは二十四五、宿場女などのごとき阿婆擦れ者にて、長煙管を帶に差し、厭らしきまで白粉を顏に塗る。野添於菟馬、田淵進一郎をつれて酒を飲みゐる。於菟馬はかなり醉ふ。但し幕明く頃は人にかくれて、二人の姿は見物に明らかに見えさる方よろし。幕明きて暫くの間、各自の談話又は口論などガヤ〳〵して、言葉は聞取れず。勘定を拂ひつゝ女をからかふ者もあれば、醉つて流行唄など歌ふ者あり。その間に疊席の客一組歸り去る。雇女おしん、その後を片付けて野添等をその方へ導く。

おしん　さあ、旦那樣、いつものお席があきました。

於菟馬　何、こゝで結構だ。今夜は然うしちやゐない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おしん　なんて又、嘘がゝりでございませう。存じて居ります。

於菟馬　馬鹿を云へ。この頃はそれほど、渇いてもゐないのだ。

おしん　(田淵に向つて) さ、貴方、こちらが好しうございます。

　おしん、先に立つて疊席に食物などはこぶ。

於菟馬　折角だ。ではもう一時飲んで行くか。(自ら獨利を持つて席を移しつゝ) だが、たゞこの女子、側へ寄るとプウンと硫黄臭い。それだけは恐れるて、なあ進一郎。はゝはゝ。

おしん　まアあんな人聞きの悪いこと仰しやるな。

於菟馬　寄藥がきれたら、今度はおれが寄進につくぞ。

おしん　(哂しつゝ) 憎らしい。人が本當にしますわ。

於菟馬　聞きに來たら、おれ然う云つてやる。嘘でございます。あれはこの頃、肥前瘡をかきまして……。

おしん　なほ悪いがな。はゝはゝ。

於菟馬　はゝはゝ。

　おしん、酒をとりに立つ。於菟馬、面白さうに笑ふ。

田淵　(眼を光らして女の後姿を睨んでから、小聲) 何んだ、あれは。

於菟馬　女よ。不思議なもんぢやない。

田淵　何日もあんたに、あんな馴れ〳〵しい口を利くのか。

於菟馬　男が好いからなあ、はゝはゝ。一つ飲め。

田淵　(不快さうに、手を盃に盞して) さつきから随分飲んでゐます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

於菟馬　然う、齒を剝くなよ。はゝはゝ。（小皿盛を見て）一向手をつけんな。食へ。國の九萬疋より知らんやつには、勿體ない御馳走だ。

田淵　然し、あんたも然う醉つては、好くないだらう。

於菟馬　（盃を口にあて、やゝ目を据えて）何んで。

田淵　何んでぢやない。今夜は大事な用をかゝえてゐる。

於菟馬　大事な――？　あ、一件か。あんな事アどうでもいゝ。

田淵　然うぢやない。又、手筈が違ふと、皆が怒る。

於菟馬　（クス〳〵笑ひつゝ）それでさつきから貴樣、妙に上吊つてゐるんだな。駄目、それぢや可かん。胡瓜の漬置きと人間度胸の据置きとは、直ぐ酸つぱくなる、駄目なもんだ。出たとこ勝負よ、取つたか見たかよ。はゝはゝ。飲め〳〵。（菓子椀に酒を注ぐ）

田淵　然し――。

於菟馬　何が然しだ。盆の刺鯖みたいに、口ばかりとんがらかす。命ずるから、飲め。（大業に手を叩いて）おうい、酒がないぞ！

田淵　（むッとして椀を取り）飲めば、幾らでも飲むさ、だが――。

施菟馬　だが――？　稗ツ食ひ、田舍者！　然しだの、だがだのいふ係り結びは、おのし達の使ふ大和言葉ぢやねえ。はゝはゝ。（手を出して）おい、南鐐一片出せ、女どもへ祝儀だ。

田淵　さつき遣つたよ。

於菟馬　あれは帳場だ。ケチ〳〵するな。總て、何事にも、快樂には木戸錢がいる。女中どもは蟲のせゐでお世辭云ふと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思ふと間違ふぞ。皆、なんぼかになりたいんだ。出せ〳〵。はゝはゝ。

田淵、惡々紙入より二朱銀を一つ出す時、おしん、酒を持ちて來る。この對話の間に客ポツ〳〵歸り去りて、土間の方に二三人を殘すのみ。一人は醉つて飯臺に突ッ伏し、時々目を覺しては、何か譯の分らぬことを呟き、叫ぶ。一人はフラ〳〵しつゝも、一人ニヤ〳〵微笑しつゝ、空盃を幾度となく口にはこぶ。

おしん、於菟馬の側にベタリと腰掛ける。

おしん　（酌しつゝ）旦那、今夜は大層、御機嫌でございますね。

於菟馬　うん、何あに。はゝはゝ。（譯もなく高笑ひして、初めて周圍の客なきに心付く）靜かになつたな。もうそんな時刻か。

おしん　御定連のお客はみな知つてゐますし、帳場でもそつと耳打ちしますので、四ツ時過ぎると、町人衆のお客様はバツタリ足がきれます。

於菟馬　（女に盃を與へつゝ）そりや然し、氣の毒だ。

おしん　いゝえ、その代り宅などは斯うして、長州樣土州樣みな樣の御贔屓になつてゐますから、同じ商賣うちにも肩が廣うございます。當節はもう、諸藩有志の方でなければ、夜も日も明けません。

於菟馬　その代、御町方からは睨まれるのだ。はゝはゝ。

おしん　何んのお町方など……。（盃を返しつゝ）宅には毎晩御浪人方のお客が多いと聞いて、定廻りの衆など、この前を通るにコソ〳〵でございます。

於菟馬　はゝはゝゝ。然し今度は會津が守護職に乘出して來た。こいつ、ちよつと手強い。今までの分には行くまいぞ。

おしん　誰方が來やうと、京都は薩長土三藩の勤王黨で固めて居ります。關東方のお役人など、手の出しやうがありませ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ん。

於菟馬　（嬉しさうに女の肩を衝き飛ばし）こいつ、油を掛けるぜえ。

おしん　いゝえ、本當々々。薩摩箭かや土佐柄か――、風呂屋のなかでさへ歌つてゐます。中にも旦那様と薩摩の田中新兵衛様とは、人切りの名人と、お名前を知らない人はありません。

於菟馬　（睨めて）これ！

おしん　（頸を縮め、土間の客を見て）大丈夫。たわいなしです。（笑つて酌をしながら）旦那さん、色を稼ぐなら今でございます。

於菟馬　馬、馬鹿。はゝはゝゝ。（平手にわが顔を撫でゝ高笑ひする）

田淵、この間に女に祝儀を與へんとして困りゐる。

おしん　旦那さんは臆病だから駄目さ。その氣にさへなれば、藝子さんでも太夫でも、思ひ通りの乞目が出るのに、高が西陣の織子ぐらゐにヤキモキして、見てゐる方が馬鹿々々しい。はゝはゝゝ。

於菟馬　（少し狼狽して）詰らんことを云ふな。それで今日、もさくつたのだ。

おしん　えゝい、知つてますよ。旦那は日濟金の請人にまで立つて、その娘さんに肩入れしてゐなさるさうだ。専ら評判で、ございますよ。

於菟馬　怒るぞ。おれ、怒るぞ。（田淵を氣にして肩など立てる）

おしん　へえい、十分に。ほゝほゝゝ。

於菟馬　云ふやつは、みな自分が卑劣なのだ。おれにして見ると――。

おしん　まア何うでせう、眞面目くさつて……。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

於莵馬　（握拳にて、思はず膝を叩いて）おい、聞け！

おしん　お盃でも頂戴。猫に引かれますよ、旦那。

於莵馬　（云ふまゝに盃を取り、チユウトロを鳴らして冷酒を飲みつゝ、目は女を睨んで）貴樣、馬鹿にするからだ。

おしん　馬鹿にされるのが厭だつたら、少し甲斐性ある眞似をなさいよ。

於莵馬　こいつめ――。

おしん　下さいよう、それ。（と手を出して）まあ、何んの顔？

おしん、馬鹿にしたやうに笑ふ。於莵馬、女を睨めながらも盃を與へ、自ら酌をする時、表の障子を明けて一人の武士入り來る。初めツカ／＼と來りて、田淵の傍なる坐蒲團に腰を下せしが、於莵馬等の醉態にても恐るゝものか、料理場の魚を見るふりして立ち、小女に何か囁きつゝ、遙か離れたる下手の腰掛にゆき、腕組みして後向きに坐をとる。

於莵馬、怪訝さうに侍の後姿を見詰めつゝ、目くばせにて女に何者なりやと問ふ。おしん、知らずと首を振る。於莵馬、その後注意の眼をはなさず。

侍。二十五六歲。服裝頭髮など當時の浪人風を裝ふと雖も、何んとなく身に合はぬところあり。且つ諸事に警戒の態度見ゆ。この侍實は會津藩士にて大場孔平といふ。藩主の密命をうけて、諸國有志者の行動を視察する者なり。

小女、その侍の前に酒を運ぶ。大場、小聲に酒肴などあつらへて、手酌にチビ々々飲み初める。そのわざと低聲なるは、發音によりて會津人と覺らるを恐るなり。

おしん　（於莵馬の用心などに心付かず、少し醉を發して）ねえ、旦那さん。あたしお願ひがあるの。聞いて下さる。（盃

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を返す）

於菟馬　何んだ。

おしん　その田中様さ。後生、一度この家へ連れて來て下さいな。

於菟馬　連れて來て、何うする。（侍の方を鋭く注視しつゝ、聲のみ笑つて）お主、一苦勞して見るか。はゝはゝゝ。

おしん　ですけれどさ、斯うして諸藩の方がゐらつしやるのに、薩摩様の御方だけ來て下さらないでは、人に話しても肩身が引けます。御馳走しますから、是非一度誘つて上げて下さい。

於菟馬　うん、その內……、機會があるだらう。

おしん　その內なんて、駄目ですよ。ね、野添様、是非。

於菟馬　うん、うん。そりや好いが、然し……。（女の方を見て小聲、兩の手の甲を擦り合はせて）薩摩と長州とは、今これなのだ。

おしん　お酒を飲むに差支はありますまい。お屋敷はお屋敷、人間は人間ぢやありませんか。

於菟馬　それさ。おれも然う思ふ。然う思ふのだが……、そこが誠にむづかしい筋合なのだ。智慧者達には、あれのこれのと理屈があつて、そこがなか〱面倒なのだ。

おしん　だつて當時、薩長土の三藩と云へば、みな同じ勤王ぢやありませんか。違ふんですか。

於菟馬　そりや同じだ。勤王の目的は、みな一つだ。

おしん　それならば何も、薩摩様だの長州様だのと、田から行つたり、畦から行つたり、別れ〱になることはないでせう。

於菟馬　（當惑さうに口籠りつゝ）そりや、然うだ。然う思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

於菟馬、次第に大場の方を忘れて、女の話に傾く。

おしん　町人どもですら齒痒がつてゐますよ。薩摩樣の御行列が竪に來ると、長州樣の御同勢が横にそれたり、紀州樣の御出入は島津樣に嫌はれ、お茶屋から藝子來まで、何も差別をつける筈はございますまい。一列眞向に、何うして一つになれないのでせう。

於菟馬　さあ……。

おしん　さあぢやありません。間に立つて土佐樣など、こゝが働きの場ぢやありませんか。狹い京都に御大藩が三頭、角突合ひをなすつて何うなさるんです。女のあたし共さへ、見てゐて遲緩しくなるぢやありませんか。(酒の醉ひと共に、次第に高聲になる)

於菟馬　(昼の膨れたやうな聲)正直に云ふが……、おれに云つたつて、おれは何も分らないのだ。

おしん　分らないぢや濟みませんよ。今が大事の——

於菟馬　然う責めたつて、おれなどの料簡になるものぢやないよ。

おしん　それだつて、命賭けの仕事場は、いつも旦那さんの請取りぢやありませんか。働く者が口をきかないで、誰が差配します。

於菟馬　困るなあ……。然うもならないのだよ。

於菟馬、苦ひ笑して盃など取り上げる。おしん、酒のなきに心付いて、料理場の方へ立つ。その時まで熱心に大場の方に注意してゐたる田淵は、何氣なく側に置忘れられたる黑頭巾を取り上げて、裏縫の火打に書きつけたる標書きを讀む。びつくりして於菟馬の耳に囁く。

於菟馬　(ギヨツとして、顏色を變じ)何、關東役人——?

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田淵　うん、然うだ。(半は目にて答へ、頭巾の裏書を示す)

於菟馬　會津、若松――。ふうむ。(唇を噛んで、侍の後姿を睨む)

　大場、その言葉を聞いて、初めて自分の粗忽に氣がつき、これもやゝ狼狽のさま見ゆ。おしん、酒を持ちて戻り來る。

於菟馬　(屹と心を定めて、大場に聲掛ける) 失敬だが、御侍。何かお忘れ物はありませんか。

大場　(仕方なく、初めて二人の方を向き) 手前――？

於菟馬　(頭巾を示し) これだ。

大場　あ、粗相いたしました。(困惑さうなる表情にて云ふ)

　おしん、何氣なくそれを受取つて大場に渡さんとすれども、於菟馬は相手を睨めたるまゝ、頭を振つて放さず。

　大場、詮方なく立ち上つて、二人の前に來る。

大場　(少し怯えたる聲) 拙者所持に相違ありません。

於菟馬　つい、標書きを讀んました。會津の御藩中――？

大場　はい。大場孔平と申す、文學修業の書生でございます。

於菟馬　拙者は土佐藩、野添於菟馬だ。(頭巾を渡す)

大場　(慇懃に頭を下げ) 飛んだ粗相で……。

　大場、對者を恐るゝごとき態度にて、頭巾を受取りて坐に戻る。この小葛藤の間、おしんを初め女ども、料理場の者、客席の者など、不安さうにその經過を窺ひたりしが、事なく納まりしを見て、ホッと安心せる態な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り。

於菟馬、ひとりクス〳〵笑ひながら胡座になり、手酌にて酒を飲む。これ決して相手の弱きを見て侮るにはあらず。わが心に恐怖の起る時、却つて反撥的に一種の勇氣を生じ、悪度胸を据えるらしく見ゆる彼生來の性癖によるものなり。

於菟馬　（顔色を蒼白にして突ツ立ちゐる田淵を見上げて）さ、何うした、進一郎。飲めるなら、飲まないか。

田淵　うん、飲む。（固くなりて坐せしが、落付かず）然し、かれこれ最う……刻限だ。然うしちやゐられまい。

於菟馬　大丈夫だ。その時は沙汰がある筈だ。はゝはゝゝ。飲め。

田淵　うん、飲む、飲む。（聲を上吊らせて）幾らでも、おれ飲む。

於菟馬　こいつ餘ツ程、頓剽者だ。飲め。はゝはゝゝ。（快く笑つて盃を取りながら、おしんに）何うした、女。勤王論はもう落著いたか。何んだ、何んだ、何……？（女の顏をしかめるのと大場の方を等分に見遣りつゝ）はゝはゝは。その目ぐばせは、默れと云ふのか。會津お侍に、遠慮しろとか。はゝはゝゝ。おれは野添於菟馬だ。立派に名乘りをあげてゐるんだ。どなたに遠慮もない筈だ。はゝはゝゝ。

おしん　（その傍若無人を持餘しつゝ）旦那さん、あんたさん醉つてゐる。

於菟馬　世間ぢやおれを、人切り於菟馬と云ふさうだ。切れる刀を腰に差してゐるのだ、場合によつては切らんこともあるまい。（田淵を見て）何んで突つく。土佐や長州、薩摩が當春京都へ入り込んでから、酒首や天誅が盛んに行はれるので、黒谷あたりでは切りと、諸國有志に目をつけてゐるさうだ。面白い、結構だ。證據があるならば、何日でも切られる、縛られる。それを犬のやうに人を嗅ぎ廻つて、コソ〳〵と小路めぐりするのは卑怯だ。會津様も二十八萬石の大々名だ。そんな穢ない、手の悪いことはなさるまい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大場　（耐りかねて、於菟馬の方を向き）　お言葉の中ですが……。

於菟馬　（目にも掛けず）　假りに今、京都に、勤王の有志があるとして、勤王とは大體誰のために働くのだ。日本にたゞ御一人の天子樣のために働くのだ。幕府とて、會津とて、天子樣に叛けとは云はれまい。何うだ、進一郎。おれ、間違つてゐるか。はゝはゝゝ。間違つてゐるなら、おれは誰の說でも聞く。敎へてくれ。はゝはゝゝ。

大場、於菟馬の放言を聞いて、事面倒と思ひたるものゝ如く、小女を呼びて勘定を聞き、歸り支度する。田淵、それを見て不安を感じて、何やら於菟馬の耳に囁く。

於菟馬　あん、歸る？　誰が、誰が歸ると云ふんだ。何、會津の――？

大場　（當惑さうに）　いや、手前は、決して歸りたいでも、逃げるのでもありません。さつきからの御樣子が、手前を藩の探索とでも見られるやうで……、諸君の酒興を妨げてはならないと思ひまして……。

於菟馬　そんなら飮みたまへ。（進一郎を見て）　君が立つと、この田舍者は、歸り道に手配りでも受けるかと、それがおッかないんだ。

田淵　馬鹿な。そんな、そんな事はない。（鯱子張る）

大場　同じ會津の藩中にも、思想は區々です。わたくしなども數年松坂に遊學して、本居學を修業しましたゝめ、藩內一部の者には、始終睨まれ通しです。それに幼年から病身で、劍道などはまるで修めません。お恥しい話だが、時勢の問題などには相手にされません。

於菟馬　（進一郎を見て）　本居學と云へば、何方だつたな。

田淵　吉村寅太郎、間崎哲馬、みな同じ學問だ。

於菟馬　それぢや勤王學問だ。あんた、本當に然うか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大場　私どもなど御同列に、勤王などゝは云はれません。たゞ少し皇國の古典を讀んだゝけで……、無用の閑人に過ぎません。

於菟馬　で、目下京都には、何役をお勤めなさるか。

大場　役儀などとそんな……。（穏かに笑つて）諸方の社寺を廻つて、古い御記録などを寫し物して居ります。

於菟馬（やゝ侮蔑の語氣にて）この沸騰の世の中に？

大場　會津四郡の上代歴史を編むのが、私の事業でござります。諸君の活躍から見ると、私など、腰引き猫も同前の所作ですよ。

於菟馬　冬中竈(くど)のなかにかゞんで、灰まびれになつてゐる——

大場　全く、その類(たひ)です。面目もございません。（笑ふ）

於菟馬　はゝはゝ。（面白さうに哄笑して）何うです、一盃。

大場　いや、この隅がやはり勝手です。（わが席に戻る）

於菟馬　竈猫先生か、はゝはゝ。好い、正直でいゝ。はゝはゝ。

田淵、笑ふ。おしん、女どもも一緒に笑ふ。この時、浪人風の男一人、高下駄のまゝ懐手、ノツソリと入り來る。年齢三十一二歳、着流しに大小ぼつこみ、やゝ酒氣を帶ぶ。薩摩の藩士にて過激派の先鋒と云はれし田中新兵衛なり。

おしん、田中の顔を知らず、胡散さうに出迎ふ。

おしん　お出なさいまし。

田中　酒を飲ませろ。（横柄なる聲。ズイと土間に入り來り、人を探すやうに周圍を見て、於菟馬と顔を合はす）いよう、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遣つてるな。

於菟馬（最初田中の姿を見るより、少しドギマギしつゝ）おゝ、これは。

田中　この間は御苦勞だつた。途中見えなくなつたな。

於菟馬（胡坐など片寄せつゝ、意味もなく高笑ひする）いや、はゝはゝゝ。

田中　遲いぢやないか。新地の歸りか。（探るやうに云ふ）

於菟馬　いや、今夜は少しその……はゝはゝゝ。

田中　何んしても御盛んで結構だ。貴齋の名聲はこの頃急に揚つて來た。

於菟馬　それも皆、御友齋のお陰なのだ。はゝはゝゝ。

　おしん、田中のために箸と獨利を持ち來る。

おしん（土間に突ッ立ちゐる新兵衛に）何んなら、野添樣と御一緒に………？

田中（首を振つて）うゝん。こゝが好い。こゝへ貸せ。

　田中、わざと通路の邪魔になる中央の腰掛へ、ドカと腰を掛ける。おしん、盃をとつて酌をせんとする。

田中　いや、手酌だ〳〵。獨利をそこへ置いて行け。

おしん　お肴は何を取りませう。

田中　赤い唐辛があるか。それを持つて來い。酒だ。

　おしん、面白からぬ樣子にて退く。この間に田淵は新兵衛の傲慢なる態度にむツとして、於菟馬の袖を引いて何人なりやと目にて答ふ。於菟馬、答へず舌打ちして煩さゝうに田淵を叱る。酒飲む態度も神妙にして、明かに田中を憚る樣子見ゆる。

おしん、酒と小皿とを持ち來り、ゾンザイに田中の前に投げ出し、(於莵馬の方へ來てペタリと腰掛ける。新兵衛、女の態度を見て、面白さうにクス〳〵低く笑つてゐる。場中の氣分何んとなく白けて、暫くの間沈默つゞく。

田淵　(急に袴の紐など結び直して)野添さん、おれ歸るぞ。

於莵馬　何んで……?(俯向いて飲んでゐた顏を上げる)

田淵　何んでちやない。今夜の酒は旨うない。(おしんに)おい、勘定してくれ。

おしん　はい。

於莵馬　勘定は後でいゝ。(田淵を見上げ、何か切りに目くばせしつゝ)まあ、坐れ。

田淵　厭だ。こんなところに……、藝もない話だ。

於莵馬　(舌打して、睨めつゝ小聲)坐れよう。

田淵　厭だ、歸る。みなが待つてゐる。勘定してくれ。

於莵馬　(むつとした聲)おりや歸らんぞ。まだ飲むぞ。

田淵　そりやあんたの勝手だ。わしは歸して貰ふ。

於莵馬　(昧として怒り、獨利にて床を叩き)歸れ、田舍者、おれは、飲む。

田淵　あんたを止めはしない。面白くないから歸るのだ。

於莵馬　他藩の方もゐられるぞ。無禮だ。馬鹿者。

田淵　他藩の方?　おれが歸るに、誰方へ無禮なのだ。

於莵馬　えゝ、面倒だ。歸れ〳〵。(三度舌打して、酒を飲む)

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田淵　歸るとも、おりや歸る。(立つて穿物を探す)

その時までクス〳〵と冷笑を送つて、二人の爭論を聞きゐたる新兵衛、於莵馬に聲を掛ける。

田中　野添君。僕に對してなら、遠慮はいらんぜ。若い人が急いてゐる樣子だ。一緒に歸つてやりたまへ。

於莵馬　いや、僕は、好いんだ。(ドギマギして) 僕は、飲むんだ。

田中　(ニヤ〳〵笑つて) 然し最う、かれこれ刻限だよ。

於莵馬　刻限――？(ハツとしたやうに田中を見詰める)

田中　夜が深けると云ふ話だ。歸つた方がいゝよ。

於莵馬　そして君は。

田中　おりや今來たばかりだ。ゆつくり飲んで待つよ。

於莵馬　(瞳をキラリと光らして) 待つ――？

田中　一々語尾を咎められるな。はゝはゝ。ゆつくり飲むといふ話だよ。

田淵、その間に帳場の方に行きて勘定を濟ました心持。再び戻り來りて於莵馬を誘ひ出さんとする時、土佐藩邸の若侍、二三人、ガラリと表口をあけて田淵を手招ぎする。田淵、外に出でてコソ〳〵と立ち話して、又土間に戻り來る。

田淵　(急に元氣づける聲) 野添さん。來たぞ、來たぞ。

於莵馬　(田中の手前、少し狼狽して) 何。何が、來た。

田淵　皆來て、表に待つてゐるのだ。行かう、早く。

於莵馬　馬鹿、馬鹿。(田淵を睨め) 何をうろたへてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田淵　待つてゐるんぢやないか。手答が狂ふ。行かう。

田淵、急き立てるほど於菟馬は田中を憚りて立ちかね、あはてながら酒など飲む。田中、それを見て大聲に笑ふ。

田淵、又切りに急き立つる。於菟馬、コソ〳〵と遁げるやうにして、田中の前を引張られゆく。

田中　はゝはゝゝ。おい〳〵、野添。歸るのか。

於菟馬（戸口まで出て）少し、用がある。直ぐ來る。

田中　久しぶりでゆつくり飲んでもいゝが、待つてゐやうか。

於菟馬　うむ、その……何んだ。直ぐ戻つて來る。

田中　はゝはゝゝ。（於菟馬に指差して、大聲に笑ふ）

於菟馬（むつとして二三歩立ち戻り）何がおかしい。

田中　はゝはゝゝ。

於菟馬（憤然として）必ず戻つて來る。待つてゐてくれ。

於菟馬、田淵等に急き立てられて去る。田中、その後姿を見て、意味ありげに哄笑をつゞける。

大場、先刻よりソハ〳〵して落着かねさまなりしが、於菟馬等の出で去るを見て、急に歸り支度をする。田中は笑ひながらも又、大場に注意を怠らぬなり。

大場（盆の端に若干の銀を置き）置いたぞ。好きやうに。（立つ）

田中（初めて聲掛ける）大場君。

大場　誰方――？（ハツとしつゝも、初めて氣が付いたやうに振り向く）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田中　お忘れかな。諸岡節齋の宿で一度お目にかゝつた筈だ。

大場　はて……。

田中　新兵衞です。薩摩の田中新兵衞ですよ。

大場　これは。（膝を叩いて）つい、お見逃れしました。

田中　お急ぎでなくば、一つ獻じやう。（獨利をガタリと臺に鳴らして）丁度、相手ほしやなのだ。はゝはゝゝ。」

大場　有難う。然し、今日は少し……、失禮いたします。

田中　が、今出てござつては、疑ひを招ぐ基だぞ。

大場　は？

田中　わしも、あんたを疑ふだらう。あんたは今、土佐の野添が出て行つたのを見てゐる。この夜深けに、あの亂暴者、何へ押出したとあんたは思ふ。

大場　（返答に詰つて）然やう……。

田中　會津御藩中でも、貴公一人は格別の意見を抱いてゐられる仁とは、兼て諸岡その他から聞いてはゐる。然し、餘り身近く、こちの腋臭（わきが）を嗅ぎに來られると、誰にしても疑ひたくなるものだ。殊に野添は土佐の喧嘩犬だ。何う間違つて、君を疑らんものでもない。危ない、危ない。今夜は除けてゐるがいゝ。

大場　御厚意は受けますが、お言葉のうちに……。

田中　何か、觸れるところがありますか。

大場　主人肥後守は幕命を奉じて、京都守護の職に坐つてゐますが、家中一人の勤王論者がないとは云はれますまい。手前の親友として交る者は、諸岡節齋、三輪田綱一郎、青柳健之助、何れも他藩の青年です。これ等友人を見ても、

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私の志のあるところはお察し願はれるだらうと思ふ。

田中　無論それは、承知してゐるから打明けてもお話しするのだ。兎に角、場合が場合だ。今夜は野添にまかせて、默つて見てゐたまへ。

大場　人に劣らぬ志は抱いてゐても、會津は德川の親藩だけに、家中のわれ〳〵迄に、實に痛くない腹をも探られます。

田中　知つてるよ、分つてるよ。はゝはゝゝ。まあ、一つ。(盃を差す)

大場　(嘆息して腰を下しつゝ) そこへ行くと、貴藩なり長州なり、自由のきく外樣大名家は羨しい。(盃を受ける)

田中　處が又、然うも行かんて。はゝはゝゝ。外樣は又外樣で、藩と藩との間に軋轢が絶えない。馬鹿な話ですよ。

大場　(盃を返しつゝ) ほんに、諸岡等も變へてゐましたが、何うして薩長御兩藩は共同の進行はなりませんかな。

田中　長州人の陰險は世上知る通りです。彼等の究極はわが藩のための尊攘を稼ぐので、決して大義名分の上の尊攘ぢやない。薩摩に功名をなさせる位ならば、寧ろ會津と結ぶがいゝなどと云つてる族(やから)があるさうだ。言語道斷、實に詭詐極まるやつ等だ。

大場　何んにしても、措しむべきだ。兩雄相爭ふて、大事を逸し去らなければいゝ。天下みなそれを憂へてゐるのです。

この話の前より、長州土州の血氣の若侍八九人、この家の表に來り、雇女を外へ呼び出して何か詰問するものの如く、田中等を指差してヒソ〳〵と囁く者あり。

新兵衞、早くもその形勢を察したれど、わざと落着きはらつて酒を飲む。

田中　(戸外の若侍等に聞かせる心持にて) 今夜だつて然うだ。土佐の野添が何を働くか、薩摩の耳には入らんものと思つてゐるらしい。はゝはゝゝ。智慧の足りない鯵節侍をけしかけて、おれ等の目を拔かうとするのだが……、知つてるのだよ。はゝはゝゝ。知つてゐて、おれは出してやつたのだ。正直者だけに於菟馬のやつ、冷汗を流して、コ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ソコソと出て行くさまが、實に珍妙であつたよ、小刀、小刀。卑怯極まる小細工だ。はゝはゝ。

田中の放言を聞いて、戸外の若侍等はドヤ／＼と屋内に入り來る。口々に、「土佐だ、酒をくれ。」「長州だ、酒。」など呼びながら、狼狽してとゞむ女どもを突き除けて、田中を取圍んで腰掛け、殺氣立ちたる形相にて睨む。

田中　（わざと落着き拂つて、高聲）なあ大場さん。田中新兵衛も男だ。そんなケチくさい根性をもつてゐない。屋敷の二才どもなどは、おれに先廻りして相手の裏をかいてくれなどと云ふが、厭だ、斷つた。はゝはゝ。そんな嶮い手まで打つて、この大博打を爭ふのは厭だ。高が公卿侍を一人切るのに、ヒソ／＼コソ／＼何んのざまだ。切りたいやつが切るがいゝ。暴れたいやつが暴れるがいゝのだ。はゝはゝ。

この時、薩摩屋敷の若侍五六人、塚原傳吾、中岡源一郎を先にドヤ／＼と入り來る。何れも袴を白紐にて結び、國風の朱鞘の大小を挿す。

塚原　（戸口から大聲に）田中ゐるか。新兵衛、新兵衛。（入り來る）

田中　誰だ。（見て）何んしに來た。

中岡　（長州人等を睨み廻はしつゝ）喧嘩と聞いて來た。相手は何處だ。

田中　喧嘩？　誰と喧嘩だ。はゝはゝ。おれは飲んでるんだ。

塚原　然うか。ではわれ々も飲まふ。おい、女。酒をくれ。

中岡　燗鍋ごと持つて來い。

薩州人等は長州人と對抗して、田中を擁護するごとき位置に坐す。兩群、爭ふて手を叩き、或は呼んで酒を催促する。女中等うろ／＼して運び來る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田中　大場君。僕は自分の藩だからと云つて、悪いを善いとは見てゐられない。白は白、黒は黒、さつぱりした心で見たい。右を云ひながら左を見たり、左に構へながら右を狙ふ、あいつ大嫌ひだ。われ〳〵の重役どもにだつて、それが無いとは云はれない。僕はそれをツケ〳〵云ふものだから、いつも屋敷うちで厭がられるです。

大場　御同様です。弊藩などに致しましても……。

田中　それに可笑しいことは、扶持前根性といふのは不思議なものだ。うぬの頸を預けてゐる旦那のすること、云ふことに、奇妙に善く思はれるもんだ。おれにすりや島津家のすることが正しく見え、長州さんにすると、毛利家が正道と見えるらしい。元をたゞせば賤しい料簡さ。食はせられたところで讀むお經だ。はゝはゝ。

この時、表の方急に騒々しく、立ち騒ぐ人聲聞ゆ。田淵進一郎、亢奮して目を上吊らせ、言語顫えながら屋内に走り込む。

田淵　水だ水、水。（騒ぎ廻りて、料理場より手桶のまゝ戸外に持ち出す）

田中　何んだ……。（目を立てゝ聞く）

一同も森然として戸外に耳を澄す。戸外にはガヤ〳〵と二三人の争論する聲聞えて、その中に興奮しきつたる進一郎の聲もまじりて聞ゆる。

やゝ間ありて野添於菟馬、洗ひたる手をろくにも拭はず、衣服に濡手をこすりつけなら、グッタリとして入り來る。進一郎、その耳元に囁きて頻さく励ませども氣力なく、土間に入り來り、中央の飯臺に頽れるやうに腰掛け、兩腕の間に顔を埋めて突ッ伏す。

田淵　大丈夫だ、死なんよ。そんな怪我ぢやない。おれが見た。大丈夫だ。大丈夫だ、死なん〳〵、おれが受合つた。大丈夫だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田淵、セカ〳〵して於莵馬に囁けども、於莵馬は答へず。たゞ時々わが手の平を見て、そこにまだ血痕でも殘り居るやうに、衣服にこすりつけて拭ふ。

田中　(怪訝さうに眺めゐしが、立上りつゝ) 野添。急に、何うしたんだ。何かあつたのか。(言葉優しく側に寄る)

於莵馬　うん……。(力なく田中を見上げしが、眩しさうに瞬目して又卓に突ッ伏す) 失敗つた。あゝ、失敗つた!

田中　(思はず聲立て) 何うしたんだ。賀川を逃がしたのか。

田淵　(反抗的に口を尖らし) 逃がしやしません。賀川爺は立派に遣つつけた。今、三條へ、皆が晒首に持つて行つた。

田中　(肩を叩いて) 野添。何うしたんだ、何うしたんだ。

田淵　少女を一人切つたんです。腰のところ……、大した怪我ぢやありません。それを悔んで、途中から泣いてゐるんです。

田中　少女といふは、賀川の家の召使なのか、野添。

田淵　十七八の……、小間使でせう。切る氣もなく、横に拂つたのが、觸つたんです。それを悔んで、濟まない〳〵云つてゐるんだ。あんな女、何人切つたつて、決して悔むことはない。それを途中、泣いてゐるんだ。馬鹿な、馬鹿な、殺したつて何んだ。ありや姦賊の下女だ。殺したつて、何人殺したつて、決して、決して構はん。

田中　おい、野添、野添。(肩をゆすぶる)

於莵馬　(固く顔を埋めながら) 惡いことした。おりやあの……、少女に恥入つた。惡いことした、惡いことした。

田淵　その女が、生意氣に、島田を押入に隱して、主人は居りません、殺すなら私を殺して下さいと、野添さんに縋り付いたんです。

於莵馬　(突伏したまゝ、泣聲) 子供もあるよ。子供もある……。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

田淵　うん、ある。六つ位の男の子だ。野添さんの刀の前に手を合はせて、何うかお父様を助けて下さい、私を代りに殺して下さいと云つたんだ。下女も云つたんだ。二人で云つたんだ。

於菟馬　（聲を出して泣きながら）子供は、おれを、おぢさん、おぢさんと……云つたんだ。小さな手など……合せたんだ。それをおれ……切つたんだ、切つたんだ。

於菟馬、泣き泣く。

（幕）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

投稿規定

一、投稿は今後書留郵便にて送附されたし。尚返信用書留郵券を必ず封入の事。

此規定に反して萬一紛失したる場合あるも本社はその責に任ぜず。

一、投稿は「中央公論編輯部、投稿係」宛に郵送されたし。

その場合必ず「中央公論原稿」と傍書ありたき事。

個人に宛てゝ發送せらるゝは差支なきも一度は必ず係の手に渡るものなれば直接係に送らるゝ方便利です。尚個人の私宅に宛てゝ送らるゝ事は絶對にお斷りします。

定價		
	定價	送料
一冊	八十錢	參錢
六冊	四圓八十錢	送料共
十二冊	九圓六十錢	同

毎月一回一日發行

△但し前表は普通號のみの定價にて年四回發行の特別號は定價送料共不同に付其の都度別に申受けます
△外國行送料は普通號一冊に付十六錢申受けます
△御送金は前金にて可成振替貯金を御利用下さい　郵券代用は一割増の事
△集金郵便で誌代取立希望の方は其旨御通知願ます

廣告料

△御照會次第詳細御回答申上ます

昭和三年五月十八日印刷
昭和三年六月一日發行　（禁轉載）

編輯兼發行人　島中雄作
印刷人　高木鳥三
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍

東京市丸ノ内ビルヂング七七六區
中央公論社
電話丸ノ内二〇六番
振替東京三二四番
同　長野三二〇五番



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治三十年一月廿九日第三種郵便物認可

CHUO KORON (*The Central Review.*)

By THE CHUO KORON SHA PUBLISHING Co. Published Monthly.

Terms of Subscription: Annual subscription *yen* 12.48, Single copy 80 *sen* including postage. Entered at The Post Office at Los Angeles, Cal. U.S.A. as second-class mail matter.



夏の御支度は三越

夏の流行品と實用品を各種豊富に取揃へ

青葉若葉も色映えて、清々しい初夏の季節が參りました。もうそろ〳〵夏の御支度を遊ばす時期で御座います。三越では最新流行の夏洋服、麥稈帽子、靴等を初め、その他中形浴衣、簾、蚊帳、夏座蒲團、團扇などを各種潤澤に取揃へて陳列いたして居ります。何卒御用命の程偏に御願ひ申上げます

東京市 三越 日本橋